

(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第204集

白川傘松遺跡

北陸新幹線建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第4集

(遺構編)

1995

(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第204集

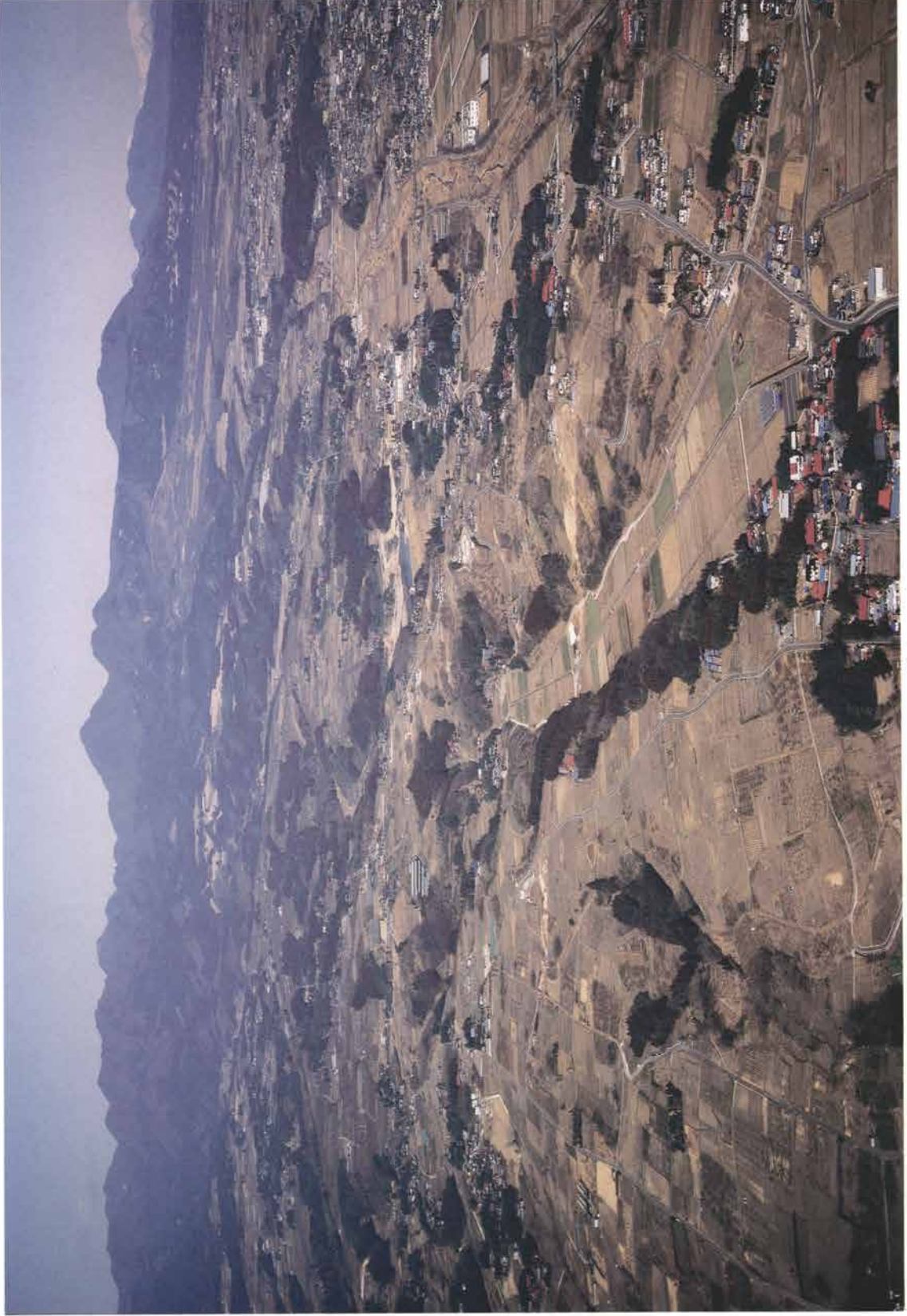
白川傘松遺跡

北陸新幹線建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第4集

(遺構編)

1995

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



遺跡から榛名山を望む



I地区 4号住居址全景



II地区 1号住居址全景

序

群馬県内の北陸新幹線建設工事は、平成7年10月をもって建設地域内の埋蔵文化財発掘調査がすべて終了しました。一方建設工事も、本年6月からは高崎～長野間のうち軽井沢までの41.8kmの電気試験が行われる予定で、来年秋の開業を目指して順調に進んでいるとのことでした。

本書で報告する白川傘松遺跡は、北陸新幹線建設工事に伴い発掘調査された群馬県箕郷町白川に所在する遺跡です。北陸新幹線建設の用地買収と工事が並行して進められていた平成4年12月から5年3月にかけて調査を行いました。調査前から有数の遺跡になるであろうことは予測されましたが、予測に違わず旧石器時代、縄文時代の遺構・遺物が多数、大量に調査され、榛名山麓のこの時期の歴史を解明する上で貴重な調査となりました。特に縄文時代の特殊な出土遺物として土偶の頭部、足、硬玉製の玉、香炉形土器等が出土、識者の注目をあびました。

平成6年度より4年計画で報告書作成のための整理業務にはいりましたが、第2年次の本年度、出土した遺構に関する報告がまとまりましたので、ここに白川傘松遺跡（遺構編）の報告書を上梓したく存じます。

発掘調査から報告書刊行に至るまで日本鉄道建設公団北陸新幹線建設局、群馬県教育委員会文化財保護課、箕郷町教育委員会、地元関係者等には終始ご指導、ご協力を賜りました。これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が本県の旧石器時代、縄文時代を明らかにするために大いに活用されることを願い序とします。

平成8年3月25日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長

小寺弘之

例 言

- 1 本書は、北陸新幹線建設事業にともなう事前調査として、日本鉄道建設公団が群馬県教育委員会に委託し、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が、平成4年度から平成5年度にかけて発掘調査を実施した遺跡の報告書である。本報告書は、遺構編として縄紋時代遺構についてまとめたものである。また、遺物、平成6年度調査の町道拡幅工事・旧石器時代遺構については、別編を設けて報告する。
- 2 遺跡の所在地は、群馬県群馬郡箕郷町大字白川字傘松・字笹塚にまたがる遺跡である。遺跡名は、遺跡所在地の主体を占める「字傘松」から「白川傘松」遺跡とした。
- 3 白川傘松遺跡の中心座標位置は、北緯36° 22′ 36″、東経138° 56′ 54″。
- 4 発掘調査期間は、下記の通りである。

平成4年度 平成4年12月1日から平成5年3月31日
平成5年度 平成5年4月1日から平成6年3月31日
平成6年度 平成6年4月26日から平成6年6月13日
- 5 発掘担当職員は、以下の通りである。

平成4年度 主任調査研究員 松田 猛・関根慎二・小林裕二、調査研究員 飯森康広。
平成5年度 I地区 主任調査研究員 松田 猛・関根慎二、調査研究員 山本光明。
II地区 専門員 相京建史、主任調査研究員 小林裕二、調査研究員 池田政志。
平成6年度町道拡幅発掘調査 専門員 井川達雄、主任調査研究員 麻生敏隆、廣津英一。
- 6 整理事業は、平成6年度から4カ年計画で日本鉄道建設公団が群馬県教育委員会に委託し、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が、実施する。
- 7 本報告書の整理期間は、平成6年4月1日から平成8年3月31日である。
次年度以降、遺物編・旧石器時代編等の発行を予定している。
- 8 整理関係職員は以下の通りである。


事務担当職員 中村英一 近藤 功 原田恒弘 神保侑史 蜂巢 実 巾 隆之 真下高幸 斉藤俊一
小淵 淳 国定 均 笠原秀樹 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 高橋定義 大沢友治
整理担当職員 関根慎二
福島恵理子 中野秀子 原島弘子 新谷さか江 田中精子 大嶋 緑
鶴岡真希子 勅使川原操子
- 9 本書の編集執筆は関根慎二が担当した。
- 10 写真撮影は、遺構は各調査担当者。空撮については、株式会社技研の気球によるリモートコントロール撮影である。
- 11 本遺跡の出土遺物・図面・写真等の全資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 12 本書において下記の方々に御教授をいただいた。

鬼形芳夫 恩田 勇 金子直行 川崎 保 木下哲夫 小林達雄 三宮 健 下平博之 鈴木徳雄
早田 勉 田口一郎 大工原 豊 高橋 勉 寺崎裕助 土肥 孝 戸田哲也 長岡史起 贅田 明
原田昌幸 細田 勝 宮崎朝雄 山下歳信 山本暉久 綿田弘実

凡 例

- 1 本書での地区番号、遺構番号は発掘調査時のままとした。調査当初、土坑と認識して遺構番号を付したもので、整理検討の結果住居址にしたものについても、調査当初の番号のままとした。
- 2 遺構内に付した方位は、国家座標に準じている。基本的に図版の上を北にしたが例外もあり、各図中に方位を入れた。方位記号の無いものは図版の上が北である。
- 3 遺構図に表現したスクリントーンは以下の内容を示している。また、以下の表現以外のスクリントーンは図中に内容を表示した。

(遺構図)

焼土・灰… 

地山… 

- 4 遺構の縮尺は、原則として下記の通りとし、各図にスケールをいれた。
住居址の平面図・断面図 1/60、住居址内炉・埋設土器 1/30、土坑・配石遺構 1/40
遺跡全体図、遺構配置図については図中に縮尺率を表示した。
- 5 各遺構の計測値は、住居址1/40、炉・埋設土器・土坑については、1/20の図面から計測した。
- 6 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。
第1図 建設省国土地理院発行 200,000分の1「宇都宮」「長野」を400,000分の1に縮尺
第2図 50,000分の1「下室田」

目 次

卷頭図版	
序 文	
例言・凡例	
目 次	
挿図目次	
写真図版目次	
第1章 調査にいたる経過と遺跡の概要	1
第1節 発掘調査にいたる経過	1
第2節 白川傘松遺跡調査経過（日誌抄）	3
第3節 調査の方法	7
1 遺跡の名称・調査区の設定	7
2 発掘調査の進め方	8
第4節 遺跡の位置と周辺の遺跡	9
1 遺跡の位置と自然地理環境	9
2 周辺の遺跡	11
第5節 遺跡の基本層序	17
第2章 I地区 検出された遺構	18
第1節 遺構の概要	18
第2節 検出された住居址	20
第3節 検出された土坑	62
第3章 II地区 検出された遺構	93
第1節 遺構の概要	93
第2節 検出された住居址	95
第3節 検出された土坑	144
第4節 検出されたその他の遺構	195
抄 録	198

挿 図 目 次

I 地区

第 1 図	遺跡位置図	11
第 2 図	周辺の遺跡	14
第 3 図	遺跡調査区と周辺の地形	16
第 4 図	基本土層	17
第 5 図	I 地区遺構図	19
第 6 図	1 号住居址	21
第 7 図	2 号住居址・炉址	21
第 8 図	3 号住居址・炉址	22
第 9 図	4 号住居址	23
第 10 図	4 号住居炉址	24
第 11 図	5 号住居址	24
第 12 図	6 号住居址・炉址	26
第 13 図	7 号住居址・炉址	27
第 14 図	8 号住居址・炉址	28
第 15 図	9 号住居址・炉址	30
第 16 図	10 号住居址・炉址	31
第 17 図	11 号住居址	32
第 18 図	12 号住居址・炉址	34
第 19 図	13 号住居址	35
第 20 図	13 号住居炉址	36
第 21 図	14 号住居址・炉址	37
第 22 図	15 号住居址	38
第 23 図	15 号住居内施設	39
第 24 図	16 号住居址	40
第 25 図	17 号住居址	41
第 26 図	18 号住居址・炉址	43
第 27 図	19 号住居址	44
第 28 図	21 号住居址	45
第 29 図	22 号住居址	46
第 30 図	20・23・24 号住居址	47
第 31 図	23 号住居炉址	48
第 32 図	25 号住居址	49
第 33 図	26 号住居址	51
第 34 図	26 号住居炉址	52
第 35 図	27 号住居址・炉址	52
第 36 図	72 号住居址	53
第 37 図	77 号住居址・炉址・遺物出土状態	54
第 38 図	78 号住居址・炉址	55
第 39 図	80 号住居址	56
第 40 図	80 号住居炉址	58
第 41 図	94 号住居址	59
第 42 図	136 号住居址	59
第 43 図	1・2・3・5・6 号土坑	67
第 44 図	7・8・17・19・20 号土坑	68
第 45 図	9・10・11・12・13・14・15・16 号土坑	69
第 46 図	21・26・27・28 号土坑	70
第 47 図	22・23・24・29 号土坑	71
第 48 図	30・31・32 号土坑	72
第 49 図	33・34・35・36・37 号土坑	73
第 50 図	38・39・40・41・42・43・44 号土坑	74
第 51 図	45・47・48・49・50・51 号土坑	75
第 52 図	52・56・57・58・59・60・62 号土坑	76
第 53 図	61・63・64・65・66 号土坑	77
第 54 図	67・69 号土坑	78
第 55 図	68・70・71・73・74 号土坑	79
第 56 図	75・76・79 号土坑	80
第 57 図	81・82・83・84・85・87 号土坑	81

第 58 図	86・88・89・93 号土坑	82
第 59 図	91・92・98・99 号土坑	83
第 60 図	97・100・101・102・103・104・105・106 号土坑	84
第 61 図	107・108・109・110・111・112・113・ 114・115・116・117・118 号土坑	85
第 62 図	119・120・121・122・123・125 号土坑	86
第 63 図	124・126・127・128・129 号土坑	87
第 64 図	130・131・132・133・134 号土坑	88
第 65 図	135・137・138・139・140・141 号土坑	89
第 66 図	142・143・144・145・146・147 号土坑	90
第 67 図	148・150・153・161・162 号土坑	91
第 68 図	163・164・165・166・167・168・169・ 170・171・172 号土坑	92

II 地区

第 69 図	II 地区遺構図	94
第 70 図	1 号住居址・炉址	96
第 71 図	1 号住居址・内施設	97
第 72 図	2 号住居址・炉址	98
第 73 図	4 号住居址	98
第 74 図	5 号住居址	99
第 75 図	6 号住居址・内土坑	101
第 76 図	7 号住居址・炉址	102
第 77 図	8 号住居址	103
第 78 図	9 号住居址・炉址	105
第 79 図	10 号住居址・炉址	106
第 80 図	11 号住居址・炉址	107
第 81 図	12・13・15 号住居址	109
第 82 図	12・13・15 号住居址	110
第 83 図	12・13・15 号住居内施設	111
第 84 図	14 号住居址	112
第 85 図	14 号住居炉址	113
第 86 図	16 号住居址・炉址	114
第 87 図	17 号住居址	116
第 88 図	18 号住居址	117
第 89 図	18 号住居内施設	118
第 90 図	19 号住居址	120
第 91 図	19 号住居内施設	121
第 92 図	20 号住居址・炉址	122
第 93 図	21 号住居址・炉址	123
第 94 図	22 号住居址	124
第 95 図	22 号住居炉址	126
第 96 図	23 号住居址・炉址	127
第 97 図	24 号住居址・炉址	128
第 98 図	25 号住居址	129
第 99 図	26 号住居址・内施設	131
第 100 図	27 号住居址・炉址	132
第 101 図	28 号住居址・炉址	133
第 102 図	29 号住居址・炉址	134
第 103 図	30 号住居址・炉址	135
第 104 図	31 号住居址・炉址	137
第 105 図	32 号住居址・内施設	138
第 106 図	34 号住居址・炉址	140
第 107 図	35 号住居址・炉址	141
第 108 図	36 号住居址・炉址	142
第 109 図	1・2・3 号土坑	152
第 110 図	4・5・6・7・8・9 号土坑	153
第 111 図	10・11・12・13・14・15 号土坑	154

第112图	16 · 17 · 18 · 19 · 20 · 21 · 22号土坑	155
第113图	23 · 24 · 25 · 26 · 28号土坑	156
第114图	27 · 29 · 30 · 31 · 32 · 33号土坑	157
第115图	34 · 35 · 36 · 37号土坑	158
第116图	38 · 40 · 41号土坑	159
第117图	39 · 42 · 43 · 44号土坑	160
第118图	45 · 46 · 47 · 48 · 49 · 79号土坑	161
第119图	50 · 51 · 52 · 54 · 55号土坑	162
第120图	56 · 57 · 58 · 59 · 64号土坑	163
第121图	60 · 61 · 62号土坑	164
第122图	65 · 68 · 69号土坑	165
第123图	70 · 71 · 72 · 83号土坑	166
第124图	73 · 74 · 75 · 76 · 80号土坑	167
第125图	77 · 78 · 81 · 82 · 84号土坑	168
第126图	85 · 86 · 87 · 88 · 89号土坑	169
第127图	90 · 91 · 92 · 93号土坑	170
第128图	94 · 95 · 96 · 97 · 98 · 99号土坑	171
第129图	100 · 101 · 102 · 104 · 105 · 106 · 107 · 108号土坑	172
第130图	109 · 111 · 112 · 113 · 116号土坑	173
第131图	114 · 115 · 117 · 119号土坑	174
第132图	118 · 120 · 121 · 122号土坑	175
第133图	124 · 125 · 126号土坑	176
第134图	128 · 130 · 131 · 132 · 145号土坑	177

第135图	133 · 134 · 135 · 136 · 137 · 138号土坑	178
第136图	139 · 140 · 141 · 142 · 143 · 144号土坑	179
第137图	146 · 147 · 148 · 149 · 150号土坑	180
第138图	151 · 152 · 154号土坑	181
第139图	153 · 155 · 156 · 162号土坑	182
第140图	157 · 158 · 159 · 160 · 161 · 163号土坑	183
第141图	127 · 164 · 165号土坑	184
第142图	166 · 167 · 168 · 169 · 170号土坑	185
第143图	171 · 172 · 173 · 174 · 175 · 176 · 188号土坑	186
第144图	177 · 178 · 179 · 180 · 181 · 182 · 183号土坑	187
第145图	184 · 185 · 186 · 187 · 189 · 191号土坑	188
第146图	192 · 193 · 194 · 195 · 196 · 197 · 208号土坑	189
第147图	198 · 199 · 200 · 201 · 202 · 203 · 205号土坑	190
第148图	204 · 206 · 207 · 209 · 210 · 211号土坑	191
第149图	212 · 213 · 214 · 215 · 216 · 217号土坑	192
第150图	218 · 219 · 220 · 221 · 222 · 223 · 224号土坑	193
第151图	225 · 226 · 227 · 228 · 229 · 230号土坑	194
第152图	2号石组列	195
第153图	1 · 6 · 7 · 11 · 13号配石	196
第154图	9 · 10 · 12号配石	197

写真図版目次

I地区

- PL 1 遺跡全景
PL 2 I地区全景・調査風景
PL 3 1号住居址
PL 4 2号住居址
PL 5 3・4号住居址
PL 6 4・5号住居址
PL 7 6号住居址
PL 8 7・8・9号住居址
PL 9 8号住居址
PL 10 9号住居址
PL 11 10号住居址
PL 12 11号住居址
PL 13 12号住居址
PL 14 13・14号住居址
PL 15 14号住居址
PL 16 14号住居址
PL 17 15号住居址
PL 18 16号住居址
PL 19 17号住居址
PL 20 18号住居址
PL 21 19・21号住居址
PL 22 22号住居址
PL 23 20・23号住居址
PL 24 15・25・26号住居址
PL 25 26号住居址
PL 26 27号住居址
PL 27 72・77号住居址
PL 28 77号住居址
PL 29 78・94・136号住居址
PL 30 80号住居址
PL 31 1・2・3・5・6・7・8号土坑
PL 32 8・9・10・11・12・13・14・15・16号土坑
PL 33 15・16・17・19・21・22号土坑
PL 34 23・24・26・27・28・29・30・31号土坑
PL 35 32・33・34・35・36・37号土坑
PL 36 38・39・41・42・43号土坑
PL 37 44・48・49・50・51・52・56・57号土坑
PL 38 59・60・61・63・64・65・66・67号土坑
PL 39 69・71・73・75・76・79号土坑
PL 40 81・92・93・110・111・112号土坑
PL 41 113・125・126・127・128・129・131・137号土坑
PL 42 138・139・140・141・142・143・144・145・146号土坑
PL 43 147・148・150・153・169・170号土坑
立石

II地区

- PL 44 II地区全景・調査風景
PL 45 1号住居址
PL 46 1号住居址
PL 47 2・5・7・8号住居址
PL 48 6号住居址
PL 49 9・11号住居址
PL 50 10号住居址
PL 51 12・13・15号住居址

- PL 52 13号住居址
PL 53 13・15号住居址
PL 54 14・20号住居址
PL 55 9・16号住居址
PL 56 17号住居址
PL 57 18号住居址
PL 58 19号住居址
PL 59 21号住居址
PL 60 22号住居址
PL 61 23号住居址
PL 62 22・24号住居址
PL 63 25号住居址
PL 64 26・27・29号住居址
PL 65 27・29号住居址
PL 66 28号住居址
PL 67 30号住居址
PL 68 31・32・34・35・36号住居址
PL 69 1・2・3・4・5・7・8・9号土坑
PL 70 10・11・12・16・17・18・20・22号土坑
PL 71 23・24・25・28・29・30・31・32・33号土坑
PL 72 34・35・36・37・38・39・40・41・42号土坑
PL 73 43・44・45・46・47・48・49・50号土坑
PL 74 51・52・55・56・57・58・59・60号土坑
PL 75 64・65・68・69・70・71号土坑
PL 76 72・73・74・75・76・77・78・79号土坑
PL 77 80・81・83・84・85・86・87・88号土坑
PL 78 89・90・92・93・94・95・96・97号土坑
PL 79 98・99・100・101・104・105号土坑
PL 80 106・107・108・109・111・112・113・114・115号土坑
PL 81 116・117・118・119・120・121・122・124号土坑
PL 82 125・126・127・128・130・131・132・133号土坑
PL 83 136・137・139・140・141・142・143・144・145号土坑
PL 84 146・147・148・149・150・151・152・153号土坑
PL 85 154・155・156・157・158・159・160・161号土坑
PL 86 162・163・164・165・167・168・169・170号土坑
PL 87 171・172・173・174・175・176・177・178号土坑
PL 88 178・179・180・181・182・183・185・186・187号土坑
PL 89 188・189・190・191・192・193・194・195・196・197・208号土坑
PL 90 198・199・200・202・203・204・205・206・207号土坑
PL 91 209・210・211・212・213・214・215・216号土坑
PL 92 217・218・219・220・222・223・224・225号土坑
PL 93 226・227・228・229・230号土坑
1号配石・2号石組列

第1章 調査にいたる経過と遺跡の概要

第1節 発掘調査にいたる経過

わが国で最初的高速公共大量輸送機関となった東海道新幹線が開通したのは、東京オリンピック大会の開かれた昭和39年（1964）10月のことである。その後、昭和44年には東名高速道が全通して、高速自動車時代を迎えた。群馬県においても、昭和57年には東京と新潟を結ぶ上越新幹線が、昭和60年には関越自動車道新潟線の全線が開通し、太平洋側と日本海側を結ぶ高速交通時代が始まったのである。また、平成4年には関越自動車道上越線が軽井沢まで開通したことによって、自動車による上信越地域へ的高速交通網が整備されつつある中、鉄道による交通整備も急がれるようになった。

北陸新幹線は全国新幹線整備法（昭和45年）に基づき、昭和47年6月に基本計画が決定され、昭和48年11月に整備計画決定と同時に運輸大臣から建設の指示を受けている。積雪量の多い激しい気象条件のもとで高速交通整備が立ち遅れてきた北信・北陸方面と首都圏との間の政治文化及び経済の各面で強いつながりを持たせることを目的とし、高速交通整備の優先区間とされた。

昭和53年には、「整備五新幹線の具体的実施計画について」が新幹線整備関係閣僚会議において了承され、ルート概要は昭和57年3月に公表された。

北陸新幹線の全体計画は高崎市内で上越新幹線から分岐し、石川県小松市までの、総延長373キロメートルを結ぶものである。群馬県内は、高崎駅－軽井沢間42.1キロメートルが路線延長距離である。高崎駅を過ぎたところで上越新幹線から分岐し、高崎市－箕郷町－榛名町－安中市－倉渕村－松井田町の2市3町1村を通過し、安中市秋間地区に新駅を設置することとなった。路線延長のうち24.7キロメートル（59%）がトンネルであり、倉渕村、松井田町は全区間がトンネル通過となっている。

本県における北陸新幹線地域にかかる文化財調査は、昭和55年10月の日本鉄道建設公団東京支社長から県教育委員会教育長あて、北陸新幹線計画地域環境調査の一環としての文化財調査の依頼が端緒となる。県教育委員会はこの依頼を受け、日本鉄道建設公団東京支社長との間で環境調査の実施に関する業務委託契約を結び、文献調査、現地調査を実施した。

この調査の結果、調査対象地である群馬県西部平野部から丘陵部にかかる地域において、360カ所の文化財が確認された。縄文時代から平安時代の包蔵地、墳墓、窯跡、中・近世の城館跡・神社仏閣・道祖神等からなるものであった。昭和56年2月、調査結果は、「北陸新幹線地域環境調査報告書（文化財）」としてまとめられ日本鉄道建設公団に提出された。

平成元年に入って、日本鉄道建設公団と県教育委員会との間で文化財の扱いに関する協議が始まった。7月14日に行われた、日本鉄道建設公団高崎建設局と文化財保護課との調整会議では、（1）発掘に関しては、日本鉄道建設公団と文化財保護委員会が昭和41年に取り交わした覚書に基づくこと、（2）埋蔵文化財の重要度、規模等に応じた調査体制を確保すること、（3）今後、沿線の分布調査を実施すること、（4）発掘調査は公団と県教育委員会が委託契約を結び、群馬県埋蔵文化財調査事業団と再委託して実施すること、（5）公団と県教育委員会との協定書は発掘調査と整理事業について各々別途に結ぶこと、等の事項についての協議が行われた。平成2年2月、県教育委員会は北陸新幹線建設予定地域内の埋蔵文化財調査を、関連市町の協力を得て実施した。調査により発見された遺跡数は、32カ所でその市町別の内訳は高崎市7カ所、箕郷町

第1章 調査にいたる経過と遺跡の概要

4カ所、榛名町11カ所、安中市10カ所であった。なお、倉淵村、松井田町は全線トンネルによる通過のため、遺跡数無い。同年4月、公団高崎建設局長あてに「北陸新幹線（群馬県内）地域埋蔵文化財一覧（付地図）」として回答した。

平成2年11月26日、日本鉄道建設公団高崎建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で「北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査の実施に関する協定書」が締結となる。協定では、24遺跡を発掘調査の対象とし、発掘調査期間、整理事業、委託契約方法、調査経費等について取り決めを行った。

発掘調査は、平成3年2月の高崎市行力遺跡の調査から始まった。群馬県教育委員会からの委託により、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を行った。平成3年度になって、用地の回収が進んだ高崎市大八木地区、安中市秋間地区を中心に発掘調査は本格化した。同年6月には、1998年冬期オリンピックの開催地が長野市に決定し、これに照準をあわせた北陸新幹線工事とこれに先立つ発掘調査の完遂に拍車がかかったが、しかしその一方では、用地回収が難航し、発掘調査計画にも大きく影響することになる。本県屈指の大型発掘調査事業である北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査はそうした様々な困難な条件を抱えながら推進されることになった。

白川傘松遺跡は、箕郷町白川地区の新幹線用地買収を待つ平成4年度後半の事業として始まった。箕郷町内の新幹線関連遺跡としては、下芝清水遺跡を端緒として白川笹塚遺跡、和田山古墳群の2遺跡と同時に発掘調査が始まった。鉄道建設公団立ち会いのもと、遺跡調査範囲を確認する作業を行った。白川傘松遺跡の現況は、耕作地で箕郷町特産の梅林と桑畑になっていたため樹木の伐採が必要な状態であった。そのため、調査に先立ち11月中旬に伐採作業を業者委託で行った。11月下旬から重機による本格的な表土掘削を開始した。遺跡調査は、11月に発掘現場事務所建設を行い、12月から本格的な発掘調査になった。



調査風景

第2節 白川傘松遺跡調査経過(日誌抄)

本遺跡は、平成4年度・5年度の二カ年調査を行った。平成4年度12月から一班体制で始まり、途中担当職員を一名増員した。平成5年度は、遺跡を二分し調査班を二班体制にして調査を開始した。以下、各調査経過を調査日誌から抜粋することにする。

平成4年度の調査

調査担当 松田 猛、関根慎二、小林裕二、飯森康広。

平成4年

- 11月中旬 発掘調査現地確認、鉄道建設公団との打ち合わせ。
- 11月下旬 発掘調査地にある樹木伐採。
調査事務所設置。
発掘調査に先立ち重機による調査区表土掘削を先行して行う。
- 12月1日 本日より発掘調査本格的に調査始まる。重機による表土掘削の後、遺構確認始まる。
12月中は、遺構確認を主体に作業を進める。
- 12月中旬 測量会社委託による発掘調査区グリット基本杭打ち。
- 12月下旬 遺構確認面の遺物取り上げ、遺構確認面から土偶、耳飾りなど出土。
- 12月23日 本年の現場調査終了。

平成5年

- 1月6日 調査開始、本格的に確認された遺構の調査にはいる。1号住居址調査。
- 1月上旬 1号住居址調査、遺構確認。
- 1月中旬 2号～5号住居址調査開始。
- 1月14日 遺跡内の群馬用水改良工事を新幹線工事に先行して行うため遺跡南側を先に調査して引き渡すことになる。
- 1月下旬 町道北側谷部分からは、遺構が検出されず旧石器の試掘にはいる。
榛名町第六小学校郷土部児童遺跡見学。
- 2月1日 飯森調査研究員本日より本遺跡調査担当になる。降雪のため室内作業。
- 2月上旬 引き続き縄紋時代住居址・土坑、群馬用水部分旧石器トレンチ試掘調査。
- 2月下旬 縄紋時代住居址調査、9号～16号土坑遺物取り上げ、旧石器トレンチ試掘調査。
- 2月26日 群馬用水部分用地明け渡し。
- 3月上旬 縄紋時代住居址7号～11号、22号・23号土坑調査。
- 3月中旬 II地区調査開始、抜根、表土掘削始まる。
町道西側調査部分をI地区、東側部分をII地区とする。
9号～12号住居址調査、36号～55号土坑調査。
- 3月下旬 II地区遺構確認の為の精査。
I地区13号・14号住居址調査遺物取り上げ、II地区住居址プラン確認。
- 3月25日 午後から器材片付け。本日で今年度現場調査終了。以後3月31日まで図面整理。

第1章 調査にいたる経過と遺跡の概要

平成5年度の調査

本年度の調査からそれぞれの地区に各一班ずつの調査班を当て二班体制になる。前年度主として調査した町道西側部分をⅠ地区とし、東側部分をⅡ地区とした。

Ⅰ地区の調査

調査担当 松田 猛、関根慎二、山本光明。

- 4月5日 発掘調査事務所整理、発掘作業員受け入れ準備。
- 4月6日 発掘器材搬入、新規作業員面接。
- 4月7日 本年度調査開始。14号・15号住居址調査。
- 4月8日 14号～16号住居址調査、旧石器試掘調査。この日強風のため2時から室内作業になる。
- 4月中旬 14号～19号住居址調査、60号～65号土坑調査、旧石器試掘トレンチ調査。
- 4月下旬 14号～20号住居址調査、69号～73号土坑調査。
- 4月22日 町道工事で群馬用水管からの漏水事故により遺跡西側の遺構面が洗われる。
- 5月上旬 14号～20号住居址調査、75号・76号土坑調査。発掘作業員健康診断。
- 5月中旬 15号～24号住居址調査、72号～93号土坑調査、遺構北東部の確認。
- 5月下旬 22号～25号住居址調査、72号～129号土坑調査。周辺部の遺構確認。
事業団本部整理補助員研修のため来跡。縄紋時代遺構・遺物を見学する。
- 6月上旬 18号～27号住居址調査、136号～153号土坑調査。遺跡西側斜面谷調査。
- 6月8日 縄紋面遺構調査終了。
- 6月10日 気球による遺跡の空中撮影。
- 6月11日 高所作業車による遺構写真撮影。
- 6月中旬 25号・27号住居址、131号・154号・168号土坑平面図作成。
縄紋面、平面図等の残務処理。旧石器試掘本格的にはいる。
- 7月1日 縄紋面の最終的な遺構確認をするが、検出されなかったため縄紋面の調査終了を確認する。
旧石器試掘調査。
- 7月6日 旧石器試掘調査の結果、遺物などが検出されなかったため、旧石器の試掘を終了する。
引き続き旧石器試掘トレンチ埋め戻し。
- 7月7日 旧石器トレンチ埋め戻し終了。
- 7月9日 遺跡の東側で調査できなかった残地部分約3平方メートルを調査する。土坑を2基確認調査する。
- 7月16日 残地部分の調査終了によりⅠ地区の調査を終了する。

Ⅱ地区の調査

調査担当 相京建史、小林裕二、池田政志。

- 4月1日 現場調査開始。重機による表土掘削。
- 4月8日 本日より、現場作業員入る。
- 4月9日 重機による表土掘削の後、作業員による遺構確認をする。

- 4月12日 測量用のグリット杭打ち、遺構確認作業。1号敷石住居検出。
- 4月中旬 2号敷石住居検出。遺構確認作業継続。
- 4月下旬 3号・4号配石遺構、埋設土器検出。遺構確認作業継続。
- 5月上旬 1号敷石住居調査始まる。縄紋面遺構のない部分に旧石器試掘トレンチを入れる。
- 5月中旬 1号敷石住居調査。1号～10号土坑調査。遺構確認作業。
- 5月下旬 5号住居址調査。23号～27号土坑調査。12号～17号土坑調査。旧石器試掘。
- 6月上旬 6号・7号住居址調査。26号～29号土坑調査。34号～37号土坑調査。遺構確認。
- 6月中旬 6号・7号住居址調査。35号～43号土坑調査。遺構確認作業。
- 6月18日 遺跡東側斜面部重機による表土掘削。遺構確認。
- 6月下旬 1号・7号住居址調査。40号・42号土坑調査。遺構確認作業。
- 7月上旬 8号～13号住居址調査。46号～50号土坑調査。遺構確認作業。
排土用ベルトコンベアー搬入。
- 7月5日 遺跡東側急斜面部分安全対策のための土止め工事開始。
- 7月中旬 2号～15号住居址調査。46号～93号土坑調査。群馬テレビ取材。
- 7月下旬 12号～18号住居址調査。100号土坑まで調査。
- 7月26日 本日より、群馬県教育委員会主催の発掘担当者養成専門講座実習が始まる。(参加人員13名)
8月5日まで。
- 8月1日 群馬県立歴史博物館主催自然見学会一行遺跡見学。
- 8月上旬 12号～23号住居址調査。119号～124号土坑調査。遺構確認作業。
- 8月5日 14号～23号住居址調査。124号土坑まで調査。測量委託。専門講座発掘実習終了。
- 8月中旬 19号～27号住居址調査。124号～128号土坑調査。西毛地区校長会遺跡見学。
- 8月下旬 19号～28号住居址調査。137号土坑調査。



I 地区 調査風景

第1章 調査にいたる経過と遺跡の概要

- 9月上旬 27号～32号住居址調査。144号～150号土坑調査。遺跡東側斜面部の表土掘削。
- 9月中旬 26号・29号住居址遺物取り上げ。150号～153号土坑調査。
- 10月上旬 斜面部遺構確認。31号住居址調査。155号～159号土坑調査。
- 10月8日 高崎市立城南小学校6年生遺跡見学のため来跡。
- 10月中旬 31号住居址調査。126号～165号土坑調査。
- 11月下旬 31号住居址付近の遺物取り上げ。旧石器試掘。
- 12月上旬 26号住居址調査。旧石器試掘調査。
- 12月中旬 29号住居址調査。170号・192号土坑調査。旧石器試掘調査。チャート製の石器出土。
- 12月22日 180号～208号土坑調査。旧石器調査。本年の調査終了。
- 1月5日 本年の仕事始まり。34号～36号住居址調査。旧石器調査。
- 1月上旬 34号～36号住居址調査。213号土坑調査。旧石器調査。
- 1月中旬 212号・216号土坑調査。縄紋面調査ほぼ終了。旧石器調査。
- 1月下旬 御布呂遺跡作業員合流。旧石器調査を強化する。
- 2月上旬 旧石器調査。降雪。
- 2月中旬 旧石器調査。西部教育事務所10年目職員研修の見学。
強風のため旧石器調査出来ず、中断する日が多くなる。
- 2月下旬 旧石器調査。
- 3月上旬 引き続き旧石器調査。
- 3月中旬 旧石器調査。
- 3月22日 旧石器調査終了。高所作業車による遺跡写真撮影。
- 3月29日 基礎整理を行う。本年度現場終了。



Ⅱ 地区 調査風景

第3節 調査の方法

1 遺跡の名称・調査区の設定

本遺跡は、群馬県群馬郡箕郷町大字白川字傘松に所在する。遺跡名称は、群馬県埋蔵文化財調査事業団で行っている遺跡命名の慣例にしたがい大字、小字名から白川傘松遺跡とした。遺跡調査範囲は、北陸新幹線起点（高崎駅）距離程 9 km530m～9 km790mまでの260mの区間で工事に係わる範囲を調査対象とした。

北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査事業では、発掘調査に先立ち事業に関連する各遺跡に略号を付すことにした。遺跡の略号によって、調査・整理の効率化と同一事業における各遺跡の位置関係を明確にする事を目的としている。

略号は、事業名称についてはローマ字、遺跡名称については数字によって示した。

事業名称は、北陸新幹線「HOKURIKU-SINKANSEN」の頭文字「HS」を取り数字については、3桁の番号を付した。各桁の番号は、次の通りである。

3桁目を遺跡所在市町村とし、高崎市…0、箕郷町…1、榛名町…2、安中市…3で表記する。

2桁目を県教育委員会文化財保護課により調査対象とされた遺跡について、同一市町村内毎に起点の高崎駅から安中市に向かって1、2、3と付した。

1桁目は、北陸新幹線調査前に県教育委員会文化財保護課が調査対象遺跡としている遺跡については0を付し、事業開始後に遺跡が分割されたり、あるいは確定していた遺跡と遺跡の間に試掘などの結果、新たに遺跡と認定された場合に、調査開始順に1、2、3と付していくこととした。

以上の規則により本遺跡は「HS130」の略号が付けられた。

遺跡内の測量用座標及び基本杭は、国家座標により設定した。国家座標による設定は北陸新幹線建設に伴う発掘事業全体を通してのものである。この国家座標を基に各遺跡についてグリットを設定した。グリットの設定方法については、『行力春名社遺跡』北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集（1994）に詳細が記述されているので参照されたい。

本事業全体の区画設定にあたっては発掘調査対象地全体を覆うように1km四方の大グリットを設定した。これは、北陸新幹線の起点である高崎駅の南東、国家座標 $X = +35,000.0$ ・ $Y = -73,000.0$ Mの地点を原点とし、北陸新幹線の路線に沿い高崎駅から安中方面に向けて、1km四方の枠を順次25ヶ所設定した。これを「地区」（大区画）と呼称する。

次に、大区画の1km四方を一辺100mの区画で100等分し、この区画を「区」と呼称し中グリットとした。この「区」では南東隅を原点にし、東から西、南から北の順に1～100区まで設定した。

さらに、この100m四方の中グリットの中を、一辺5mの小グリットで区切り、各グリットラインのX軸をアルファベットを用い東から西にA～T、Y軸には数字を用い南北に1～20とした。小グリット南東隅の交点をA-1からT-20グリットと呼称することとした。

本遺跡の位置は大グリットでは、「14」、中グリットでは13・14・15区に相当している。グリットを呼称する場合は「14地区13区A-10」という表現になる。この、呼称方法によって北陸新幹線全体の中で個々の位置が特定できるようになる。これとは別に、本遺跡では、発掘調査部分の延長距離が長いことと、調査年度が二年度にまたがり、二班体制の調査をする事となったため、遺跡を東西に分断する形で町道があるためこれの西側をⅠ地区、東側をⅡ地区と独自の区分けを行った。（第3図 遺跡調査区と周辺の地形、第5図Ⅰ地区検出遺構図、第69図Ⅱ地区検出遺構図参照）

第1章 調査にいたる経過と遺跡の概要

2 発掘調査の進め方

安全対策については、以下の方法を取った。本遺跡は、榛名山から延びる丘陵上に位置するため北陸新幹線本体は、地山をカットし路線を敷く工法であった。台地上の遺跡のため、低地部における高架による工法に比べ調査対象路線巾の広い所となっている。調査に入った段階では、現地表から遺構確認面までが浅いため、深所作業は旧石器試掘を除いて無かった。旧石器の試掘は、深所作業になるため崩落防止の法面を広く取り作業を進めた。最終的には、低地部の調査のように崩落防止柵や隣接地との防護柵等は、設けずに調査が進んだ。調査地で道路部分に面している部分について、境界部に自動車等の飛び込み防止用の防護柵を設置した。平成5年度には、遺跡調査区の東斜面の調査において斜面の傾斜が急角度のため安全対策として、転落防止用のガードフェンスを取り付けた。

遺跡の調査にあたっては、平成4年度は一班体制で調査を行った。途中工事日程に絡み、群馬用水部分を先行して明け渡すことになり調査日程が急がされたために担当者一名を増員して四名で調査にあたった。平成5年度には、二班体制となり先述したように調査地を二分して各々調査にあたった。

遺構番号については、各々の地区毎に遺構番号をつけたため重複番号があるが、番号の頭に地区名を付すことによって分別している。

調査は、初めバックフォアによる表土掘削を行い、順次作業員による遺構確認、遺構発掘へと進んでいった。遺跡地の現況は、杉林、梅林と桑畑であった。表土から遺構確認面まで、比較的浅く樹木の根による攪乱の多い所であった。そのため、遺構の保存状態は良いものではなかった。出土遺物は遺構から出土したものは、その遺構番号を付し、さらに図面に出土位置を記入したものについては、番号を付しレベルを測り取り上げた。遺構外から出土した遺物については、前述の小グリット単位で取り上げた。さらに、出土位置を図上に記したものは、取り上げ番号をつけている。

遺構測量は、発掘作業員によるものと測量会社に委託して測量したものがある。縮尺については、住居址・土坑は二十分の一、炉等は十分の一、その他、溝・石組列等の比較的大きい遺構については四十分の一、全体図百分の一で作成した。平面図作成は前述の国家座標によるグリット杭から平板を使用して測量した。

写真については、気球による空中写真を除き調査担当者が撮影した。科学分析関係のものは発掘調査時には行っていない。遺跡内の基本土層については、古環境研究所職員早田 勉氏の助言を得た。

第4節 遺跡の位置と周辺の遺跡

1 遺跡の立地と自然地理環境

白川傘松遺跡は、箕郷町大字白川に所在する。遺跡は、榛名町と接する箕郷町の南西部にあり、榛名山東麓の白川右岸に形成された標高180mを測る台地上にある。周辺地形は、南側に傾斜する小支谷状の谷地と台地が交互に形成されている。遺跡は、周辺地形の中でも比較的広い台地状に立地し、台地の傾斜面に遺構が分布する。遺跡の東側は、比較的急斜面で、比高差約30mを測る谷地へと続く。西側は、緩やかな傾斜の谷になり、白川笹塚遺跡へとつながる。北陸新幹線高崎起点から9 km530 m～9 km790 mである。

遺跡のある台地は、新生代四紀の洪積世にできたもので礫層、砂層、関東ローム層、その上に浅間山起源の降灰層等の混じった黒色土からなっている。遺跡周辺は、昭和40年代に群馬用水の敷設事業の圃場整備による整地が行われたところである。そのため、台地頂上部は若干の削平を受けている。調査地周辺の現況は、桑畑、梅林等の耕作地帯であり、緩やかな起伏のある地形を呈している。遺跡のある箕郷町は、榛名山及びその裾野にあたる部分に位置している。従ってその地質も、榛名火山の噴出物が北部の山地を形成し、裾野や平野にあたる部分は、榛名火山の噴出物やその二次堆積物からできている。箕郷町と榛名山の地形・地質を述べるには、箕郷町誌（1975）に詳しいので、以下引用させてもらう。

榛名山は典型的な二重火山で、その活動の歴史は、外輪山を作った古期活動と、カルデラ形成後に中央火口丘（榛名富士）および寄生火山（相馬山、水沢山、二ツ岳）を作った新規活動の二つに分けることができる。榛名火山の基盤は、烏川沿岸で観察できる秋間層である。秋間層は、鑄川及び碓氷川沿岸の丘陵に広く分布する第三期の最上部の地層である。吾妻川の沿岸でも榛名の基盤と考えられる岩石や地層がみられるが、秋間層とはほぼ同時代か、それよりやや古い時代のものである。従って榛名火山は第三期の終わり頃の地層の上に成長していったと考えられる。二重式成層火山である榛名山は各種の安山岩の溶岩及び凝灰岩や凝灰角礫岩のような火山砕屑岩から出来ている。古期活動で出来た外輪山の山体は主に輝石安山岩の溶岩及び火山砕屑岩から出来ており、裾野と呼ばれる傾斜の緩やかな下腹部にはおもに火山砕屑岩が分布し、頂上部に近い急傾斜の部分には溶岩が多い。新規活動によってできた中央火口丘（榛名富士、蛇ヶ岳）や寄生火山（相馬山、水沢山、二ツ岳）はいずれも角閃石安山岩である。

外輪山を作る山体の地質を詳細にみると、烏帽子岳は輝石安山岩の溶岩から出来ており、溶岩中には美しい柱のような割れ目の柱状節理が見られる。鬢柳山は凝灰角礫岩から出来ているため、溶岩より侵食作用を受けやすいのでなだらかな山体となった。硯岩は侵食作用に強い溶岩が円筒形に残ったもので輝石安山岩である。この円筒状の形は溶岩の上昇した通路を示しており、岩頸と呼ばれるものである。

掃部ヶ岳、天目山、及び氷室山も主に輝石安山岩の溶岩から出来ている。松の沢峠や磨墨峠もカルデラ壁の一部であるが、主に凝灰角礫岩から出来ており侵食を受けて低くなった。そして比較的硬い部分が侵食に抗して磨墨岩（するす岩）としてとび出している。船尾山は輝石安山岩の凝灰角礫岩から出来ており、その形は凝灰角礫岩の特徴を表している。吾妻山は輝石安山岩の溶岩から、伊香保付近の物閉山は輝石安山岩の凝灰角礫岩から出来ている。

新規活動で出来た中央火口丘（榛名富士）や寄生火山（相馬山など）の地質についてみると、榛名富士の溶岩は角閃石安山岩で、少量の紫蘇輝石の斑晶を含んでいる。相馬山は紫蘇輝石・角閃石安山岩から出来ており、少量の普通輝石と石英を含んでいる。この溶岩は南東方に流れて相馬ヶ原付近にまで達しているが、末端は細かい溶岩片の集まり（滓状溶岩）となっている。二ツ岳は相馬山の東端付近に出来た爆裂火口中に

第1章 調査にいたる経過と遺跡の概要

噴出した溶岩円頂丘で少量の普通輝石及び石英を含む紫蘇輝石・角閃石安山岩である。水沢山は紫蘇輝石・角閃石安山岩の溶岩円頂丘で東方に口を開く馬蹄型の爆裂火口の中に噴出したものである。

外輪山の形成が終わった後には暫く活動が休止し、その後再開された活動によって山頂部が陥没し、カルデラが形成された。カルデラが形成された後再び休止期において新規活動が開始される。新規活動によって中央火口丘である榛名富士、蛇ヶ岳、また寄生火山である相馬山、二ツ岳及び水沢山が形成されるのである。

その後、6世紀になると間隔をおいて二度の大きな爆発が相馬山の東部で起こり、多量の火山灰、軽石を噴出した。伊香保付近では数メートルもつもっている。また軽石の一部は高温の水蒸気と混じって軽石流となり、現在の沼尾川、及び榛名白川に沿って流れ下った。この噴出に続いて火口より粘りけの多い溶岩が流出して火口付近に盛り上がり二ツ岳の溶岩円頂丘を作り上げた。この軽石層に埋もれている遺跡も多く、箕郷地域にも存在している。

町の中中部は榛名火山の裾野にあたるが、白川を境にして東部と西部では非常に異なった地形をなしている。白川右岸より車川沿岸の善地、富岡等の地形にかけては凝灰角礫岩がかなり解折されて起伏に富み、変化のある地形をなしているのに対し、東部の柏木沢、矢原、生原の地域は起伏に乏しく、緩い傾斜をなしている。この地形は相馬ヶ原扇状地の一部をなすもので、扇状地としての相馬ヶ原の特徴は、高崎や前橋付近から遠望するとき容易に観察することができる。町の南部にあたる上芝から下芝にかけては、おおむね平坦な地形で、最も低いところは白川南部で海拔約120メートルである。

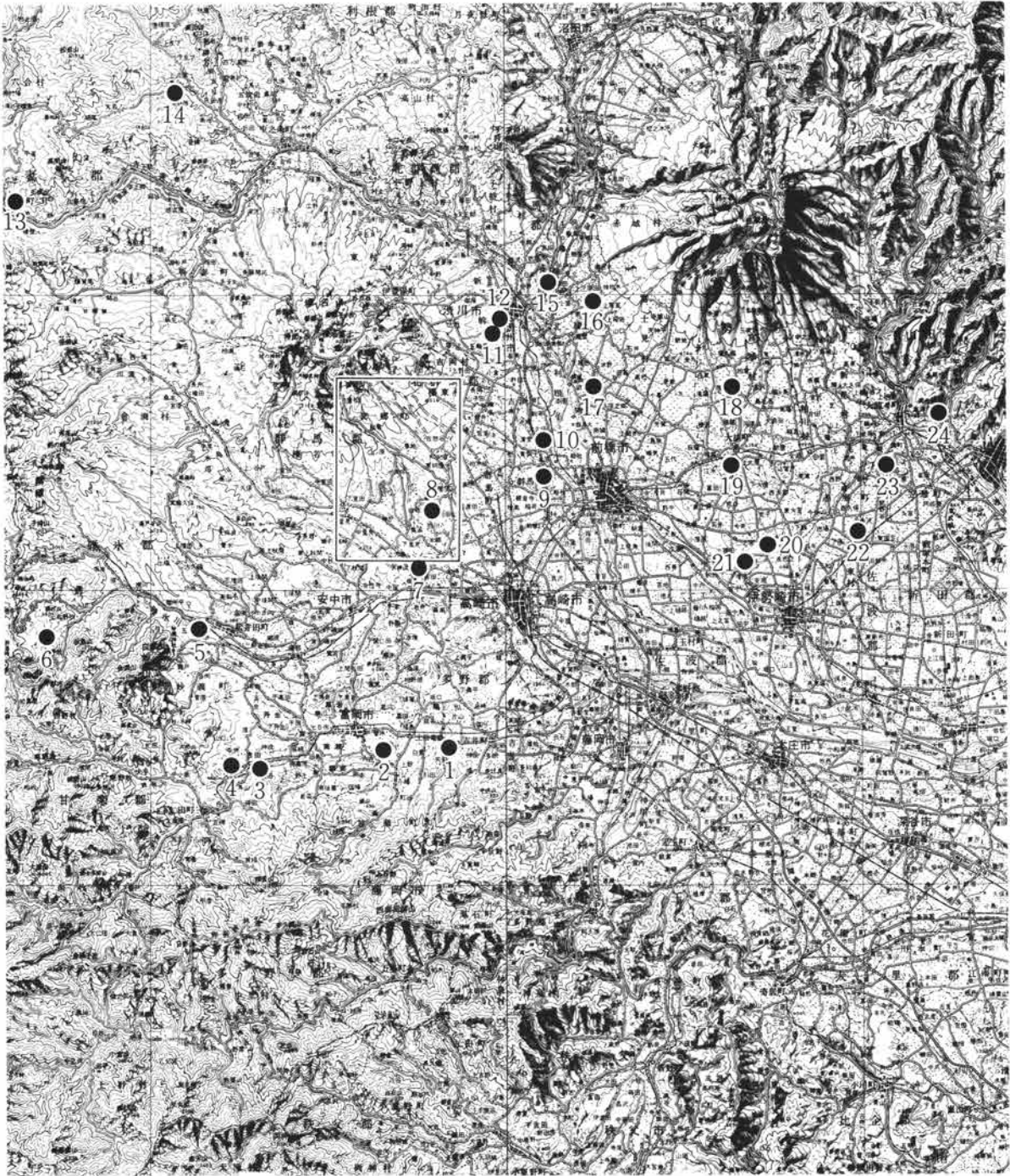
箕郷町の地質は榛名火山の噴出物及びその二次堆積物である扇状地砂礫層、関東ローム層、現河床の砂礫層からできている。相馬ヶ原は凝灰角礫岩を基盤として扇状地砂礫層である。松之沢から上芝にかけての白川両岸には軽石流の厚い層がみられる。

生原南部から、上芝、下芝、和田山、白川の一帯は地質学上、新生代の第四紀、洪積世に属するもので、礫、砂、関東ローム層からできている。城見橋より南にいたる白川の両岸は、第四紀沖積世に属し、礫、砂、粘土、腐食土よりなり、関東ローム層の堆積以後に堆積されたものである。

相馬ヶ原及びその付近一帯は解折された凝灰角礫岩の基盤の上に乗る砂礫層の堆積面で、白川などにより形成されたものである。物見塚を要として扇状に広がっている。この形成時期は第四紀後半と考えられる。扇状地面は五色森付近より鹿舎跡を経て東明屋東側にわたる高さ5メートル内外の崖によって二つに区分される。東を相馬ヶ原面、西を東明屋面とする。

相馬ヶ原扇状地砂礫層は厚さ5～15メートル内外のところが多く、各種安山岩質の円礫、亜角礫及び砂からなり、層の中部及び上部にはローム層が堆積する。また角閃石安山岩質の軽石、火山灰層を含んでいる。凝灰角礫岩に比較して透水性に富んでいる。

東明屋扇状地砂礫層は東明屋の崖が漸次低くなる場所より井野川の西岸に沿って西明屋、上芝地域に存在し、厚さ5メートル内外のところが多く、上芝台地、井野川の間を埋めている。堆積物は相馬ヶ原面と類似している。中部や上部にもローム層は存在しない。また角閃石安山岩質の軽石なども見いだされない。これらの堆積物や相馬ヶ原面より考察して、相馬ヶ原面より新しい堆積面であることが分かる。これらの扇状地砂礫層は主として旧白川が礫や砂を運搬堆積してできたもので、下流部ほど粒度が小さくなっている。白川軽石流は榛名火山の南から南東麓の広い範囲にわたって各所に分布している。その標識的な露出が本地域の白川沿いに見られるので白川軽石流と呼ばれている。上芝より城見橋付近までの白川東岸の台地は白川軽石流できており、15メートル以上にも及ぶ軽石流の厚層を白川の東岸や、鬼子母神裏の切り通しで容易にみることができる。



第1図 遺跡位置図

1:400,000
0 5 10 15 20 km

2 周辺の遺跡

従来県内の当該期の遺跡調査は、調査面積が少なく住居址単独の調査が多かったのであるが、近年の発掘調査では大規模な面積の調査例が増え加曽利E式期集落の概略が推定できる調査例も増えてきた。第1図は、県内の白川傘松遺跡とはほぼ同時期中期後半の集落遺跡の分布を図示したものである。図示した遺跡は、小林達雄氏（1980 「縄文時代の集落」 国史学第110・111合併号 1-14頁）のセトルメント・パターンで言うところのA或いはBパターンになる遺跡である。

第1章 調査にいたる経過と遺跡の概要

発掘調査の比較的多く資料の整っている、赤城南西麓の中で遺跡の分布傾向を見てみると、Aパターンと考えられる遺跡のうち、遺跡の存続期間が長く100軒以上の住居址を検出した遺跡は、三原田遺跡（赤城村）、曲沢遺跡（赤堀町・東村）があげられる。この二遺跡の間がおおよそ25kmの距離を置いて作られている。この遺跡を地域の中心的な遺跡と考える。次にやや規模が小さくなるが住居址の数が、30～70軒規模の遺跡をこの地域でみると小室高田遺跡（北橋村）、横室遺跡（富士見村）、上の山遺跡（大胡町）、清泉寺裏遺跡（笠懸町）、三島遺跡（桐生市）などがあげられる。これらの遺跡が、三原田遺跡と曲沢遺跡の間を2～5kmの距離を置いて存在している。さらに、これらの遺跡の間には、未調査の遺跡や小規模の遺跡を含めると、1・2km間隔で遺跡が広がると考えられる。

西毛地域では、住居址が200軒以上検出された下鎌田遺跡（下仁田町）が三原田遺跡と35km、曲沢遺跡から40kmの距離にある。下鎌田遺跡を中心にして、西毛地区においても南蛇井増光寺遺跡、田篠中原遺跡（富岡市）、長根安坪遺跡（吉井町）、行田Ⅲ遺跡、恩賀遺跡（松井田町）などのA或いは、Bパターンと考えられる遺跡が5km前後の間隔を置いて調査されている。

白川傘松遺跡のある榛名山東南麓縄紋時代遺跡については、鬼形芳夫氏の研究（1988 「遺跡の動態と集団関係—榛名山東南麓における縄紋時代遺跡の現状と課題—」群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要5 1-26頁）に詳しい。第2図は鬼形氏の分布調査（1988）をもとに新幹線地域の発掘調査等による遺跡を加えたものである。同書で鬼形氏は、榛名山東南麓を詳細に分布調査をされ、黒浜・諸磯a期から加曾利E式期の遺跡分布から各時期の遺跡の立地、集団の移動について考察している。

このうち、本遺跡の主体となる加曾利E式期の集落について鬼形氏は、前代までの遺跡数に比べ急激に増えていることを報告している。土器の分布量から比較して榛名山東南麓地域では、土器の大散布地と小散布地の二面性が認められる。遺物の大散布地である、箕郷町No.18遺跡と榛名町No.34遺跡、No.35遺跡の距離が約1.3km程であり、箕郷町No.8遺跡と榛名町No.19遺跡、No.26遺跡は距離が0.8kmあると報告している。

以上、県内の三地域の発掘調査による遺跡の分布と、表採による遺跡分布調査の成果を併せて考えると次のような結論になった。

赤城西南麓や西毛の碓氷川・鎭川流域、白川傘松遺跡のある榛名山東南麓の縄紋時代中期後半加曾利E式期では、三原田遺跡や下鎌田遺跡、曲沢遺跡のような大規模な遺跡が20～30kmの距離にあり、A或いは、Bのセトルメント・パターンの遺跡が2～4km前後の距離を置いて作られる。さらにCパターンの遺跡を含めると1km前後での距離で遺跡間が結ばれていることが推定できる。地域の中心になるような遺跡の間を衛星都市とでも言うような遺跡が間を埋めるように存在することで、加曾利E式期のネットワークを作っていると言えるのではないだろうか。

県内中期後半主要遺跡の概要（番号は第2図遺跡番号）

番号	遺跡名	所在地	遺構概要
1	長根安坪	吉井町	中期住居12軒、土坑約70基、配石遺構、環状列石他
2	田篠中原	富岡市	加曾利E式期住居（配石含）49軒、環状列石1基、土坑22基他
3	下鎌田	下仁田町	縄紋時代住居234軒、土坑2400基、埋甕131基、集石16基他
4	南蛇井増光寺	富岡市	中期後半住居17軒、土坑13基
5	行田Ⅲ	松井田町	中期住居177軒、土坑1029基、集石、配石遺構
6	恩賀	松井田町	加曾利E式期住居1軒、石棒制作遺構他

7	大平台	高崎市	中期後半住居41軒、土坑216基
8	白川傘松	箕郷町	加曽利E式期住居66軒、土坑367基、立石、配石遺構他
9	国分寺中間	前橋市	加曽利E式期住居34軒、土坑約400基、配石遺構1基
10	清里長久保	前橋市	中期後半から後期住居11軒、土坑2基、集石1基
11	行幸田山	渋川市	勝坂Ⅱ式から加曽利E3式住居40軒、土坑134基
12	空沢	渋川市	加曽利E式期住居38軒、土坑百数十基、弧状列石
13	一本松	長野原町	中期後半住居、配石遺構
14	久森	中之条町	加曽利E式期住居8軒、土坑19基、環状列石遺構
15	三原田	赤城村	中期後半から堀之内式期住居333軒、土坑約2000基
16	小室高田	北橋村	中期住居30軒、土坑約100基
17	横室・引田	富士見村	中期後半住居11軒、土坑約150基他
18	前田	宮城村	中期後半の集落
19	上ノ山	大胡町	加曽利E式期住居55軒、土坑90基、集石土坑6基他
20	荒砥二之堰	前橋市	加曽利E式期から堀之内式期住居27軒、土坑40基
21	荒砥前原	前橋市	加曽利E式期住居14軒、土坑7基
22	曲沢	赤堀町	中期から後期住居118軒、土坑430基、立石遺構1基他
23	清泉寺裏	笠懸町	加曽利E式期住居78軒、土坑489基
24	三島	桐生市	阿玉台式から加曽利E式期住居27軒、土坑71基

榛名山南東麓遺跡の時期（番号は第2図遺跡番号）

撚糸文期 箕郷町 6

押型文期 箕郷町 6, 29 榛名町 10

条痕文期 榛名町 10

関山期 榛名町 11

黒浜期

箕郷町 1, 5, 6, 8, 10, 12, 13, 14, 16, 17, 18, 19, 21, 22

榛名町 1, 9, 11, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 20, 22, 30, 31, 34, 35, 41, 42, 43, 46, 47, 49, 51, 54, 55, 59

諸磯a期

箕郷町 1, 5, 6, 9, 10, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19

榛名町 3, 9, 11, 14, 15, 16, 17, 18, 20, 22, 24, 28, 29, 30, 31, 34, 40, 41, 42, 43, 46, 47, 48, 49, 50, 54, 55, 61, 62

諸磯b期

箕郷町 4, 5, 10, 12, 18, 22, 23, 24, 27

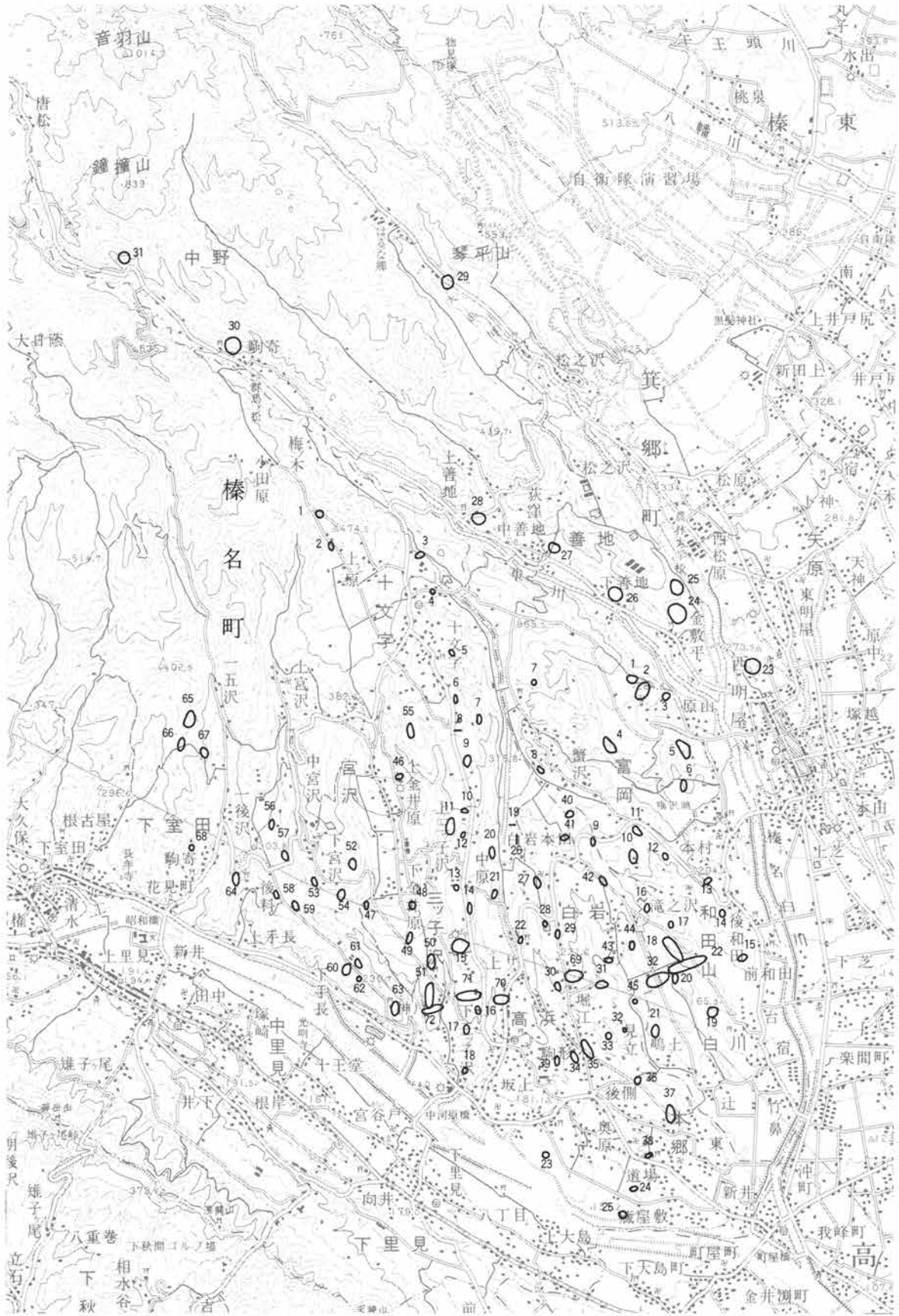
榛名町 3, 8, 9, 15, 24, 25, 31, 36, 53, 58, 60, 61, 63, 65, 69

諸磯c期

箕郷町 2, 5, 6, 8, 9, 10, 18, 21, 22, 23, 24, 27

榛名町 6, 8, 9, 10, 11, 25, 30, 31, 32, 35, 46, 52, 60, 61, 64, 65

第1章 調査にいたる経過と遺跡の概要



勝坂・阿玉台期

箕郷町 4, 8, 13, 16, 18, 21, 32

榛名町 11, 26, 29, 35, 45, 50, 54, 56, 61, 67

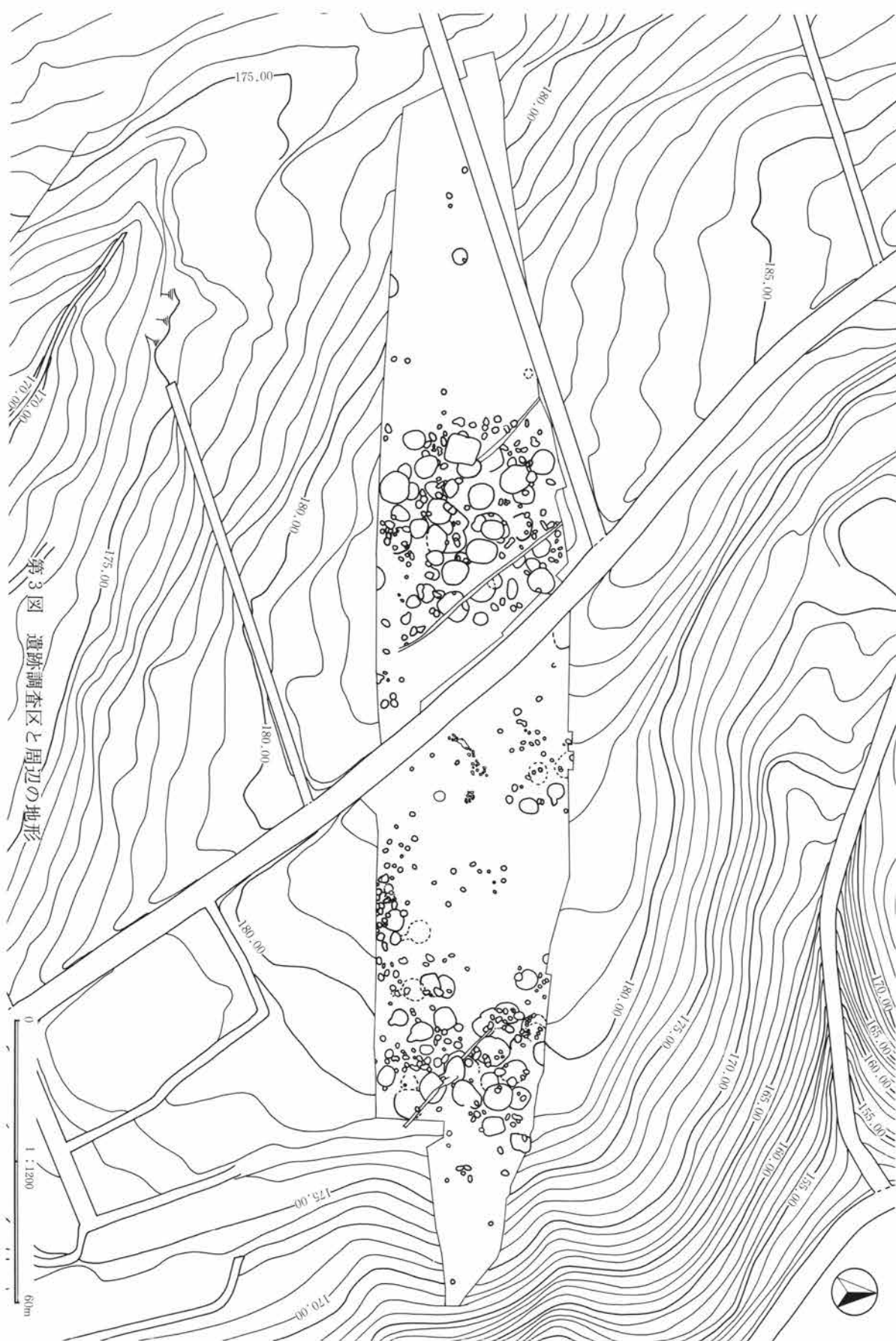
加曾利E式期

箕郷町 1, 2, 5, 7, 8, 9, 12, 13, 16, 18, 19, 20, 23, 25, 26, 28, 30, 31

榛名町 2, 5, 11, 13, 14, 15, 19, 20, 21, 23, 25, 26, 27, 33, 34, 35, 37, 38, 39, 42, 44, 47,
48, 50, 51, 52, 53, 57, 61, 63, 65, 66, 67, 70, 71, 72

県内主要遺跡引用文献

遺跡名	文献	
長根安坪	1989 「長根安坪遺跡」年報8	群馬県埋蔵文化財調査事業団
田篠中原	1990 「田篠中原遺跡」	群馬県埋蔵文化財調査事業団
下鎌田	1990 「山武考古学研究所年報No.9」	山武考古学研究所
南蛇井増光寺	1993 「南蛇井増光寺遺跡Ⅱ」	群馬県埋蔵文化財調査事業団
行田Ⅲ	1991 「山武考古学研究所年報No.10」	山武考古学研究所
恩賀	1988 「山武考古学研究所年報No.7」	山武考古学研究所
大平台	1986 「大平台遺跡」	群馬県埋蔵文化財調査事業団
白川傘松	本書	
国分寺中間	1988 「群馬県史」資料編1	群馬県史編さん委員会
清里長久保	1986 「清里・長久保遺跡」	群馬県埋蔵文化財調査事業団
行幸田山	1988 「群馬県史」資料編1	群馬県史編さん委員会
空沢	1988 「群馬県史」資料編1	群馬県史編さん委員会
一本松	1985 「遺跡は今」現地説明会資料	群馬県埋蔵文化財調査事業団
久森	1988 「群馬県史」資料編1	群馬県史編さん委員会
三原田	1988 「群馬県史」資料編1	群馬県史編さん委員会
小室高田	1991 「まんが北橋村誌」	北橋村
横室	1991 「県内埋蔵文化財発掘調査一覧」年報10	群馬県埋蔵文化財調査事業団
前田	1993 「県内埋蔵文化財発掘調査一覧」年報12	群馬県埋蔵文化財調査事業団
上ノ山	1992 「上ノ山遺跡」	群馬県勢多郡大胡町教育委員会
荒砥二之堰	1988 「群馬県史」資料編1	群馬県史編さん委員会
荒砥前原	1988 「群馬県史」資料編1	群馬県史編さん委員会
曲沢	1988 「群馬県史」資料編1	群馬県史編さん委員会
清泉寺裏	1996 「定住が始まったムラ」岩宿文化資料館企画展資料	岩宿文化資料館
三島	1988 「群馬県史」資料編1	群馬県史編さん委員会



第5節 遺跡の基本層序

白川傘松遺跡は、第四期洪積世に属する台地上に作られている。礫層、砂、関東ローム層によって構成される。遺跡内のローム漸移層の遺構確認面までの深さは、現地表から10～50cm内にあり、ローム漸移層より上位の土層については、耕作による攪乱を多く受けている。そのため、浅間山起源の軽石層は、耕作土中に混じってしまっている。

ここに示す縄紋時代以降の基本層序は、遺跡の西側傾斜地にある比較的推積の厚い部分で観察した層序である。また、ローム層以下の層序については、I地区、II地区の旧石器試掘トレンチからの観察によるものである。実際には、I地区では始良 Tn 火山灰 (AT) がはっきりとは確認されておらず、旧石器時代遺物の検出されたII地区では、ATが確認されている。

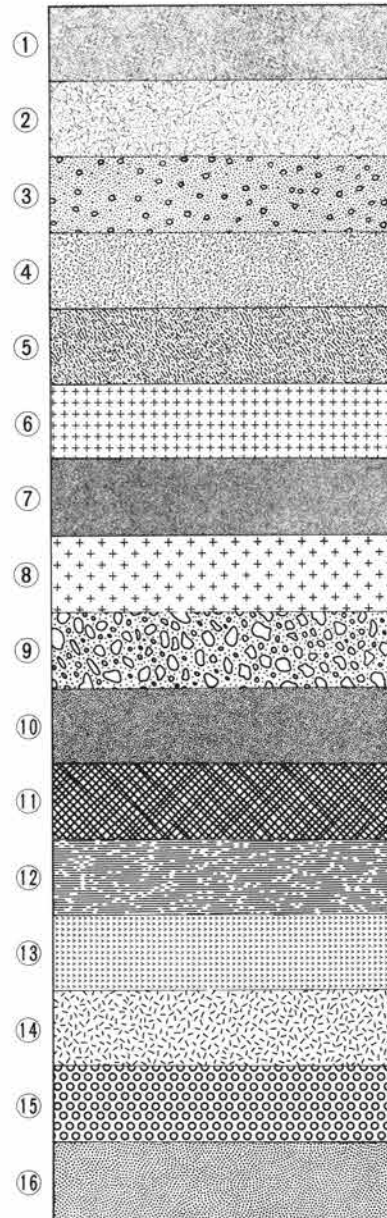
縄紋時代以降の層序

- ①現耕作土 浅間A軽石 (As-A)
浅間B軽石 (As-B)
浅間C軽石 (As-C)
浅間起源のA～C軽石層が混じる。
部分的にB・C軽石層が分離できる所もある。
- ②淡色クロボク土
- ③暗褐色土 軽石混じりの層
浅間山起源の総社・藤岡パミス等が含まれる。
- ④黄褐色土 (ローム漸移層) 遺構確認面

旧石器時代ローム層序

- ⑤火山灰硬化面 浅間山起源
- ⑥浅間板鼻軽石 (As-YP)
- ⑦間層
- ⑧浅間白糸軽石 (As-Sr)
- ⑨浅間板鼻褐色軽石群 (As-BP)
- ⑩暗色帯
- ⑪浅間室田軽石 (As-MP)
- ⑫黒色土
- ⑬始良 Tn 火山灰 (AT)
- ⑭暗褐色粘質土
- ⑮礫層
- ⑯青灰色土・礫混じり層

※浅間板鼻褐色軽石群は、暗色帯をはさみ室田軽石層を含めて、本遺跡では、7ユニットが確認されている。



第4図 基本土層

第2章 I地区 検出された遺構

第1節 遺構の概要

本地区の主体となる遺構はII地区と同様、縄紋時代中期の集落である。前期中葉の住居址1軒を除き、加曾利E式期の住居址・土坑等が多数検出されている。検出された遺構は、住居址33軒、土坑146基である。それ以外には、溝が数条検出されている。溝は、近現代の耕作によるものと見られる。調査地の西側は、緩やかな傾斜を持ち、谷へと続いている。この傾斜面は、土器や石器などの包含層になっており、縄紋前期から中期にかけて多量の遺物が出土している。

遺構分布本地区から検出された中期中葉の住居址は加曾利E式段階のもので、舌状に広がる台地の南西に寄った縁辺に沿って作られている。本地区の住居址群は、II地区の当該期の住居址群と対をなすように住居の配置がされている。台地中央部には、住居址と重複するように土坑や、埋設土器等が検出された。加曾利E式期以外の遺構では、有尾式期の住居址が西側寄りに、勝坂式の住居址が西側傾斜面から、単独で検出された。この時期の遺物が西側斜面の遺物包含層から出土していることや隣接する白川笹塚遺跡から遺構が確認されていることから調査区外にも遺構の存在が推定される。

住居址各住居址の形態及び諸特徴については、第6図から第42図に示すとおりである。住居形態は、円形を基本としているもの、隅丸方形を呈するものもある。柱穴は、4本柱を主柱穴としその間に補助的な柱穴を作るものと、壁周辺に同心円上に柱が巡るものがある。また、周溝を持つ住居址と持たない住居址がある。床は、ローム層を床面としており、硬くしまっているものが多い。住居内の炉は、石囲い炉・埋壺炉・地床炉とある。石囲い炉は、自然石や、石皿、凹石等を利用して方形、長方形に区画したもので、炉内に土器を埋設するものや、石囲いに接して土器を埋設するものがある。

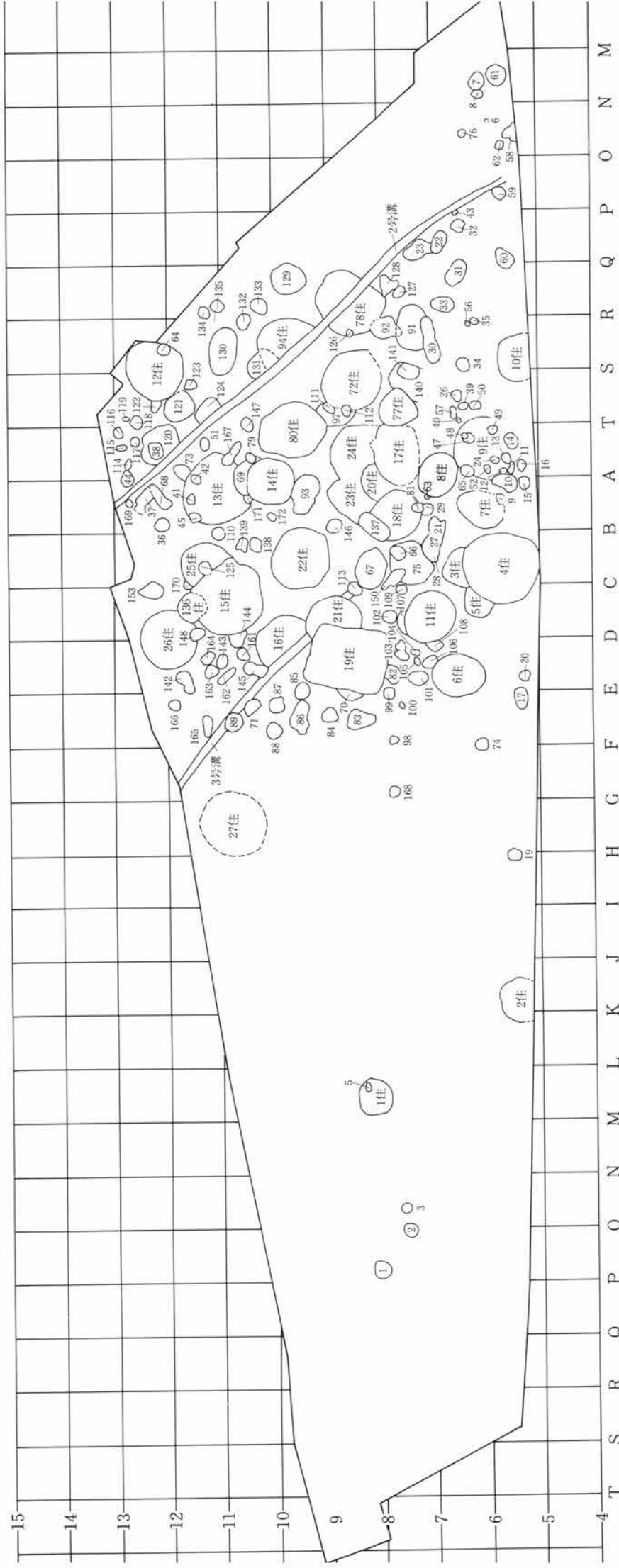
土坑土坑は第43図から第68図に示した。土坑の形態は、円形を基本としたもの、楕円形、不整形などバリエーションが多い。形態により、その機能に違いがみられる。貯蔵穴、墓壙、用途不明の土坑等が考えられるが、本遺跡から検出された土坑は、遺構内からの出土遺物が少なく掘込みも浅いものが多いことから貯蔵用の土坑とするより墓壙や用途不明のものと考えられる。また、住居址付近から単独で出土している埋設土器も多い。周辺にはっきりした遺構も認められず、土器を埋設し、その上に直径40~50cm程の自然石を乗せた状態のものもある。住居内からも埋設土器は出土しているのであるが、住居外に単独で検出されたもので周辺に埋設土器に伴う遺構が確認出来なかったものについては土器の埋設状況を単独で掲載した。

土層の堆積状況現地表から縄紋時代の遺構確認面までの堆積層が薄いため、耕作による攪乱を多く受け浅間A・B・C軽石層は混じりあった状態であった。また、台地中央部は黒色土の堆積自体が少ないため掘込みの浅い住居址については、覆土がローム漸移層になっており遺構の地山との区別が困難なものもあった。調査地の西側では、緩やかな傾斜面になっており、黒色土が比較的深く堆積している。この部分では、浅間A・B・C軽石や総社・藤岡軽石層の堆積が確認できた。

遺物出土状態掘込みの浅い遺構については、遺物が攪乱により小破片となり原位置を止めていないものも多く、遺物の出土状況としては決して良いものではなかった。住居の遺物出土状況は、覆土上層に土器の小破片が多く入り、床面近くからは、完形になるような土器の出土量は多くない。完形に近い土器の多くは、住居床面に埋設された土器である。住居内の床面からは、大型の扁平な台石や石皿、凹石、多孔石等が据え付けて置かれた状態で出土している例もある。西側傾斜面は、黒色土中に多量の遺物を包含していた。



15区 ← | → 14区



第5図 I地区遺構図

第2節 検出された住居址

I地区1号住居址 (第6図 PL3)

位置 15区L-7~8。I地区調査区の最西端にあり、他住居とは距離を隔てている。本遺跡の主体となる時期とは異なることから単独で存在した住居と考えられる。**形状** 南北3.35m、東西3.25mでほぼ円形を呈している。**壁** 壁高は北東方向が高く25cmを測り、南西方向は傾斜地のため、10cm程と確認面での高さを持つ。掘り込みは、ロームにしっかり掘り込んでおり、立ち上がりもしっかりしている。**覆土** 地山より若干褐色を呈しており、炭化物、軽石粒等を上層では含む。下層ではロームブロック等が入り混じり人為的な埋没と考えられる。**床面** ローム面を床面としている。中央部は硬くしまっているが、周辺部はやわらかい。床全体に若干の凹凸がみられたが、傾斜はなく水平である。**柱穴** 柱穴は8個確認された。P7を除いて壁に接するようであり、これらの柱によって上屋が作られていたと考えられる。他に住居内に土坑が重複してある。**炉** はっきりした形の炉は確認されなかったが、住居西側に寄った所に焼土面があり地床炉の可能性がある。**遺物** 覆土上層から土器片、石器等が出土している。床面直上の出土遺物は少ない。土器は、勝坂~加曽利E式のものである。

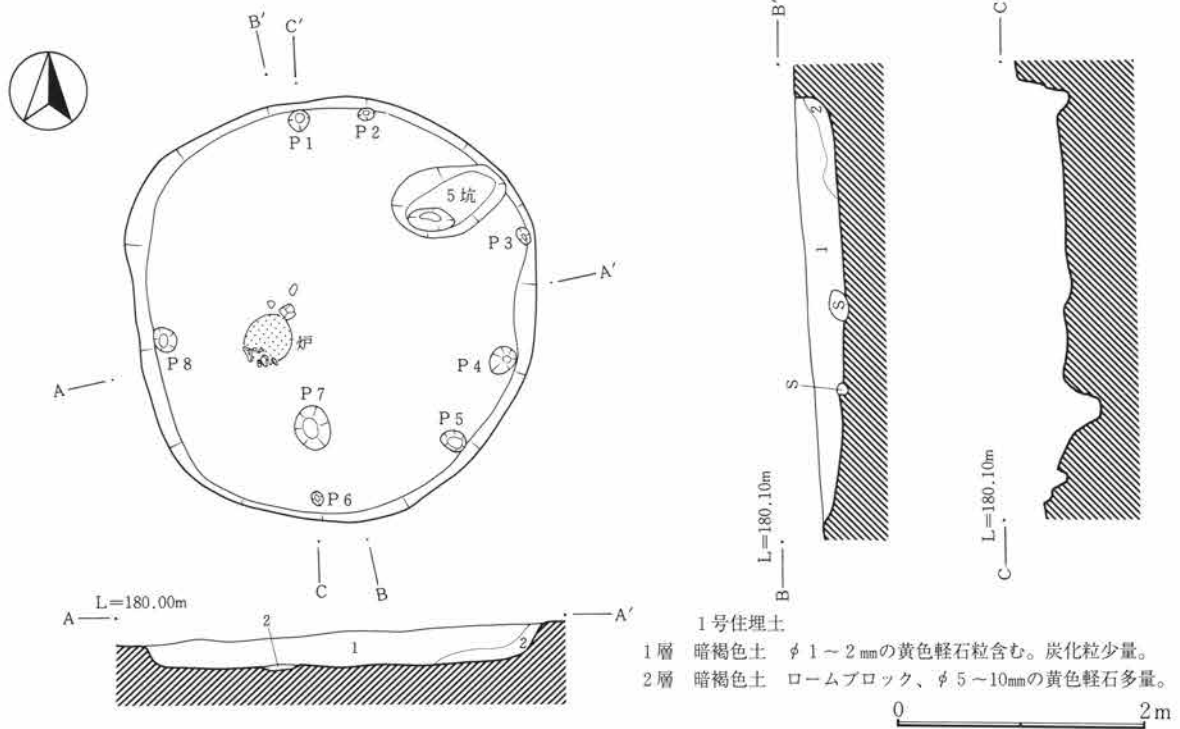
I地区2号住居址 (第7図 PL4)

位置 15区J~K-5。I地区調査区西側にあり、遺構の南半分が調査区外になる。**形状** 東西4.2mを測る。調査部分から判断すると、円形に近い形と考えられる。**壁** 掘り込みはローム層にあり、深い所で50cmを測る。立ち上がりは、しっかりしており、覆土との区別は容易であった。**覆土** 下層にロームブロックが多く入るが、東側からの自然流入と思われる。**床面** ローム直床でよくしまっており平坦である。床面に南北方向に2条の溝状の落ち込みが見られた。**柱穴** P1~P4が壁の内側に同心円状にあり、柱穴と考えられる。**炉** 住居のほぼ中央、南北方向に長い石囲い炉で、外側径70×48cm、内側径50×28cmである。**遺物** 覆土中からの遺物出土が多い。

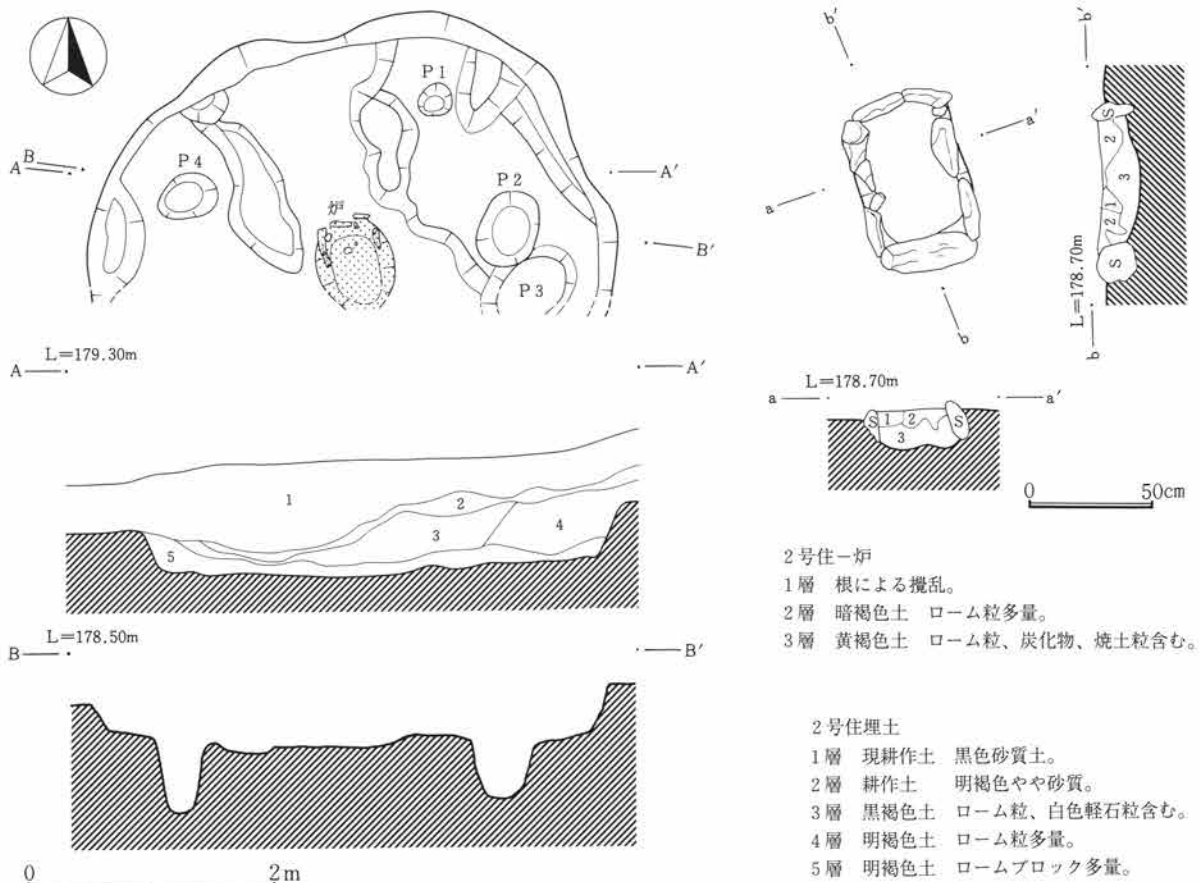
I地区3号住居址 (第8図 PL5)

位置 15区B-6。I地区調査区中央西寄りにあり、住居の大半を4号住居によって壊されている。**形状** 現状で東西方向3.6mを測る不整形円形になると考えられる。**壁** ローム漸移層に掘り込んでおり、深さ15cm程である。壁面は、ローム漸移層で立ち上がりははっきりしない部分がある。**覆土** ロームブロック混じりの土が多く入り、4号住居を作る際に人為的に埋めたと考えられる。**床面** ローム漸移層を床面とし、全体に硬化面がみられず、部分的にロームの硬化したものがあつた。**柱穴** 確認されなかった。**炉** 礫をほぼ円形に置いた石囲い炉である。外側径60cm、内側径35cm程である。炭化物、焼土粒わずかに残っていた。**遺物** 覆土中からの出土が多い。

第2節 検出された住居址

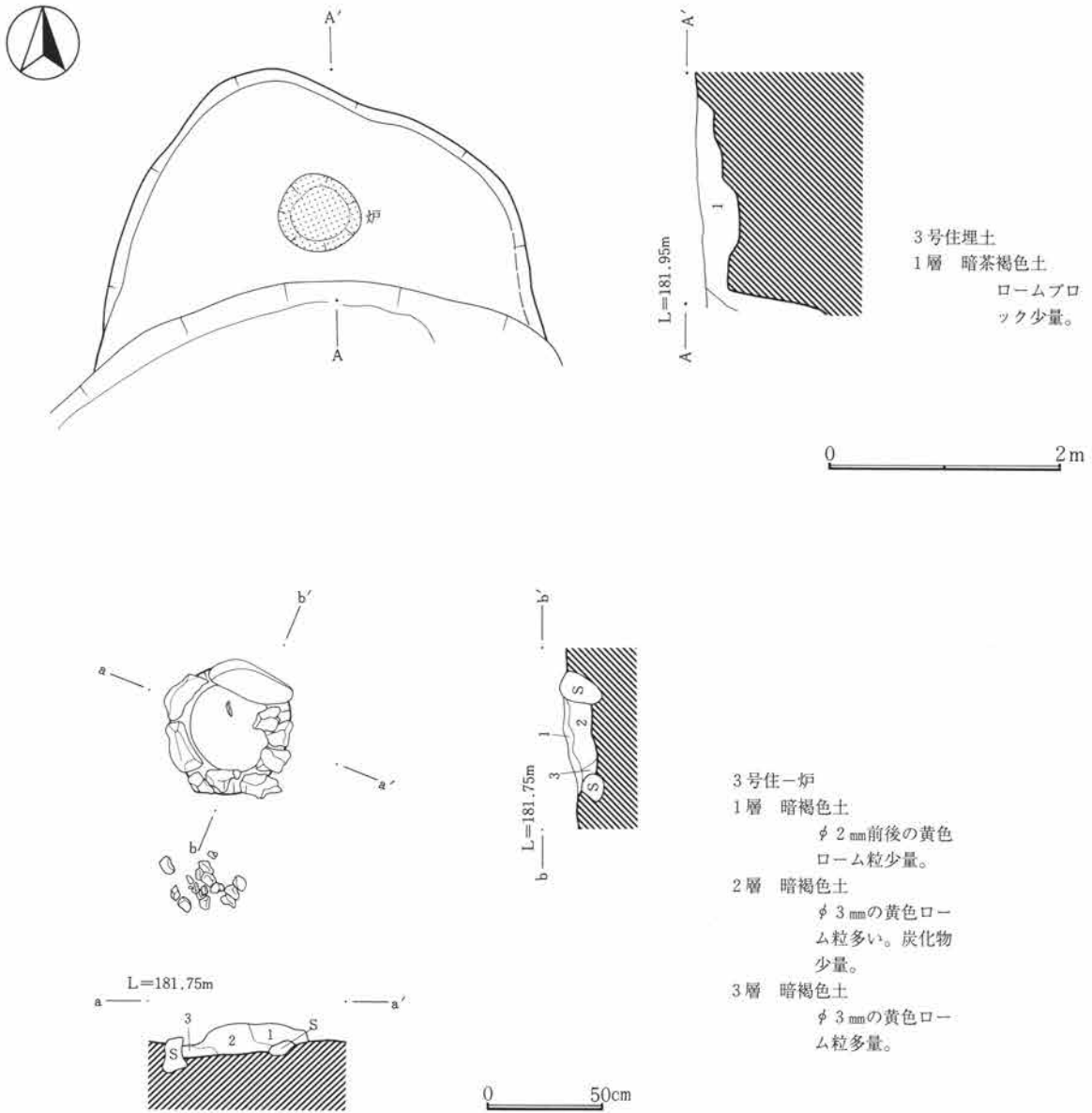


第6図 1号住居址



第7図 2号住居址・炉址

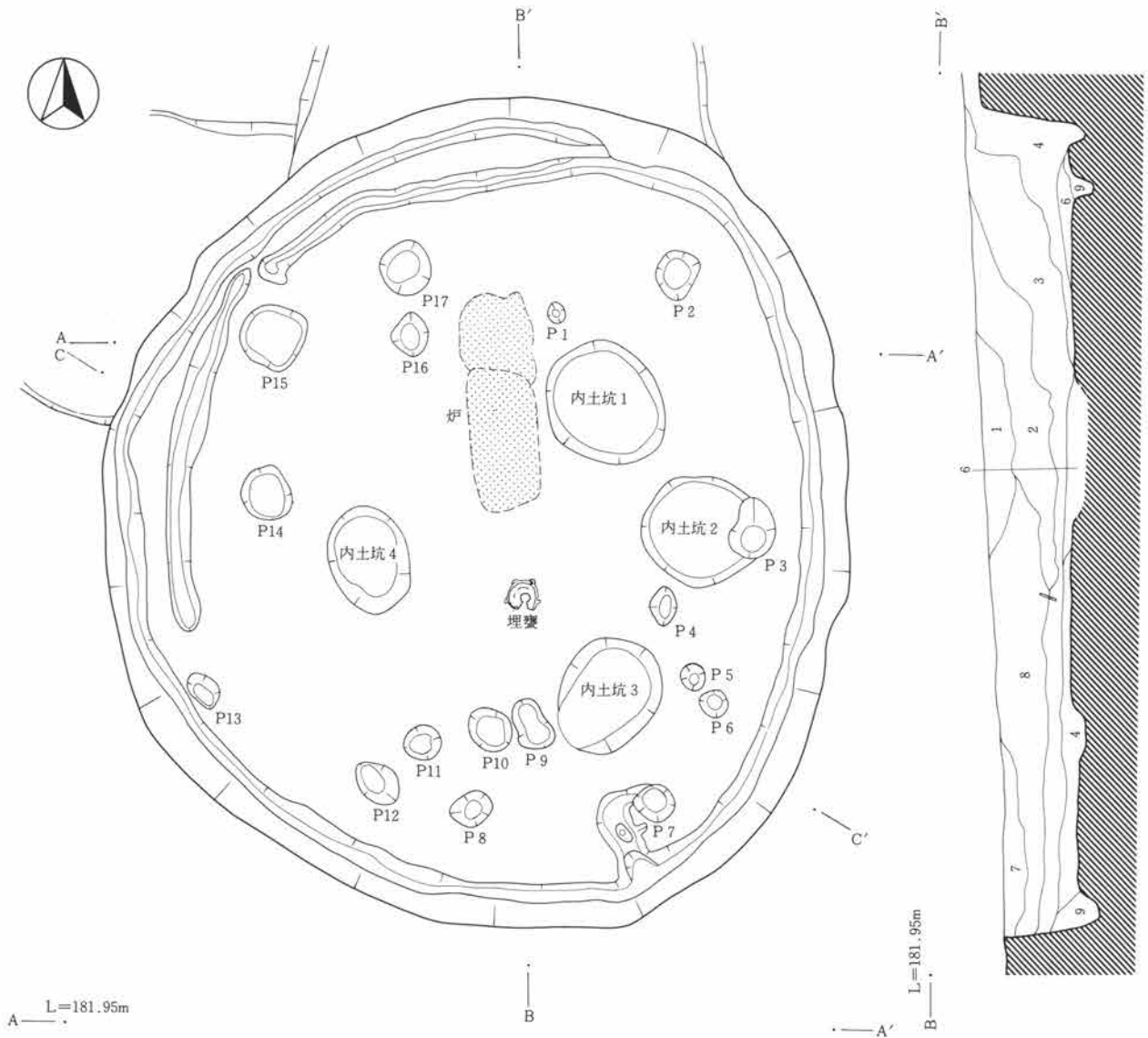
第2章 I地区 検出された遺構



第8図 3号住居址・炉址

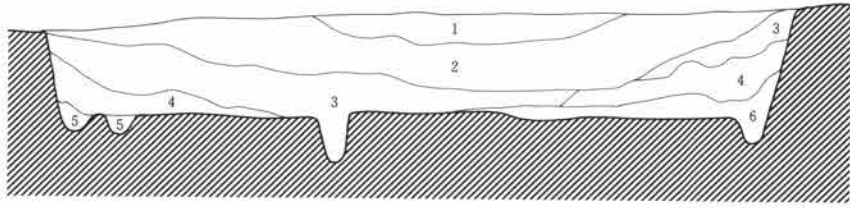
I地区4号住居址 (第9・10図 PL5・6)

位置 15区B~C-5~6。I地区調査区の南西に傾斜する先端近くにある。3号住居、5号住居を切っ
て作られている。形状 東壁側がやや直線的になる楕円形。上場の測定で、南北7.25×東西6.6m、下
場で6.2×5.5mを測る。壁 壁高は70~80cmと深く、垂直に近い角度で立ち上がる。壁面はローム層で、
覆土との区別は容易であった。覆土 全体にロームブロックの混入が多く下層は人為的な埋没と考えら
れる。床面 ローム層を床面としており、傾斜や凹凸は少ない。炉周辺部は硬化している。壁周辺には
周溝があり、幅25~30cm、深さ25cmを測る。北西側は、溝が二重になっており、住居を拡張したと考えられ

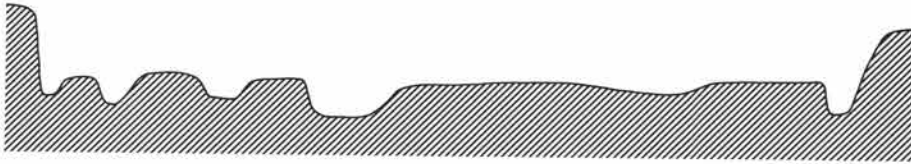


L=181.95m

L=181.95m



L=181.70m

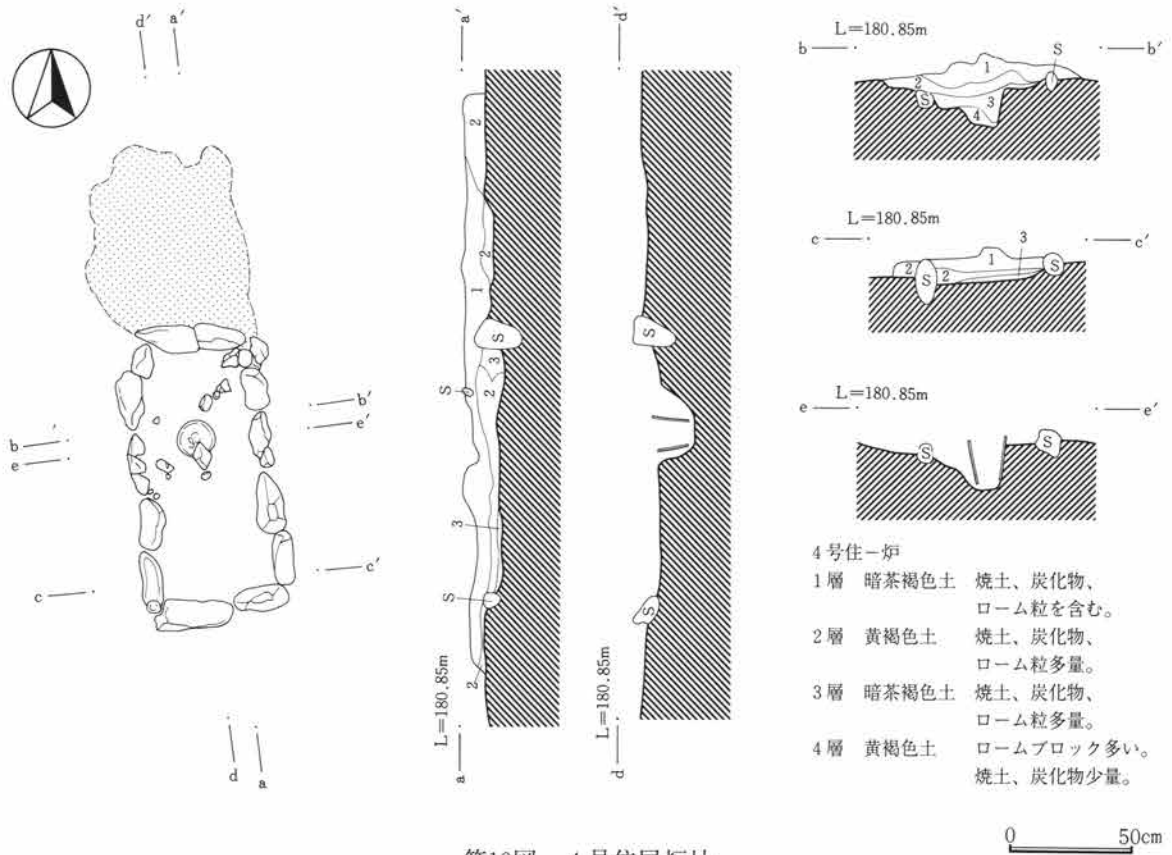


- | | | | |
|----------|----|-------|------------------------|
| 4号住埋土 | 5層 | 明茶褐色土 | ロームブロック多い。砂質土一部に混じる。 |
| 1層 暗褐色土 | 6層 | 明茶褐色土 | ロームブロック多い。褐色ロームブロック含む。 |
| 2層 黒褐色土 | 7層 | 暗褐色土 | 褐色クロボク土、炭化物少量。 |
| 3層 暗茶褐色土 | 8層 | 暗茶褐色土 | 褐色クロボク土含まずきめ細かい。 |
| 4層 明茶褐色土 | 9層 | 黄褐色土 | ロームブロック多量。 |

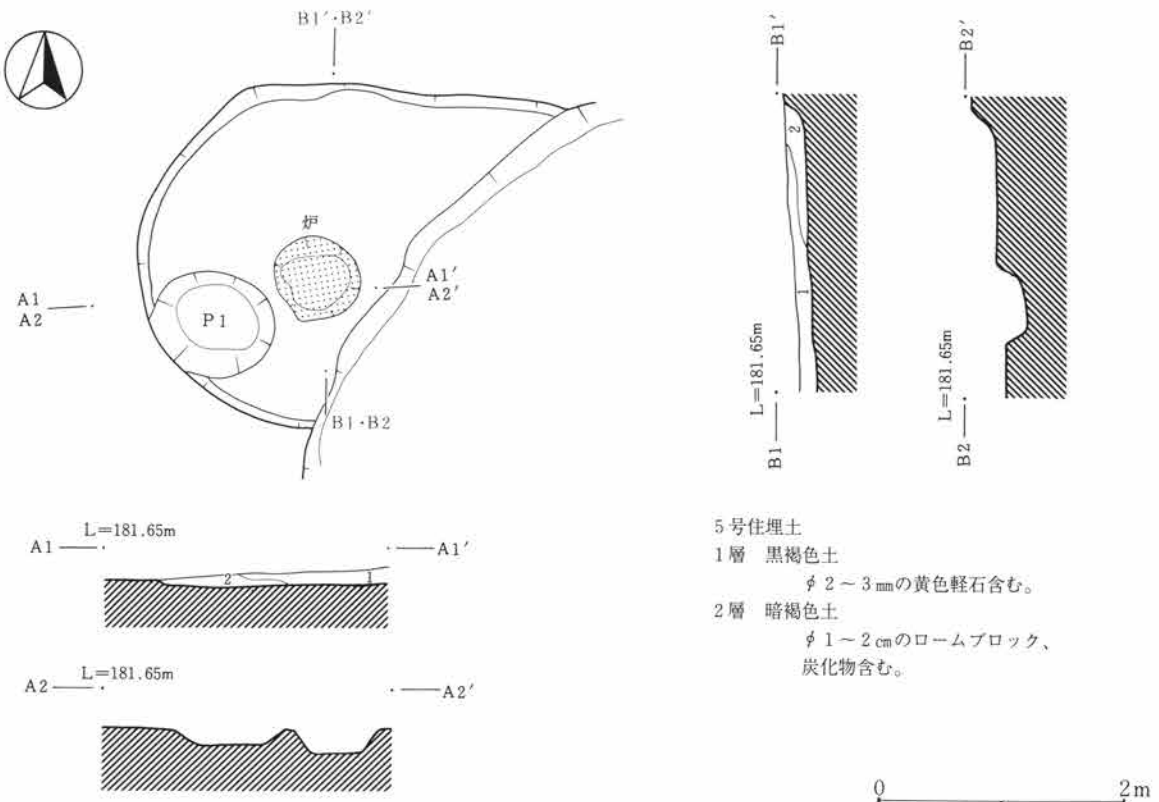
第9図 4号住居址

0 2m

第2章 I地区 検出された遺構



第10図 4号住居炉址



第11図 5号住居址

る。柱穴 壁にそって17のピットが確認されているが、P2、P3、P12、P14、P17などが支柱穴になると考えられる。他のピットは、補助的な柱穴であろう。炉 住居中央北側に、南北方向に長軸を持った石囲い炉がある。炉は、外側で1.2×0.6mを測る大きなものである。炉の中央北寄りに埋設土器がある。焼土、炭化物の堆積が認められた。炉の北側には、焼土と灰、炭化物が床面に堆積している。遺物 覆土中からの出土遺物が多い。床面近くからは、加層利E2式土器等が出土している。

I地区5号住居址 (第11図 PL6)

位置 15区C-5~6。4号住居に大半を壊されている。形状 現状で南北2.8m、東西2.5m以上の長楕円形になると思われる。壁 掘り込みがローム漸移層で止まっているため、覆土との区別が不明瞭で立ち上がりははっきりしない。確認面から床面の深さは、10~15cm程である。床面 ローム漸移層を床面としており、平坦で軟らかい。柱穴 はっきりした柱穴は確認されなかった。炉 P1周辺に炭化物等の分布がみられることから地床炉と考えられる。遺物 覆土中から土器片が少量出土している。

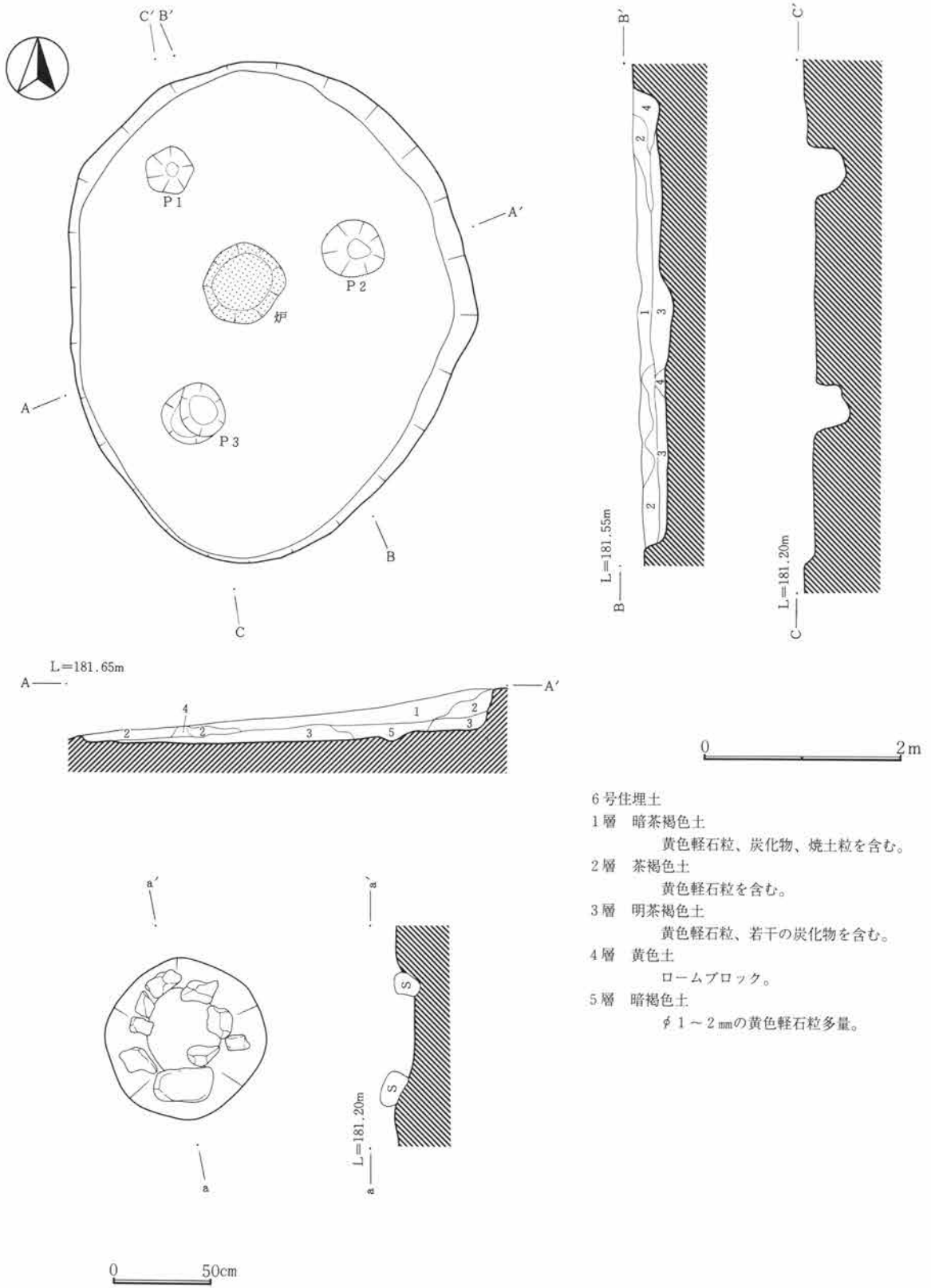
I地区6号住居址 (第12図 PL7)

位置 15区D-E-6~7。I地区調査区の西側平坦部にあり、本住居の西側から地形の傾斜が急になる。形状 南北5.0m、東西4.1mを測る。南北に長い楕円形であるが、東側にやや張り出す。壁 壁高は、東側で40cm、西側で10cmとなっている。東側の壁はロームを壁面としており、立ち上がりも垂直に近い角度で覆土との区別も明瞭であった。西側壁も上面は確認のため削平されているがローム部分が残っていた。覆土 住居下層では、ロームブロック等が入り人為的な埋土と考えられるが、上層については、自然堆積と思われる。床面 ローム面を床面としており、炉周辺は硬くしまっている。東西方向に若干の傾斜を持つが、床全体はほぼ平坦である。柱穴 P1~P3の3個のピットが確認されたが、これらが柱穴になると考えられる。炉 住居のほぼ中央部に石囲い炉がある。炉石の外側で南北60cm、東西50cmを測る。焼土、炭化物等が堆積している。遺物 覆土中からのものが多い。床面近くからは、加層利E2式土器等が出土している。

I地区7号住居址 (第13図 PL8)

位置 15区A-5~6。I地区調査区の南側4号住居と9号住居の間にある。形状 確認面が、現地表から10数センチと浅いため耕作による攪乱を多く受けている。推定で南北4.5m、東西3.5m程と考えられる不整形円形を呈する。壁 掘り込みが浅くはっきりしない。床面 ローム層を床面として比較的平坦で、炉周辺に硬化面がみられた。床の範囲は平坦面と硬化面、遺物範囲で推定した。住居には2基の土坑が重複している。住居内にある土坑は本住居に伴うものか、新しいもので、壁に重複してあるものは、本住居より古い。柱穴 P1、P2が柱穴と考えられるが、その他の柱穴は確認できなかった。炉 ほぼ中央に礫を円形に置いた石囲い炉。礫の外側で南北80cm、東西95cmを測る。礫は、石皿の破損品や、角礫を使用している。炉の中央には、埋設土器が置かれる。炉内は焼土、炭化物が堆積する。遺物 住居推定範囲から加層利E式の土器片等が出土している。

第2章 I地区 検出された遺構

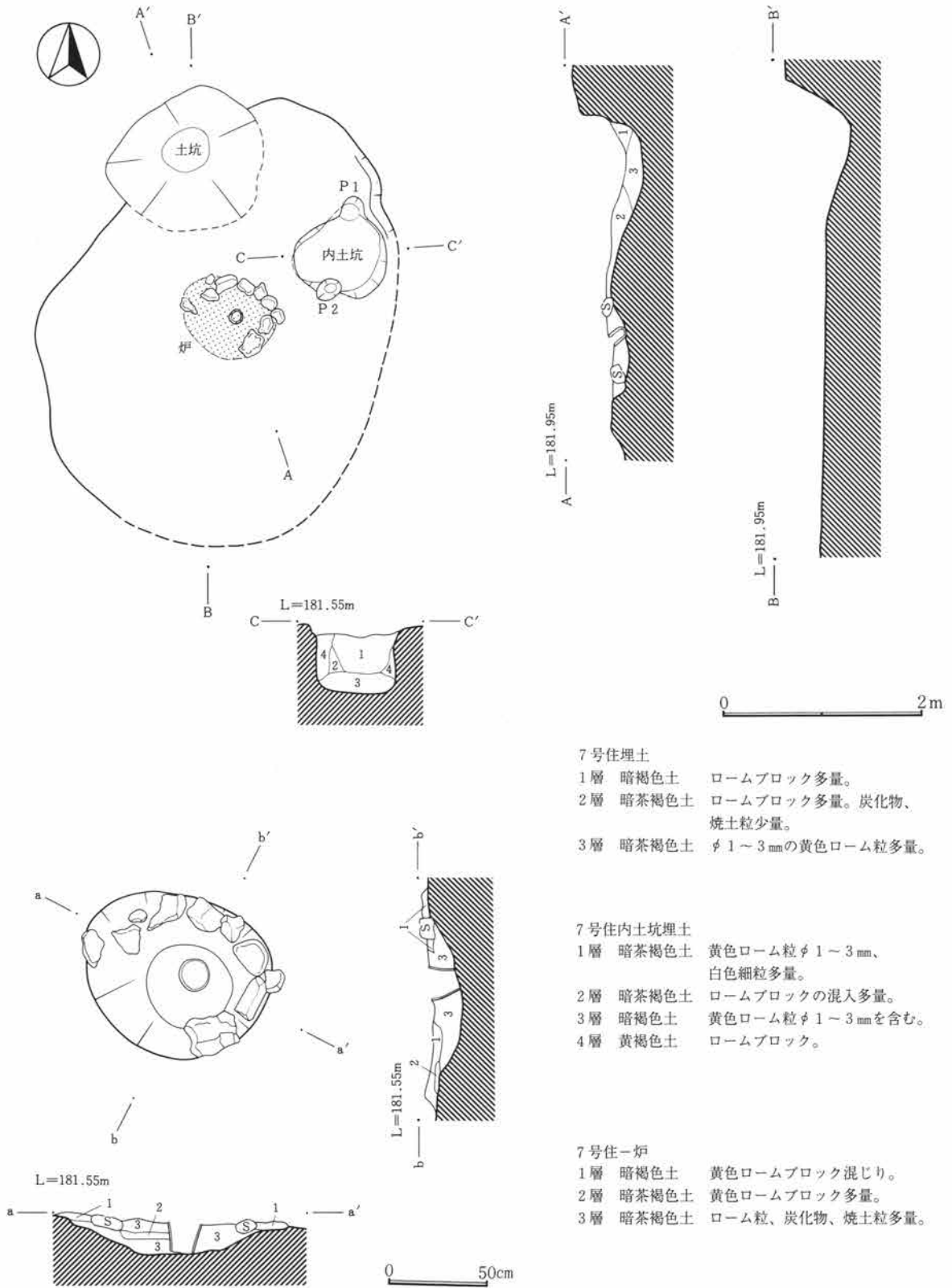


6号住埋土

- 1層 暗茶褐色土
黄色軽石粒、炭化物、焼土粒を含む。
- 2層 茶褐色土
黄色軽石粒を含む。
- 3層 明茶褐色土
黄色軽石粒、若干の炭化物を含む。
- 4層 黄色土
ロームブロック。
- 5層 暗褐色土
φ1~2mmの黄色軽石粒多量。

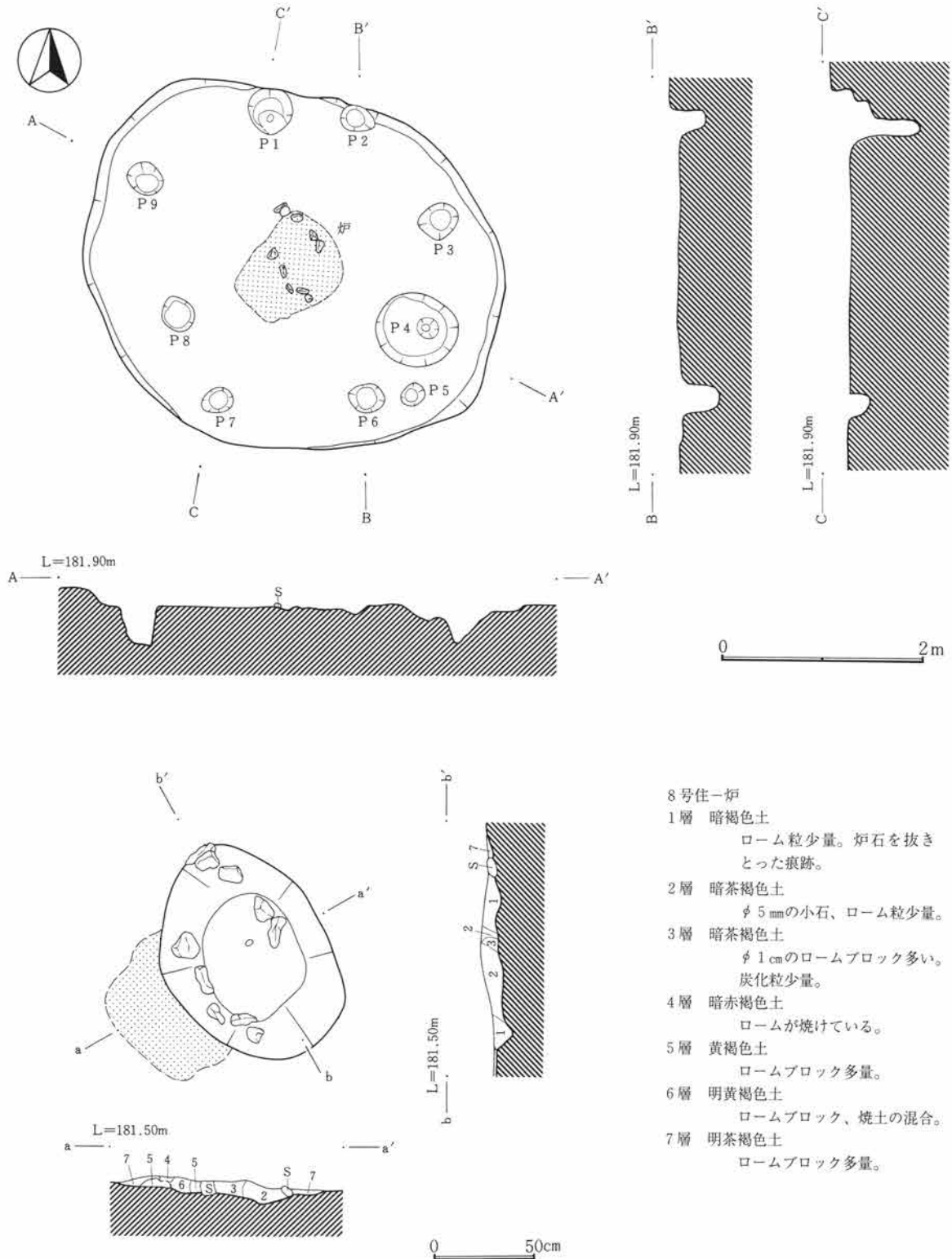
第12図 6号住居址・炉址

第2節 検出された住居址



第13図 7号住居址・炉址

第2章 I地区 検出された遺構



第14図 8号住居址・炉址

I地区8号住居址 (第14図 PL8・9)

位置 14～15区T～A-6～7。I地区調査区の中央南側、7号住居、9号住居、17号住居、18号住居に囲まれた所にある。**形状** 南北3.5m、東西4.2mを測る。東西にやや長い楕円形を呈する。**壁** 壁高は比較的低くなっており、高い所で10cm、低い所で数cmである。掘り込みはローム漸移層からローム層中で立ち上がりははっきりしない所もある。**覆土** 表土から遺構面までが浅く、覆土は現耕作土と混在していたため埋没状況は不明である。**床面** ローム層を床面としており、炉周辺部に硬化面がみられたが、それ以外は軟弱であった。床の傾斜や凹凸はなく平坦である。**柱穴** ピットが炉を中心に同心円状にP1～P9まである。深さも20～50cmとバラツキがあるが、柱穴と考えられる。**炉** 住居の中心部に南北に長い石囲い炉がある。楕円形の窪みを掘り、その周辺に礫を置いている。礫は自然礫である。炉の内部及び周辺には焼土、炭化物が多く堆積している。**遺物** 本住居では炉近くに石棒状の物が置かれていた。また床直上に加層利E2式の完形の小形深鉢も出土している。

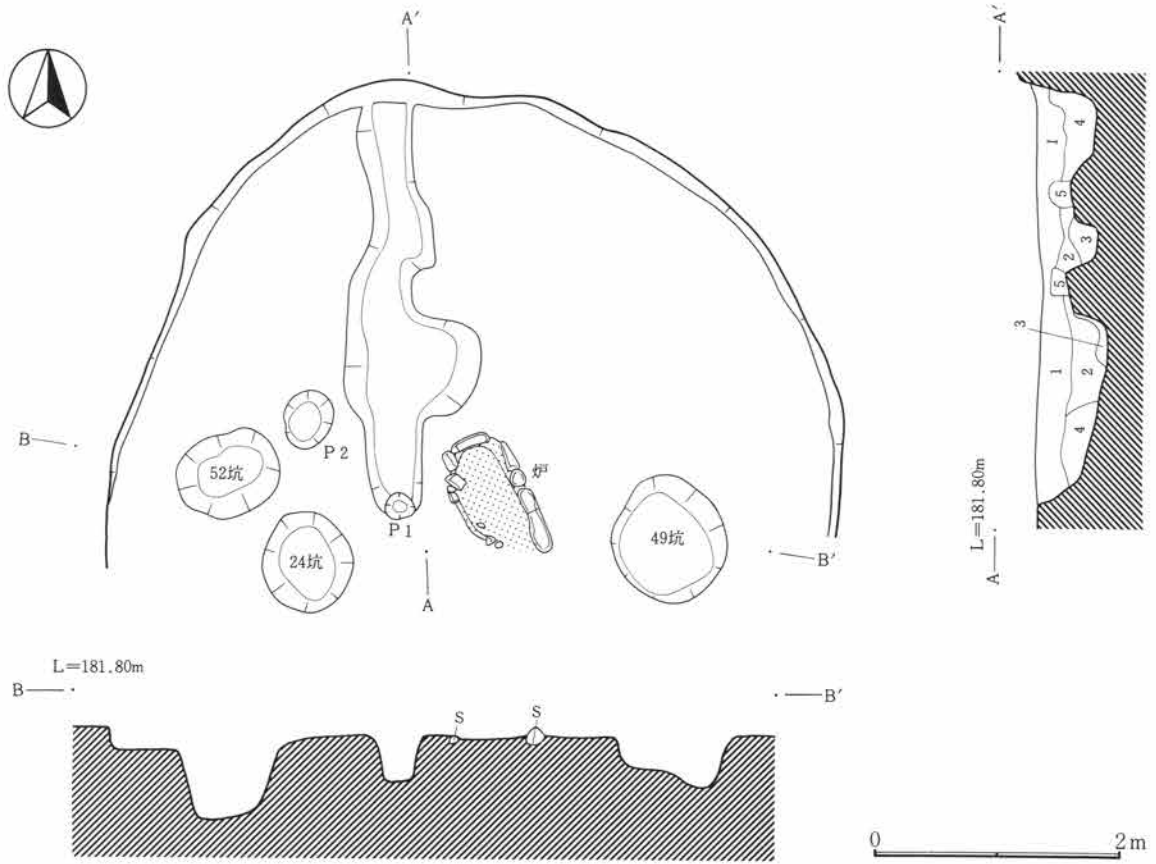
I地区9号住居址 (第15図 PL8・10)

位置 14～15区S～A-5～6。I地区調査区の南側、7号住居、8号住居と隣接した位置にある。**形状** 住居の南半分を削平されているが、現状ではほぼ円形を呈すると思われる。東西径5.9mを測る。**壁** 壁高は、10～30cmを測る。床面への掘り込みは、ローム層をわずかに掘り込む程度で、壁の遺存状態は良くない。立ち上がりはゆるやかで、ローム漸移層を壁面としている部分が多い。**覆土** ロームブロック混じりの土が多く人為的な埋没と考える。なお現地表面から浅い所にあるため、耕作による攪乱が多い。**床面** 南半分は、耕作により削平されている。床面はローム漸移層で比較的軟らかな部分が多かった。硬化面は炉の周辺部のみである。床の傾斜はなくほぼ平坦なものであった。住居と重複して土坑が検出されている。49号土坑は本住居よりも古く、24・52土坑は本住居よりも新しいものである。住居の中央に南北方向に深さ20～30cmの溝状のものがみられるが、住居内を区画する溝と考えられる。**柱穴** 本住居も柱穴ははっきりしないのであるが、P1、P2の他には検出されなかった。**炉** やや西側に向いた南北に長い石囲い炉である。礫は自然礫によるものである。炉石の下にも焼土等が入り込んでいることから、石を組みなおしている可能性がある。長軸110cm、短軸60cmを測る。**遺物** 覆土中からの出土が多く、加層利E3式等の土器片が出土している。

I地区10号住居址 (第16図 PL11)

位置 14区R～S-5。I地区調査区中央部南端部に位置する。**形状** 南半分が調査区外のため北半分の調査となった。現状で、やや丸みを持つ方形かと思われる。東西方向で4.4mを測る。**壁** 壁面はほぼ垂直に近い急角度で立ち上がる。壁高は30cmを測る。掘り込みはローム層に掘り込んでおり、しっかりしている。**覆土** ローム漸移層や、ロームブロックの混入が多いことから人為的な埋没が考えられる。**床面** 比較的平坦で傾斜も少ない。床面全体は軟らかであるが、部分的にロームの硬化面がみられた。**柱穴** P1～P3の3個のピットが北壁側に並んで発見された。ピットの掘り込みは浅いものであるが、他にピットが検出されない事から柱穴と考えられる。**炉** ほぼ中央に石囲い炉が検出された。不整形に掘り窪めた周囲に偏平な自然礫を置いたものである。**遺物** 覆土中より土器、礫等が出土している。

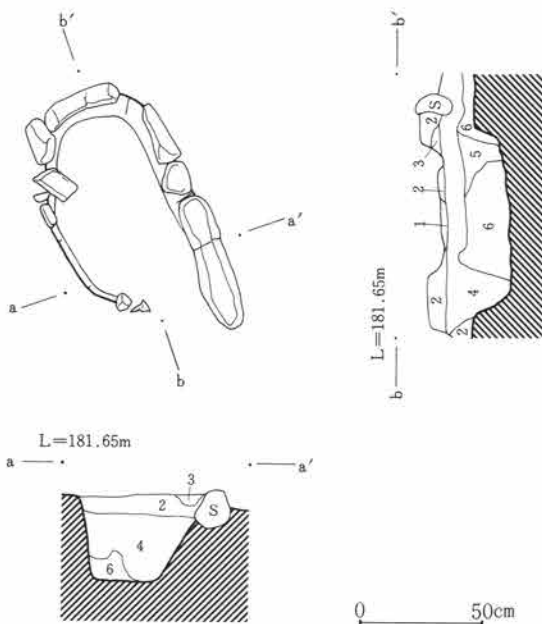
第2章 I地区 検出された遺構



9号住埋土

- 1層 黒褐色土 現耕作土による攪乱、C軽石混じり。
- 2層 暗黄褐色土 ロームブロック、白色ローム粒多量。

- 3層 暗褐色土 黄・白色ローム粒多量。
- 4層 暗褐色土 ロームブロック多量。
- 5層 明黄褐色土 ロームブロック4層より多量。

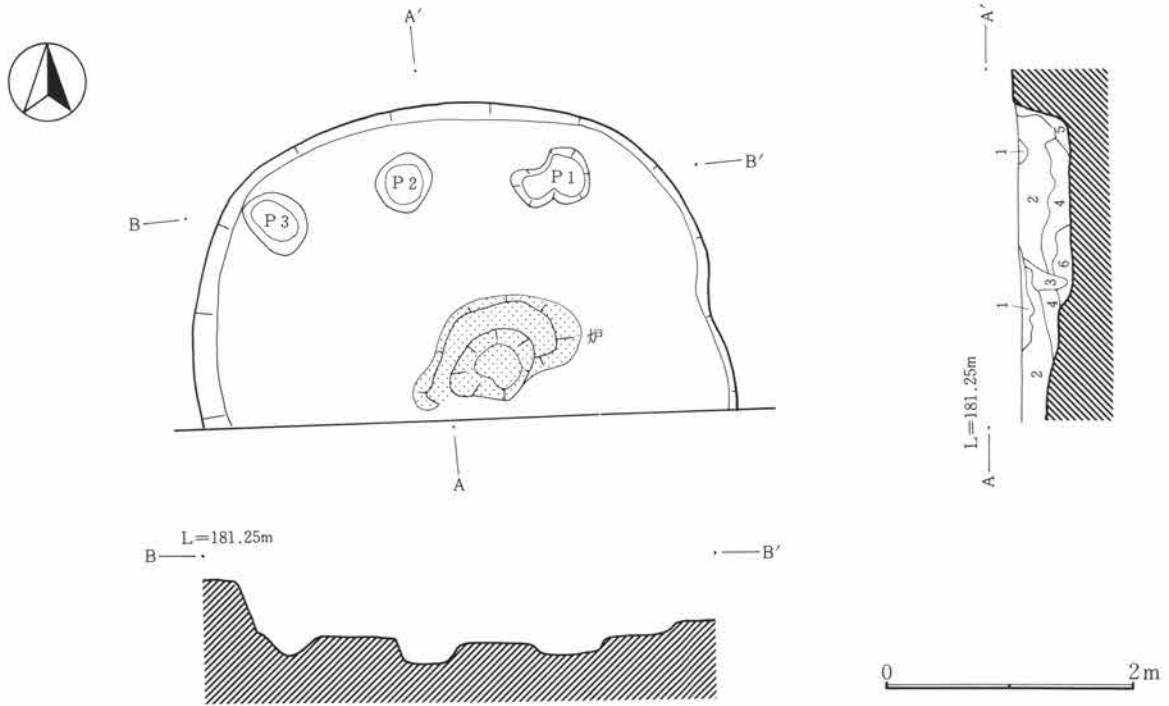


9号住-炉

- 1層 黒色土
根による攪乱。
- 2層 暗茶褐色土
黄色ローム粒多量。
- 3層 黄褐色土
ロームブロック。
- 4層 暗茶褐色土
ローム粒、ロームブロック、炭化物、焼土粒含む。
- 5層 暗茶褐色土
4層より炭化物、焼土多量。
- 6層 暗黄褐色土
ローム粒多量。

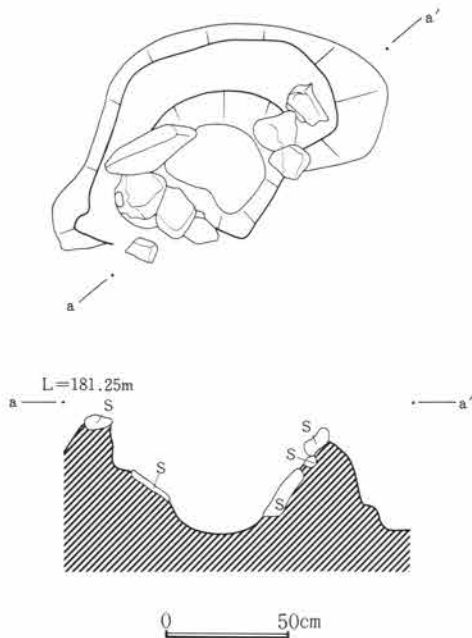
第15図 9号住居址・炉址

第2節 検出された住居址



10号住居土

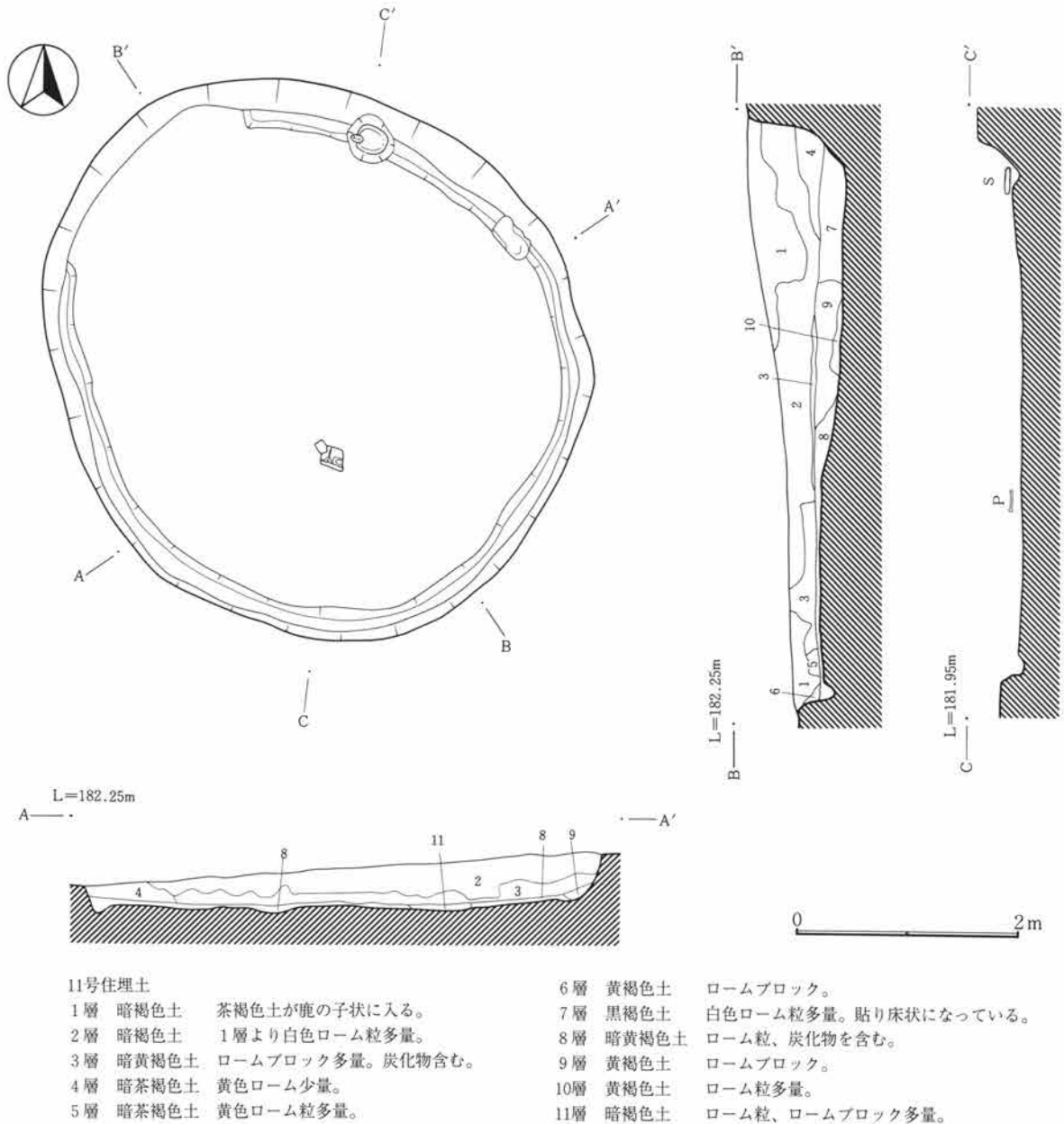
- 1層 黒褐色土 C軽石混じり。
- 2層 黄褐色土 ロームブロック多量。
- 3層 根による攪乱。
- 4層 暗黄褐色土 褐色土にロームブロックが混じる。
- 5層 黄褐色土 ロームの混入多量。
- 6層 黄褐色土 ロームブロック多量。



第16図 10号住居址・炉址

I地区11号住居址 (第17図 P L12)

位置 15区C～D-6～7。I地区調査区の南西側にある。6号住居の東側、4号住居の北側に隣接する位置にある。形状 南北4.85m、東西4.9mを測る円形を呈する。壁 壁面はほぼ垂直に近い角度



第17図 11号住居址

で立ち上がる。壁高は20～50cmを測り、北東側が高くなっている。掘り込みはローム壁まで掘り込まれており、壁面となっている。 覆土 下層では、ロームブロックが多く入り人為的な埋没と考えられる。上層部は遺物の投棄とともに埋土の自然流入と考えられる。 床面 ローム層面を床面としている。中央部が若干低くなっているが凹凸は少なく平坦である。床面は全体に柔らかであるが、部分的に硬化面もみられた。周溝は北西部分で一部欠けている。深さ10～20cm、幅25～30cmを測る。 柱穴 はっきりしたものは確認できなかった。周溝内に柱穴としてあった可能性がある。 炉 炉としての焼土面や、痕跡は確認できなかった。 遺物 覆土上層から加層利E 2式の土器片が多く出土している。床直上からは、石皿の裏面が多孔石になったものと、磨石がセットで出土している。

I 地区12号住居址 (第18図 P L 13)

位置 14区R～S-11～12。I地区調査区の北東端にある。**形状** 南北5.6m、東西5mを測る。南北にやや長い円形を呈する。**壁** 壁高は、現地表から浅い位置にあるため攪乱を受けていない所で20cmである。掘り込みはローム漸移層までで、壁面や立ち上がりがはっきりしない部分が多い。**覆土** ローム軽石、ローム層が多く混じり、人為的な埋没と考えられる。**床面** ローム漸移層を床面としており、全体に軟らかである。中央部でさらに深くなり2段になるが、土坑との重複と考えられる。**柱穴** 床面にシミ状の凹みは認められたが柱穴状のものは検出されなかった。**炉** 住居の北側に埋設土器による炉が検出された。土器の周辺には、焼土、炭化物が堆積しており、土器自体火熱を受けて脆くなっている。焼土等の分布範囲は土器を中心に95×80cm程である。**遺物** 本住居からの出土遺物は少なく、炉体土器を除くと覆土中から土器片、礫等が少量出土するのみである。

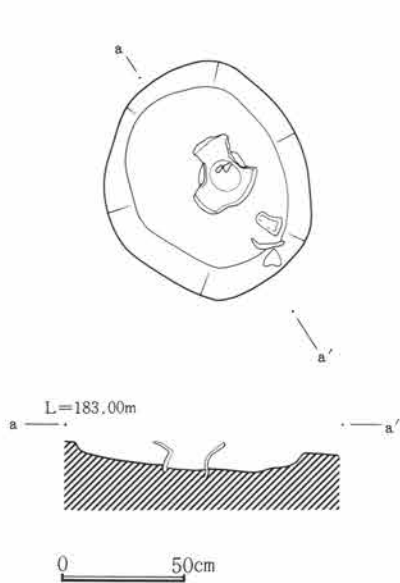
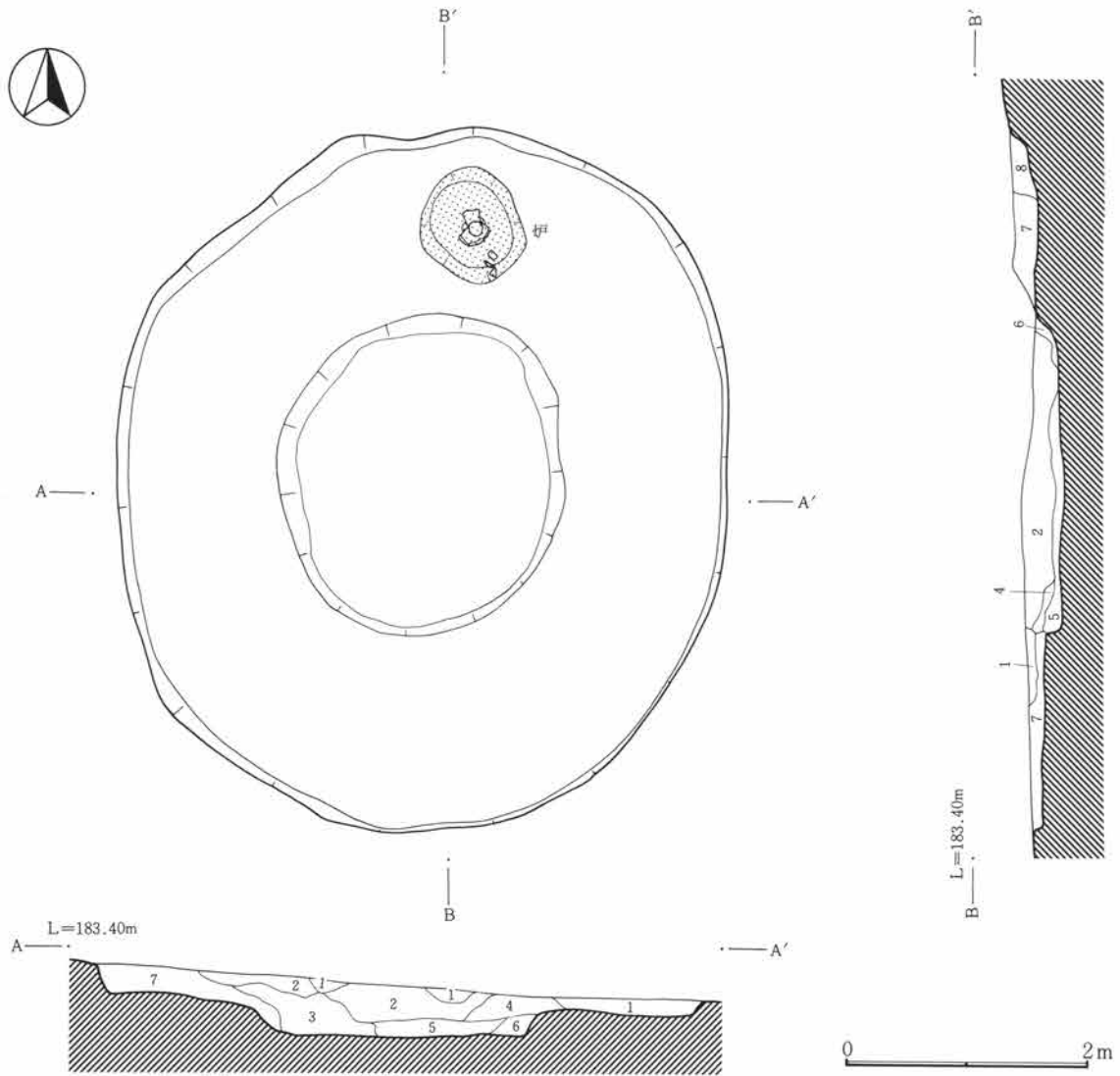
I 地区13号住居址 (第19・20図 P L 14)

位置 14～15区T～A-10～11。I地区調査区の中央北側にある。14号住居の北、25号住居の東側に位置する。**形状** 遺構確認面が現地表から浅い所にあるため、東側の一部が削平されている。現状で南北6.5m、東西6.7mを測る。東側にやや張り出した円形を呈する。**壁** 壁高は北側で30cm、南、西壁側で15cm程である。東側は削平されている。壁面は、ローム層に掘り込まれており、しっかりしている。**覆土** ロームブロック混じりの土が乱雑に入り込んでおり、人為的な埋没と考えられる。**床面** 北側に一段低くなる部分がある。床全体は凹凸が少なく平坦である。ローム層を床面としているが全体に軟らかい。北側には3基の土坑が重複しているが、いずれも本住居より新しいと考えられる。**柱穴** 柱穴らしいものは確認されなかった。**炉** やや北寄りに石囲い炉が検出された。炉の下には、不整形な掘り込みがありそれを埋めた後に炉の石を置いて石囲い炉を作っている。炉石は、後世の攪乱によって動いている。炉周辺には、焼土、炭化物などが堆積していた。**遺物** 覆土中から加層利E式土器の小破片が多く出土している。床直上では礫、土器の小破片が少量出土しているのみである。

I 地区14号住居址 (第21図 P L 14～16)

位置 14～15区T～A-9～10。I地区調査区のほぼ中央にある。13号住居の南、22号住居の東に位置し、住居、土坑等の密集している所にある。**形状** 南北4.5m、東西4.3mを測る。南壁側でやや直線的になる円形プランになる。**壁** 本住居の掘り込みは深く壁高は、30～60cmを測る。立ち上がりは、ややゆるやかになるが、壁面はローム壁でしっかりしている。**覆土** 下層は、軽石粒が混じり、自然に堆積したと考えられるが、1層には多量の土器片が投棄されている。窪地に土器の投棄とともに自然流入の土によって埋没したものと考えられる。**床面** ローム面を床面としている。全体に硬くしまっており、凹凸が少なく平坦である。**柱穴** 柱穴状のピットは確認できなかった。住居外にも柱穴の確認を行ったのであるが、それらしいものは検出できなかった。**炉** 中央部に土器を埋設して炉にしている。炉周辺には、焼土、炭化物の堆積がみられた。**遺物** 掘り込みが深いため、覆土中から多量の土器片、石器等が出土している。床面直上からは、加層利E3式の連弧文のある深鉢が出土している。

第2章 I地区 検出された遺構

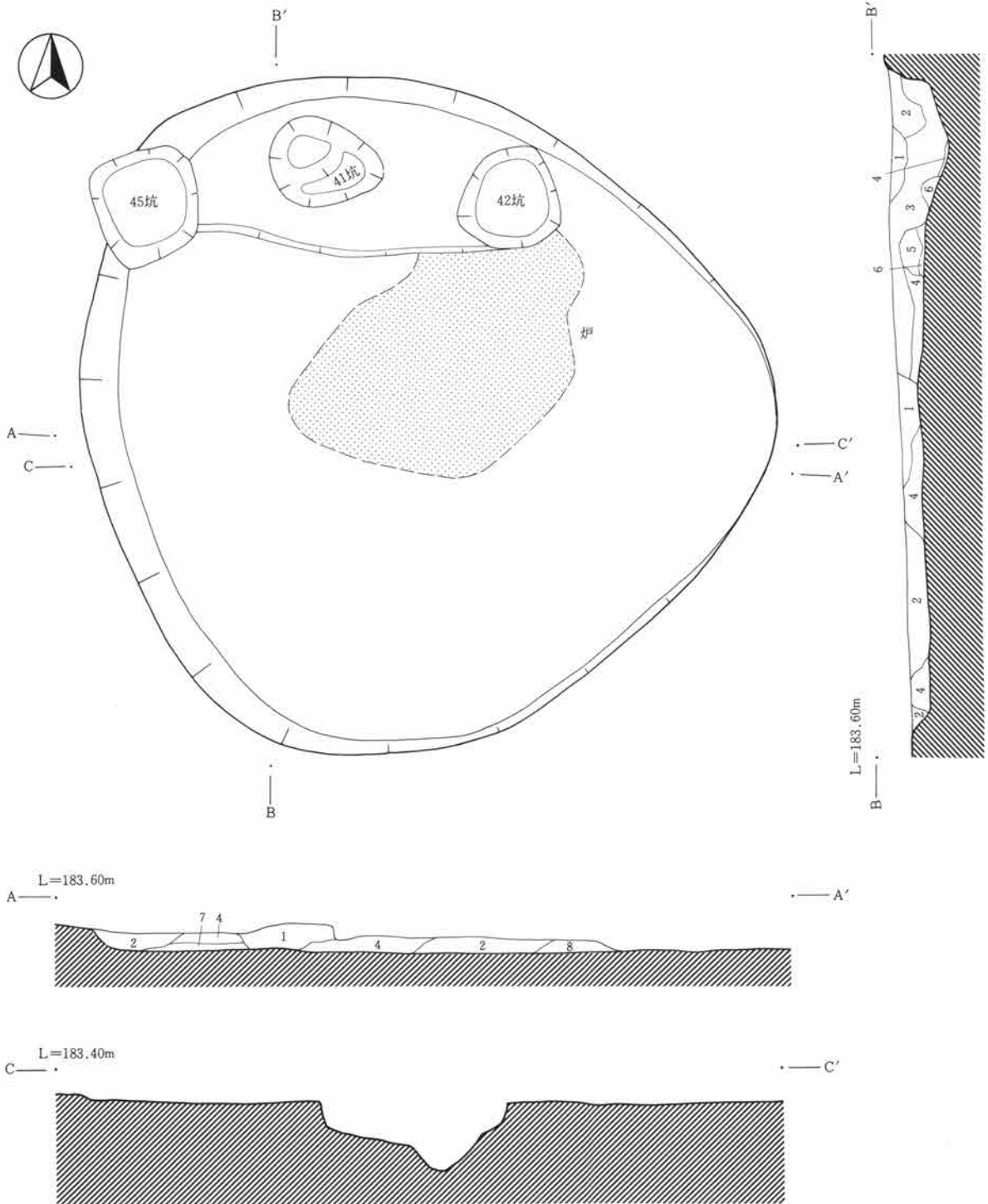


12号住埋土

- | | | |
|----|-------|-----------------------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | C軽石混じり。 |
| 2層 | 暗茶褐色土 | φ 5～6mmの白・黄色軽石粒、炭化物多量。 |
| 3層 | 暗茶褐色土 | 2層より黄色軽石粒多量。 |
| 4層 | 暗黄褐色土 | φ 2～3mmの白色軽石粒、黄色ローム粒多い。
炭化物少量。 |
| 5層 | 暗黄褐色土 | 4層より白色軽石粒少なく、黄色ローム粒多量。 |
| 6層 | 暗黄褐色土 | 5層より白色軽石粒少なく、黄色ローム粒多量。 |
| 7層 | 暗黄褐色土 | ロームブロックと褐色土の混合土。 |
| 8層 | 黄褐色土 | ロームブロックが多く入る。 |

第18図 12号住居址・炉址

第2節 検出された住居址



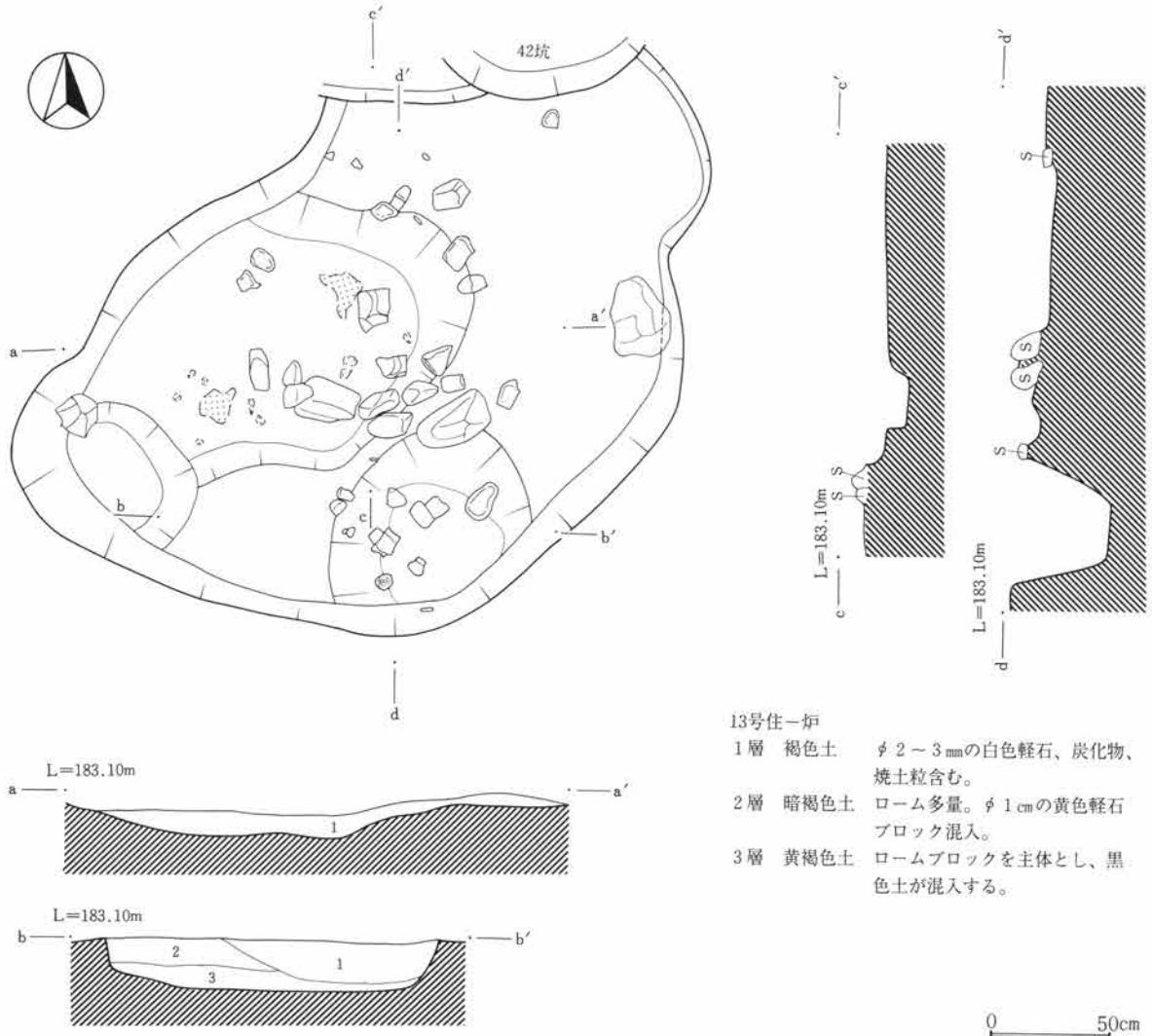
13号住居址

- | | | | |
|----------|----------------------|----------|-------------------|
| 1層 黒褐色土 | C 軽石混じり。現耕作土。 | 5層 褐色土 | 炭化物少なく、ロームブロック多量。 |
| 2層 暗茶褐色土 | 白・黄色軽石粒少量。炭化物わずかに含む。 | 6層 黄褐色土 | ロームブロックと褐色土の混合。 |
| 3層 暗茶褐色土 | 白・黄色軽石粒多量。 | 7層 暗黄褐色土 | ロームブロック、黄色軽石多量。 |
| 4層 暗茶褐色土 | 黄色軽石少量。炭化物多量。 | 8層 暗黄褐色土 | 黄色軽石粒多量。 |

0 2m

第19図 13号住居址

第2章 I地区 検出された遺構

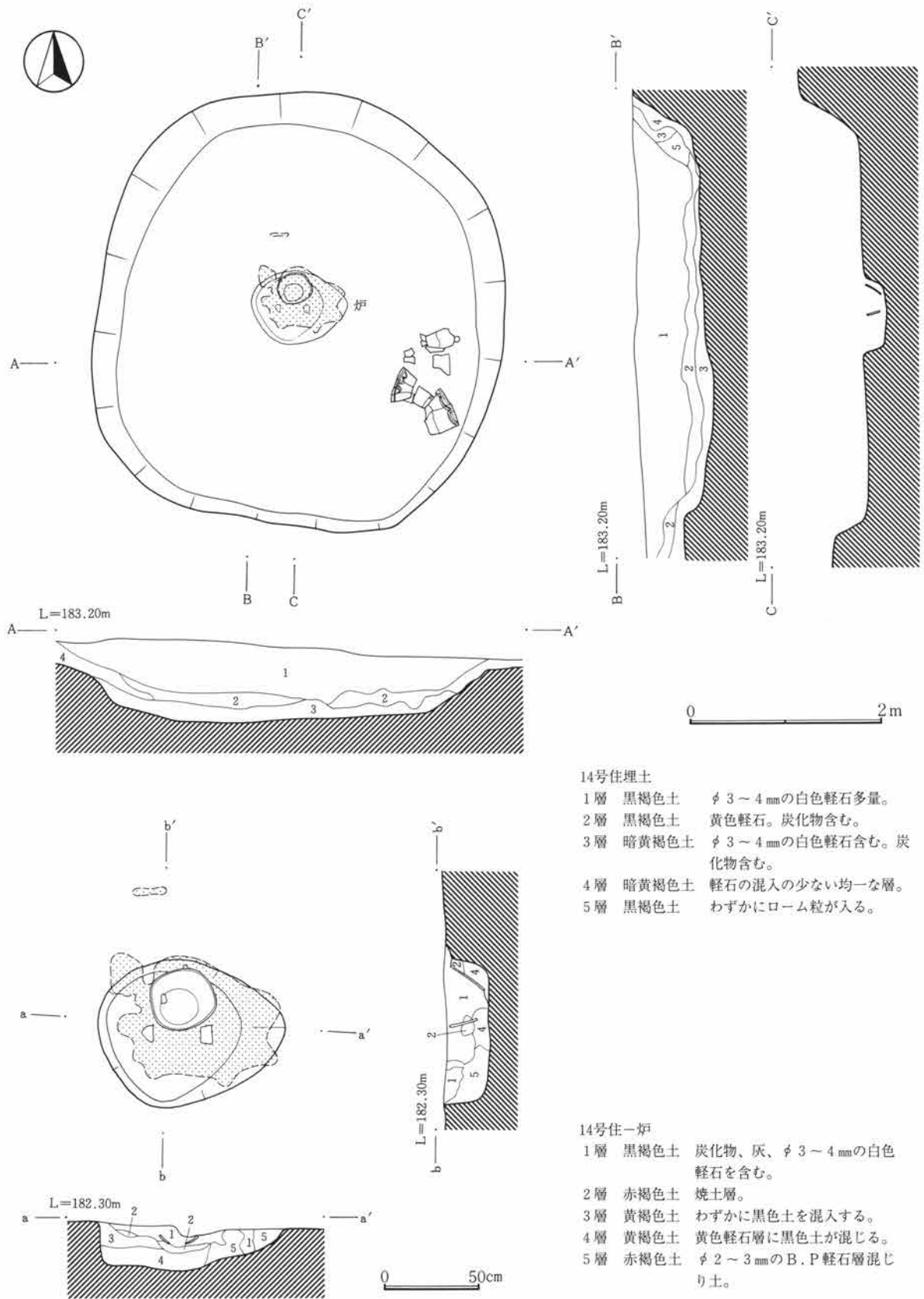


第20図 13号住居炉址

I地区15号住居址 (第22・23図 P L 17・24)

位置 15区B～C-10～11。I地区調査区の西北にある。25号住居と東側で重複し、北には26号住居、南には22号住居がある。周辺には土坑も多く、遺構の密集している所である。**形状** 南北6.5m、東西6.5mを測る。北東側で25号住居に切られ、壁の一部が不明瞭である。南西壁にも歪みを持つがほぼ円形プランを呈する。**壁** 壁高は20cm前後と比較的浅い。掘り込みはローム漸移層と一部ローム層になっているため、立ち上がりのしっかりしている所と、弱い所があった。**覆土** 下層は、黄褐色土に炭化物等を含みローム漸移層に似た土が流入している。上層は褐色土に炭化物等が入っている。自然埋没と考えられる。**床面** ローム層を床面としている。炉周辺では硬化しているが、周辺部は軟らかい。床面は凹凸が多く、西壁側では一段低くなっている。また、東壁側にも一段低くなっている所がある。P 2、P 3、P 7、内土坑などは本住居に重複して作られているが、住居より古い土坑と考えられる。**柱穴** 住居の柱になるものは、P 1、P 4～P 6、P 8、P 9ではほぼ同心円状にある。深さや大きさ、位置などから柱穴と考えられる。**炉** 本住居からは2ヶ所の炉が確認された。いずれも石囲い炉で、中央に深鉢が埋設されている。炉1は床

第2節 検出された住居址

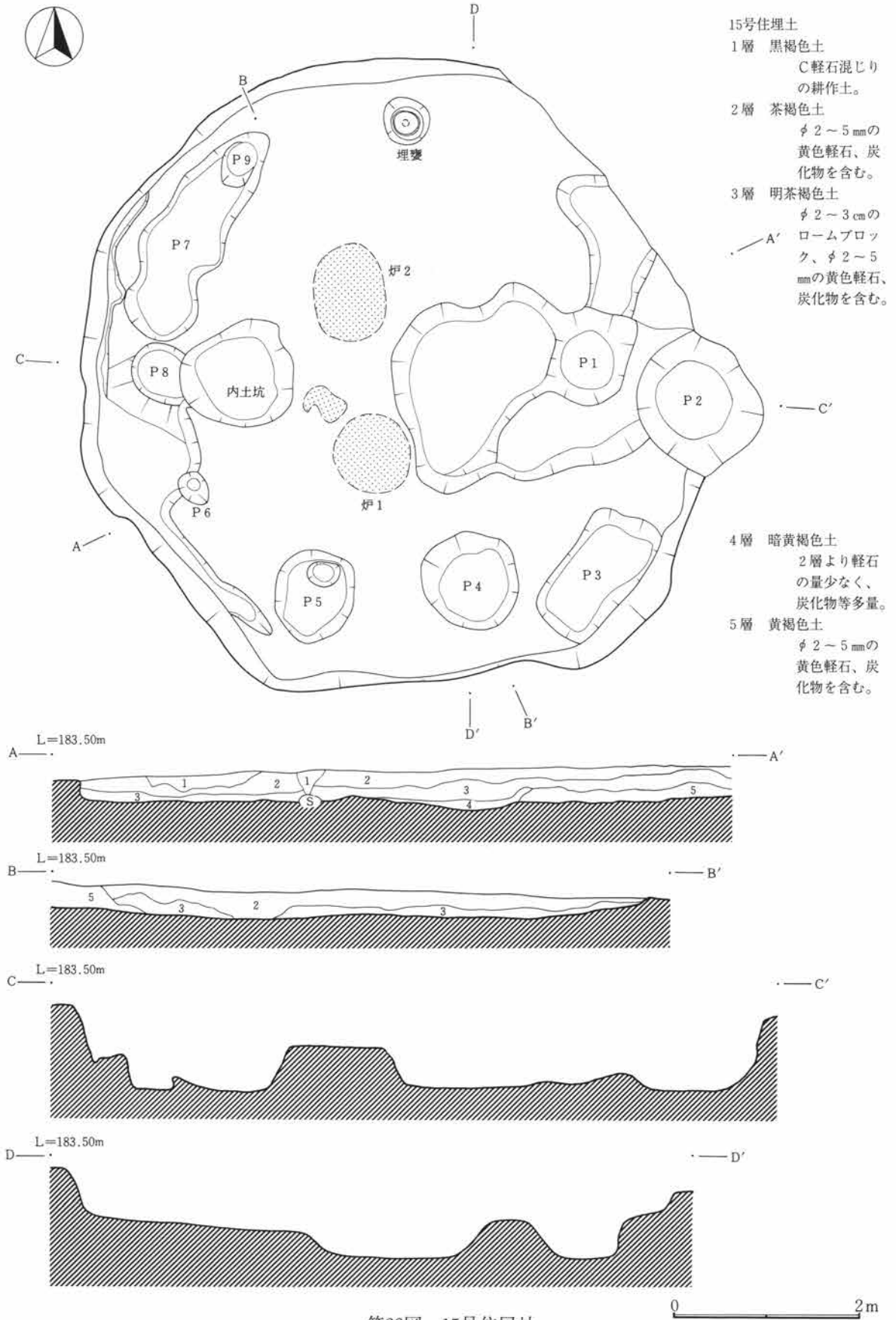


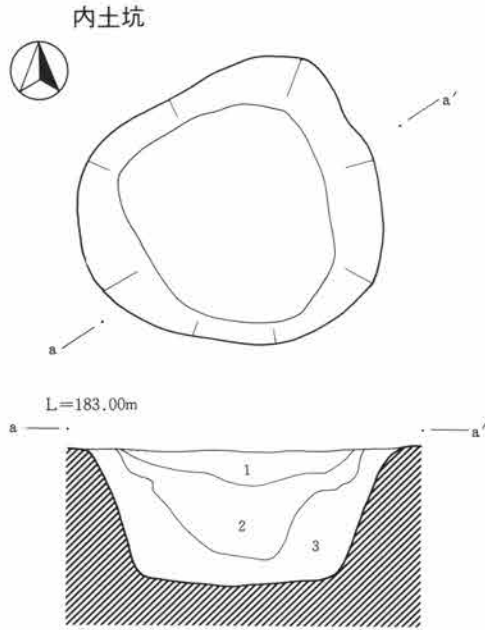
- 14号住埋土
- 1層 黒褐色土 φ 3～4mmの白色軽石多量。
 - 2層 黒褐色土 黄色軽石。炭化物含む。
 - 3層 暗黄褐色土 φ 3～4mmの白色軽石含む。炭化物含む。
 - 4層 暗黄褐色土 軽石の混入の少ない均一な層。
 - 5層 黒褐色土 わずかにローム粒が入る。

- 14号住一炉
- 1層 黒褐色土 炭化物、灰、φ 3～4mmの白色軽石を含む。
 - 2層 赤褐色土 焼土層。
 - 3層 黄褐色土 わずかに黒色土を混入する。
 - 4層 黄褐色土 黄色軽石層に黒色土が混じる。
 - 5層 赤褐色土 φ 2～3mmのB.P軽石層混じり土。

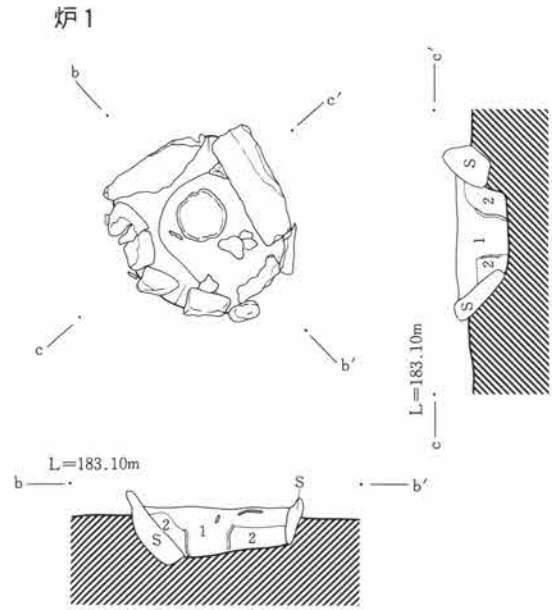
第21図 14号住居址・炉址

第2章 I地区 検出された遺構

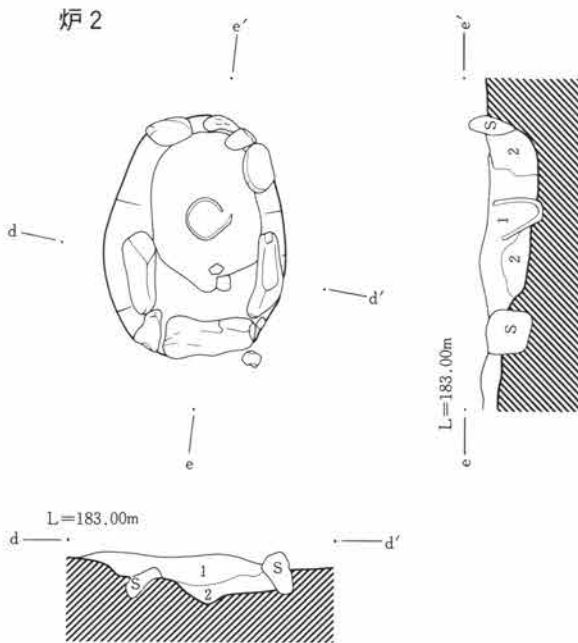




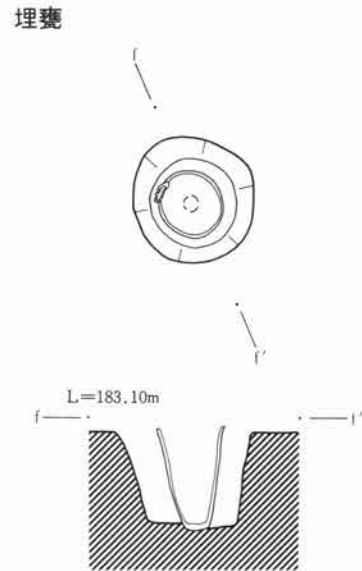
15号住-内土坑
 1層 暗褐色土 φ 2～3mmの黄色軽石粒、炭化物を含む。
 2層 暗茶褐色土 φ 2～5mmの黄色軽石粒含む。
 3層 茶褐色土 細かい黄色軽石粒、炭化物、焼土を含む。



15号住-炉1
 1層 明茶褐色土 炭化物焼土を含む。
 2層 茶褐色土 焼土ブロック、炭化物含む。



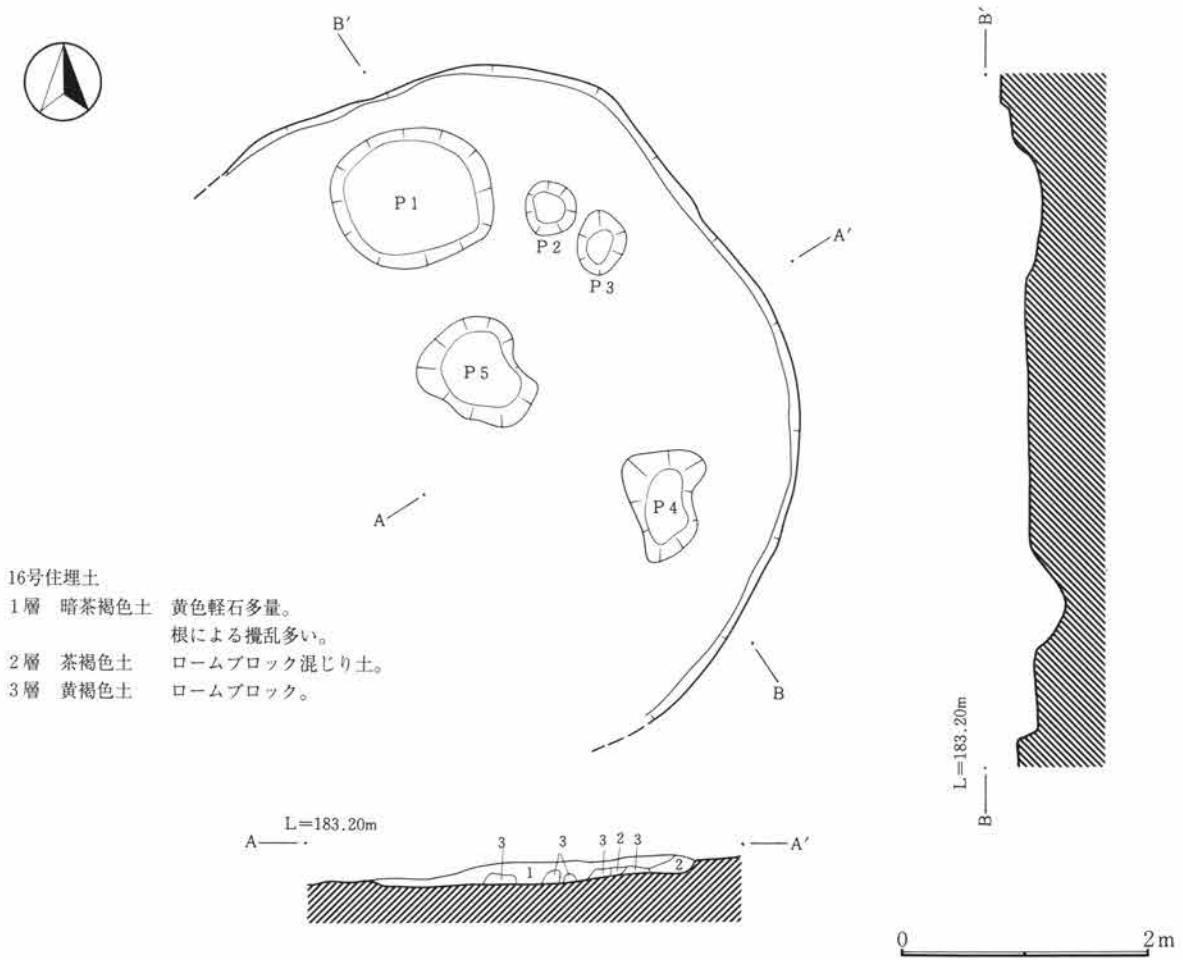
15号住-炉2
 1層 黒褐色土 ロームブロックもしくは焼土が少し混入。
 2層 黒褐色土 ロームブロックが多量に混入。



0 50cm

第23図 15号住居内施設

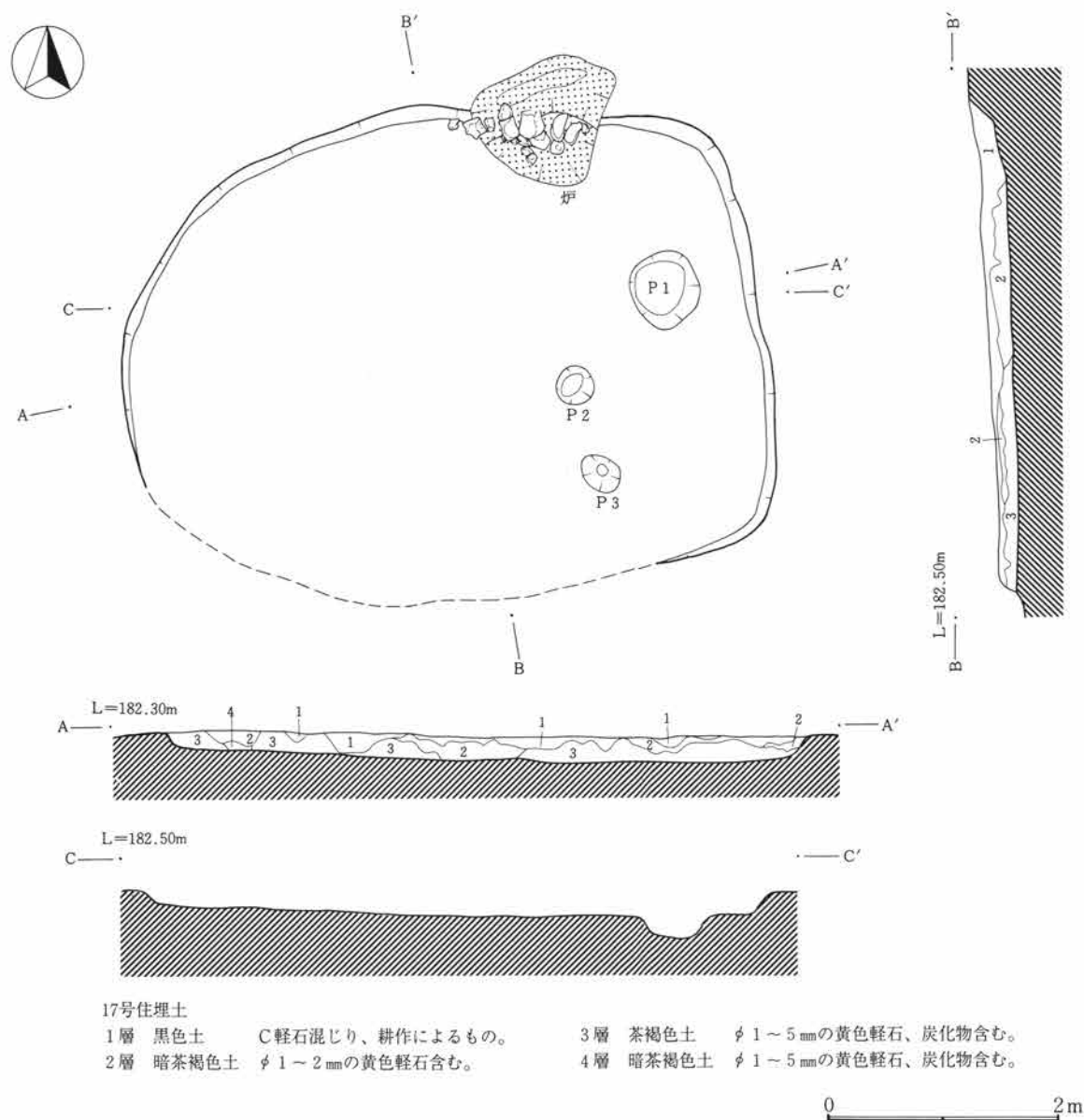
第2章 I地区 検出された遺構



面を掘り込み大型の偏平な石を方形に置いて、土器を埋設している。炉内には、炭化物、焼土が堆積している。炉2も同様に掘り込んだ部分にやや偏平の円礫と埋設土器を置いている。規模、形状は炉1が70×70cmの方形、炉2が95×75cmの長方形を呈する。 遺物 覆土中より加層利E式の小破片などが多く出土している。埋設土器では曽利系土器の出土がみられた。

I地区16号住居址 (第24図 PL18)

位置 15区C～D-9～10。I地区調査区の西側急傾斜になる手前に位置する。15号住居の南西、21号住居の北側にある。 **形状** 南西部分を近代の溝と耕作により削平されている。残存部から推定すると、やや南北に長い楕円形になると思われる。南北の長い所で5.5mを測る。 **壁** 掘り込みは浅く、ローム漸移層を壁面としている。壁高は10cm程でゆるやかに立ち上がる。 **覆土** 本住居は、表土から確認面までが浅く、多くは耕作による攪乱である。下層ではロームブロックが多く入ることから、人為的な埋没とも考えられる。 **床面** 床面はローム漸移層なので軟らかいが、一部ローム層の硬化した所もある。全体に凹凸がなく平坦である。P1、P5は本住居と重複している土坑であるが、新旧関係は不明である。 **柱穴**



第25図 17号住居址

P 2、P 3、P 4が柱穴になると考えられる。 炉 検出されなかった。削平されてしまった可能性もある。 遺物 覆土中から土器、礫等が出土している。

I 地区17号住居址 (第25図 P L 19)

位置 14～15区T～A-7～8。I 地区調査区のはほぼ中央にある。8号住居、18号住居、土坑等に重複した遺構の密集した所に位置する。 形状 南西部分を他遺構によって壊されているが、残存部から推定すると南北4.5m、東西5.5mを測る隅丸方形になると思われる。 壁 壁高は10～15cmを測り、ゆるやかに立ち上がる。壁面はローム漸移層が主ではっきりしない部分がある。 覆土 上層は、確認面が現地表か

第2章 I地区 検出された遺構

ら浅いため、耕作による攪乱を受けている。下層では、軽石粒、炭化物の混じる堆積層で人為的な埋没と考えられる。 **床面** 住居の北半分程はローム層を床面としており比較的硬化している。南半分はローム漸移層を床面としているため軟らかい。全体に凹凸が少なく平坦である。本住居の特殊な施設として北壁中央に礫と土器を置いたものがある。壁に沿って角礫を置き、その前に磨石、土器を配置したものである。祭壇状の施設とも考えられる。 **柱穴** 東壁側にP1～P3のピットが確認されたが、西壁側では、柱穴らしいピットは確認されていない。 **炉** 炉と思われる掘り込み、焼土等は確認されなかった。 **遺物** 覆土上層より、土器片、礫等が出土している。

I地区18号住居址 (第26図 PL20)

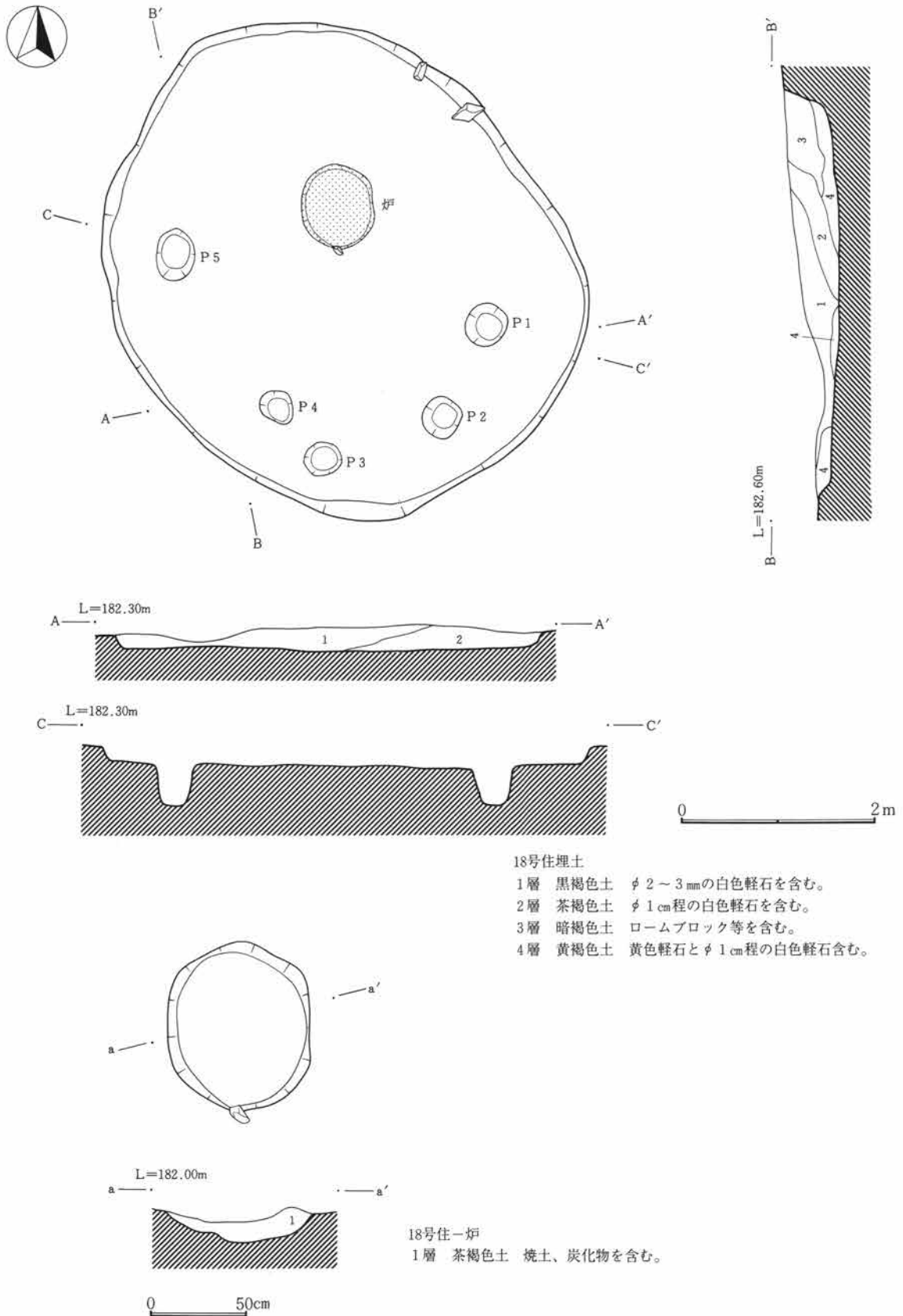
位置 15区A～B-7～8。I地区調査区のほぼ中央にある。17号住居、23号住居と重複している。遺構の密集している所に位置する。 **形状** 南北5.0m、東西4.95mを測る。北東壁が若干直線的になるが、ほぼ円形を呈する。 **壁** 壁高は北壁側の高い所で35cm、他は10cm前後である。ローム層まで掘り込んでおり、ローム層が壁面となっている。立ち上がりは比較的急角度である。 **覆土** 北壁側では、ロームブロックが多く入り、人為的に埋めており、上層では、窪地に自然堆積したと考えられる。 **床面** 床面全体はローム層を床面としており硬くしまっている。周辺部は、若干軟らかい。凹凸は少なく平坦である。 **柱穴** P1～P5まで確認されたが、南側にかたよっている。北側では柱穴らしいものは確認できなかったが、北側にも柱があったと予想される。 **炉** 中央やや北寄りに地床炉が確認された。85×70cm、深さ10cm程である。炉内は、焼土、炭化物の堆積がみられた。 **遺物** 出土量は多くない。覆土中から加層利E式の土器片、礫等が出土している。床面直上からは少量の土器片が出土したのみである。

I地区19号住居址 (第27図 PL21)

位置 15区C～E-7～9。I地区調査区の西側にある。本住居の西側から傾斜が急になる。21号住居と重複し、11号住居の北側にある。 **形状** 長軸7.2m、短軸6.0mを測る。南側がやや広がる長方形を呈する。北東コーナー付近で21号住居と重複するが、本住居が古い。掘り込みが21号住居より深いため、プランは確認できた。 **壁** 壁高は、周溝下から測ると40～60cmになる。ローム層まで掘り込んでおり、壁面としているため、覆土との区別は容易であった。立ち上がりは垂直に近い角度である。 **覆土** 上層で一部攪乱を受けているが、全体に軽石粒、軽石ブロックが均質に入り込むことから自然埋没と考えられる。 **床面** ローム層を床面としている。炉及び住居中央部は硬くしまっているが、周辺部では軟らかである。凹凸は少なく平坦である。周溝が全周している。幅15～20cm、深さ15cmを測り、ほぼ均一に掘られている。 **柱穴** P1～P4の4本が確認された。4本とも各コーナーの対角線上にある。 **炉** 住居の南寄りにある地床炉。径50cm程で掘り込みはなく、わずかに焼土、炭化物等が堆積している。

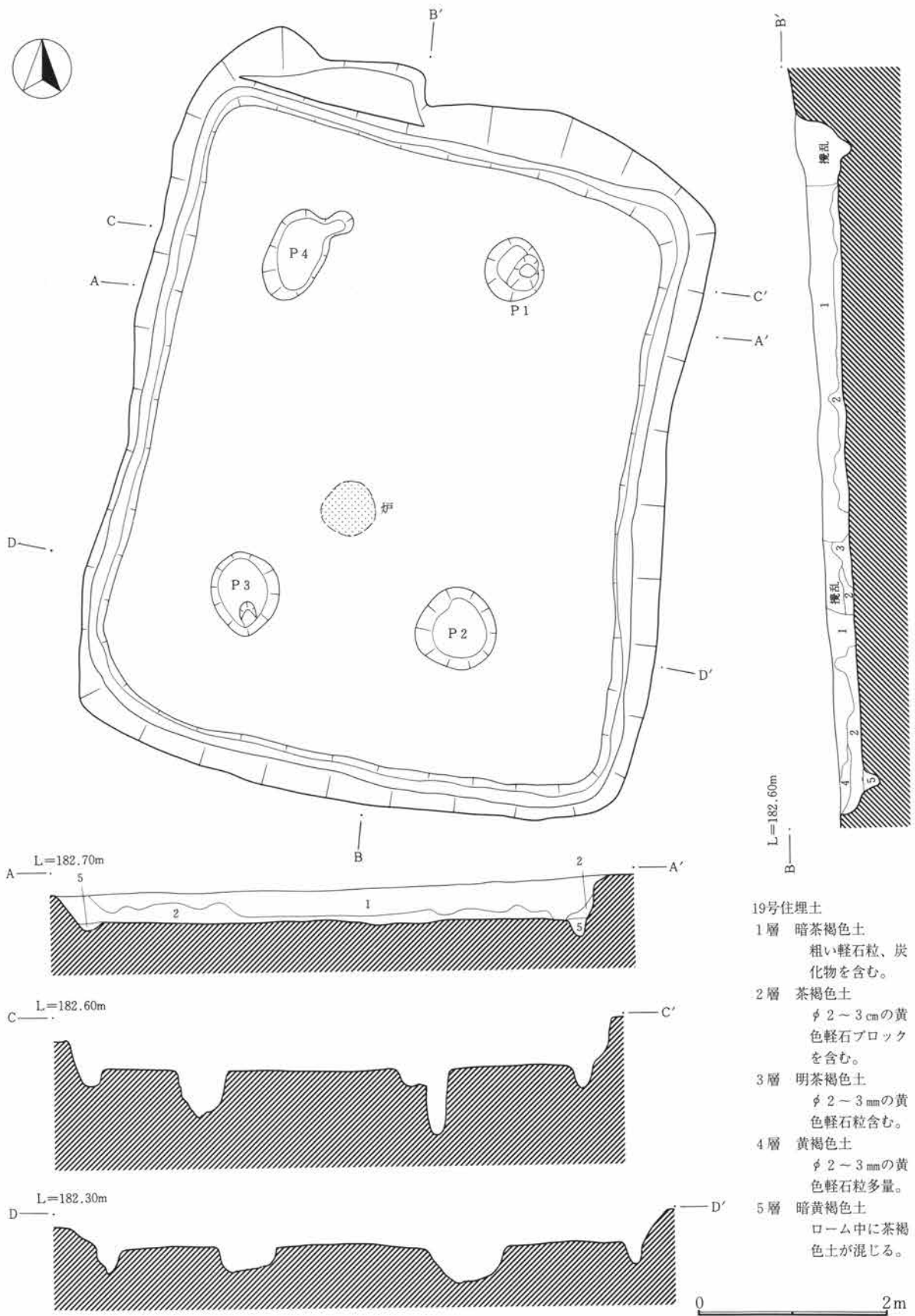
I地区20号住居址 (第30図 PL23)

位置 14～15区T～A-7～8。I地区調査区のほぼ中央にある。17号住居、18号住居、23号住居、24号住居と重複している。本住居が一番古い。 **形状** 重複している住居によって大半が壊されているが、北

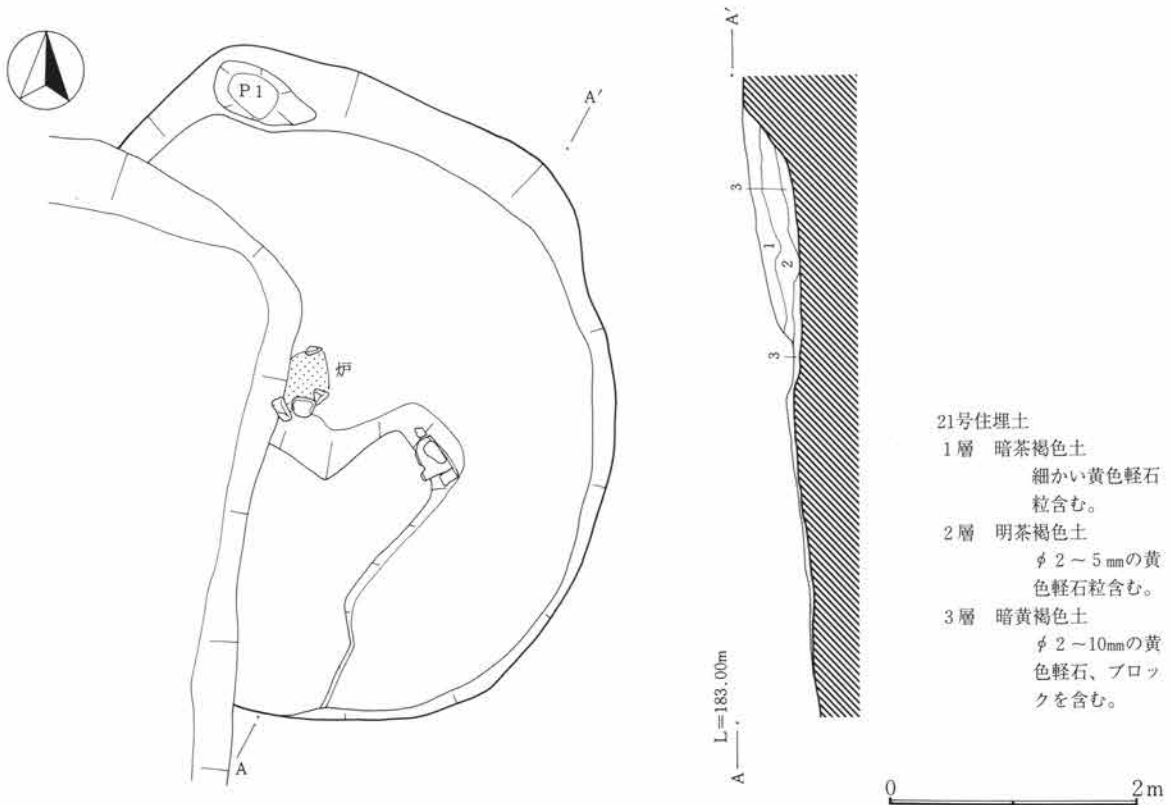


第26図 18号住居址・炉址

第2章 I地区 検出された遺構



第27図 19号住居址



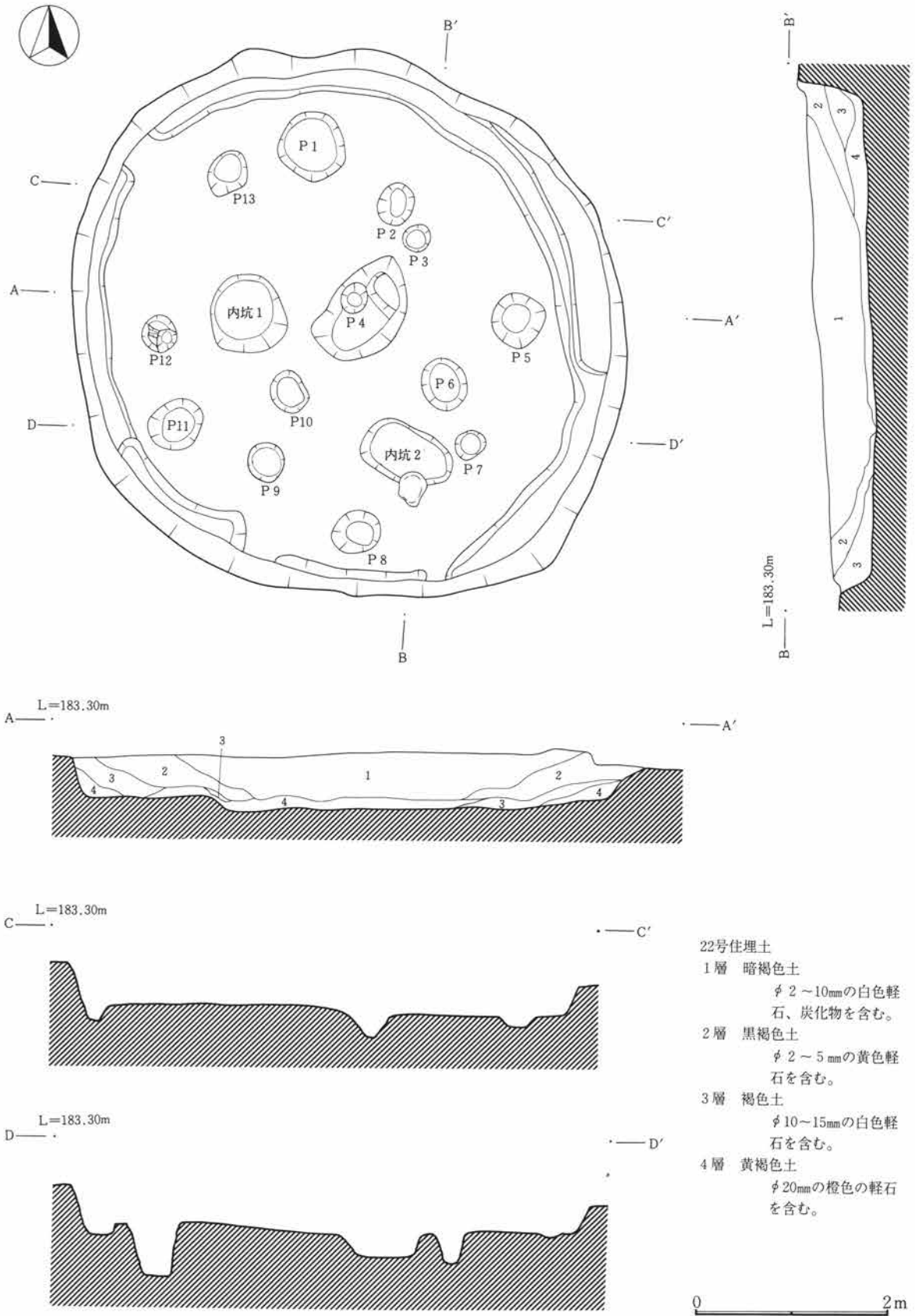
第28図 21号住居址

側部分で掘り込みが深いので、わずかにプランが確認できた。残存部から不整楕円形になると思われる。壁 壁はわずかに残っており、現状で10cm程である。ローム層を壁面としており、立ち上がりは垂直に近い角度で立ち上がる。覆土 確認面が地表面から浅く、他の住居によって壊されていたため、埋没状況はよくわからない。床面 ローム層を床面としており、比較的硬い面が残っていた。凹凸は少なく平坦であった。柱穴 はっきりした柱穴は確認できなかった。炉 床面に焼土、炭化物などが薄く堆積した部分があり地床炉と考えられる。

I 地区21号住居址 (第28図 P L 21)

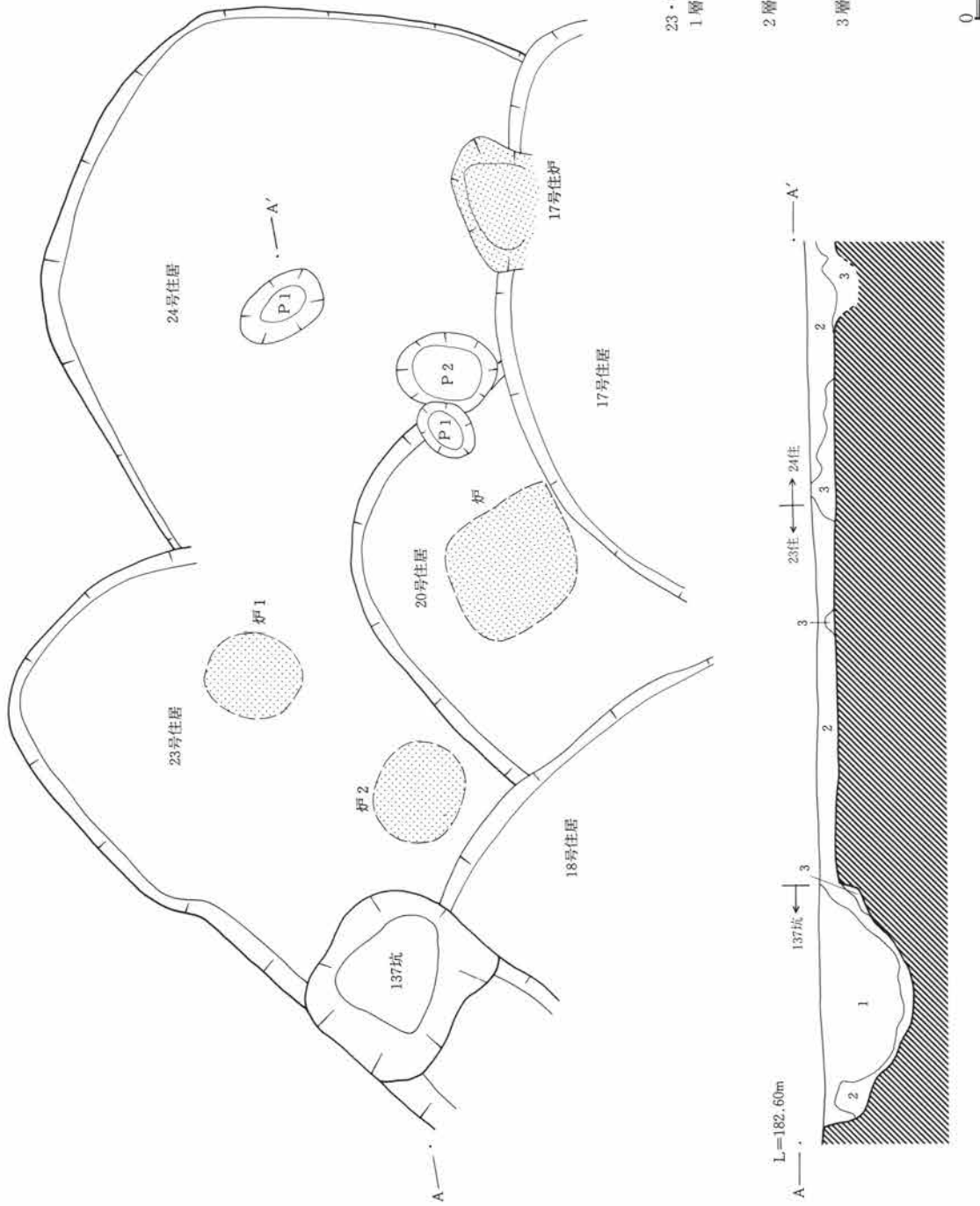
位置 15区C-8~9。I 地区調査区中央西寄りにある。住居南西を19号住居と重複している。形状 南北5.2m、東西4.2mを測る。南北にやや長い円形を呈する。南西部は、耕作による削平と、19号住居の覆土上に作られていたため、確認できず19号住居を優先して調査したため範囲を特定できなかった。壁 壁高は北側で25cmを測り、ゆるやかに立ち上がる。ローム層まで掘り込んでおり壁面としている。南東側では、壁高が低くなっている。覆土 上層では軽石粒混じりの土が堆積し、下層ではロームブロック混じりになる。地形の傾斜による自然流入の状態を示すと考えられる。床面 ローム層を床面としている。全体に硬く、凹凸も少ない。南側で若干段差を持つ。柱穴 北壁中に1基柱穴が確認されたのみで、他に確認されていない。炉 住居のほぼ中央に壊された石囲い炉が検出された。この部分は、現地表面か

第2章 I地区 検出された遺構



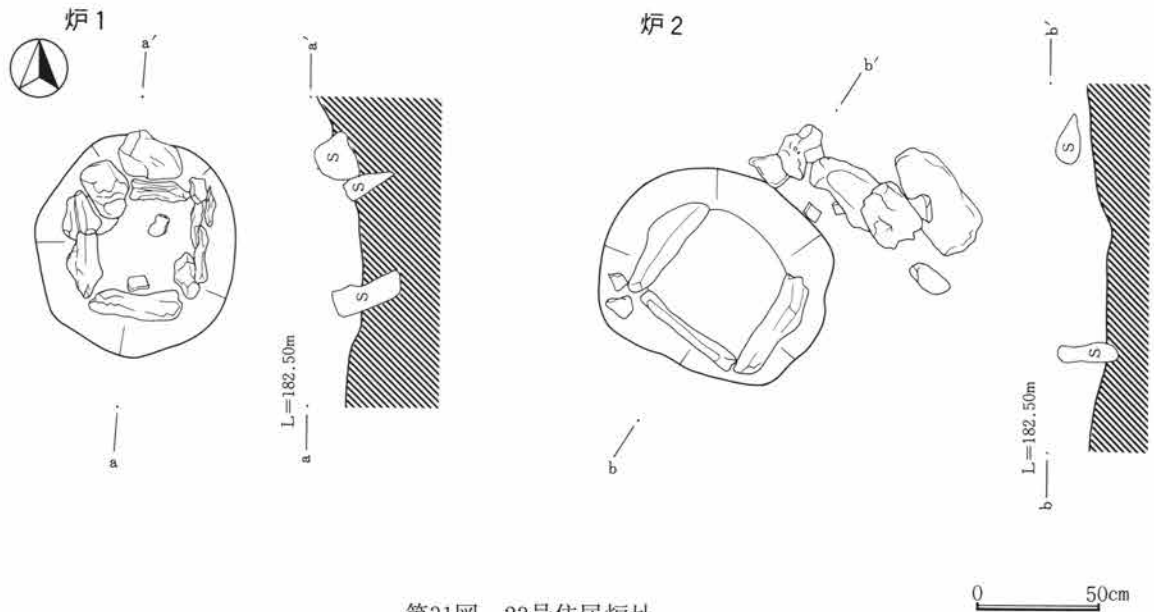
第29図 22号住居址

第2節 検出された住居址



- 23・24号住居土
- 1層 黒褐色土
φ 1～3mmの白色軽石粒を多量に混入。
 - 2層 暗黄褐色土
φ 1～2mmの黄色軽石粒を含む。
 - 3層 黄褐色土
ローム漸移層に黒色土が混入。軽石粒少量。

第30図 20・23・24号住居址



第31図 23号住居炉址

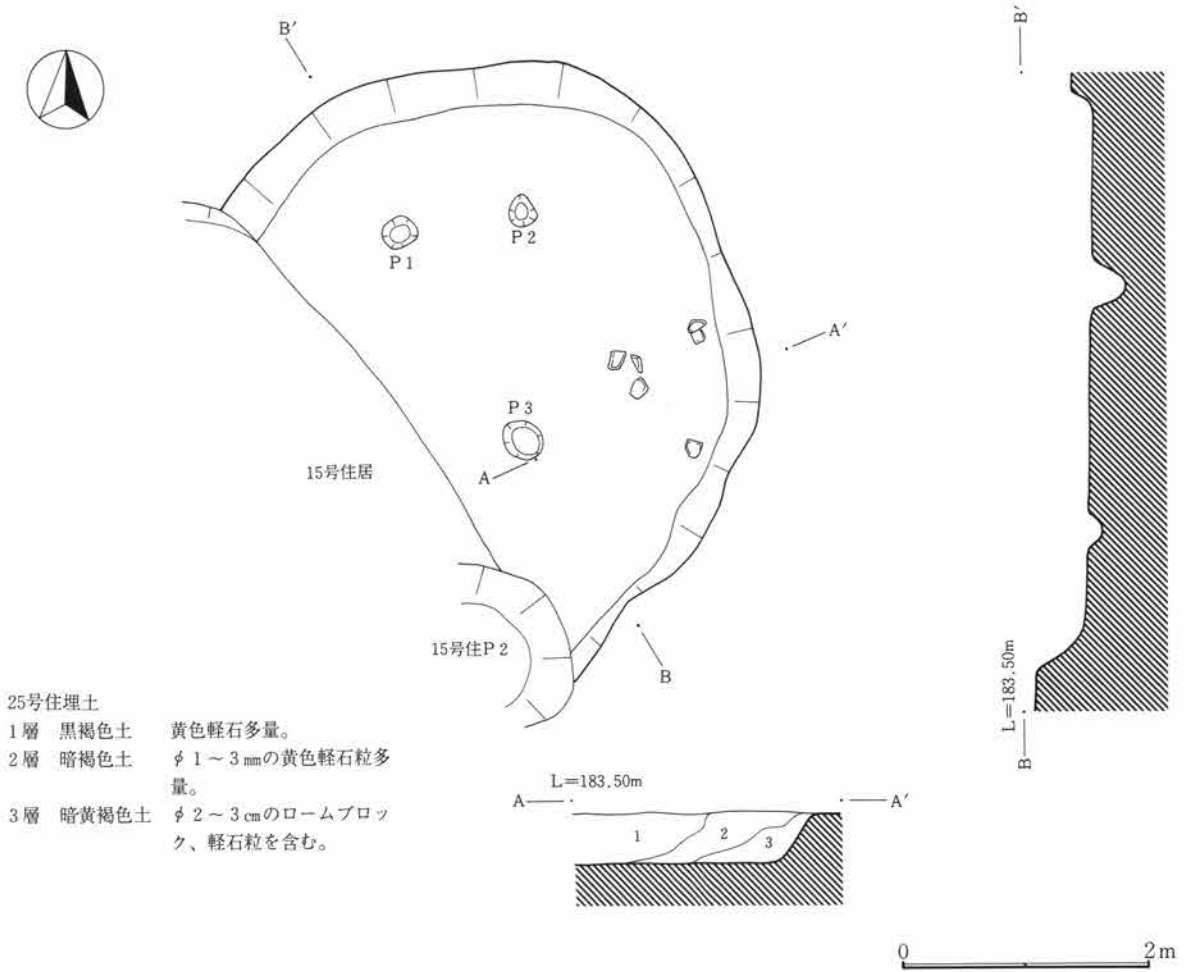
ら浅いため、耕作による攪乱を受けていた。炉内、周辺部は、焼土、炭化物の堆積がみられた。遺物確認面が現表土から浅いため、覆土が薄く出土遺物は少ない。床直上からは加層利E 3式土器の小形深鉢が出土している。

I地区22号住居址 (第29図 P L 22)

位置 15区A～C-9～10。I地区調査区のほぼ中央にある。14号住居、15号住居、21号住居、23号住居の間にあり、他住居との重複はない。**形状** 南北5.5m、東西5.7mを測る。円形を呈する。**壁** 壁高は45～65cmで、垂直に近い角度で立ち上がる。掘り込みが深くローム面を壁面としている。**覆土** 軽石粒を含む土が地形の傾斜にそって流入した状態を下層では示す。上層は土器の投棄とともに埋没したと考えられる。**床面** 掘り込みが深くローム層を床面としているため、硬くしまっている。凹凸は少なく平坦である。住居内には中央部付近に土坑状のものがみられるが、本住居の施設と考えられる。周溝が住居内をほぼ全周している。東壁側で、壁面と周溝に間があることから、拡張した可能性もある。**柱穴** P 1、P 5、P 8、P 11はほぼ住居の四隅に位置することから主柱穴と考えられる。他のP 2、P 7、P 9、P 12、P 13は補助的な柱穴になると考えられる。**炉** 本住居からは、確認されていない。床面上に、炭化物、焼土等の痕跡もみられなかった。**遺物** 覆土上層から土器片、礫等が多く出土している。窪地に土器片を投棄した様子を示すと考えられる。

I地区23号住居址 (第30・31図 P L 23)

位置 15区A-8。I地区調査区のほぼ中央に位置する。本住居は、17号住居、18号住居、20号住居、24号住居と重複している。土層堆積状況から、17号住居、18号住居より古く、20号住居、24号住居より新しいと思われる。**形状** 大半を住居の重複により壊されているため、判断が難しい。**壁** 壁高は15cm程で、掘り込みは浅くローム漸移層を壁面としている。立ち上がりは比較的急角度で立ち上がる。**覆土** ローム漸移層に軽石粒が混じった土が堆積しており、自然埋没とも考えられる。**床面** ローム漸移層を



床面としているため、比較的軟らかい。炉周辺など部分的にロームによる硬化面もみられた。全体に凹凸がなく平坦である。 柱穴 確認されなかった。 炉 本住居からは2ヶ所の石囲い炉が確認されている。いずれも地面を浅く窪めた所に扁平の細長い石を埋め込んでいる。規模は炉1が上場で85×95cm、炉2が85×90cmを測る。炉内には、焼土、炭化物の堆積がみられた。 遺物 覆土中からは土器や、礫などが出土している。

I 地区25号住居址 (第32図 P L 24)

位置 15区B-10～11。I地区調査区の中央北側にある。15号住居と重複している。本住居が15号住居より古い。 形状 南西部を15号住居によって壊されている。現状で径4.6mを測る。不整円形を呈する。 壁 壁高15～25cmを測る。立ち上がり急な部分と、ゆるやかな部分がある。掘り込みはローム層までたっており、壁面としている。 覆土 ローム漸移層に軽石粒が混じった土によって埋没している。土の入り方が自然流入のように見える。 床面 ローム層を床面としているため全体に硬くしまっている。凹凸は少なく平坦である。 柱穴 P1～P3が柱穴と考えられる。掘り込みは若干浅いものがあるが、位置的には柱穴と考えられる。 炉 炉と考えられる位置に土坑の重複があり、これによって壊された可能性

第2章 I地区 検出された遺構

がある。遺物 覆土中から土器片や礫などが出土しているが量は多くない。床面近くでは、東壁際に大きめの凹石などが出土している。

I地区24号住居址 (第30図)

位置 14区T-8。I地区調査区のほぼ中央にある。17号住居、20号住居、23号住居と重複している。本住居は、土層の堆積状況から20号住居より新しく17号住居、23号住居より古いと考えられる。形状 本住居も重複により大半が壊されているが、不整形円形を呈すると思われる。壁 壁高は10～15cmを測り、比較的急な角度で立ち上がる。壁面は、掘り込みが浅いためローム漸移層を壁面としている。覆土 本住居も23号住居と同様に、ローム漸移層に軽石粒が混じった土が主として堆積している。自然堆積による住居の埋没と考えられる。床面 ローム漸移層を床面としており、全体に軟らかい。凹凸は少なく平坦であるが、一部にロームによる硬化面もみられる。柱穴 柱穴らしいピットは2基確認された。住居の柱の位置としては若干場所が異なるようにも考えられる。炉 検出されなかった。遺物 本住居からは、覆土中に土器片、礫等が出土しているが、量的には少ない。

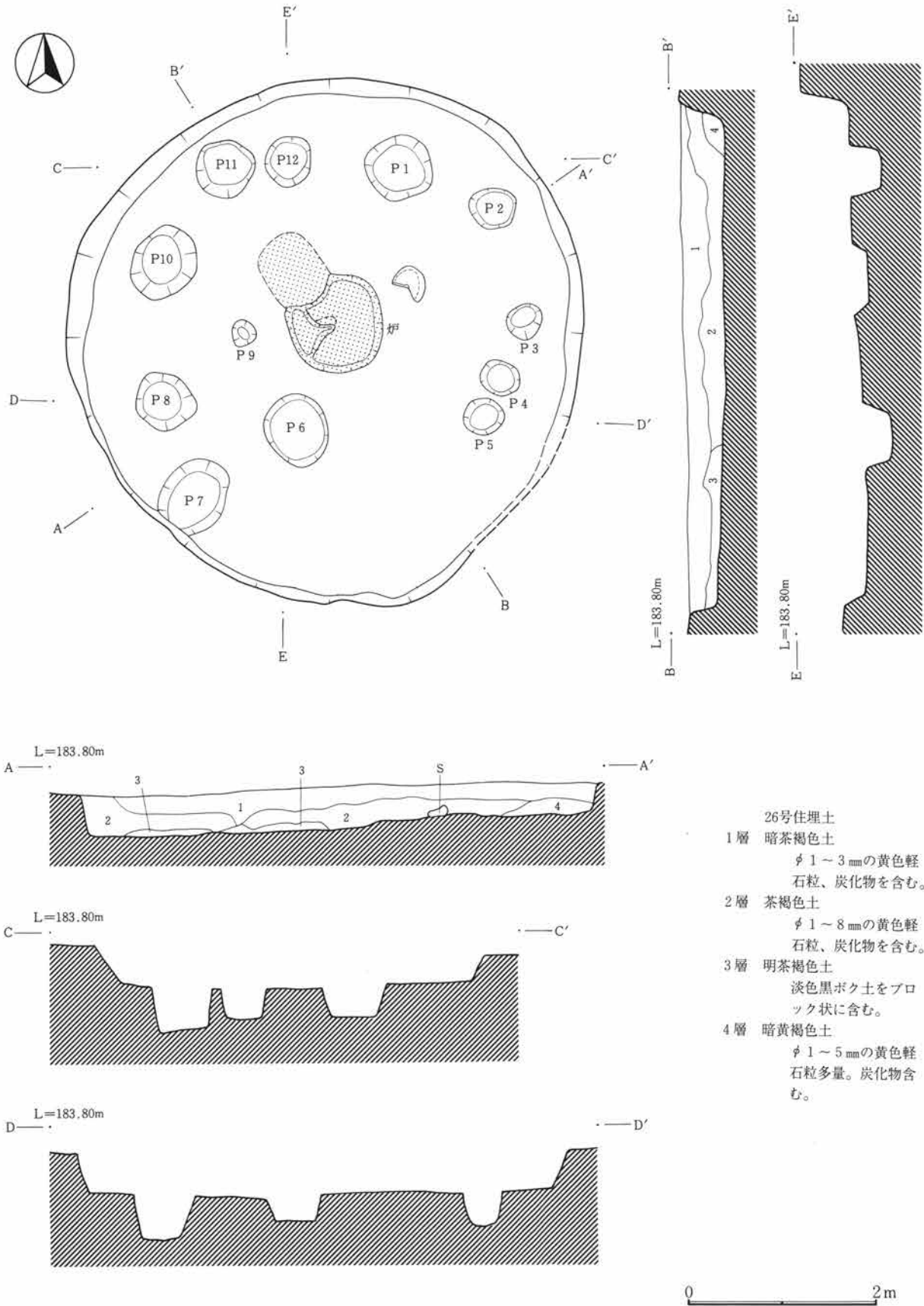
I地区26号住居址 (第33・34図 P L 24・25)

位置 15区C～D-11～12。I地区調査区の北西寄りに位置する。15号住居が南側にある。形状 東西5.4m、南北5.5mを測る。ほぼ正円に近いきれいな形をする。壁 壁高は、20～35cmを測り、比較的垂直に近い立ち上がりを示す。掘り込みはローム層にまでたっしている。壁面はローム層のため、覆土との区別は容易であった。覆土 下層ではクロボク土をブロック状に含み、上層では、ローム軽石を含む層が入っていることから、人為的に埋没したものと考えられる。床面 ローム層は床面としているため、住居壁際を除いて全体に硬くしまっている。特に炉周辺は硬くなっている。柱穴 ピットは多数確認された。壁際にはほぼ同心円状に並ぶようにある。柱穴の配列が南壁側にないことから、南側に出入り口の存在が予想される。柱穴の掘り込みは20～40cm内に収まる。炉 住居やや北寄りに作られた石囲い炉である。規模は長軸70cm、短軸50cmを測る。床面を10数センチ掘り窪め、偏平な石を長方形に埋めている。炉内には焼土、炭化物等が堆積している。炉の南東側の窪みには、灰や炭化物、焼土が薄く堆積していた。遺物 本住居覆土中からは多量の土器片、礫、石器等が出土している。また、西壁寄りの床直上からは、釣手型土器も出土している。

I地区27号住居址 (第35図 P L 26)

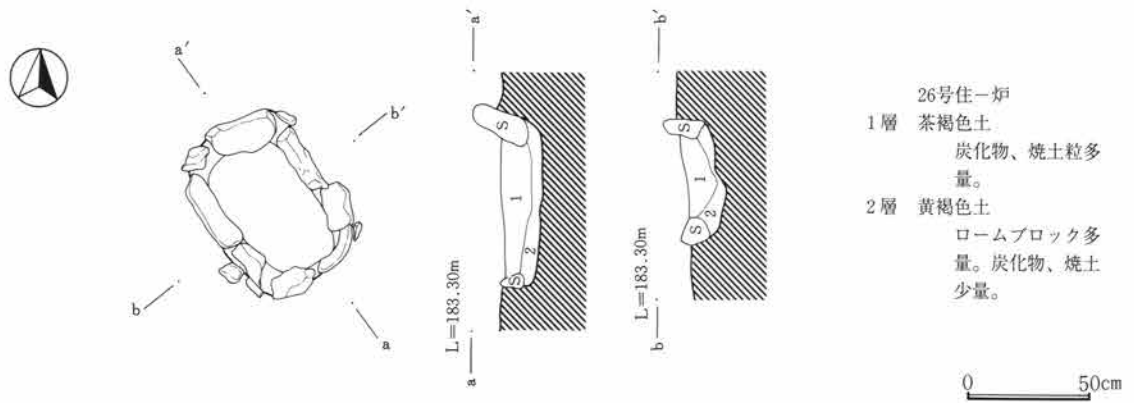
位置 15区F～G-10～11。I地区調査区の北西側にある。形状 本住居は、谷地部に堆積した黒色土中にあり、上部を耕作により削平されているため、炉周辺部しか検出されなかった。そのため形状は不明である。壁 上部削平のため不明。覆土 現耕作土による攪乱のため不明。床面 黒色土を床面としている。全体に硬化面はみられず軟弱である。柱穴 確認できなかった。炉 石囲い炉である。地山を10数センチ掘り窪め、細長い石を埋めている。炉周辺には、偏平な石が敷いてあるが、敷石住居ほどの広がりを持たない。遺物 炉周辺の上部から土器片、礫、石器等が出土している。

第2節 検出された住居址



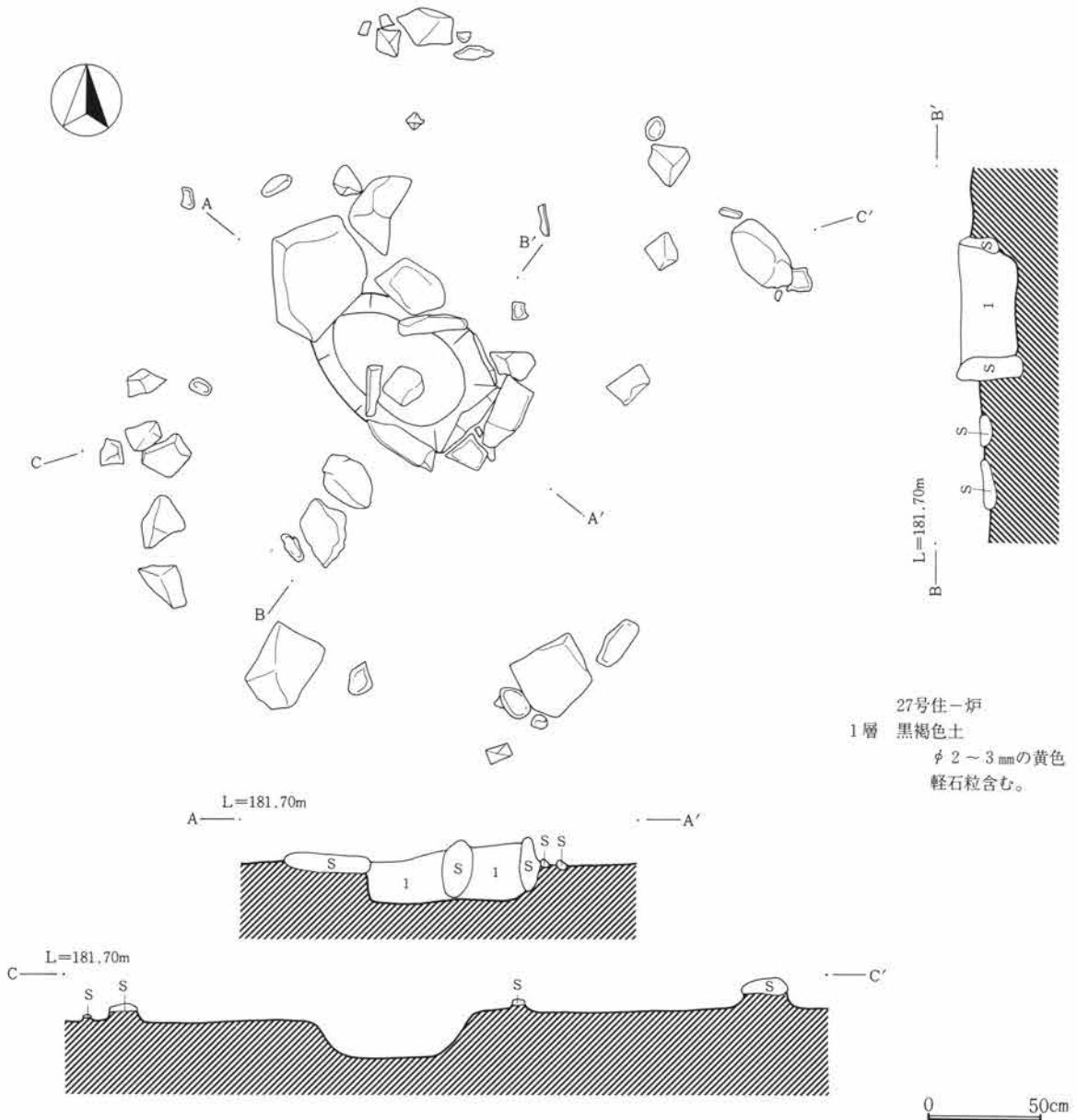
第33図 26号住居址

第2章 I地区 検出された遺構



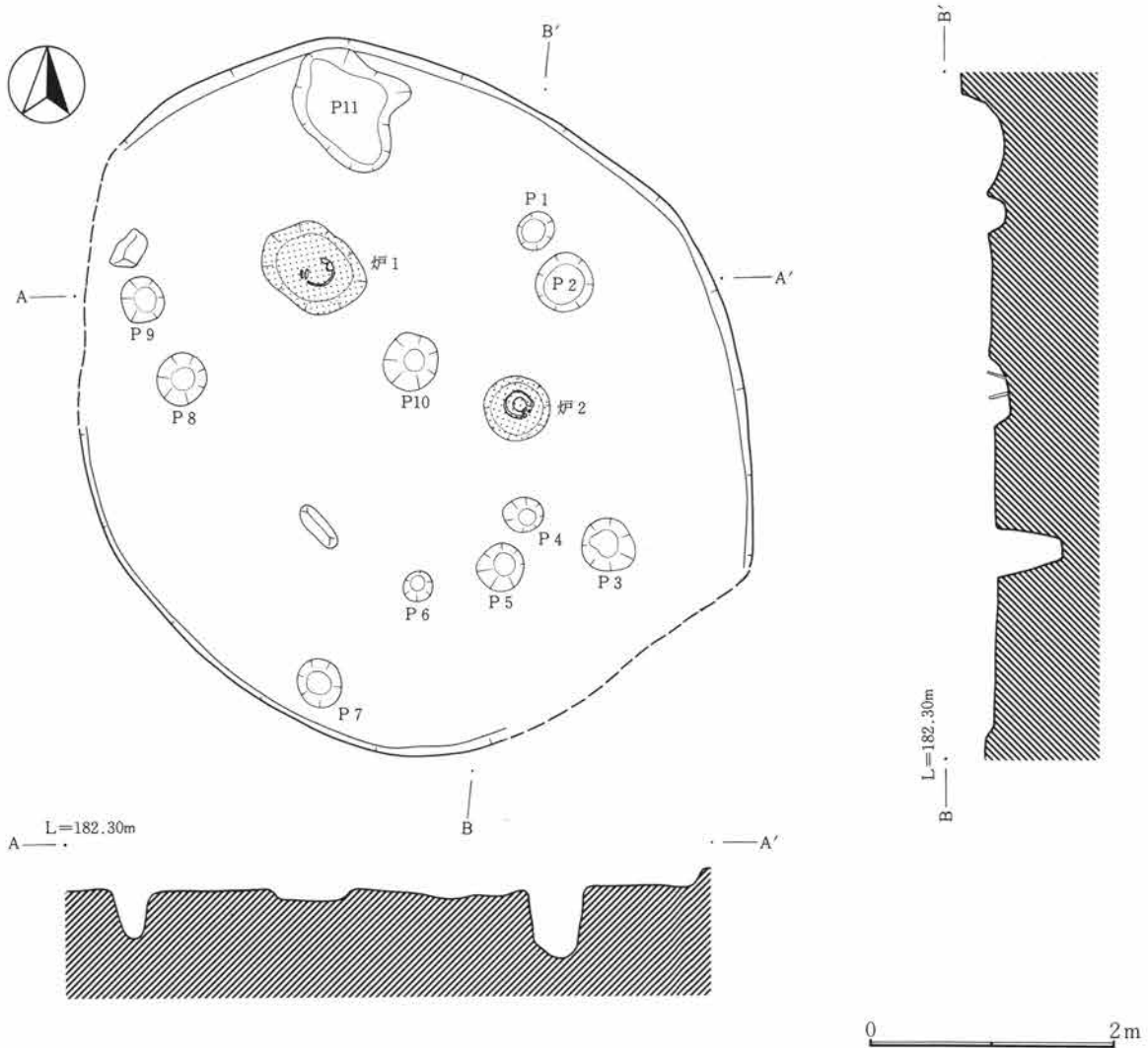
- 26号住居-炉
- 1層 茶褐色土
炭化物、焼土粒多量。
 - 2層 黄褐色土
ロームブロック多量。炭化物、焼土少量。

第34図 26号住居炉址



- 27号住居-炉
- 1層 黒褐色土
φ2~3mmの黄色軽石粒含む。

第35図 27号住居址・炉址



第36図 72号住居址

I 地区72号住居址 (第36図 P L 27)

位置 14区R～S-7～9。I地区調査区の中央にある。西に24号住居、東に78号住居がある。形状南北5.7m、東西5.5mを測る。西側と、東南側で壁の一部が壊されているが、ほぼ円形を呈する。壁壁高は、10～15cmと比較的浅い。掘り込みはローム漸移層までで、壁の立ち上がりは、はっきりしない部分が多い。

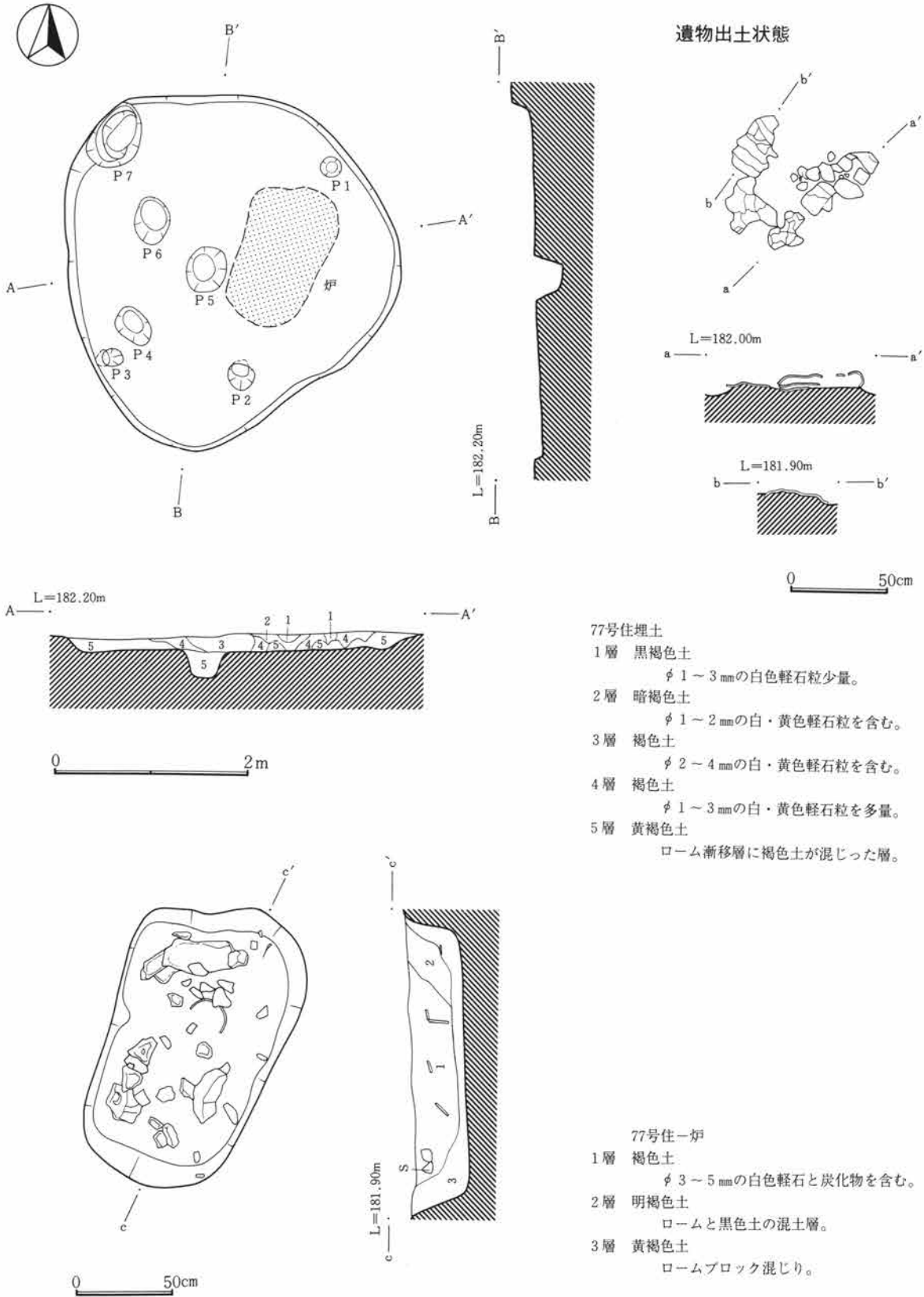
覆土 現地表から確認面までが浅いことから上部は削平されていると思われる。現確認面での覆土は、ローム漸移層に炭化物等が含まれる土で埋没していた。人為的な埋没と考えられる。

床面 ローム漸移層を床面としているため、全体に軟らかい。炉1、2周辺では床の硬化面が部分的にみられた。

柱穴 住居内にはピット状のものが11基確認された。このうち柱穴と考えられるものは、P1～P3、P7～P9と考えられる。

炉 本住居からは、はっきりした炉は検出されなかったが、埋設土器が2ヶ所検出された。いずれも浅く掘り窪めた所に土器を埋設しており、若干の炭化物がみられた所から、埋設炉と考えられる。

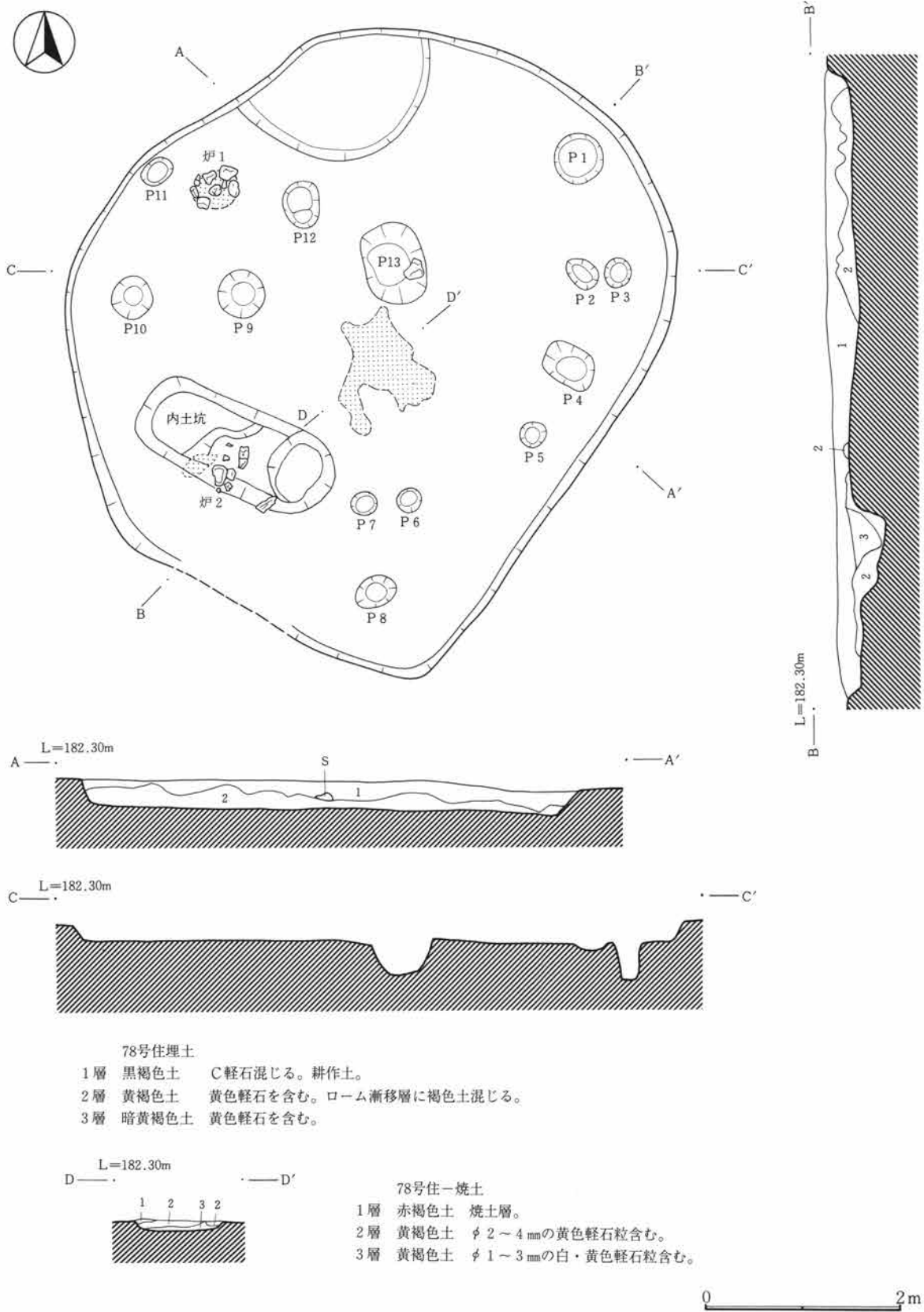
遺物 覆土中から土器の小破片が出土している。床上からは、偏平な台石状のものや、石棒状の縦長の石が出土している。



- 77号住居土
- 1層 黒褐色土
φ 1～3mmの白色軽石粒少量。
 - 2層 暗褐色土
φ 1～2mmの白・黄色軽石粒を含む。
 - 3層 褐色土
φ 2～4mmの白・黄色軽石粒を含む。
 - 4層 褐色土
φ 1～3mmの白・黄色軽石粒を多量。
 - 5層 黄褐色土
ローム漸移層に褐色土が混じった層。

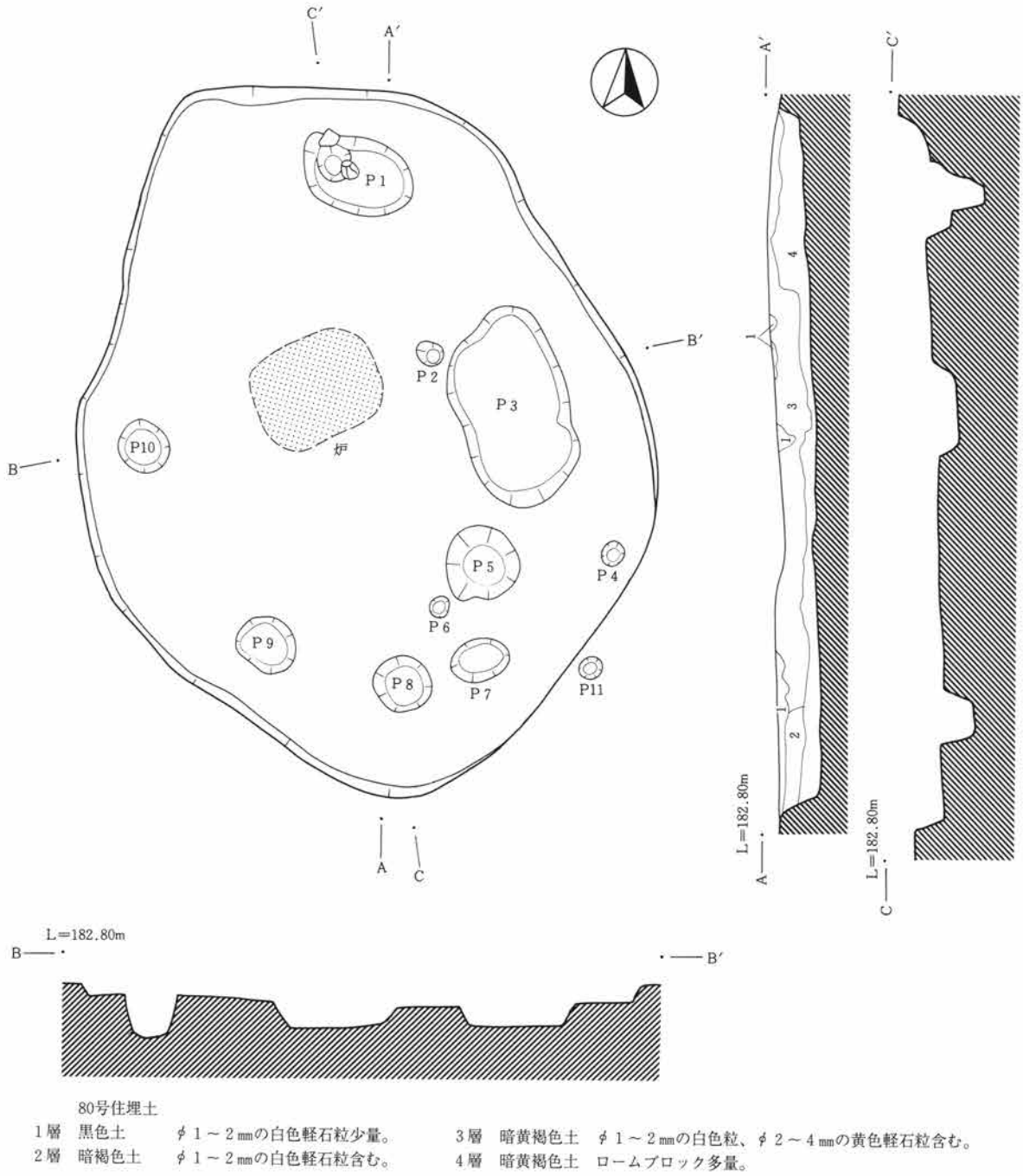
- 77号住一炉
- 1層 褐色土
φ 3～5mmの白色軽石と炭化物を含む。
 - 2層 明褐色土
ロームと黒色土の混土層。
 - 3層 黄褐色土
ロームブロック混じり。

第37図 77号住居址・炉址・遺物出土状態



第38図 78号住居址・炉址

第2章 I地区 検出された遺構



第39図 80号住居址

I地区77号住居址 (第37図 P L27・28)

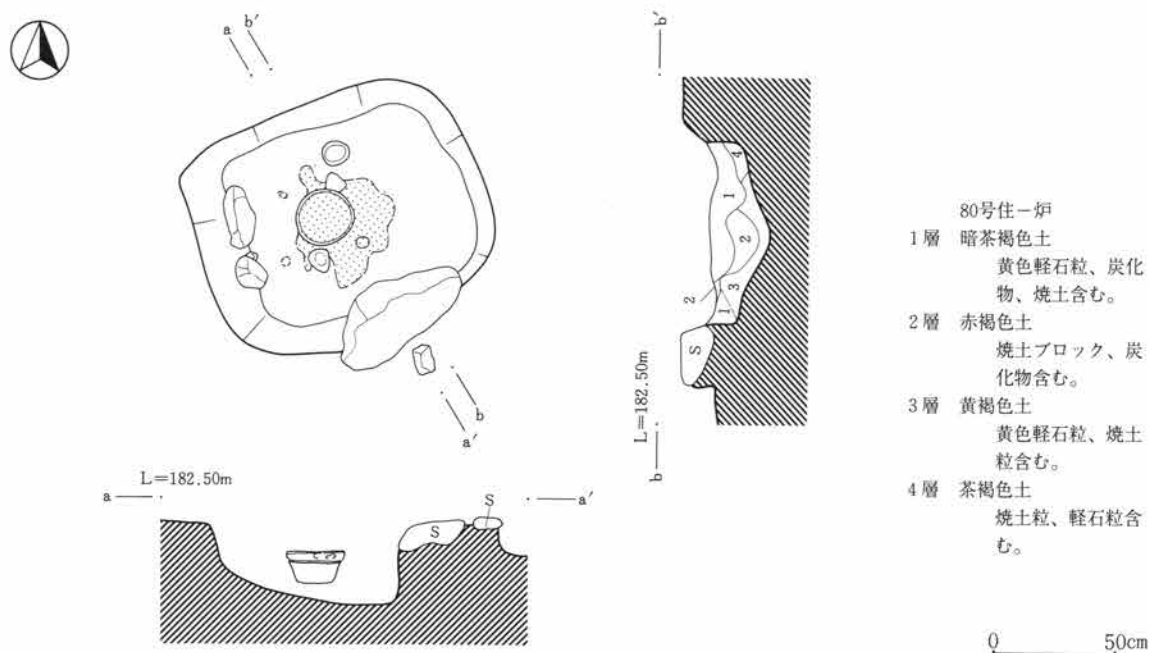
位置 14区S-7。I地区調査区中央やや南よりにある。24号住居、72号住居が北側にある。**形状** 南北3.6m、東西3.4mを測る。南東側にゆがみを持つ不整形を呈する。**壁** 壁高は10～15cmを測り、なだらかに立ち上がる。掘り込みが浅くローム漸移層を壁面としている。**覆土** 軽石粒、ローム漸移層が乱雑に入り込むことから、人為的な埋没と考えられる。**床面** ローム漸移層を床面としているため、全体に軟らかい。凹凸は少なく平坦である。**柱穴** ピットは7基確認された。位置等からP1、P2、P4、P7等が主柱穴になると考えられる。**炉** 住居の東よりに石囲い炉が確認された。炉は、掘り込みの上場で長軸1.5m、短軸0.8mを測り、住居に比べ大きい。掘り込み内に礫を埋めて炉としているが、現状では、礫の抜き取りがあり攪乱されていた。炉内には土器も埋設されていた。**遺物** 覆土中からは土器の小破片が多く出土している。床近くでは、土器の大型破片等もみられた。

I地区78号住居址 (第38図 P L29)

位置 14区Q～R-7～9。I地区調査区の東側に位置する。94号住居の南、72号住居の東側にある。**形状** 南北6.7m、東西6.2mを測る。南東側壁が直線的になる。不整形と考えられる。**壁** 壁高は15～20cmと浅い。立ち上がりは垂直に近い。掘り込みが浅いため、壁面はローム漸移層となっている。**覆土** 確認面が表土から浅いため、上層は耕作土によって攪乱されている。下層では、軽石粒が乱雑に入り込むことから人為的な埋没と考えられる。**床面** ローム漸移層を床面としているため、全体に軟らかである。炉周辺では若干の床面の硬化面がみられた。凹凸は少なく平坦である。**柱穴** 柱穴状の落ち込みは多くあるが、住居内の位置から、P1～P5、P8、P10、P12などが考えられる。柱穴が多いので建て替えの可能性もある。**炉** 住居中央に焼土層の堆積層があり、西南と北西寄りにも、石囲い炉が2基確認できた。炉は床面を掘り窪め石を置いている。規模は炉1が45×40cm、炉2が50×40cm程である。炉内には、焼土、炭化物などが堆積している。**遺物** 掘り込みが浅いため、覆土中の遺物は小破片が多く、総量は少ない。床面上の遺物も少なかった。

I地区80号住居址 (第39・40図 P L30)

位置 14区S～T-9～10。I地区調査区のはほぼ中央に位置する。西側に14号住居、南に24号住居があり、土坑等も多くある。**形状** 南北6.5m、東西5.4mを測る。やや南北に長い楕円形である。西側と、南東側の壁が一部壊されている。**壁** 壁高は10～35cmを測り、垂直に近い角度で立ち上がる。掘り込みはローム層にたっており、壁面としている。**覆土** 軽石粒、ロームブロック等が乱れて入っていることから人為的な埋没と考えられる。**床面** ローム層を床面としている。壁寄りには軟らかいが、住居中央部、炉周辺部は硬化している。凹凸は少なく平坦である。P3は確認面が本住居の床面であることから、住居に伴うかこれ以前のものと考えられる。**柱穴** ピットがほぼ同心円状に壁にそって作られている。P1、P7～P10等が柱穴になると考えられる。**炉** 炉は石囲い炉の中に埋設土器を置いたものである。長軸1.2m、短軸1.0mの長方形の土坑を作り、炉石と甕を埋めている。炉石の抜き取りがあり、残存状況は良くない。炉内には、焼土、炭化物の堆積がみられた。**遺物** 覆土中の土器は小破片が多く、床直上からは、やや大型の土器破片が出土している。



第40図 80号住居炉址

I地区94号住居址 (第41図 P L 29)

位置 14区R-9~10。I地区調査区の東側にある。78号住居の北側、12号住居の南側に位置する。

形状 本住居は、現地表から遺構確認面までが浅く、住居の南西側半分を耕作等により削平されている。現況で、径5.7mを測る不整円形と考えられる。

壁 掘り込みは浅く、壁の高い所で20cm程である。立ち上がりは垂直に近い角度で立ち上がる。ローム漸移層を壁面としている。

覆土 上層は、現耕作による攪乱が多い。下層では、軽石粒、ロームブロックが混じって入り、土層の乱れがみられることから、人為的な埋没と考えられる。

床面 ローム漸移層を床面としている。全体に軟弱である。凹凸は少なく平坦である。土坑が重複しているが、土層から本住居より新しい。

柱穴 2基確認されたのみで、他には確認できなかった。

炉 住居やや東寄りの所に埋設土器があり、若干の焼土、炭化物が堆積していた。土坑により半分ほど壊されているが、埋設土器と考えられる。

遺物 覆土中からは土器の小破片が出土しているが量は多くない。

I地区136号住居址 (第42図 P L 29)

位置 15区C-11。I地区調査区の北側にある。本住居は、15号住居、26号住居と重複している。本住居が一番古いと考えられる。

形状 大半を15号住居、26号住居によって壊されているが、残存部から推定すると、ほぼ円形になる。

壁 残存部の壁高は30cmを測り、垂直に近い角度で立ち上がる。ローム層を壁面としている。

覆土 軽石粒、ロームブロックが入り込み、人為的な埋没と考えられる。

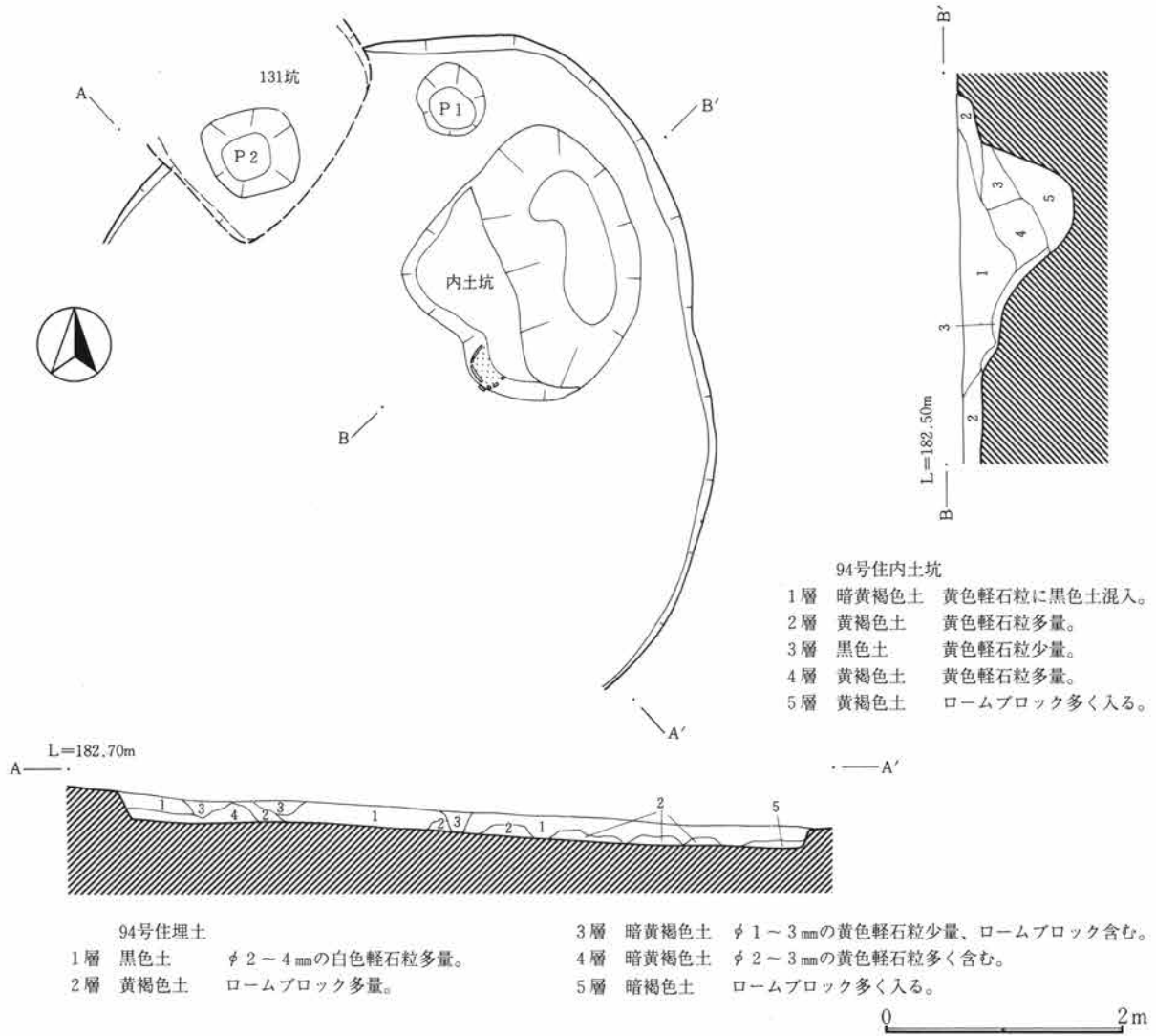
床面 ロームを床面としており、全体に硬くしまっている。凹凸はなく平坦である。

柱穴 確認されなかった。

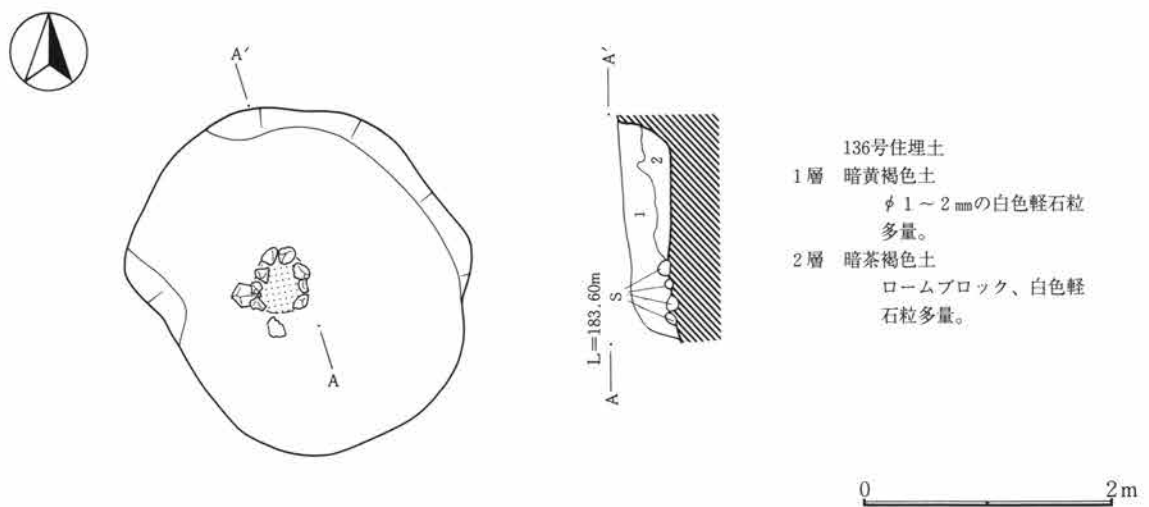
炉 こぶし大の円礫や角礫による石囲い炉。規模は、50×40cmを測る。炉内には、焼土、炭化物の堆積がみられた。

遺物 覆土中から土器の小破片が出土しているが、量は多くない。

第2節 検出された住居址



第41図 94号住居址



第42図 136号住居址

第2章 I地区 検出された遺構

I地区住居址ピット一覧表

単位：cm

住居址No.	Pit No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1	規模 深さ	18×18 11	10×12 5	16×10 7	23×21 12	15×21 12	13×8 7	35×27 32	20×19 21					
2	規模 深さ	25×28 161	58×48 39	55×62 4	35×47 59									
4	規模 深さ	20×15 15	44×42 66	55×42 60	35×22 20	25×22 23	23×25 20	34×38 49	32×35 58	50×26 15	43×35 9	33×33 25	46×33 53	37×25 32
	Pit No.	14	15	16	17									
	規模 深さ	48×47 14	58×54 20	39×34 33	47×44 56									
5	規模 深さ	85×100 3												
6	規模 深さ	47×48 41	47×60 48	55×45 33										
7	規模 深さ	22×22 49	26×18 6											
8	規模 深さ	46×40 62	26×34 25	35×40 31	71×82 33	23×24 30	28×33 33	25×30 19	36×32 9	30×34 37				
9	規模 深さ	21×25 58	45×39 31											
10	規模 深さ	44×62 15	48×45 17	52×50 16										
15	規模 深さ	102×82 17	153×135 38	146×76 18	103×101 40	96×82 25	33×30 60	245×92 49	60×51 39	49×35 63				
16	規模 深さ	111×129 27	42×40 31	52×40 32	88×50 37	85×78 22								
17	規模 深さ	67×59 15	33×30 21	32×30 36										
18	規模 深さ	42×42 42	45×41 41	34×37 7	40×33 20	53×39 44								
19	規模 深さ	67×60 20	84×83 36	85×70 21	115×60 42									
20	規模 深さ	50×49 —												
21	規模 深さ	45×87 36												
22	規模 深さ	70×70 20	44×37 24	28×28 6	32×25 18	57×55 36	59×46 18	29×30 27	42×48 29	40×36 11	43×37 21	51×55 51	39×34 56	45×39 12

第2節 検出された住居址

住居址No.	Pit No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
24	規模 深さ	84×60 —	92×70 —											
25	規模 深さ	28×30 17	25×20 31	35×32 23										
26	規模 深さ	66×70 34	43×50 20	38×36 28	40×41 30	37×44 37	75×66 28	75×70 43	58×63 48	29×25 31	78×65 45	60×63 42	53×48 33	
72	規模 深さ	30×32 11	46×48 55	42×44 47	28×32 44	39×37 50	24×23 43	38×36 28	45×40 64	35×35 41	45×45 46	105×95 14		
77	規模 深さ	20×20 9	25×25 36	18×20 63	45×30 37	44×43 29	47×36 40	67×52 38						
78	規模 深さ	50×50 22	35×25 7	30×27 36	56×52 18	26×26 48	23×25 26	25×25 23	32×38 27	49×49 57	43×43 13	28×35 18	50×37 55	80×64 22
80	規模 深さ	72×98 54	23×25 30	184×110 14	22×20 33	68×68 55	18×18 34	40×55 42	50×55 27	55×55 44	48×48 41	20×23 22		
94	規模 深さ	60×55 44	70×80 24											

第2章 I地区 検出された遺構

第3節 検出された土坑

I地区土坑一覧表

土坑 No.	位置	規模 上面(cm)	規模 下面(cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物・特徴など	挿図 No.
1	15区 O-7-8	160×150	52×76	44	円形	覆土中に土器片少量。	43
2	15区 N-O-7	128×132	82×86	54	円形	遺物少ない。	43
3	15区N-7	96×92	80×72	42	円形	底面凹凸多い。	43
5	15区L-8	58×92	48×70	48	長楕円形	底面凹凸多い。	43
6	14区N-5	—	—	56	埋設土器	加層利E4式。土器埋設の掘り方は確認できなかった。	43
7	14区 M-5-6	150×162	130×140	30	円形	覆土中に土器片。	44
8	14区M-6	102×84	90×76	30	楕円形	底面二段になる。上層に礫、土器片。	44
9	15区A-5	90×103	28×26	72	楕円形	柱穴状の掘り込みを持つ。	45
10	14~15区 T-A-5	228×186	98×95	30	不整円形	底面凹凸多い。小ピットを持つ。覆土上層に遺物集中。	45
11	14区T-5	74×124	18×20	22	東西に長い長方形	底面凹凸多い。覆土上層に遺物。	45
12	14区T-5	70×48	56×36	27	不整円形	柱穴状の掘り込み。覆土上層に遺物。	45
13	14区T-5	96×93	60×40	58	不整円形	柱穴状の掘り込み。覆土上層に遺物。	45
14	14区T-5	131×155	110×130	12	円形	底面凹凸多い。覆土上層に大形土器。	45
15	15区A-5	100×115	132×92	48	不整円形	柱穴状の掘り込みを持つ。上層から多孔石出土。	45
16	14区T-5	97×104	32×32	32	不整円形	底面凹凸多い。小ピットを持つ。	45
17	15区 D-E-5	126×202	82×154	76	東西に長い長方形	覆土上層に遺物少量。	44
19	15区 G-H-5	130×122	124×112	14	円形。皿状の断面	覆土上層に遺物。	44
20	15区D-5	104×108	84×88	38	不整円形	底面に小ピットを持つ。覆土中に遺物少量。	44
21	15区A-B -6-7	180×166	170×146	48	不整形	27土坑と重複。本土坑が古い。覆土中に遺物少量。	46
22	14区P-6	150×210	92×146	68	東西に長い隅丸長方形	23土坑と重複。本土坑が新しい。底面に段差有。遺物少ない。	47
23	14区P-7	280×192	216×139	60	南北に長い不整形	22土坑と重複。本土坑が古い。底面に段差有。遺物少ない。	47
24	14区T-5	86×72	60×50	20	不整形	底面凹凸多い。覆土中遺物少ない。	47
26	14区S-6	102×112	64×90	24	不整形	底面凹凸多い。覆土上層に遺物。	46
27	15区 B-6-7	188×152	114×138	42	円形	底面平坦。遺物少ない。	46
28	15区 B-6-7	150×110	78×104	28	不整形	底面に段差を持つ。	46
29	15区A-7	120×118	68×78	26	不整円形。皿状の断面	遺物少ない。	47
30	14区 R-6-7	180×430	140×382	70	東西に長い楕円形	覆土中に遺物少量出土。	48
31	14区 P-Q-6	192×256	94×120	98	東西に長い楕円形	底面に段差を持つ。覆土中に遺物少量出土。	48

第3節 検出された土坑

土坑 No.	位置	規模 上面(cm)	規模 下面(cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物・特徴など	挿図 No.
32	14区P-6	140×126	136×108	12	不整形	底面凹凸多い。小ビットを持つ。	48
33	14区Q-6	220×153	183×110	46	南に長い楕円形	遺物なし。	49
34	14区R-6	130×126	100×116	11	円形	中央に埋設土器。加層利E3式。	49
35	14区R-6	70×57	——	20	楕円形	埋設土器。掘り方断面は浅鉢状になる。	49
36	15区 A-11-12	136×138	94×109	63	円形。バケツ状の断面	底面平坦。覆土中に大型土器片。	49
37	15区A-12	250×276	210×250	36	東西に長い楕円形	底面、西端にビットを持つ。	49
38	14区T-12	138×155	72×116	64	東西に長い隅丸方形	覆土中に土器の大型破片。	50
39	14区S-6	82×72	63×58	48	円形	底面に小ビットを持つ。ビット上に埋設土器。	50
40	14区S-6	——	——	9	埋設土器	土器の掘り方は、はっきりしない。正位に据置した状態。	50
41	15区A-11	155×150	130×134	90	隅丸方形	底面にビットを持つ。覆土中に遺物出土。	50
42	14~15区 T~A-11	96×92	80×66	71	円形	底面が2段になる。覆土中に遺物少量出土。	50
43	14区P-6	——	——	16	埋設土器	埋設土器の掘り方は、はっきりしない。	50
44	14~15区 T~A-12	122×148	105×130	30	不整形	底面に段差有。2基の土坑の重複。遺物少ない。	50
45	15区A-11	118×106	85×80	23	円形に近い方形	皿状の断面形。遺物少ない。	51
47	14区T-6	120×110	78×65	65	円形	底面に段差有。覆土中から遺物少量出土。	51
48	14区T-6	50×60	30×42	30	方形に近い不整形	礫を方形に配置。一部壊されている。	51
49	14区T-5	104×92	80×75	45	円形	底面に段差を持つ。遺物なし。	51
50	14区S-6	114×92	85×60	30	楕円形	底面凹凸多い。覆土中から遺物少量出土。	51
51	14区T-11	88×130	80×112	43	東西に長い隅丸方形	底面にビット状の窪み。覆土中から遺物出土。	51
52	14区 T-5~6	70×85	45×54	56	東西に長い隅丸方形	底面から無文浅鉢の破片出土。	52
56	14区R-6	53×60	34×40	22	楕円形	埋設土器の掘り方。土器の大半は削平されている。	52
57	14区S-6	70×113	54×93	45	東西に長い隅丸方形	底面は比較的平坦。覆土中からの遺物出土量少ない。	52
58	14区N-5	192×172	169×152	60	不整形	底面に横長のビット状の窪み有。覆土中から遺物少量出土。	52
59	14区O-5	130×108	113×107	40	円形	底面凹凸多い。中央に小ビットを持つ。遺物出土量少ない。	52
60	14区 P~Q-5	178×187	154×170	43	不整形	底面に細かい凹凸多い。遺物量少ない。	52
61	14区M-5	188×198	160×176	48	円形。筒状の断面	底面凹凸少なく平坦。遺物量少ない。	53
62	14区N-5	72×86	67×75	27	隅丸方形	底面凹凸少なく平坦。出土遺物なし。	52
63	15区A-7	46×44	28×28	14	不整形	回りの攪乱により削平されている。遺物覆土上層より出土。	53
64	14区 R-11~12	110×112	62×68	36	円形。埋設土器	埋設土器の掘り方。	53
65	14区T-6	128×120	108×100	40	円形	底面に段差有。底面から偏平な台石出土。	53

第2章 I地区 検出された遺構

土坑 No.	位置	規模 上面(cm)	規模 下面(cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物・特徴など	挿図 No.
66	15区B-7	148×138	130×114	24	楕円形。断面皿状	覆土上層から遺物出土多い。75土坑と重複。本土坑新しい。	53
67	15区B-C -7-8	314×376	294×350	56	東西に長い楕円形	底面にピット状の落ち込み多い。覆土中の遺物多い。	54
68	15区 A-11-12	212×236	166×142	48	東西に長い方形	底面に段差を持つ。遺物量少ない。	55
69	14-15区 T-A-10	—×380	—×352	48	不整形	14号住居と重複。本土坑が古い。底面傾斜。遺物出土多い。	54
70	15区 D-E-8	268×—	236×—	22	楕円形	遺物出土量少ない。	55
71	15区E-10	152×—	120×—	42	楕円形。下段は方形	底面は2段になっている。遺物出土量少ない。	55
73	14-15区 T-A-11	158×164	148×154	20	不整形。断面皿状	底面に小さな凹凸がある。遺物出土量少ない。	55
74	15区 E-F-6	124×116	100×96	16	円形	底面は2段になっている。礫が底面近くから出土。	55
75	15区B-7	408×404	384×386	30	隅丸方形	中央に埋設土器。小堅穴。柱穴等は確認されなかった。	56
76	14区N-6	74×80	48×52	18	円形。埋設土器	埋設土器掘り方。土器の上部は削平されている。	56
79	14区T-10	100×98	82×84	32	円形	底面は鍋底状。覆土中に礫、土器入る。	56
81	15区A-7	112×98	100×80	20	南北に長い楕円形	偏平な石と、埋設土器。底面は小さな凹凸。	57
82	15区D-7	—×186	—×160	38	不整形	底面に小さな凹凸。遺物出土量少ない。	57
83	15区E-8	264×192	240×166	32	不整形	底面凹凸多い。小ピットを持つ。遺物出土量少ない。	57
84	15区 E-8-9	149×136	108×112	58	不整形	底面に段差、小ピットを持つ。遺物出土少ない。	57
85	15区 D-E-9	146×152	126×132	12	円形。断面皿状	掘り込みが浅く凹凸少ない。遺物出土量少ない。	57
86	15区E-9	180×322	152×300	32	不整形	遺物量少ない。方形と不整形の2基の土坑重複。	58
87	15区 E-9-10	154×156	128×138	30	不整形	遺物量少ない。	57
88	15区 E-9-10	148×154	116×130	48	円形。断面バケツ状	前期有尾式土器入る。	58
89	15区E-10	172×174	150×140	20	不整形。断面皿状	前期有尾式土器入る。	58
91	14区 Q-R-7	332×422	306×400	40	隅丸方形	底面平坦。覆土からの遺物少ない。	59
92	14区 R-7-8	295×202	180×70	68	不整形楕円形	底面に段差を持つ。最底面は、南北に長い楕円形。	59
93	14-15区 T-A-9	256×370	240×356	24	不整形	2基の土坑の重複か。西側に集中して遺物が出土。	58
97	14区 S-8-9	376×240	350×230	32	南北に長い楕円形	底面平坦。覆土中から遺物がまばらに出土。	60
98	15区E-7	90×80	60×48	40	南北に長い楕円形	底面は傾斜している。遺物はない。	59
99	15区 D-E-7	114×104	80×70	40	円形。断面バケツ状	遺物量少ない。	59
100	15区E-7	58×66	22×18	40	楕円形	遺物量少ない。	60
101	15区D-7	180×150	58×62	46	楕円形	底面に段差有。前期中葉の土器出土。	60
102	15区C-7	128×132	102×110	18	円形。断面皿状	底面平坦。遺物出土量少ない。	60
103	15区D-7	126×196	92×182	54	不整形	底面に段差多い。前期中葉～中期中葉の土器片出土。	60

第3節 検出された土坑

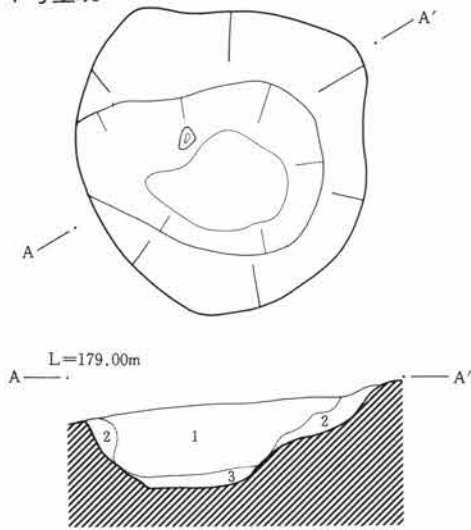
土坑 No.	位 置	規 模 上面 (cm)	規 模 下面 (cm)	深さ (cm)	形 状	出 土 遺 物 ・ 特 徴 など	挿図 No.
104	15区D-7	86×60	68×46	46	隅丸長方形	底面は2段になる。遺物は出土していない。	60
105	15区D-7	60×80	40×44	18	楕円形	底面は凹凸多い。遺物は出土していない。	60
106	15区 D-6~7	148×126	104×82	52	楕円形	底面は平坦。遺物は出土していない。	60
107	15区C-7	—	78×120	—	不整形	他遺構と重複。出土遺物なし。	61
108	15区 D-6~7	172×160	128×128	32	方形	出土遺物なし。	61
109	15区C-7	102×96	78×70	24	不整形。断面皿状	底面細かい凹凸。覆土中から少量の遺物出土。	61
110	15区A~B -10~11	126×120	94×94	42	円形	大型の浅鉢が埋設されていた。	61
111	14区 S-8~9	90×120	58×108	10	不整形。炉址	礫を方形に囲い、土器を埋設している。	61
112	14区S-8	80×102	52×80	30	長方形	長方形の掘り方に、土器を埋設して、礫を置いている。	61
113	15区 B~C-8	138×126	86×76	28	不整形	底面に細かい凹凸あり。底面近くに遺物が集中して出土。	61
114	14区T-12	56×106	42×80	34	東西に長い楕円形	底面凹凸少なく平坦。覆土中からの遺物出土量少ない。	61
115	14区T-12	100×60	68×32	32	南北に長い楕円形	底面に細かい凹凸。傾斜している。	61
116	14区 S~T-12	84×114	60×88	32	楕円形。断面皿状	底面凹凸少なく平坦。遺物は出土していない。	61
117	14区T-12	98×102	74×82	34	円形	底面凹凸少なく若干傾斜している。遺物なし。	61
118	14区 S~T-12	118×122	78×82	36	円形	底面凹凸少ない。遺物は出土していない。	61
119	14区S-12	74×48	44×30	16	楕円形。断面皿状	出土遺物なし。	62
120	14区S~T -11~12	376×384	352×372	48	不整形	浅い掘り込みの中にさらに、2基の土坑を掘り込む。	62
121	14区 S-11~12	308×298	280×274	64	楕円形	土坑は二重になっており、重複と考えられる。	62
122	14区S-12	100×—	74×—	20	不整形	底面凹凸多い。	62
123	14区S-11	110×100	96×70	38	不整形	底面に小ビットを持つ。	62
124	14区 S-10~11	—	—	22	隅丸台形	西側が削平されている。底面凹凸少ない。	63
125	15区B-11	126×140	82×94	60	不整形。埋設土器	土坑底部に直立させた状態で土器が出土している。	62
126	14区R-8	66×66	54×54	26	円形。埋設土器	偏平な礫と、埋設土器が検出された。	63
127	14区Q-7	118×114	100×96	22	楕円形。埋設土器	埋設土器の掘り方。土器の大半が攪乱により壊される。	63
128	14区Q-7	180×214	112×120	10	不整形	土坑の縁辺に小ビットを持つ。中央に埋設土器。	63
129	14区Q-9	316×290	298×272	26	円形	南側に伏せた状態で深鉢が出土。	63
130	14区R~S -10~11	289×436	244×418	20	東西に長い楕円形	断面皿状で、底面凹凸少ない。遺物量少ない。	64
131	14区R~S -9~10	—×278	—×266	36	南北に長い隅丸方形	底面に小ビットを2ヶ所持つ。底面から土器出土。	64
132	14区 Q~R-10	120×164	97×137	27	楕円形。断面皿状	底面凹凸少ない。遺物量少ない。	64
133	14区Q-10	160×145	136×120	27	楕円形	底面に小ビットを持つ。凹凸多い。遺物出土量少ない。	64

第2章 I地区 検出された遺構

土坑 No.	位置	規模 上面(cm)	規模 下面(cm)	高さ (cm)	形状	出土遺物・特徴など	挿図 No.
134	14区Q-11	120×110	95×85	36	不整円形	底面比較的平坦。遺物出土量少ない。	64
135	14区 Q-10~11	136×132	108×98	34	隅丸方形	底面に段差有。覆土中からの遺物出土量少ない。	65
137	15区A~B -7~8	303×275	250×214	83	南北に長い長方形	底面に段差を持つ。覆土中から礫が出土。	65
138	15区B-10	110×124	75×96	64	不整形	底面に小ピットを持つ。遺物は出土していない。	65
139	15区B-10	117×130	92×92	68	不整形。断面筒状	覆土から少量の遺物。	65
140	14区 R-S-7	—×380	—×354	30	不整形	141土坑と重複。本土坑が古い。底面から小形深鉢出土。	65
141	14区 R-S-7	202×166	80×170	68	楕円形	140土坑と重複。本土坑が新しい。覆土中に大型土器破片。	65
142	15区D-11	186×204	146×174	42	円形	2基の土坑の重複。遺物出土量少ない。	66
143	15区 D-10~11	112×128	92×92	44	円形	底面凹凸少ない。覆土中の遺物少ない。	66
144	15区 C-D-10	176×—	140×—	—	不整形	底面凹凸少なく平坦。覆土中の遺物少ない。	66
145	15区D-10	222×146	200×116	46	不整形	底面凹凸有。覆土中からの遺物少量出土。	66
146	15区 A-B-8	144×122	120×102	38	不整円形	底面細かい凹凸有。覆土中から土器は出土していない。	66
147	14区 S-T-10	116×134	98×120	50	円形。断面筒状	底面凹凸少ない。覆土中からの遺物少量出土。	66
148	15区 C-D-11	160×140	124×90	68	不整形	底面凹凸多い。覆土中から遺物少量出土。	67
150	15区 B-C-7	244×206	212×176	82	長方形	覆土にロームがブロック状に入る。覆土中の遺物少ない。	67
153	15区 B-C-12	236×172	198×140	42	不整形	底面凹凸多く、段差を持つ。覆土中の遺物少ない。	67
161	15区D-10	124×128	104×96	24	東西に長い楕円形	底面凹凸多い。出土遺物少ない。	67
162	15区 D-10~11	172×174	140×148	30	長楕円形	底面に若干の凹凸を持つ。遺物の出土はみられなかった。	67
163	15区D-11	142×130	113×100	32	不整円形	底面凹凸少ない。出土遺物少量。	68
164	15区D-11	135×130	63×65	50	不整円形	底面凹凸少ない。出土遺物はない。	68
165	15区E-11	96×194	78×183	35	東西に長い楕円形	底面細かい凹凸があり、傾斜している。	68
166	15区E-11	105×113	85×84	30	円形	底面平坦。遺物の出土はみられなかった。	68
167	14区T-10	190×250	160×215	65	東西に長い楕円形	底面に小ピットを持つ。覆土中から少量遺物出土。	68
168	15区F-7	102×110	83×95	46	円形	覆土中に前期中葉の土器出土。	68
169	15区A-12	66×71	28×45	17	円形	上面に礫が置いてある。	68
170	15区 B-C-11	—	—	—	不整形	底面凹凸少なく平坦。底面から深鉢出土。	68
171	15区A-10	80×95	50×65	33	楕円形	底面凹凸少ない。出土遺物はない。	68
172	15区 A-9~10	86×84	38×27	36	不整形	底面細かい凹凸。出土遺物少量。	68

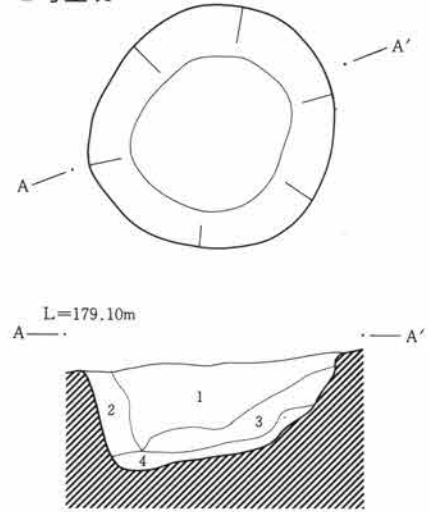
第3節 検出された土坑

1号土坑



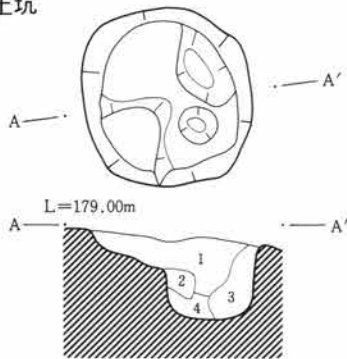
- 1層 暗褐色土 ローム粒、炭化粒やや多い。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック多い。
- 3層 黄褐色土 ローム漸移層。

2号土坑



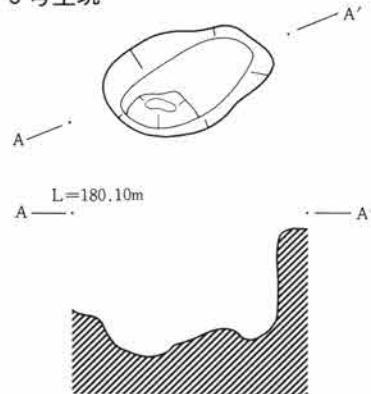
- 1層 褐色土 ローム粒、炭化粒やや多い。
- 2層 褐色土 ローム粒1層より多い。
- 3層 褐色土 ローム粒、ロームブロック多い。
- 4層 黄褐色土 ローム漸移層。

3号土坑

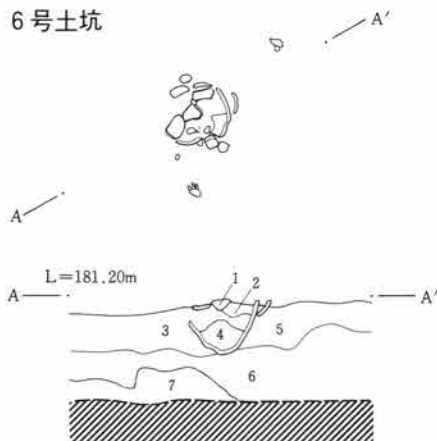


- 1層 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックやや多い。
- 2層 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック1層より多い。
- 3層 黄褐色土 黄色軽石粒に褐色土少し混入。
- 4層 黄褐色土 粘質ロームブロック。

5号土坑



6号土坑



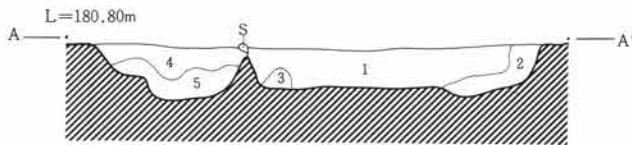
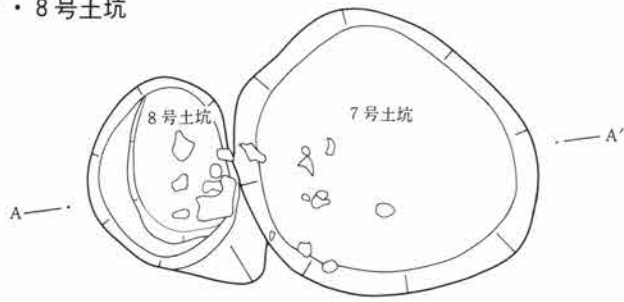
- 1層 黄褐色土 ロームブロック。
- 2層 明茶褐色土 ローム、炭化物含む。
- 3層 暗黄褐色土 ローム漸移層、炭化物含む。
- 4層 暗黄褐色土 ローム漸移層、炭化物少量含む。
- 5層 暗黄褐色土 ローム漸移層、ロームブロック多い。
- 6層 黄褐色土 ロームにわずか褐色ロームブロック混じる。
- 7層 黄褐色土 黄色軽石粒ブロック含む。



0 1 m

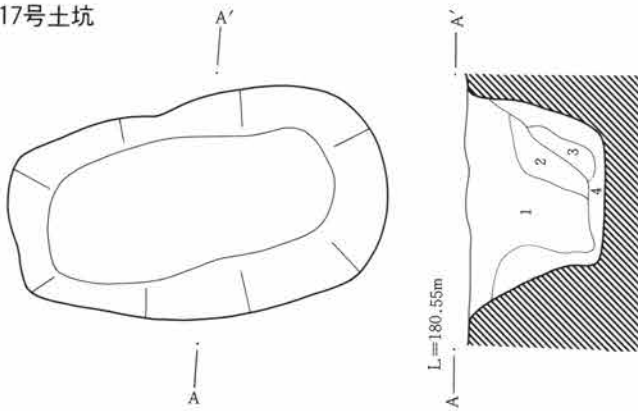
第43図 1・2・3・5・6号土坑

7・8号土坑



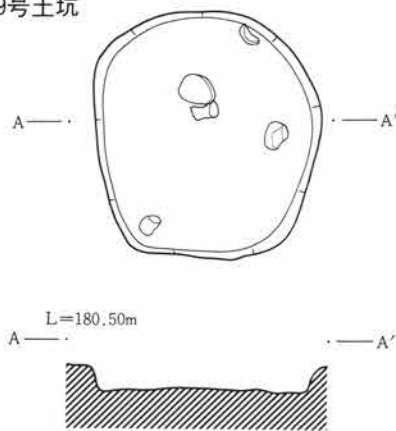
- 1層 暗黄褐色土 ロームブロックやや多い。
- 2層 明黄褐色土 ロームブロック多い。
- 3層 暗黄褐色土 ローム粒多く含む。
- 4層 暗黄褐色土 ロームブロック、ローム粒が3層より多い。
- 5層 明黄褐色土 黄色軽石粒やや多い。

17号土坑

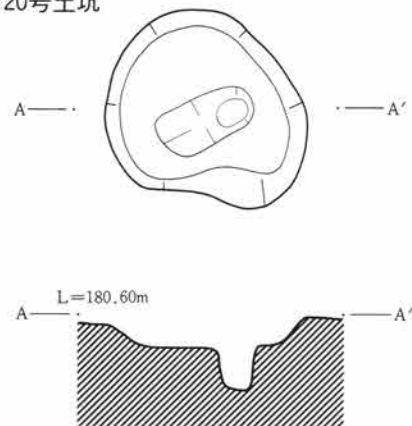


- 1層 黒褐色土 白色軽石粒、土器片多い。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック多い。
- 3層 暗褐色土 ロームブロック2層よりやや少量。
- 4層 黄褐色土 ロームブロック多い。

19号土坑

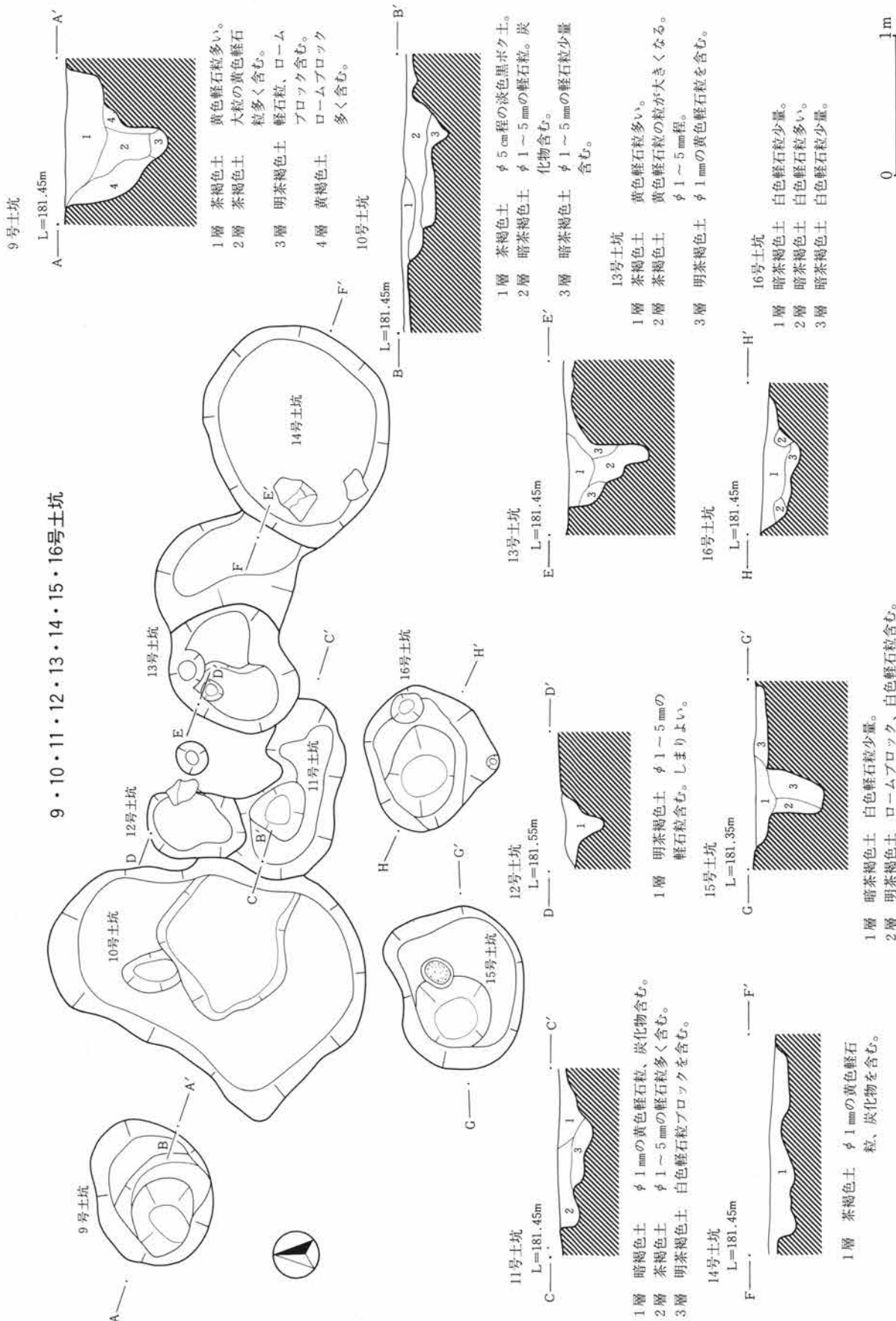


20号土坑



0 1m

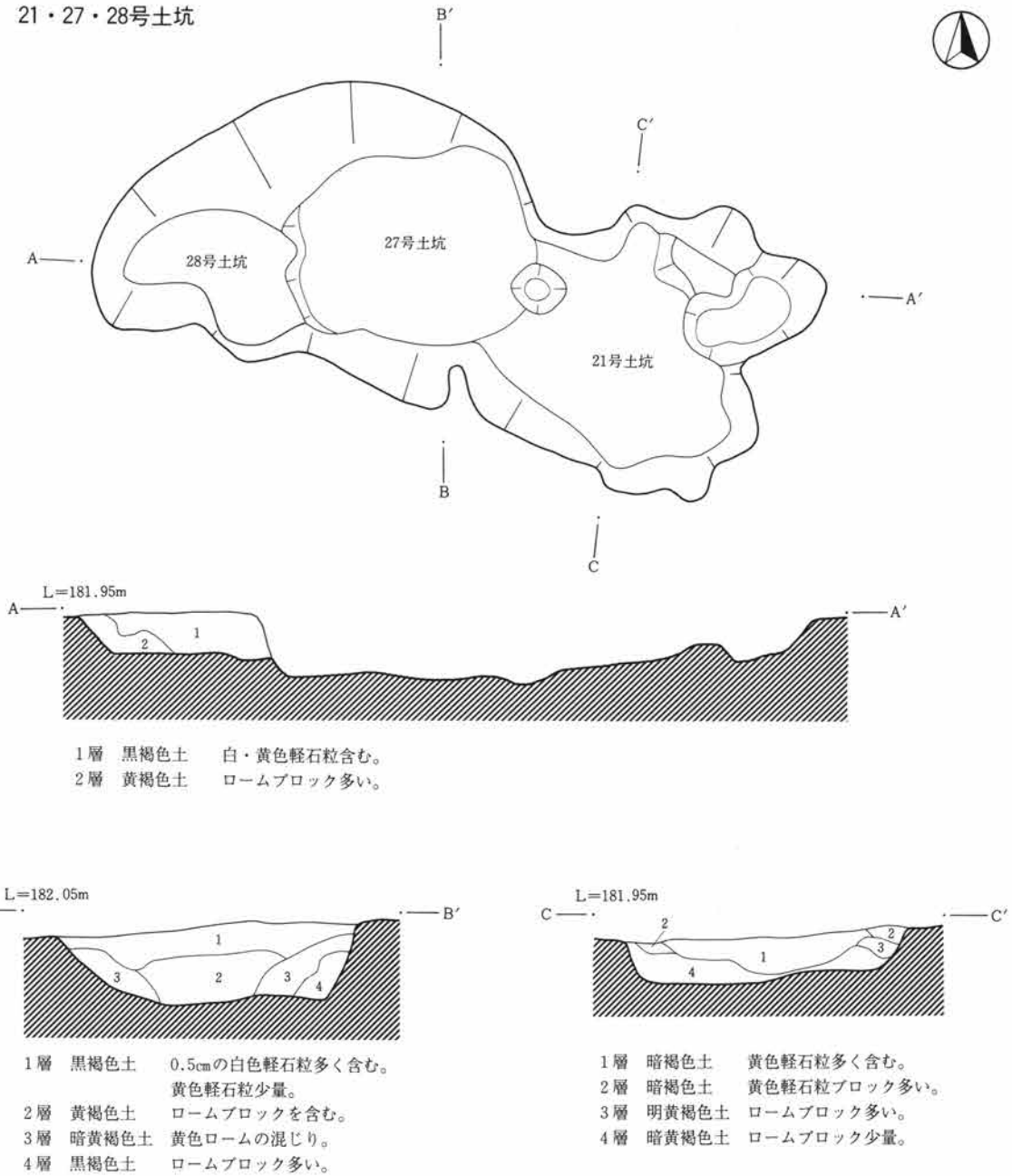
第44図 7・8・17・19・20号土坑



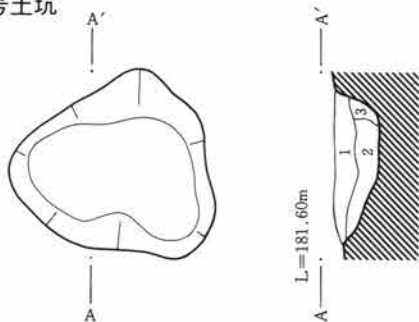
第45図 9・10・11・12・13・14・15・16号土坑

第2章 I地区 検出された遺構

21・27・28号土坑



26号土坑



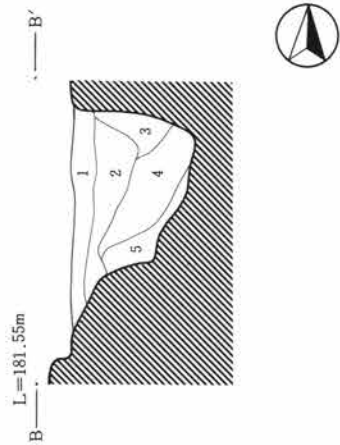
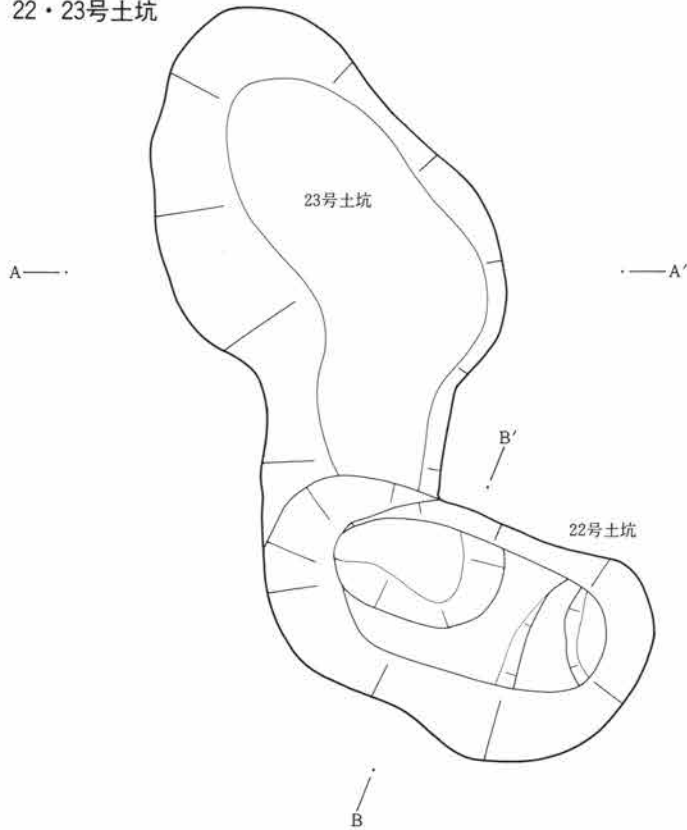
- 1層 暗褐色土 白色軽石粒を含み、黄色軽石少量含む。
2層 暗褐色土 白色軽石粒少量含む。
3層 暗褐色土 ϕ 1cm大の黄色軽石を含む。

0 1 m

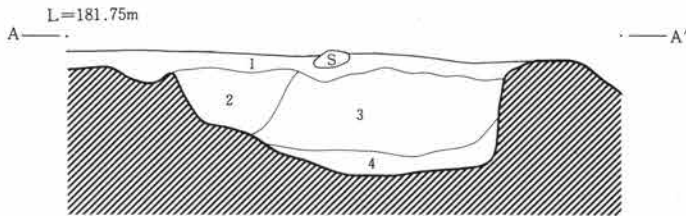
第46図 21・26・27・28号土坑

第3節 検出された土坑

22・23号土坑

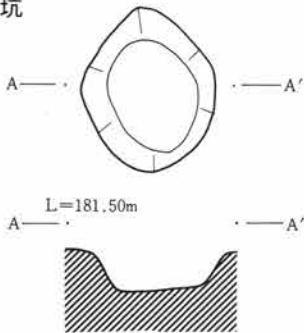


- 1層 茶褐色土 ロームブロック、黒褐色土ブロックの混合。
- 2層 暗茶褐色土 ロームブロックと暗茶褐色土の混合。
- 3層 暗茶褐色土 ロームブロック少量。黄色軽石粒やや多い。
- 4層 暗茶褐色土 黄色軽石粒ごくわずか含む。
- 5層 暗黄褐色土 ロームが主体。

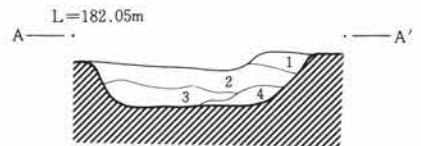


- 1層 黒褐色土 C軽石混じり。
- 2層 暗褐色土 白色軽石粒、ロームブロック少量。
- 3層 暗茶褐色土 ロームブロックとの混合。
- 4層 暗茶褐色土 ロームブロック。黄色軽石粒やや多い。

24号土坑



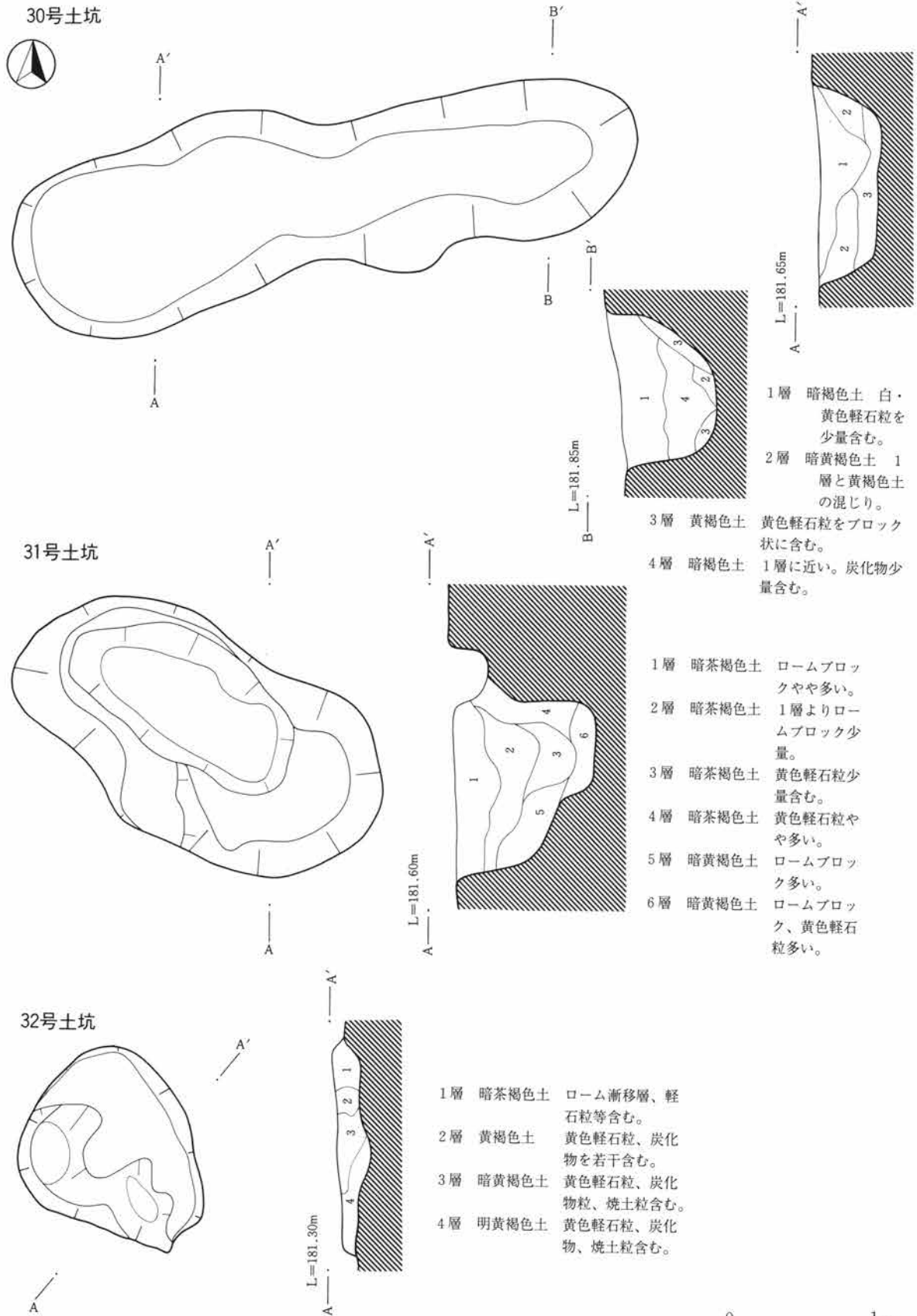
29号土坑



- 1層 黒褐色土 黄色軽石粒やや多い。
- 2層 暗茶褐色土 ロームブロック多い。白色軽石粒やや多く含む。
- 3層 暗茶褐色土 ロームブロック多い。
- 4層 黄褐色土 粘質ローム多い。



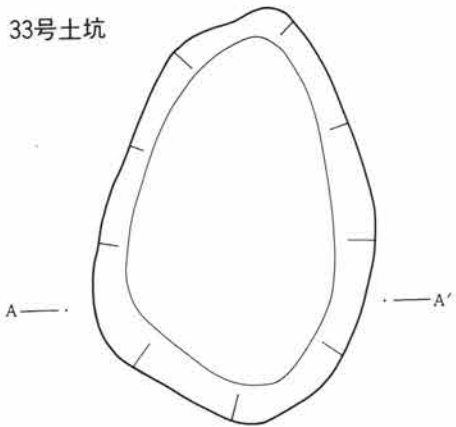
第47図 22・23・24・29号土坑



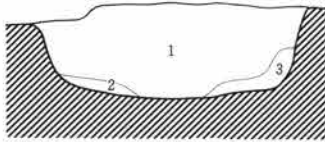
第48図 30・31・32号土坑

第3節 検出された土坑

33号土坑



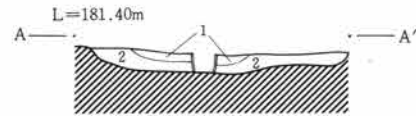
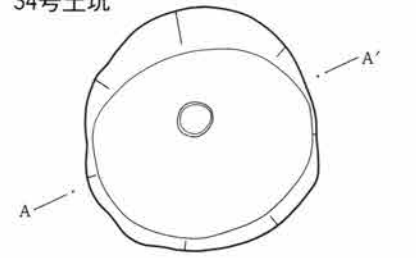
L=181.70m



- 1層 暗茶褐色土 白色軽石φ0.3cm大を少量含む。
- 2層 黄褐色土 黄色軽石粒含む。
- 3層 暗褐色土 黄色軽石粒、ロームブロックを含む。

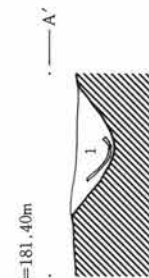


34号土坑



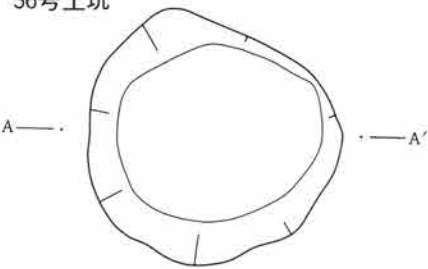
- 1層 暗褐色土 白色軽石粒、ロームブロック含む。
- 2層 暗褐色土 黄色軽石粒含む。

35号土坑

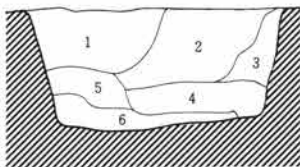


- 1層 茶褐色土 黄色軽石粒、炭化物を含む。

36号土坑

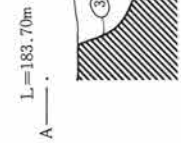
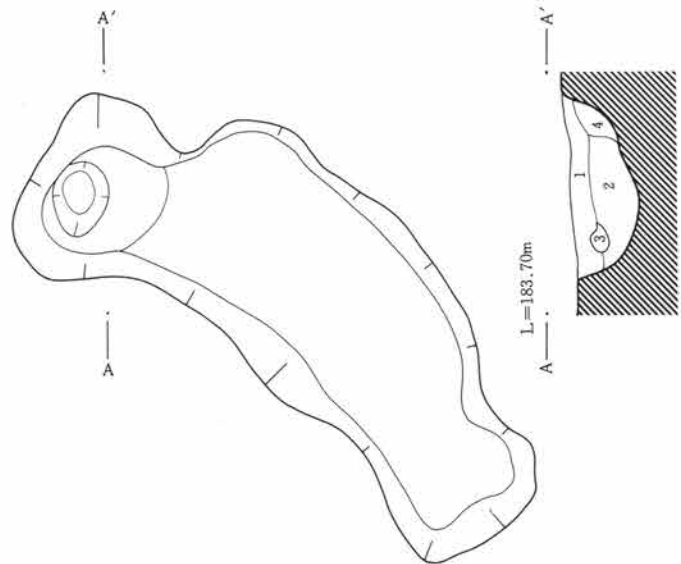


L=183.70m



- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒やや多い。
- 2層 暗茶褐色土 白色軽石粒、ロームブロックやや多い。
- 3層 暗茶褐色土 ロームブロック多い。
- 4層 暗黄褐色土 ロームブロック含む。
- 5層 暗茶褐色土 ロームブロック多い。
- 6層 暗黄褐色土 ローム漸移層混じり。

37号土坑

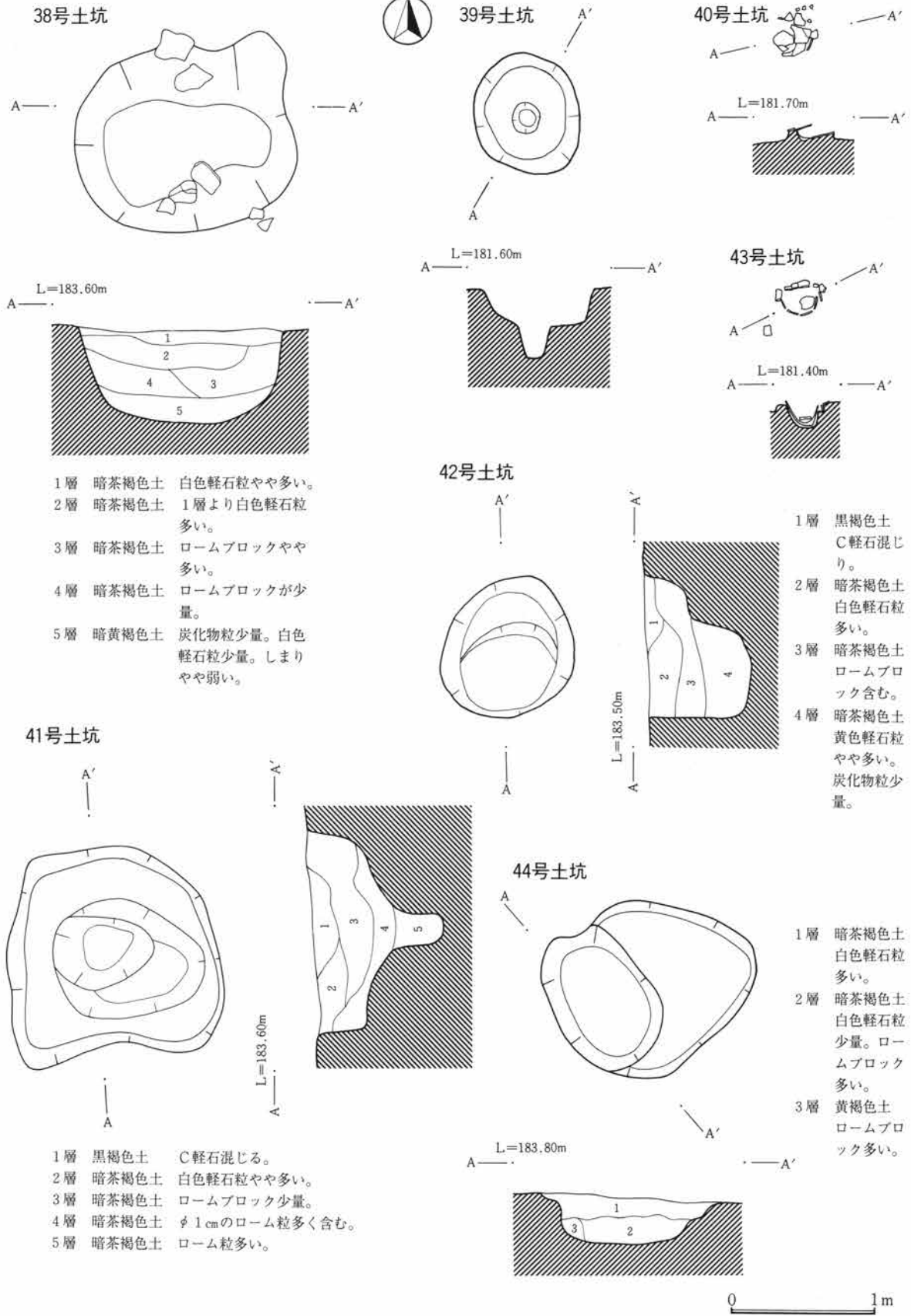


- 1層 暗茶褐色土 ロームブロック、白色細粒やや多い。
- 2層 暗黄褐色土 白色軽石粒上部に少量。φ5cm程のロームブロック多い。
- 3層 黄褐色土 白色軽石粒を含む。ロームブロック。
- 4層 黄褐色土 ロームブロックと褐色土の混合。

0 1m

第49図 33・34・35・36・37号土坑

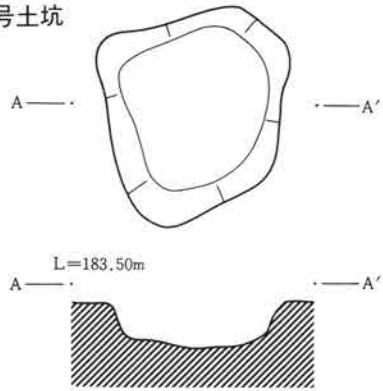
第2章 I地区 検出された遺構



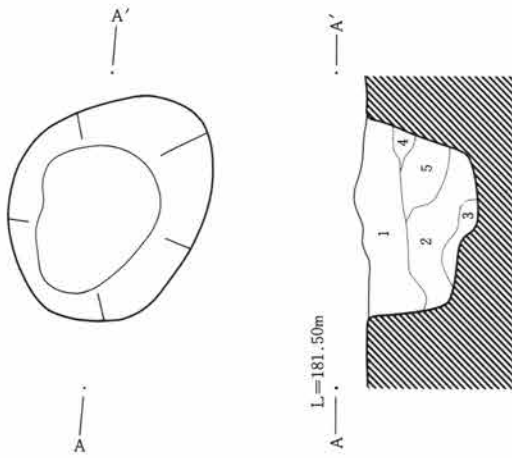
第50図 38・39・40・41・42・43・44号土坑

第3節 検出された土坑

45号土坑

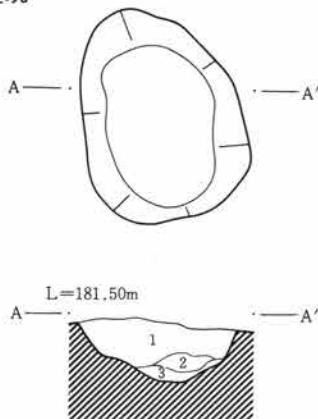


47号土坑



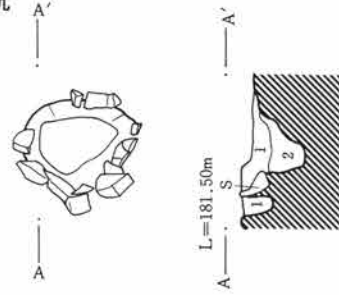
- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒やや多い。焼土粒少量。
- 2層 暗茶褐色土 ロームブロックやや多い。
- 3層 暗黄褐色土 黄色軽石粒多い。
- 4層 黄褐色土 ロームブロック。
- 5層 暗茶褐色土 ロームブロック多い。炭化物粒少量。

50号土坑



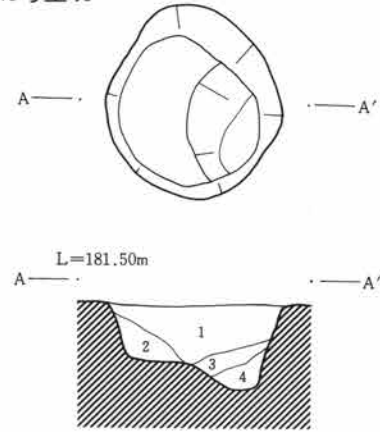
- 1層 暗褐色土 白色軽石粒含む。
- 2層 黄褐色土 暗褐色土をモザイク状に含む。
- 3層 黄褐色土 ロームブロック多い。

48号土坑



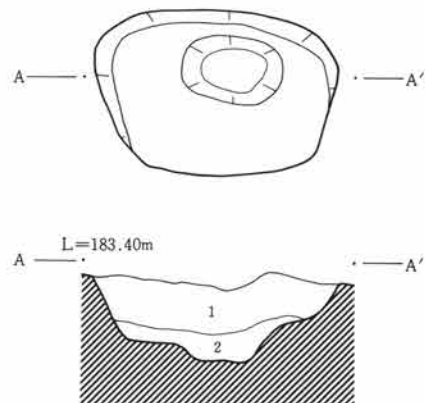
- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒やや多い。焼土粒少量。
- 2層 暗黄褐色土 ロームブロック多い。炭化物粒、焼土粒少量。

49号土坑



- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒やや多い。炭化物粒少量。
- 2層 暗黄褐色土 白色軽石粒やや多い。ロームブロック多い。
- 3層 暗黄褐色土 ローム多い。黄色軽石粒少量。
- 4層 黄褐色土 硬いロームブロック多い。

51号土坑



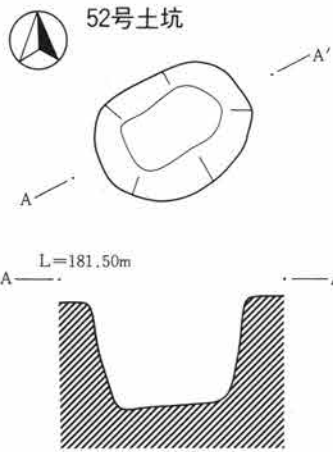
- 1層 暗褐色土 C軽石を含み、黄色軽石粒を少量含む。
- 2層 黄褐色土 黄色軽石粒多い。

0 1m

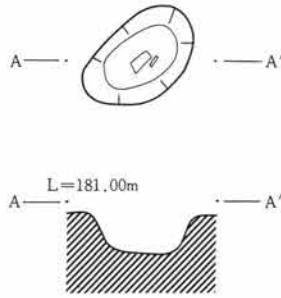
第51図 45・47・48・49・50・51号土坑

第2章 I地区 検出された遺構

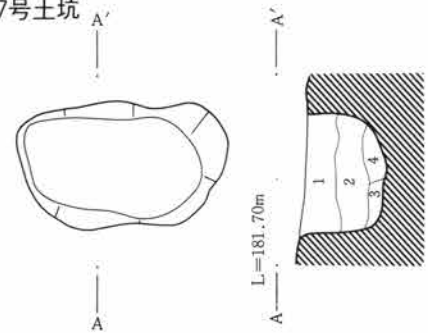
52号土坑



56号土坑

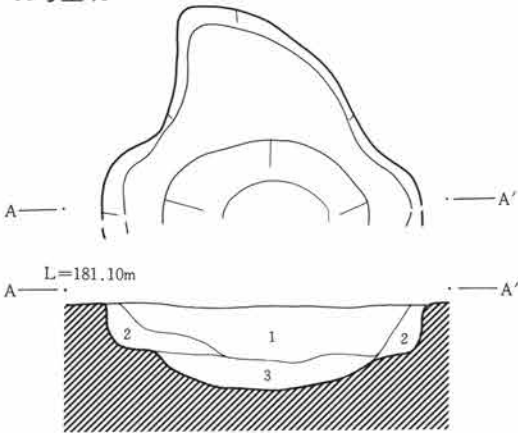


57号土坑



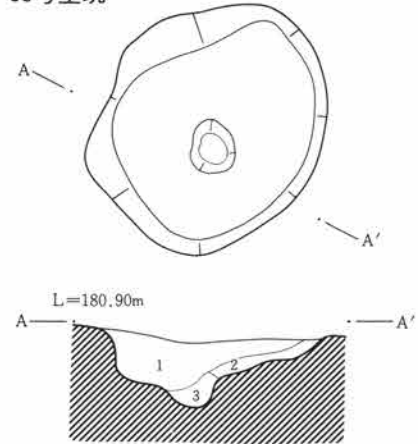
- 1層 暗褐色土 細かな白色軽石粒含む。
- 2層 黄褐色土 黄色軽石粒少量含む。
- 3層 明黄褐色土 黄色軽石粒多く含む。
- 4層 褐色土 ロームブロック多い。

58号土坑



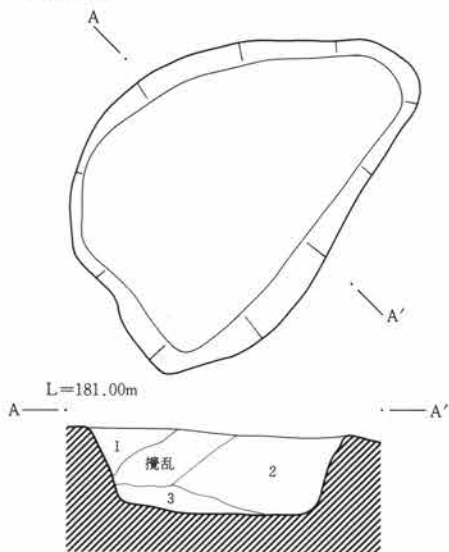
- 1層 暗褐色土 黄色軽石粒含む。
- 2層 暗褐色土 黄色軽石粒少量含む。
- 3層 褐色土 黄色軽石粒少量含む。

59号土坑



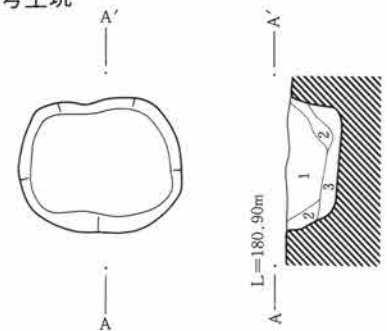
- 1層 暗褐色土 黄色軽石粒少量含む。
- 2層 黄褐色土 黄色軽石粒多い。
- 3層 灰褐色土 ロームブロック多い。

60号土坑



- 1層 暗褐色土 黄色軽石粒少量含む。
- 2層 黄褐色土 黄色軽石粒多い。
- 3層 灰褐色土 黄色軽石粒ブロック状に含む。

62号土坑

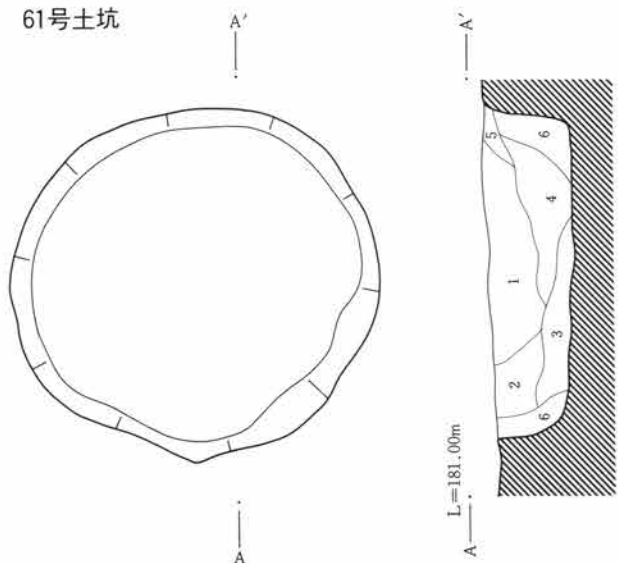


- 1層 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 2層 暗褐色土 黄色軽石粒含む。
- 3層 灰褐色土 ロームブロック多い。

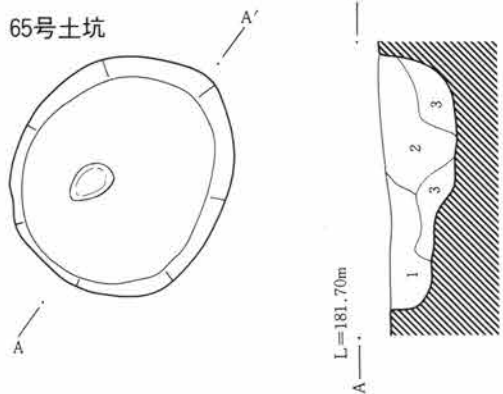
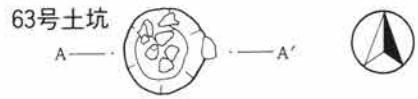
0 1m

第52図 52・56・57・58・59・60・62号土坑

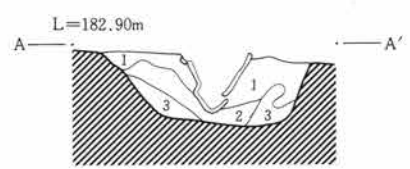
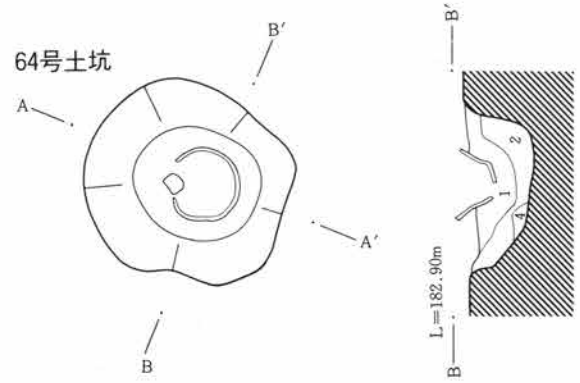
第3節 検出された土坑



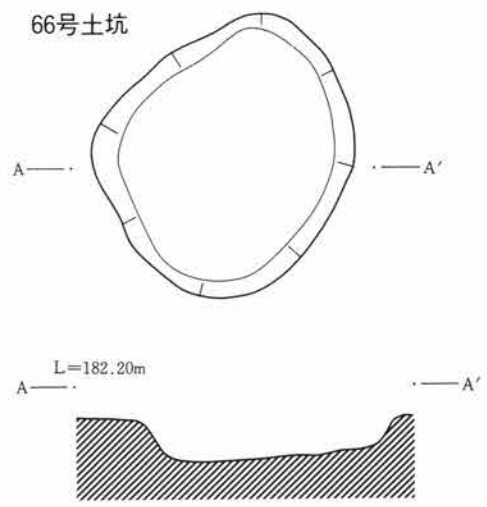
- 1層 暗褐色土 白色軽石粒多い。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 3層 褐色土 黄色軽石粒多い。
- 4層 黄褐色土 ロームブロック多い。
- 5層 暗黄褐色土 白色軽石粒含む。
- 6層 明黄褐色土 ロームブロック、黄色軽石粒多い。



- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒多い。炭化物粒少量。
- 2層 暗茶褐色土 ロームブロック、白色軽石粒多い。
- 3層 暗黄褐色土 ロームブロック多量含む。



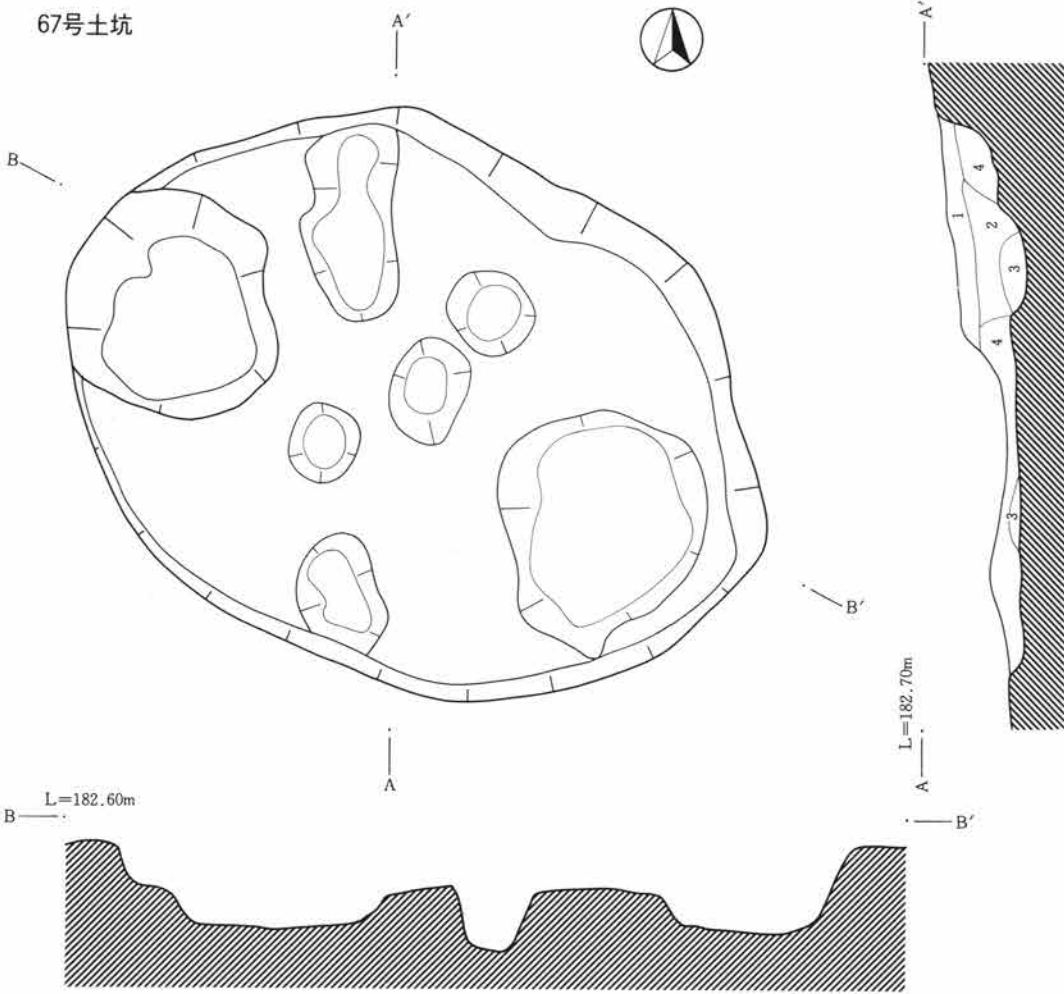
- 1層 褐色土 炭化物含む。
- 2層 黄褐色土 黄色軽石粒、炭化物少量。
- 3層 黄褐色土 黄色軽石粒多い。
- 4層 明黄褐色土 ロームブロック。



第53図 61・63・64・65・66号土坑

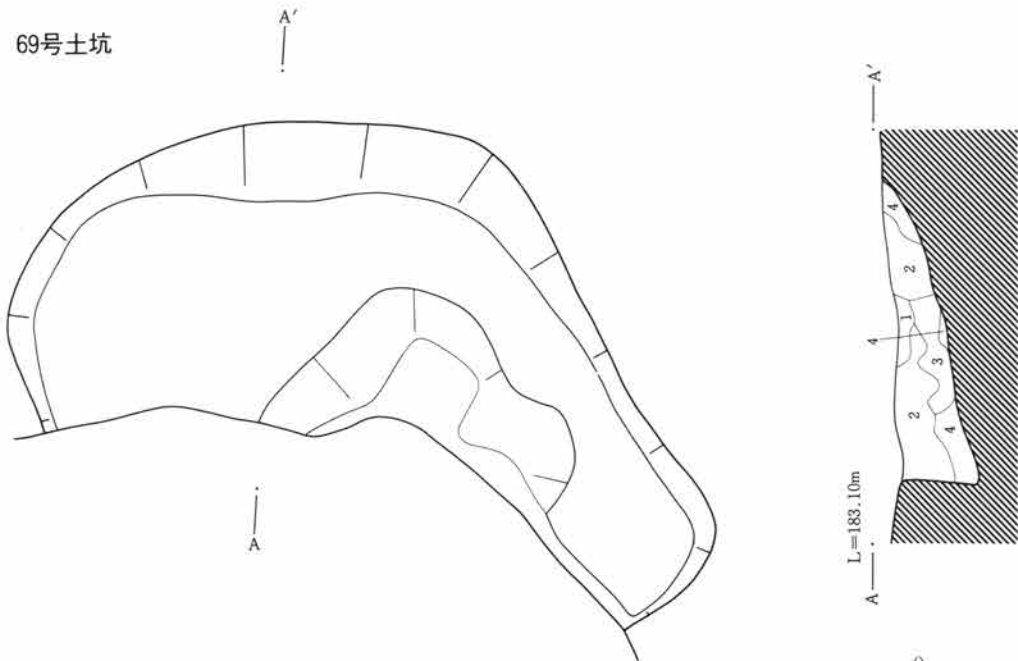
第2章 I地区 検出された遺構

67号土坑



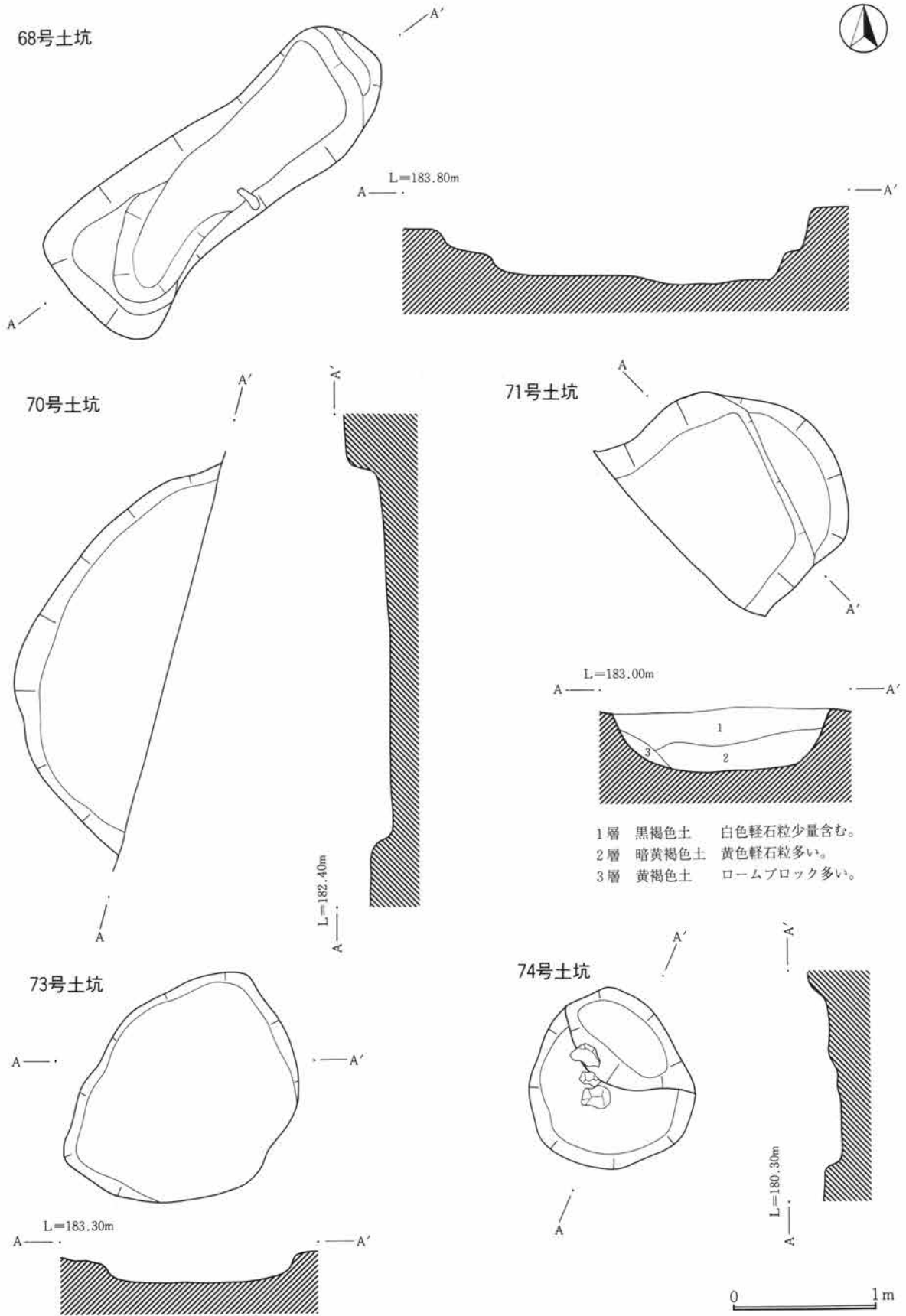
- 1層 茶褐色土
φ 1~2 mmの黄色軽石粒、炭化物を含む。
- 2層 暗茶褐色土
白色軽石粒、炭化物を含む。
- 3層 黄色土
白色軽石粒に若干の茶褐色土が混入。
- 4層 茶褐色土
φ 2~5 mmの白色軽石粒、ロームブロックφ 2~3 cm含む。

69号土坑



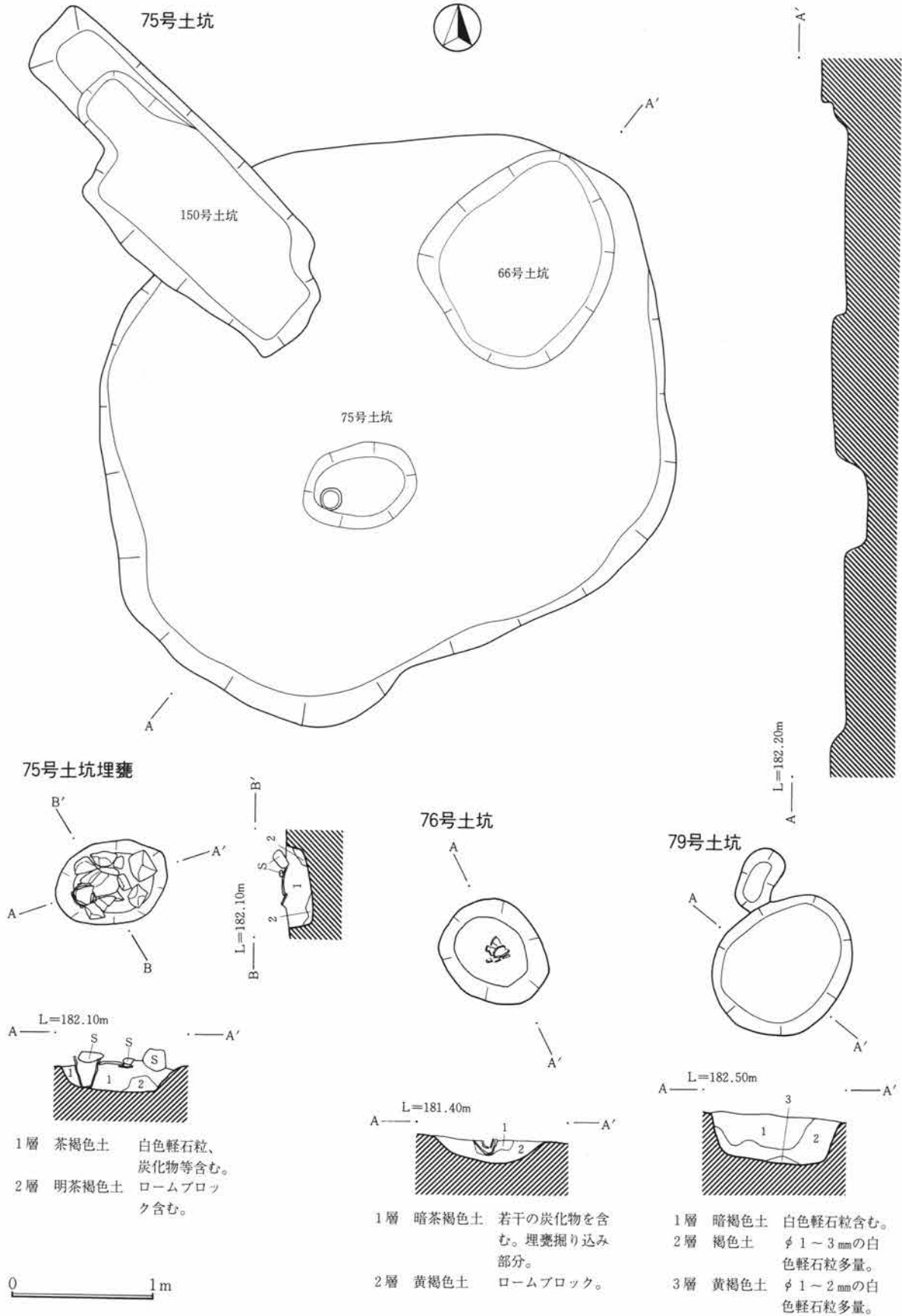
- 1層 黒褐色土
C軽石混じり。
- 2層 暗褐色土
焼土、炭化物多い。
- 3層 褐色土
白色軽石粒多く含む。
- 4層 黄褐色土
ロームブロック多い。

第54図 67・69号土坑

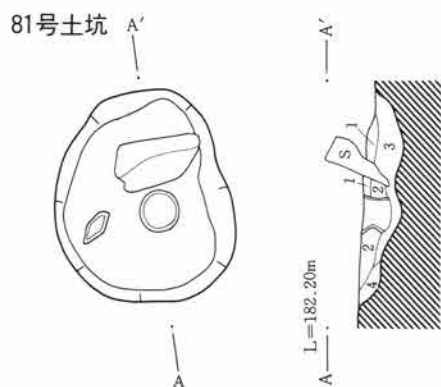


第55図 68・70・71・73・74号土坑

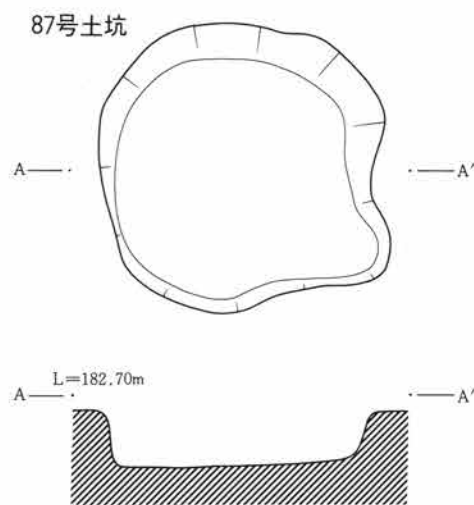
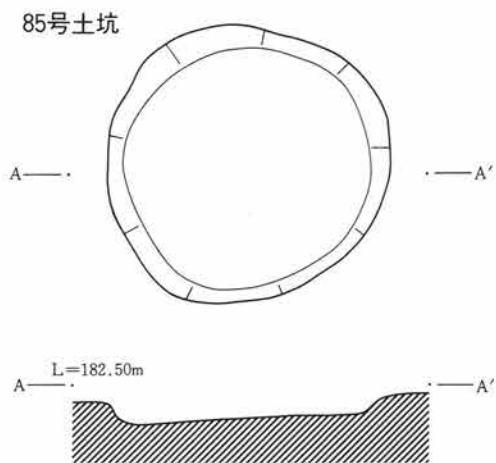
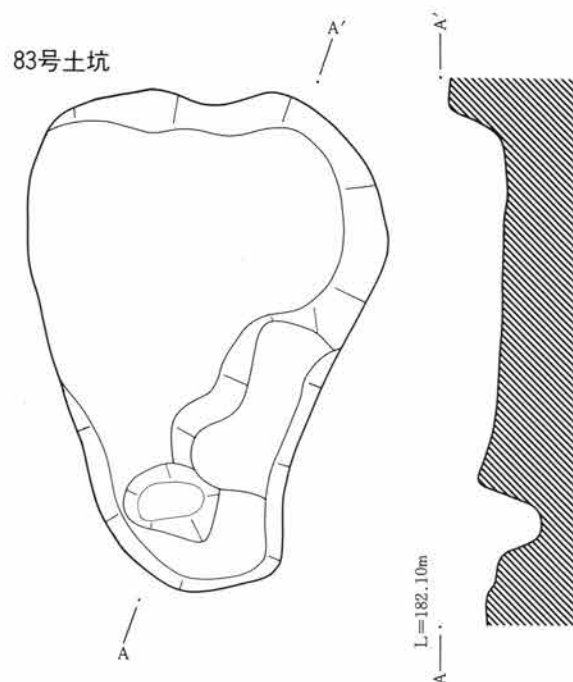
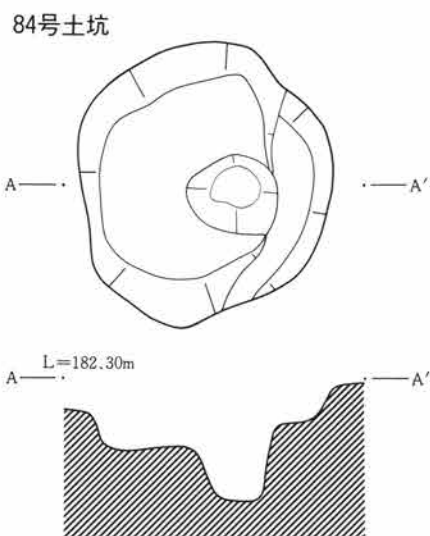
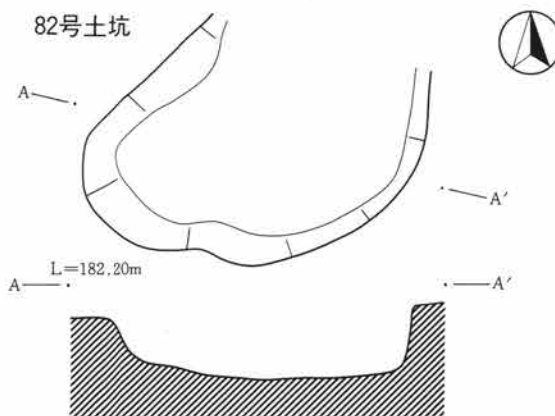
第2章 I地区 検出された遺構



第56図 75・76・79号土坑



- 1層 暗褐色土 白色軽石粒含む。
- 2層 褐色土 白色軽石粒多い。少量の炭化物含む。
- 3層 暗褐色土 ロームブロック混じり。
- 4層 茶褐色土 ロームブロック多い。

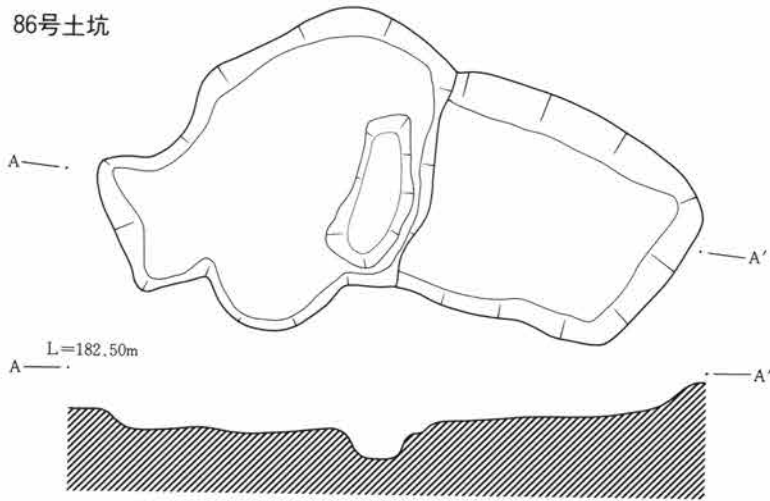


0 1m

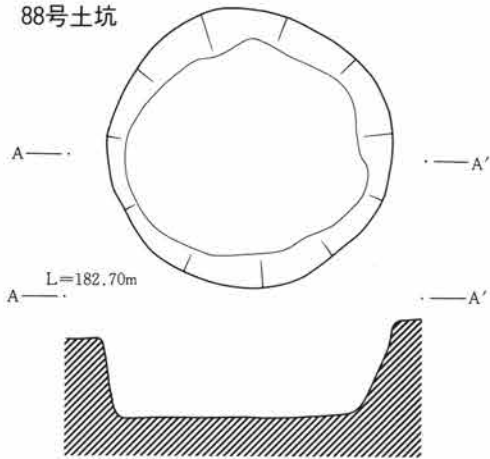
第57図 81・82・83・84・85・87号土坑

第2章 I地区 検出された遺構

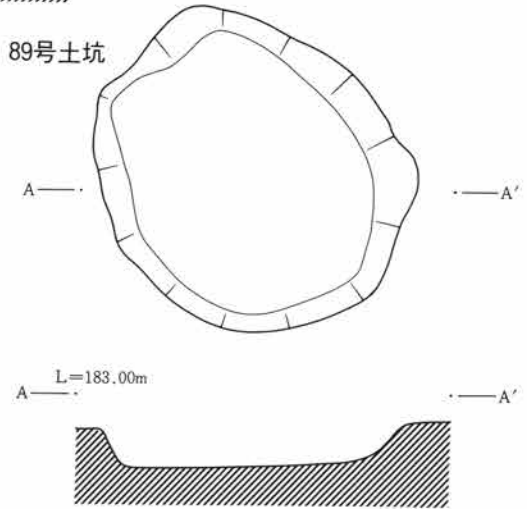
86号土坑



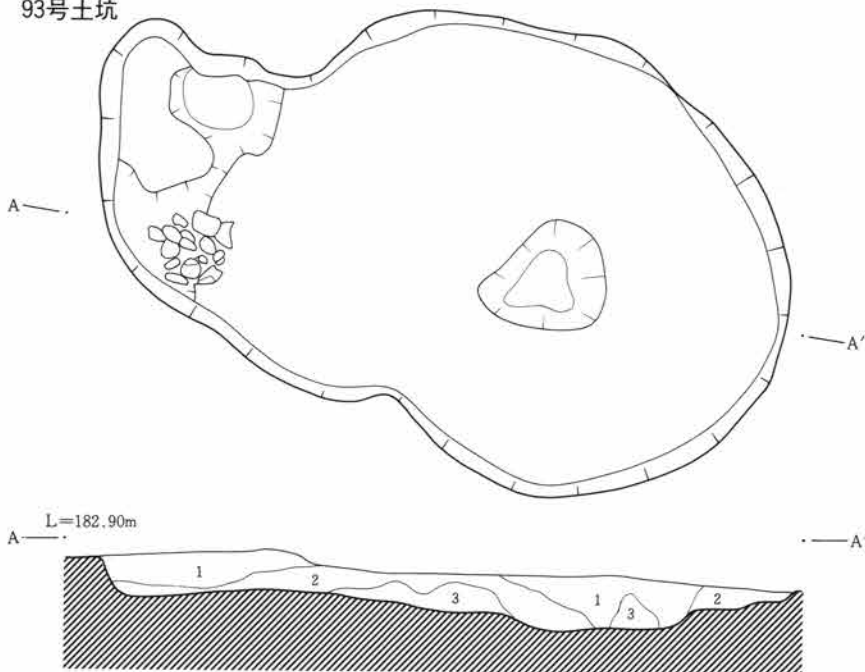
88号土坑



89号土坑



93号土坑



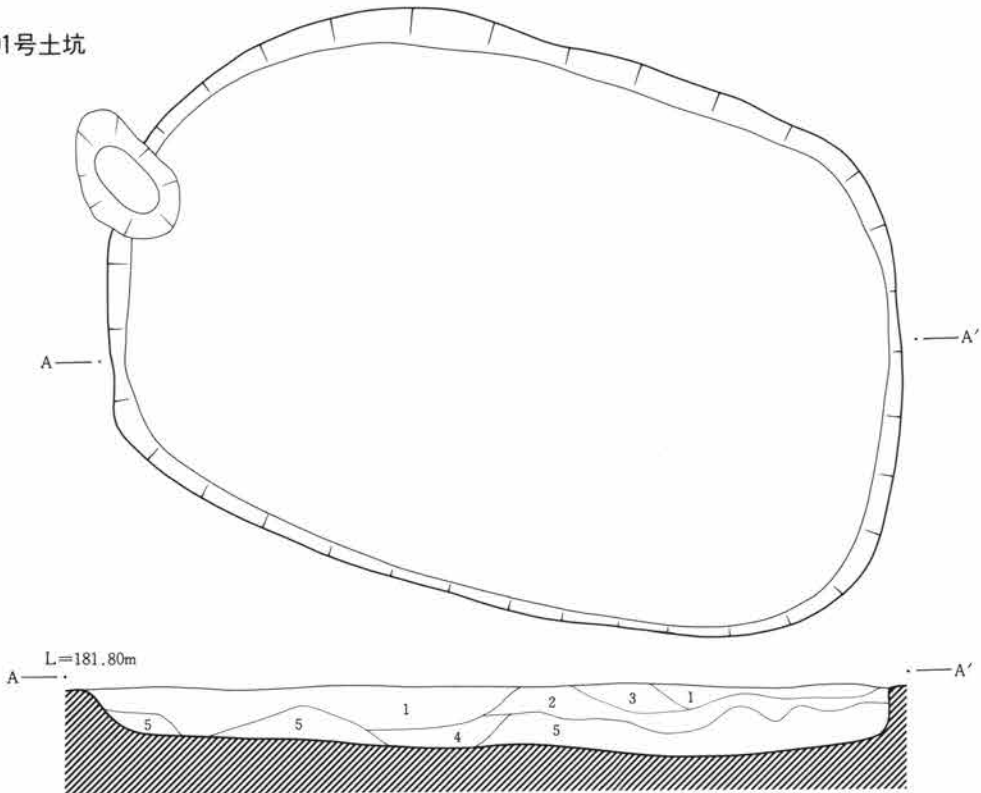
- 1層 暗黄褐色土
φ 1～3mmの
白色軽石粒を
多く含む。
- 2層 黄褐色土
ロームブロッ
クが混入する。
φ 1～2mmの
白色軽石粒少
量。
- 3層 黄褐色土
φ 1～2mmの
白色軽石粒少
量含む。

0 1m

第58図 86・88・89・93号土坑

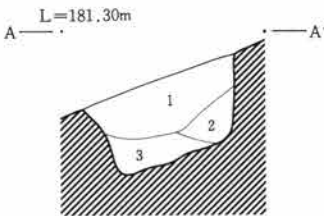


91号土坑



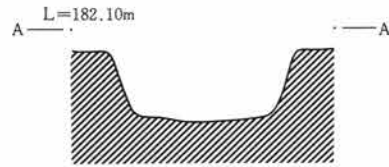
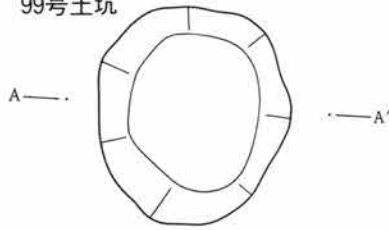
- 1層 黒色土 C軽石混じり。
- 2層 暗黄褐色土 黄色軽石粒多い。
- 3層 黄褐色土 白色軽石粒が少し含まれる。
- 4層 黒褐色土 φ2~4mmの黄色軽石粒が少量含まれる。
- 5層 暗黄褐色土 ロームブロック多い。

98号土坑



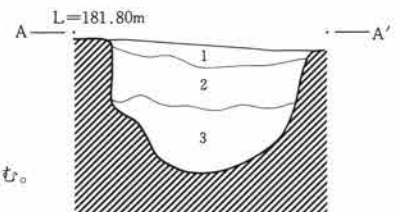
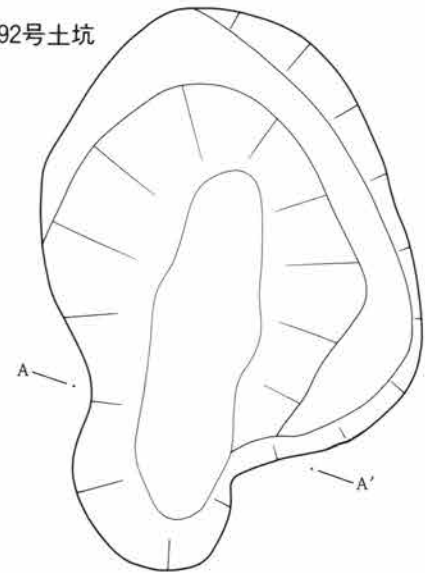
- 1層 黒褐色土 黄色軽石粒多く含む。
- 2層 暗黄褐色土 ロームブロックが多く含まれる。
- 3層 黄褐色土 ロームが多量に含まれる。

99号土坑



- 92号土坑
- 1層 黒褐色土 C軽石混じり。
- 2層 茶褐色土 焼土、炭化物含む。
- 3層 暗茶褐色土 焼土、炭化物含む。

92号土坑

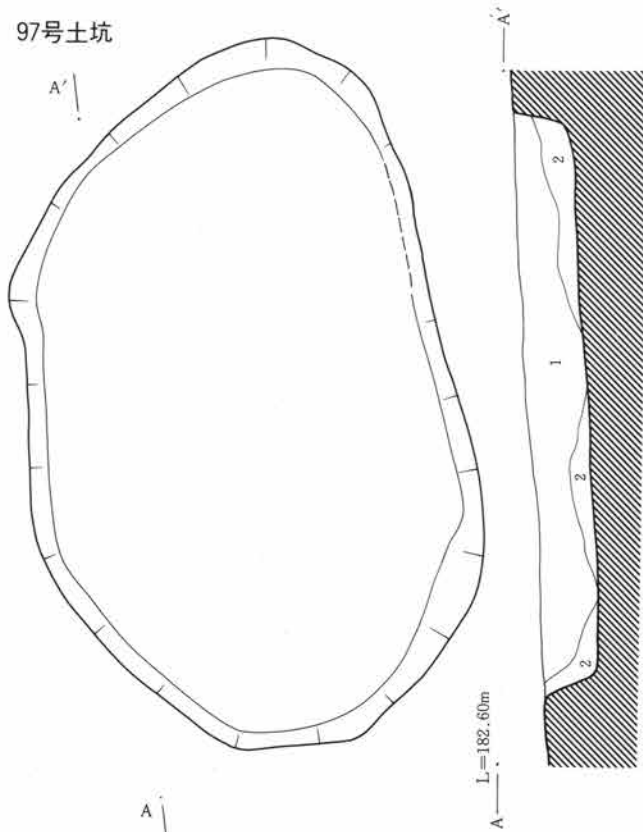


0 1m

第59図 91・92・98・99号土坑

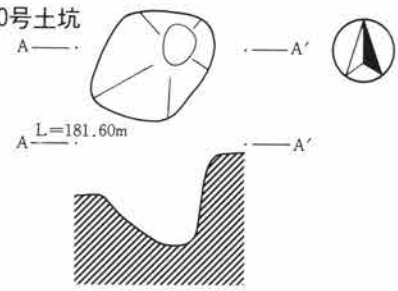
第2章 I地区 検出された遺構

97号土坑

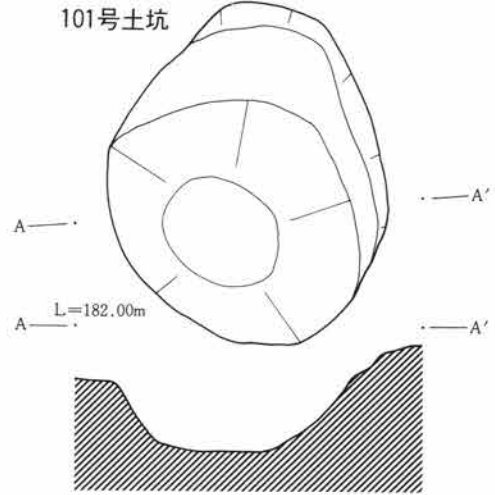


1層 茶褐色土 白色軽石粒、炭化物等が含まれる。
 2層 明茶褐色土 ロームブロック、白色軽石粒などを含む。

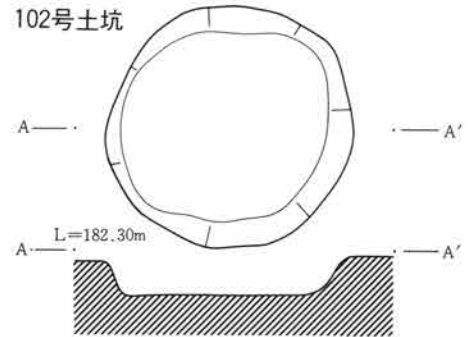
100号土坑



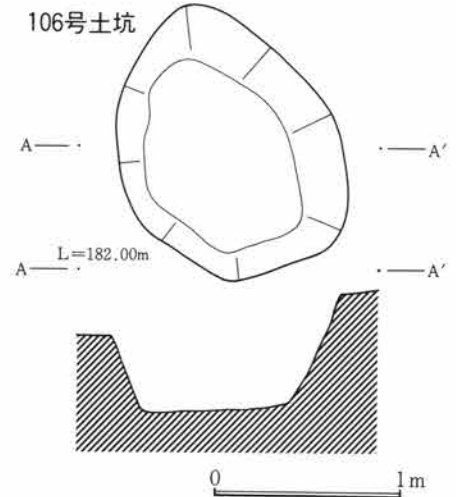
101号土坑



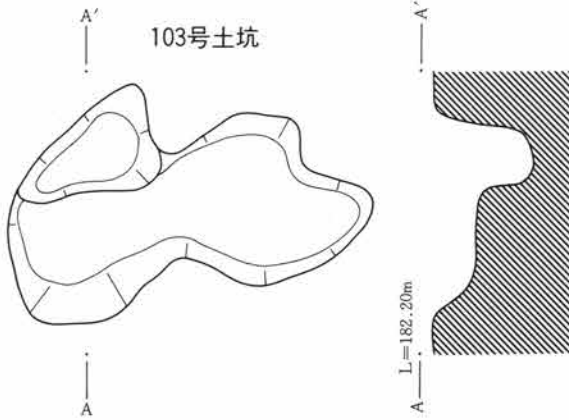
102号土坑



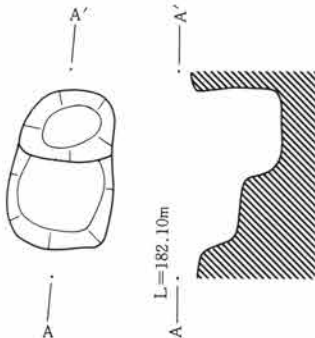
106号土坑



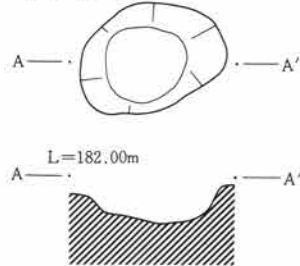
103号土坑



104号土坑



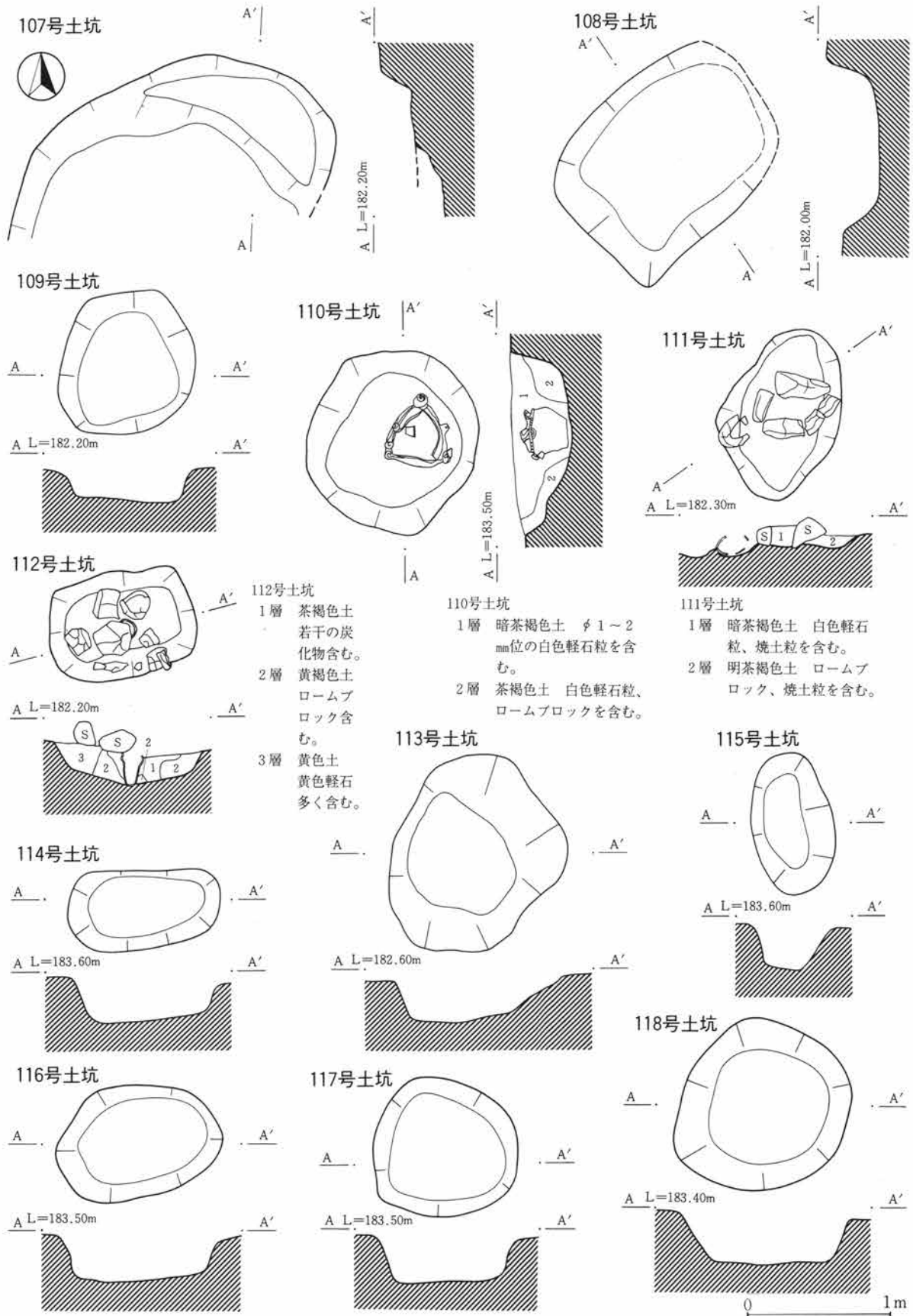
105号土坑



0 1m

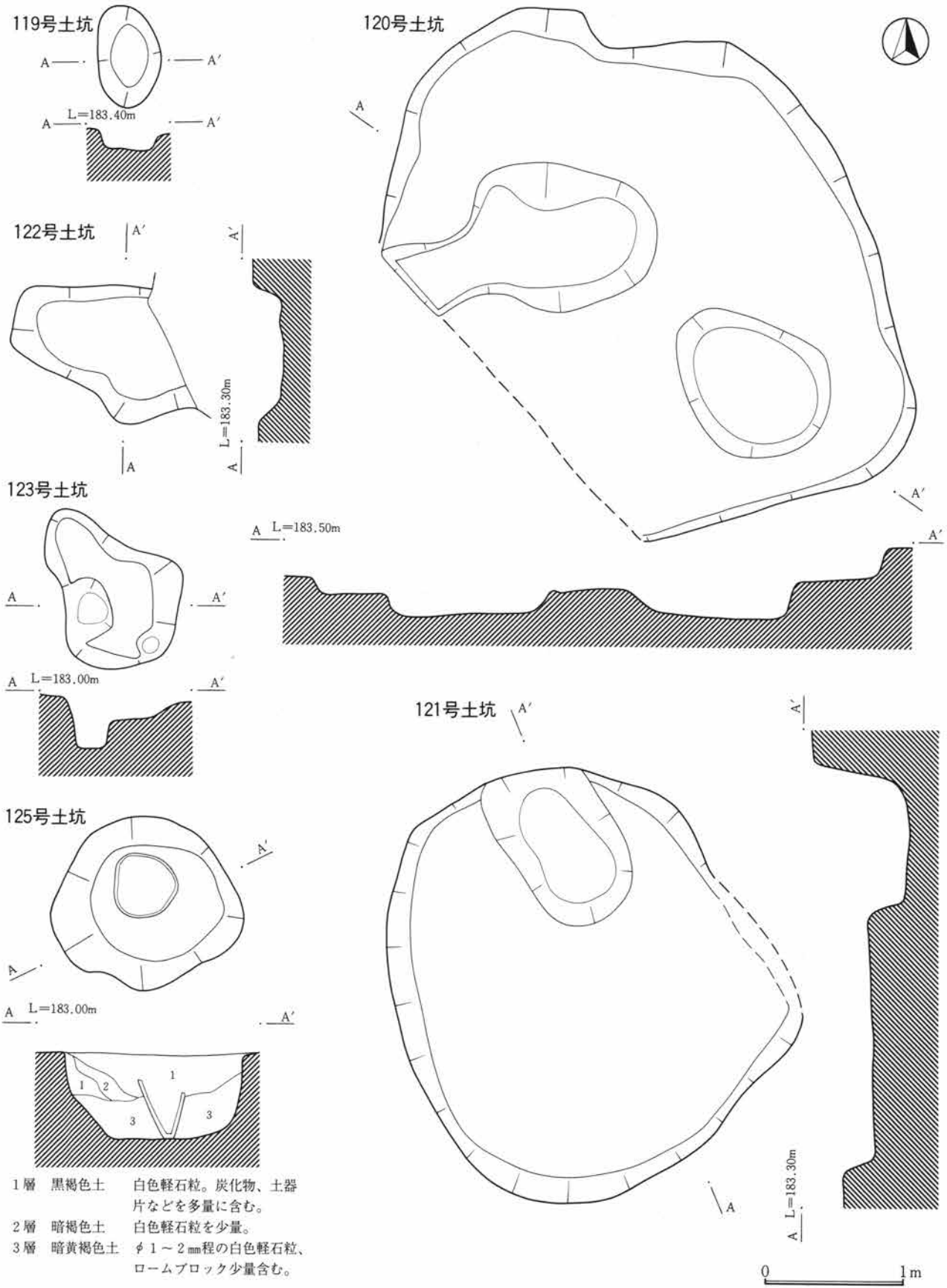
第60図 97・100・101・102・103・104・105・106号土坑

第3節 検出された土坑



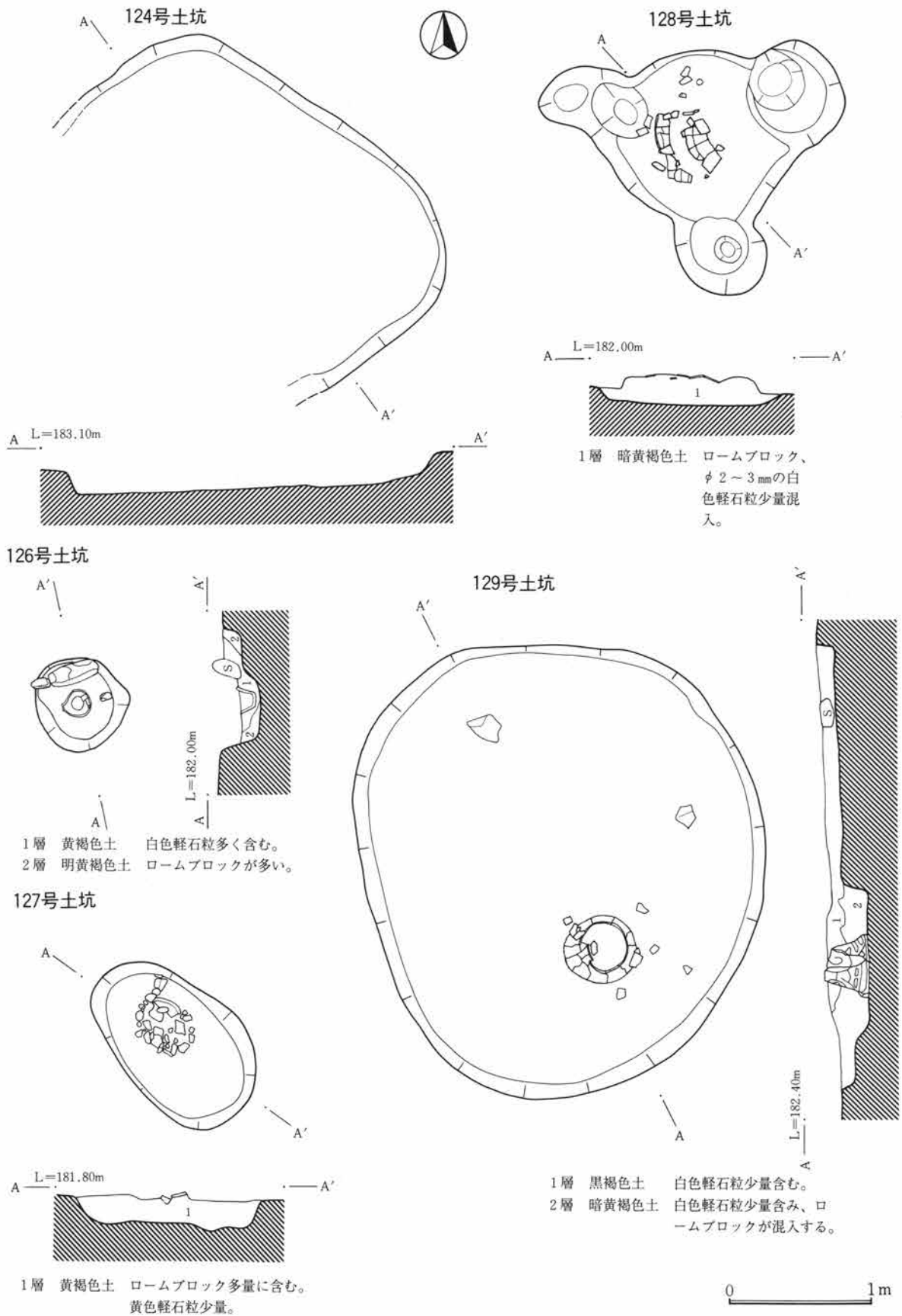
第61図 107・108・109・110・111・112・113・114・115・116・117・118号土坑

第2章 I地区 検出された遺構

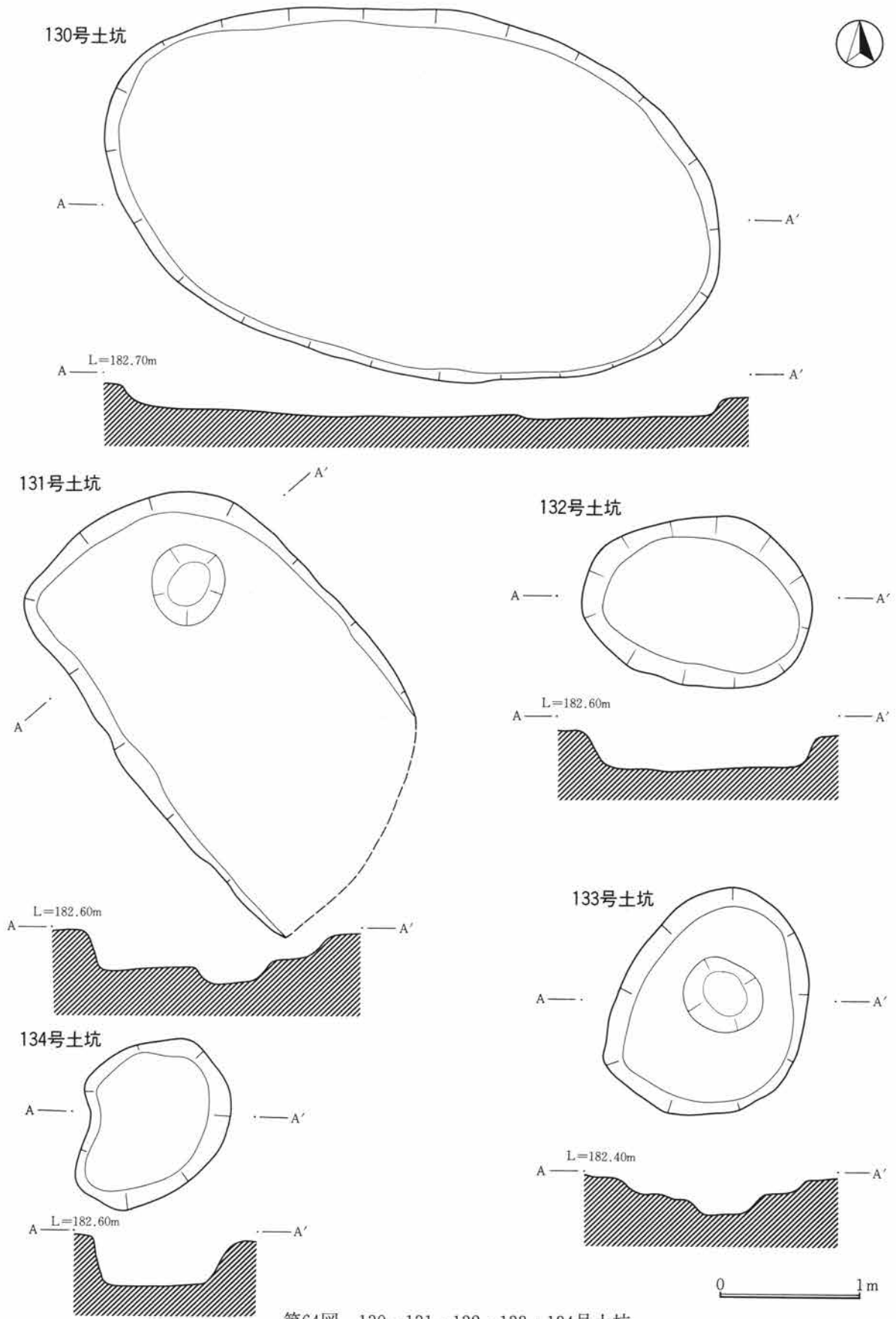


第62図 119・120・121・122・123・125号土坑

第3節 検出された土坑

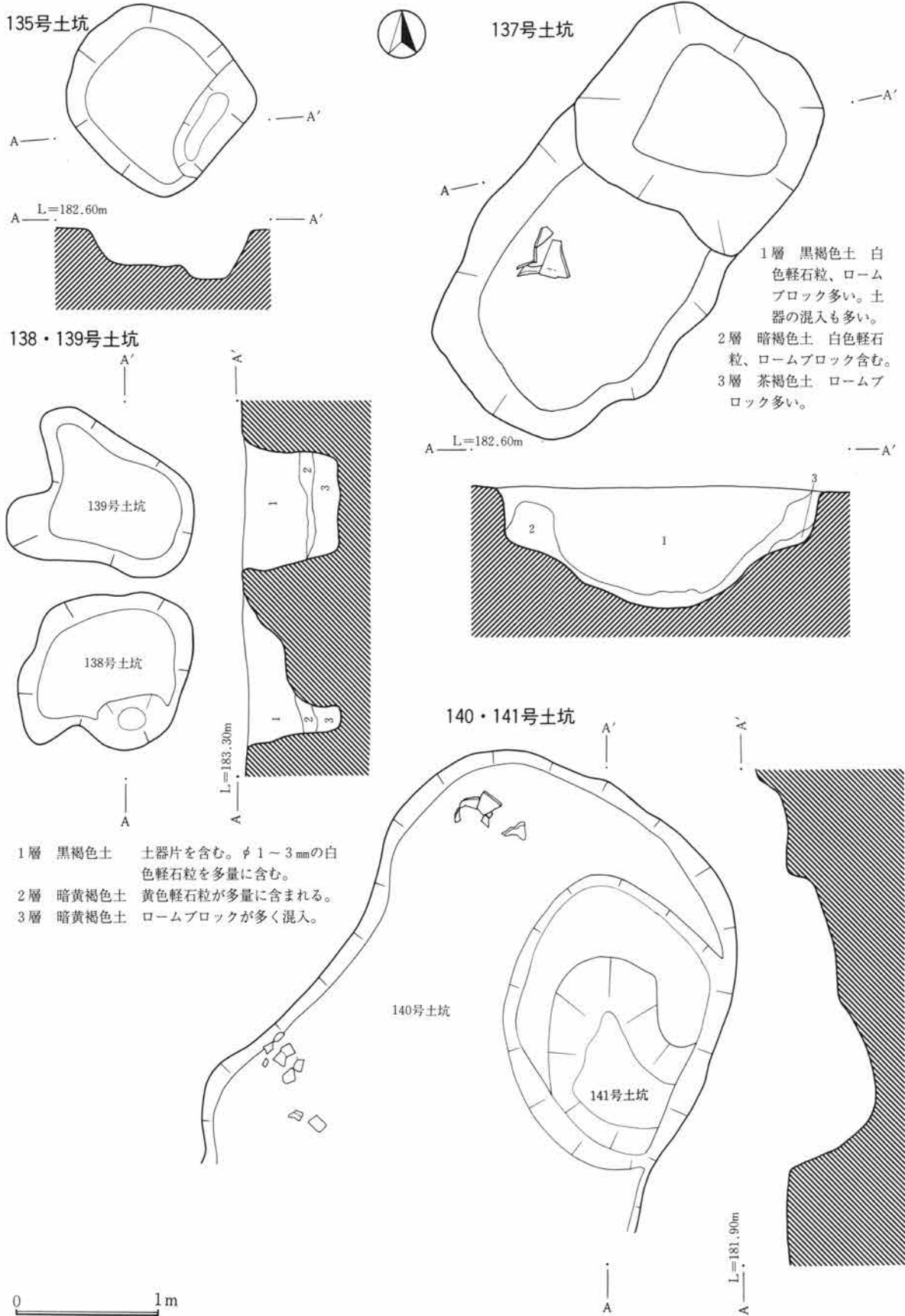


第63図 124・126・127・128・129号土坑



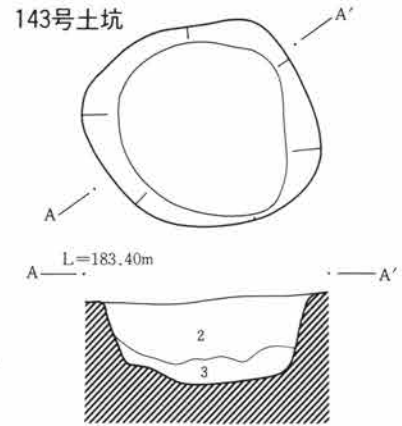
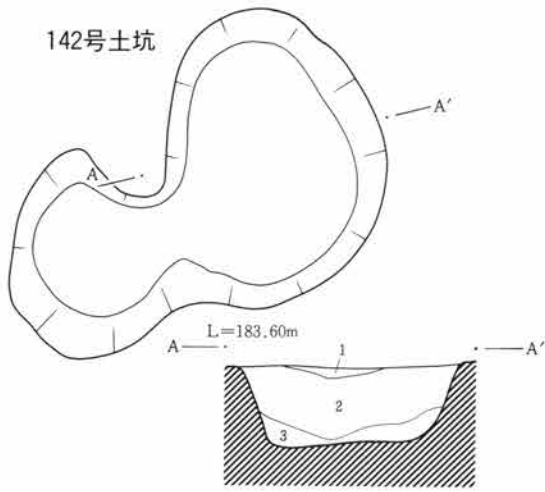
第64図 130・131・132・133・134号土坑

第3節 検出された土坑



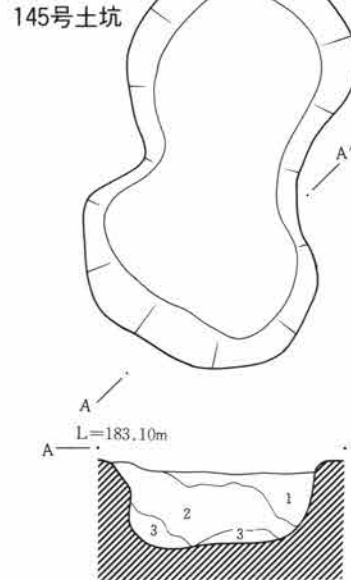
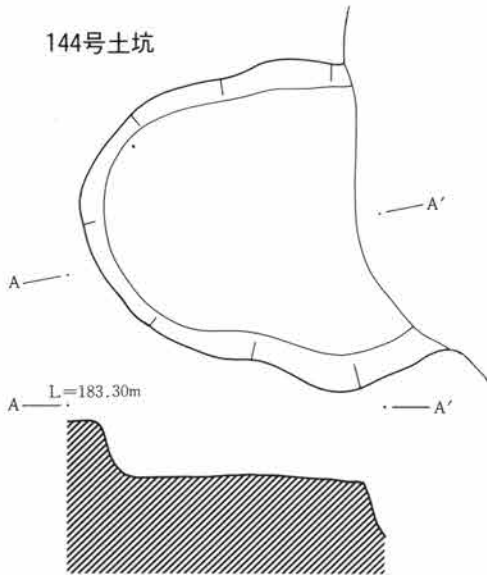
第65図 135・137・138・139・140・141号土坑

第2章 I地区 検出された遺構

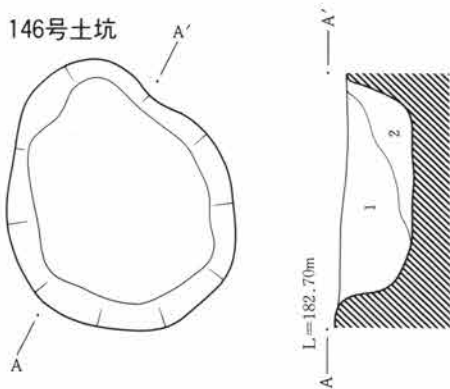


142・143号土坑

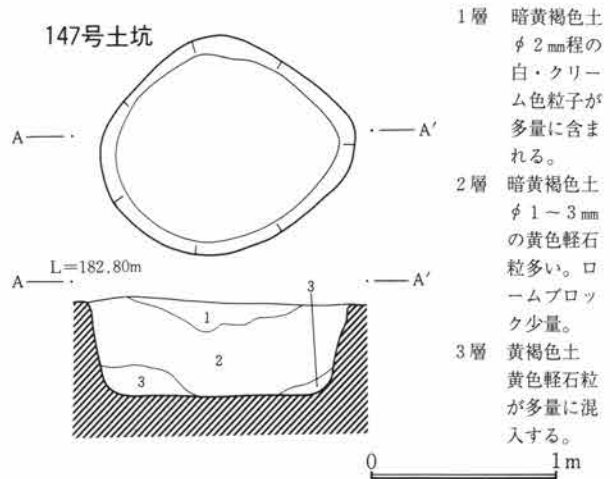
- 1層 黒色土
 ϕ 1～2mm程の
 白色軽石粒少量
 混入。
 2層 黒褐色土
 ϕ 1～2mmの白
 色軽石粒多い。
 炭化物少量混入。
 3層 暗黄褐色土
 ロームブロック
 が多く混入する。



- 1層 黒色土 白色軽石粒少量含む。
 2層 黒褐色土 ϕ 1～3mm程の白色軽石粒多い。
 ロームブロックが少量。
 3層 暗黄褐色土 ロームブロック多い。黄色軽石少量。



- 1層 黒褐色土 ϕ 1～3mm程の白色軽石粒多い。
 2層 暗黄褐色土 ϕ 1mmの白色軽石粒、ロームブ
 ックが多量に混入。

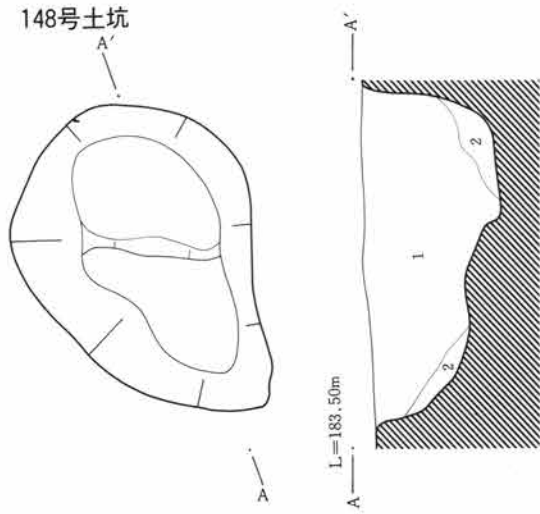


- 1層 暗黄褐色土
 ϕ 2mm程の
 白・クリー
 ム色粒子が
 多量に含ま
 れる。
 2層 暗黄褐色土
 ϕ 1～3mm
 の黄色軽石
 粒多い。ロ
 ムブロッ
 ック少量。
 3層 黄褐色土
 黄色軽石粒
 が多量に混
 入する。

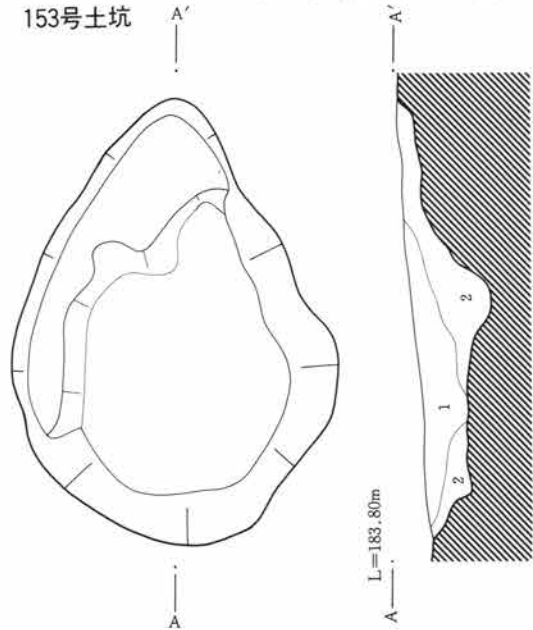
0 1m

第66図 142・143・144・145・146・147号土坑

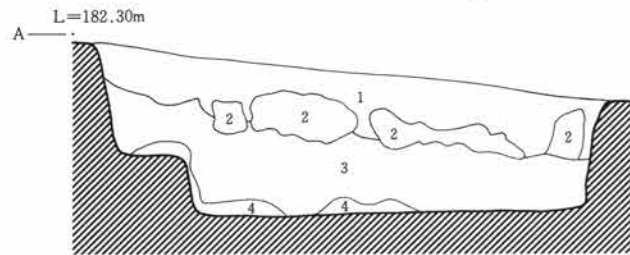
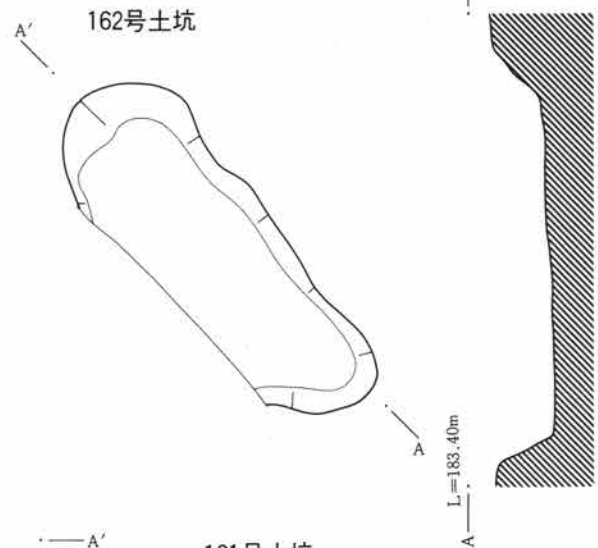
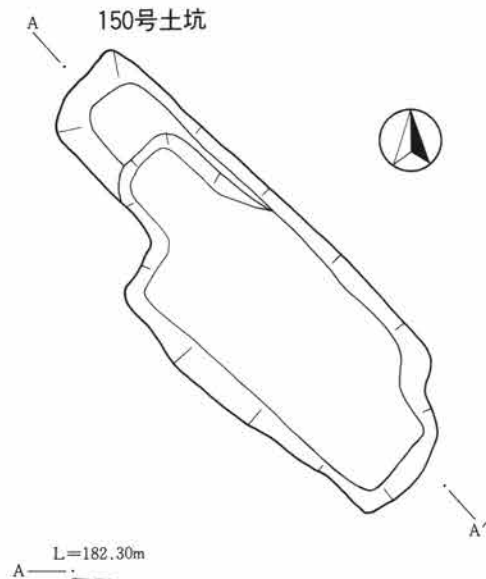
第3節 検出された土坑



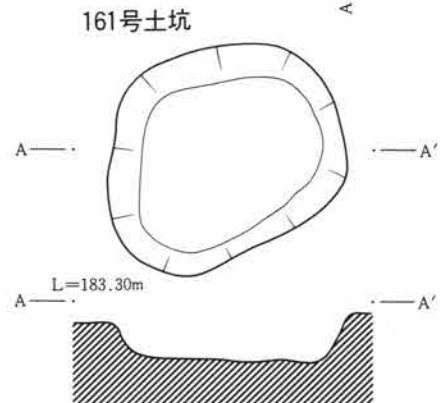
- 1層 黒褐色土 ロームブロックが少し含まれる。土器片が目立つ。
 2層 暗黄褐色土 ϕ 2~3mm程の白色軽石粒多い。



- 1層 黒褐色土 ϕ 1~2mmの白色軽石粒少量含む。
 2層 暗黄褐色土 黄色軽石粒多い。炭化物少量。



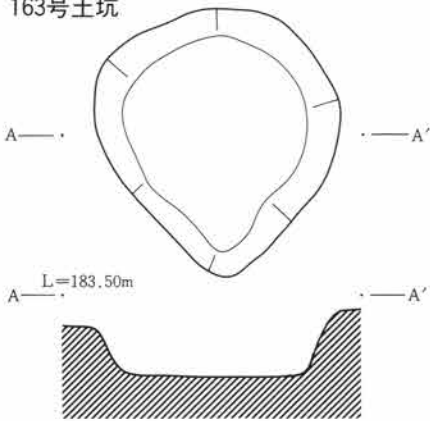
- 1層 黒褐色土 土器片が多く含まれる。黄色軽石粒が混入。
 2層 軽石層 ロームブロック多く含む。
 3層 暗黄褐色土 ロームが多く混入。土器片が含まれる。
 4層 黄褐色土 黄色軽石粒多く含む。



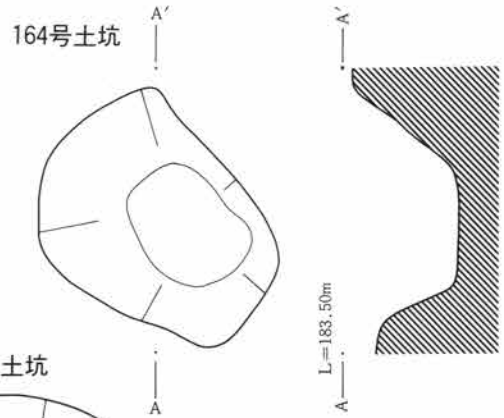
第67図 148・150・153・161・162号土坑

第2章 I地区 検出された遺構

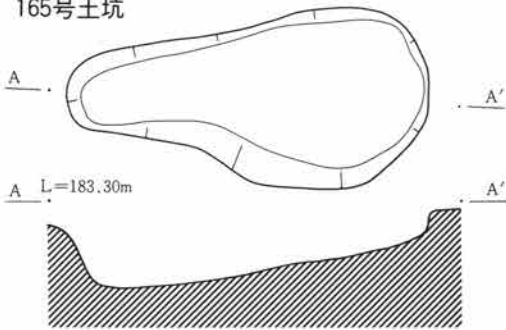
163号土坑



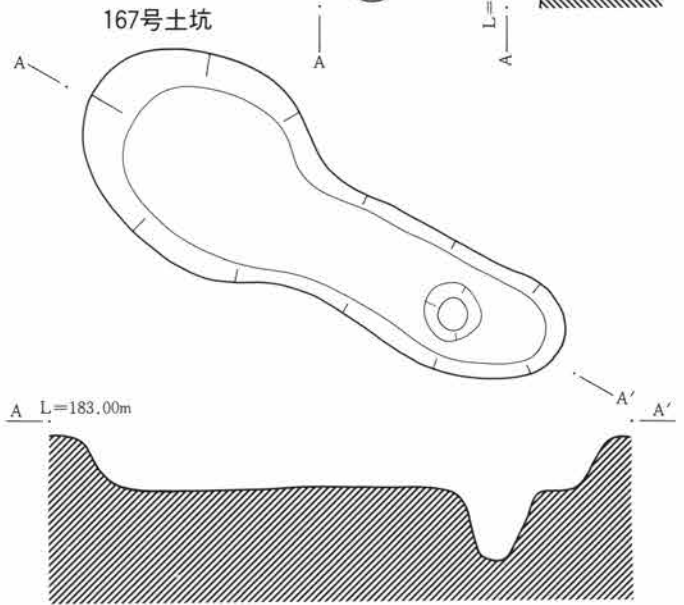
164号土坑



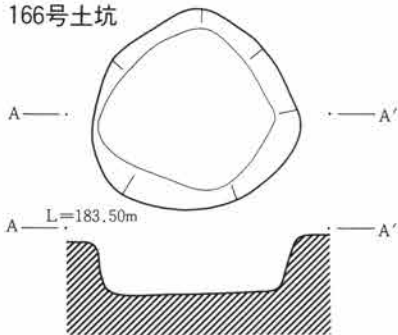
165号土坑



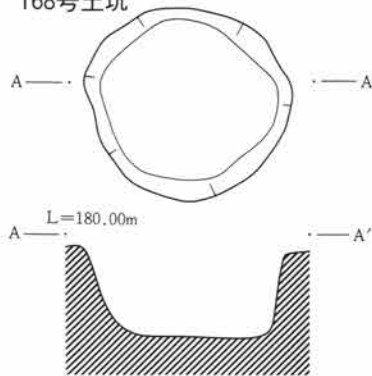
167号土坑



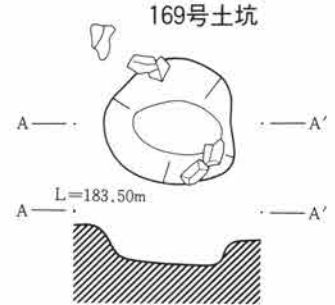
166号土坑



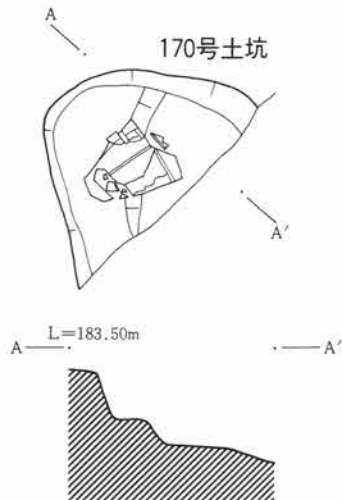
168号土坑



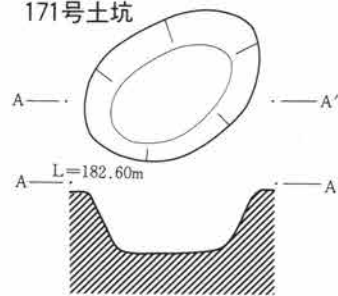
169号土坑



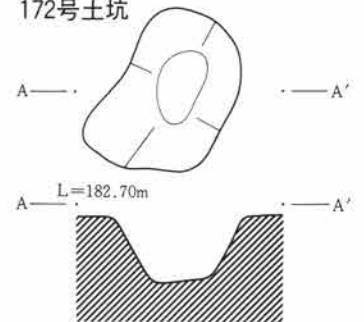
170号土坑



171号土坑



172号土坑



第68図 163・164・165・166・167・168・169・170・171・172号土坑

第3章 II地区 検出された遺構

第1節 遺構の概要

本地区もI地区と同様に縄紋時代の遺構を主体としている。加曽利E式期の住居址・土坑等多数検出されている。本地区からは、住居址34軒、土坑221基、その他石組列や配石遺構9基が検出された。その他溝が検出されているが、近現代以降に耕作によって作られたものである。

遺構分布 本地区から検出された中期中葉の住居址は加曽利E式のもので、舌状に広がる台地の東側斜面縁辺部に沿って多く作られている。住居の配置を見ると、加曽利E式の前半はI地区の住居址群と対をなす形で台地の東側の傾斜変換点寄りに作られている。加曽利E式終末の敷石を持つ住居址は、台地の西側中央寄りに作られる傾向が見られた。土坑は、住居址群の内側、住居址群との重複、東側の傾斜面に作られるものがある。石組列や配石遺構は、中央部の住居址の分布していないところに作られている。

住居址 各住居址の形態及び諸特徴については、第70図から第108図に示すとおりである。住居形態は、円形を基本としているもの、隅丸方形になるものがある。柱穴は、不規則ながら壁に沿って同心円上に作られるものが多い。炉は、石囲い炉・埋甕炉・地床炉がある。石囲い炉には、炉内に埋設土器を持つもの、石囲い炉に接して埋設土器があるものがある。床は、基本的にはローム層を床面としているが、I地区の住居址と比較して、ロームの性質が異なるためか床の硬化の度合いが弱い。壁際には周溝を持つものと持たないものがあるが、土の見極めが難しく周溝を確認できたものは少ない。

土坑 土坑は第109図から第151図に示した。土坑の形態は、円形を基本としたもの、楕円形、不整形などバリエーションが多い。形態や集落内の作られた場所により、その機能に違いが考えられる。機能としては、貯蔵穴・墓壙等考えられるが遺物の整理を待って詳しく検討したい。また、埋設土器についても、本報告書では、土坑の項目に含めた。住居内からも埋設土器は、出土しているのであるが、住居外に単独で検出されたもので、埋設土器に伴う遺構が確認出来なかったものについても土器の埋設状況を掲載した。これらの埋設土器は、住居址の間から検出されるものが多い。

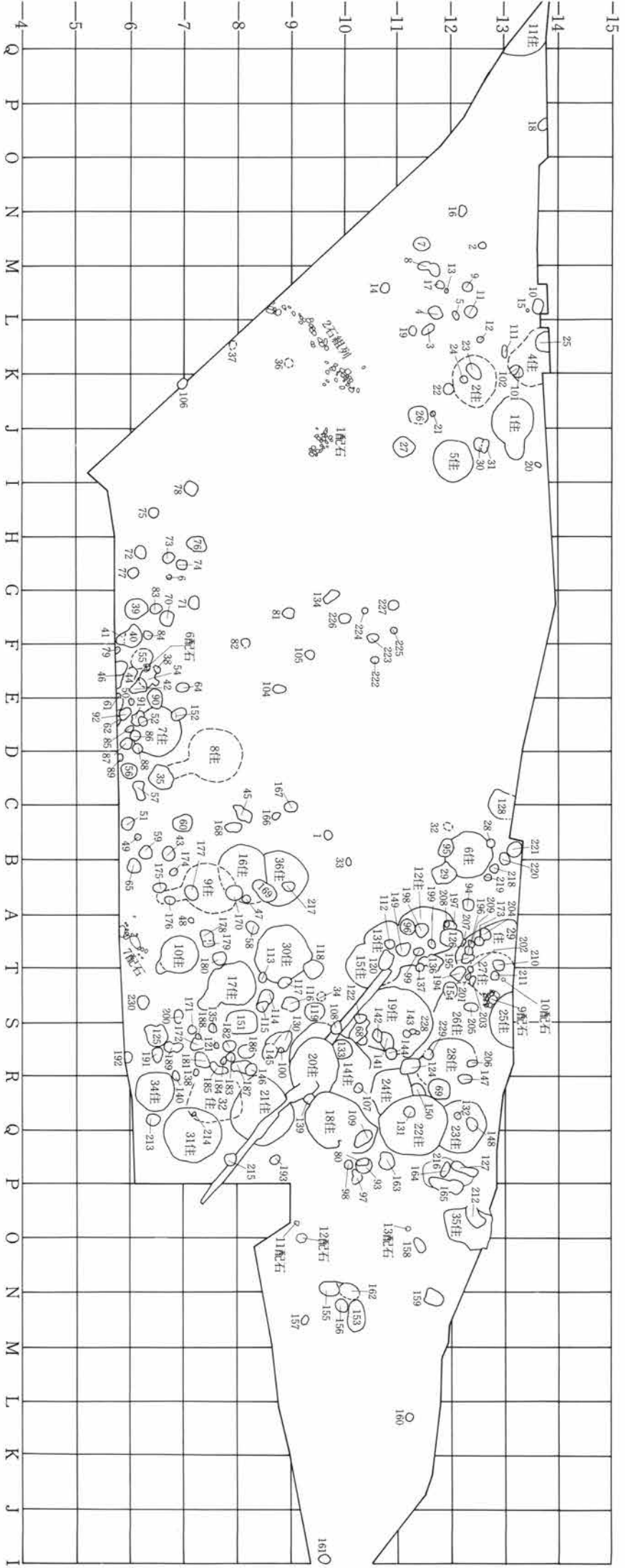
石組列・配石遺構 石組列遺構、配石遺構は第152図から第154図に示した。石組列遺構は、I地区の住居址群とII地区の住居址群の間から検出された。礫の中には、大型の多孔石等がある。周辺からは、その他の遺構や掘り込みは確認されなかった。集落内の何らかの施設と考えられるが、現段階ではその性格などは確定できない。その他、土坑の上部に小礫を集合させた配石遺構も確認されている。遺跡内に点在するもので、数量的には多くない。配石遺構からは、焼土炭化物等が確認されている。

土層の堆積状況 本地区検出の住居址は、現地表面から遺構構築面までが浅く、耕作による攪乱によって破壊された部分が多い。また、縄紋時代の文化層から現地表面までの堆積層が薄いため、耕作による攪乱を多く受けている。このため掘り込みの浅い住居址については、覆土がほとんど見られず、地山との区別が困難なものもあった。

遺物出土状態 現耕作土から遺構確認面までが浅く、攪乱を多く受けていた。掘り込みの浅い遺構は、遺物も攪乱の影響で、小破片になったものが多く原位置から動いている場合が多い。住居の遺物出土状況は、覆土上層に土器の小破片が多く、床面からは完形になるような土器の出土は少なく住居内に1个体程である。それ以外では炉内や床面に埋設してある土器が見られた。床面から出土する石器は、大型の扁平な台石や石皿、凹石、多孔石等が床に据え付けた状態で出土しているものもある。



14区 ← → 13区



第69图 II地区遺構图



第2節 検出された住居址

Ⅱ地区1号住居址 (第70・71図 PL45・46)

位置 14区I～J-12～13。Ⅱ地区調査区の北西部に位置する。西側には、2号住居、4号住居があり、南には5号住居がある。これらの住居でⅡ地区西側に住居群が構成される。

形状 柄鏡型を呈する。本体は、南北3.8m、東西4.2m。柄部は長さ1.5m、巾0.9mを測る。本体の形状は、円形に近い。柄部は中央で若干膨らむ。

壁 柄部と本体では若干のレベル差がある。本体は、壁高30cmを測る。掘り込みはローム層にたっており、壁面としている。比較的急角度で立ち上がる。柄部は礫を立てて壁面としている。

覆土 上層には、現耕作の攪乱が入る。下層では、軽石粒、ロームブロックが入り込んでいる。人為的な埋没と考えられる。

床面 本体床面には、偏平な礫を敷いていたと考えられる。現状では敷石の大多数が動いており、住居廃止時に壊した可能性がある。柄部は敷石がほぼ原形のまま残っていた。北側の壁になる石が抜きとられている。床には偏平な礫を置き、側壁に丸味のある細長い礫を置いている。本体の掘り方床面は、ローム層を床面としている。凹凸が少なく平坦であることから、一部に石を敷いていたとも考えられる。本体床面と、柄部床面では、10～15cmのレベル差が認められた。

柱穴 壁直下にはほぼ等距離に柱穴が作られている。柄部には2本ずつ対になる柱穴が4本作られている。

炉 住居のほぼ中央に炉が確認された。1.5×1.0mの長方形の掘り込みに礫を置いた石囲い炉と考えられる。現状では、炉石は抜き取られていた。炉内には、焼土粒、炭化物が堆積していた。

遺物 覆土中からは、土器の小破片、偏平な礫等が出土している。本体と柄の接合部と、柄の先端部に埋設土器が確認された。

Ⅱ地区2号住居址 (第72図 PL47)

位置 14区J～K-12。Ⅱ地区調査区の西側にある。北側に1号住居、4号住居、南東に5号住居が位置する。

形状 現地表から、遺構確認面までが浅く床面を残して削平されている。遺物分布範囲と、床の硬化面から楕円形を呈すると推定した。推定長は南北4.2m、東西4.7mを測る。

壁 上部を削平されているため、確認できなかった。

覆土 耕作土による攪乱。

床面 ローム層を床面としており、周囲に比較して硬化している。特に炉周辺は硬化している。

柱穴 確認されなかった。

炉 住居のほぼ中央に径50cm、深さ20cm程の窪みを作り、土器片と、礫を組み合わせる炉を作っている。炉内には、焼土、炭化物の堆積がみられた。

遺物 土器片が少量住居内に分布していた。

Ⅱ地区4号住居址 (第73図)

位置 14区J～K-13。Ⅱ地区調査区の西側住居群にある。1号住居、2号住居に隣接している。

形状 住居上部は耕作等による削平を受けている。また北半部は調査区外のため、現況で不整形を呈すると思われる。床面の硬化範囲からの推定径は、東西で5mを測る。

壁 上部を削平されているため、確認できなかった。

覆土 耕作土による攪乱。

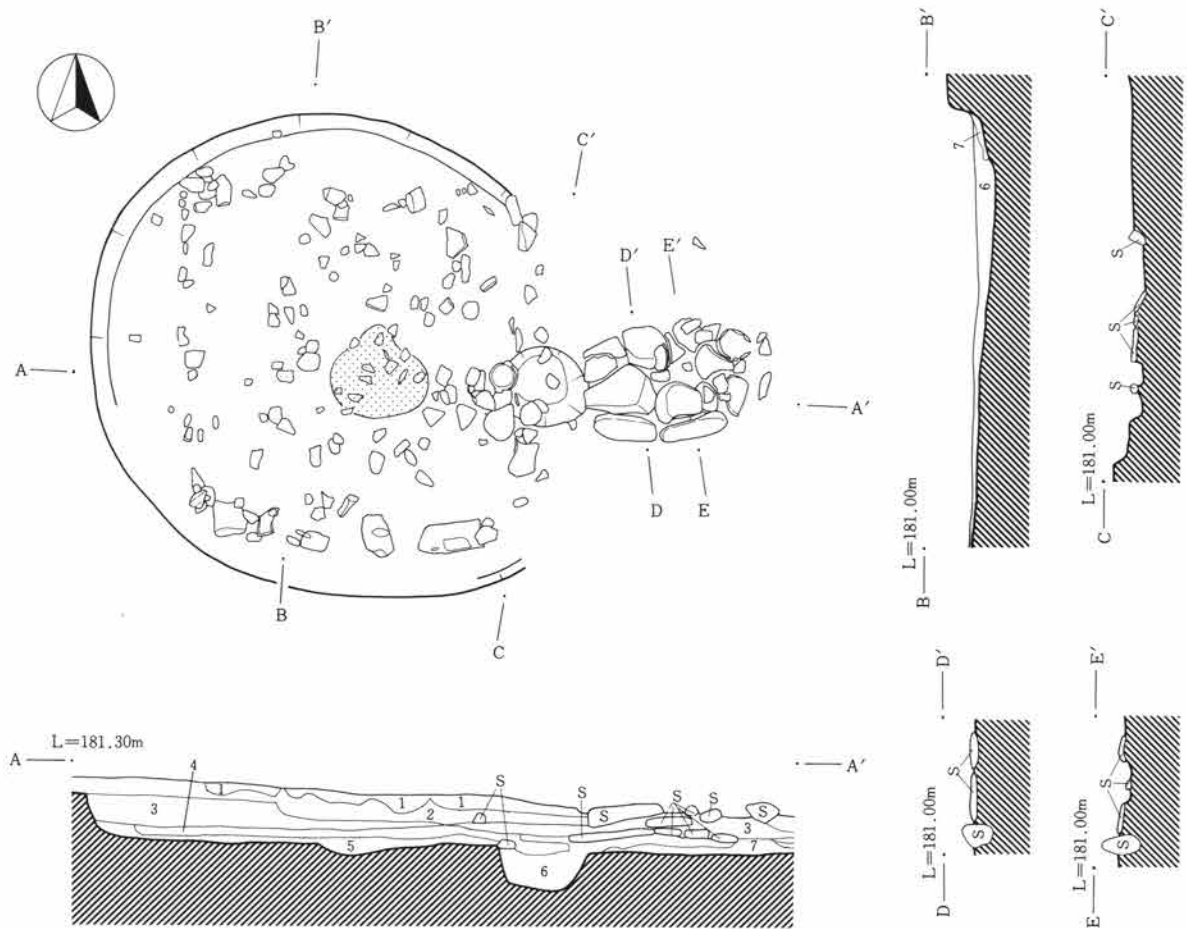
床面 ローム漸移層を床面としているため、全体に軟らかであるが、周囲より若干硬化している部分を住居範囲とした。

柱穴 確認されなかった。

炉 確認されなかった。

遺物 住居範囲には周囲と比較して土器片、礫、石器等が多く集中して分布している。このことから本遺構を住居とした。

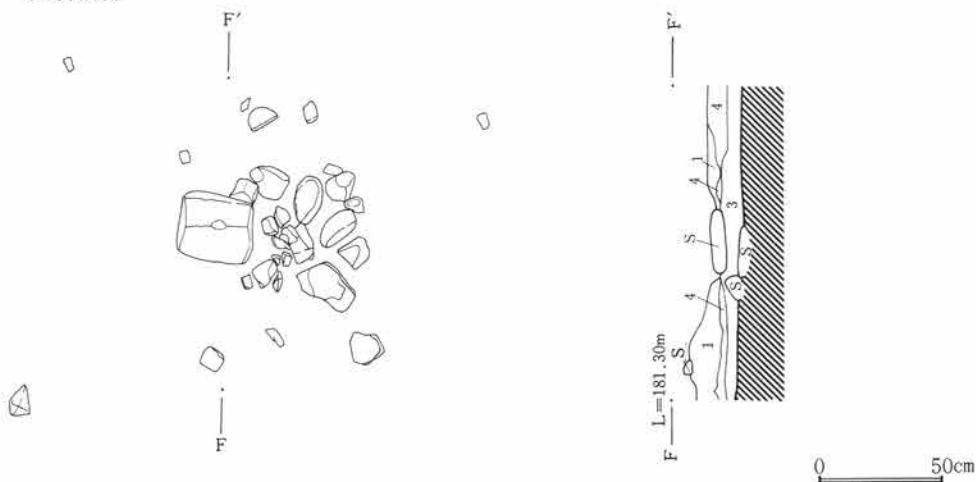
第3章 II地区 検出された遺構



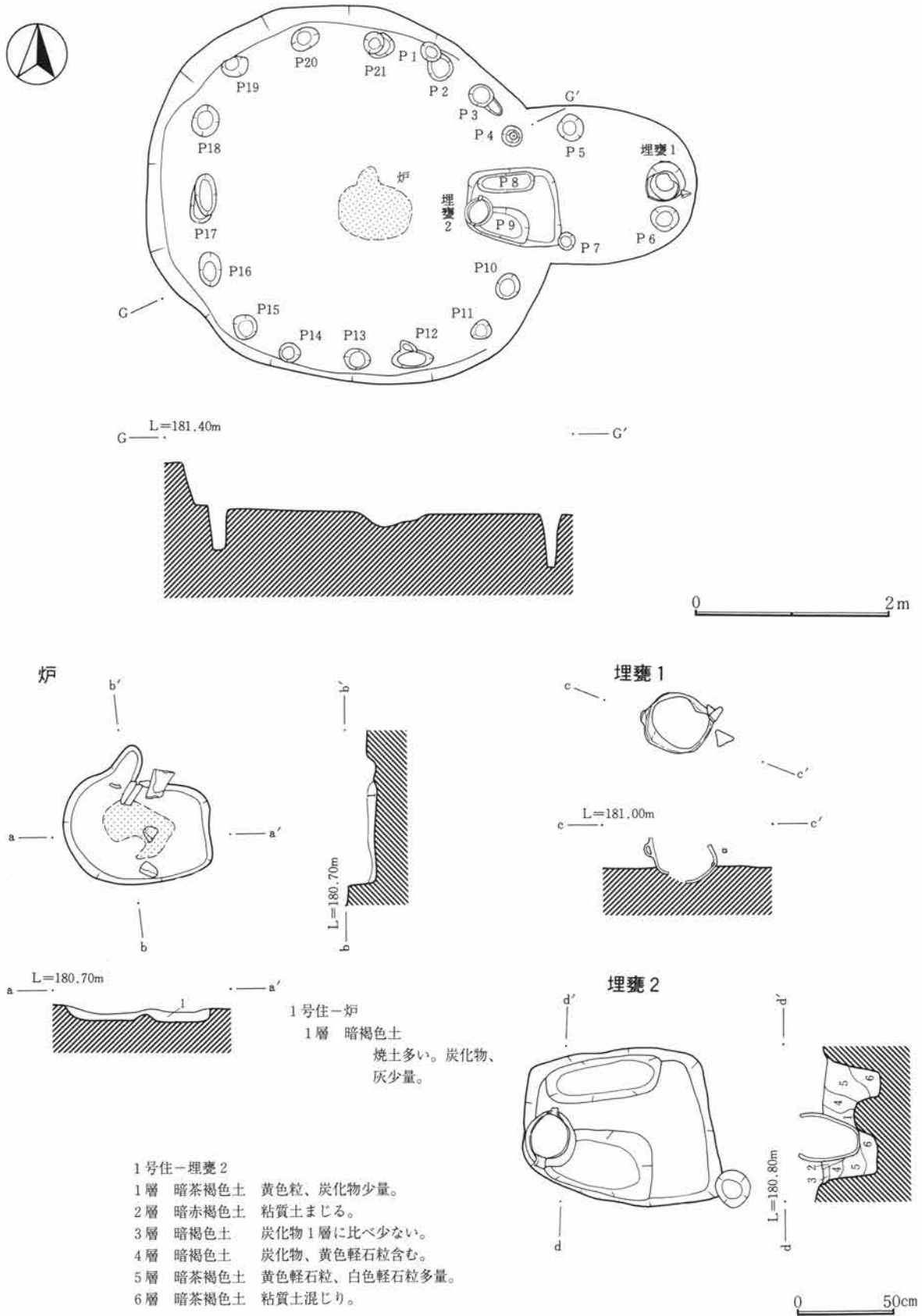
- 1号住埋土
- | | | | |
|----------|-------------------|----------|---------------------|
| 1層 黒褐色土 | C 軽石混じり旧耕作土。 | 4層 暗赤褐色土 | B、P 軽石粒、室沢パミス含む。 |
| 2層 明茶褐色土 | 茶褐色土ブロックが鹿の子状に入る。 | 5層 暗茶褐色土 | B、P 軽石、炭化物、灰、焼土粒含む。 |
| 3層 暗赤褐色土 | B、P 軽石粒多量。 | 6層 茶褐色土 | 室沢パミスを少量含み、粘質。 |
| | | 7層 暗茶褐色土 | 粘質土を多く含み、室沢パミス少量含む。 |

0 2m

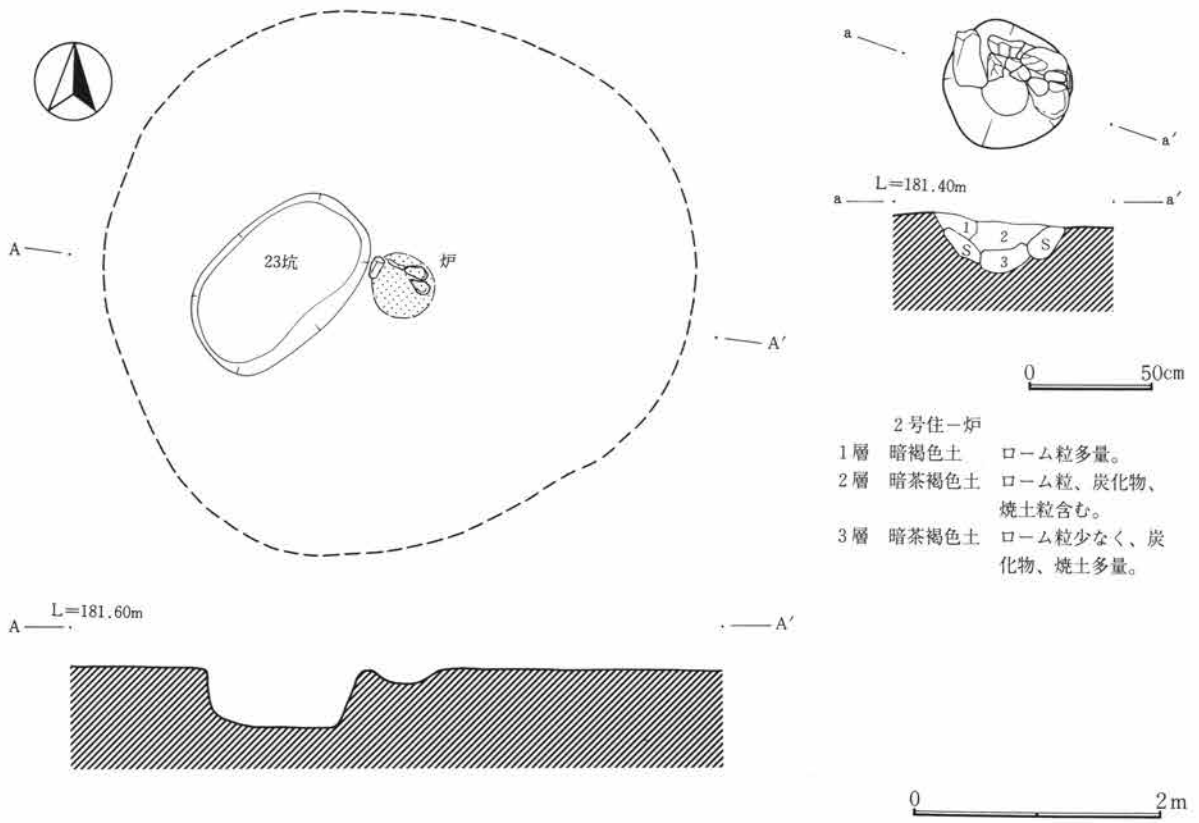
住居柄部



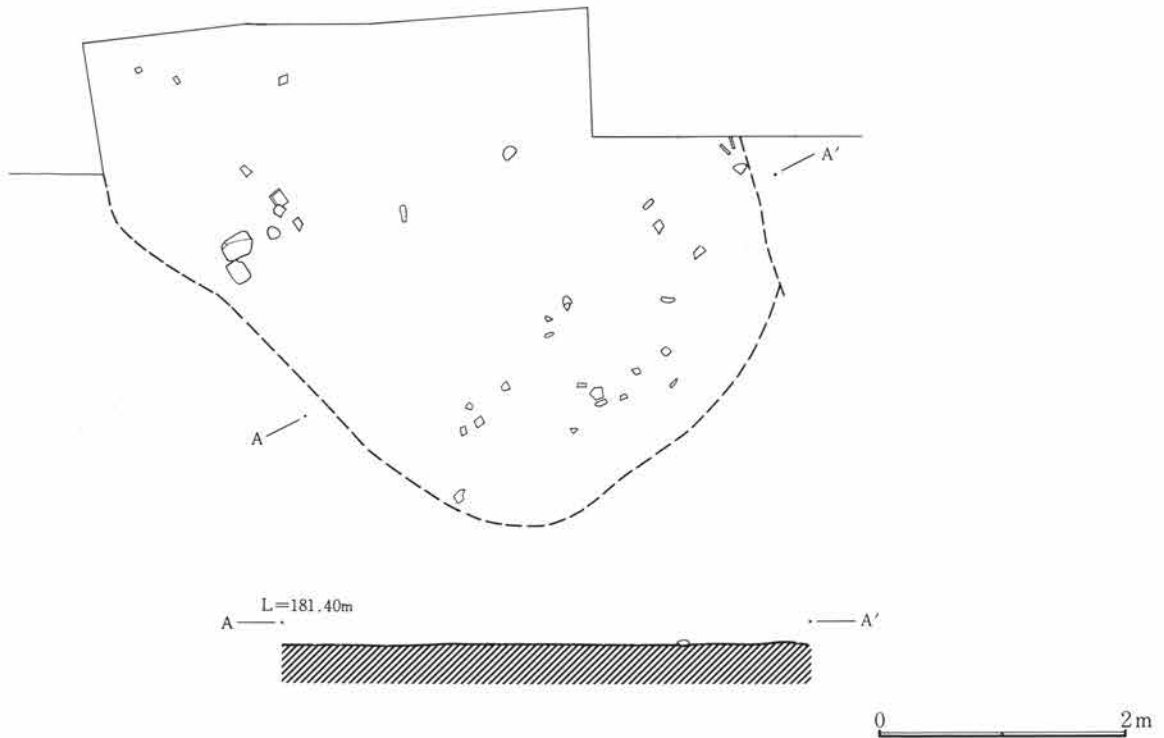
第70図 1号住居址・炉址



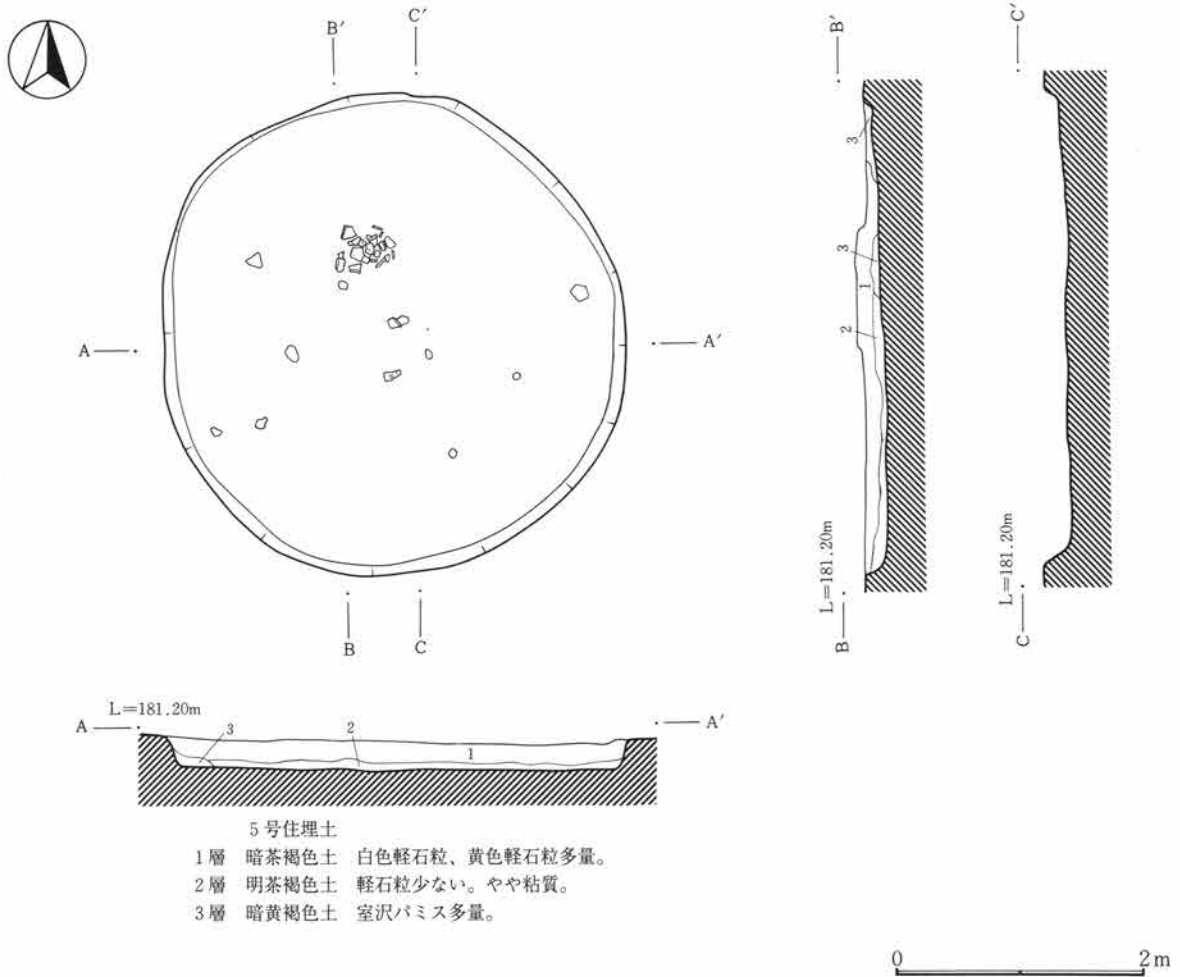
第71図 1号住居址・内施設



第72図 2号住居址・炉址



第73図 4号住居址



第74図 5号住居址

II地区5号住居址 (第74図 PL47)

位置 14区I-11~12。II地区調査区の西側に位置する。北西側に1号住居、2号住居がある。 **形状** 東西3.8m、南北3.7mを測る。ほぼ正円に近い形をする。 **壁** 壁高は15~25cmを測る。垂直に近い急角度で立ち上がる。掘り込みはローム層までたっしており、壁面としている。 **覆土** 土の流入状態をみると上層に軽石粒が多く、下層に少ない。 **床面** ローム層を床面としており、住居中央部は硬化している。壁近くの周辺部は軟らかい。凹凸は少なく全体に平坦である。 **柱穴** 確認できなかった。 **炉** 床面には、焼土や炭化物等の堆積も見られない。 **遺物** 覆土中から土器片、礫、石器等が出土しているが、量は多くない。

II地区6号住居址 (第75図 PL48)

位置 14区A~B-11~12。II地区調査区の東側斜面、弧状に分布する住居群の北西端に位置する。東側には、12号住居、29号住居がある。 **形状** 南北4.5m、東西4.2mを測る。北西側で若干ゆがみを持つが、

第3章 II地区 検出された遺構

ほぼ正円に近い形を呈する。壁 壁高は、20cm前後とあまり高くはない。立ち上がりは垂直に近い急角度の所とややゆるやかに立ち上がる所がある。覆土 軽石粒、ロームブロックが乱雑な堆積状況を示すことから、人為的な埋没と考えられる。中央部には、土坑が重複していることが土層より確認できた。床面 掘り込みが浅くローム漸移層を床面としている。全体に床面は、軟らかい。一部にローム層による硬化部分があった。凹凸は少なく平坦である。中央部に本住居より新しい土坑が重複している。炉 確認できなかった。中央部に土坑が重複しており、炉石と思われるような礫も出土していることから、土坑によって炉が壊された可能性もある。遺物 覆土中からの遺物出土量は多い。土器、礫等が、住居廃棄後の窪地に投棄、流入した様子を示す。

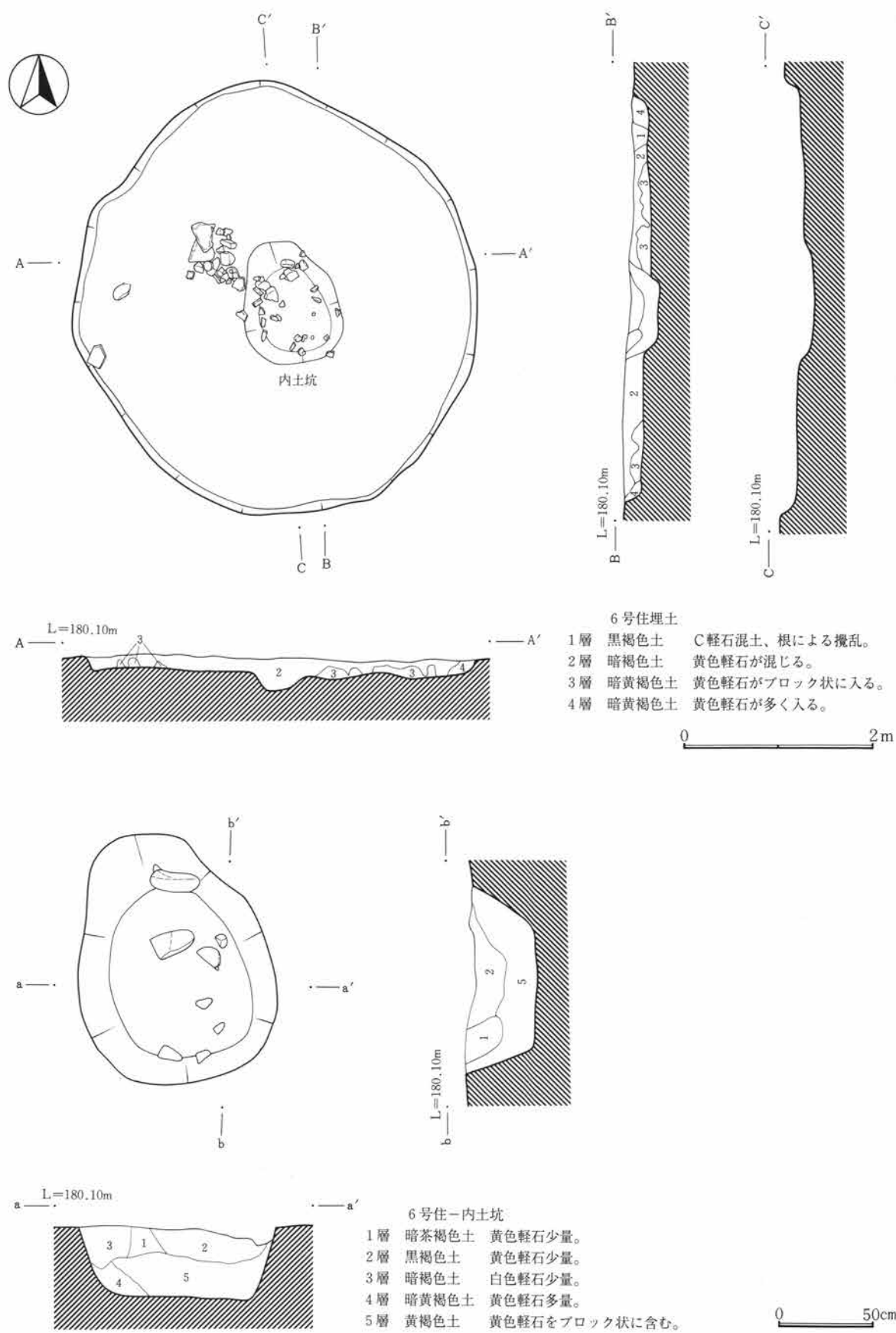
II地区7号住居址 (第76図 P L47)

位置 14区C～D-6。II地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の西南端にある。8号住居の南側に位置する。形状 東南側は削平されている。現状の確認部分で、4.7mを測る円形を呈する。壁 掘り込みが浅く、壁高は高い所で10数センチを測る。立ち上がりは、垂直に近い角度である。壁面はローム漸移層で、覆土との区別が困難であった。覆土 掘り込みが浅く、ロームブロック、軽石粒が混入している。人為的な埋没と思われる。床面 ローム漸移層を床面としており、全体に軟らかくなっている。炉周辺部に若干の硬化面がみられた。現在の耕作によるいも穴によって、床面の多くが壊されている。そのためか床面に凹凸がみられた。柱穴 柱穴状のものは確認できなかった。炉 住居のほぼ中央に石囲い炉に土器を埋設したものが検出された。径65×70cm、深さ15cm程を掘り窪め、その周囲を礫で囲い、土器を埋設している。炉内には、焼土、炭化物等が堆積している。遺物 覆土中からは土器の小破片が出土しているが量は多くない。床面近くからは、偏平な礫が多く出土している。また住居南東寄りでは、深鉢を伏せた状態で出土している。上半部は削平されているが、口縁部付近の残りは良い。

II地区8号住居址 (第77図 P L47)

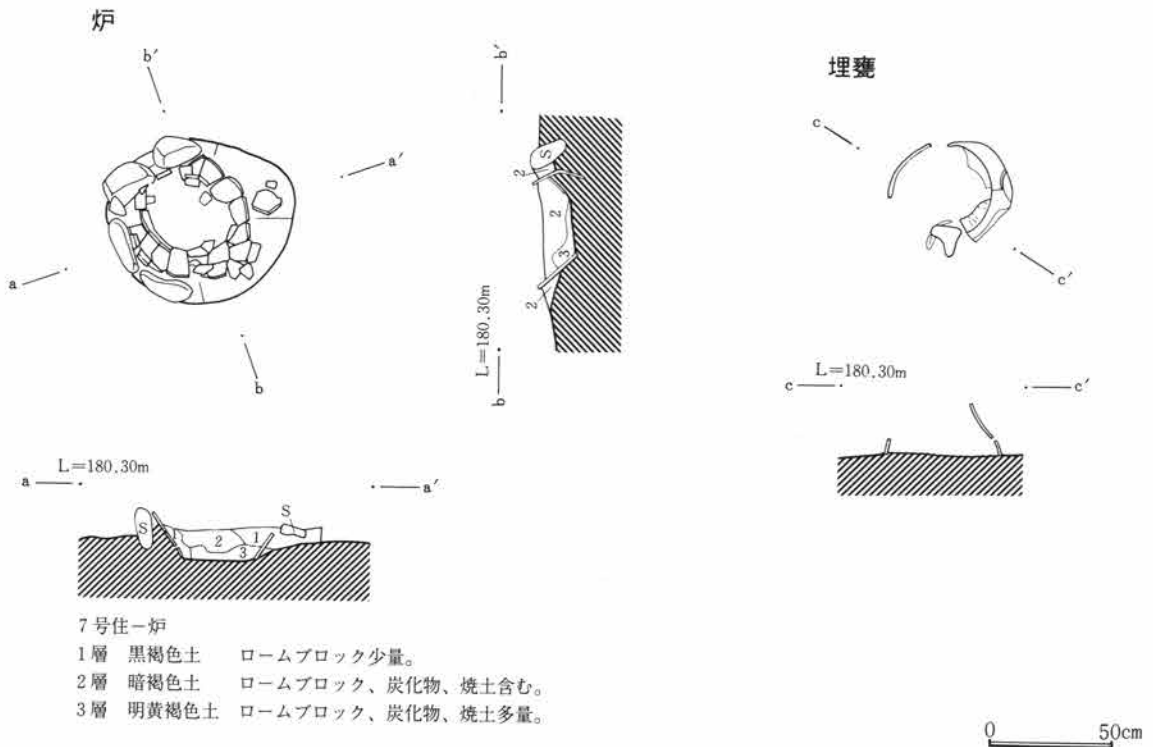
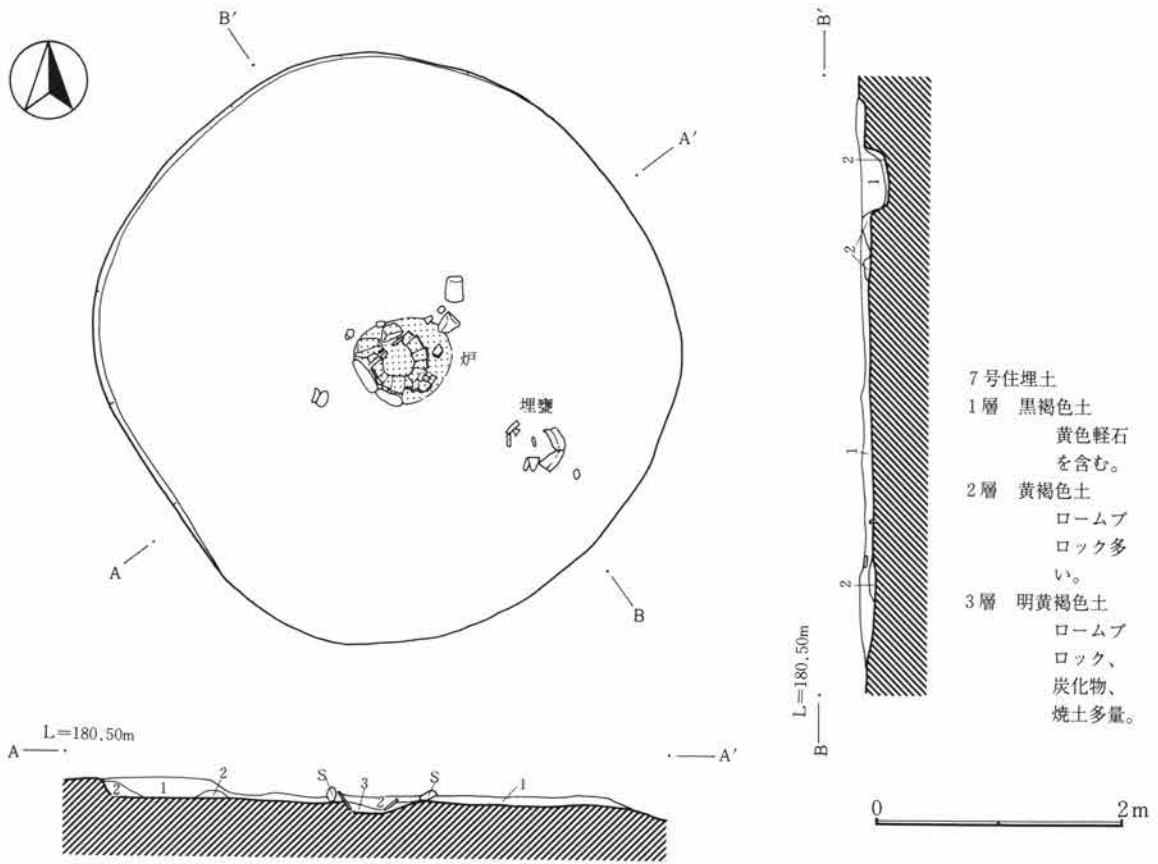
位置 14区C～D-6～8。II地区調査区の弧状に分布する住居群の南西側にある。7号住居の北側に位置する。形状 本住居は、現地表から遺構確認面までが浅いため、耕作による削平を受けている。また、掘り込み自体の浅さから壁面も良好な状態では確認できなかった。そのため、遺物の分布と、床面から形状を推定した。分布範囲から、調査時には柄鏡型住居と判断した。本体が径5m、柄部の長さ2m、巾1mを測る。壁 ローム漸移層を壁面としており、掘り込みが浅く壁高は数センチである。立ち上がりはゆるやかである。覆土と壁面の区別がはっきりしない。覆土 軽石粒、ロームブロック等が入る。床面 ローム漸移層を床面としているため、比較的軟らかい。凹凸は少なく平坦である。本体と柄部の間に耕作によるいも穴の攪乱がある。柱穴 柱穴状のものは確認されなかった。炉 床面上に焼土、炭化物等の痕跡はみられず、炉は確認できなかった。遺物 住居内には、偏平な礫が多く出土している。この遺物出土状況から、柄鏡型の住居としたのであるが、出土土器が加層利E3式であり、柄鏡型住居とするには、疑問が残る。

第2節 検出された住居址



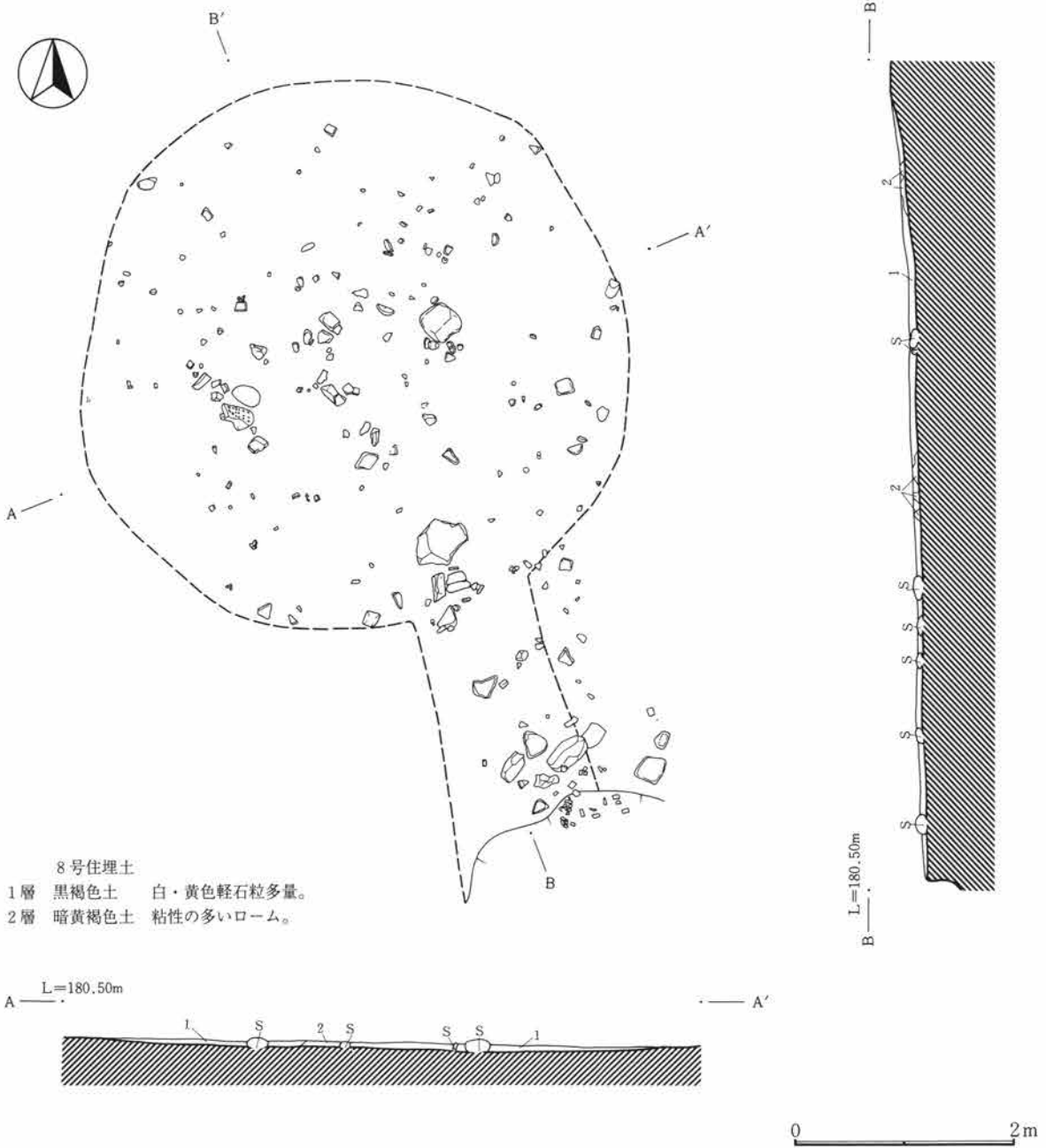
第75図 6号住居址・内土坑

第3章 II地区 検出された遺構



第76図 7号住居址・炉址

第2節 検出された住居址



第77図 8号住居址

第3章 II地区 検出された遺構

II地区9号住居址 (第78図 PL49・55)

位置 14区A-6~7。II地区調査区の弧状に分布する住居群の南、西側にある。10号住居の北西、16号住居と重複している。**形状** 本住居の確認面が現地表から浅く、掘り込みも浅いため、遺物の分布範囲から住居のプランを推定した。本体部径約4.8m、柄部の長さ2.5m、巾1.0mを測る。柄鏡型の住居になると思われる。**壁** 掘り込みが浅く壁は確認できなかった。**覆土** ローム漸移層が主として覆土となっていたため、地山との区別は困難であった。**床面** ローム漸移層を床面としている。全体に軟らかくしまりがない。凹凸は少なく平坦である。**柱穴** 柱穴状のものは確認できなかった。**炉** 住居の北寄りに石囲い炉が確認された。炉は、床面に径1.1×1.0mの袋状の土坑を作り、その上部に偏平な礫を置いている。炉内には、焼土、炭化物の堆積がみられた。**遺物** 床面全体に偏平な礫が出土している。土器片も出土しているが総量は多くない。16号住居と遺物を比較すると本住居が新しい傾向を示す。

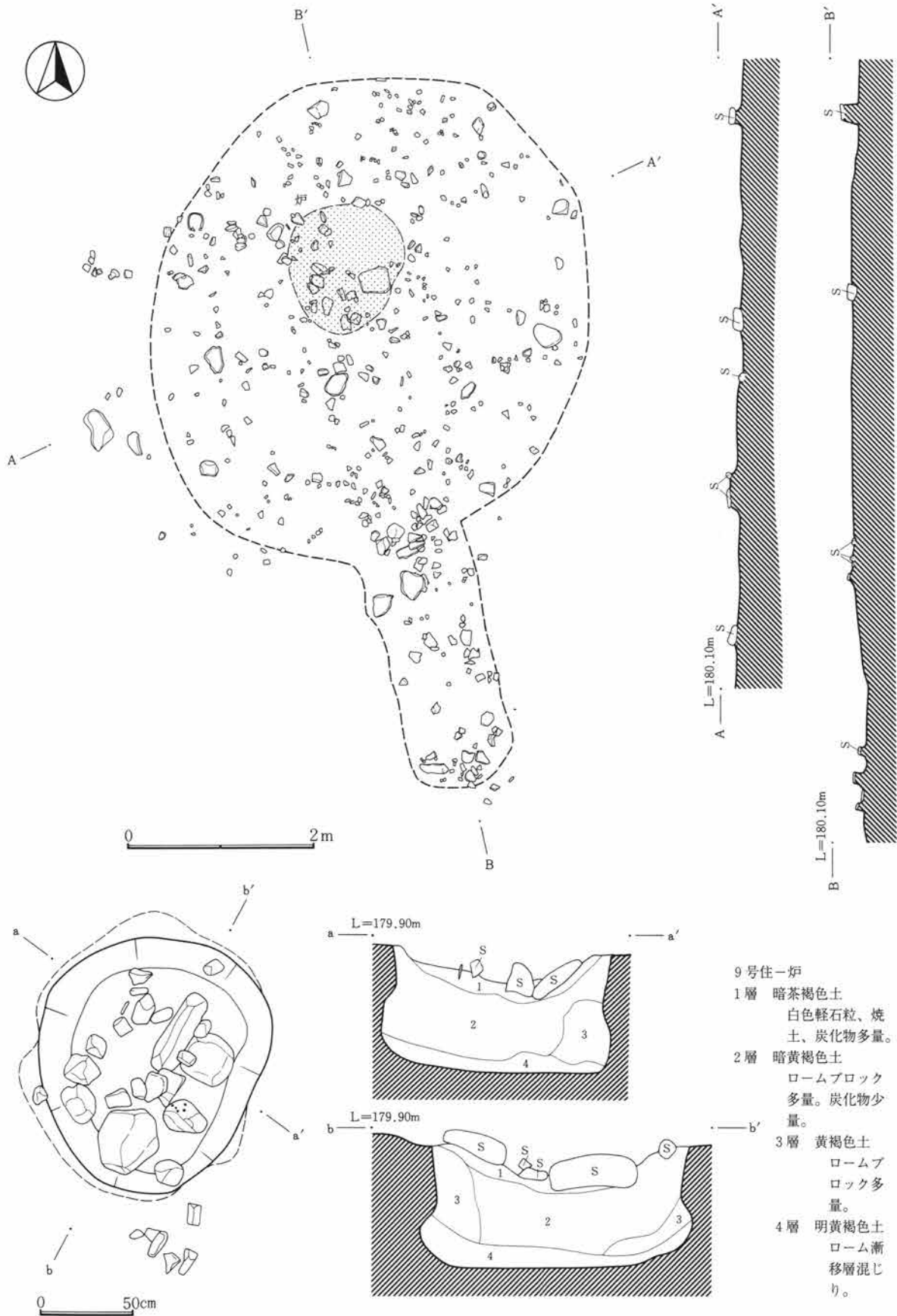
II地区10号住居址 (第79図 PL50)

位置 13区S~T-6~7。II地区調査区の弧状に分布する住居群の中央西寄り、南側にある。9号住居の東側17号住居の南西に位置する。**形状** 南東側の一部が耕作によるいも穴によって壊されていたため、調査時には、張り出しを持つ住居とした。遺物出土状況等から考えると、径3.5mの円形になる住居と考えられる。**壁** 全体に掘り込みは浅く、壁高は5~10cm程である。ローム漸移層を壁面とし、立ち上がりはゆるやかである。**覆土** 現地表から、遺構確認面まで浅く、上層では攪乱を受けている。下層ではロームブロックが乱雑に入り込むことから人為的な埋没と考えられる。**床面** ローム漸移層を床面としているため、全体に軟らかい。炉周辺には偏平な石を敷いて床としている。床面は、凹凸がみられ、敷石との間に若干の段差がみられる。**柱穴** 確認できなかった。**炉** 床面を60×40cm、深さ10cm程掘り窪め、偏平な長方形の礫を方形に埋め込んで石囲い炉である。炉の周辺には偏平な石を敷いている。炉内には、若干の焼土、炭化物が堆積している。**遺物** 覆土中からは土器片等が出土しているが量は多くない。床面近くからは、住居に敷いたと思われる礫が多く出土している。炉の南東からは、埋設土器が検出された。土器の下半部を埋め込んで使用していたと考えられるが、上半部は削平されている。

II地区11号住居址 (第80図 PL49)

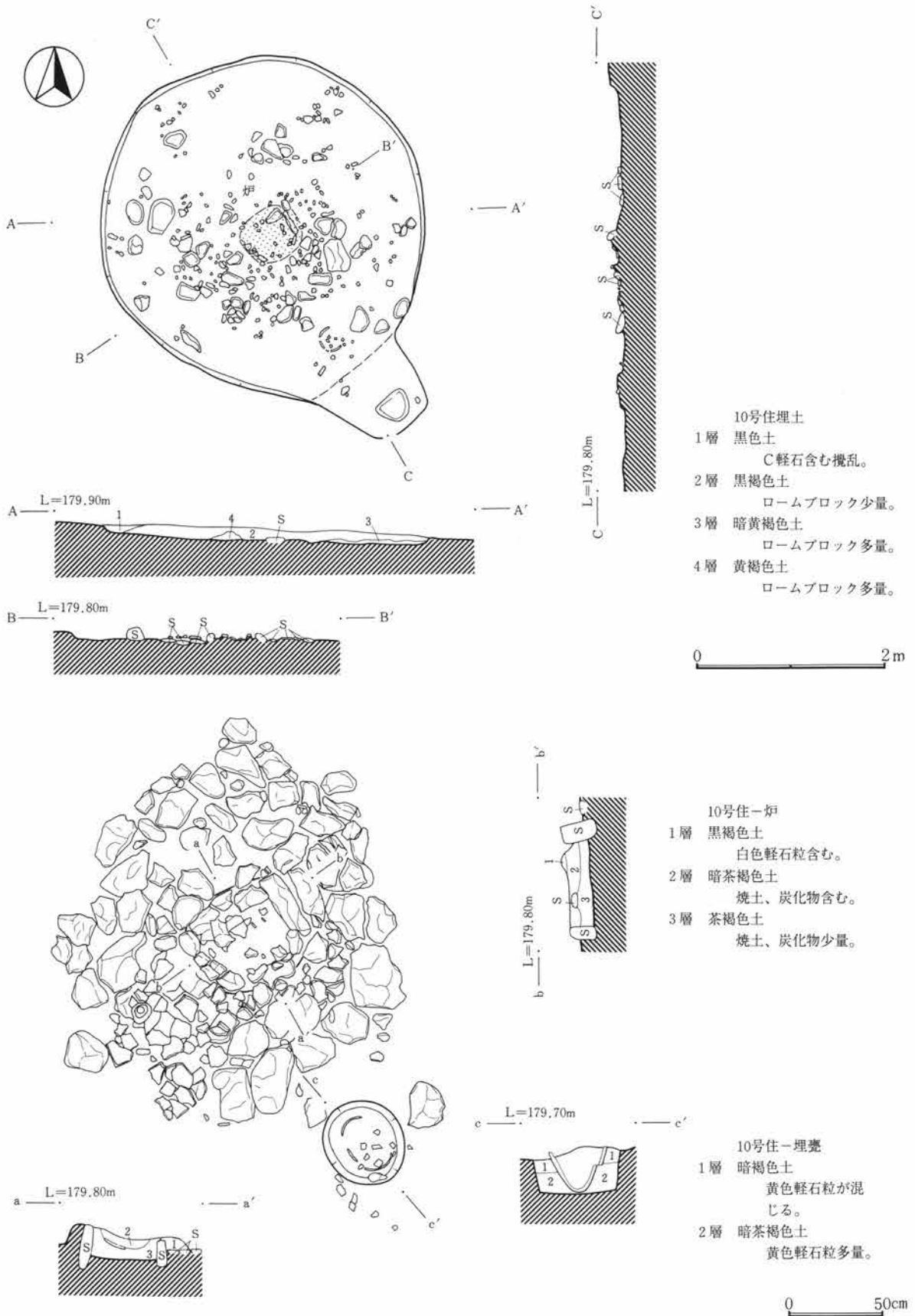
位置 14区P~Q-13。II地区調査区の北側、西端に位置する。**形状** 調査区の関係から狭い範囲の調査となった。南西部の大半が調査区外となっている。掘り込みは確認されず遺物等の分布から、円形を呈すると思われる。**壁** 現地表から確認面まで浅く、耕作の影響を受けている。また掘り込み自体浅いこともあり壁面は確認できなかった。**覆土** 上層は耕作による攪乱、下層はローム漸移層混じりの土で、覆土と地山の区別は困難であった。**床面** ローム漸移層を床面としている。全体に軟らかい。凹凸は少なく平坦である。**柱穴** 柱穴状のものは確認できなかった。**炉** 住居南東に石囲い炉状のものが検出された。80×40cmの楕円状の窪みに、偏平の石を置いて、中央に土器を埋め込んでいる。若干の炭化物、焼土がみられた。炉とするか、埋設土器とするかは判断の分かれる所である。**遺物** 遺構上層からは、土器の小破片が少量出土している。床面近くからは、大型の偏平な石の出土がみられた。

第2節 検出された住居址



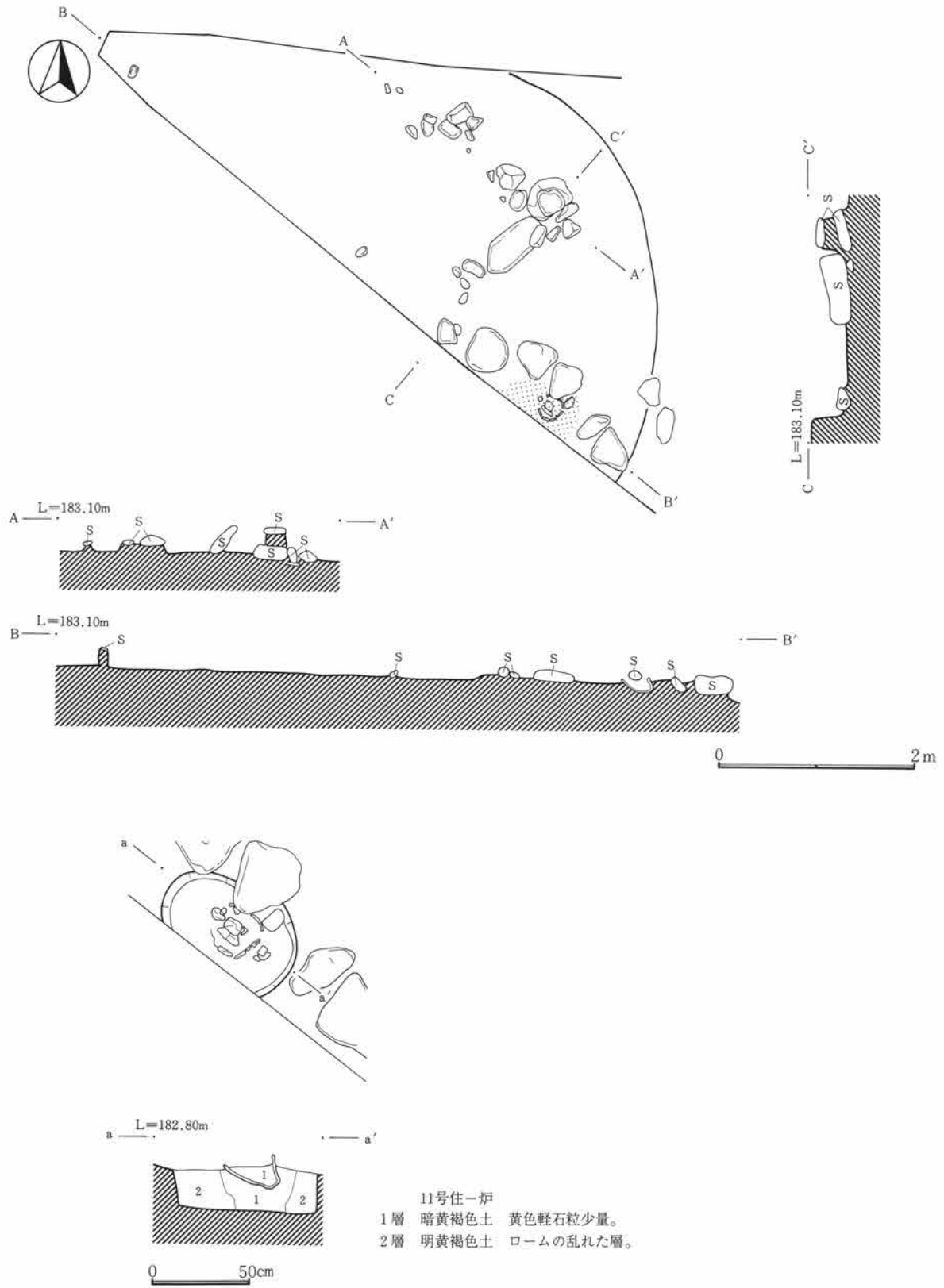
第78図 9号住居址・炉址

第3章 II地区 検出された遺構



第79図 10号住居址・炉址

第2節 検出された住居址



第80図 11号住居址・炉址

第3章 II地区 検出された遺構

II地区12号住居址 (第81～83図 P L 51)

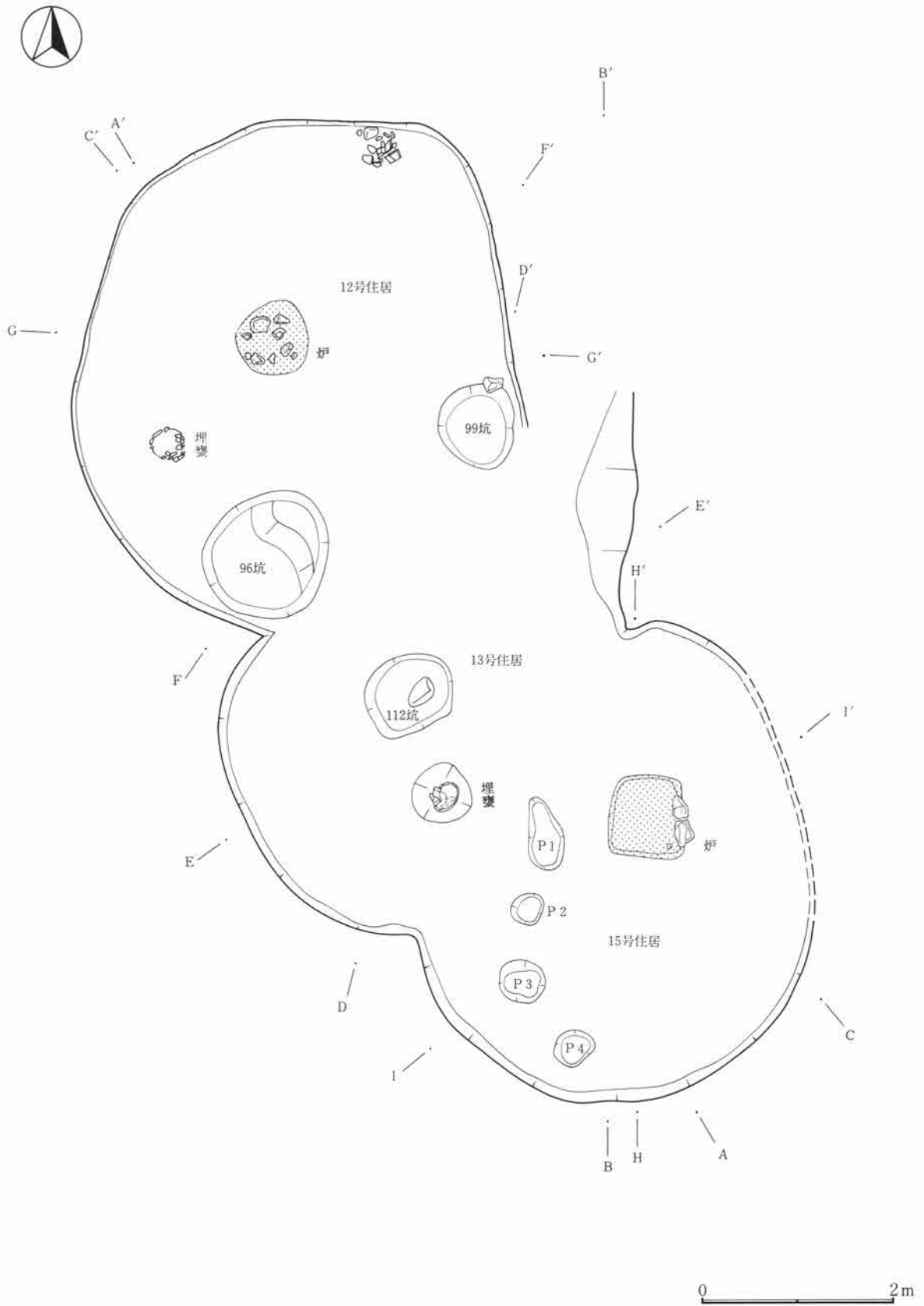
位置 13～14区T～A-11。II地区調査区の東側弧状に分布する住居群の北、西側にある。29号住居の南、13号住居と重複している。本住居が新しい。**形状** 南北5.1m、東西4.6mを測る。南北に長い楕円形を呈する。南東隅を攪乱により壊されている。**壁** 掘り込みは浅く、壁高10数cmを測る。ローム漸移層を壁面として、ゆるやかに立ち上がる。**覆土** 現地表面から遺構確認面までは浅く、上層は耕作土による攪乱を受けている。下層では、ロームブロック等が乱雑に入ることから人為的な埋没と考えられる。**床面** ローム漸移層を床面としており、全体に軟らかい。凹凸は少なく平坦である。住居内には土坑が重複しているが、本住居との関連性は捕らえられなかった。**柱穴** 確認されなかった。**炉** 住居中央に石囲い炉が検出された。径50cm程の円形を呈する。床面に直接石を埋め込んでいる。炉内には少量の炭化物と、焼土が堆積していた。**遺物** 覆土中からの出土遺物は少量で、土器片、礫等が出土している。床面近くからは、やや扁平な礫の出土が多い。住居の西側からは土器を伏せた状態のものが出土している。上部は削平されているが、口縁部を下にした状態である。

II地区13号住居址 (第81～83図 P L 51～53)

位置 13区T-10。II地区調査区東側の弧状に分布する住居群の北、西側に位置する。北側を12号住居が、南側を15号住居が重複している。15号住居より本住居が新しい。**形状** 住居の大半が確認できなかったが、確認部分で、推定4.5mの円形を呈すると思われる。**壁** 本住居も掘り込みが浅く、壁高は高い所で10数cmを測る。壁面はローム漸移層でゆるやかに立ち上がる。**覆土** 現地表面から遺構確認面まで浅く、上層は耕作による攪乱を受けている。下層はロームブロック、軽石等が乱雑に入り込み、人為的な埋没と考えられる。**床面** ローム漸移層を床面としているため、全体に軟らかい。凹凸が少なく平坦である。住居内に土坑が重複しているが、本住居との関連性は捕らえられなかった。**柱穴** 柱穴と考えられるものは確認できなかった。**炉** 床面上には、焼土、炭化物等が検出されなかった。**遺物** 覆土中から少量の土器片、礫が出土している。住居南側には、埋設土器が検出された。口頸部以下を埋設し、口縁部を床面状に出した状態で出土している。住居内に据え置きしたものである。

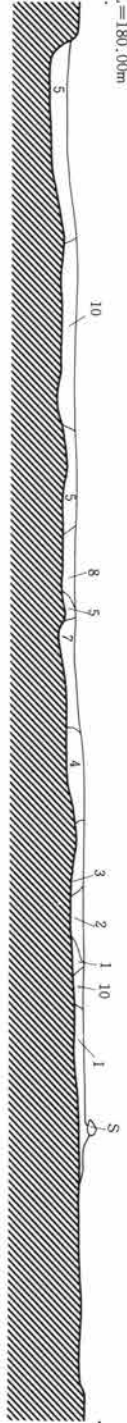
II地区15号住居址 (第81～83図 P L 51・53)

位置 13区S～T-10。II地区調査区の弧状に分布する住居群の北、西側にある。19号住居の西側、13号住居と重複している。本住居が古い。**形状** 住居の北西部を13号住居に壊されているが、残存部分から見ると、円形を呈する。残存部で南北5m、東西4.2mを測る。**壁** 掘り込みが浅く、壁高は5～10cmを測る。ローム漸移層を壁面としている。立ち上がりは急角度である。**覆土** 本住居も12号住居、13号住居と同様に、上層は耕作による攪乱を受けている。下層は、ロームブロック、軽石粒を乱雑に含むことから人為的な埋没と考えられる。**床面** ローム漸移層を床面としているため全体に軟らかい。炉周辺は、他の部分より硬化していた。**柱穴** 柱穴状のものが、住居の南西側で確認された。北東側では確認されなかった。**炉** 住居の北東寄りに検出された。床面を方形に掘り窪め、東側に細長い礫を置いている。規模は、80×80cm、深さ10cmを測る。炉内には、焼土、炭化物の堆積がみられた。**遺物** 覆土中から、土器片、礫、石器等が出土している。出土量は少ない。



第81図 12・13・15号住居址

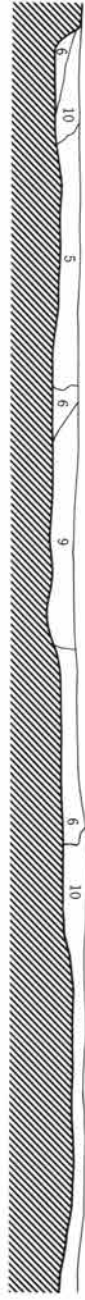
A L=180.00m



12・13・15号住居址

1層 茶褐色土
ロームアブロック
混入、

B L=180.00m



B'

2層 暗茶褐色土
細かい、軽石粒含む。

3層 茶褐色土
φ1~2mmの黄色軽石粒含む。

4層 茶褐色土
3層より黄色軽石粒多量。

5層 茶褐色土
黄色軽石粒4層より多量。

6層 暗茶褐色土
ローム漸移層の流れこみ。

7層 暗茶褐色土
白色軽石粒含む。

8層 茶褐色土
白色軽石粒少量。

9層 褐色土
ロームアブロック
多量。

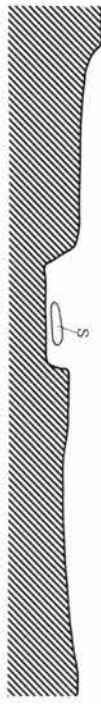
10層 茶褐色土
ロームアブロック、
根による攪乱。

D L=180.00m



D'

E L=180.00m



E'

F L=180.00m



F'

G L=180.00m



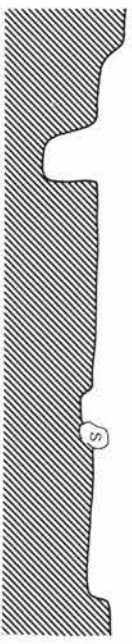
G'

H L=180.00m



H'

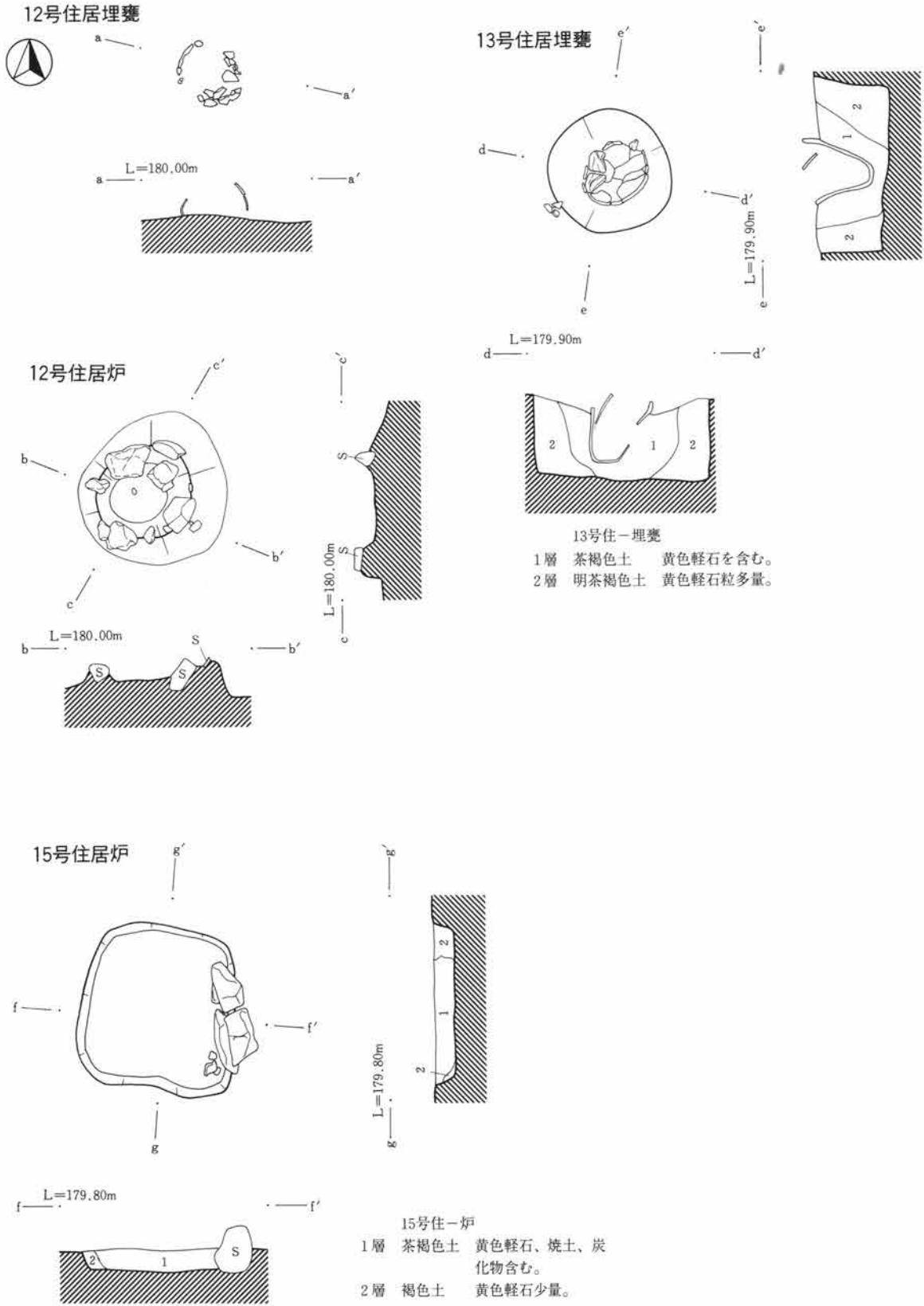
I L=180.00m



I'

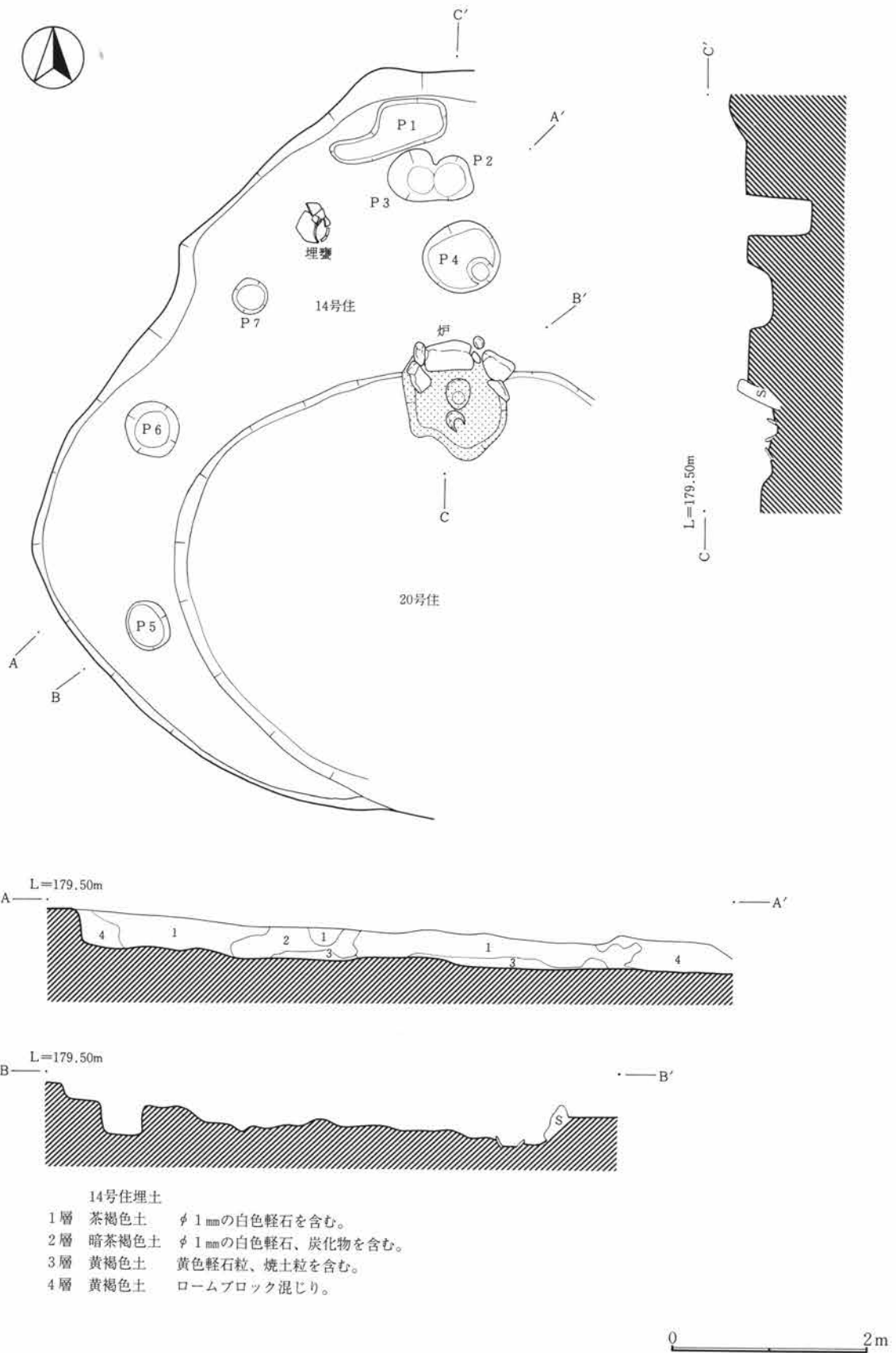


第82図 12・13・15号住居址

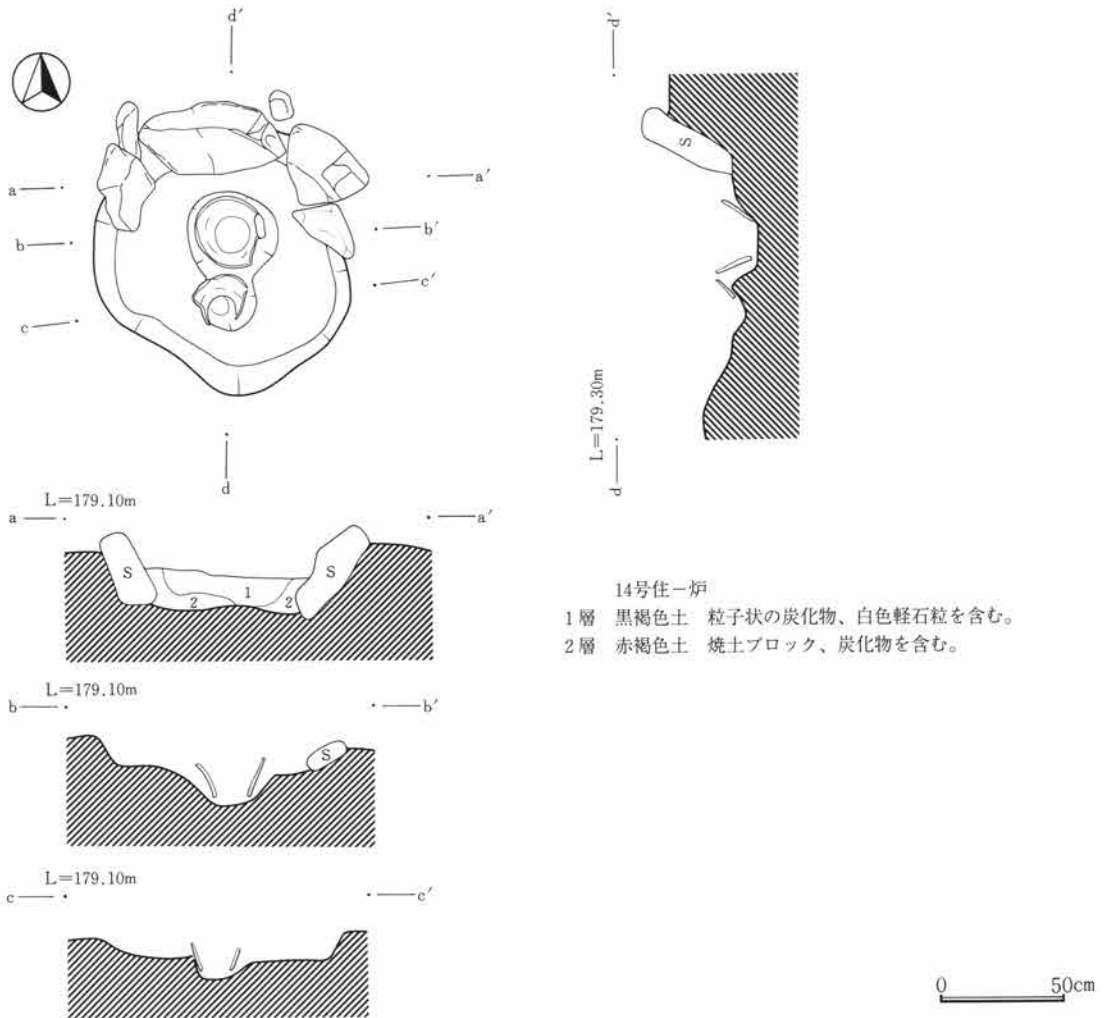


0 50cm

第83図 12・13・15号住居内施設



第84図 14号住居址



第85図 14号住居炉址

Ⅱ地区14号住居址 (第84・85図 P L 54)

位置 13区R-9~10。Ⅱ地区調査区の東側、弧状に分布する住居群のほぼ中央にある。20号住居と重複しており、本住居が古い。

形状 住居東側の大半が20号住居との重複と、耕作による削平で消失している。残存部分からの推定で、南北に長い楕円形を呈すると思われる。

壁 壁高は、高い所で30cmを測る。ローム層まで掘り込んでおり、壁面としている。立ち上がりは、垂直に近い急角度である。

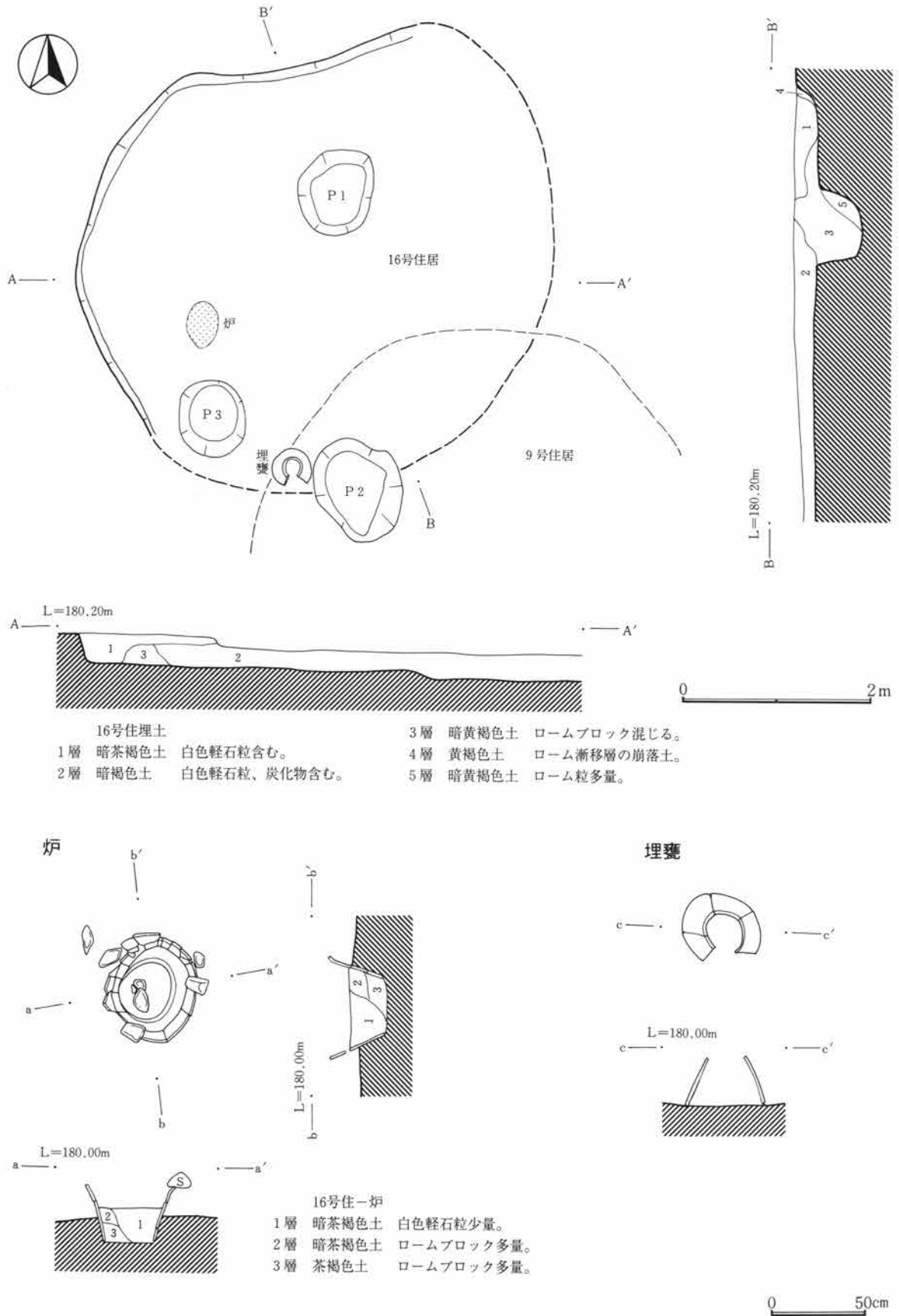
覆土 土層の堆積状況を見ると、軽石粒、ロームブロックが乱雑に入り込む状況から人為的な埋没と考えられる。

床面 残存部は、ローム層を床面としており、壁周辺を除いて硬化している。凹凸は少なく平坦である。炉周辺は特に硬くなっていた。

炉 住居のほぼ中央に土器を2個埋め込んだ石囲い炉が検出された。炉は、床を80×95cm、深さ20cm程を掘り窪め、偏平な大型の石を置いている。炉の南側を20号住居が重複しているため石が抜き取られている。炉内の土器は、20号住居の床面より下の部分が残っている。炉内には、焼土、炭化物等が堆積している。

遺物 覆土中からの出土遺物は多く、土器片、石器、礫等が出土している。床面からは、住居北寄りに深鉢が伏せた状態で検出された。

第3章 II地区 検出された遺構



第86図 16号住居址・内施設

Ⅱ地区16号住居址 (第86図 P L 55)

位置 14区A～B-7～8。Ⅱ地区調査区の弧状に分布する住居群の中央、西寄りにある。36号住居、9号住居と重複しており、9号住居より古く、36号住居より新しい。

形状 住居の南東側の大半を削平されて消失している。残存部からの推定で、東西にやや長くなる楕円形を呈する。

壁 壁高は残存部で25cmを測る。ローム層を壁面としている。立ち上がりは垂直に近く急角度である。

覆土 ロームブロック、軽石粒が乱雑に入り込むことから、人為的な埋没と考えられる。

床面 ローム層は床面としている。壁周辺は軟らかいが、住居中央部や、炉周辺は硬化面がみられる。凹凸は南側でみられる。若干南側に傾斜している。

柱穴 住居内には、柱穴よりやや大きめの Pit が3基確認された。住居との関連性は捕らえられなかった。

炉 炉は住居西よりに検出された。土器を20cm程埋設したもので、周囲に小さい礫を置いている。炉周辺からは、若干の焼土、炭化物が検出された。

遺物 覆土中から出土した遺物は少ない。住居の南側で、小型の深鉢が伏せた状態で検出された。下部は9号住居によって壊されたと考える。

Ⅱ地区17号住居址 (第87図 P L 56)

位置 13区S～T-7～8。Ⅱ地区調査区の東側に弧状に分布する住居群の中にある。30号住居の南、10号住居の北東に位置する。

形状 南北4.6m、東西4mを測る。南北にやや長い楕円形を呈する。

壁 壁高は、20～30cmを測る。ローム漸移層を壁面としている。立ち上がりはゆるやかである。

覆土 地表面から遺構面までが浅く、上層では、耕作による攪乱を受けている。下層では、軽石粒混じりの土が入る。土層の堆積は自然流入によると考えられる。

床面 ローム層を床面としているが、中央部で硬化している以外は軟らかい。細かい凹凸がみられた。南東部で土坑と重複しているが、本住居が新しい。

柱穴 柱穴は6基確認された。それぞれ、壁近くに同心円状に配置されている。北側部分で、柱穴の間隔が開いている。

炉 床からは、焼土、炭化物等の痕跡は認められなかった。

遺物 覆土中からは、土器の小破片、礫等が出土している。住居の南側では、大形の深鉢が、伏せた状態で出土した。上部は削平されているが、住居内に伏せた状態で置かれていたものと考ええる。

Ⅱ地区18号住居址 (第88・89図 P L 57)

位置 13区P～Q-9～10。Ⅱ地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の中央、東端にある。22号住居の南、14号住居の東側に位置する。

形状 長軸7.0m、短軸4.8mを測る。東壁側で壁の一部が削平されている。長楕円形を呈する。

壁 壁高は、5～20cmを測る。壁面は大部分が、ローム漸移層である。立ち上がりは急角度で立ち上がる所と、ゆるやかに立ち上がる所がある。

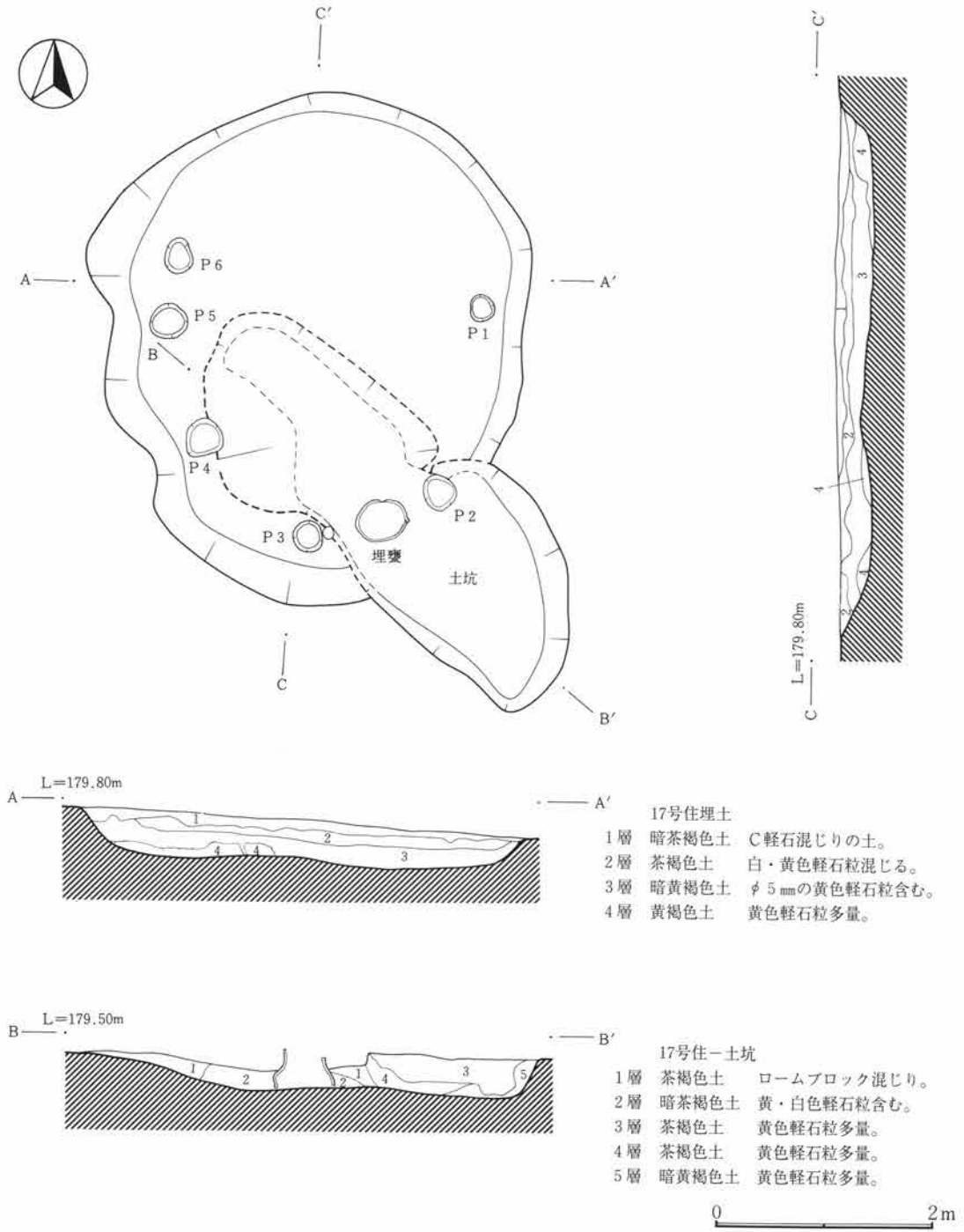
覆土 現耕作による攪乱を受けている他には、土層の堆積状況は自然流入と思われる。

床面 掘り込みが、ローム層に一部たっており、硬化している部分と、軟弱な部分とがある。細かい凹凸がみられ、東側に若干傾斜している。周溝が南西壁際で確認された。住居の約3分1に廻っている。幅30～50cm、深さ10cm程である。北側には、集石土坑が重複しているが、本住居より新しい。

柱穴 炉を中心にしてほぼ同心円状に柱穴が作られている。住居北側が、柱穴より大きく外側に張り出していることから、住居の拡張か、異なる遺構の重複も考えられる。

炉 中央部に2ヶ所の落ち込みが検出された。形は不整形を呈し、30cmの深さがある。焼土等が内部に堆積し、土器や、礫が置かれていることから、炉と考えられる。

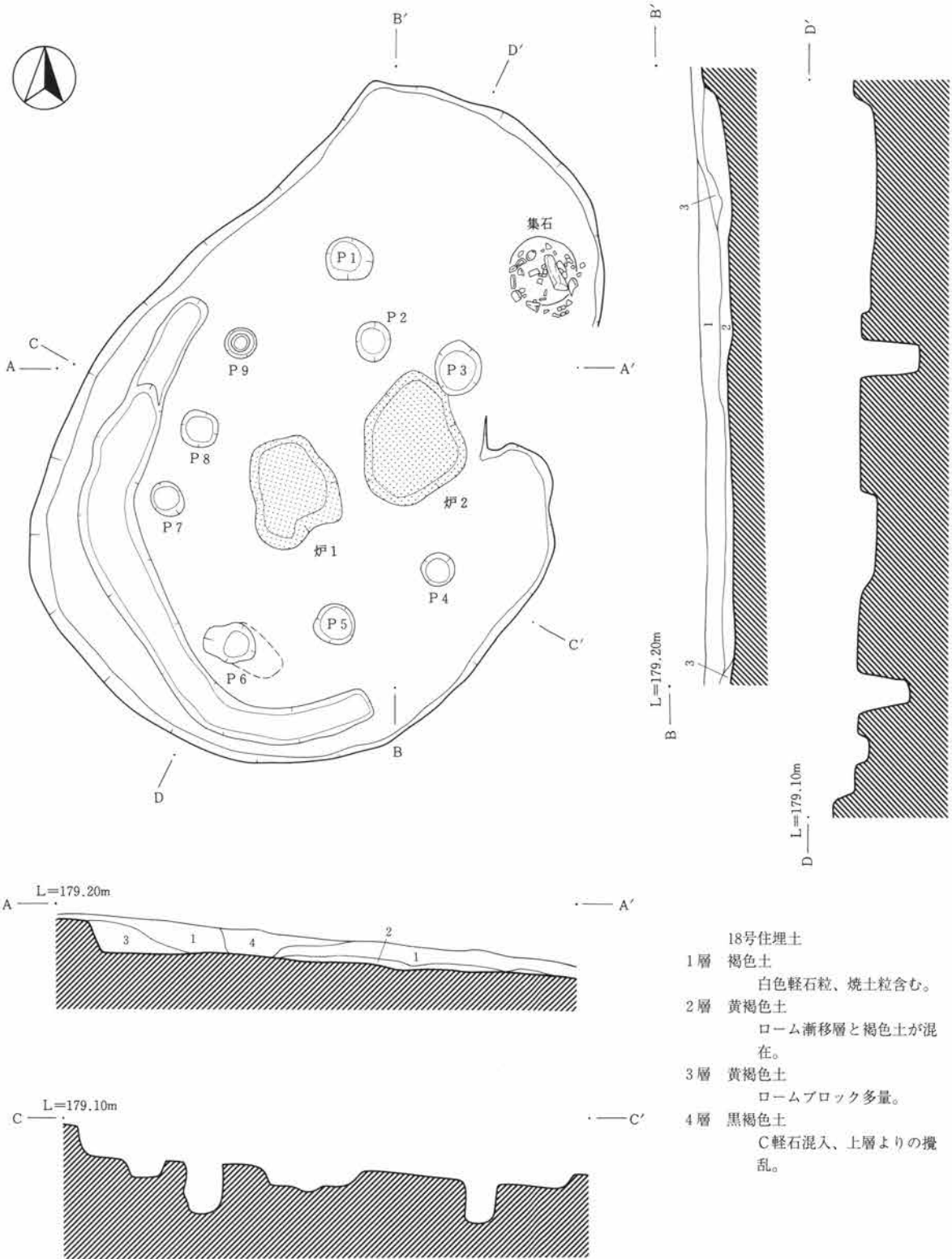
遺物 覆土中からは多量の土器片、礫等が



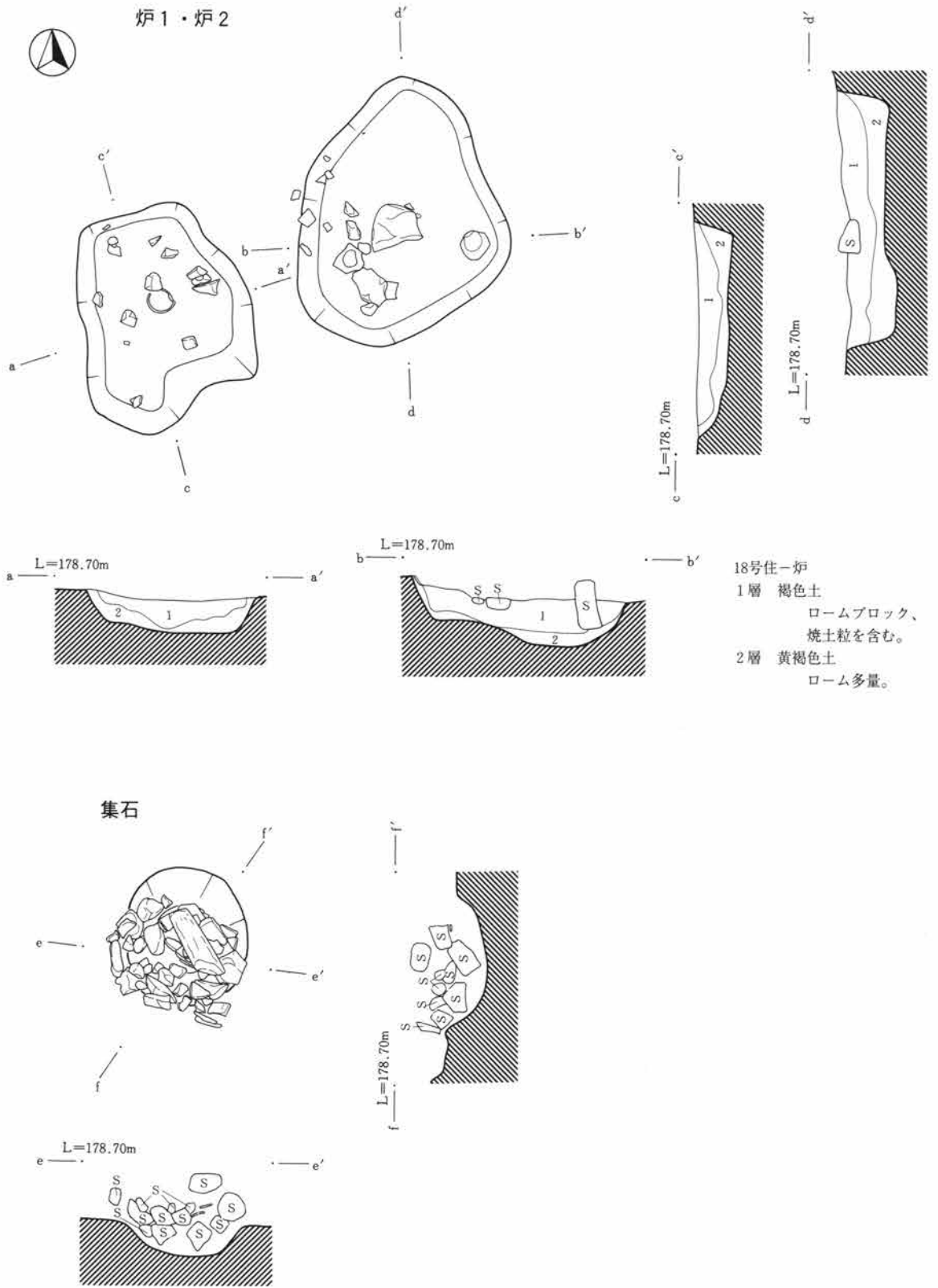
第87図 17号住居址

出土している。集石土坑 本住居の北側に作られている。径70cm、深さ20cmの土坑に円礫、角礫が埋め込まれている。礫の中央上部には、立石になっていたと思われる円筒形の石がある。

第2節 検出された住居址



第88図 18号住居址



第89図 18号住居内施設

II地区19号住居址 (第90・91図 P L58)

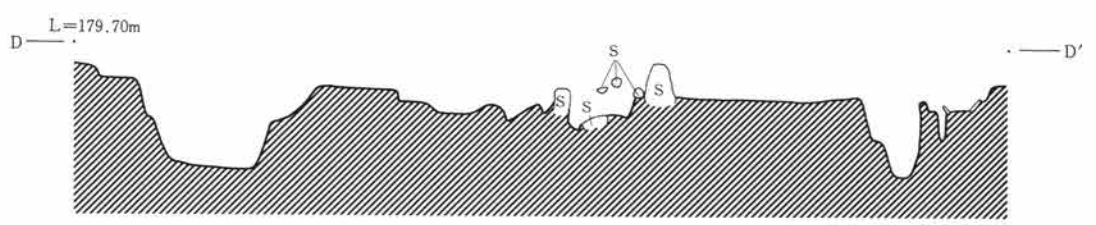
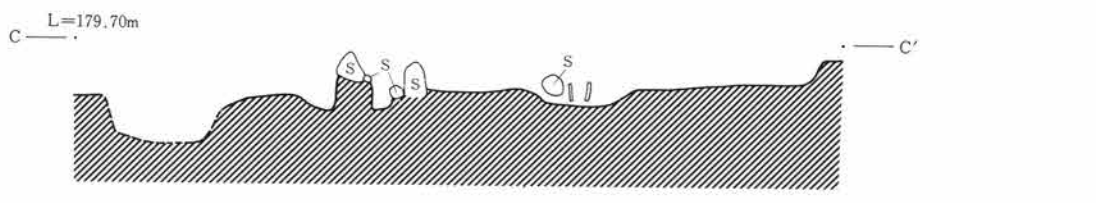
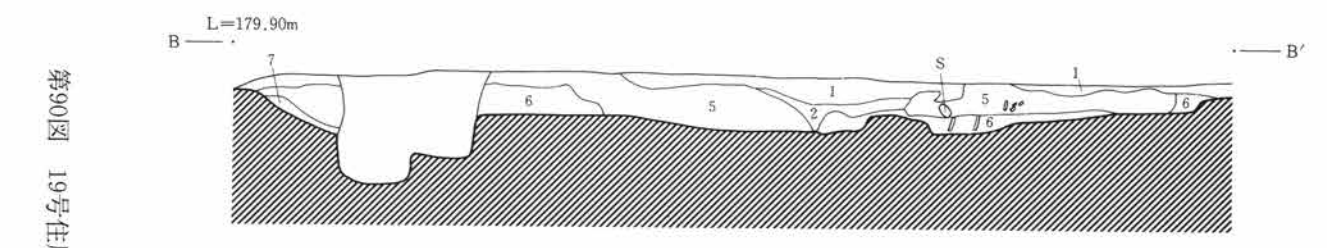
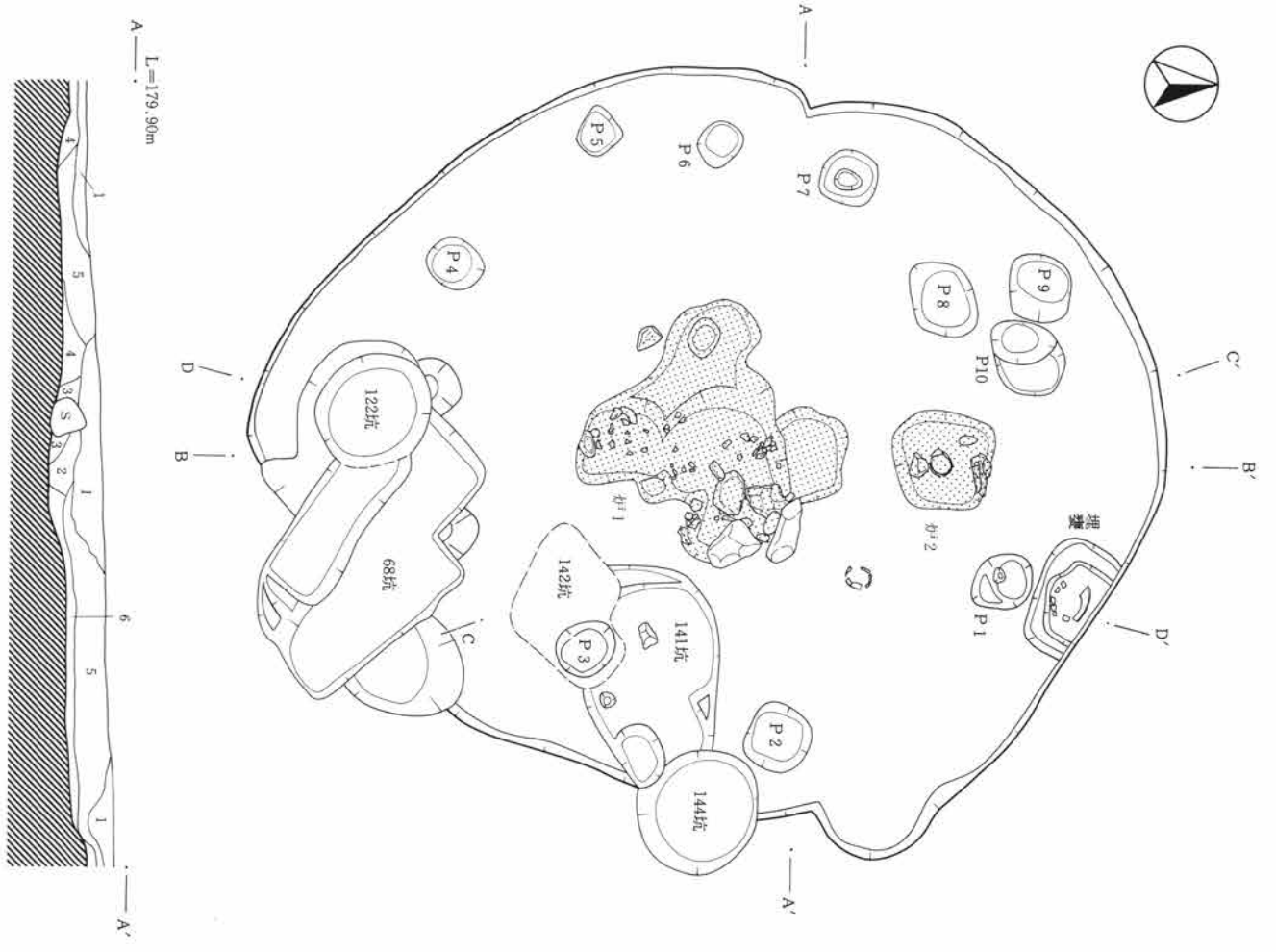
位置 13区R～S-10～11。II地区調査区の弧状に分布する住居群の中央やや北寄りにある。15号住居の東、24号住居の西に位置する。**形状** 南北7.6m、東西6.4mを測る。南東壁で土坑等との重複が多く、住居を壊している。南北に長い楕円形を呈する。**壁** 掘り込みは浅く、壁高は10～20cmを測る。ローム漸移層を壁面としている。立ち上がりはゆるやかである。**覆土** 現地表面から確認面までが浅く、上層では耕作による攪乱を受けている。下層では、ロームブロックや、軽石が混じり、人為的な埋没と考えられる。**床面** ローム漸移層を床面としており、全体に軟らかである。炉周辺部で硬化面がみられた。凹凸は少なく平坦である。住居東壁、南壁で土坑による攪乱がある。土坑と住居の関連性については、確認できなかった。68、122、141、144土坑は本住居より新しく、142土坑は古い。**柱穴** 炉を中心として、住居の壁際に同心円状に柱穴が並ぶ。柱穴はほぼ等間隔にある。P8、P10が若干位置がずれる。**炉** 住居中央に炉1が確認された。炉周辺は攪乱を受け炉石が抜き取られている。石囲い炉になる。炉内には焼土、炭化物が堆積している。炉2は礫と土器を組み合わせた施設である。一辺90cm、深さ20～30cmの方形の土坑の北側に礫を並べて置き、土器を埋設している。施設内には、若干の焼土や、炭化物が入る。炉とも考えられるが、性格は不明である。**遺物** 覆土中から多量の土器片、石器、礫が出土している。

II地区20号住居址 (第92図 P L54)

位置 13区Q～R-9。II地区調査区の東側に弧状に分布する住居群のほぼ中央にある。21号住居の北側、14号住居と重複して位置する。本住居が新しい。**形状** 南北4.5m、東西5.7mを測る。東西に長い楕円形を呈する。**壁** 掘り込みが浅く、壁高は、10～20cmである。壁面は、ローム漸移層である。立ち上がりはゆるやかで、はっきりしない部分もある。**覆土** 遺構の確認面からの掘り込みが浅く、覆土中には、ローム漸移層混じりの土が入り、地山との区別が困難であった。**床面** ローム層を床面としているが、全体に凹凸が多く軟らかい。住居中央の炉周辺で一部硬化面が見られた。**柱穴** 住居内には、大小10基のピットが検出された。このうち柱穴になるのは、P1、P3、P6、P7、P10等であろうか。**炉** 炉1は、住居中央北寄りに90×80cmの掘り込み内に、礫を置いた石囲い炉が検出された。三方を石で囲み、中央に土器を埋設している。炉内には、焼土、炭化物の堆積がみられる。炉2も炉1と同様な掘り込みで、一方に礫を置いている。焼土等あまり検出されず、炉というより、住居内の貯蔵穴とも考えられる。**遺物** 覆土中からのものが多く、土器片、礫などが出土している。

II地区21号住居址 (第93図 P L59)

位置 13区P～Q-7～8。II地区調査区の東側に弧状に分布する住居群の南寄り、東側にある。31号住居の北側、20号住居の南に位置する。**形状** 住居の南東壁側は削平されており、遺物出土範囲から推定した。南北5.7m、東西6.5mを測る。東西に長い楕円形を呈する。**壁** 掘り込みは浅く、壁高は残存部で5cm程である。ローム漸移層を壁面とし、立ち上がりは急角度である。**覆土** 現地表から遺構確認面が浅いので、耕作による攪乱も多い。また掘り込み自体浅いことから土層が乱れている。**床面** 住居西側ではローム層を床面としているが、東側では、地形の傾斜のため、ローム漸移層を床面としている。そのため、西側では硬化面が多いが、東側では軟らかい。凹凸は少なく平坦であるが、東側にゆるやかに傾斜し

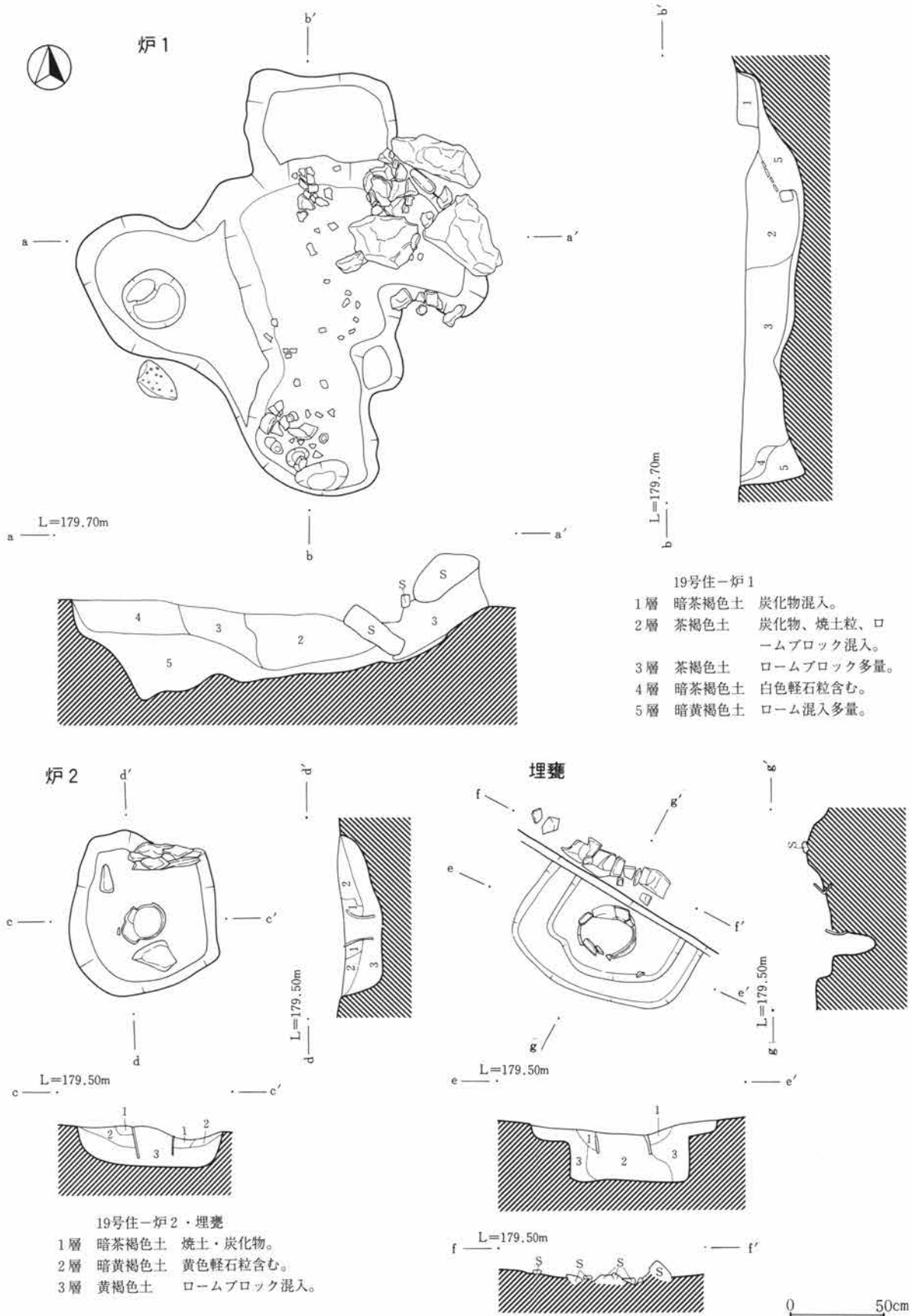


- 19号住居土
- 1層 黒褐色土
C軽石混じりの耕作土。
 - 2層 黒褐色土
C軽石混じりの土がアラロツク状に入る。
 - 3層 暗黄褐色土
ロームフロツク混じり。
 - 4層 暗黄褐色土
白色軽石粒、ロームフロツクを含む。
 - 5層 暗褐色土
白色軽石粒、ロームフロツク、炭化物含む。
 - 6層 暗黄褐色土
ロームフロツク含む。
 - 7層 暗黄褐色土
ローム壁の崩落土混じり。



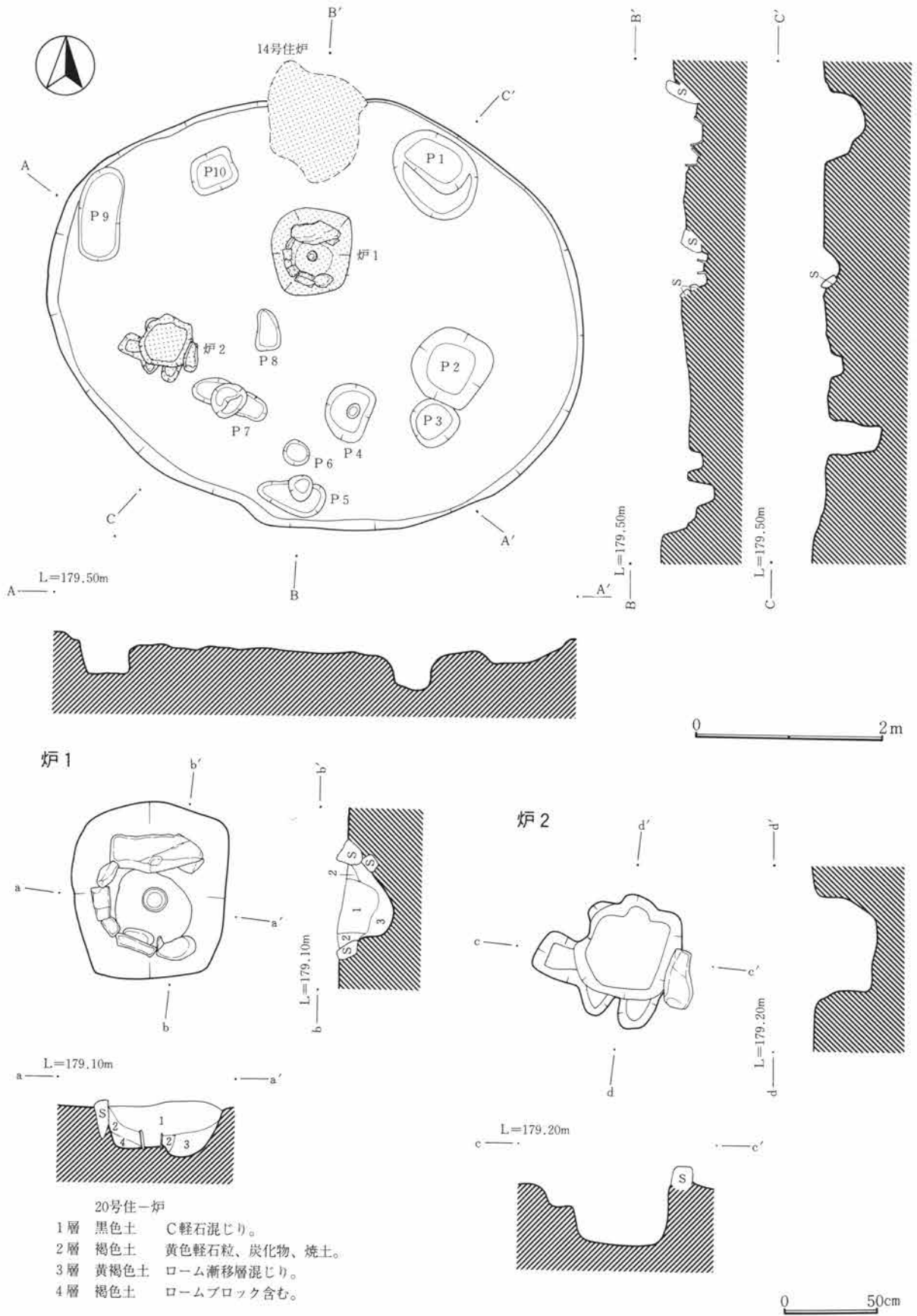
第90図 19号住居址

第2節 検出された住居址



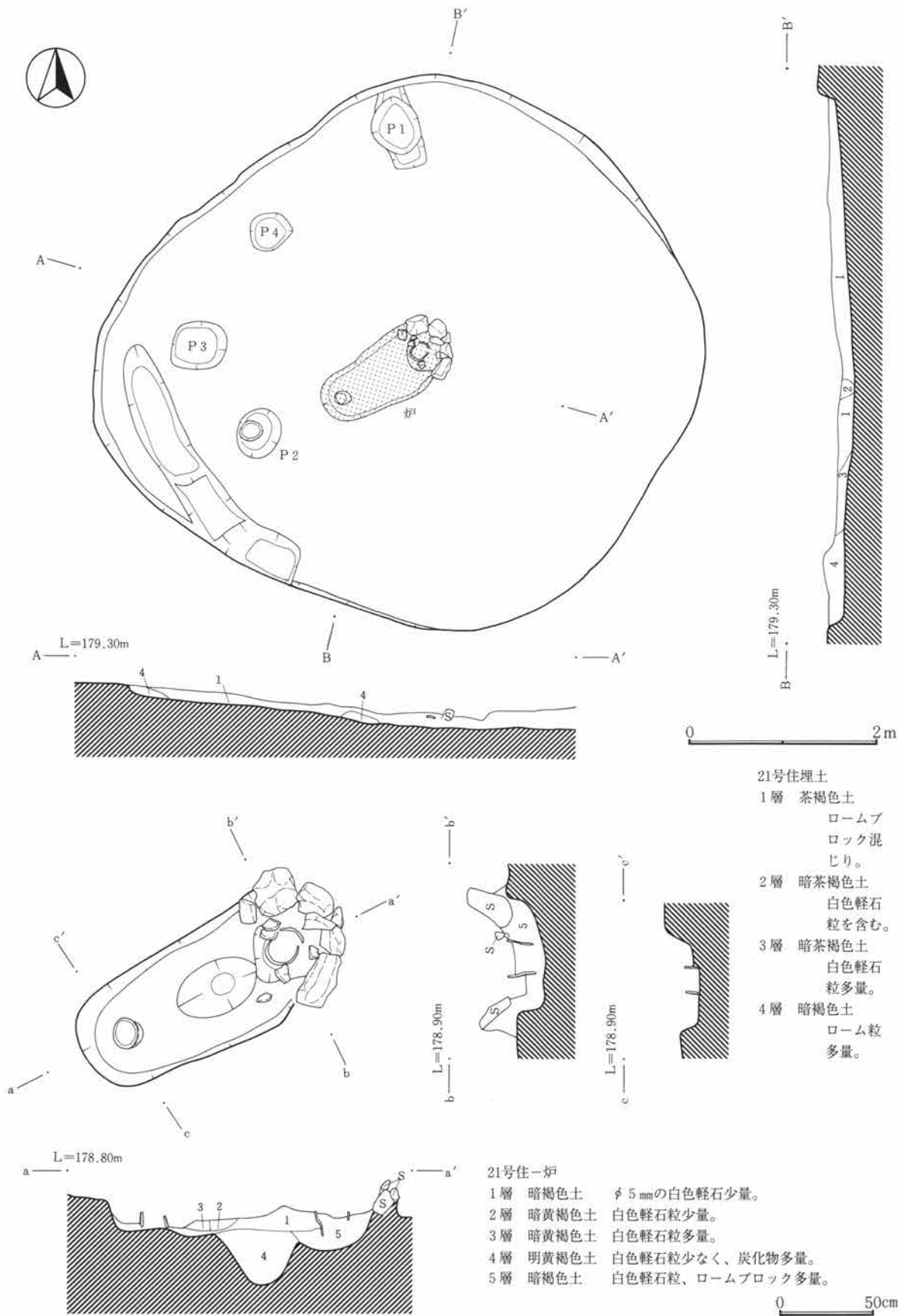
第91図 19号住居内施設

第3章 II地区 検出された遺構

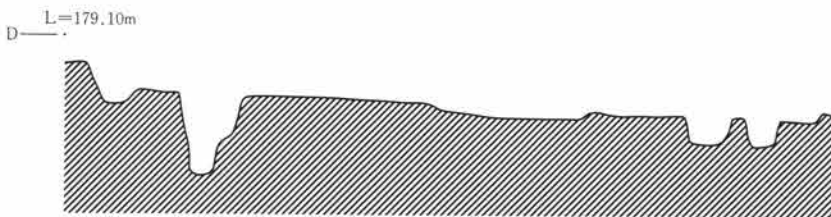
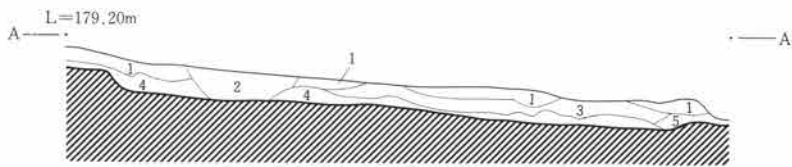
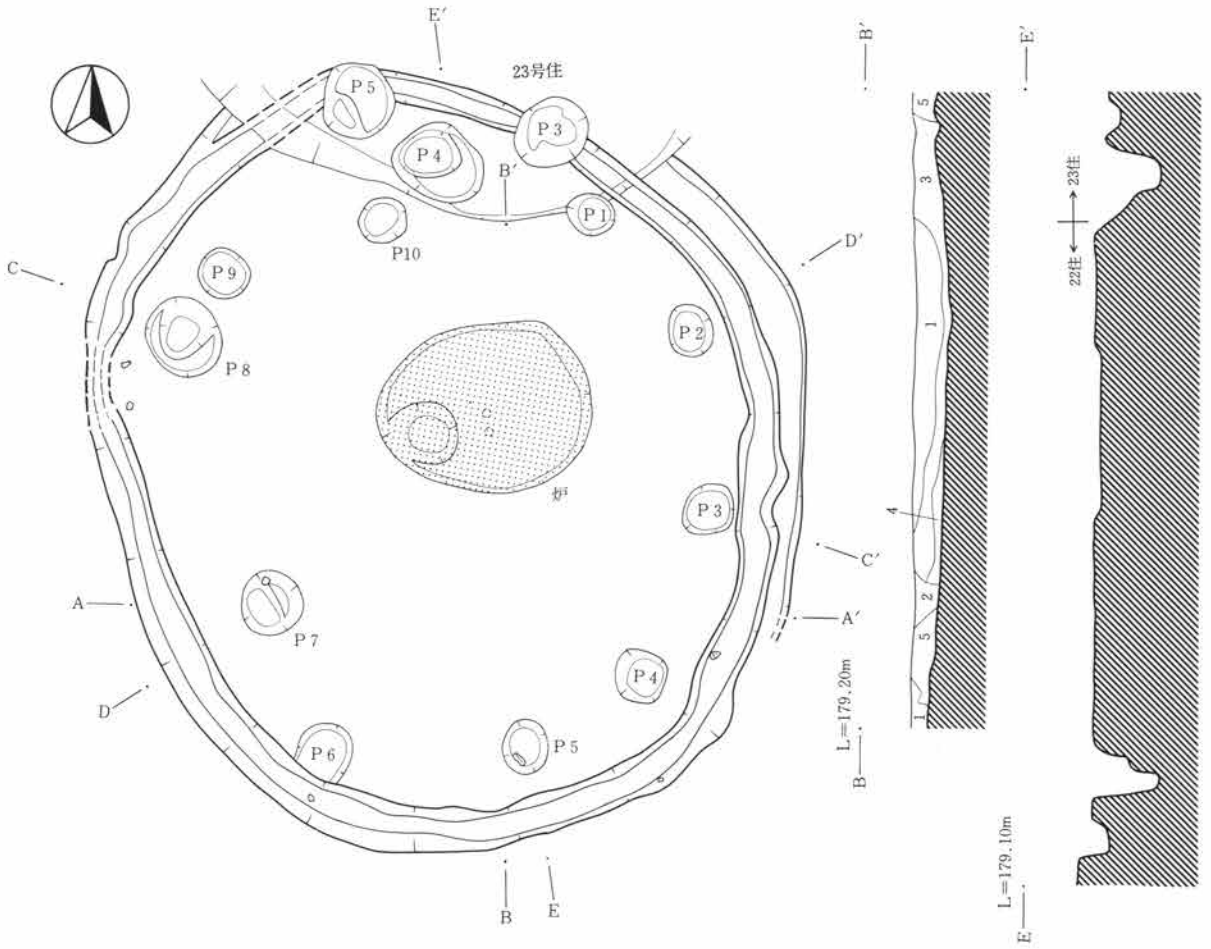


第92図 20号住居址・炉址

第2節 検出された住居址



第93図 21号住居址・炉址



- 22号住埋土
- 1層 黒褐色土
白・黄色軽石粒含む。
 - 2層 暗褐色土
C軽石混じり。
 - 3層 暗褐色土
白・黄色軽石粒、ロームブロック。
 - 4層 褐色土
ロームブロック、炭化物混入。
 - 5層 暗黄褐色土
ローム粒多量。

0 2m

第94図 22号住居址

第2節 検出された住居址

ている。周溝は、西壁側で一部確認できた。幅40cm、深さ10cm程度である。柱穴 西壁側でP1～P4の柱穴が確認できた。壁に沿って同心円状に作られている。東側では、床面と、柱穴の区別が難しく確認できなかった。炉 ほぼ中央に石囲い炉が検出された。炉は長軸150cm、短軸70cm、深さ20cm程を掘り窪め、東端に磔を置いたものである。炉内には2個体の土器が埋設されている。遺物 掘り込みが浅いため、覆土中からの出土量は少なかった。土器、石器等が少量出土している。

Ⅱ地区22号住居址 (第94・95図 P L60・62)

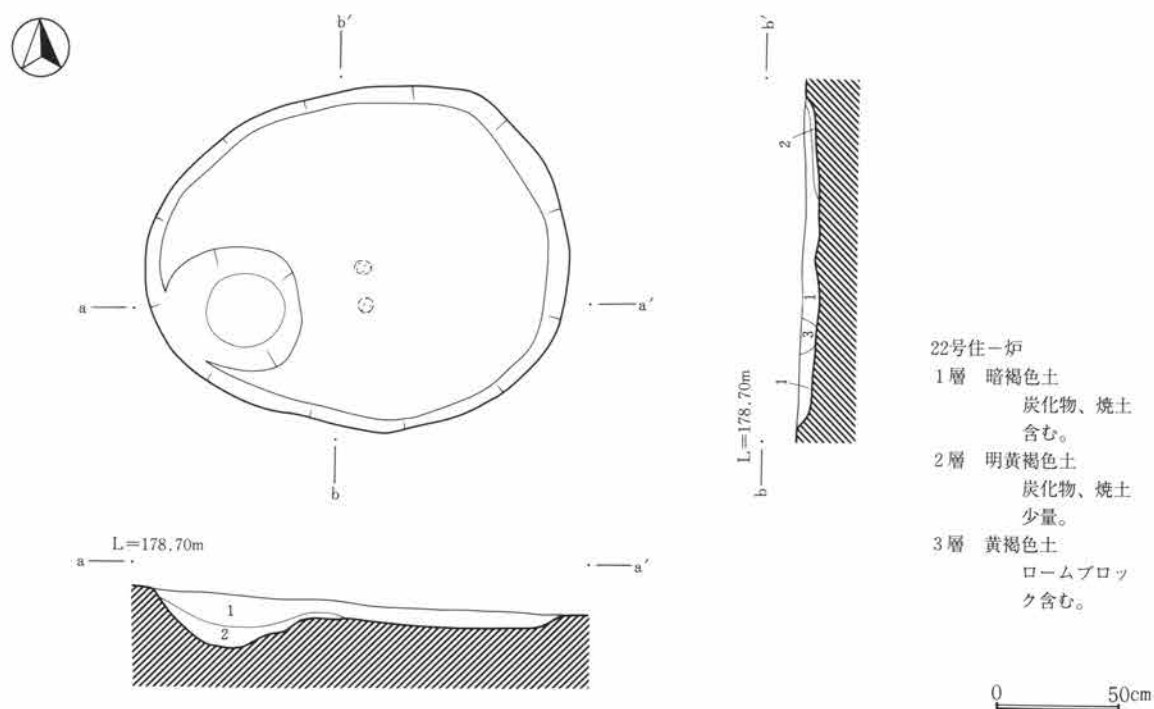
位置 13区P～Q-10～11。Ⅱ地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の北寄り、東端にある。23号住居、24号住居と重複している。本住居が新しい。形状 南北6.1m、東西5.8mを測る。若干南北に長い円形を呈する。壁 確認面からの掘り込みは浅く、壁高は10～20cmである。壁面はローム層であるが、東側は、ローム漸移層が壁面となる。立ち上がりは、垂直に近い角度である。覆土 現表土から遺構確認面まで浅く、耕作による攪乱を受けている。堆積状況を見ると西側から東側へ、傾斜にそって土の流入がみられる。床面 ローム層を床面としている。壁周辺部を除いて硬化している。周溝は、全周している。幅20～30cm、深さ10cmである。柱穴 周溝にそって同心円状に柱穴が検出された。ほぼ等間隔に作られている。23号住居のP3、P5が周溝内に重複している。炉 中央北寄りに検出された。長軸1.7m、短軸1.3m、深さ10～25cmの窪みを持つ地床炉である。炉内には、焼土、炭化物等が堆積していた。遺物 覆土中の1層から多く出土している。住居廃棄後の窪みに土器が流入したと考えられる。床直上からは、凹石と、台石が出土している。

Ⅱ地区23号住居址 (第96図 P L61)

位置 13区P～Q-11～12。Ⅱ地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の北側、東端にある。南側で22号住居と重複している。形状 南北4.8m、東西4.8mを測る。東壁側で直線的になるが、円形を呈する。壁 壁高は15～20cmを測る。西壁ではローム面を壁面とし、東壁側では、ローム漸移層を壁面としている。立ち上がりは、西壁側でゆるやかで、東壁では急角度である。覆土 ロームブロック、軽石等が乱雑に入り込んでいることから人為的な埋没と考えられる。東側に傾斜していることから、遺構確認面の地山が西側ではローム面、東側ではローム漸移層となっている。床面 ローム層を床面としている。壁周辺部を除いて床面は硬化している。凹凸は少なく平坦である。住居内には土坑が2基重複している。132号土坑は、住居よりも新しい。内土坑は本住居に伴うものか、本住居より古いものである。柱穴 壁にそって6基の柱穴が確認された。P4は、22号住居の柱穴と思われる。他の5基が柱穴となる。ほぼ等間隔に配置される。炉 北西寄りに検出された。径40cm、深さ20cm程の窪みに磔を廻した石囲い炉である。中央には、土器が埋設されている。炉内には、炭化物が入っていた。遺物 覆土上層で、住居の窪みに遺物が流入した状態で出土している。床面では、石皿、多孔石等が出土している。

Ⅱ地区24号住居址 (第97図 P L62)

位置 13区Q～R-10～11。Ⅱ地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の北寄り東側にある。本住居の



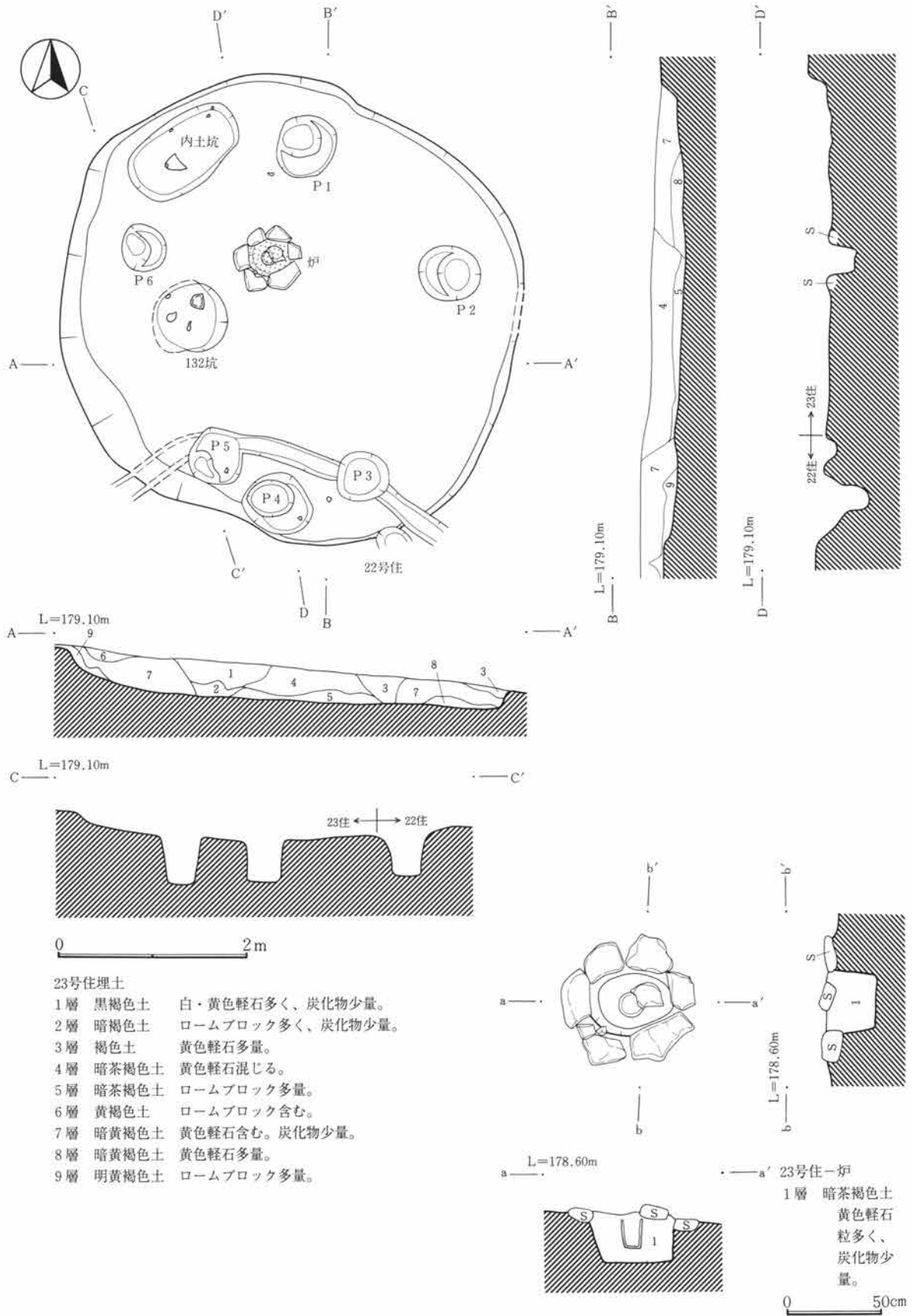
第95図 22号住居炉址

東側で22号住居と重複している。本住居が古い。 形状 22号住居と、土坑により北・東側を壊されている。残存部からの推定で径4.2m程の円形を呈するものと思われる。 壁 掘り込みは浅く、壁高は5cm程である。ローム層を壁面としている。立ち上がりはゆるやかである。 覆土 覆土中には、ロームブロック、軽石粒が乱れて入っていることから、人為的な埋没と考えられる。 床面 ローム層を床面としており、中心部は硬化している。凹凸は少なく平坦である。周溝が南西壁側に廻っている。幅20~30cm、深さ10~15cm程である。 柱穴 南西壁寄りに3基の柱穴が確認された。周溝に沿って作られている。 炉 ほぼ中央に一辺50cm、深さ15cm程の窪みに礫を置いた石囲い炉である。炉石の一部は抜き取られている。中央には土器が埋設されていた。炉内には、焼土、炭化物が堆積していた。 遺物 掘り込みが浅いため、覆土中からの遺物量も少ない。

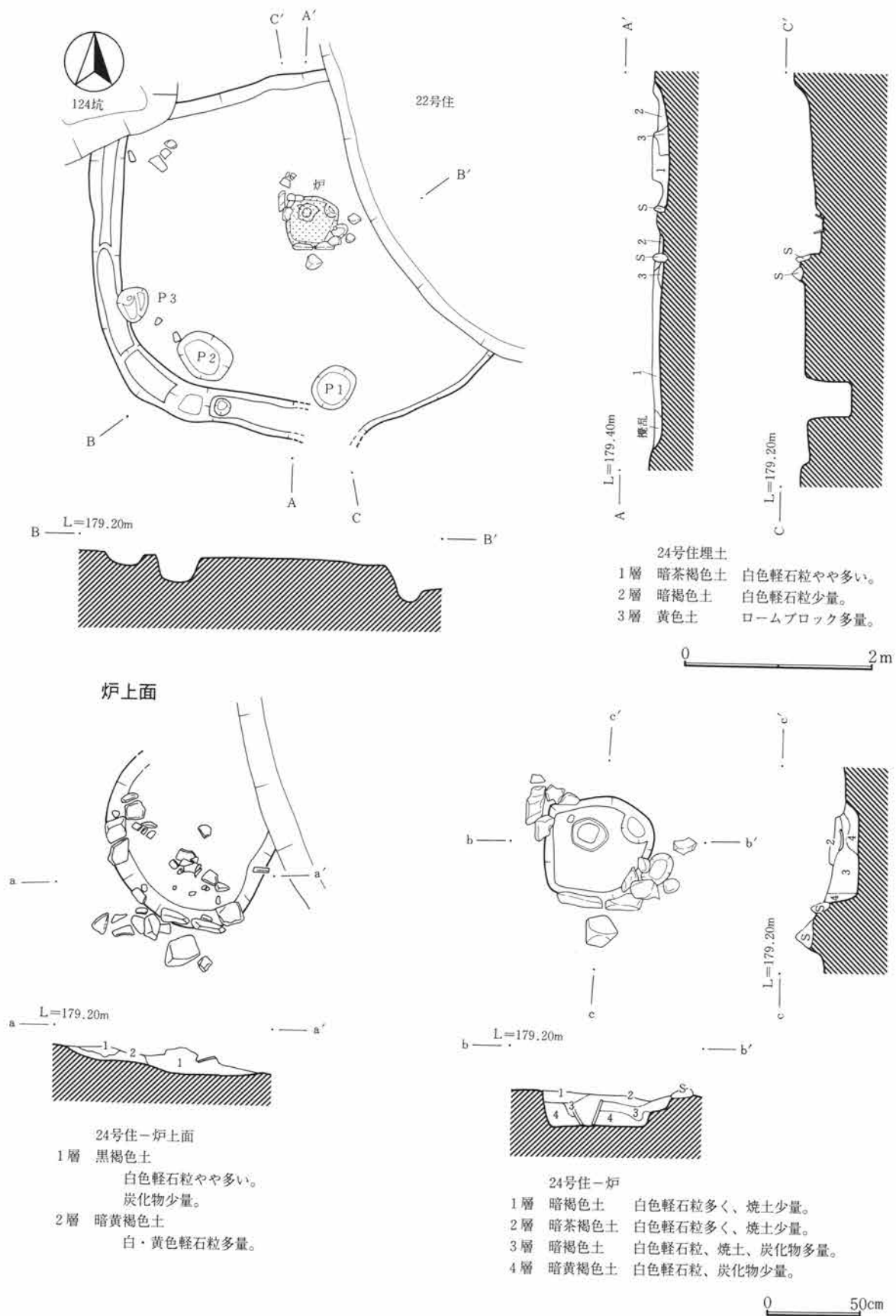
II地区25号住居址 (第98図 P L63)

位置 13区R~S-12~13。II地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の中央北側にある。住居の北半は、調査地域外のため、未調査である。 形状 南半の調査部分から推定すると、径5.4mの円形を呈する。 壁 壁高は10~20cmを測る。ローム層を壁面としている。立ち上がりはゆるやかである。 覆土 地形の傾斜にそって土層が堆積していることから、自然埋没と考えられる。 床面 ローム層を床面としている。住居中央部は硬化している。凹凸は少なく平坦である。 柱穴 壁にそって4基の柱穴が確認された。ほぼ等間隔に並ぶ。 炉 調査部分からは検出されなかった。未調査部分にあると思われる。 遺物 覆土上層にまばらに遺物が出土している。量が少なく小さい遺物が多いことから、住居の窪みに自然流入したものと考えられる。

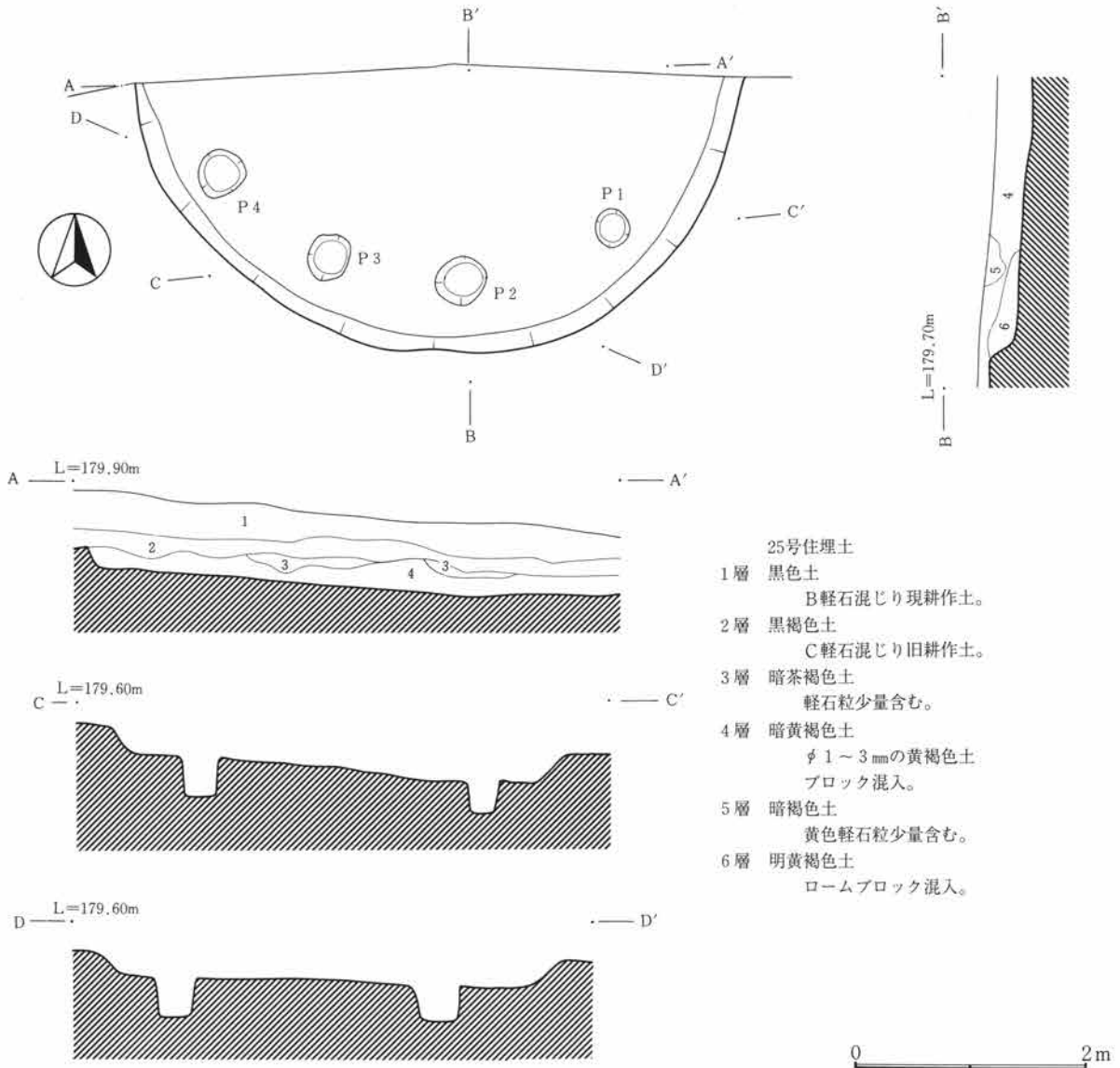
第2節 検出された住居址



第96図 23号住居址・炉址



第97図 24号住居址・炉址



第98図 25号住居址

II地区26号住居址 (第99図 P L 64)

位置 13区S-11~12。II地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の中央北側にある。27号住居と北側で接している。
形状 現地表から遺構確認面までが浅く、上部を耕作等により削平されている。また、他住居との重複による攪乱により形状は特定できなかった。
壁 わずかに壁の一部が残っていた。壁高は、10cm程である。ローム漸移層を壁面としている。立ち上がりは比較的しっかりしており、急角度で立ち上がる。
覆土 軽石粒混じりの土が若干堆積している外は、大半が攪乱である。
床面 ローム漸移層を床面としている。全体に軟らかい床面であった。凹凸は少なく平坦である。
柱穴 検出されなかった。
炉 石囲い炉が確認された。床面を数センチ窪め磔を方形に置いている。長軸80cm、短軸で70cmを測る。中央に土器を埋設している。炉内には、焼土、炭化物が堆積している。
遺物 掘り込みが浅いため、

第3章 II地区 検出された遺構

覆土中からの出土遺物量は少ない。床面出土遺物では、住居の東寄りから深鉢が出土した。深鉢は伏せた状態で出土している。底部から胴部にかけては、攪乱などにより削られている。

II地区27号住居址 (第100図 P L 64・65)

位置 13区S～T-12～13。II地区調査区東側、弧状に分布する住居群の北側にある。29号住居と重複している。本住居が新しい。**形状** 現地表面から確認面まで浅く、攪乱を受けていたため、本住居の形状を特定できなかった。**壁** 29号住居内に本住居が作られており、壁と覆土との区別が困難であったため、壁面は特定できなかった。**覆土** 軽石粒、ロームブロック等が乱れた状態で堆積している。**床面** ローム層を床面としている。炉周辺では硬化した部分が認められたが、周辺部では、軟らかい。**柱穴** 検出されなかった。**炉** 石囲い炉が検出された。南北95cm、東西60cm、深さ15cmに床を掘り窪め、礫で囲っている。北側の炉石は抜きとられている。炉中央には、土器が埋設されている。焼土、炭化物が堆積している。**遺物** 掘り込みが浅いため、覆土中からの出土遺物量は少ない。

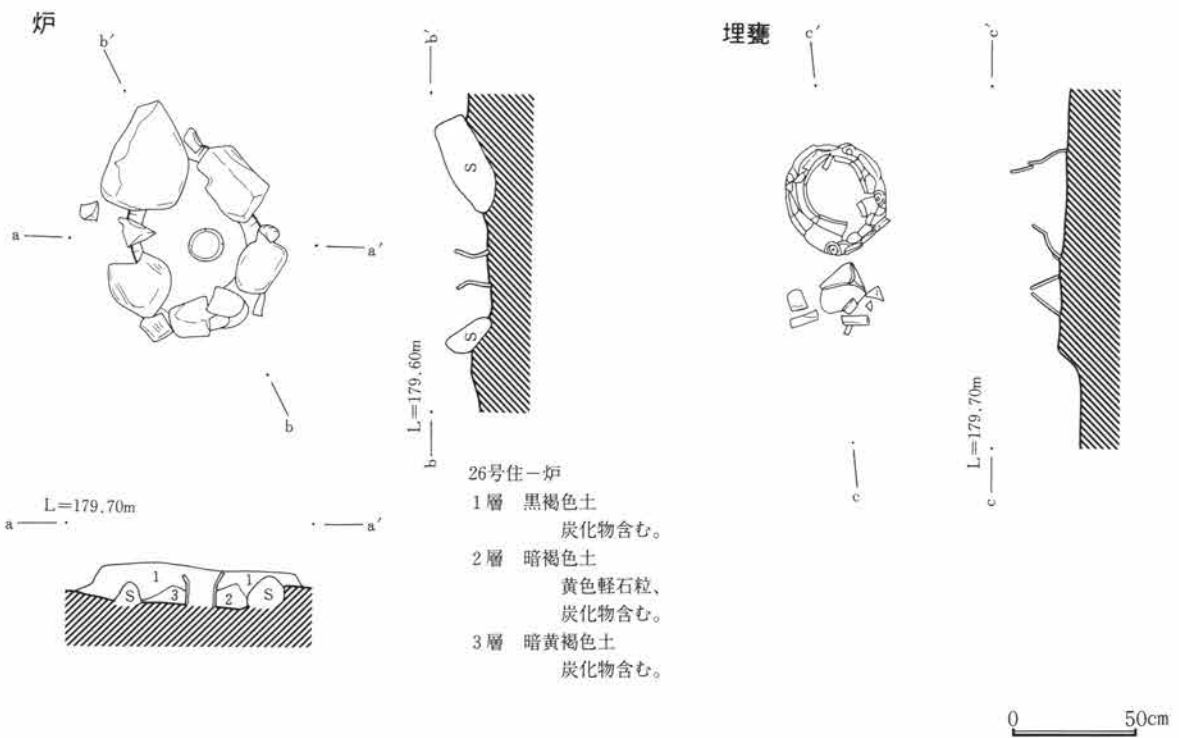
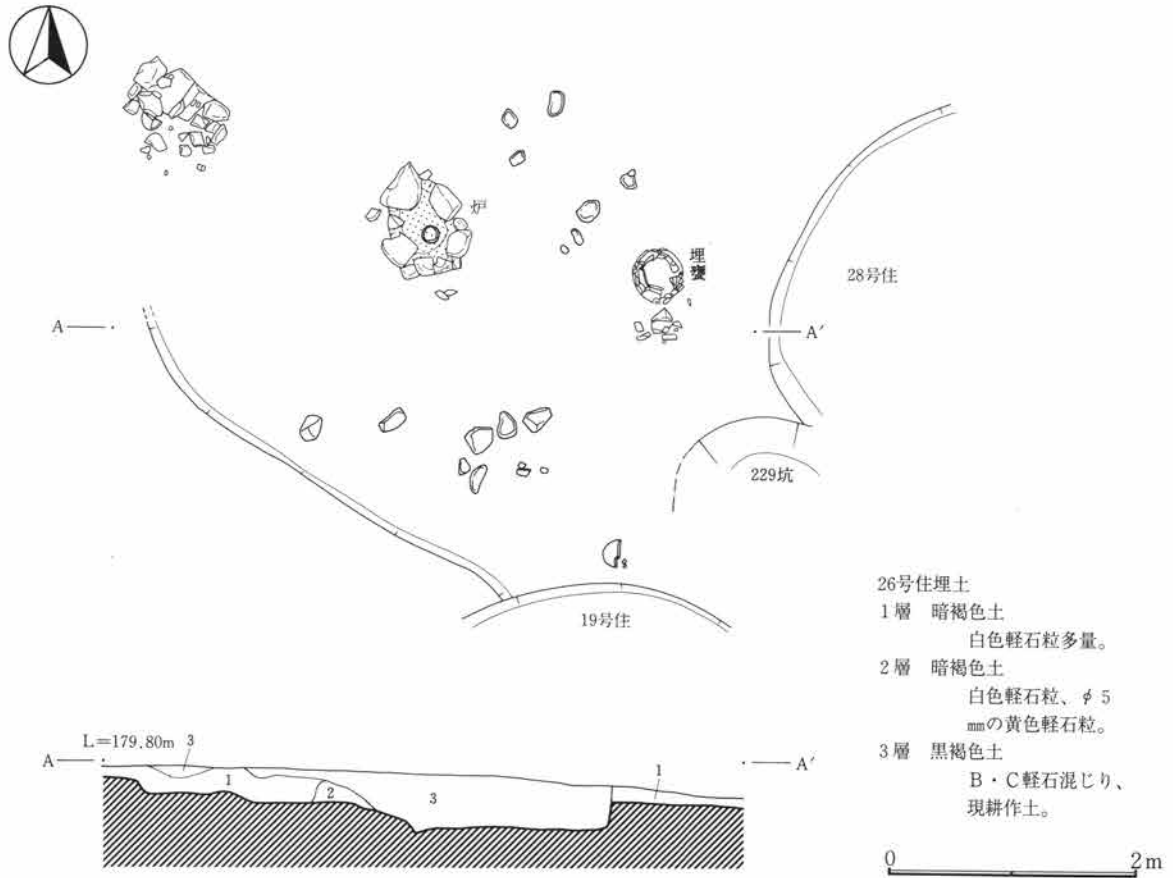
II地区28号住居址 (第101図 P L 66)

位置 13区Q～R-11～12。II地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の中央、北側にある。23号住居の西、24号住居の北側に位置する。**形状** 北東側を土坑と、耕作等による削平を受けている。現状で、南北5.5m程の円形を呈すると思われる。**壁** 西壁側で、壁高10cmを測る。ローム層を壁面として急角度で立ち上がる。**覆土** 現地表面から遺構確認面までが浅く、攪乱を多く受けている。軽石粒、ロームブロック等が乱れた状態で堆積している。人為的な埋没と考えられる。**床面** ローム層を床面としており、壁際を除き硬化している。凹凸は少なく平坦である。**柱穴** 住居内からは8基のピットが確認された。このうち、P3を除き炉を中心に同心円状に並ぶことから柱穴と考えられる。**炉** 北側に若干寄った所で石囲い炉が検出された。炉は、南北90cm、東西110cm、深さ10cmの方形の掘り込みに、礫を配置したものである。炉内には土器を埋設している。焼土、炭化物の堆積もみられた。**遺物** 掘り込みが浅いため、覆土中の遺物出土量は少ない。床上からは、礫がいくつか出土している。

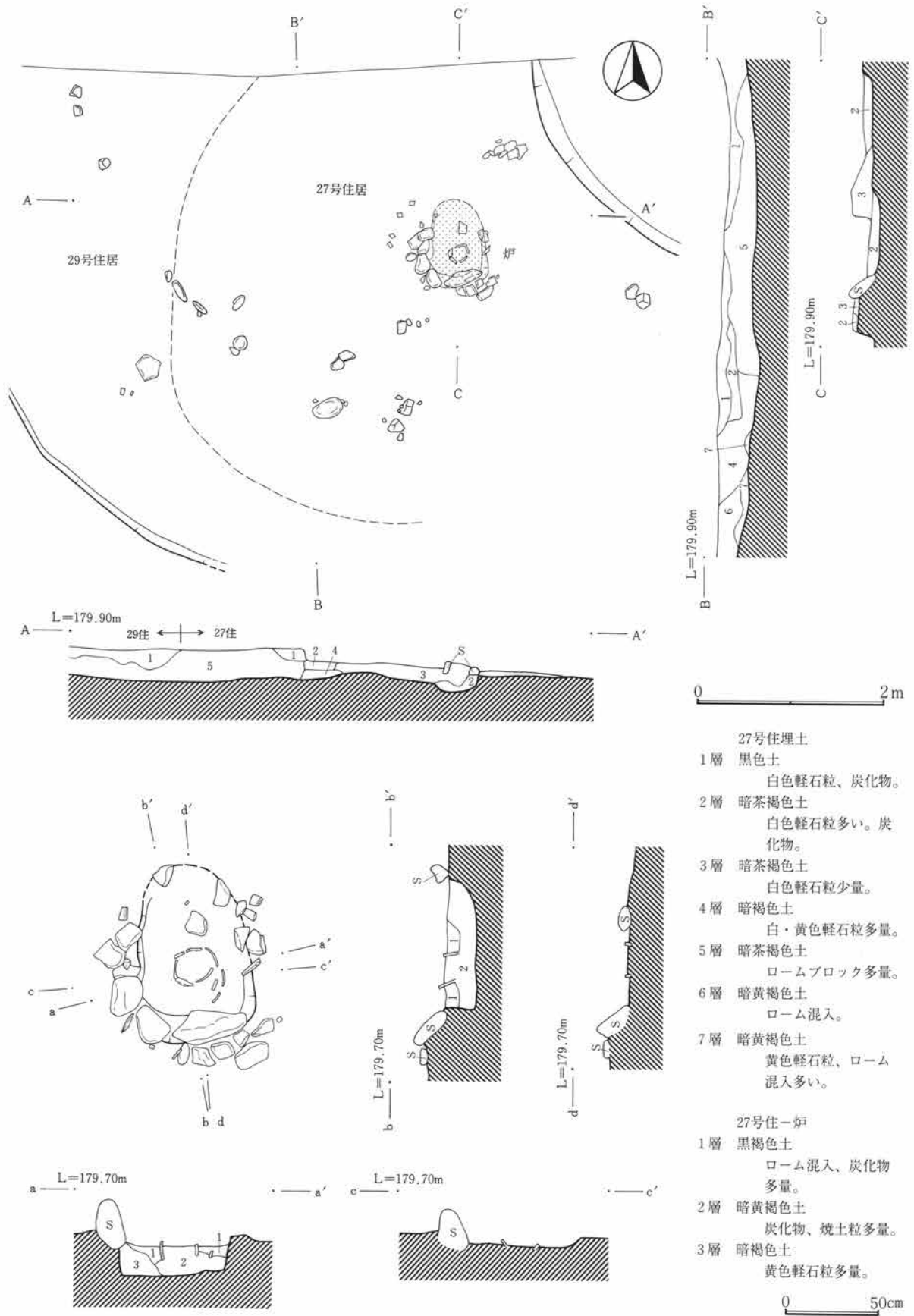
II地区29号住居址 (第102図 P L 64・65)

位置 13区T-12～13。II地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の北側にある。27号住居と重複しており、本住居が古い。**形状** 北側部分は、調査範囲外で、東側部分は、27号住居により壊されている。現状で残っている西壁側から推定すると、不整円形を呈すると思われる。**壁** 残存する壁での高さは、約5cmと低いものである。ローム漸移層を壁面としており、覆土と地山の区別が難しかった。**覆土** 掘り込みが浅く、現地表面からも浅い位置にあるため、耕作による攪乱を多く受けている。軽石粒、ロームブロック等が乱雑に堆積している。**床面** ローム層を床面としている。炉周辺では硬化面が認められた。周辺部は軟らかくなっている。凹凸は少なく平坦であるが、中央部に向かって傾斜がみられた。**柱穴** 確認できなかった。**炉** 石囲い炉が検出された。長軸70cm、短軸40cm、深さ15cmの掘り込みの周囲に礫を配置している。中央部は一段深くなり、埋設した土器を抜きとったような窪みになる。炉内には、焼土、

第2節 検出された住居址

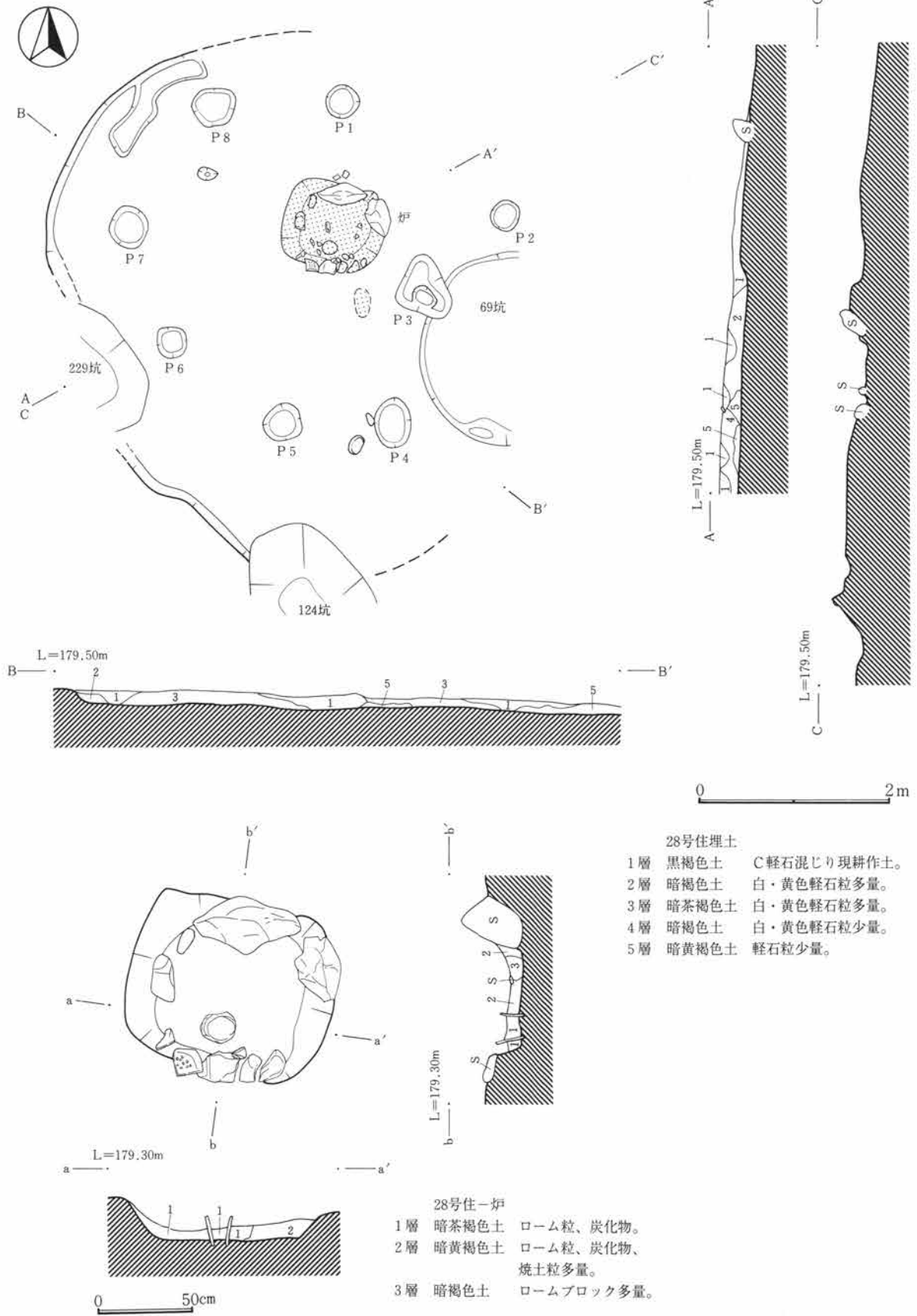


第99図 26号住居址・内施設



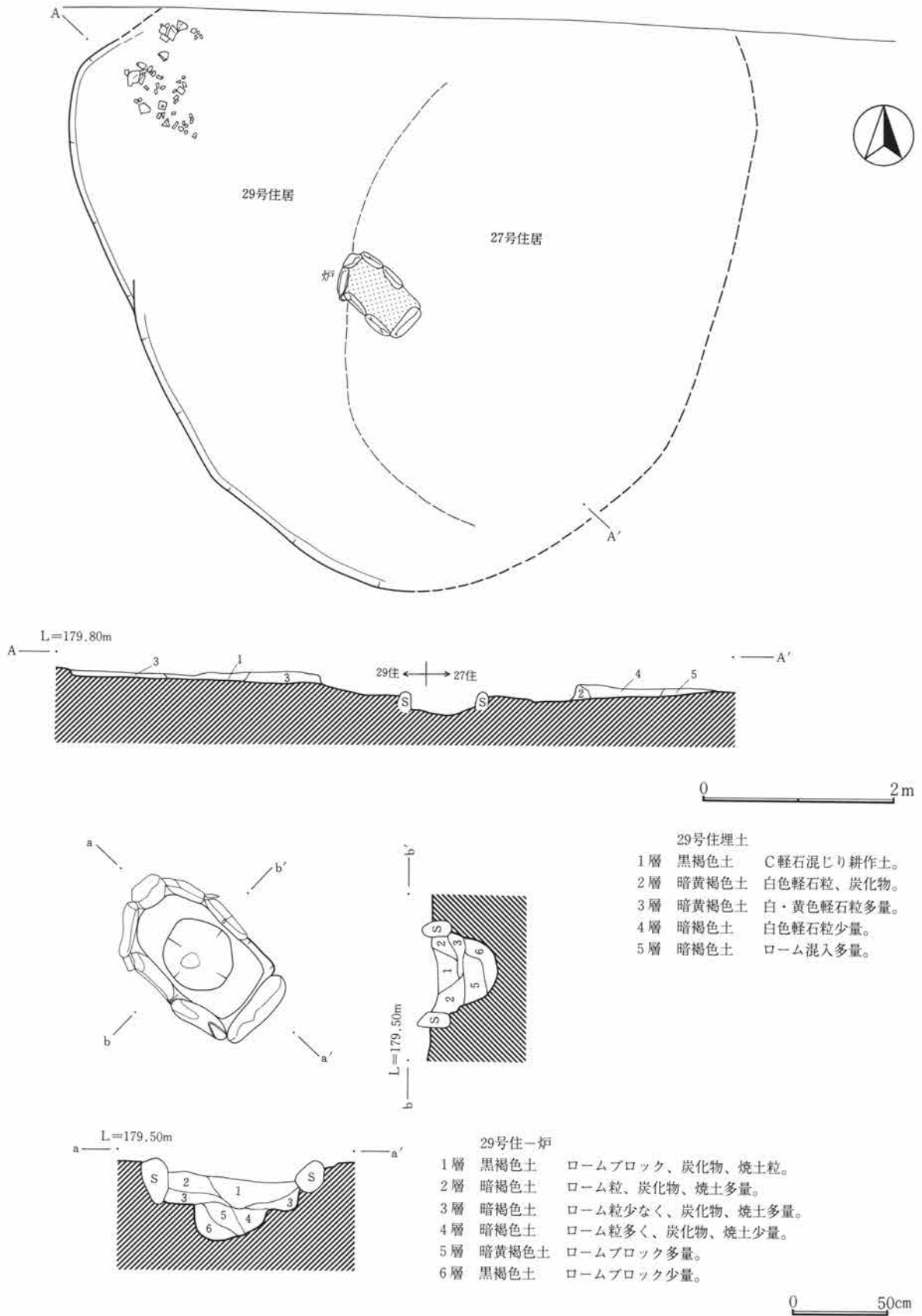
第100図 27号住居址・炉址

第2節 検出された住居址



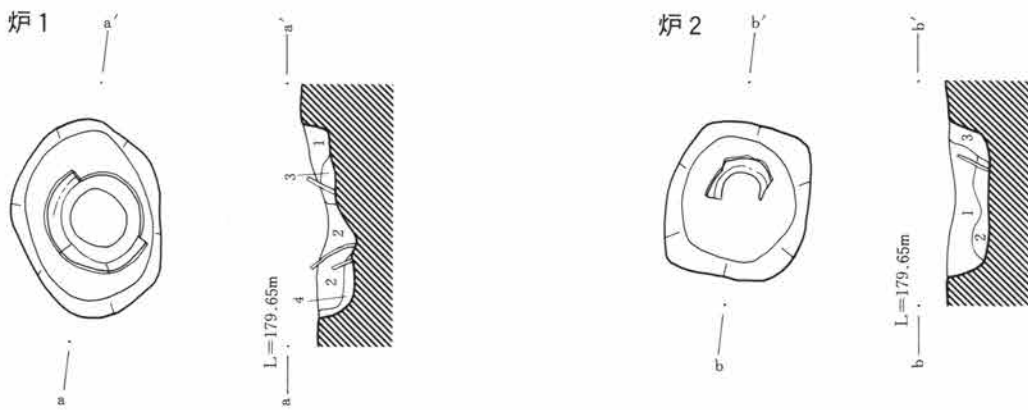
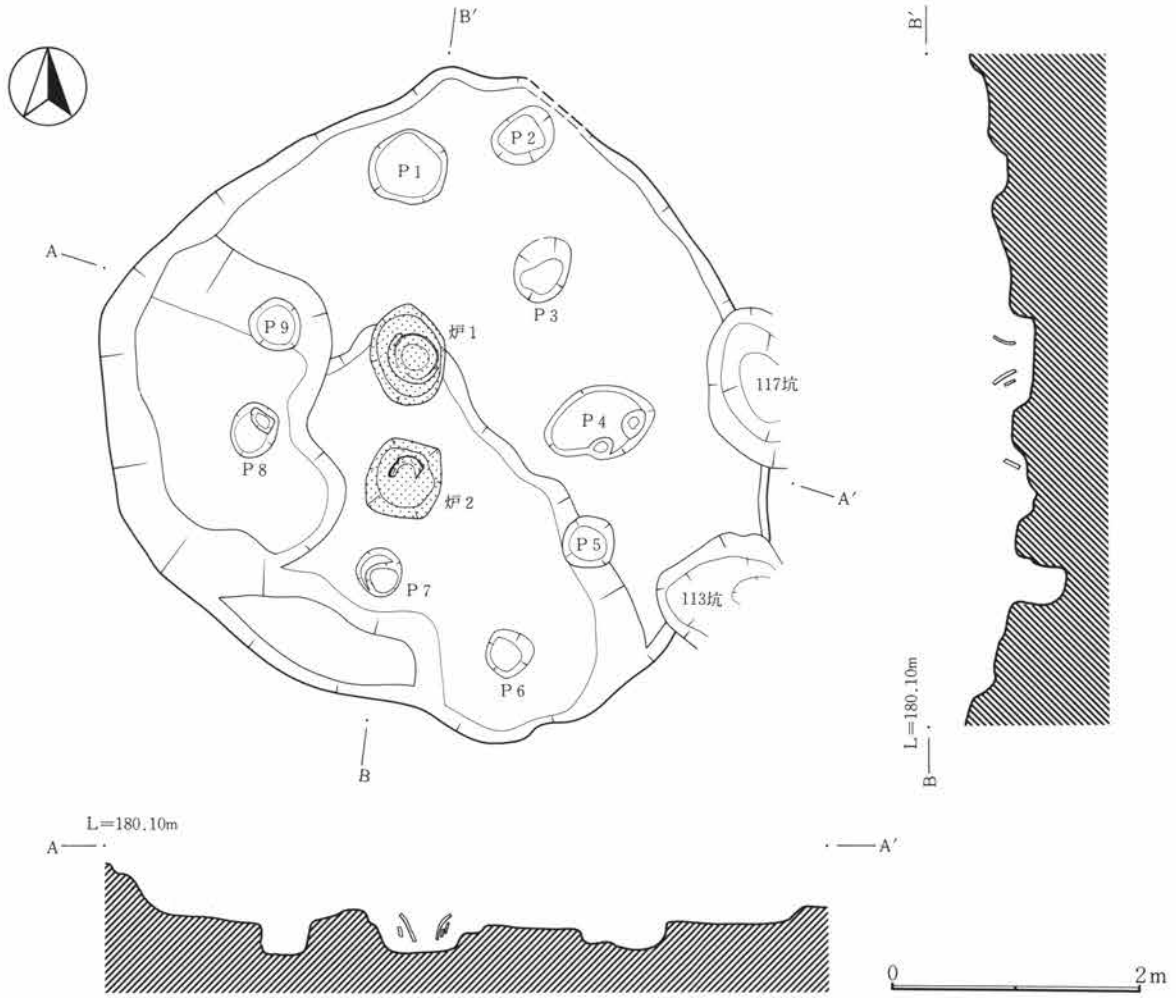
第101図 28号住居址・炉址

第3章 II地区 検出された遺構



第102図 29号住居址・炉址

第2節 検出された住居址



- 30号住一炉1
- 1層 暗黄褐色土 ロームブロック少し混じる。
 - 2層 暗茶褐色土 ロームブロック少し混じる。
 - 3層 黒色土 ローム・暗黄褐色土の混合。
 - 4層 暗黄褐色土 ロームブロック多量。

- 30号住一炉2
- 1層 暗茶褐色土 黄色軽石粒やや多い。
 - 2層 暗茶褐色土 炭化物少し含む。
 - 3層 暗茶褐色土と灰黄褐色土の混合。

0 50cm

第103図 30号住居址・炉址

第3章 II地区 検出された遺構

炭化物が堆積している。遺物 掘り込みが浅く覆土中からの遺物出土量は少ない。住居西側で、土器片が集中して出土している。一括投棄されたものと考えられる。

II地区30号住居址 (第103図 P L67)

位置 13区S～T-8～9。II地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の内側中央にある。36号住居の東、17号住居の北側に位置する。形状 南北5.5m、東西5.2mを測る。不整円形を呈する。壁 壁高は東壁で低く10cmで西壁で30cmを測る。ローム層を壁面としている。立ち上がりはゆるやかである。覆土 西壁側を除き、掘り込みが浅く、覆土内の堆積層は薄いものであった。覆土上層では、軽石混じりの土とともに、遺物の流入がみられ、下層では、ローム漸移層、ロームブロック等が堆積している。床面 ローム層を床面としている。壁周辺を除き全体に硬化面がみられた。凹凸が多く、南側に段差を持って傾斜している。東壁側で土坑と重複している。いずれも本住居より新しい。柱穴 住居内からは、9基のピットが確認されている。P3が若干内側にある外は、壁際に同心円状に配置されている。炉 住居中央部に埋設土器が2基検出された。土器内には、若干の焼土、炭化物が堆積している。これ以外では、炉址になりそうなものは検出されなかった。遺物 覆土上層部に土器、礫等が多く出土している。

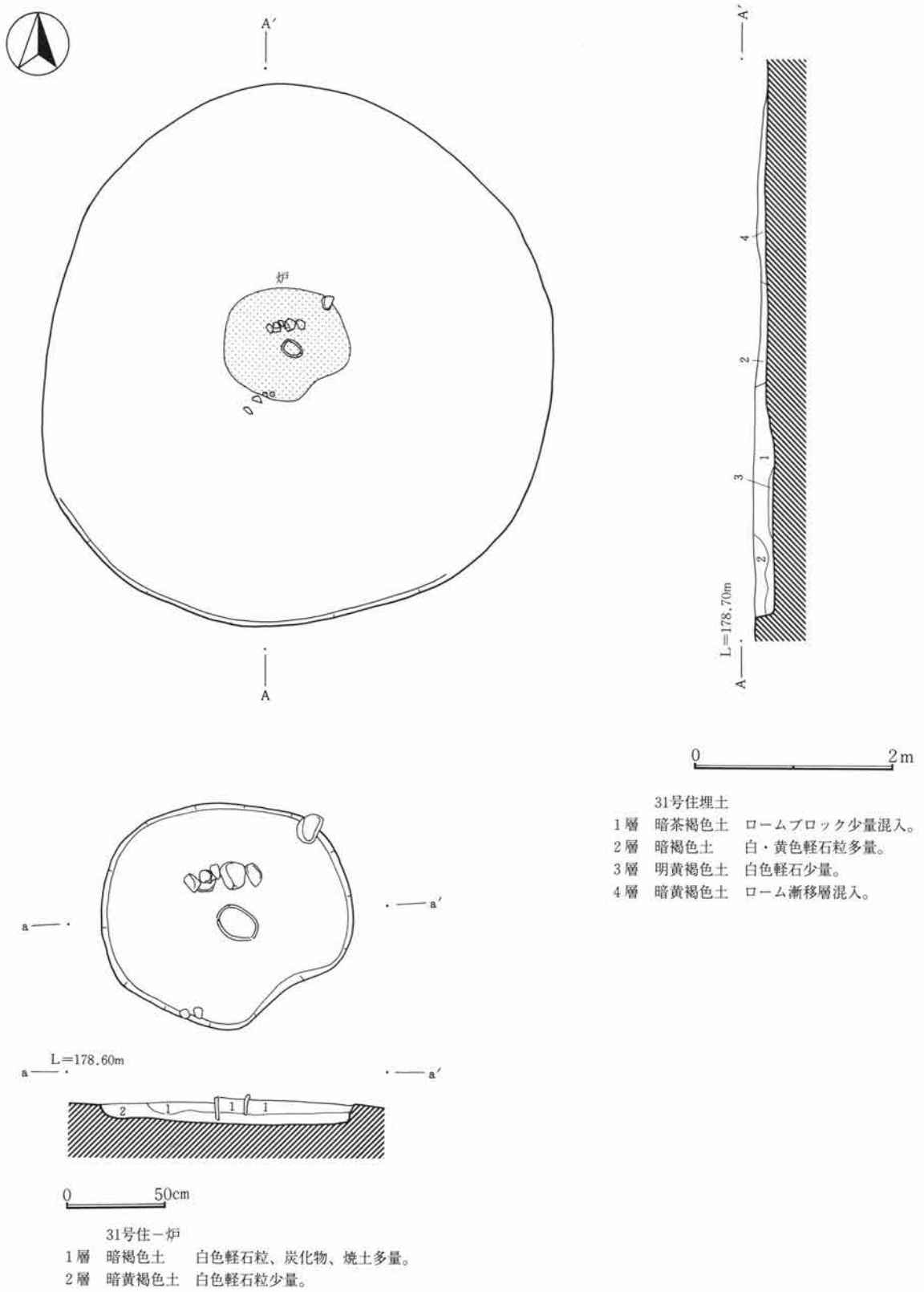
II地区31号住居址 (第104図 P L68)

位置 13区P～Q-6～7。II地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の東端、南寄りにある。32号住居と西側で重複している。本住居が新しい。形状 現地表面から確認面が浅く上部の大半が削平されている。北半部は床面、遺物出土による推定になる。南北5.3m、東西5.1mの楕円形を呈する。壁 南側で壁高15cmを測る。ローム層を壁面としている。立ち上がりは急角度で、しっかりしている。覆土 ロームブロック、ローム漸移層、軽石粒等が乱れて堆積している。床面 ローム層を床面としている。炉周辺で硬化面がみられた以外は、軟らかい床面となっている。柱穴 柱穴らしいものは、確認できなかった。炉 径1.1m、深さ10cmに床面を掘り窪めた内に、数個の礫と、土器を埋設した炉が検出された。炉内には、焼土、炭化物等が堆積している。遺物 掘り込みが浅いため、覆土中からの遺物量は少ない。

II地区32号住居址 (第105図 P L68)

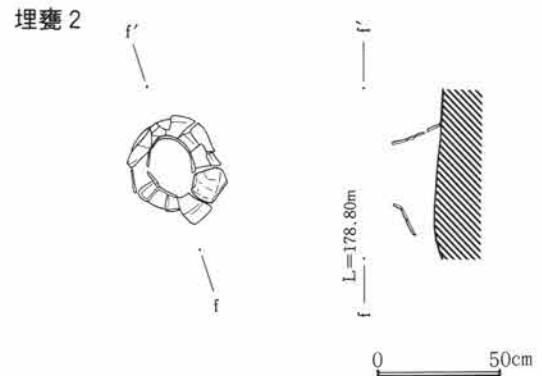
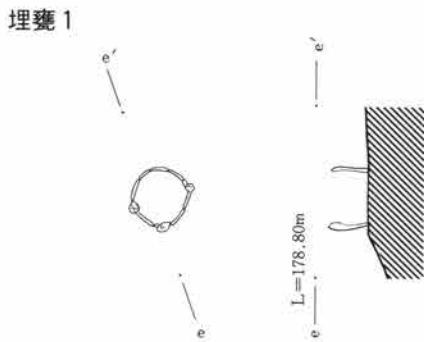
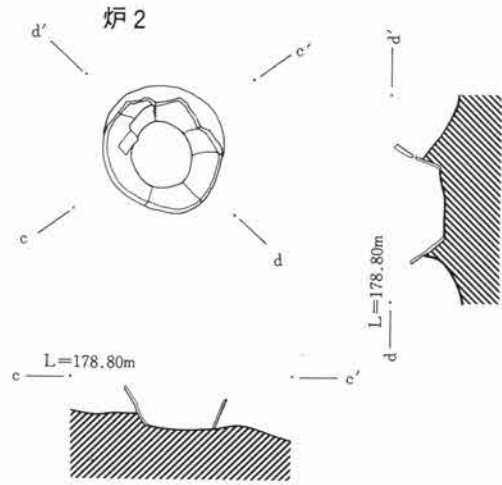
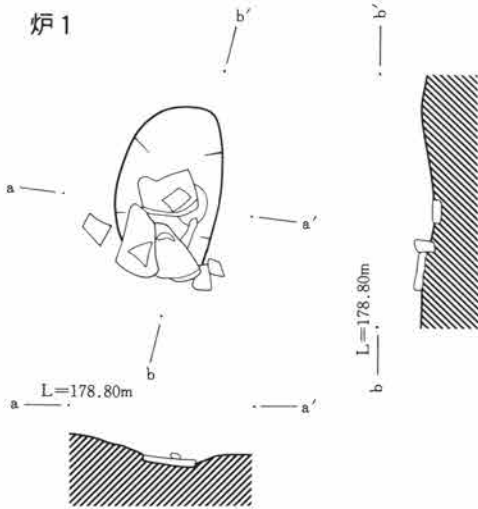
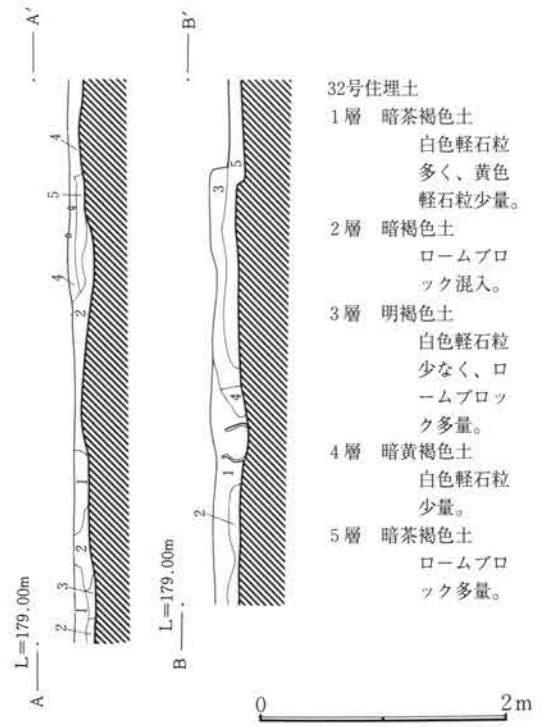
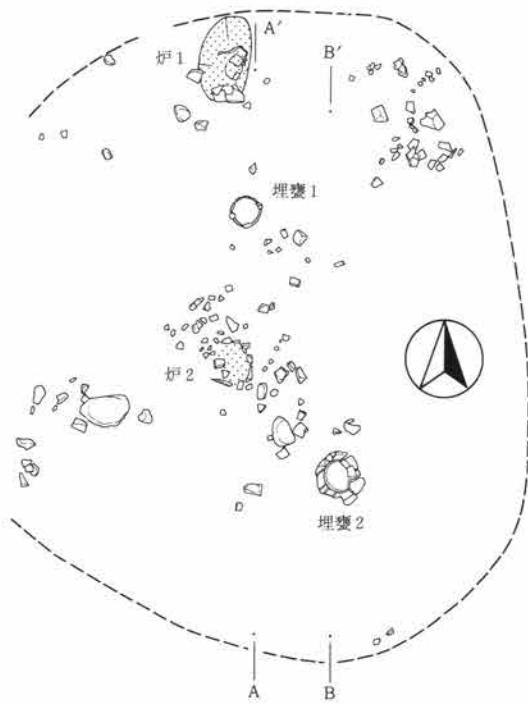
位置 13区Q-7～8。II地区調査区の東に弧状に分布する住居群の東側、南寄りにある。31号住居と重複しており、本住居が古い。形状 現地表面から確認面までが浅く、住居の掘り込み自体浅いことから住居の範囲は特定できなかった。遺物の集中範囲と床面の状況から住居範囲を推定した。壁 地山と覆土との区別が困難で確認できなかった。覆土 ロームブロック、軽石粒が乱れた状態で堆積している。上層では耕作により攪乱されていた。床面 ローム層を床面とし、周囲に比べ若干の硬化面が認められた。凹凸は少なく平坦である。柱穴 確認されなかった。炉 炉2は住居のほぼ中央で石囲い炉が検出された。長軸70cm、短軸40cm程を浅く窪めた所に礫を配置し埋設土器を置いている。炉1の炉石は攪乱等で動いている。遺物 覆土中からの遺物出土量は少ない。住居内には、3ヶ所から土器が出土している。土器1、炉2の土器は底部が欠損したものを、正位に置いている。土器2は、伏せた状態で検出された、

第2節 検出された住居址



第104図 31号住居址・炉址

第3章 II地区 検出された遺構



第105図 32号住居址・内施設

底部が欠損している。

Ⅱ地区34号住居址 (第106図 P L 68)

位置 13区Q～R-6。Ⅱ地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の東側、南側にある。32号住居の南、調査区境界の際に位置する。**形状** 南北3.6m、東西3.7mを測る。円形を呈する。東側は、壁が削平されている。**壁** 全体に掘り込みが浅く、壁のある部分で、壁高は10cm程である。ローム層を壁面として立ち上がりは急角度である。**覆土** 上層からの堆積層と遺構内の堆積層がほとんど同じことから、自然流入による埋没と考えられる。**床面** ローム層を床面としており、炉周辺では硬化面が認められた。凹凸は少なく平坦である。**柱穴** 確認されなかった。**炉** 住居の北、西寄りに石囲い炉が検出された。炉は、径70cm、深さ20cm程の円形の窪みを礫で囲ったものである。中央に土器を埋設している。炉内には、焼土、炭化物等が堆積している。**遺物** 覆土中からの遺物出土量は少ない。住居内東寄りの所で、底部の欠損した埋設土器が検出された。

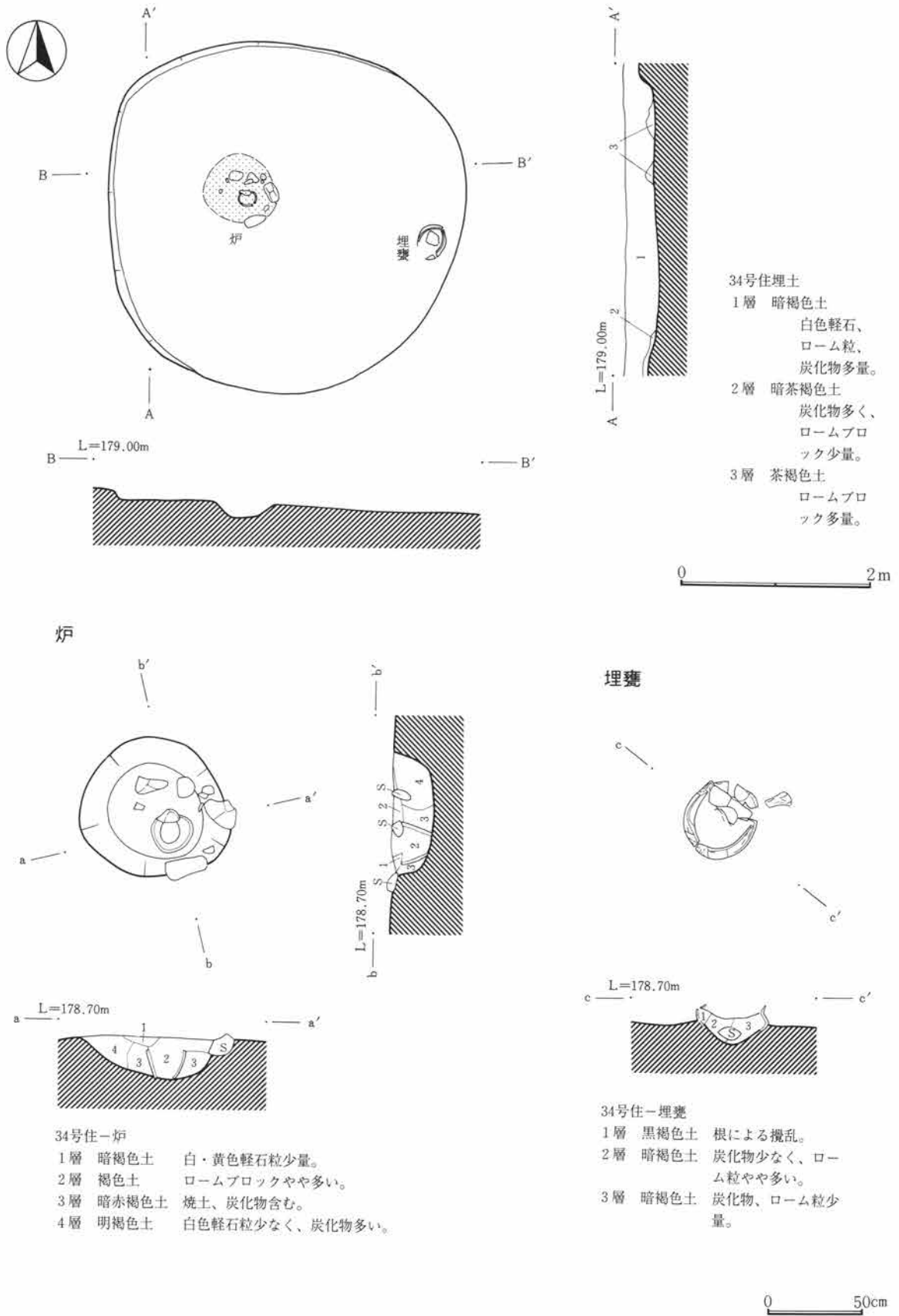
Ⅱ地区35号住居址 (第107図 P L 68)

位置 13区N～O-11～12。Ⅱ地区調査区の東に弧状に分布する住居群の外側、最東端、北側にある。23号住居の東に位置する。本住居より東側では急傾斜地となる。**形状** 住居の北側は調査区域外にあり、東側は削平されている。調査部分は住居の3分の2程である。調査部分から考えると方形になると思われる。**壁** 西壁の残りの良い所で壁高20cmを測る。ローム壁で立ち上がりは急角度でしっかりしている。南側壁は残存状況が良くなく、東側は削平されている。**覆土** ロームブロックや軽石を含む土が、ブロック状に乱れて堆積していることから、人為的な埋没と考えられる。**床面** ローム層を床面としている。壁周辺部では軟らかいが、炉を中心とした所では硬化している。凹凸は少なく平坦である。**柱穴** 確認されなかった。**炉** 長軸80cm、短軸70cm、深さ20cm程の掘り窪めた一方に礫を置き、中央に土器を埋設した炉が検出されている。炉内には、焼土、炭化物が堆積していた。**遺物** 覆土中から若干の土器片、石器、礫等が出土しているが、量は多くない。

Ⅱ地区36号住居址 (第108図 P L 68)

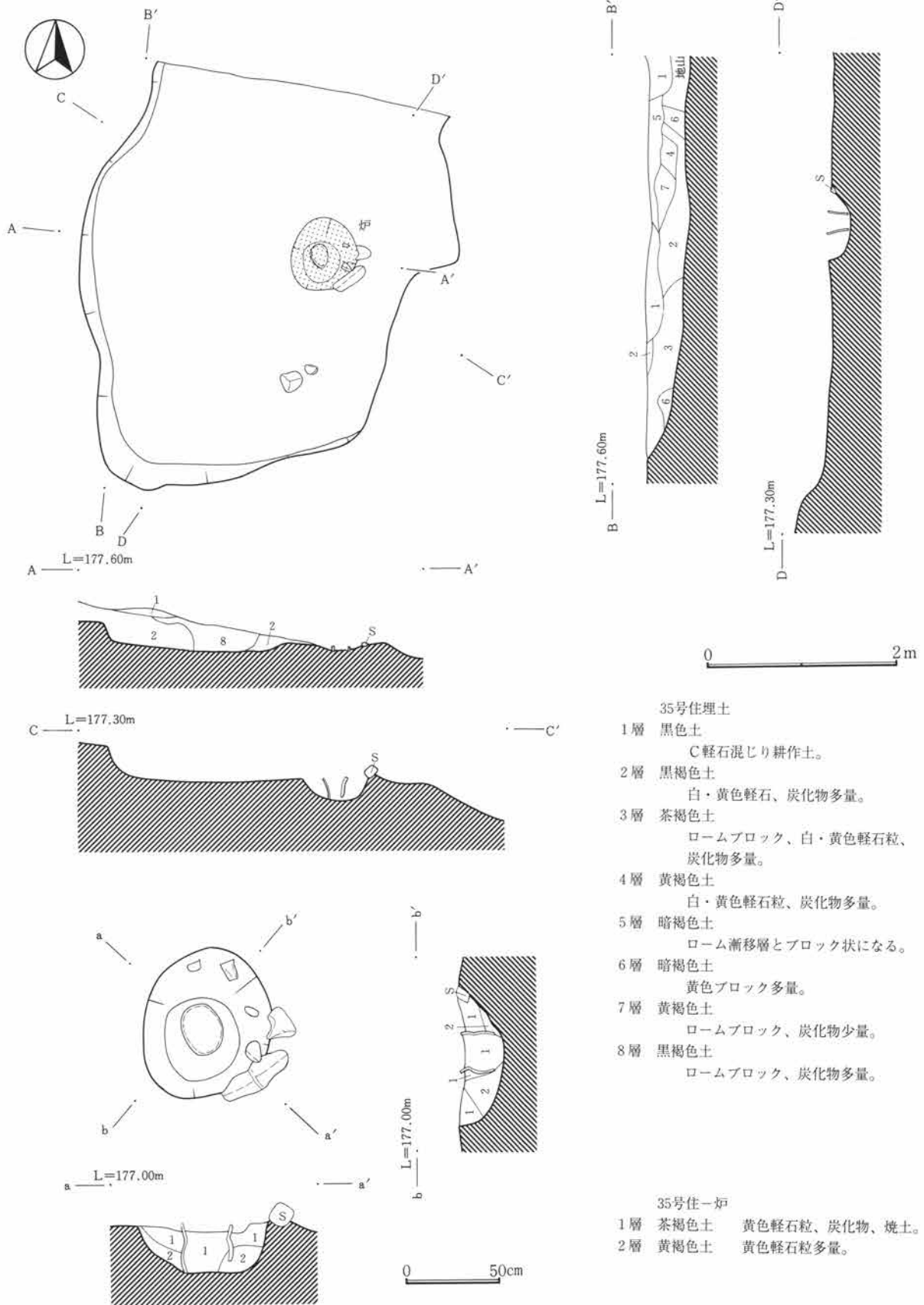
位置 14区A～B-8～9。Ⅱ地区調査区の東側、弧状に分布する住居群の西側中程にある。30号住居の西側、16号住居と重複している。本住居が古い。**形状** 南壁は、16号住居との重複で確認できなかった。東西径5.1mを測り、ほぼ円形になると考えられる。**壁** 壁高は高い所で20cm程である。壁面はローム層で立ち上がりは急角度である。**覆土** 耕作による攪乱が入っている他は、軽石粒、ロームブロック等が入り込む。**床面** ローム層を床面としている。壁周辺を除いて、全体に硬化していた。凹凸は少なく平坦である。**柱穴** 確認できなかった。**炉** 住居中央に石囲い炉が検出された。炉は、長軸80cm、短軸60cm、深さ15cm程の掘り窪めた所に礫を配置している。現状では、北側で炉石が抜きとられている。炉は土坑と重複しているが、土坑の上に作られている。炉内には、炭化物、焼土が堆積している。**遺物** 掘り込みが比較的浅いことから、覆土中からの遺物出土量は多くない。

第3章 II地区 検出された遺構



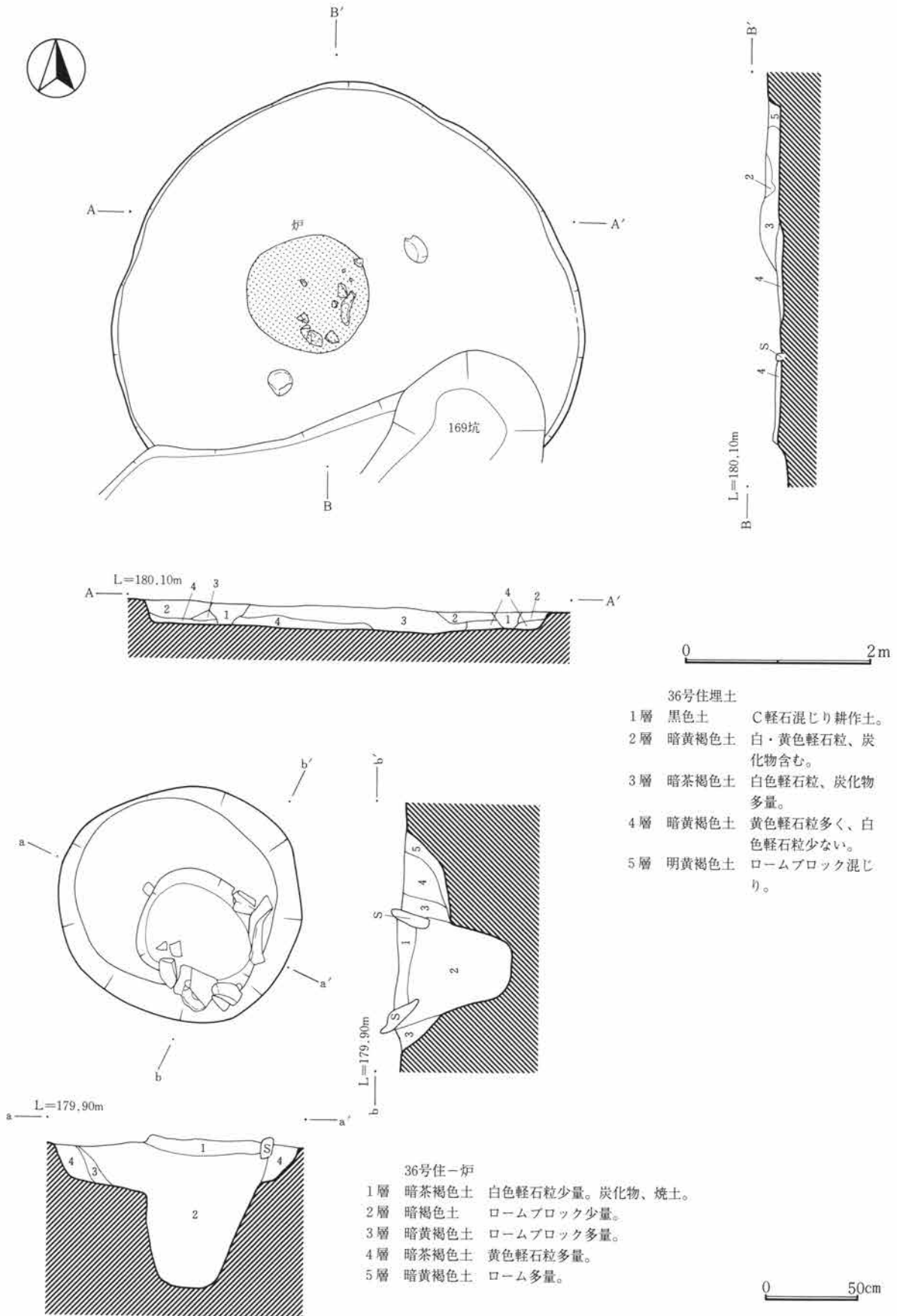
第106図 34号住居址・内施設

第2節 検出された住居址



第107図 35号住居址・炉址

第3章 II地区 検出された遺構



第108図 36号住居址・炉址

第2節 検出された住居址

II 地区住居址ピット一覧表

単位：cm

住居址No.	Pit No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1	規模	19×19	27×25	23×24	23×23	28×28	25×28	18×18	20×59	35×55	26×24	20×21	17×42	22×27
	深さ	30	9	48	31	3	15	6	26	32	24	49	41	39
	Pit No.	14	15	16	17	18	19	20	21					
14	規模	18×23	22×24	35×22	45×22	30×28	20×30	23×30	21×21					
	深さ	44	53	46	55	33	53	25	25					
15	規模	53×120	42×40	50×45	72×79	50×44	58×52	35×34						
	深さ	14	66	64	45	30	15	41						
16	規模	77×38	35×32	46×46	40×40									
	深さ	16	15	42	25									
17	規模	90×79	110×90	78×69										
	深さ	44	26	27										
18	規模	25×22	30×30	28×28	38×34	33×35	33×27							
	深さ	——	29	——	29	——	——							
19	規模	42×45	38×32	53×45	33×33	40×39	40×51	33×31	35×35	31×30				
	深さ	58	57	59	38	29	51	59	48	55				
20	規模	48×48	55×58	53×50	50×42	42×42	40×40	45×46	55×68	50×56	58×60			
	深さ	69	55	55	55	21	20	61	46	53	38			
21	規模	100×87	85×87	51×52	61×51	44×73	26×29	40×82	45×27	97×43	57×52			
	深さ	42	51	35	40	28	16	53	14	36	28			
22	規模	60×54	52×45	49×56	40×45									
	深さ	14	44	24	47									
23	規模	34×39	41×36	38×39	40×42	43×35	46×45	50×50	63×63	40×42	36×39			
	深さ	11	22	24	70	55	43	65	51	44	55			
24	規模	62×60	56×63	50×54	63×72	57×55	47×46							
	深さ	51	52	52	51	45	51							
25	規模	45×45	47×60	37×32										
	深さ	48	28	52										
28	規模	30×29	41×45	40×35	43×40									
	深さ	29	31	35	33									
30	規模	35×35	32×30	60×59	51×40	38×39	35×31	44×40	40×45					
	深さ	17	20	35	17	14	8	37	14					
30	規模	60×62	47×50	50×44	60×90	41×40	37×37	38×36	43×38	41×40				
	深さ	13	40	27	30	26	24	42	28	32				

第3章 II地区 検出された遺構

第3節 検出された土坑

II地区土坑一覧表

土坑 No.	位置	規模 上面(cm)	規模 下面(cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物・特徴など	挿図 No.
1	14区B-9	82×86	68×70	50	不整形。	土坑内に深鉢が伏せた状態で出土。上部削平されている。	109
2	14区M-12	72×70	60×58	26	円形、断面円筒状。	中央に深鉢が伏せた状態で出土。	109
3	14区K-11	120×108	56×48	100	楕円形。	底面が2段になる。	109
4	14区L-11	130×126	106×106	74	方形、下段円形。	底面が2段になる。覆土上層に礫が集中して出土。	110
5	14区L-12	64×84	50×71	50	楕円形、断面筒状。	覆土下層から礫数点出土。	110
6	14区G-6	——	——	—	不整形。	掘り込みは浅い。礫が集中する。	110
7	14区M-11	152×130	138×120	40	円形。	底面凹凸少なく平坦。覆土上層から礫出土。	110
8	14区 L~M-11	198×136	174×114	42	双円形。	底面凹凸少なく平坦。覆土上層に遺物少量出土。	110
9	14区L-12	94×96	84×82	24	円形、断面筒状。	底面凹凸少ない。覆土中層から土器出土。	110
10	14区L-13	102×128	64×74	52	円形、断面皿状。	覆土下層に遺物集中。	111
11	14区L-12	116×112	106×92	24	円形、断面筒状。	底面凹凸少ない。底面近くに偏平な礫出土。	111
12	14区K-12	68×68	54×50	114	円形。	底面にビットを持つ。	111
13	14区L-11	46×48	26×30	12	円形、断面皿状。	覆土上層に遺物集中する。	111
14	14区L-10	84×84	64×72	42	円形、断面筒状。	底面より礫出土。	111
15	14区L-13	20×20	——	—	円形、埋設土器。	埋設土器の掘り方は確認できなかった。口縁、底部欠損。	111
16	14区 M~N-12	78×108	48×92	20	不定形、断面皿状。	底面凹凸少ない。覆土中から礫の出土多い。	112
17	14区L-11	82×82	70×70	34	円形、断面筒状。	底面凹凸少なく平坦。底面近くから若干の遺物出土。	112
18	14区O-13	—×114	—×106	34	楕円形。	底面凹凸少なく平坦。底面近くから偏平な礫が出土。	112
19	14区K-11	80×94	50×56	46	円形。	底面凹凸少なく平坦。遺物は出土しなかった。	112
20	14区I-13	56×54	36×34	20	円形、断面皿状。	上部に埋設土器。攪乱により欠損している。	112
21	14区J-11	54×54	40×38	40	円形、断面筒状。	底面凹凸少なく平坦。上層に遺物集中する。	112
22	14区 J-11~12	94×104	82×88	48	円形、断面筒状。	底面凹凸少なく平坦。遺物は少ない。	112
23	14区 J~K-12	142×144	126×130	46	長楕円形。	底面凹凸少なく平坦。土器の小片少量出土。	113
24	14区J-12	74×72	58×58	48	円形、断面筒状。	底面凹凸少なく平坦。遺物なし。	113
25	14区K-13	—×190	—×94	58	不整形。	北半部は調査区外。底面凹凸、段差有り。縄紋前期土器出土。	113
26	14区J-11	178×168	158×138	26	方形、断面皿状。	底面凹凸少なく平坦。遺物少ない。	113
27	14区 I-10~11	200×200	180×180	37	方形。	底面凹凸少なく平坦。遺物量少ない。	114
28	14区B-12	88×82	24×29	30	円形。	底面凹凸、段差を持つ。遺物量少ない。	113

第3節 検出された土坑

土坑 No.	位置	規模 上面(cm)	規模 下面(cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物・特徴など	挿図 No.
29	14区 A-11~12	220×225	192×202	20	不整形。	底面に段差を持つ。細かい土器片が覆土中から出土。	114
30	14区 I-12	—×130	—×115	22	楕円形。	31土坑と重複。新旧不明。	114
31	14区 I-12	—×122	—×100	19	楕円形。	30土坑と重複。新旧不明。	114
32	14区 B-11~12	—	—	16	円形、埋設土器。	底部穿孔土器を埋設している。加層利E 4式。	114
33	14区 A~B-10	66×80	45×60	17	円形、埋設土器。	土坑に深鉢を伏せた状態で出土。加層利E 4式。	114
34	13区 S-9	—	—	20	円形、埋設土器。	掘り方は確認できなかった。加層利E 3式。	115
35	14区 C-6	220×222	138×165	97	円形、断面筒形。	底面凹凸少なく平坦。	115
36	14区 K-8	—	—	22	円形、埋設土器。	掘り方は、はっきり確認できなかった。	115
37	14区 K-7	—	—	36	円形、埋設土器。	深鉢が伏せた状態で出土。加層利E 3式。	115
38	14区 E-6	128×123	84×90	66	円形、埋設土器。	ほぼ完形の土器が埋設されていた。加層利E 3式。	116
39	14区 F-5~6	200×186	172×170	27	円形、断面皿状。	底面凹凸少ない。	117
40	14区 E~F -5~6	—×213	—×200	43	不整形。	41土坑と重複。本土坑が新しい。	116
41	14区 F-5	—×128	—×112	70	不整形。	40土坑と重複。本土坑が古い。	116
42	14区 E-6	160×148	146×130	90	不整形。	覆土中に大形の礫が出土。	117
43	14区 A~B-6	110×136	100×125	127	円形。	底面が二段になる。覆土上層に遺物集中。	117
44	14区 E-6	—	—	55	方形。	底面凹凸多い。	117
45	14区 B-7~8	166×148	136×122	40	不整形。	底面凹凸多く、傾斜している。小ピットを持つ。	118
46	14区 E-5	—×256	—×236	50	円形。	底面平坦。覆土中に土器、礫がまばらに出土。	118
47	14区 A-8	—	—	—	不整形。	土器、礫の集中箇所。掘り方不明。加層利E 2式。	118
48	13区 T-7	—	—	—	不整形。	土器、礫の集中箇所。掘り方不明。勝坂。	118
49	14区 B-6	72×72	62×58	16	円形。	浅い掘り込みに土器が入る。	118
50	14区 D-5~6	98×94	88×82	24	円形。	底面凹凸少なく平坦。底部の欠損した土器が出土。	119
51	14区 B-5~6	114×124	108×116	120	円形。	底面が二段になる。	119
52	14区 D-6	88×98	76×84	48	円形、断面筒状。	底面凹凸が少なく平坦。底面近くから凹石出土。	119
54	14区 E-6	198×196	178×178	28	不整形。	底面に細かい凹凸を持つ。礫数点出土。	119
55	14区 E-6	208×—	188×—	34	円形、断面皿状。	底面凹凸少なく平坦。底面近くからヒスイ大珠出土。	119
56	14区 C-5~6	150×148	110×117	30	不整形。	底面段差を持つ。	120
57	14区 C-6	110×184	84×158	38	不整形。	底面凹凸多く段差を持つ。底面近くに遺物出土。	120
58	13区 T-8	122×120	104×108	84	円形。	底面凹凸多く段差を持つ。小ピットを持つ。	120
59	14区 B-6	114×132	98×110	30	円形、断面筒状。	底面凹凸少なく平坦。	120

第3章 II地区 検出された遺構

土坑 No.	位 置	規 模 上面(cm)	規 模 下面(cm)	深さ (cm)	形 状	出 土 遺 物 ・ 特 徴 な ど	挿図 No.
60	14区 B-6~7	185×155	218×172	93	不整形、袋状。	覆土上層から遺物少量出土。	121
61	14区E-5	—×188	—×176	67	不整形。	3基の土坑重複。中央の土坑が新しい。遺物は少ない。	121
62	14区D-5	—×93	—×80	71	不整形。	底面は凹凸少ない。遺物少量出土。	121
64	14区 E-6~7	114×92	88×80	53	円形、断面筒状。	底面凹凸なく平坦。縄紋前期中葉の土器出土。	120
65	14区 A-5~6	128×122	114×112	45	円形、断面筒状。	底面近くから偏平な大形の礫出土。	122
68	13区R-10	185×—	174×—	62	円形。	現在の耕作によるトレンチと重複。底部凹凸多い。	122
69	13区Q-11	196×198	180×180	42	円形。	底面凹凸多く段差有り。覆土中層から遺物出土。	122
70	14区F-6	142×150	104×102	30	円形、断面皿状。	底面凹凸少なく平坦。覆土中の遺物少ない。	123
71	14区F-7	102×117	73×87	32	円形、断面皿状。	底面凹凸少なく平坦。覆土中の遺物少ない。	123
72	14区G-6	119×115	108×107	60	円形、断面筒状。	底面凹凸少なく平坦。土坑中央に礫出土。	123
73	14区G-6	112×103	90×76	22	円形、断面皿状。	底面凹凸少なく平坦。土坑中央に礫出土。前期中葉の土器。	124
74	14区 G-6~7	98×98	107×115	56	方形、断面袋状。	底面凹凸少なく平坦。覆土上層から前期中葉の土器出土。	124
75	14区H-6	88×98	154×138	62	円形、断面袋状。	底面細かい凹凸持つ。覆土上層から前期中葉の土器出土。	124
76	14区G-7	168×150	194×192	55	不整形、断面袋状。	底面細かい凹凸持つ。覆土中から前期中葉の土器出土。	124
77	14区 G-5~6	102×108	124×121	54	円形、断面袋状。	底面凹凸少なく平坦。	125
78	14区H-7	124×142	88×100	52	不整形円形。	底面凹凸少なく平坦。覆土上層から前期中葉の土器出土。	125
79	14区E-5	—×48	—×62	48	円形、断面筒状。	底面凹凸少なく平坦。	118
80	13区P-10	103×75	90×60	22	方形、断面皿状。	底面凹凸少なく平坦。覆土中より加層利E3式大型土器片出土。	124
81	14区 F-8~9	104×102	74×76	72	円形。	底面細かい凹凸持つ。覆土中層より前期中葉の土器出土。	125
82	14区 E-F-8	90×—	80×—	34	円形、断面皿状。	底面凹凸少なく平坦。覆土中より前期中葉の土器出土。	125
83	14区F-6	117×100	80×65	35	円形、断面皿状。	底面に細かい凹凸を持つ。	123
84	14区F-6	90×76	80×58	48	楕円形。	底面凹凸少なく平坦。	125
85	14区 D-5~6	76×70	62×40	58	楕円形。	底面に段差を持つ。	126
86	14区D-6	88×98	74×72	68	円形。	底面に細かい凹凸を持ち、壁面に段を持つ。	126
87	14区D-5	106×104	94×92	14	円形、断面皿状。	底面に細かい凹凸を持つ。	126
88	14区 C-D-6	96×100	86×86	26	方形。	底面に細かい凹凸を持つ。	126
89	14区C-5	52×68	—×52	38	方形。	底面に細かい凹凸を持つ。	126
90	14区 D-E-6	126×186	106×168	40	楕円形。	底面凹凸少なく平坦。覆土中に礫が多く入る。	127
91	14区D-6	120×174	104×160	30	長方形。	底面に細かい凹凸が多く、段差を持つ。	127
92	14区D-5	106×124	90×106	40	長方形。	底面中央部が高くなる。出土遺物なし。	127

第3節 検出された土坑

土坑 No.	位置	規模 上面(cm)	規模 下面(cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物・特徴など	挿図 No.
93	13区 P-10	140×—	130×—	40	円形。	底面に段差を持つ。	127
94	14区 A-12	106×100	94×82	54	円形、断面筒状。	底面に段差を持つ。覆土中から細かい土器片少量出土。	128
95	14区 B-11~12	150×158	134×142	28	楕円形、断面皿状。	底面凹凸少なく平坦。遺物の出土量少ない。	128
96	13区 T-11	134×134	128×116	44	円形。	底面に段差を持つ。遺物の出土量少ない。	128
97	13区 P-10	100×160	66×136	32	不整形。	礫がまとまって出土している。底面は凹凸が多い。	128
98	13区 P-10	82×84	62×66	66	円形、断面円筒状。	底面凹凸少ない。遺物の出土量少ない。	128
99	13区 T-11	86×82	74×66	62	円形、断面円筒状。	底面凹凸少ない。覆土上層から礫が多く出土。	128
100	13区 R-8	60×62	50×44	30	円形、埋設土器掘り方。	胴部下半が欠損した埋設土器が出土。加層利 E 2 式。	129
101	14区 J~K-13	—×98	—×88	16	楕円形。	底面に段差を持つ。102土坑と重複。本土坑が古い。	129
102	14区 J~K-13	86×88	60×50	64	楕円形。	101土坑と重複。本土坑が新しい。加層利 E 式土器少量出土。	129
104	14区 E-8	106×76	90×62	40	楕円形。	底面に段差を持つ。覆土上層から礫出土。	129
105	14区 E-9	92×94	74×72	26	円形、断面皿状。	底面凹凸少なく平坦。覆土上層から少量の遺物出土。	129
106	14区 J-6~7	98×100	36×42	32	楕円形、断面皿状。	底面細かい凹凸多い。遺物は出土していない。	129
107	13区 Q-10	84×92	54×52	42	楕円形。	底面細かい凹凸多い。遺物は出土していない。	129
108	13区 R-9	104×128	84×104	52	不整形。	底面凹凸有り段差を持つ。遺物は出土していない。	129
109	13区 P-10	170×176	170×172	58	長楕円形。	底面に凹凸が有り段差を持つ。	130
111	14区 K-12~13	68×120	44×94	64	東西に長い楕円形。	底面に凹凸持つ。遺物は出土していない。	130
112	13区 T-10	90×88	72×70	24	方形。	底面凹凸少なく平坦。底面近く、中央に扁平の礫出土。	130
113	13区 S-8	104×104	76×92	46	不整形。	底面凹凸多く段差を持つ。遺物は覆土から少量出土した。	130
114	13区 S-8	158×120	73×78	52	不整形。	115土坑と重複。本土坑が新しい。底面に小ビットを持つ。	131
115	13区 S-8	107×100	29×34	47	不整形。	114土坑と重複。本土坑が古い。底面に段差有り。	131
116	13区 S-8~9	154×130	124×96	22	不整形。	底面に凹凸多い。遺物量少ない。	130
117	13区 S-8	130×112	50×55	30	楕円形、断面皿状。	底面に細かい凹凸。遺物量少ない。	131
118	13区 S-T-9	190×174	134×130	60	不整形楕円形。	底面凹凸多い。覆土上層に遺物が集中している。	132
119	13区 S-9	165×180	145×166	39	円形、断面皿状。	底面凹凸少ない、中央部が高くなる。覆土上層から礫出土。	131
120	13区 T-10	140×188	122×170	48	不整形方形。	底面凹凸多い。現代の耕作による土坑と重複。	132
121	13区 R-7	50×60	—	32	円形、埋設土器掘り方。	埋設土器より一廻り大きく掘っている。口縁部は削平。	132
122	13区 S-10	95×106	72×76	60	円形。	底面凹凸を持つ。覆土中、上層に遺物多く出土。	132
124	13区 R-11	178×150	85×78	50	不整形。	底面に凹凸有り段差を持つ。覆土上層に遺物集中して出土。	133
125	13区 R-6	215×203	193×167	55	楕円形。	2基の土坑が重複。大きい方が新しい。	133

第3章 II地区 検出された遺構

土坑 No.	位置	規模 上面(cm)	規模 下面(cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物・特徴など	挿図 No.
126	13区 T-11~12	220×163	200×140	30	楕円形。	底面凹凸少なく平坦。覆土上層に遺物が集中して出土。	133
127	13区P-12	117×97	68×60	68	不整形。	164、165土坑と重複。本土坑が新しい。底面凹凸多い。	141
128	14区B~C -12~13	—×263	—×238	40	方形。	中央部に円形の窪みを持つ。	134
130	13区R-8	167×197	151×187	52	長楕円形。	底面凹凸少ない。覆土中から遺物出土量多い。	134
131	13区Q-11	110×104	62×65	22	円形、断面皿状。	底面凹凸少ない。	134
132	13区Q-12	70×74	70×66	42	円形、断面袋状。	底面凹凸少ない。覆土上層から大型の礫出土。	134
133	13区 R-9~10	180×175	165×159	20	円形。	底面凹凸少ない。小ピットを持つ。覆土上層に遺物多い。	135
134	14区F-9	150×128	134×115	24	南北に長い楕円形。	底面凹凸があり、段差を持つ。	135
135	13区R-7	82×87	—	27	楕円形。	底面凹凸少ない。覆土中からの遺物量多い。	136
136	13区T-11	250×160	215×158	55	不整形。	137土坑と重複。本土坑が新しい。底面凹凸多い。	135
137	13区 S-T-11	83×74	68×57	50	円形、断面筒形。	136土坑と重複。本土坑が古い。底面凹凸多い。	135
138	13区R-7	50×65	30×38	25	円形。	底面凹凸多い。	135
139	13区Q-9	94×86	44×37	38	円形。	底面段差を持つ。覆土中から土器の小片少量出土。	139
140	13区 Q-R-6	76×72	54×52	14	円形、断面皿状。	覆土上層に大型土器片出土。	139
141	13区R-10	134×180	124×172	72	不整形。	底面凹凸多い。底面に小ピットを持つ。	139
142	13区R-10	92×136	76×124	22	不整形。	底面凹凸多い。	139
143	13区R-11	74×68	34×44	32	円形。	底面凹凸多い。出土遺物なし。	139
144	13区R-10	100×106	82×84	54	円形、断面筒形。	他遺構と重複。本土坑が新しい。底面に細かい凹凸を持つ。	139
145	13区R-8	142×152	130×140	50	円形。	底面に小形のピットを持つ。出土遺物なし。	134
146	13区R-8	104×100	98×90	54	円形、断面筒形。	断面凹凸少なく平坦。覆土上層に礫出土。	137
147	13区 Q-R-12	124×96	100×74	28	楕円形、断面皿状。	底面細かい凹凸有り。覆土中から少量の土器片出土。	137
148	13区Q-12	110×116	94×96	32	円形。	底面に細かい凹凸有り。覆土中から少量の土器片出土。	137
149	13区T-11	126×130	108×114	38	不整形。	底面凹凸多く段差を持つ。底面に小ピット有り。	137
150	13区Q-11	150×—	108×94	48	不整形。	住居との重複。本土坑が古い。覆土中層から礫が多く出土。	137
151	13区R~S -7~8	298×216	282×194	48	南北に長い楕円形。	底面ゆるやかな凹凸有り。覆土上層に遺物が集中する。	138
152	14区 D-6~7	148×120	82×76	92	南北に長い楕円形。	底面が2段になり、中央は掘り込みが深い。	138
153	13区M-10	188×270	150×224	40	東西に長い楕円形。	底面凹凸多く段差を持つ。	139
154	13区 S-11~12	130×150	108×130	36	円形、断面皿状。	底面凹凸少なく平坦。覆土上層から前期中葉の土器出土。	138
155	13区 M~N-9	184×146	170×132	28	円形。	底面凹凸少ない。東に傾斜する。	139
156	13区M-9	120×132	102×106	80	円形。	底面に段を持つ。中央部が高くなる。	139

第3節 検出された土坑

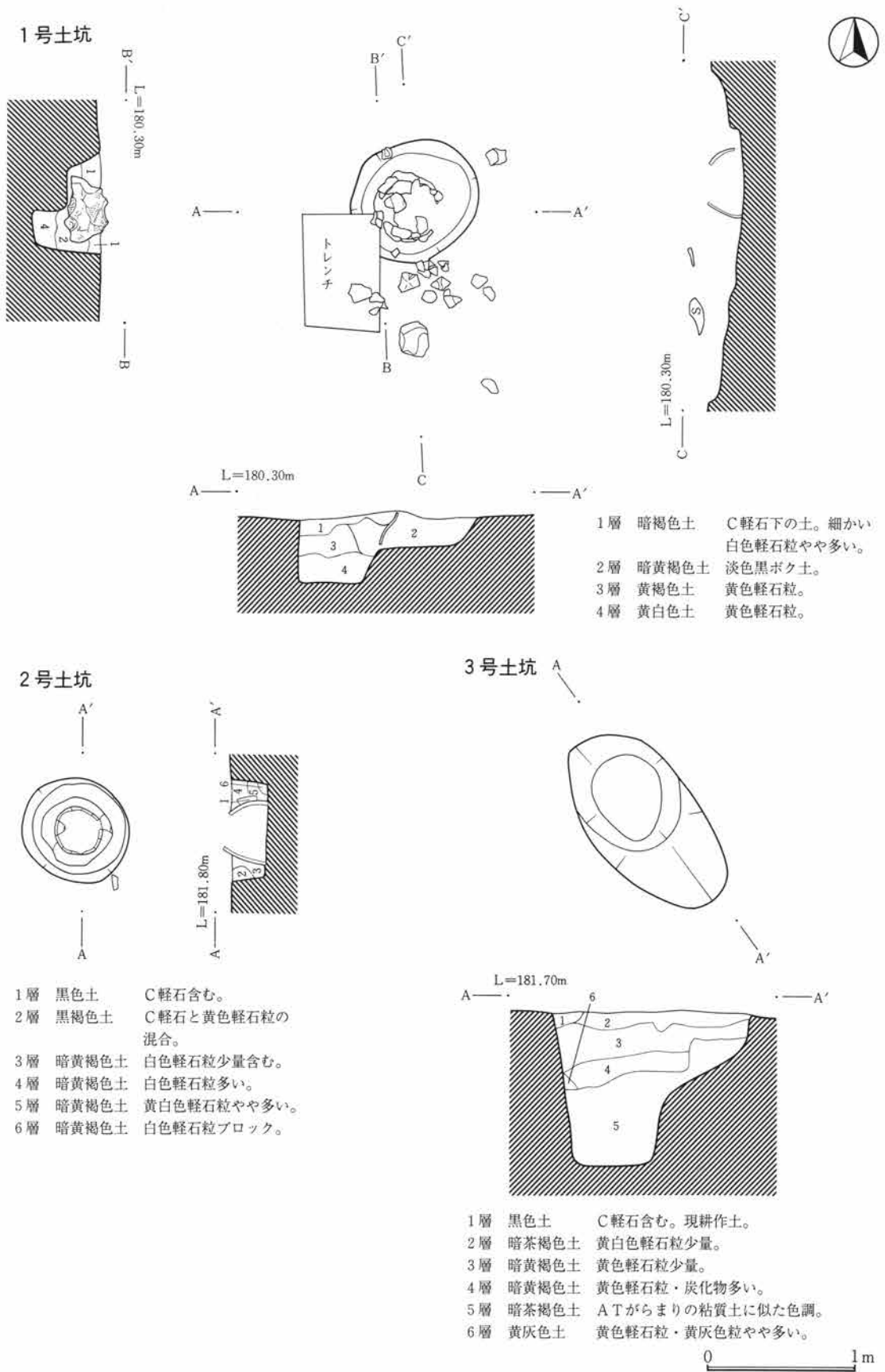
土坑 No.	位置	規模 上面 (cm)	規模 下面 (cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物・特徴など	挿図 No.
157	13区 M-9	66×92	54×76	28	楕円形。	底面中央が高くなる。礫が底面から出土している。	140
158	13区 N-11	111×138	102×126	24	楕円形。	底面凹凸少ない。底面近くから礫出土。	140
159	13区 M~N-11	178×154	166×138	28	方形。	底面凹凸多く段を持ち、東側に傾斜する。	140
160	13区 K-11	76×82	40×52	30	円形。	底面凹凸少ない。小ビットを持つ。	140
161	13区 I-9	108×76	84×52	42	楕円形。	底面に段差を持つ。	140
162	13区 M~N-9~10	—	—	32	不整形。	底面に凹凸多く東側に傾斜する。覆土中に少量の土器片。	139
163	13区 P-10	148×164	130×146	34	不整形円形。	底面凹凸少ない。小ビットを持つ。	140
164	13区 P-11	90×138	46×108	78	東西に長い楕円形。	底面凹凸多い。小ビットを持つ。覆土中に遺物多く入る。	141
165	13区 O~P-11~12	124×132	44×70	60	不整形。	底面凹凸多い。遺物は覆土中に多く入る。	141
166	14区 B-8	82×84	50×46	8	円形。	底面凹凸有り。	142
167	14区 B~C-8~9	120×108	96×74	60	円形、断面筒状。	底面凹凸なく平坦。覆土中から大型破片出土。	142
168	14区 B-7~8	158×88	142×78	28	南北に長い楕円形。	底面凹凸なく平坦。出土遺物なし。	142
169	14区 A-8	214×202	150×140	60	長楕円形。	底面凹凸多い。覆土中からの遺物出土量多い。	142
170	14区 A-7~8	150×138	128×116	24	円形。	底面細かい凹凸が少量ある。覆土上層に遺物集中。	142
171	13区 R-7	80×78	68×62	16	円形、断面皿状。	底面凹凸少ない。覆土上層に遺物多く出土。	143
172	13区 R-7	146×112	130×92	29	不整形。	底面凹凸少なく平坦。	143
173	13区 T-12	88×84	100×72	78	円形、断面袋状。	底面凹凸少なく平坦。底面近くから土器片出土。	143
174	14区 A-6	74×68	50×36	70	円形。	底面にビットを持つ。	143
175	14区 A-6	116×92	96×74	38	楕円形、断面筒状。	底面に凹凸を持つ。覆土中の遺物少ない。	143
176	14区 A-6	96×84	80×70	44	円形。	底面凹凸少なく平坦。覆土中の遺物少ない。	143
177	14区 A-7	126×134	106×108	44	円形。	底面凹凸多い。壁際に小ビットを持つ。覆土中に遺物多い。	144
178	13区 T-7	106×—	90×—	30	円形。	179土坑と重複。本土坑が新しい。覆土上層に遺物集中する。	144
179	13区 T-7	108×—	80×—	32	円形。	178土坑と重複。本土坑が古い。覆土上層に遺物集中する。	144
180	13区 T-7	124×126	95×100	22	円形。	底面凹凸多い。覆土下層から礫出土。	144
181	13区 R-7	140×142	118×120	54	不整形。	底面凹凸多い。中央に小ビットを持つ。	144
182	13区 R-7	110×100	86×82	32	円形。	底面凹凸少ない。壁際に小ビットを持つ。	144
183	13区 R-7	98×92	80×76	14	円形、断面皿状。	底面凹凸少ない。遺物少量出土。	144
184	13区 R-7	64×64	44×42	32	不整形。	底面に凹凸を持つ。	145
185	13区 R-7	176×116	156×90	44	不整形。	小土坑がいくつか重複している。底面凹凸多い。	145
186	13区 R-8	150×124	130×104	26	楕円形、断面皿状。	底面に細かい凹凸が多い。	145

第3章 II地区 検出された遺構

土坑 No.	位置	規模 上面(cm)	規模 下面(cm)	高さ (cm)	形状	出土遺物・特徴など	挿図 No.
187	13区 R-7~8	196×112	178×84	30	南北に長い楕円形。	底面凹凸多い。中央に小ビットを持つ。	145
188	13区 R-7	58×52	38×30	34	円形。	中央に小ビットを持つ。遺物は土器小片が少量出土。	143
189	13区 R-6~7	174×106	158×88	12	不整形。	底面に細かい凹凸を持つ。遺物は土器小片が少量出土。	145
191	13区 R-6	102×148	74×128	34	不整形。	底面凹凸多く段差を持つ。遺物は土器小片が少量出土。	145
192	13区 R-5	—×86	—×80	38	不整形。	底面凹凸多く段差を持つ。前期中葉の土器小片が少量出土。	146
193	13区 P-8	108×90	90×80	9	楕円形。	浅い掘り込みに礫を集中して置いている。	146
194	13区 S-T-12	155×—	120×—	22	不整形。	底面凹凸多く段差を持つ。遺物は土器小片が少量出土。	146
195	13区 T-12	127×94	106×60	30	不整形。	底面凹凸多く段差を持つ。遺物は土器小片が少量出土。	146
196	13区 T-12	78×88	46×68	40	楕円形。	195土坑と重複。本土坑が新しい。底面に細かい凹凸を持つ。	146
197	13区 T-11~12	120×—	93×—	30	不整形。	底面凹凸多く小ビットを持つ。	146
198	13区 T-11	110×123	93×110	62	円形。	底面凹凸多く小ビットを持つ。覆土中から土器少量出土。	147
199	13区 T-11	70×84	55×65	60	円形。	底面細かい凹凸が有り、柱穴状のビットを持つ。	147
200	13区 S-6	96×125	60×96	42	不整形。	底面凹凸多く段差を持つ。土器小片が少量出土。	147
201	13区 S-12	50×66	34×58	34	不整形。	203土坑と重複。本土坑が古い。底面凹凸多い。	147
202	13区 S-T-12	63×65	48×35	52	不整形。	201土坑と重複。本土坑が新しい。底面凹凸多い。	147
203	13区 S-12	70×90	34×46	37	不整形。	201土坑と重複。本土坑が新しい。底面凹凸多く段差持つ。	147
204	13区 T-12	100×102	78×68	78	円形。	底面凹凸多く段差を持つ。覆土上層から遺物出土。	148
205	13区 S-12	120×90	88×60	36	楕円形。	底面に若干の凹凸を持つ。覆土上層から遺物出土。	147
206	13区 R-12	96×68	76×52	22	楕円形。	底面凹凸少ない。土器小片が出土。	148
207	13区 T-12	52×80	30×48	44	楕円形。	底面凹凸多い。覆土中に遺物が少量出土。	148
208	13区 T-11	40×56	26×44	52	長楕円形。	底面凹凸多い。加層利E式土器少量出土。	146
209	13区 T-12	66×78	44×64	24	不整形。	底面に細かい凹凸を持つ。	148
210	13区 S-T-12	100×102	50×60	32	円形、断面皿状。	底面に細かい凹凸を持つ。	148
211	13区 S-12	78×84	48×56	56	円形。	底面に段差を持つ。	148
212	13区 O-12	180×—	150×—	72	不整形。	底面に段差を持つ。覆土中から土器小片出土。	149
213	13区 Q-6	128×116	106×90	20	円形、断面皿状。	底面凹凸多い。東側に傾斜する。	149
214	13区 Q-7	30×36	10×12	20	円形。	ビット状の落ち込み。	149
215	13区 P-7	112×110	80×74	40	円形。	底面凹凸少なく平坦。	149
216	13区 P-11	—	—	54	不整形。	大半を攪乱により壊されている。	149
217	14区 A-8~9	110×92	84×76	36	不整形。	底面凹凸多い。	149

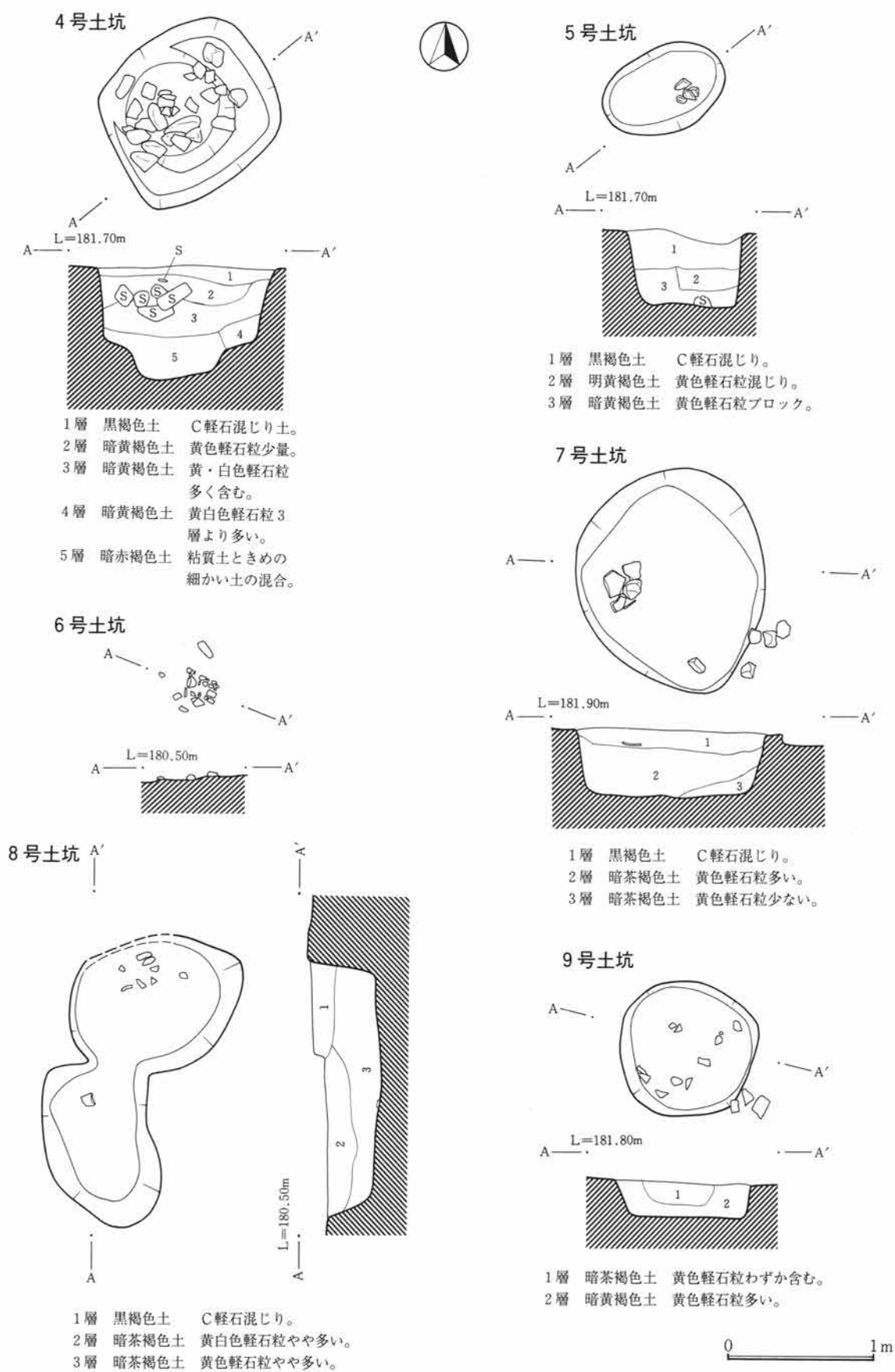
第3節 検出された土坑

土坑 No.	位 置	規 模 上面(cm)	規 模 下面(cm)	深さ (cm)	形 状	出 土 遺 物 ・ 特 徴 な ど	挿図 No.
218	14区A-12	84×84	64×54	18	円形、断面皿状。	底面凹凸少なく平坦。覆土中の遺物は少ない。	150
219	14区A-12	68×62	36×34	42	円形、断面バケツ状。	底面凹凸少なく平坦。覆土中の遺物は少ない。	150
220	14区A~B -12~13	102×104	62×58	50	円形。	底面中央へゆるやかに傾斜する。	150
221	14区B-13	184×162	148×136	50	円形。	底面は細かい凹凸が多く中央が高くなる。	150
222	14区E-10	70×66	60×52	22	円形、断面皿状。	底面凹凸なく平坦。	150
223	14区F-10	96×98	78×80	30	円形。	底面凹凸なく平坦。	150
224	14区F-10	60×58	46×48	32	円形、断面筒状。	底面凹凸なく平坦。	150
225	14区F-10	60×60	48×50	44	円形、断面筒状。	底面凹凸なく平坦。	151
226	14区 F-9~10	108×96	90×84	28	円形、断面皿状。	底面凹凸なく平坦。	151
227	14区 F-10~11	90×86	74×54	44	円形、断面筒状。	底面凹凸なく平坦。	151
228	13区R-11	110×68	90×74	36	円形。	二基の土坑重複。底部に小ビットを持つ。	151
229	13区R-11	86×94	66×78	36	円形。	底面凹凸多く段差を持つ。覆土中から大型土器片出土。	151
230	13区S-6	108×124	90×100	22	円形、断面皿状。	底面中央に向かってゆるやかに傾斜する。	151



第109図 1・2・3号土坑

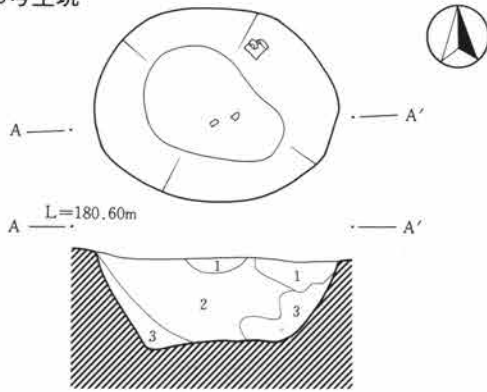
第3節 検出された土坑



第110図 4・5・6・7・8・9号土坑

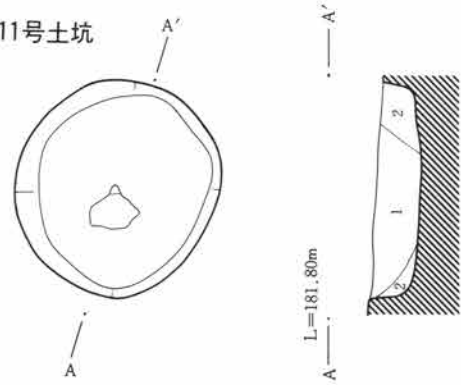
第3章 II地区 検出された遺構

10号土坑



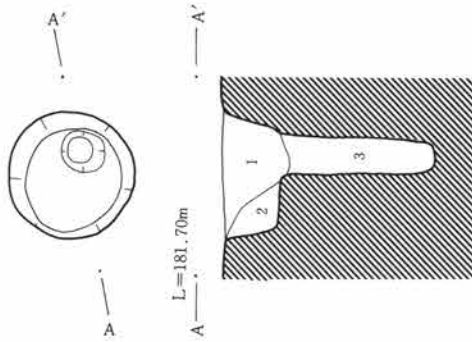
- 1層 黒色土 C軽石混じり。
- 2層 暗茶褐色土 白色軽石粒わずか含む。
- 3層 暗茶褐色土 ロームブロックやや多い。
乳白色軽石粒わずか含む。

11号土坑



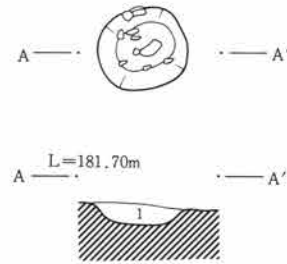
- 1層 黒褐色土 白色軽石粒多い。
- 2層 暗黄褐色土 黄色軽石粒多い。黄白色軽石粒わずか含む。

12号土坑



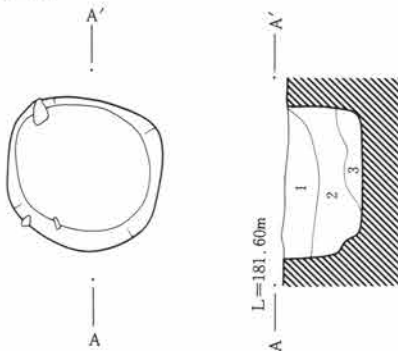
- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒やや多い。
- 2層 暗赤褐色土 粘質だが、黄色軽石との混合。
- 3層 暗茶褐色土 ロームブロック少量混じる。

13号土坑



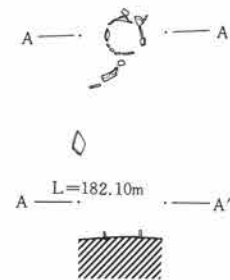
- 1層 暗黄褐色土 黄色軽石粒。

14号土坑



- 1層 暗黄褐色土 黄灰色軽石・乳白色軽石粒やや多い。
- 2層 暗黄褐色土 黄灰色軽石少ない。
- 3層 暗黄褐色土 黄灰色軽石多い。

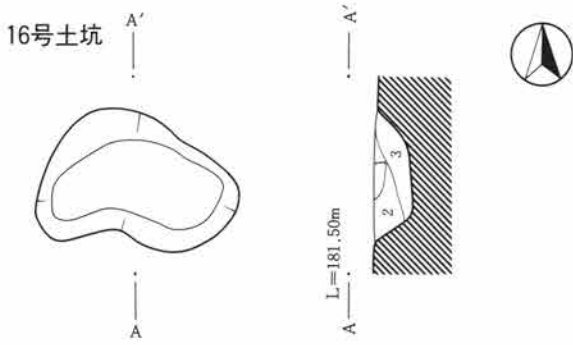
15号土坑



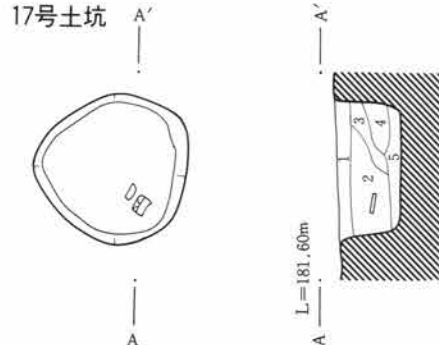
0 1m

第111図 10・11・12・13・14・15号土坑

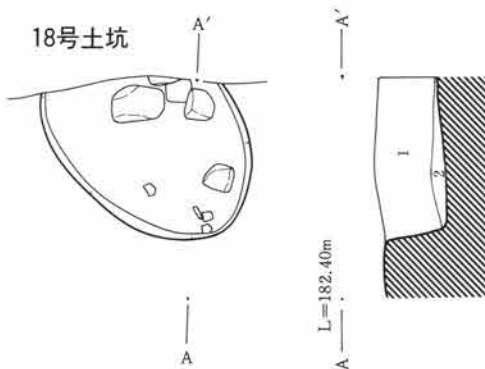
第3節 検出された土坑



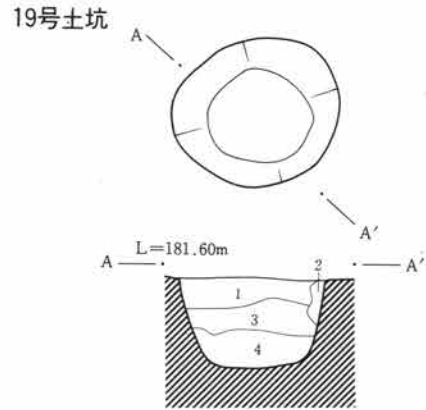
- 1層 暗茶褐色土 黄色軽石粒やや多い。
- 2層 暗赤茶褐色土 粘質土。
- 3層 暗黄褐色土 黄色軽石粒多い。黄白色軽石粒やや多い。



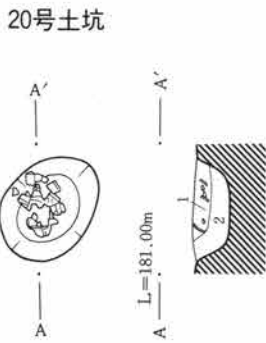
- 1層 暗黄褐色土 黄色軽石粒やや多い。
- 2層 暗黄褐色土 黄色軽石粒・乳白色軽石粒やや多い。
- 3層 暗黄褐色土 黄灰色粒少量。
- 4層 暗黄褐色土 黄灰色粒多い。
- 5層 暗赤茶褐色土 粘質土に黄灰色ブロック少量混じる。



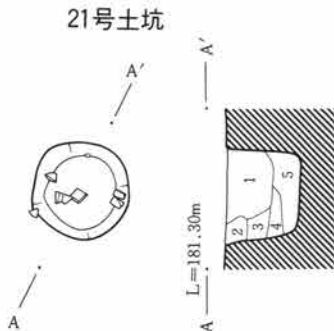
- 1層 暗茶褐色土 黄色軽石粒。炭化物少量。
- 2層 暗茶褐色土 黄色軽石粒やや多い。



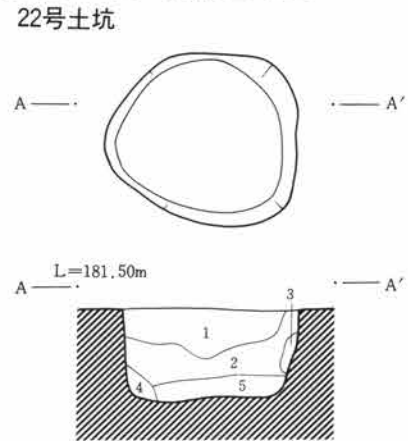
- 1層 暗黄褐色土 黒ボク土。
- 2層 黄褐色土 黄色軽石粒ブロック。
- 3層 暗茶褐色土 乳白色軽石粒わずか含む。
- 4層 黄灰色土 暗赤・暗茶褐色土の混合。



- 1層 暗茶褐色土 黄色軽石粒少量含む。
- 2層 暗黄褐色土 黄色軽石粒少量含む。



- 1層 暗茶褐色土 乳白色軽石粒、黄灰色軽石わずか含む。
- 2層 黄褐色土 黄色軽石粒ブロック。
- 3層 暗茶褐色土 黄灰色軽石やや多い。
- 4層 黄灰色土 ロームブロック多い。
- 5層 暗黄褐色土 黄灰色軽石やや多い。

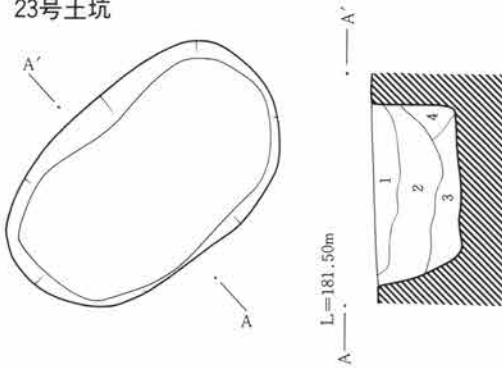


- 1層 暗茶褐色土 黄色軽石粒多い。
- 2層 暗茶褐色土 乳白色軽石粒少量。
- 3層 暗黄褐色土 乳白色軽石粒やや多い。
- 4層 暗茶褐色土 乳白色軽石粒やや多い。
- 5層 暗茶褐色土 黄灰色ブロック多い。



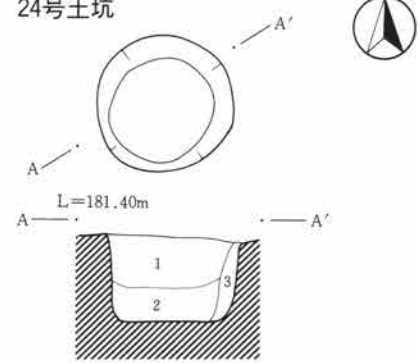
第112図 16・17・18・19・20・21・22号土坑

23号土坑



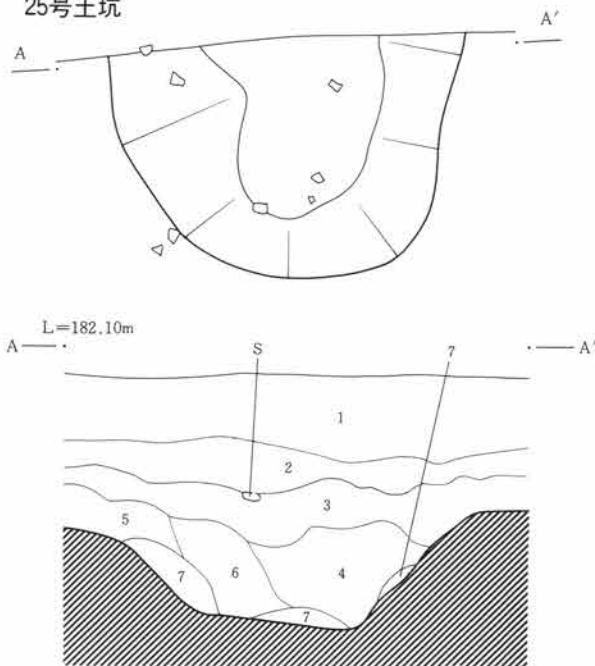
- 1層 暗茶褐色土 黄色軽石粒多い。
- 2層 暗茶褐色土 乳白色軽石粒多い。
- 3層 暗黄褐色土 乳白色軽石粒・黄灰色軽石粒多い。
- 4層 暗黄褐色土 軽石あまり含まない。

24号土坑



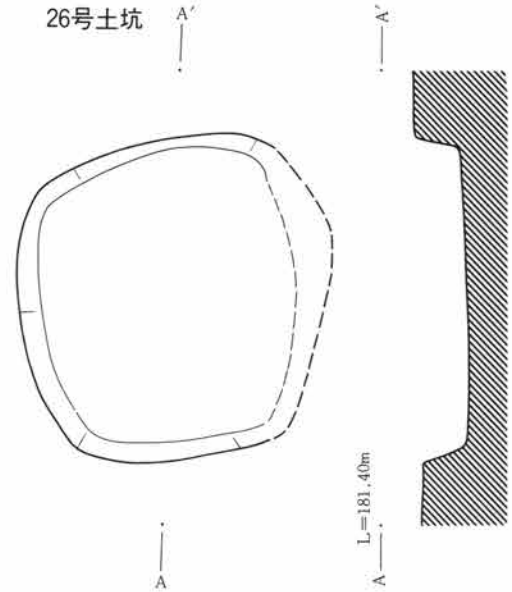
- 1層 暗茶褐色土 黄色軽石粒少量。
- 2層 暗黄褐色土 乳白色軽石粒・黄灰色軽石粒多い。
- 3層 黄褐色土 黄色軽石粒多い。

25号土坑

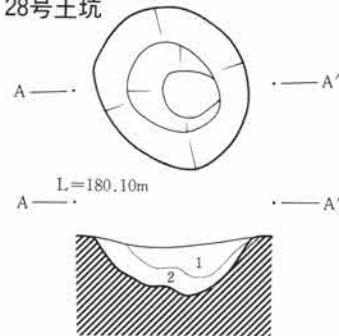


- 1層 暗褐色土 耕作土。
- 2層 黒褐色土 C軽石混じり。
- 3層 暗茶褐色土 黒ボク土。白色軽石粒少量。
- 4層 暗茶褐色土 白色軽石粒3層より多い。
- 5層 暗茶褐色土 黄色軽石粒少量。
- 6層 暗茶褐色土 黄色軽石粒5層より多く、 ϕ 1cm程の小石含む。
- 7層 暗茶褐色土 ロームブロックやや多い。

26号土坑



28号土坑

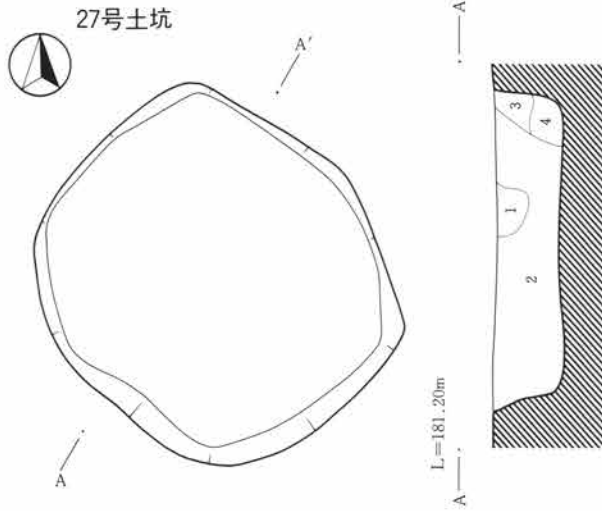


- 1層 黒褐色土 焼土・炭化物粒を僅かに含む。
- 2層 黄褐色土 黄色軽石層、2次堆積。

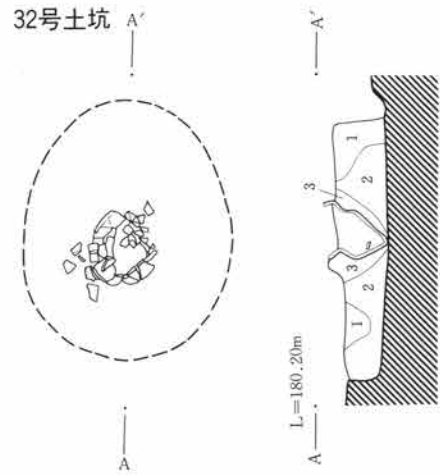
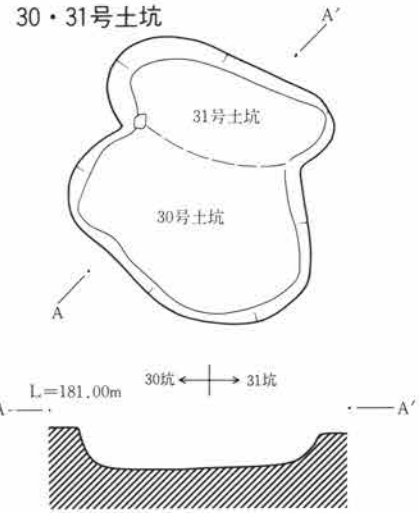
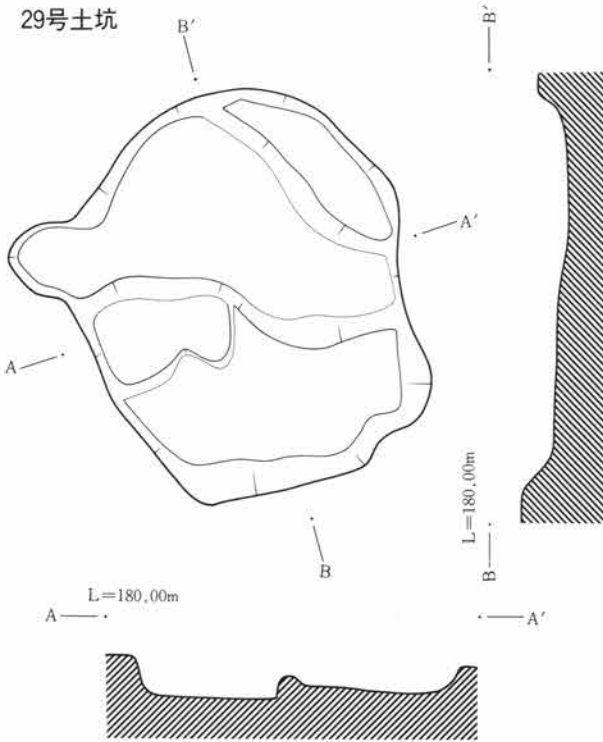
0 1m

第113図 23・24・25・26・28号土坑

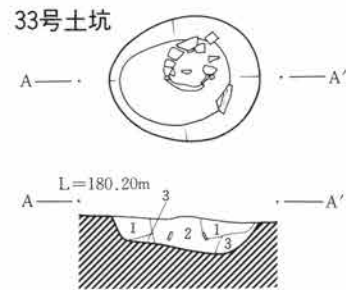
第3節 検出された土坑



- 1層 暗赤褐色土 褐色土混じる。
- 2層 暗黄褐色土 黄色軽石粒多い。
- 3層 暗黄褐色土 黄色軽石粒少量。
- 4層 暗黄褐色土 ロームブロック多い。



- 1層 根による攪乱 黒褐色土にロームブロックを含む。
- 2層 黄褐色土 黄色軽石粒少量。
- 3層 暗黄褐色土 埋設土器と掘り方の間層。



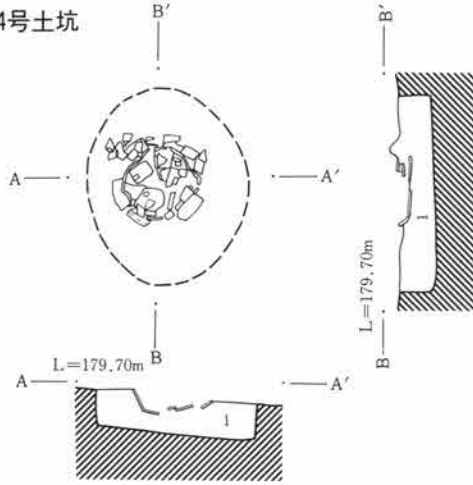
- 1層 茶褐色土 ロームブロック少量。
- 2層 暗黄褐色土 白色軽石粒含む。埋設土器の掘り方埋土。
- 3層 黄褐色土 黄色軽石層。



第114図 27・29・30・31・32・33号土坑

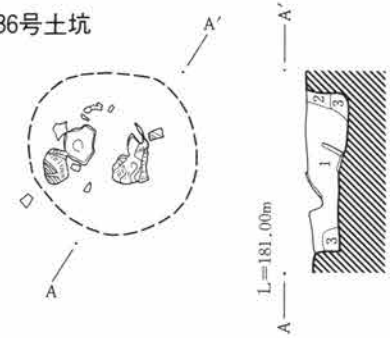
第3章 II地区 検出された遺構

34号土坑



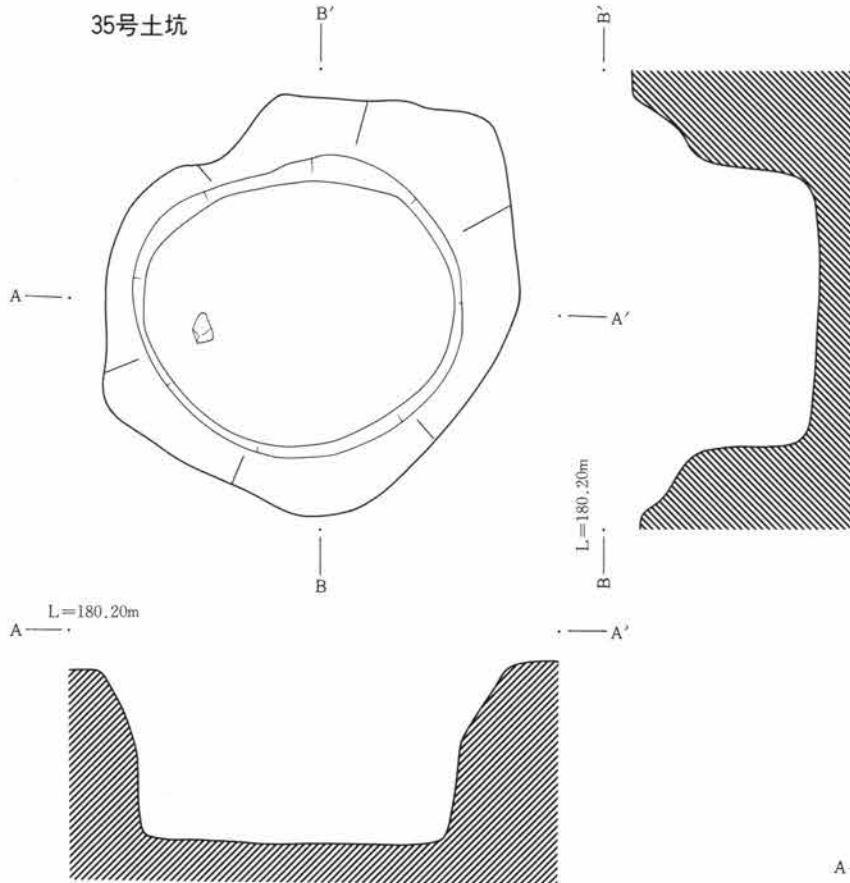
1層 暗黄褐色土 白色軽石粒含む。埋設土器の掘り方埋土。

36号土坑

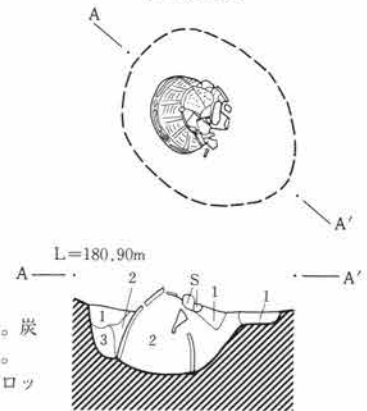


1層 黒褐色土 黄色軽石粒やや多い。
 2層 暗褐色土 黄色軽石粒1層より多い。
 3層 暗黄褐色土 褐色土少量混じる。

35号土坑



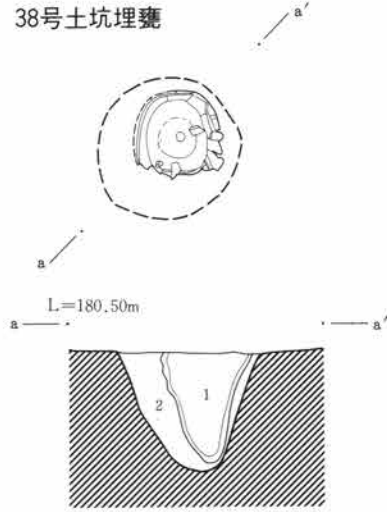
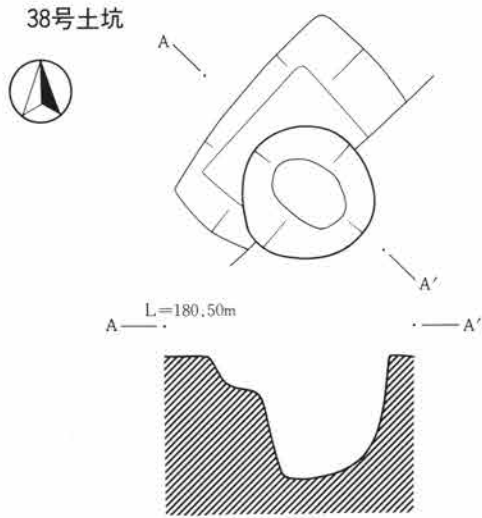
37号土坑



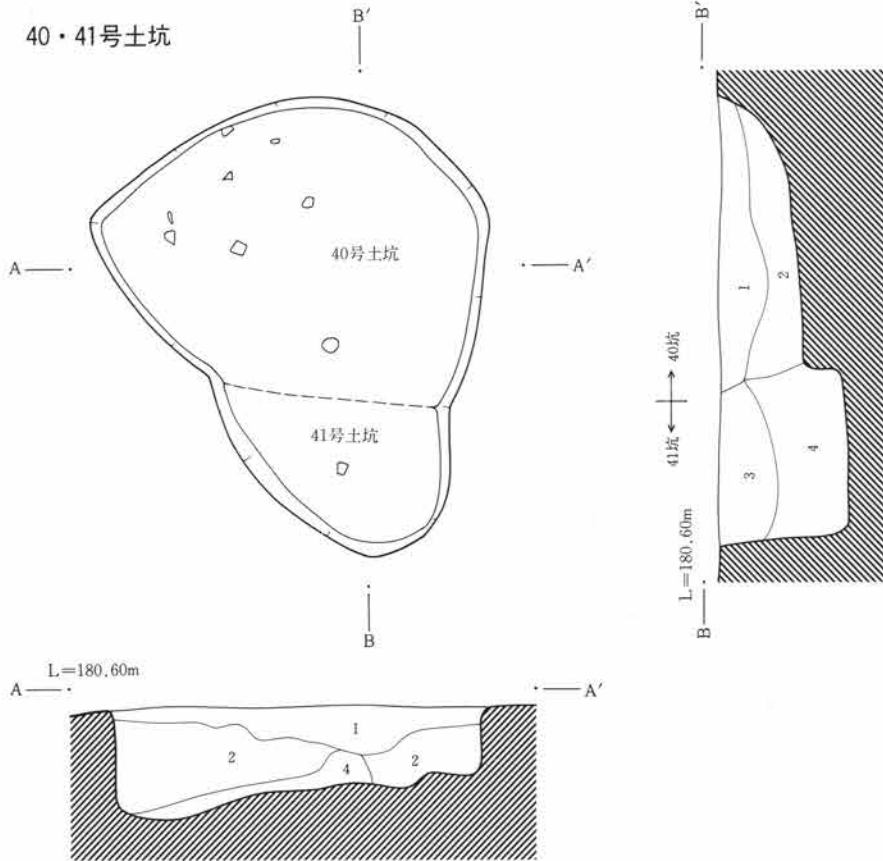
1層 暗黄褐色土 黄灰色細粒少量。炭化物わずか含む。
 2層 明黄褐色土 黄灰色ロームブロックやや多い。
 3層 明黄褐色土 黄灰色ロームブロック2層より多い。

0 1m

第115図 34・35・36・37号土坑



- 1層 暗黄褐色土 黄灰色細粒少量。炭化物わずか含む。
- 2層 明黄褐色土 黄灰色ロームブロックやや多い。

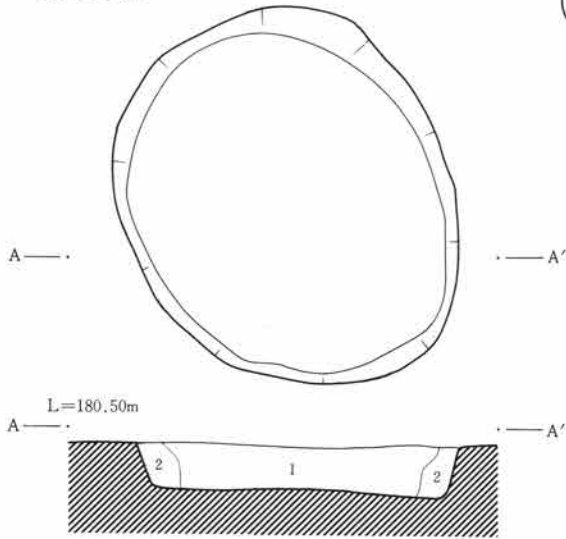


- 1層 黒褐色土 白色軽石粒少量。
- 2層 暗茶褐色土 φ5~10mmのロームブロックがやや多い。
- 3層 黒褐色土 白色軽石粒多い。
- 4層 明黄褐色土 黒ボク土。

0 1m

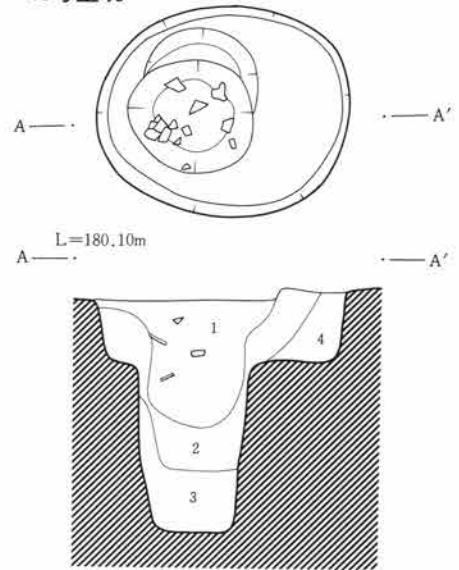
第116図 38・40・41号土坑

39号土坑



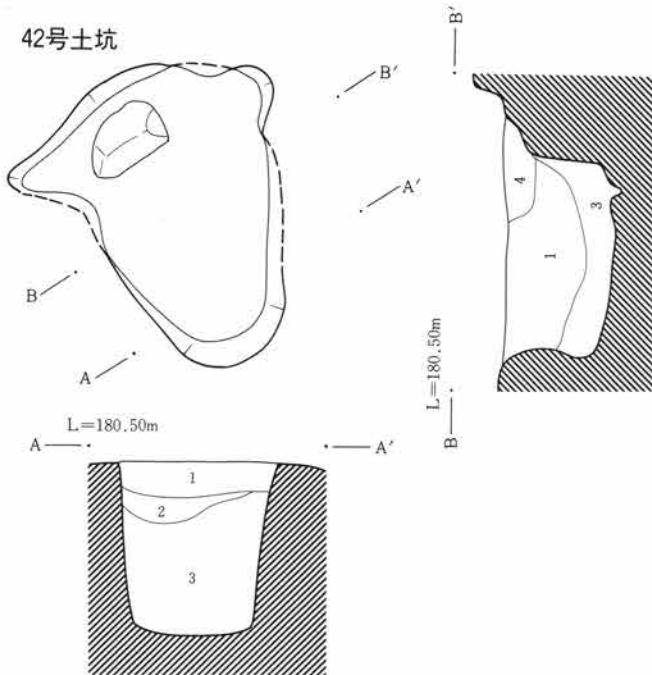
- 1層 暗茶褐色土 ϕ 5~10mmのロームブロック多い。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック少ない。

43号土坑



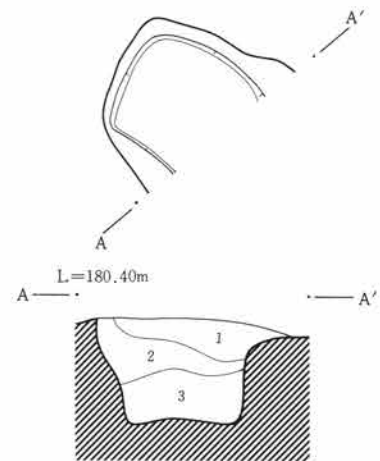
- 1層 暗黄褐色土 炭化物粒を含む。 ϕ 8~10mmのロームブロック入る。
- 2層 暗黄褐色土 炭化物粒が1層より少ない。
- 3層 黄灰色土 炭化物粒含む。
- 4層 ローム層 掘りすぎ。

42号土坑



- 1層 黒褐色土 ϕ 1cm位のロームブロック入る。
- 2層 暗茶褐色土 ロームブロック多い。
- 3層 暗黄灰色土 ϕ 1mmの白色軽石粒を含む。
- 4層 暗茶褐色土 2層に似る。2層より明るい。

44号土坑

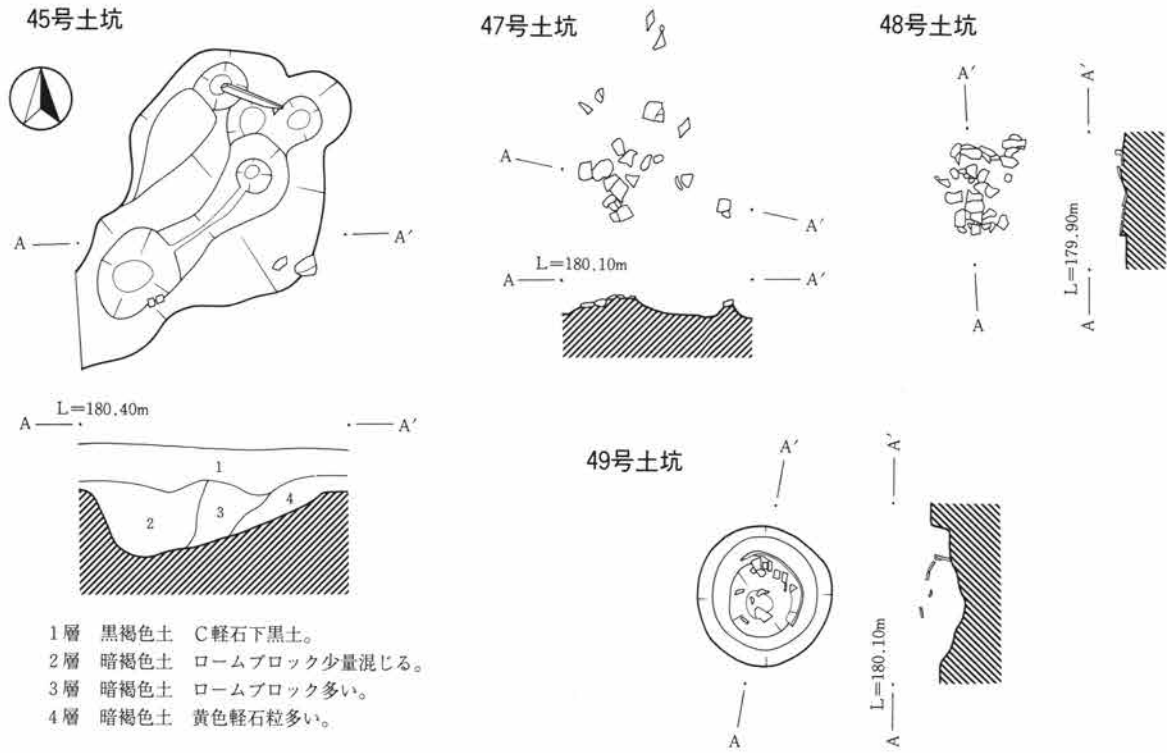


- 1層 暗茶褐色土 C軽石混じり。
- 2層 暗茶褐色土 ロームブロックやや多い。
- 3層 暗黄褐色土 ロームブロック多い。

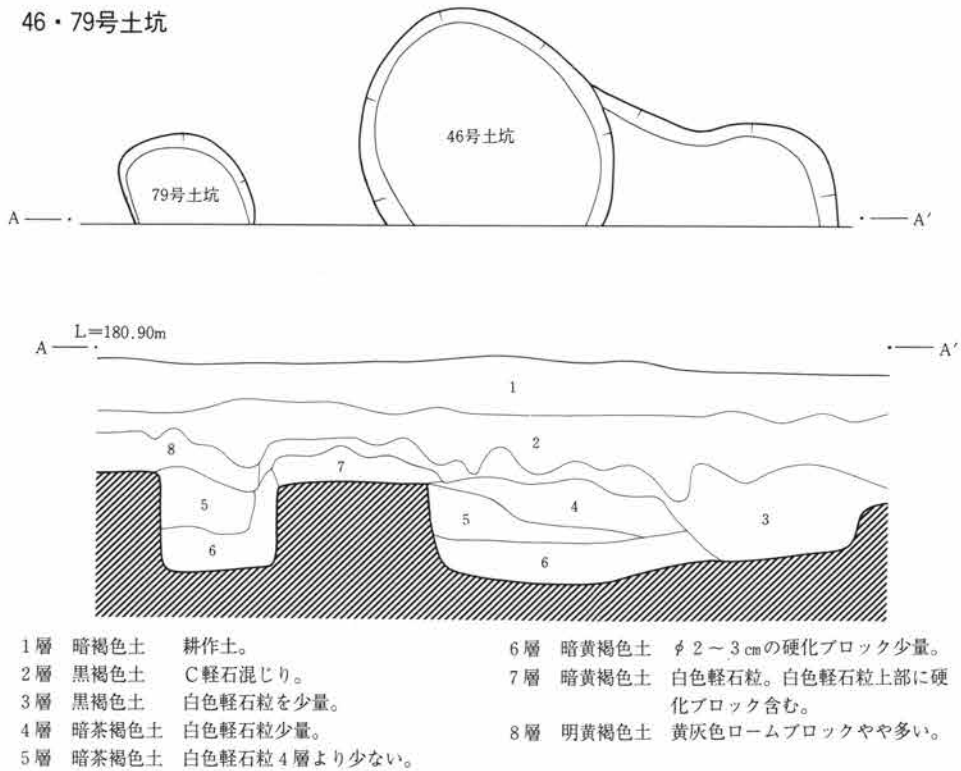


第117図 39・42・43・44号土坑

第3節 検出された土坑



46・79号土坑

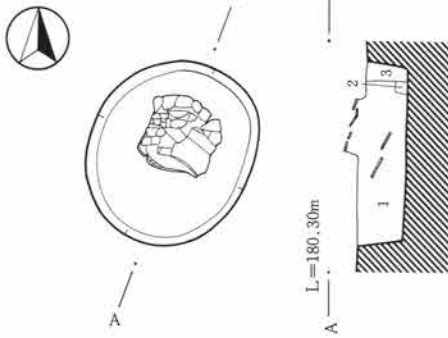


0 1m

第118図 45・46・47・48・49・79号土坑

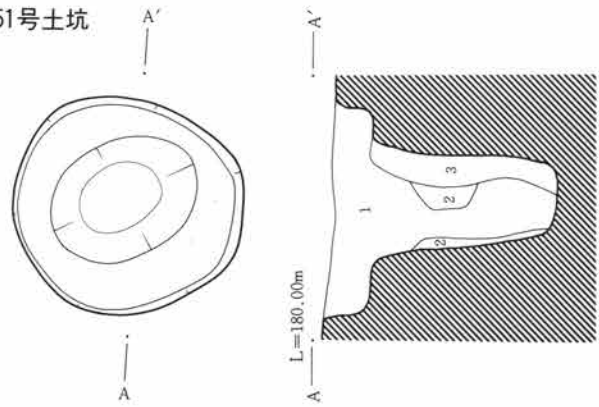
第3章 II地区 検出された遺構

50号土坑



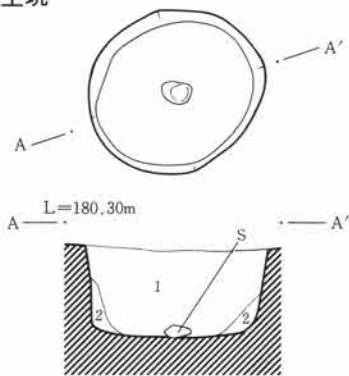
- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒やや多い。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック・暗褐色土・白色軽石粒の混合。
- 3層 暗黄褐色土 地山の可能性あり。

51号土坑



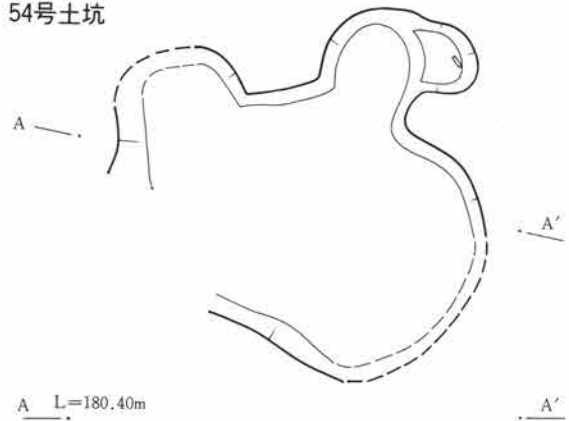
- 1層 暗茶褐色土 ロームブロックやや多い。炭化物少量。
- 2層 暗黄褐色土 白色軽石粒下粘質ロームに褐色土が混入。
- 3層 暗黄褐色土 黄色軽石粒混じる。

52号土坑

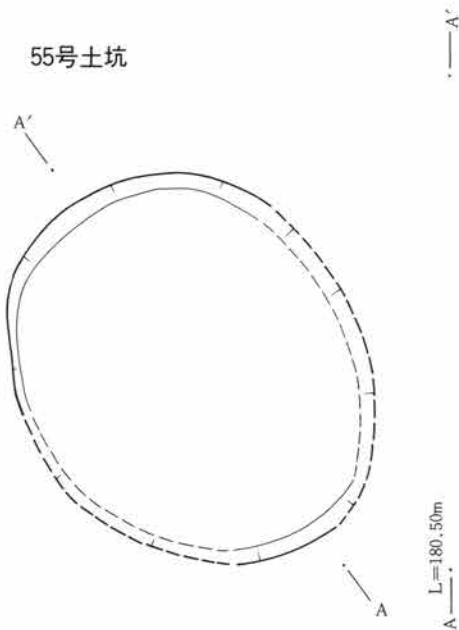


- 1層 黒褐色土 白色軽石粒やや多い。
- 2層 黒褐色土 ロームブロック多い。

54号土坑



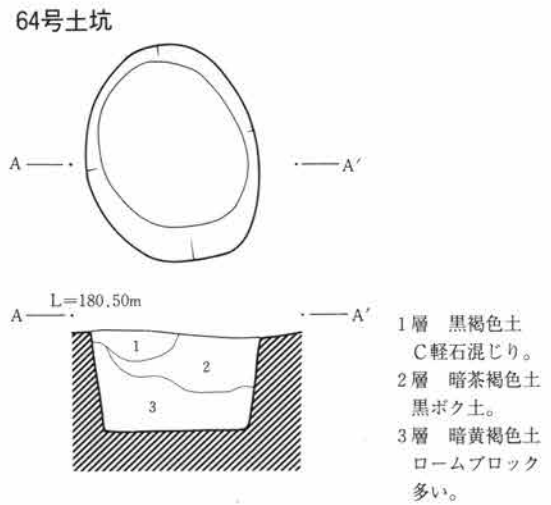
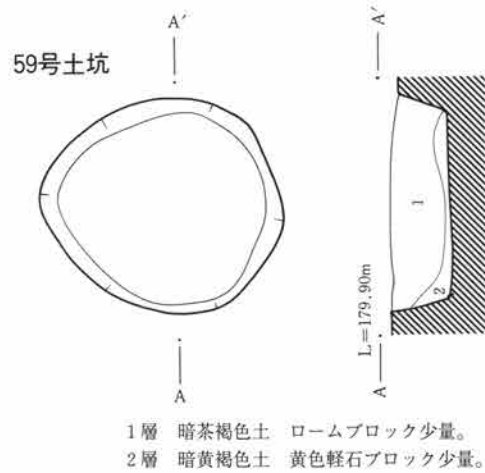
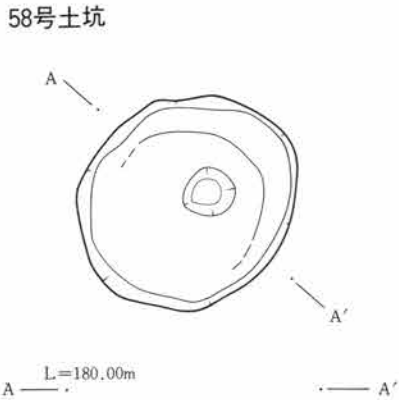
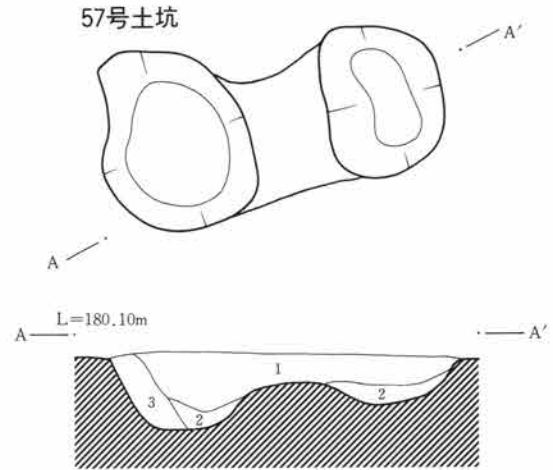
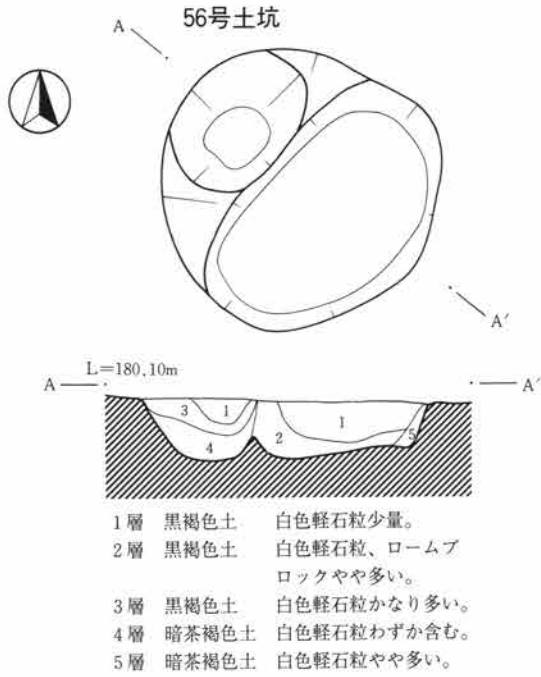
55号土坑



第119図 50・51・52・54・55号土坑

0 1m

第3節 検出された土坑

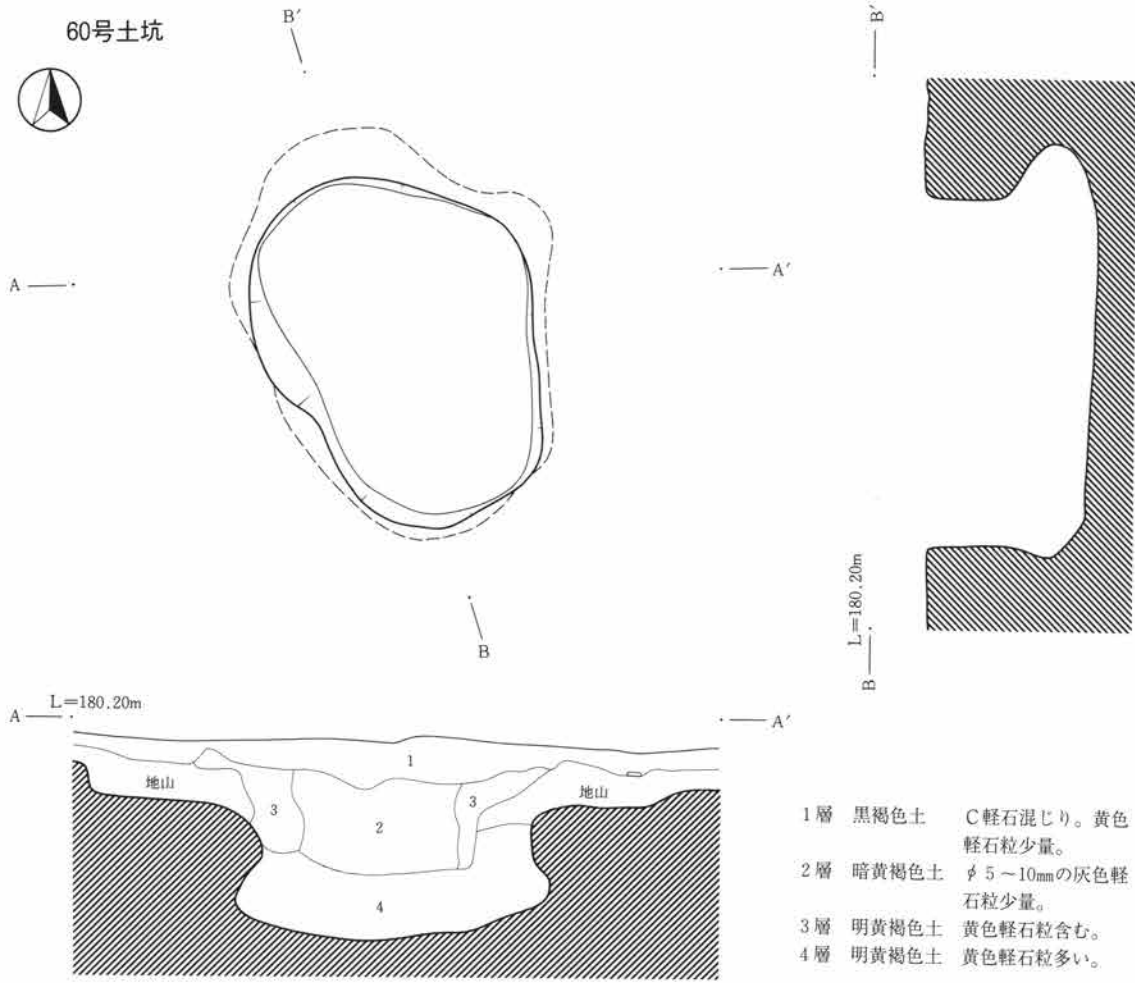


0 1m

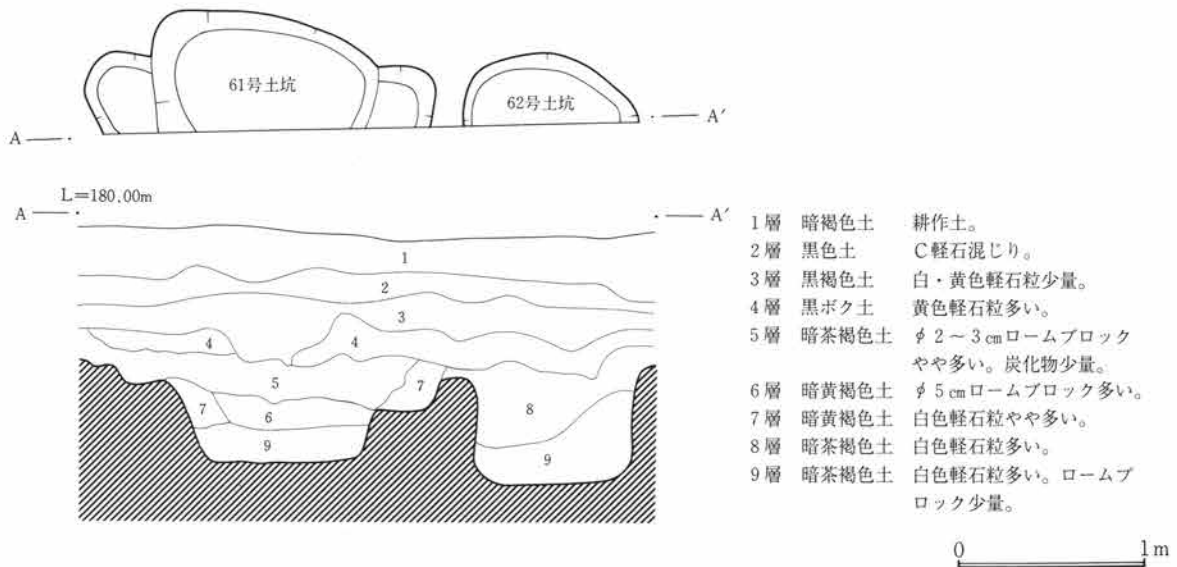
第120図 56・57・58・59・64号土坑

第3章 II地区 検出された遺構

60号土坑

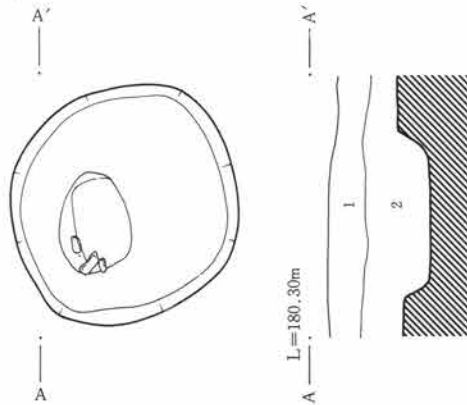


61・62号土坑



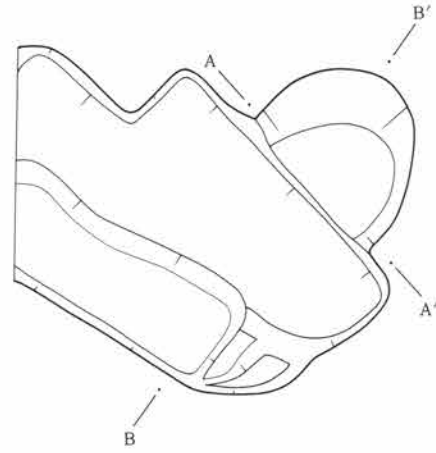
第121図 60・61・62号土坑

65号土坑

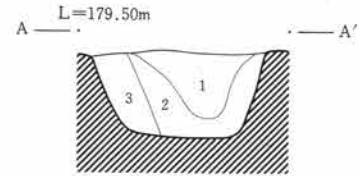
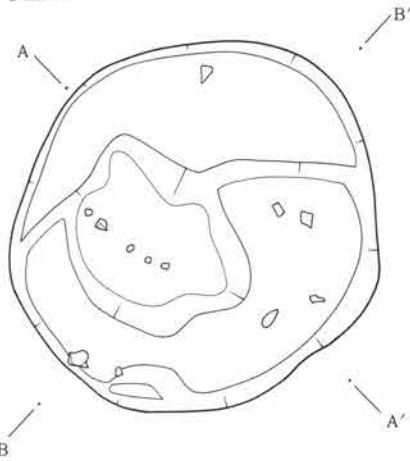


- 1層 暗褐色土 耕作土。
- 2層 暗茶褐色土 ロームブロック多い。

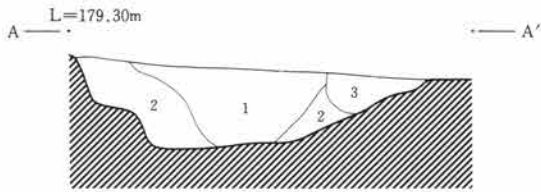
68号土坑



69号土坑



- 1層 ローム層 黄色軽石粒ブロックを含む。
- 2層 茶褐色土 φ2~3mmの小石を含む。
- 3層 茶褐色土 1層に似たブロックを含む。

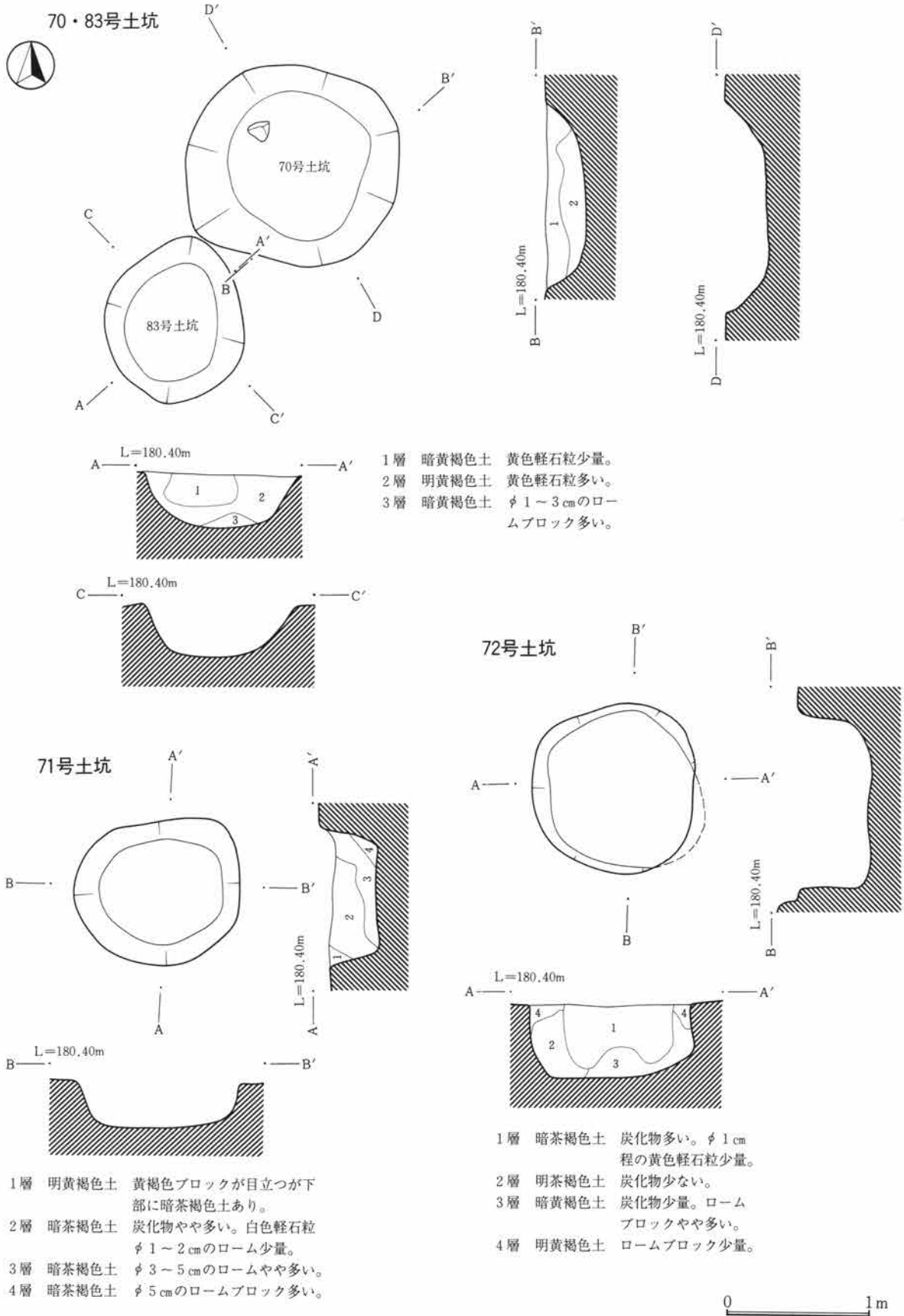


- 1層 黄褐色土 茶褐色土がまだら状に混じる。
- 2層 茶褐色土 φ1~2mmの白色軽石粒や灰が含まれる。
軽石が入る。
- 3層 茶褐色土 2層よりもやや暗く、白色軽石粒が多い。



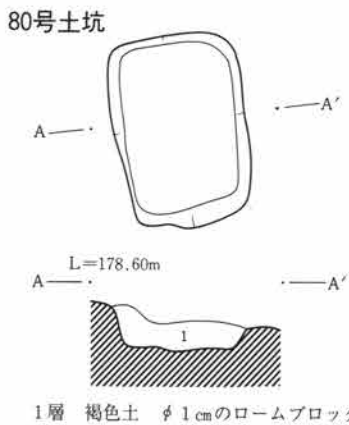
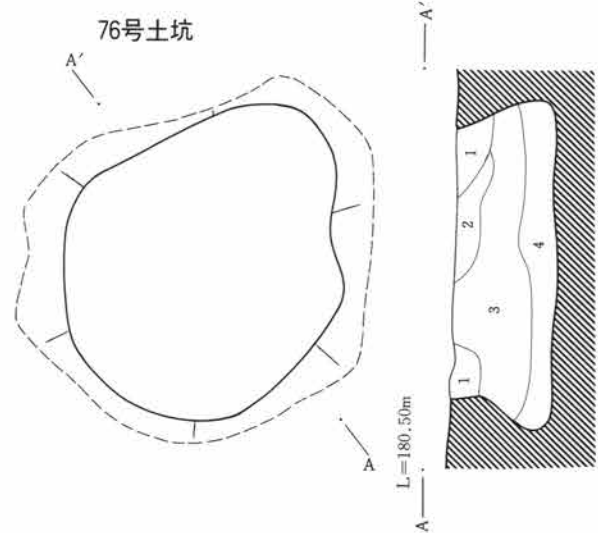
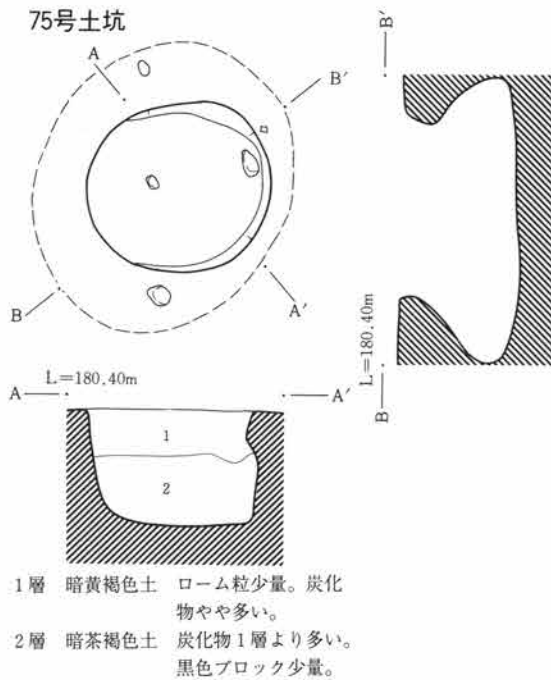
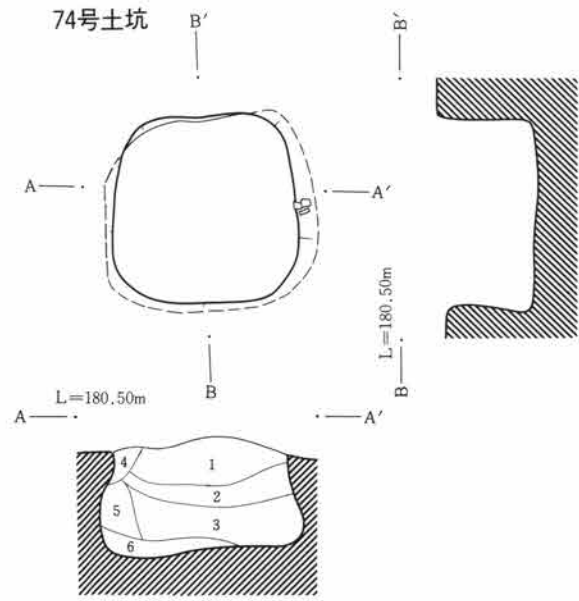
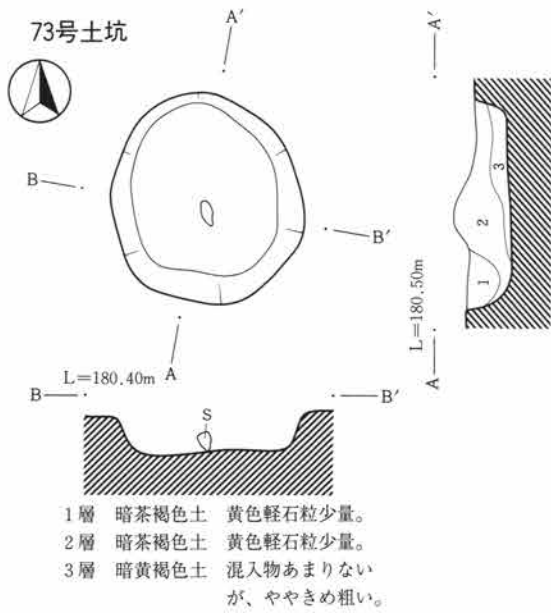
第122図 65・68・69号土坑

第3章 II地区 検出された遺構



第123図 70・71・72・83号土坑

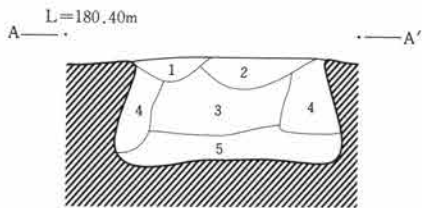
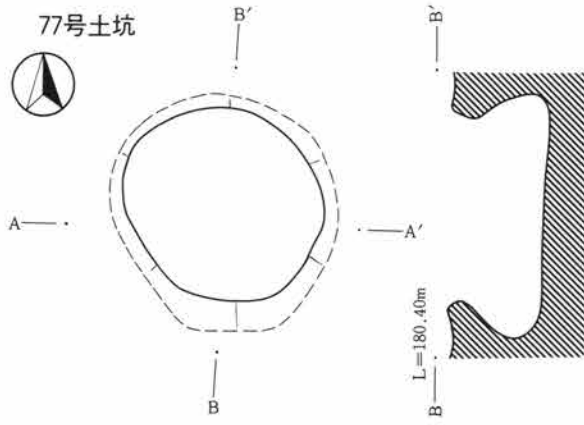
第3節 検出された土坑



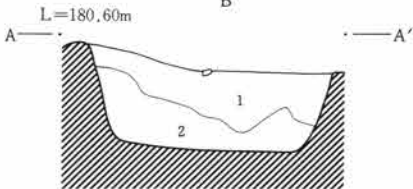
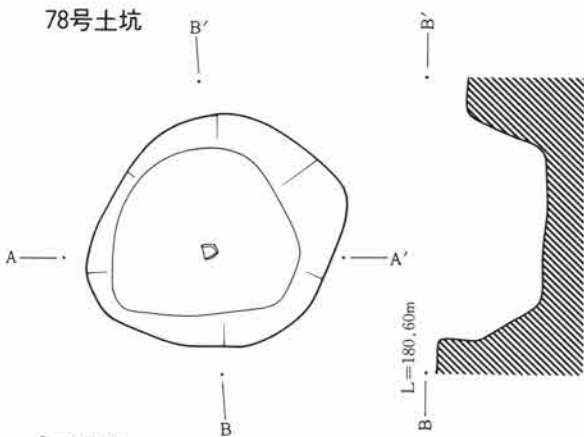
0 1m

第124図 73・74・75・76・80号土坑

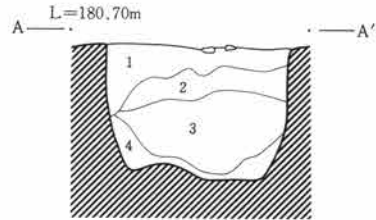
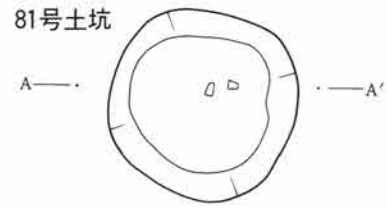
第3章 II地区 検出された遺構



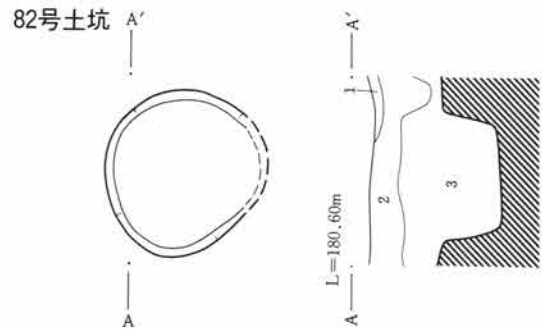
- 1層 黒褐色土 φ 5~10mmの白・黄色軽石粒やや多い。
- 2層 暗茶褐色土 φ 2~5mmの黄色軽石粒少量。
- 3層 暗茶褐色土 φ 1cmの黄色軽石やや多い。炭化物少量。
- 4層 暗黄褐色土 ロームブロック多い。φ 1cmの黄色軽石粒少量。
- 5層 黒褐色土 φ 2cmの黄色軽石粒多い。炭化物やや多い。



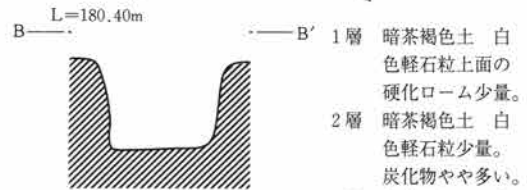
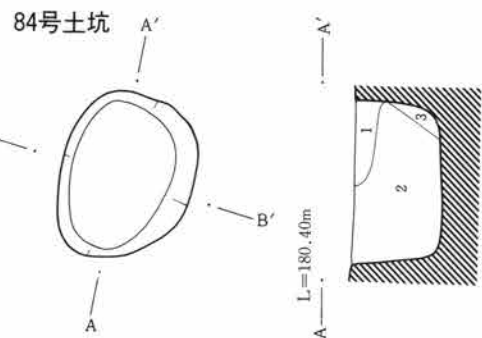
- 1層 暗茶褐色土 φ 1~2cmの白色軽石粒やや多い。炭化物粒少量。
- 2層 黄褐色土 φ 5cmのロームブロック多い。



- 1層 黒褐色土 C軽石混じり。
- 2層 明黄褐色土 暗茶褐色土混合。
- 3層 暗黄褐色土 φ 5mmの黄色軽石粒・黄灰色軽石ブロック。炭化物混じる。
- 4層 明黄褐色土 黄灰色軽石ブロック多い。



- 1層 黒褐色土 白・黄色軽石粒少量。
- 2層 明黄褐色土 ロームブロック多い。
- 3層 暗黄褐色土 黄色軽石粒多い。

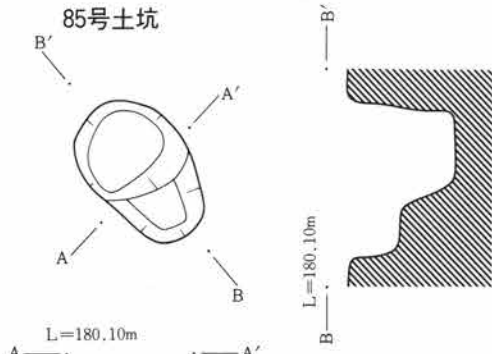


- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒上面の硬化ローム少量。
- 2層 暗茶褐色土 白色軽石粒少量。炭化物やや多い。
- 3層 暗黄褐色土 白色軽石粒少量。

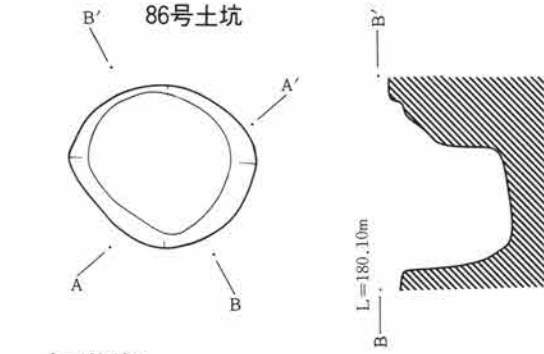
0 1m

第125図 77・78・81・82・84号土坑

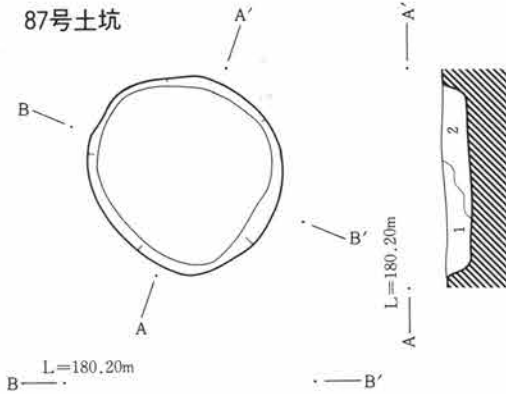
第3節 検出された土坑



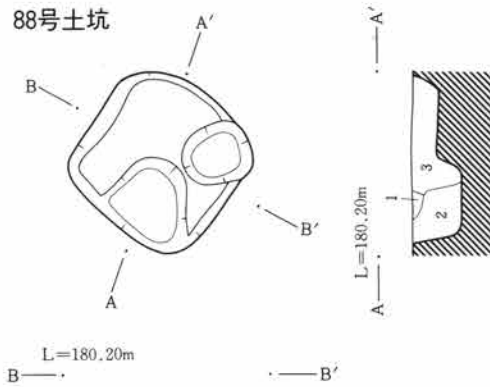
- 85号土坑
- 1層 明黄褐色土 白色軽石粒少量。
 - 2層 暗茶褐色土 ϕ 5~10mmの黄色軽石粒。
 ϕ 2~3cmのロームブロック含む。
 - 3層 暗黄褐色土 白色軽石粒少量。
 - 4層 暗黄褐色土 ϕ 1cmの黄色軽石少量。



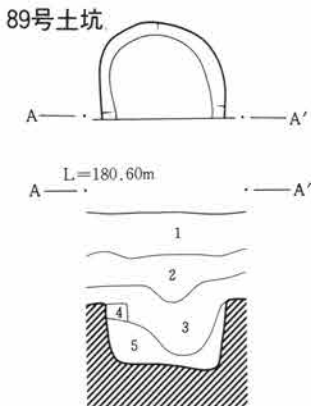
- 86号土坑
- 1層 暗茶褐色土 ϕ 5mmの黄色軽石粒少量。
 - 2層 暗黄褐色土 ϕ 5mmの黄色軽石やや多い。炭化物少量。
 - 3層 暗黄褐色土 2層に似るが、トーンやや暗い。
 - 4層 黄褐色土 黄色軽石粒多い。



- 87号土坑
- 1層 暗茶褐色土 ϕ 1cmの黄色軽石粒少量。
 - 2層 明黄褐色土 黄色軽石粒多い。



- 88号土坑
- 1層 黒色土 根の攪乱。
 - 2層 暗茶褐色土 白色軽石粒少量。
 - 3層 暗茶褐色土 白色軽石粒やや多い。

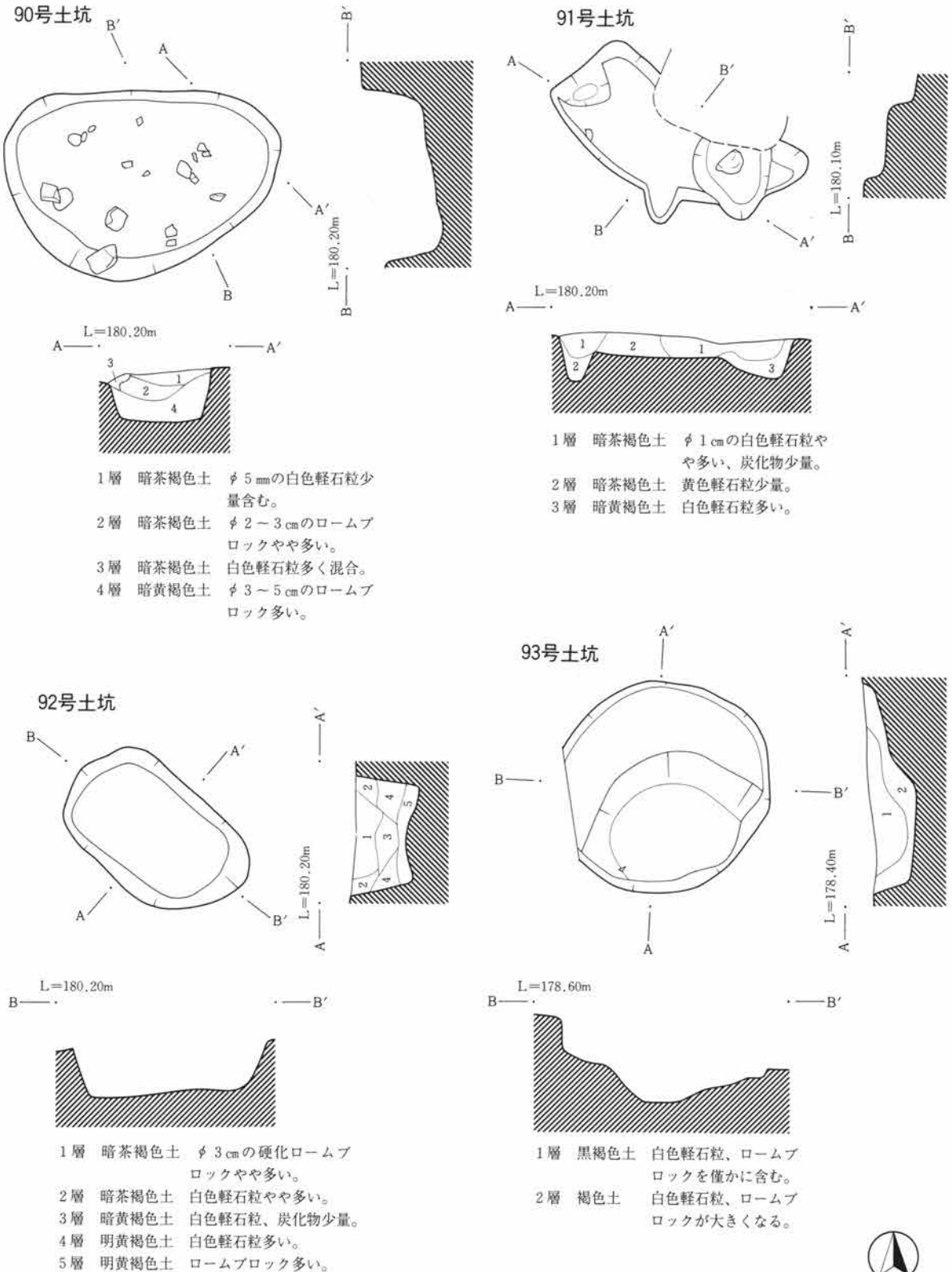


- 89号土坑
- 1層 黒褐色土 耕作土。
 - 2層 黒褐色土 白色細粒・黄色軽石粒少量。
 - 3層 暗茶褐色土 白色軽石粒
上面 ϕ 1~5cmの硬化
ロームブロックやや多い。
 - 4層 暗黄褐色土 硬化ローム
ブロック混じる。
 - 5層 黄褐色土 白色軽石粒
含む。

0 1m

第126図 85・86・87・88・89号土坑

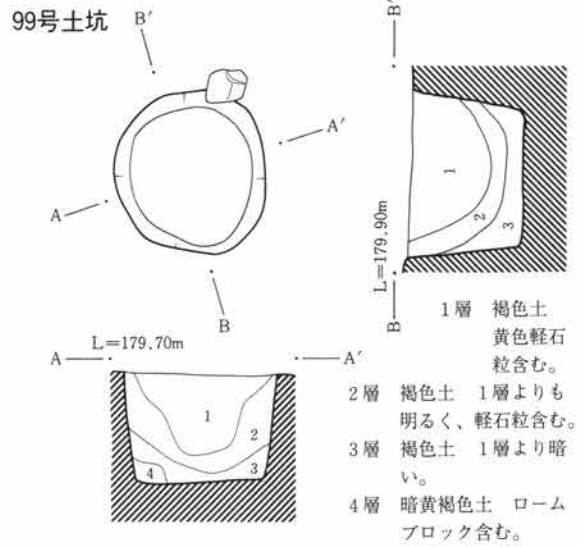
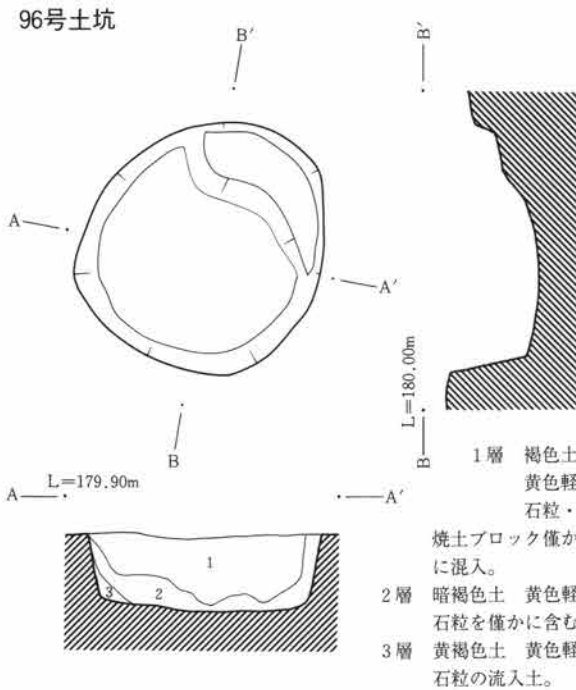
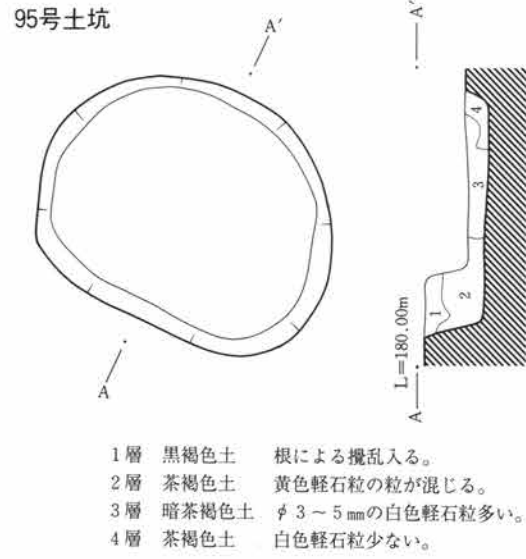
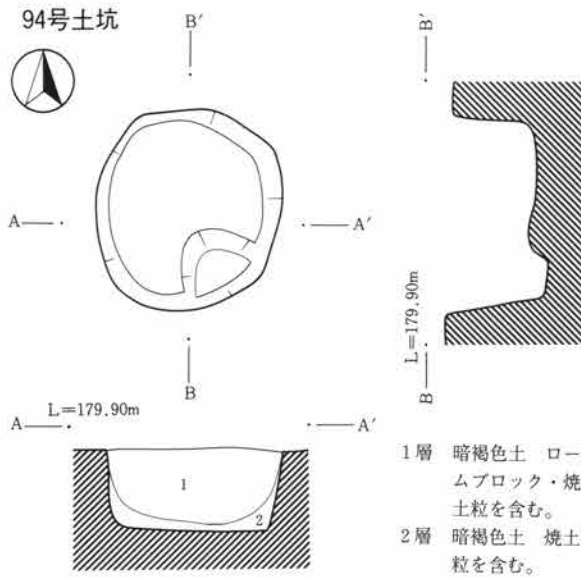
第3章 II地区 検出された遺構



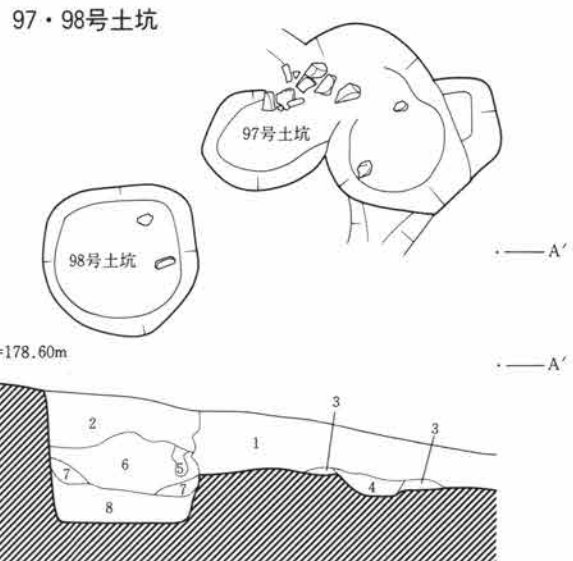
0 1m

第127図 90・91・92・93号土坑

第3節 検出された土坑



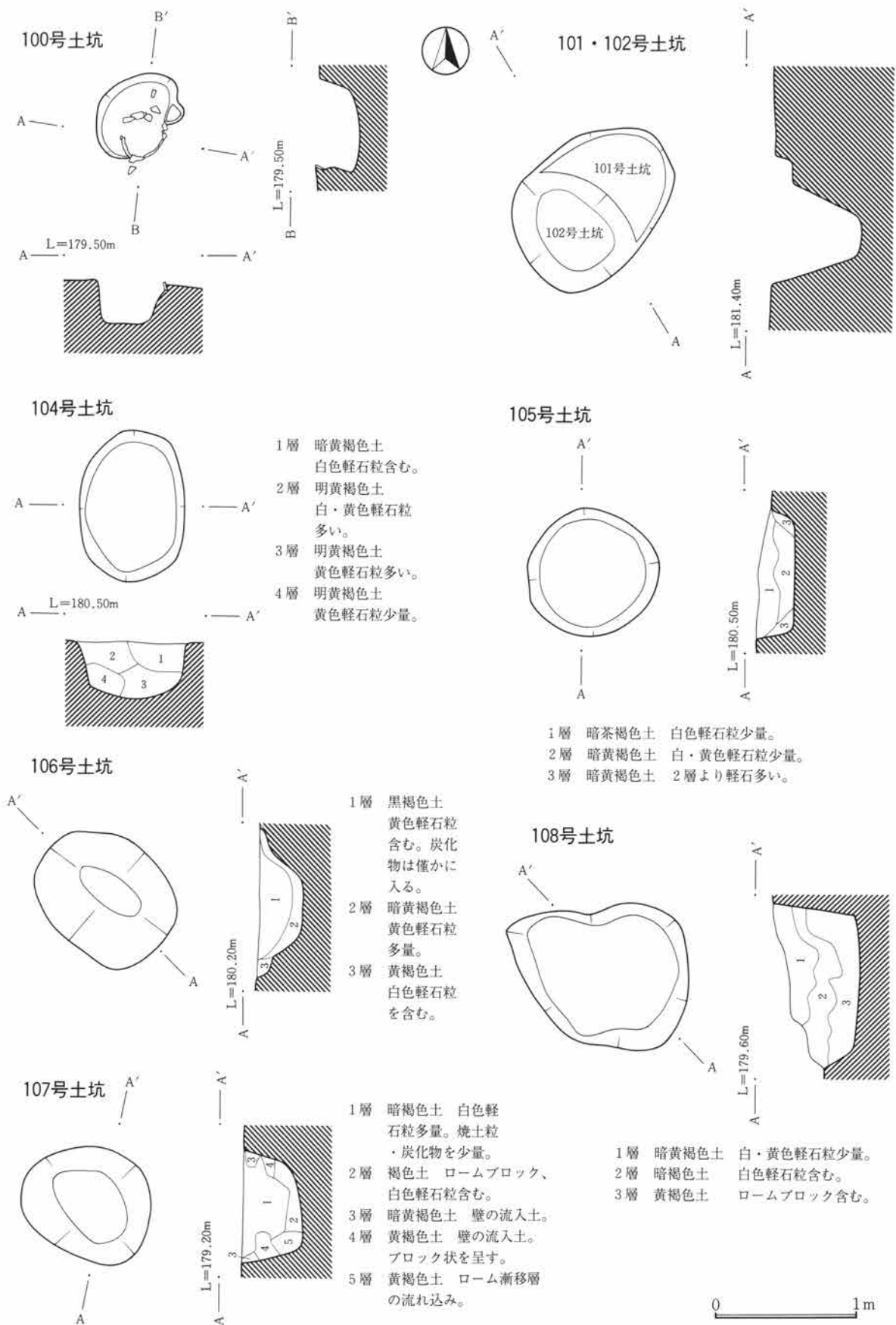
- 1層 黒色土 白色軽石粒含む。
2層 黒褐色土 1層に似るが粒が小さく少量。
3層 褐色土 ローム漸移層。
4層 褐色土 3層より暗く、黒色土が多い感じ。
5層 黄褐色土 ロームブロック多い。
6層 褐色土 漸移層でまだら様。軽石を含む。
7層 茶褐色土 6層に似る。やや暗い。
8層 黄褐色土 ロームブロック多い。



0 1m

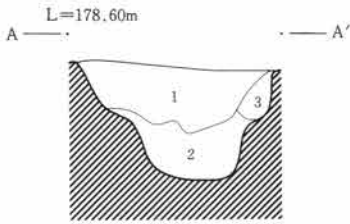
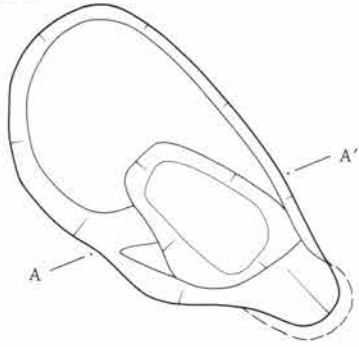
第128図 94・95・96・97・98・99号土坑

第3章 II地区 検出された遺構



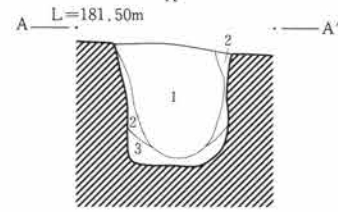
第129図 100・101・102・104・105・106・107・108号土坑

109号土坑



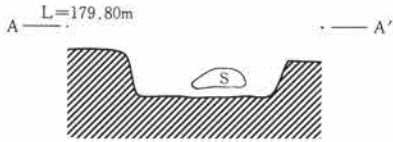
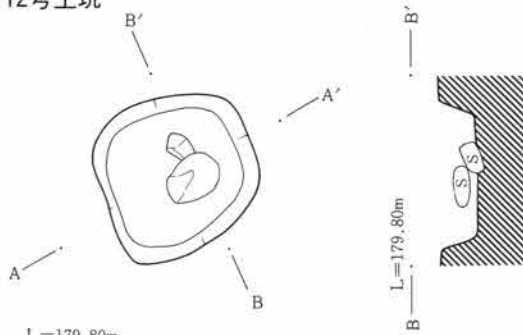
- 1層 暗褐色土 白色軽石粒・炭化物含む。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック・炭化物少量。
- 3層 黄褐色土 黄色軽石粒多い。

111号土坑

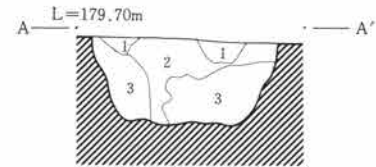
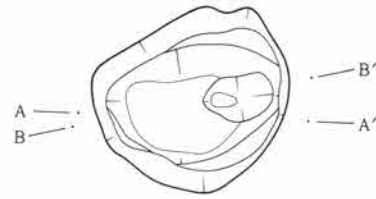


- 1層 暗黄褐色土 黄色軽石粒少量。
- 2層 暗黄褐色土 黄色軽石粒やや多い。
- 3層 暗褐色土 黄色軽石粒やや多い。

112号土坑

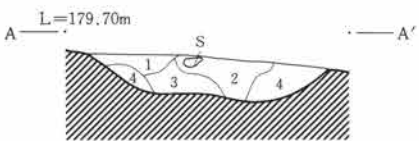
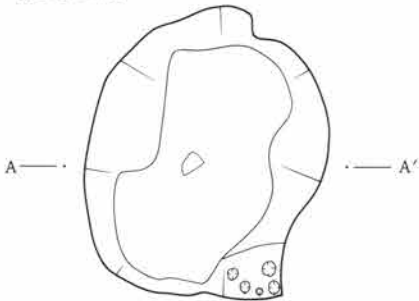


113号土坑



- 1層 褐色土 白色軽石粒少量。
- 2層 褐色土 焼土、炭化物、白色軽石粒含む。
- 3層 褐色土 白・黄色軽石粒多い。

116号土坑



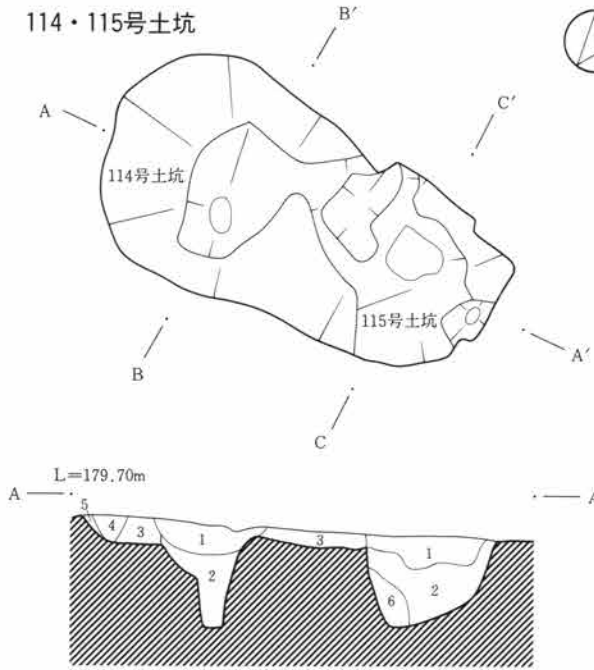
- 1層 暗褐色土 白色軽石粒、焼土少量。
- 2層 暗黄褐色土 黄色軽石粒多い。
- 3層 茶褐色土 白・黄色軽石粒、炭化物少量。
- 4層 暗茶褐色土 白色軽石粒多い。



第130図 109・111・112・113・116号土坑

第3章 II地区 検出された遺構

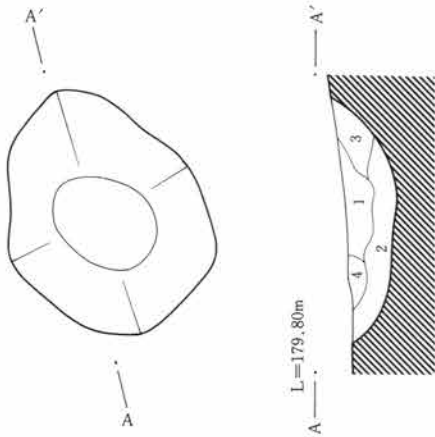
114・115号土坑



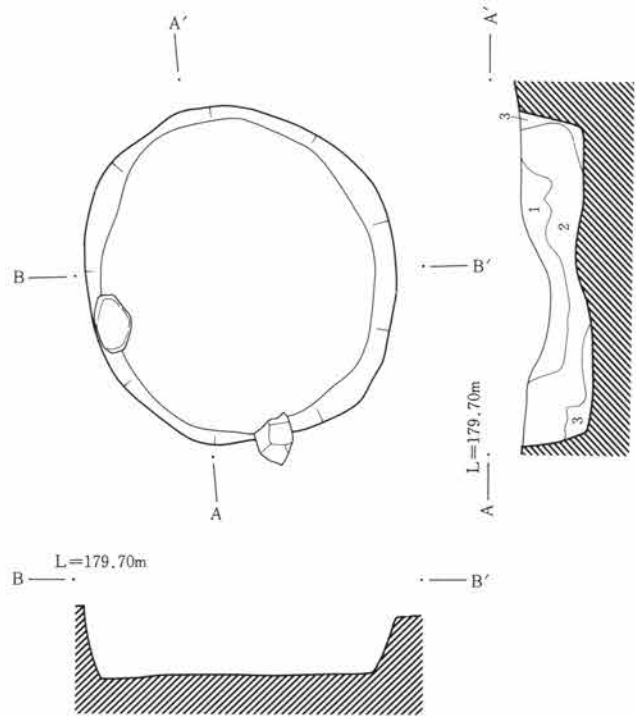
- 1層 暗褐色土 焼土微量、白色軽石粒少量含む。
- 2層 褐色土 白色軽石粒を全体に含む。
- 3層 黒褐色土 白色軽石粒を全体に含む。
- 4層 褐色土 ロームブロック混じり。
- 5層 暗褐色土 白・黄色軽石粒少量。
- 6層 黄褐色土 黄色軽石粒多い。

119号土坑

117号土坑



- 1層 黄褐色土 ϕ 0.5mm程の白色軽石粒少量混じる。
- 2層 暗褐色土 白色軽石粒多い。
- 3層 暗茶褐色土 焼土粒・炭化物粒の混入が目立つ。
- 4層 暗黒褐色土 白色軽石粒、炭化物多い。



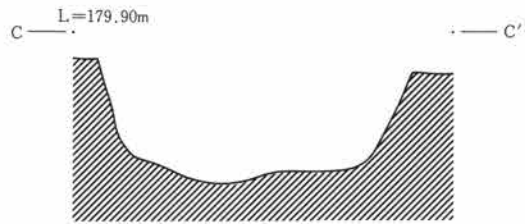
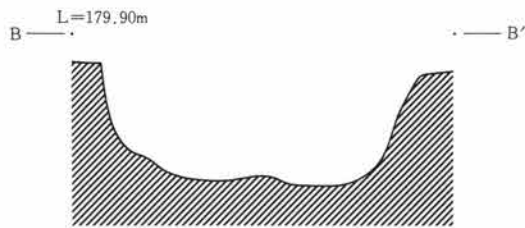
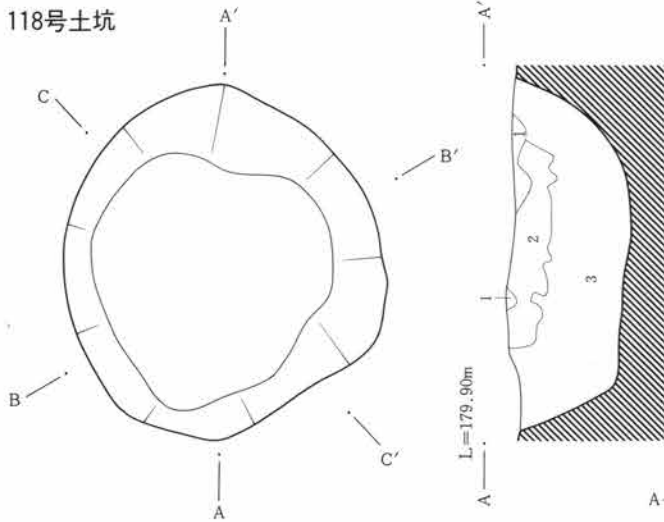
- 1層 茶褐色土 白色軽石粒含む。
- 2層 茶褐色土 白色軽石粒多い。
- 3層 黄褐色土 黄色軽石粒多い。

0 1m

第131図 114・115・117・119号土坑

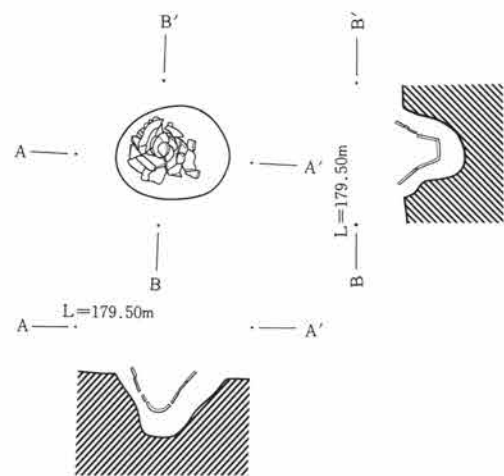
第3節 検出された土坑

118号土坑



- 1層 黄褐色土 白色軽石粒を含む。
- 2層 褐色土 白色軽石粒多く含む。
- 3層 褐色土 白色軽石粒・焼土を含む。

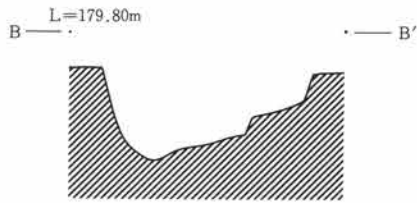
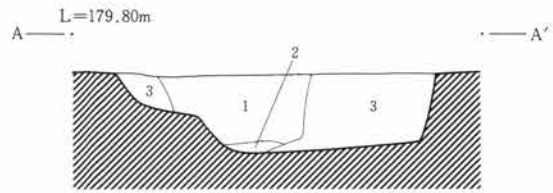
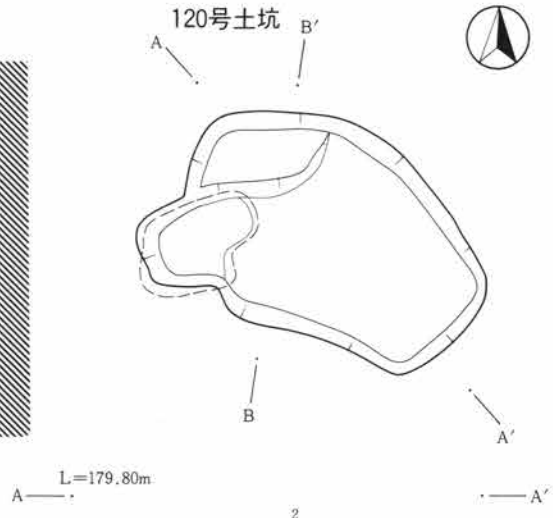
121号土坑



L=179.50m

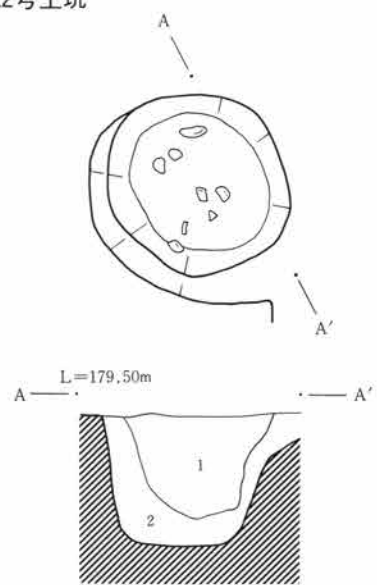


120号土坑



- 1層 茶褐色土 白色軽石粒含む。
- 2層 暗黄褐色土 黄色軽石粒多い。
- 3層 黄褐色土 黄色軽石粒、ロームブロック多い。

122号土坑

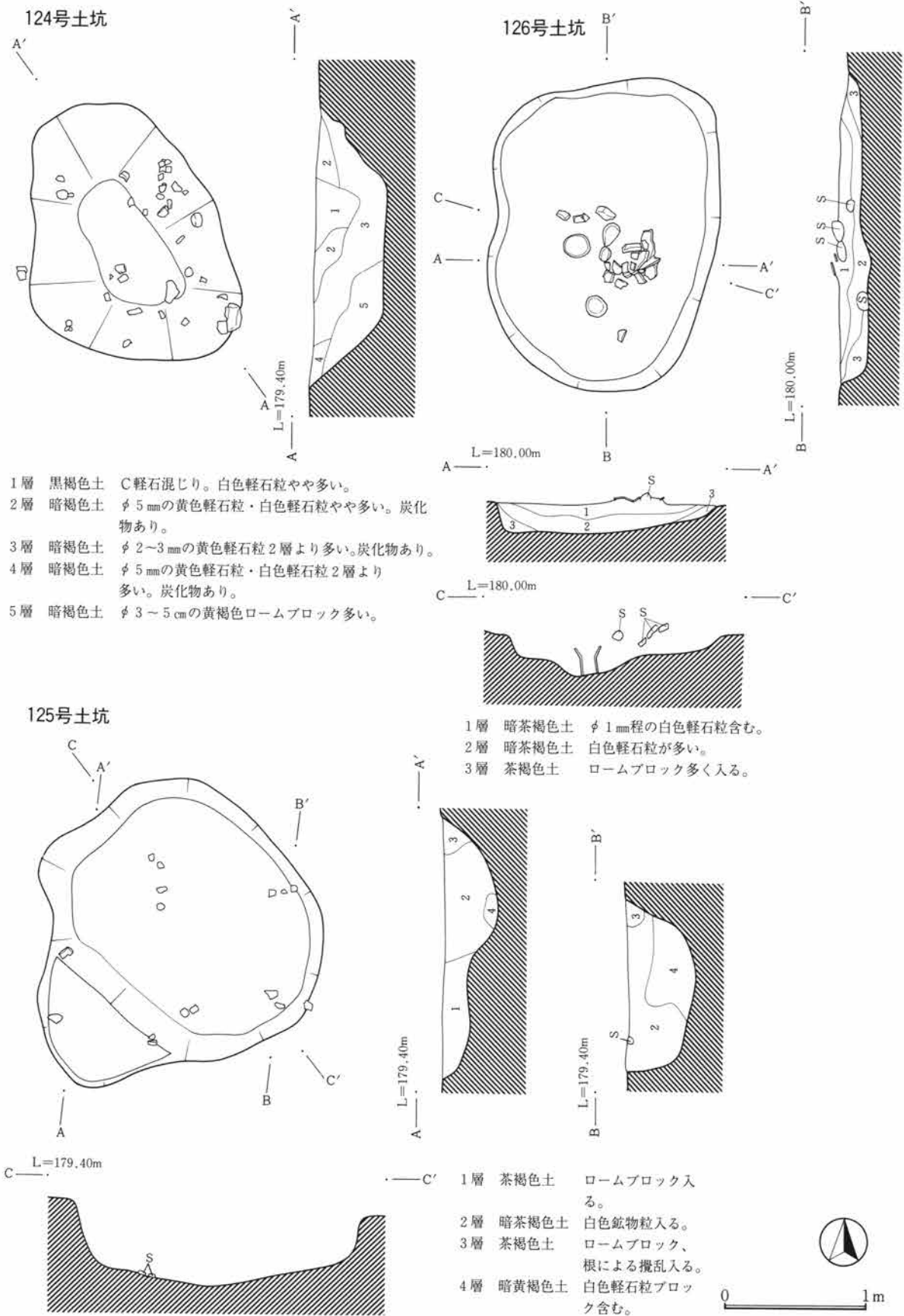


L=179.50m

- 1層 褐色土 白色軽石粒、焼土粒含む。
- 2層 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物含む。

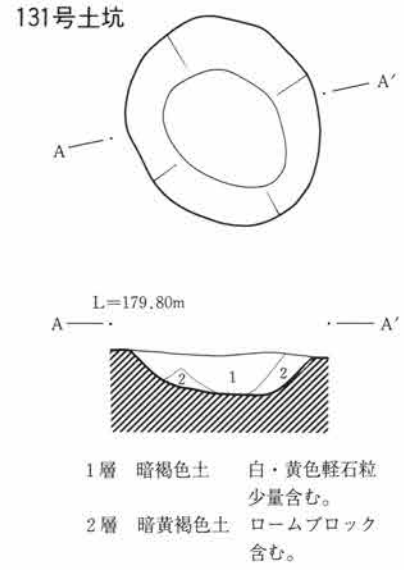
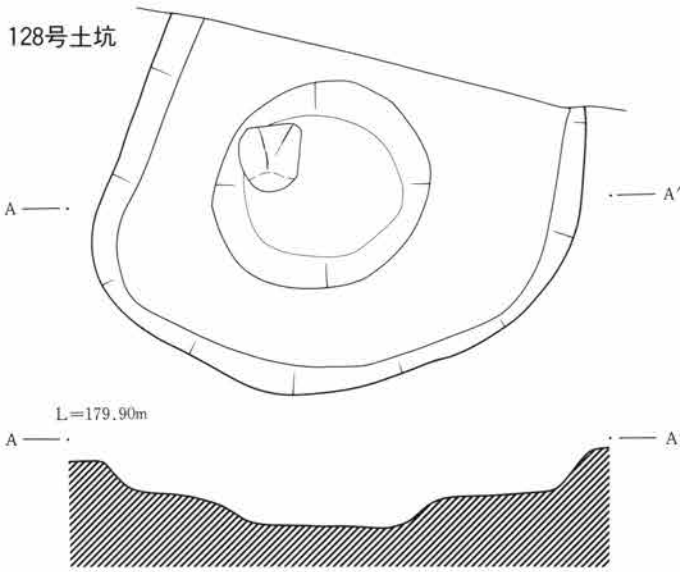


第132図 118・120・121・122号土坑

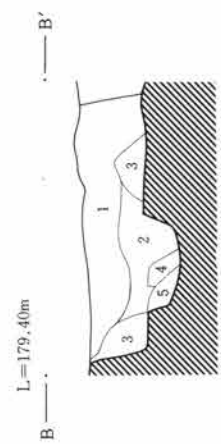
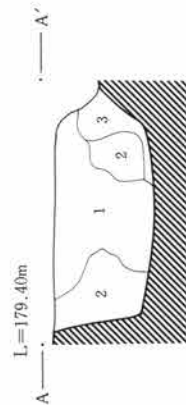
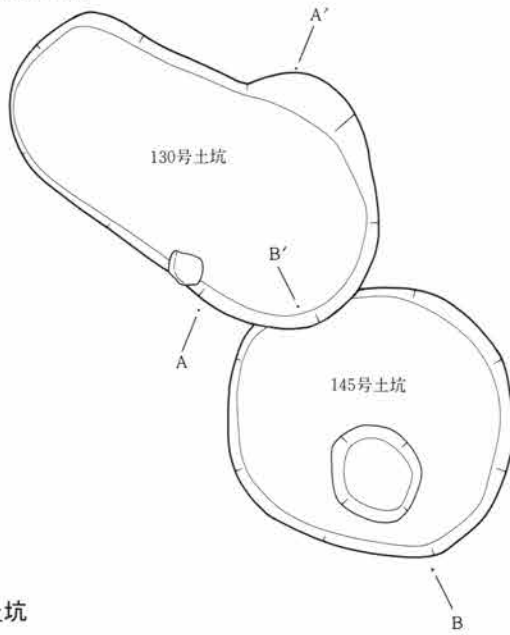


第133図 124・125・126号土坑

第3節 検出された土坑



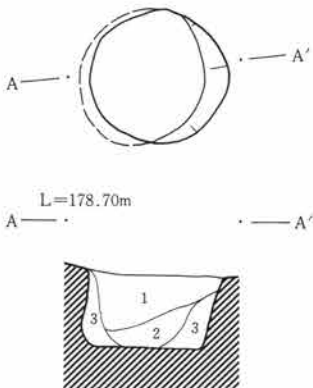
130・145号土坑



- | | | |
|----|-------|--------------------------|
| 1層 | 暗褐色土 | φ 2・3～5mmの白色軽石少量。 |
| 2層 | 暗茶褐色土 | 黄色軽石φ 5mmやや多い。ロームブロック多い。 |
| 3層 | 黄褐色土 | ロームブロック含む。 |

- | | | |
|----|-------|------------|
| 1層 | 暗茶褐色土 | 白色軽石粒多い。 |
| 2層 | 茶褐色土 | 白・黄色軽石粒多い。 |
| 3層 | 暗茶褐色土 | 白色軽石粒が少ない。 |
| 4層 | 茶褐色土 | ロームブロック少量。 |
| 5層 | 暗茶褐色土 | ロームブロック混入。 |

132号土坑



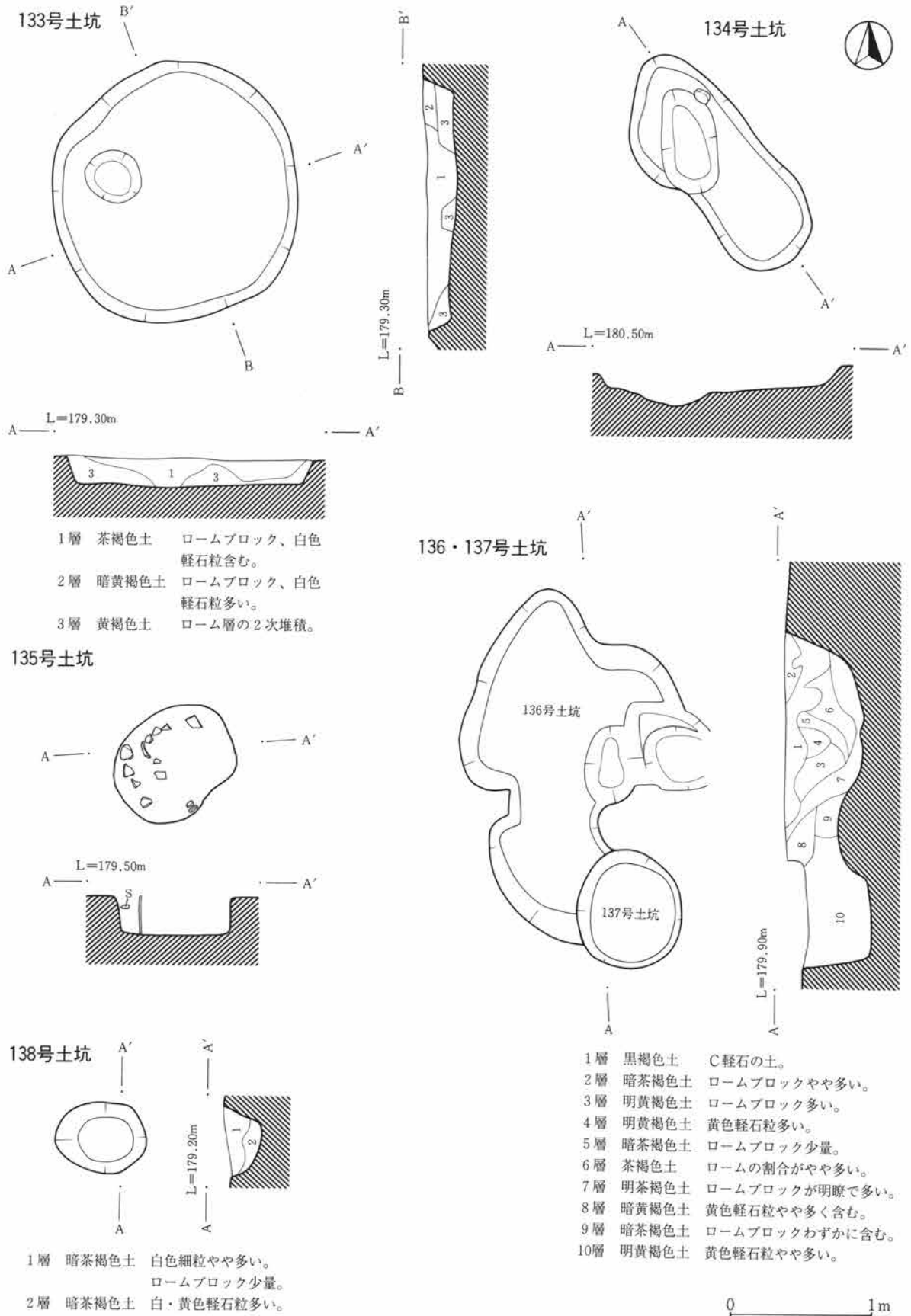
- | | | |
|----|-------|------------------|
| 1層 | 茶褐色土 | ロームブロック、白色軽石粒含む。 |
| 2層 | 暗黄褐色土 | ロームブロック、白色軽石粒多い。 |
| 3層 | 黄褐色土 | ローム層の2次堆積。 |



0 1m

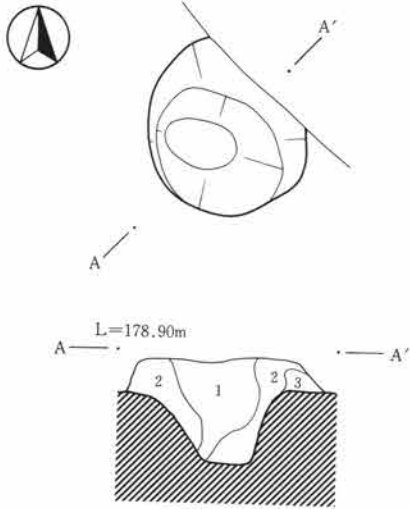
第134図 128・130・131・132・145号土坑

第3章 II地区 検出された遺構



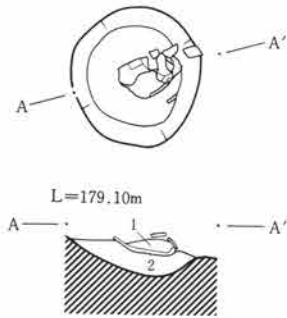
第135図 133・134・135・136・137・138号土坑

139号土坑



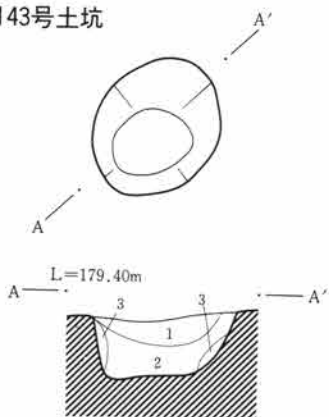
- 1層 褐色土 白色軽石粒、炭化物粒・焼土粒少量含む。
- 2層 黄褐色土 白色軽石粒含む。
- 3層 黄褐色土 ロームブロック多い。

140号土坑



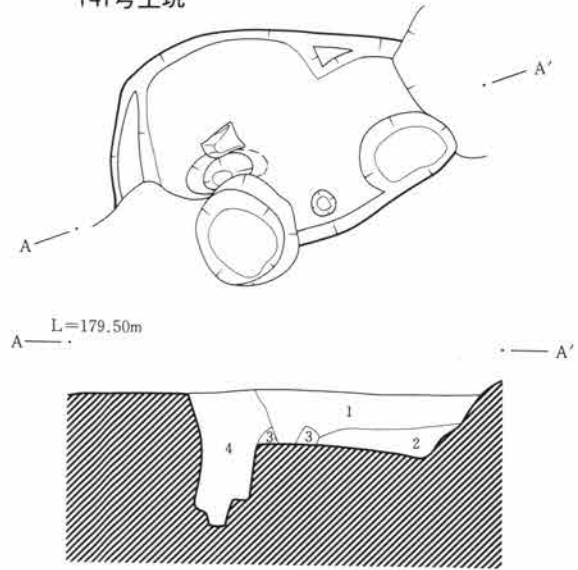
- 1層 茶褐色土 白色軽石粒少量。
- 2層 暗褐色土 白色軽石粒、ロームブロックを含む。

143号土坑



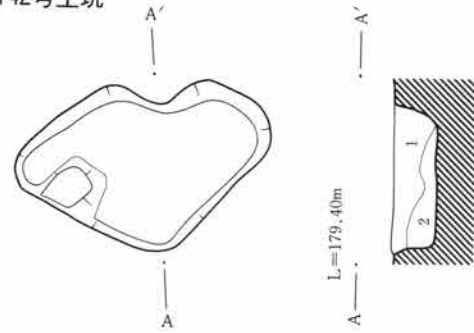
- 1層 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物粒少量。
- 2層 褐色土 焼土ブロック僅かに含む。
- 3層 黄褐色土 ロームブロック多い。

141号土坑



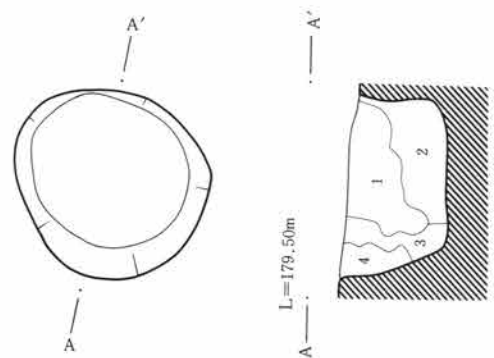
- 1層 暗褐色土 白色軽石粒、炭化物粒を含む。
- 2層 暗褐色土 白色粒・黄色軽石粒を僅かに含む。
- 3層 黄褐色土 ロームブロック含む。
- 4層 暗黄褐色土 黄色軽石粒多い。

142号土坑



- 1層 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物少量。
- 2層 暗黄褐色土 ロームブロック含む。

144号土坑

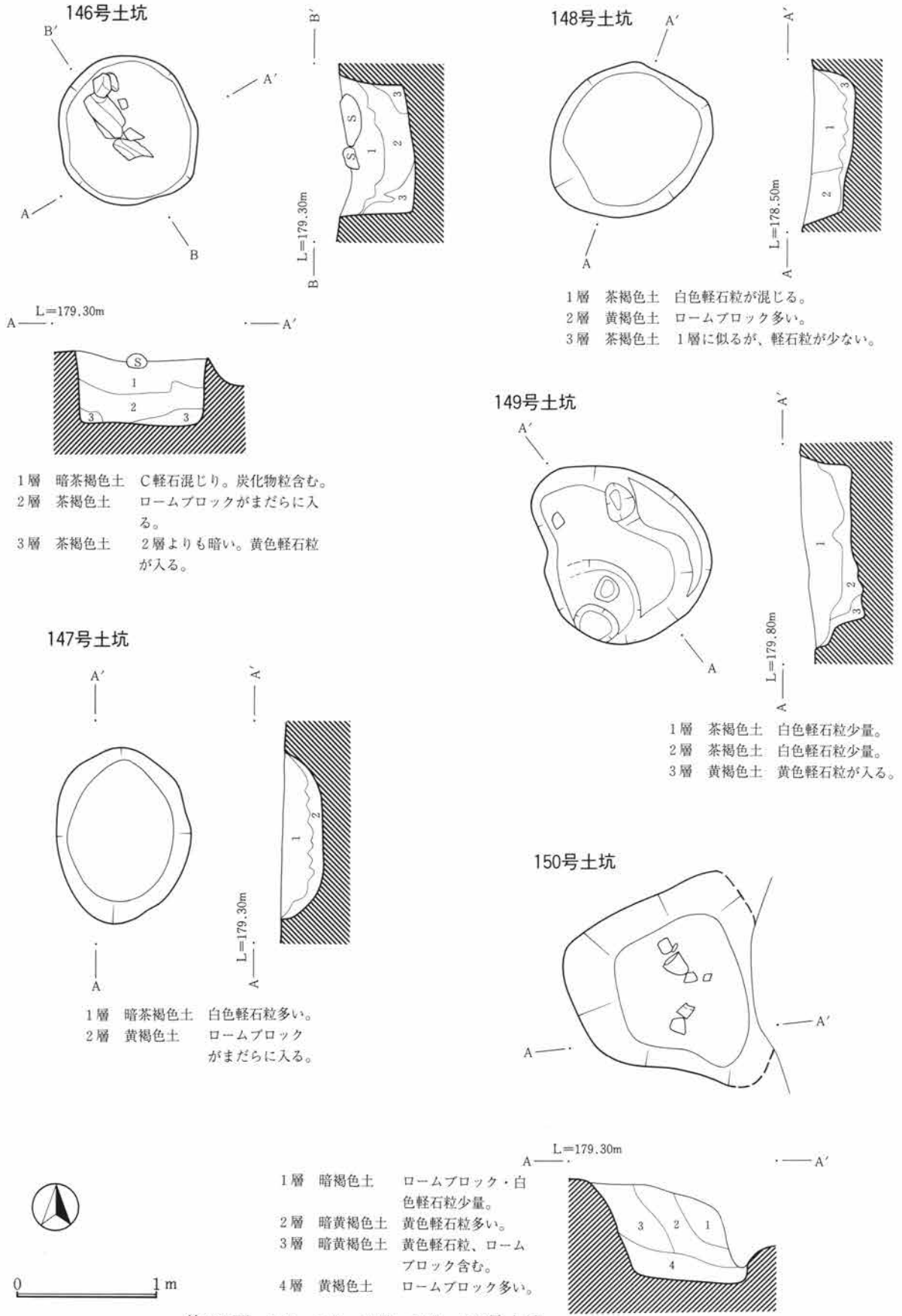


- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒含む。
- 2層 茶褐色土 黄色軽石粒含む。
- 3層 茶褐色土 軽石が2層より少ない。
- 4層 茶褐色土 2・3層より細かく、しまり強い。

0 1 m

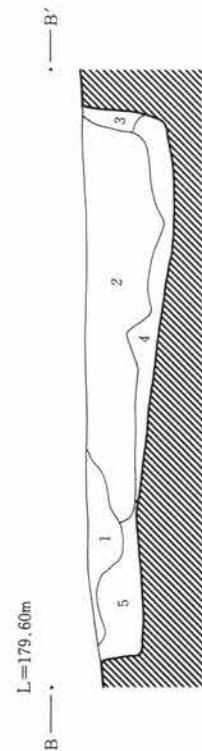
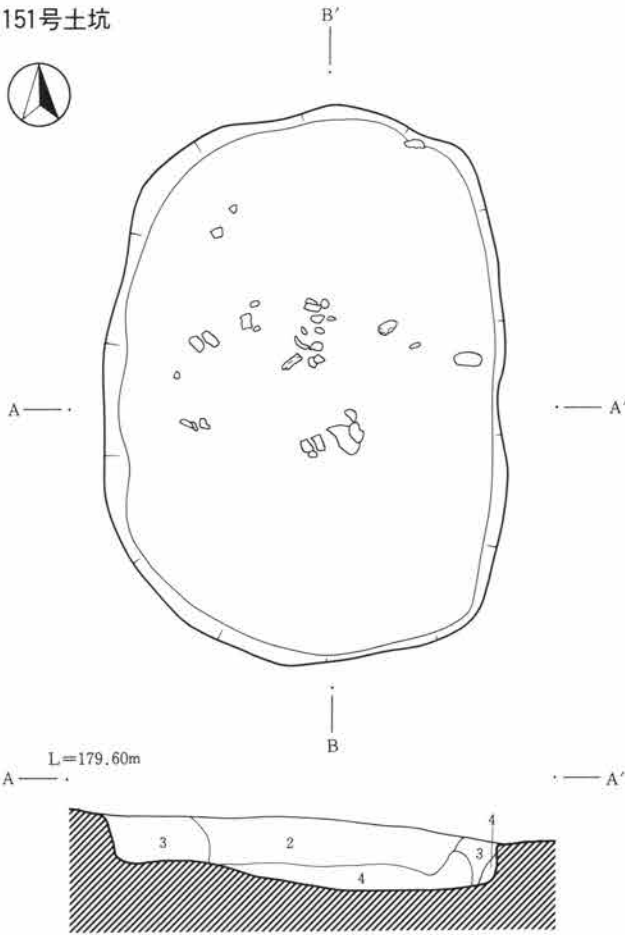
第136図 139・140・141・142・143・144号土坑

第3章 II地区 検出された遺構



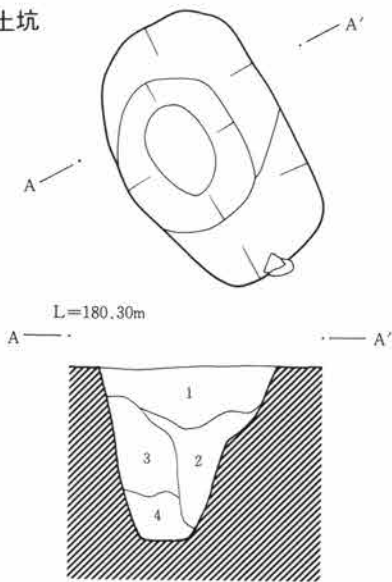
第137図 146・147・148・149・150号土坑

151号土坑



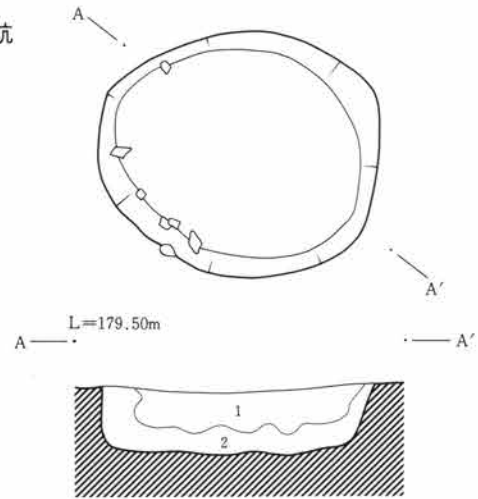
- 1層 黒褐色土 C軽石を含む、現在の耕作土混入。
- 2層 暗茶褐色土 白色軽石粒少量。
- 3層 暗黄褐色土 黄色軽石粒含む。
- 4層 明黄褐色土 ロームブロック少量。
- 5層 明黄褐色土 黄色軽石粒少量。

152号土坑



- 1層 暗黄褐色土 白色軽石粒少量。
- 2層 暗黄褐色土 ロームブロック、暗褐色土少量混じる。
- 3層 暗黄褐色土 ロームブロック多量に混入。
- 4層 暗褐色土 黄色軽石粒とロームブロックの混合。

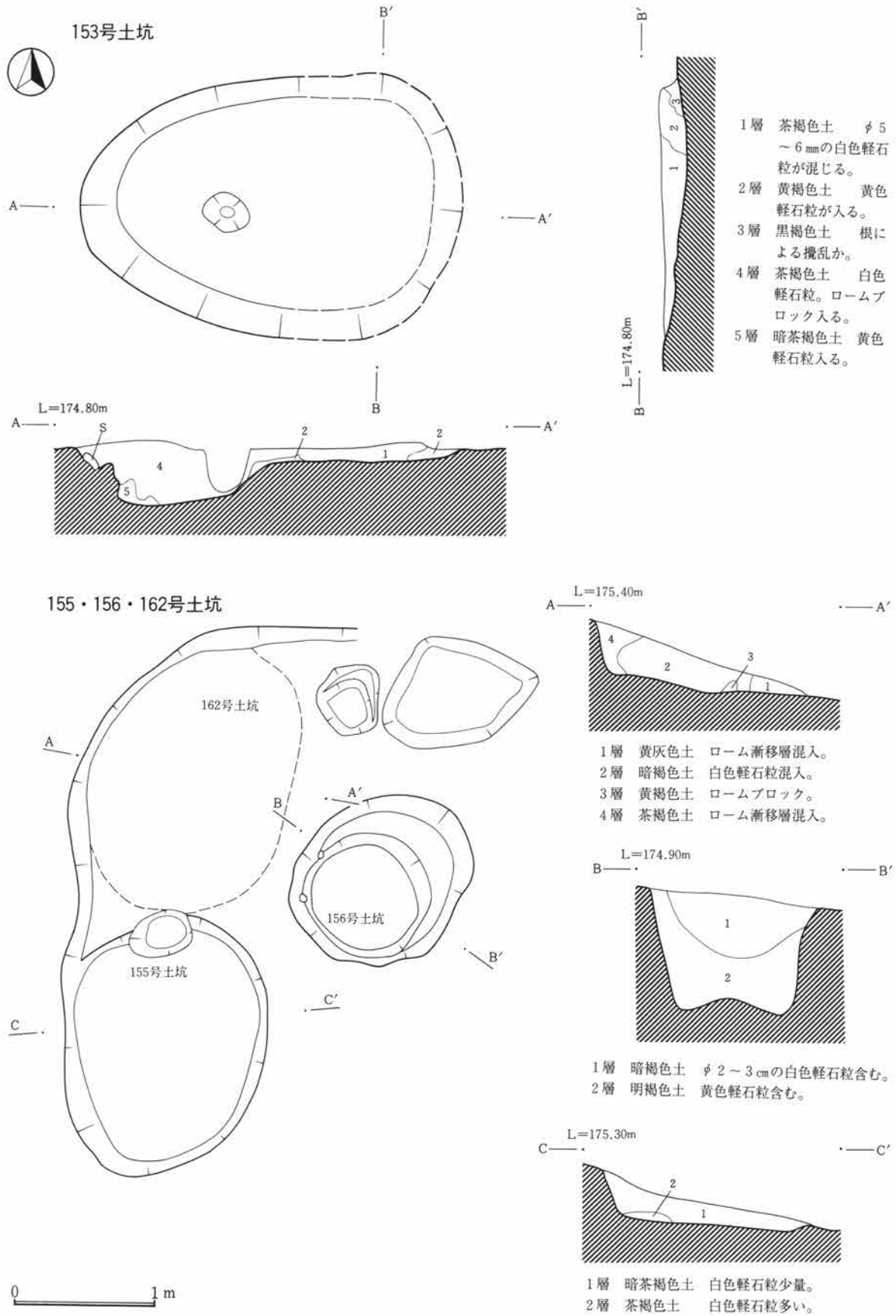
154号土坑



- 1層 暗褐色土 白・黄色軽石粒やや多い。
- 2層 暗茶褐色土 ロームブロックやや多い。

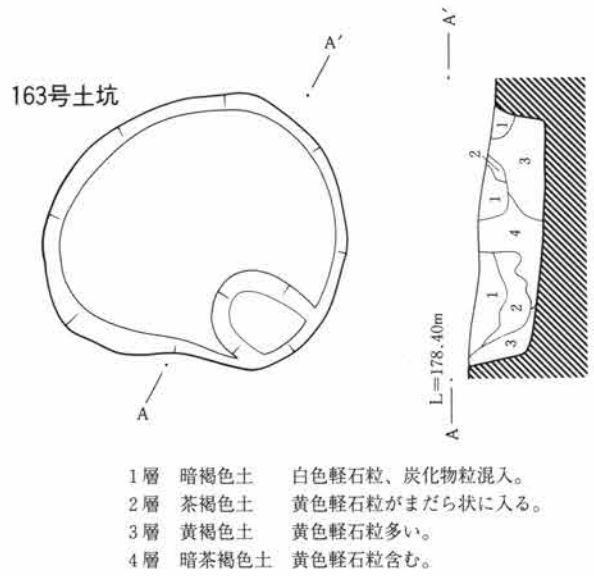
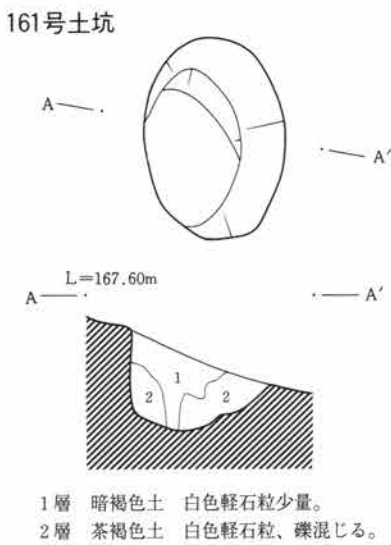
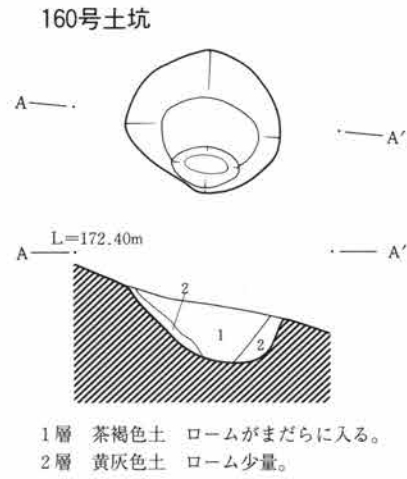
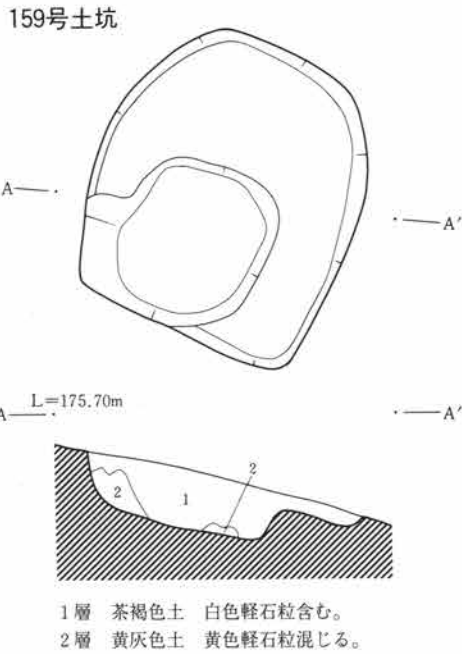
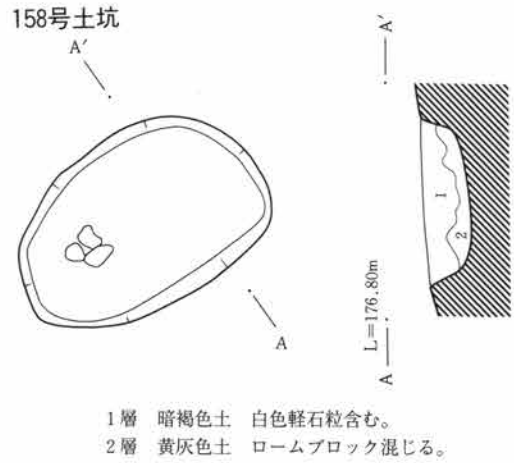
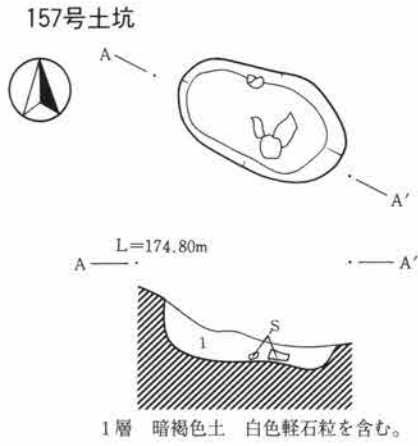
0 1 m

第138図 151・152・154号土坑



第139図 153・155・156・162号土坑

第3節 検出された土坑

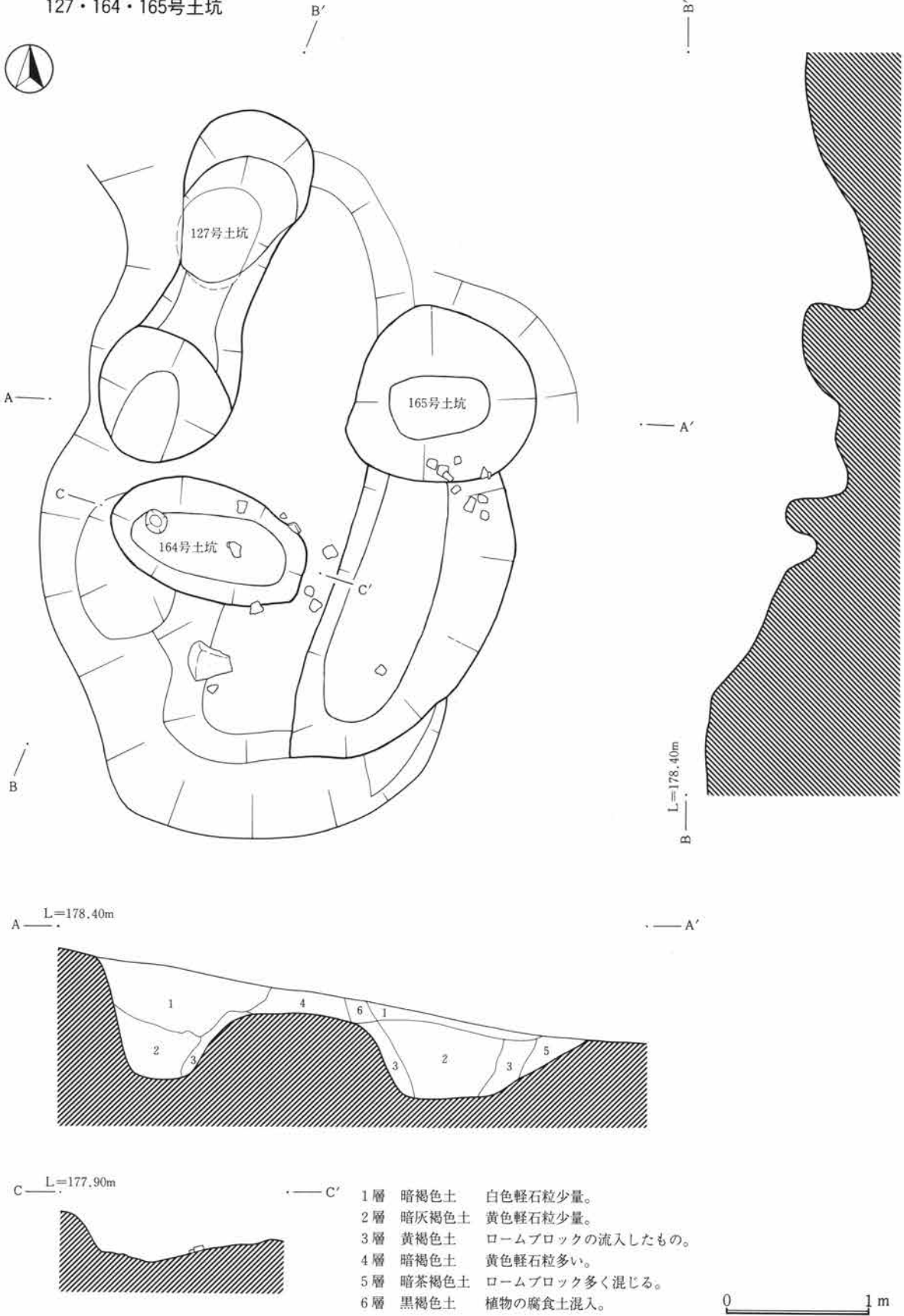


0 1 m

第140図 157・158・159・160・161・163号土坑

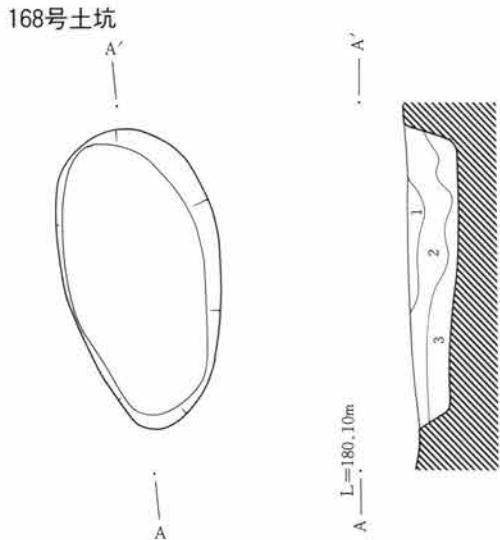
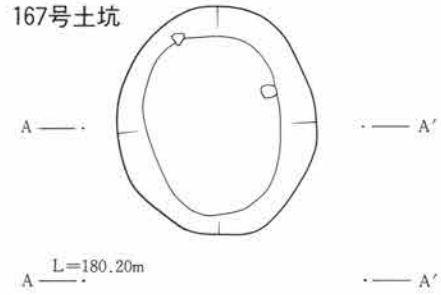
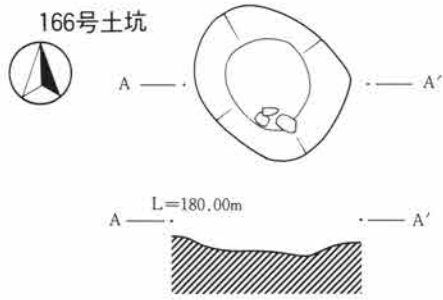
第3章 II地区 検出された遺構

127・164・165号土坑

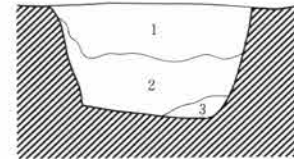


第141図 127・164・165号土坑

第3節 検出された土坑

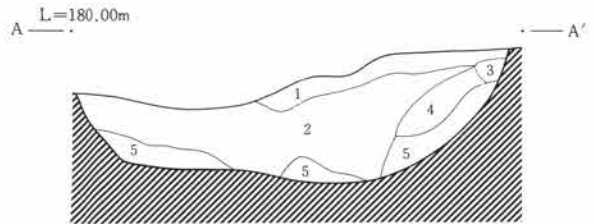
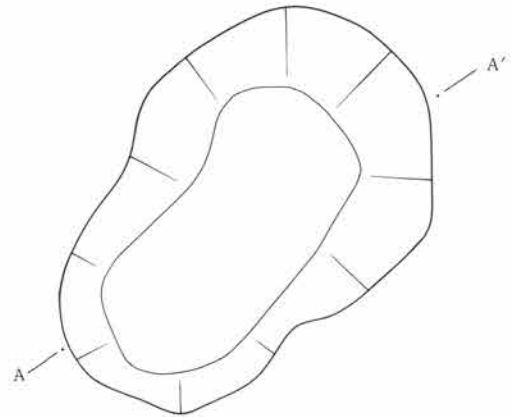


- 1層 茶褐色土 白色軽石粒多く含む。
- 2層 黄褐色土 ロームブロックを含む。白色軽石粒1層より少ない。
- 3層 黄褐色土 2層に似るが内容物少なく、やや明るい。

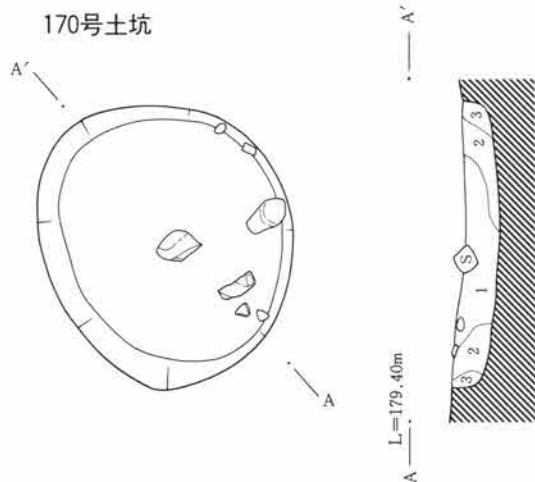


- 1層 茶褐色土 白色軽石粒と炭化物少量。
- 2層 茶褐色土 白色軽石粒少量。
- 3層 黄灰色土 黄色軽石粒含む。

169号土坑



- 1層 暗茶褐色土 ロームブロックやや混じる。
- 2層 暗黄褐色土 ロームブロック少量混じる。
- 3層 暗茶褐色土 白・黄色軽石やや多く含む。
- 4層 暗茶褐色土 黄色軽石粒多い。
- 5層 暗黄褐色土 ロームブロック多い。



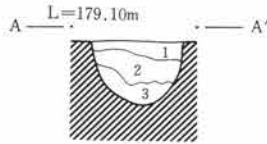
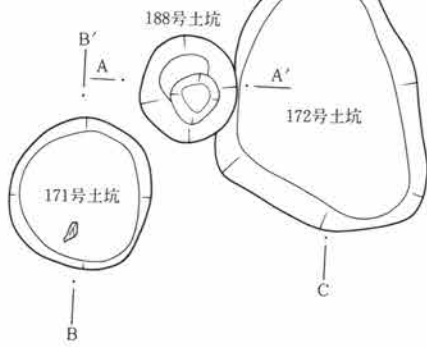
- 1層 暗褐色土 ローム粒・ブロックやや多い。炭化物少量。
- 2層 暗褐色土 1層よりローム多い。
- 3層 暗黄褐色土 暗褐色土少量。

0 1 m

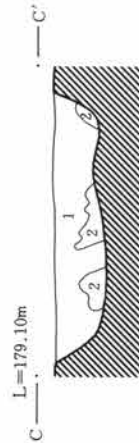
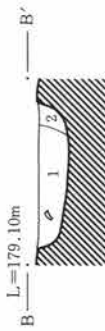
第142図 166・167・168・169・170号土坑

第3章 II地区 検出された遺構

171・172・188号土坑

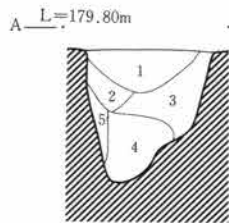


- 188号土坑
- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒少量。
 - 2層 茶褐色土 白色軽石粒多い。
 - 3層 明黄褐色土 ロームブロック含む。



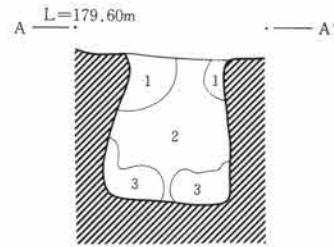
- 171号土坑
- 1層 茶褐色土 橙色の軽石とφ1mmの礫を僅かに含む。
 - 2層 暗茶褐色土 白色軽石粒を含む。
- 172号土坑
- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒含む。炭化物粒僅かに入る。
 - 2層 黄褐色土 黄色軽石粒多量。

174号土坑



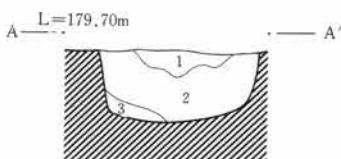
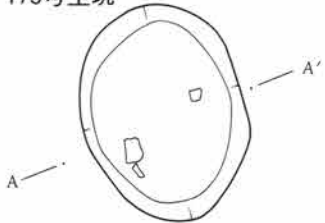
- 1層 暗茶褐色土 白色細粒・黄色軽石粒含む。
- 2層 暗茶褐色土 白色軽石粒少量。
- 3層 暗茶褐色土 黄色軽石粒やや多い。
- 4層 暗黄褐色土 ロームブロック混じる。
- 5層 暗黄褐色土 黄色軽石粒やや多い。

173号土坑



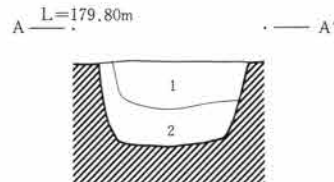
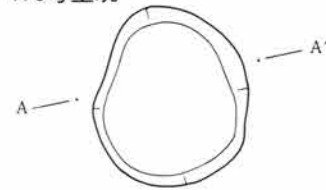
- 1層 暗茶褐色土 ロームブロックやや多い。壁の崩落。
- 2層 暗茶褐色土 黄色軽石粒やや多い。炭化物少量。
- 3層 暗黄褐色土 黄色軽石粒少量。

175号土坑



- 1層 黒褐色土 根の攪乱。
- 2層 暗茶褐色土 白・黄色軽石粒。炭化物少量。
- 3層 暗黄褐色土 黄色軽石粒含む。

176号土坑

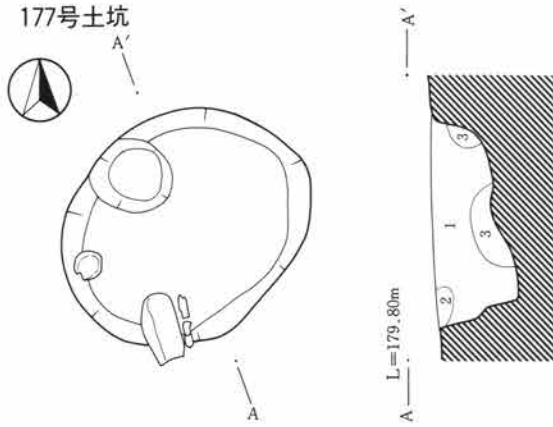


- 1層 暗茶褐色土 白・黄色軽石粒やや多い。
- 2層 暗黄褐色土 ロームブロック多い。



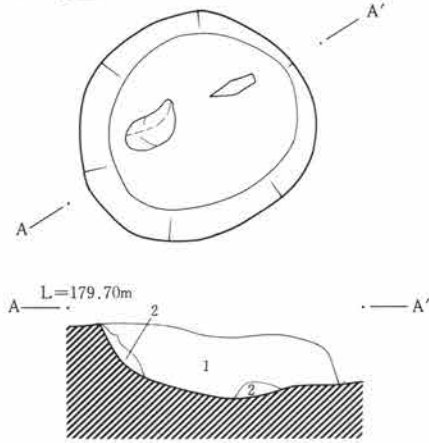
第143図 171・172・173・174・175・176・188号土坑

第3節 検出された土坑

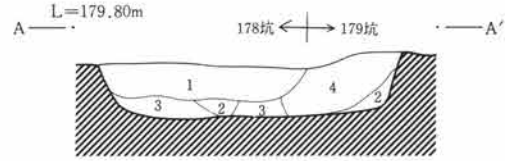
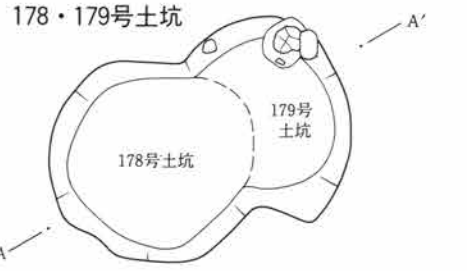


- 1層 暗茶褐色土 ロームブロック、黄色軽石粒多い。
- 2層 黄褐色土 ロームブロックの混入多い。
- 3層 明茶褐色土 黄色軽石粒多い。

180号土坑

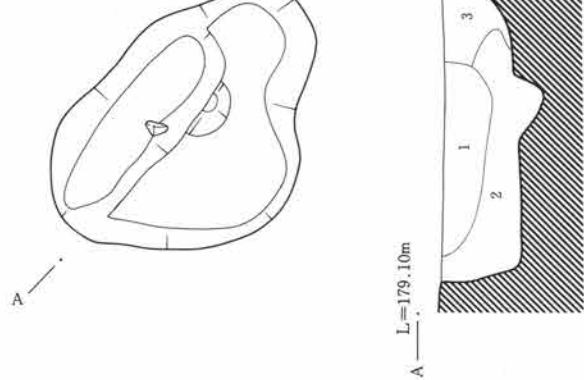


- 1層 暗茶褐色土 白・黄色軽石粒、炭化物少量。
- 2層 暗茶褐色土 ロームブロック少量。



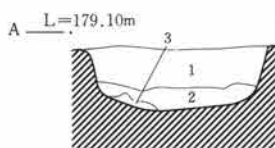
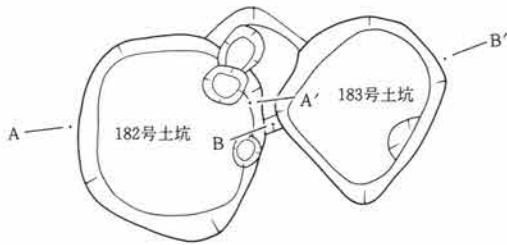
- 1層 暗茶褐色土 白・黄色軽石粒少量。
- 2層 暗茶褐色土 白・黄色軽石粒多い。
- 3層 暗黄褐色土 ロームブロック少ない。
- 4層 暗褐色土 ロームブロック多い。

181号土坑

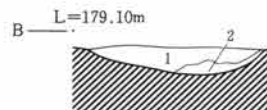


- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒を少量と黄色軽石粒僅か含む。
- 2層 暗茶褐色土 ロームブロック入る。
- 3層 黄褐色土 ローム状の土で白色軽石粒が少量入る。

182・183号土坑



- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒多い。黄色軽石粒僅か入る。
- 2層 暗茶褐色土 1層に似るが、内容物少ない。
- 3層 茶褐色土 1・2層より明るい。黄色軽石粒少量入る。

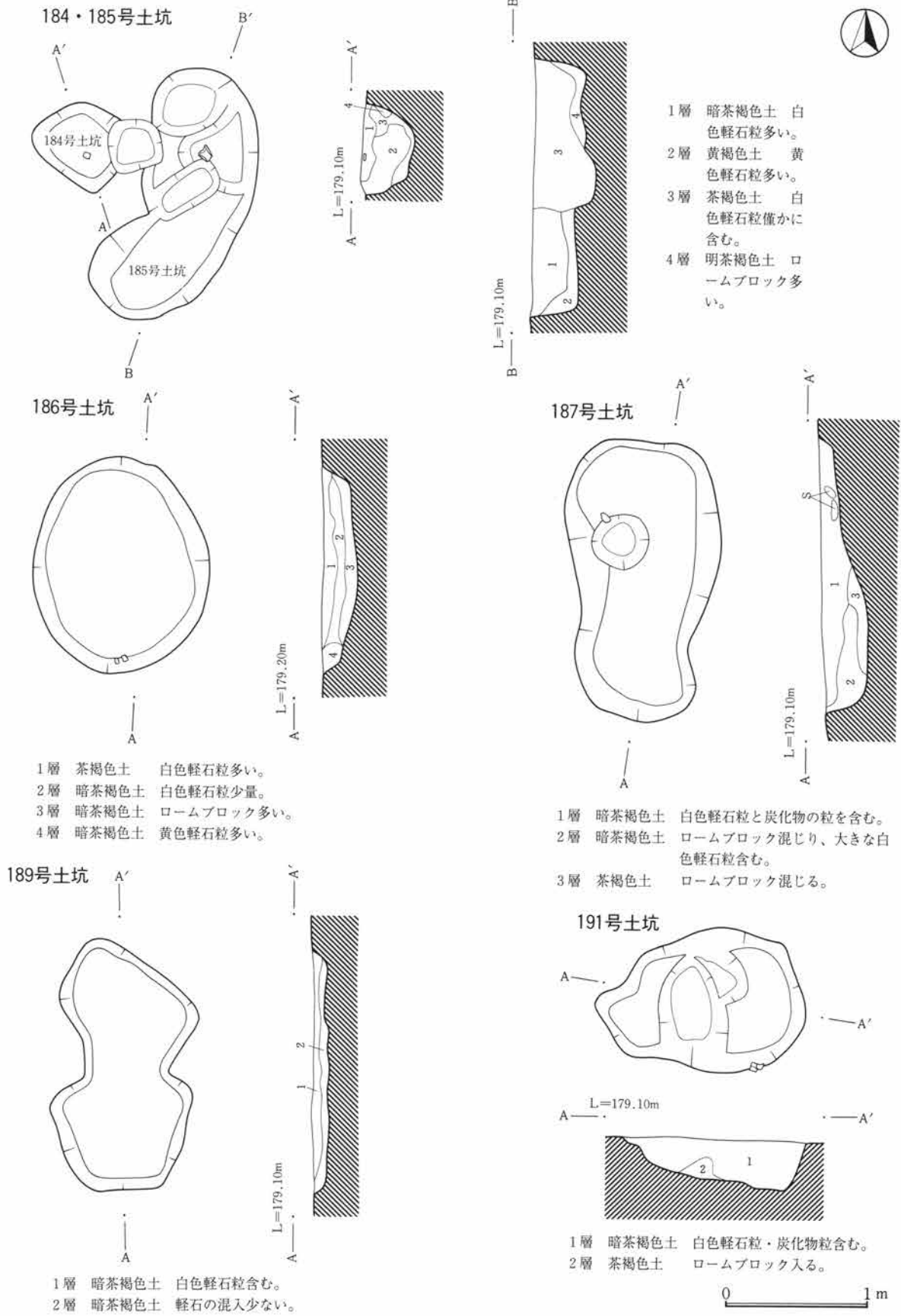


- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒少量。
- 2層 暗茶褐色土 1層よりも明るく、内容物が少ない。

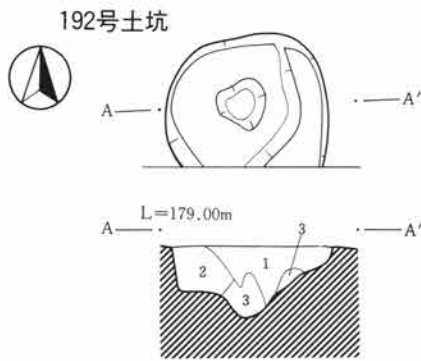
0 1m

第144図 177・178・179・180・181・182・183号土坑

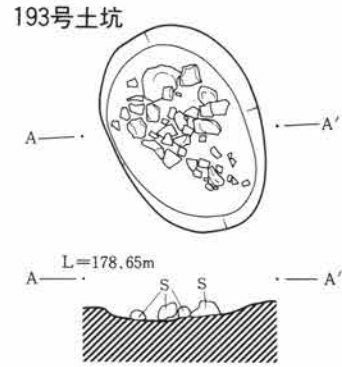
第3章 II地区 検出された遺構



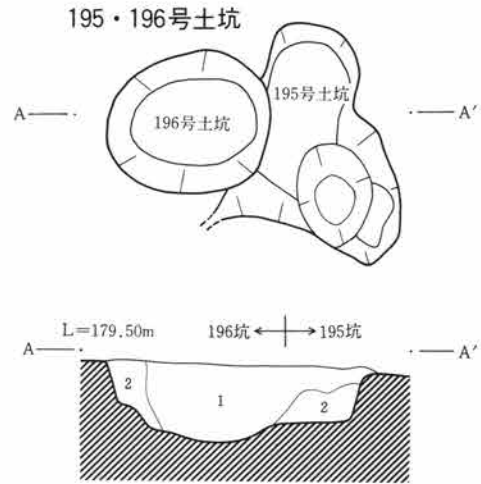
第145図 184・185・186・187・189・191号土坑



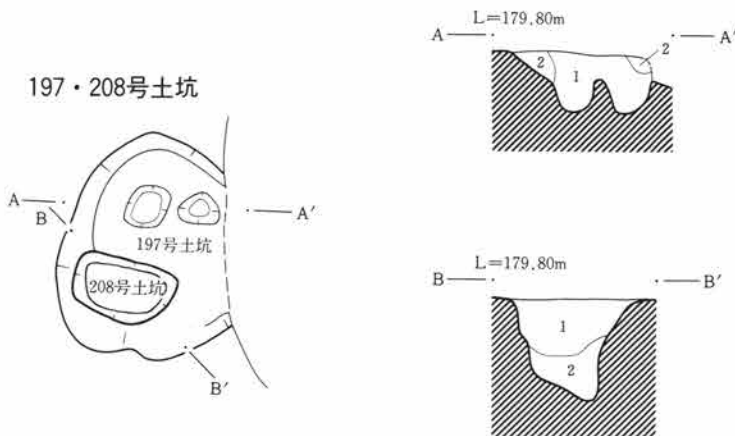
- 1層 暗褐色土 白色軽石粒・炭化物僅かに含む。
- 2層 暗褐色土 ロームブロックやや多い。
- 3層 暗黄褐色土 ロームブロック多い。



- 1層 暗褐色土 白色軽石粒を含む。
- 2層 黄褐色土 ローム層に暗褐色土と黄色軽石粒混じる。
- 3層 暗茶褐色土 黄色軽石粒多い。



- 1層 暗茶褐色土 黄・白色軽石粒を少量。炭化物僅か入る。
- 2層 暗茶褐色土 黄色軽石粒が入り赤味がやや強い。



- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒少量。
- 2層 茶褐色土 1層よりも明るく、内容物少ない。

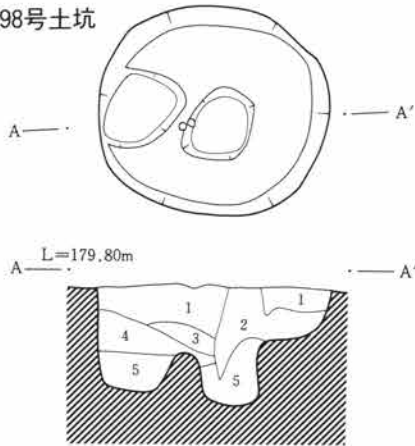
- 1層 茶褐色土 白色軽石粒僅かに含む。
- 2層 茶褐色土 黄色軽石粒少量。

0 1 m

第146図 192・193・194・195・196・197・208号土坑

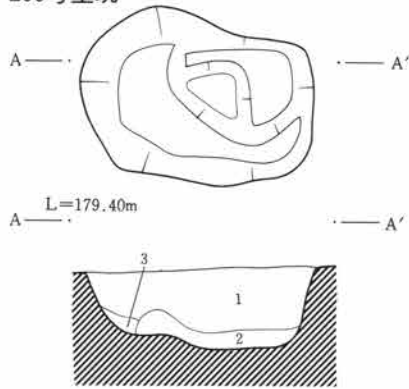
第3章 II地区 検出された遺構

198号土坑



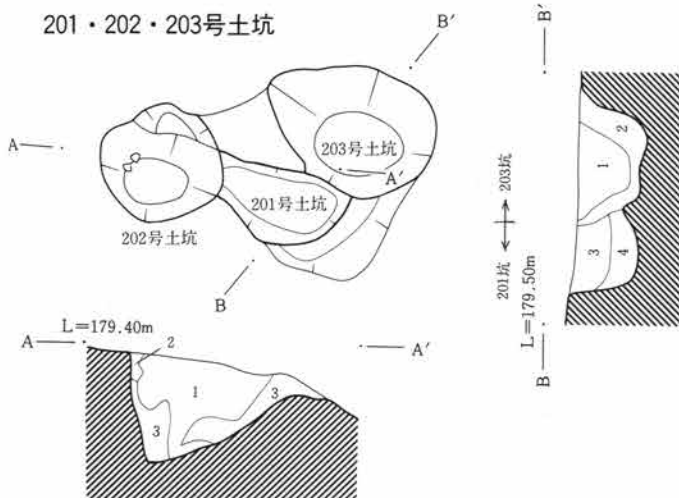
- 1層 茶褐色土 白色軽石粒含む。
- 2層 茶褐色土 白色軽石粒、炭化物粒を含む。
- 3層 茶褐色土 1層より明るく、内容物が少ない。
- 4層 茶褐色土 1層に似るが、灰白色の軽石が混じり、白味をおびる。
- 5層 茶褐色土 1層に似るが、やや暗く黄色軽石粒含む。

200号土坑

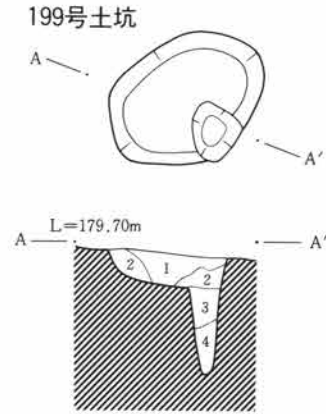


- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒多い。
- 2層 暗茶褐色土 1層に似るが、内容物少ない。
- 3層 茶褐色土 1・2層より明るく、しまり強い。

201・202・203号土坑

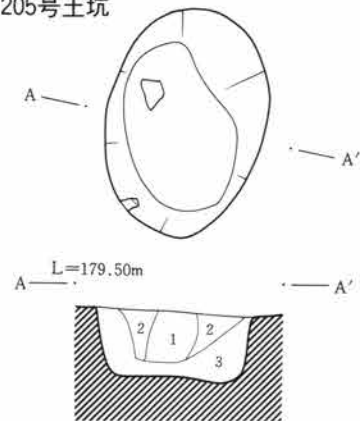


199号土坑



- 1層 茶褐色土 白色軽石粒多い。黄色軽石粒と炭化物粒入る。
- 2層 茶褐色土 1層に似るが、黄色軽石粒入らず。白色軽石粒も少量。
- 3層 茶褐色土 白色軽石粒少量、白っぽい土が入る。
- 4層 灰褐色土 黄色軽石粒含む。

205号土坑



- 1層 暗茶褐色土 白・黄褐色軽石粒含む。
- 2層 暗褐色土 1層より暗く、白色軽石粒少量。
- 3層 暗褐色土 2層に似るが、φ5~10mmの黄色軽石粒が入る。

201-203号土坑

- 1層 暗茶褐色土 炭化物、白色軽石粒含まれる。
- 2層 暗茶褐色土 炭化物少量。
- 3層 茶褐色土 黄色軽石粒含む。
- 4層 暗黄褐色土 黄色の軽石が混じり、やや白味をおびる。

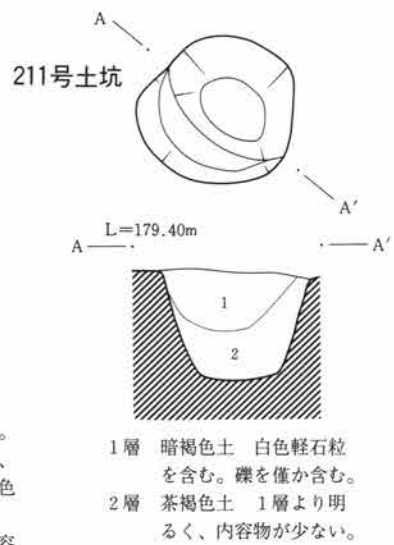
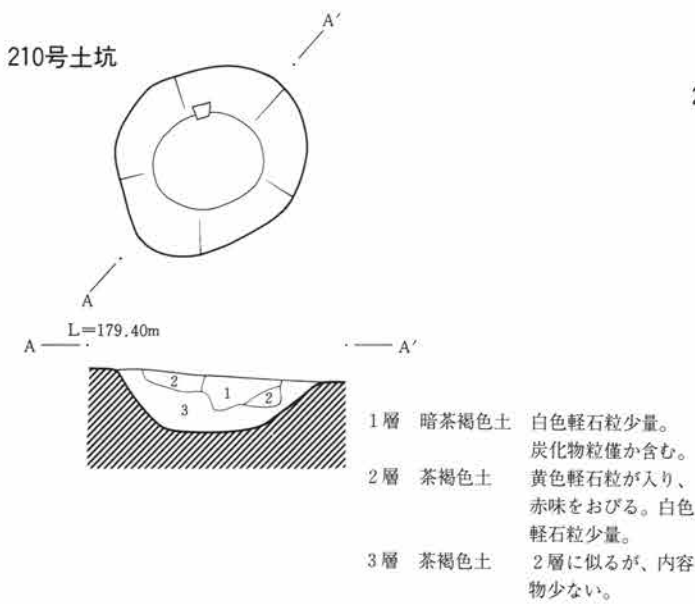
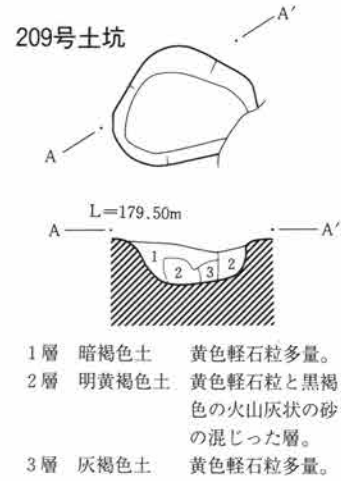
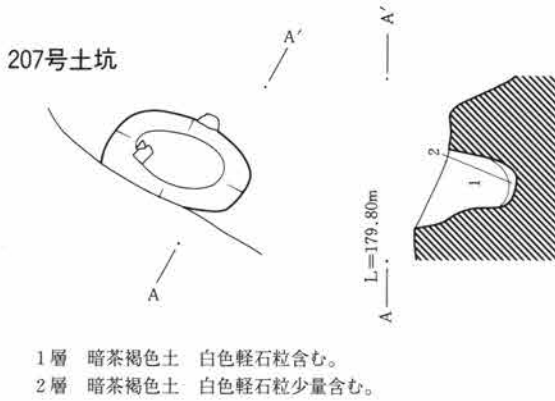
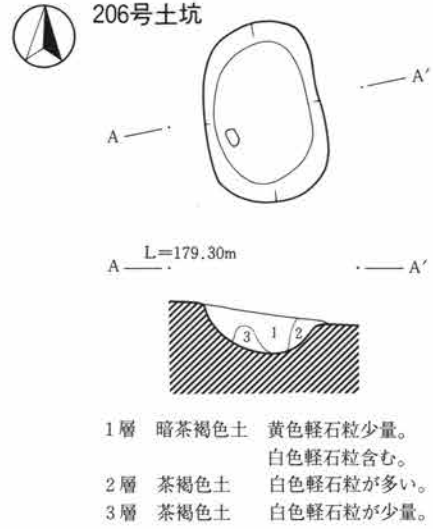
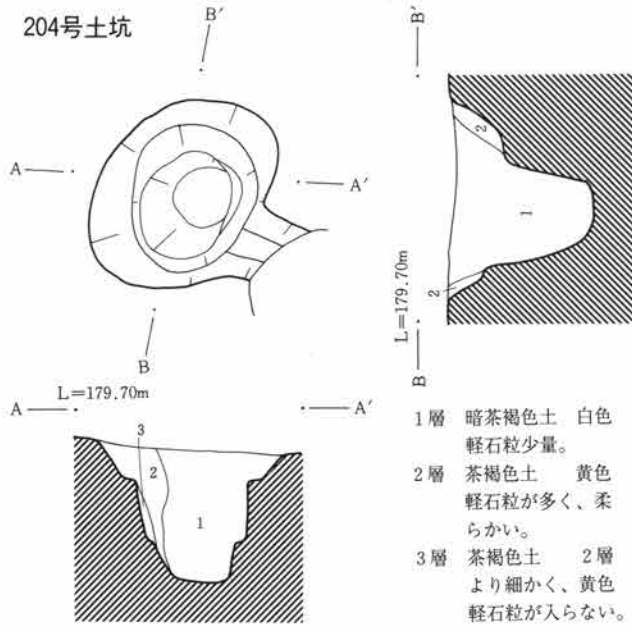
202号土坑

- 1層 暗茶褐色土 白色軽石粒混じる。ロームブロックを僅か含む。
- 2層 黄褐色土 ロームがブロック状に入る。
- 3層 茶褐色土 黄色軽石粒が多い。

0 1m

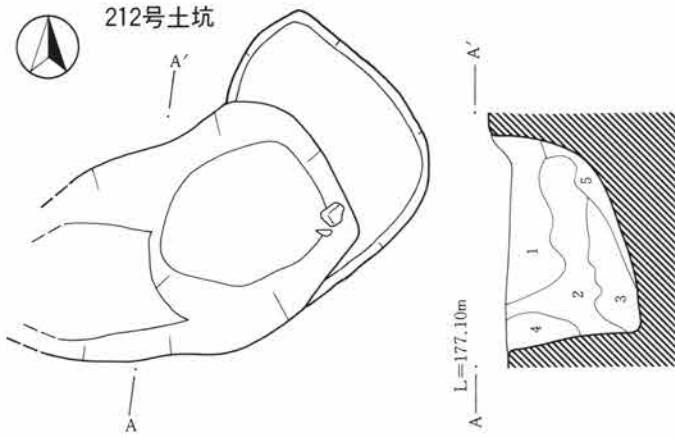
第147図 198・199・200・201・202・203・205号土坑

第3節 検出された土坑

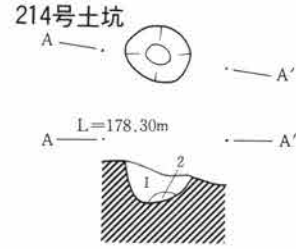


0 1m

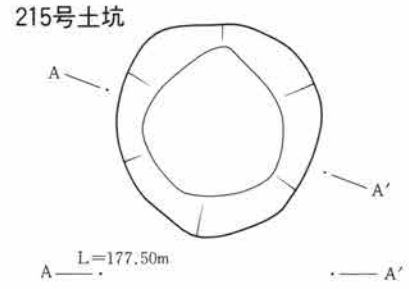
第148図 204・206・207・209・210・211号土坑



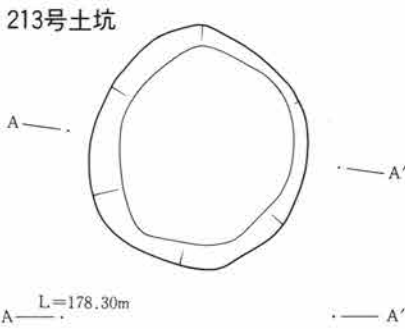
- 1層 暗褐色土 ローム漸移層がまだらに入る。
- 2層 暗褐色土 1層に似るが、やや明るく黄色の軽石が多い。
- 3層 茶褐色土 白色軽石粒が少量混じる。
- 4層 黄褐色土 ローム漸移層混じりの土。
- 5層 黄褐色土 4層より明るい。上部に黄色軽石粒含む。



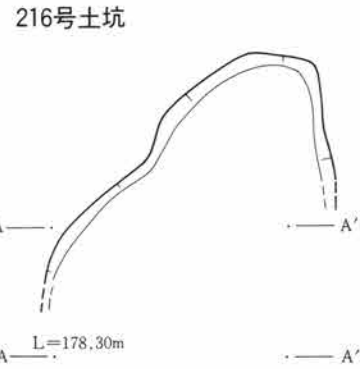
- 1層 暗褐色土 白色軽石粒少量。
- 2層 茶褐色土 ロームがブロック状に入る。



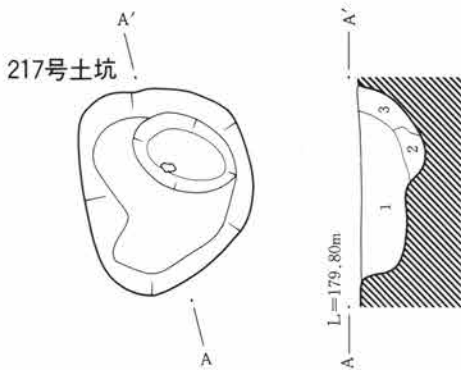
- 1層 暗褐色土 白色軽石粒・炭化物粒少量混じる。
- 2層 暗茶褐色土 ロームブロック少量含む。



- 1層 暗褐色土 白色軽石粒少量。
- 2層 茶褐色土 ロームブロック少量。



- 1層 茶褐色土 黄色軽石粒と茶褐色土が混じり合ったもろい土。
- 2層 暗茶褐色土 ロームと黄色軽石粒が混ざり、軽石粒が入る。
- 3層 暗茶褐色土 2層より暗い。軽石粒多い。
- 4層 茶褐色土 軽石粒と炭化物粒が入る。
- 5層 暗茶褐色土 乳白色軽石粒の上の暗色帯。
- 6層 茶褐色土 同化した黄色軽石粒が多く混じる。4層に似る。
- 7層 茶褐色土 6層よりも赤い黄色軽石粒多い。

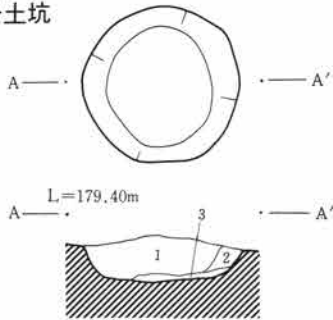


- 1層 暗褐色土 炭化物粒・焼土ブロック少量。
- 2層 暗褐色土 黄色軽石粒少量。
- 3層 暗褐色土 黄色軽石粒少量。

0 1m

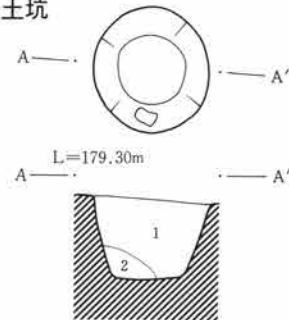
第149図 212・213・214・215・216・217号土坑

218号土坑



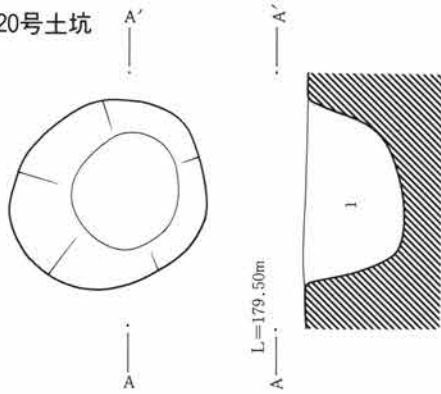
- 1層 暗茶褐色土 黄色軽石粒と炭化物粒を含む。
- 2層 暗茶褐色土 1層より明るい。軽石の割合多い。
- 3層 暗赤褐色土 チョココ色の粘質土。しまり強く硬い。

219号土坑



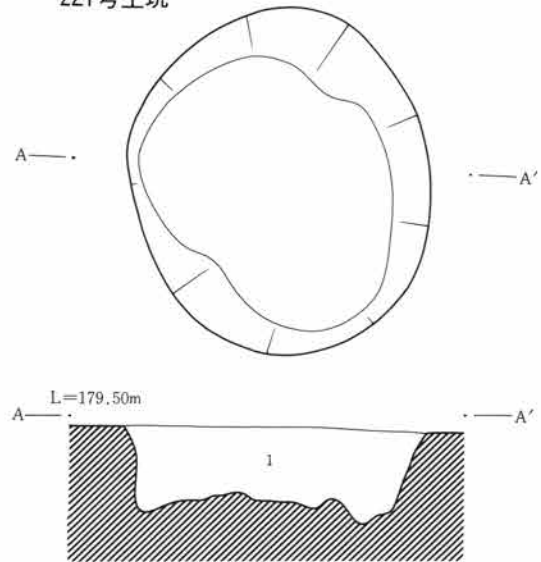
- 1層 暗茶褐色土 黄色軽石粒・炭化物含む。
- 2層 暗茶褐色土 1層に似るが、ロームブロックを含み、やや黄色味をおびる。

220号土坑



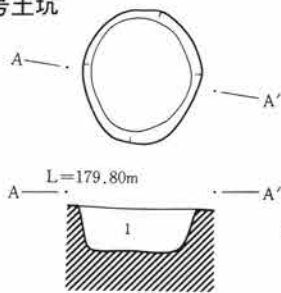
- 1層 暗茶褐色土 黄色軽石粒多い。炭化物を含む。

221号土坑



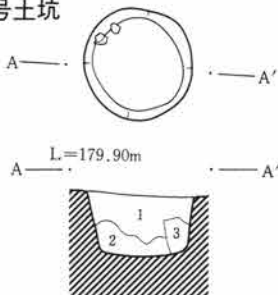
- 1層 黄褐色土 黄色軽石粒多い。

222号土坑



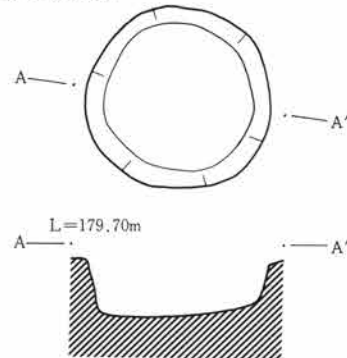
- 1層 黄褐色土
ロームブロック
ク多い。

224号土坑



- 1層 暗黄褐色土 黄色軽石粒・炭化物多い。
- 2層 黄灰色土 黄色軽石粒少量。
- 3層 黄褐色土 ロームブロック多い。

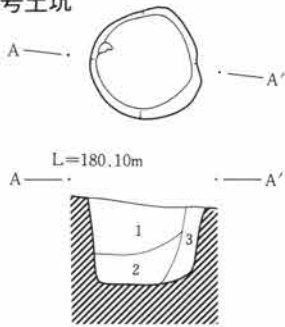
223号土坑



第150図 218・219・220・221・222・223・224号土坑

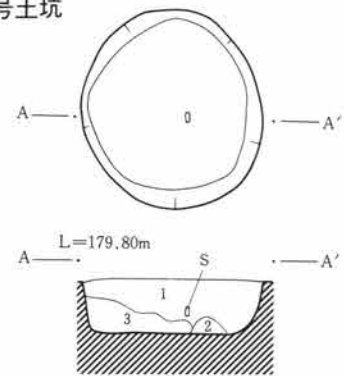
第3章 II地区 検出された遺構

225号土坑



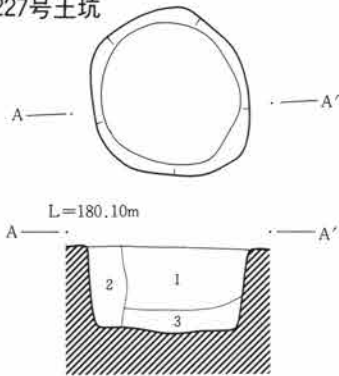
- 1層 暗黄褐色土 黄色軽石粒少量。
- 2層 黄褐色土 黄色軽石粒多い。
- 3層 暗茶褐色土 ローム漸移層の流れ込み。

226号土坑



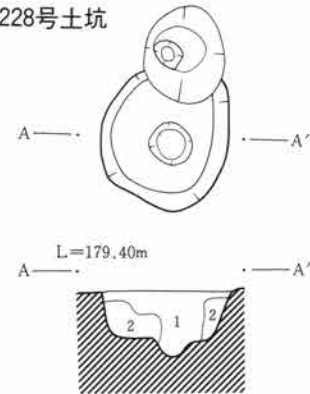
- 1層 暗黄褐色土 黄色軽石粒少量。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック混じり。
- 3層 黄褐色土 黄色軽石粒多い。

227号土坑



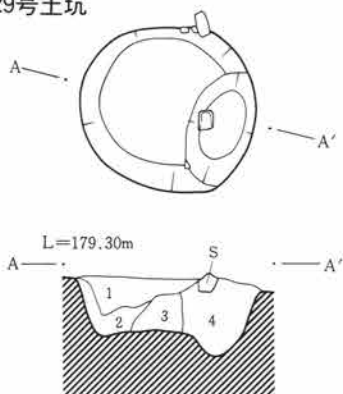
- 1層 暗黄褐色土 黄色軽石粒多い。
- 2層 黄褐色土 ロームブロック多く含む。
- 3層 明黄褐色土 黄色軽石粒少ない。

228号土坑



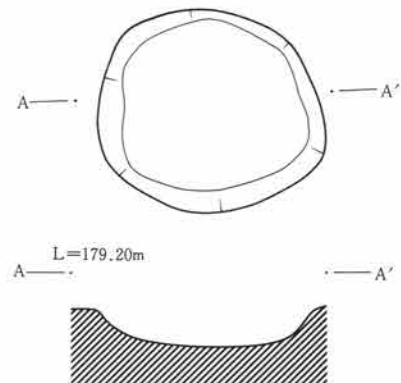
- 1層 暗茶褐色土 黄色軽石粒多い。
炭化物少量。
- 2層 暗黄褐色土 黄色軽石粒多い。

229号土坑



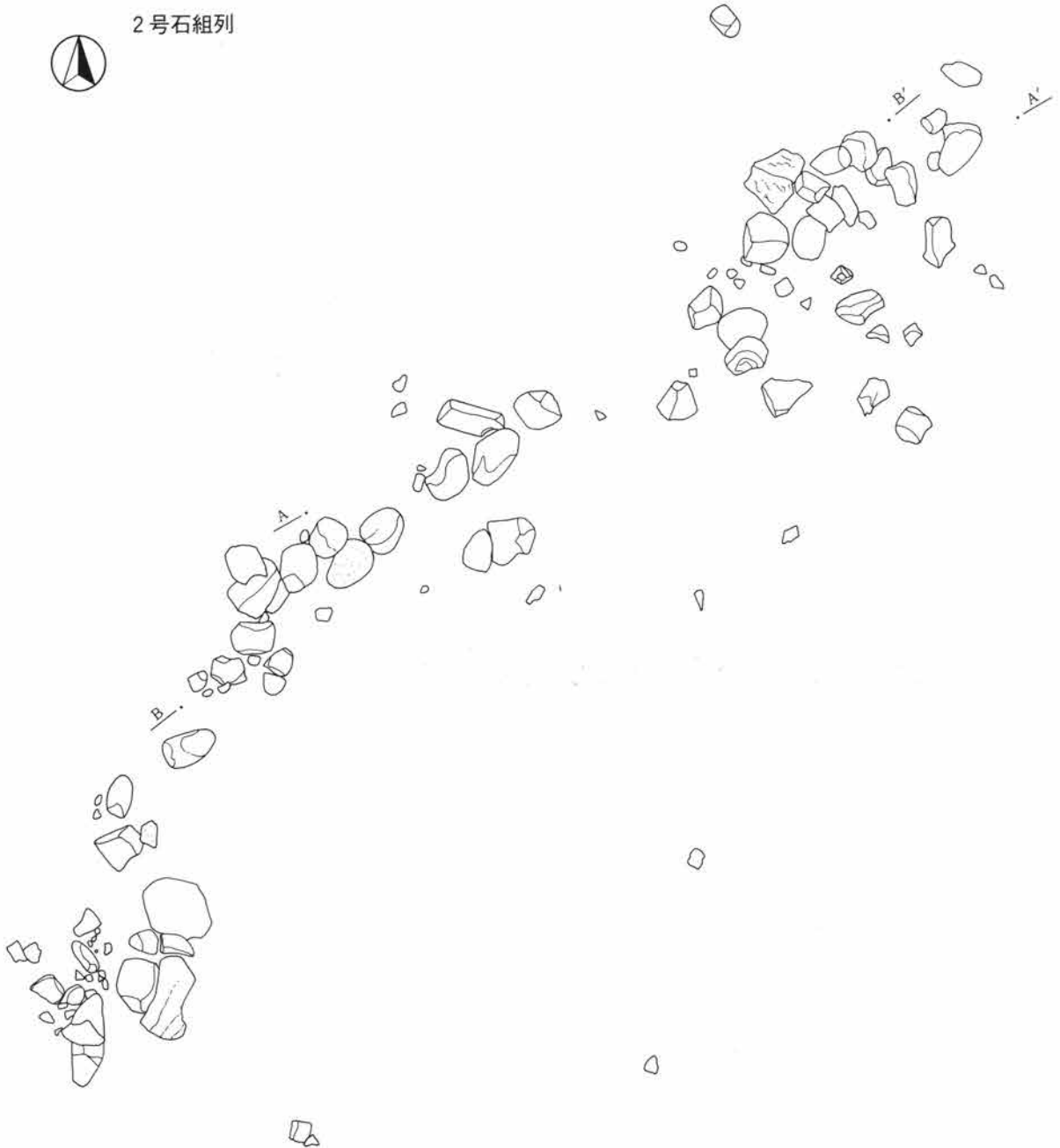
- 1層 暗褐色土 白・黄色軽石粒
やや多い。炭化
物少量。

230号土坑



第151図 225・226・227・228・229・230号土坑

2号石組列

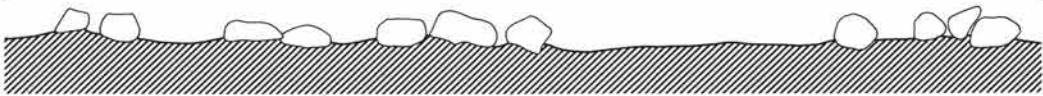


A L=181.60m



A'

B L=181.60m

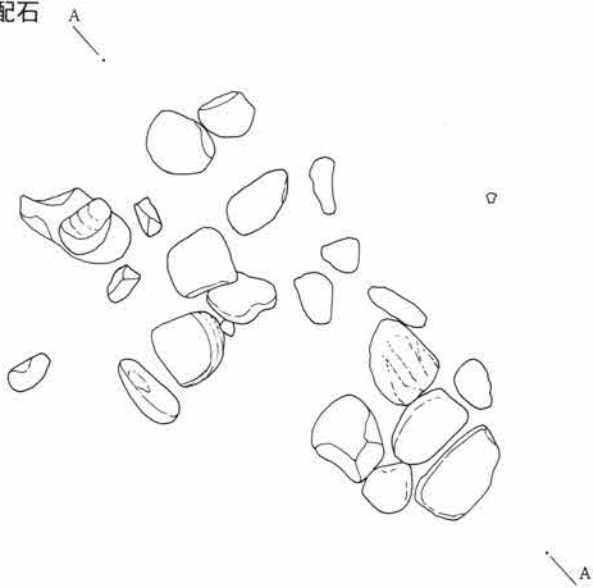


B'

0 2m

第152図 2号石組列

1号配石



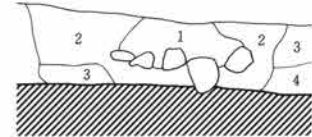
A L=181.00m



6号配石



A L=180.50m

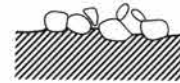


- 1層 黒褐色土 黄色軽石粒、炭化物少量。
- 2層 暗茶褐色土 黄色軽石ブロック、炭化物少量。
- 3層 暗黄褐色土 黄色軽石ブロック多く、炭化物少量。
- 4層 黄褐色土 黄色軽石ブロック多量。

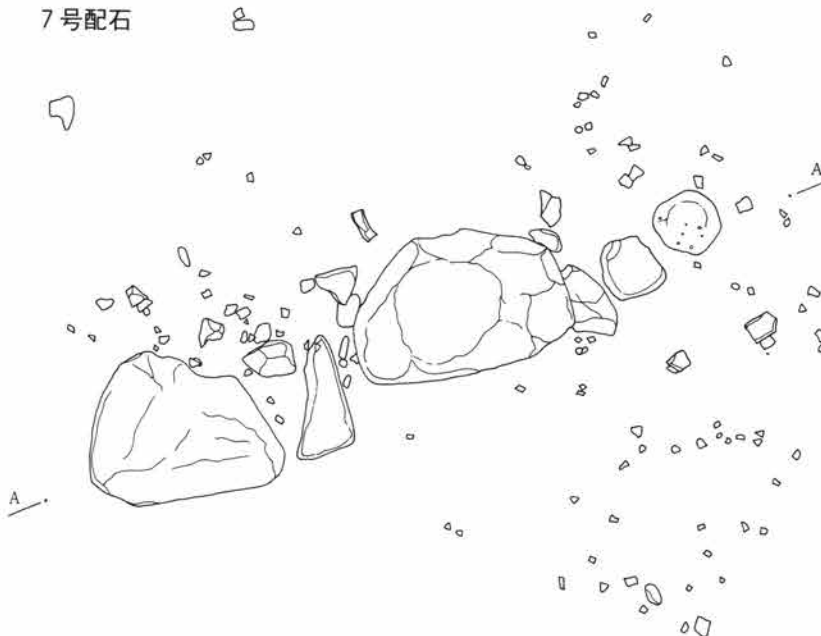
11号配石



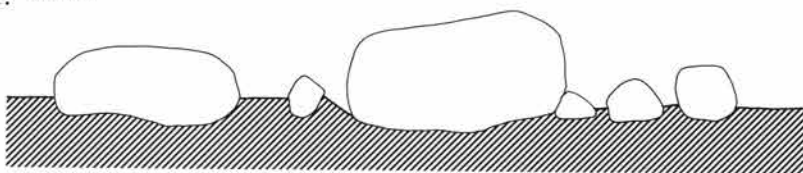
A L=177.40m



7号配石



A L=181.00m



13号配石

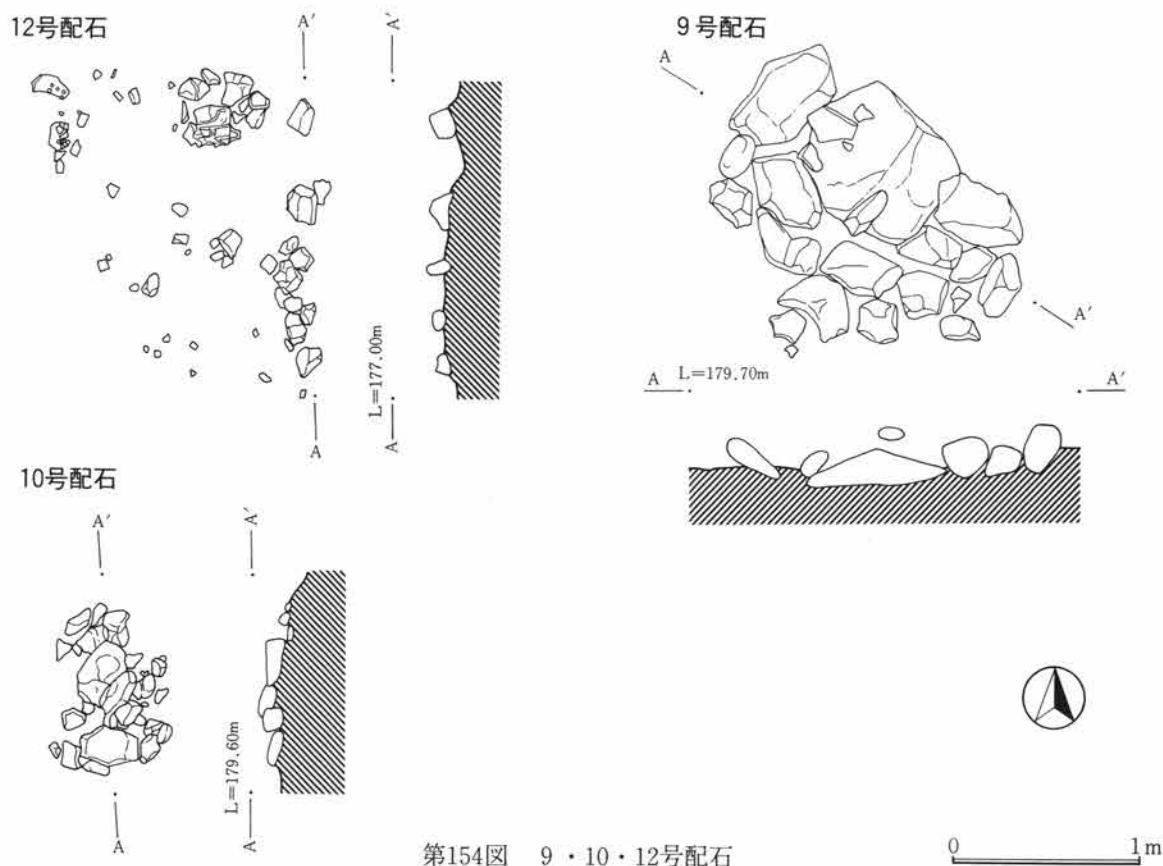


A L=177.20m



0 1m

第153図 1・6・7・11・13号配石



第154図 9・10・12号配石

第4節 検出されたその他の遺構

2号石組列 14区J～L-8～10に位置する。石列は長さ14m、巾1mで緩やかな弧を描くように連なる。石列の中には、多孔石や立石状のものが入る。地山への掘り込みは認められなかった。

1号配石 14区I-9に位置する。長さ3m、巾1.8mの範囲に、扁平で楕円形を呈する自然石を並べている。石は間隔を空けて置いてあり、地山に掘り込みは認められない。

6号配石 14区E-6に位置する。直径80cmの円形を呈し、小礫を重ね合わせている。周囲からは、炭化物などが礫の間に認められた。

7号配石 13区T-5～6に位置する。長さ3.8m、巾1mの規模で大型の自然石を据え置いている。石の中には、大型の多孔石等も確認された。大型の礫の周囲には、小礫が散らばっている。

9号配石 13区S-12に位置する。長さ1.8m、巾1.2mの規模で大型の自然石を据え置いている。

10号配石 13区S-12に位置する。長さ80cm、巾60cmの範囲に小礫が集合している。

11号配石 13区O-9に位置する。直径80cmの円形に小礫を集めている。周囲からは、若干の炭化物が認められた。掘り込みは確認できなかった。

12号配石 13区N～O-9に位置する。2m×1.5mの範囲に、自然の小礫が分布している。方形に礫によって区画しているようにも見える。掘り込みは確認できなかった。

13号配石 13区O-11に位置する。直径60cmの円形を呈している。自然の小礫を重ね合わせている。礫の中に凹石等が混じる。掘り込みは確認できなかった。

発掘調査報告書抄録

ふりがな	しらかわかさまついでせき							
書名	白川傘松遺跡 遺構編							
副書名	北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	第4集							
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告							
シリーズ番号	第204集							
編著者名	関根愼二							
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒377 群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784-2 電話 0279-52-2511							
発行年月	西暦 1996年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
シラカワカサマツ 白川傘松	グンマケングンマケン 群馬県群馬郡 ミサトマチシラカワ 箕郷町白川	10323	10005 00361	36度 22分 36秒	138度 56分 54秒	19921201～ 19930613	14,000	鉄道（北陸新幹線）建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
白川傘松	集落	縄紋時代中期 旧石器時代	住居址 土坑 配石遺構 石組列遺構 礫群	67軒 367基 8基 1列	縄紋時代中期中葉の土器・石器 耳飾り・土偶・翡翠大珠・石器 石器	縄紋時代中期後半の集落址 翡翠製大珠が出土した土坑 剝片石器		

写 真 图 版



遺跡全景



遺跡全景



I地区全景



作業風景



1号住居址 遺物出土状況



1号住



1号住 遺物



1号住 遺物



1号住 遺物



2号住居址 全景



2号住 遺物出土状況



2号住 炉



2号住 炉



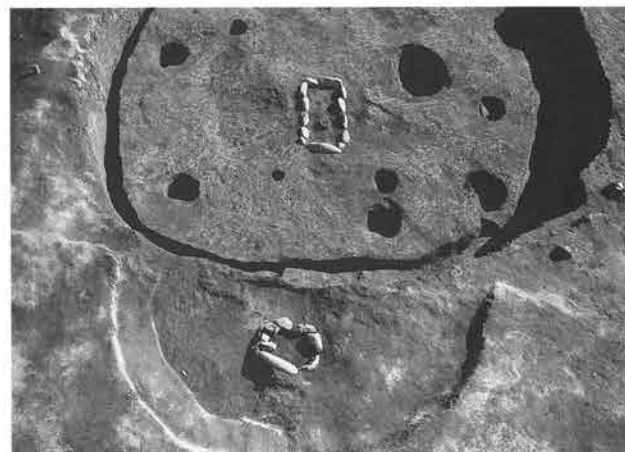
2号住 焼土



4号住居址 全景



3・4号住 遺物出土状況



3・4号住 全景



3号住居址 全景



3号住 炉



4号住 炉



4号住 炉・埋甕



4号住 遺物



4号住 遺物



4号住 遺物



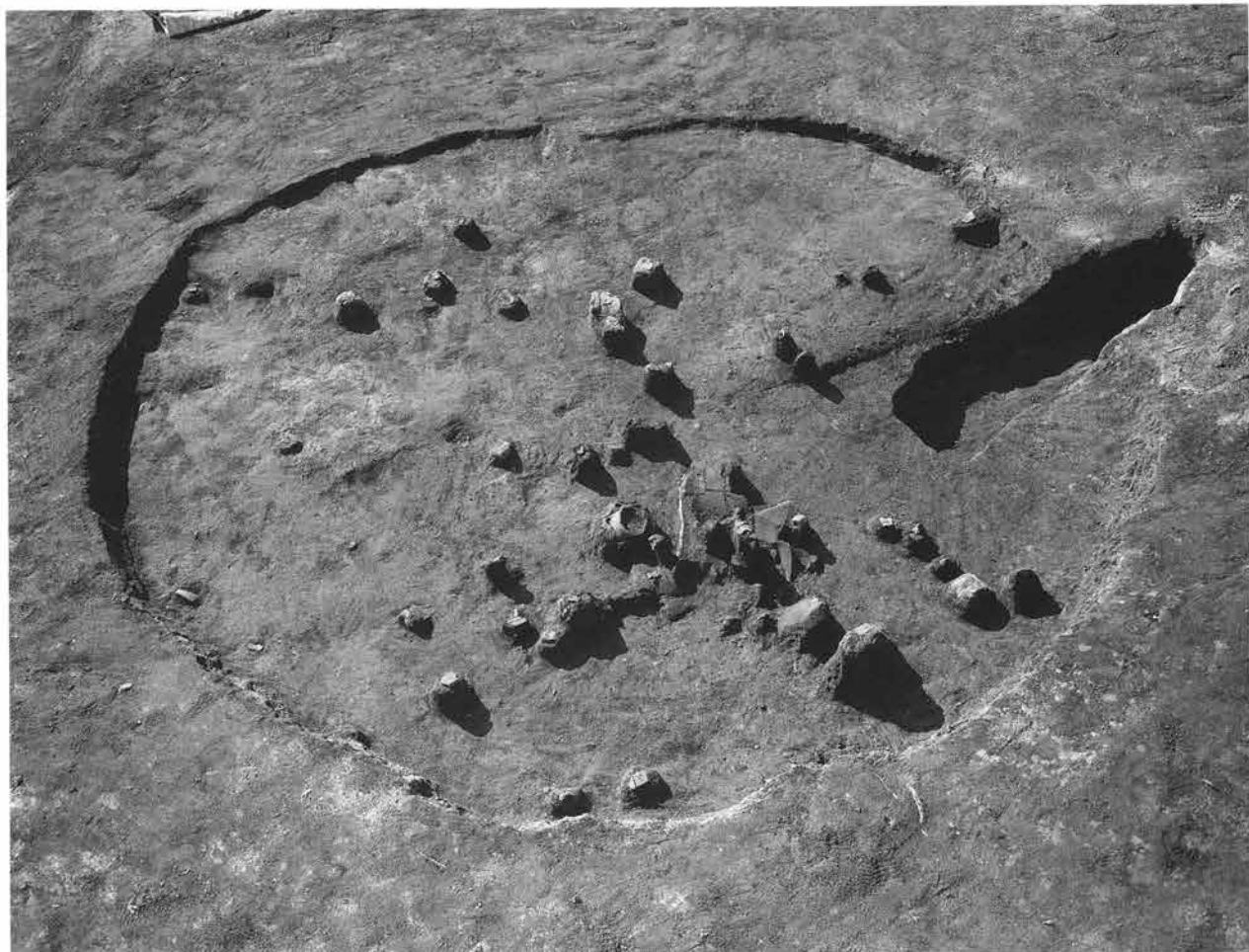
4号住 遺物



5号住居址



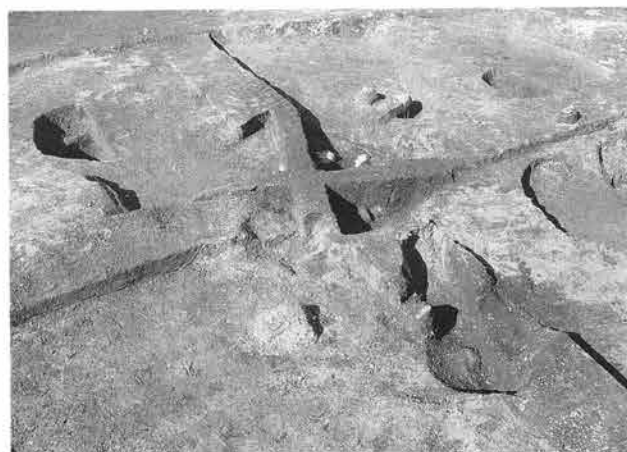
5号住



6号住居址 遺物出土状況



6号住 全景



6号住



6号住 遺物



6号住 遺物



7号住居址 全景



7号住 炉



7号住 炉



7・8・9号住 全景



7・8・9号住 遺物出土状況



8号住居址 遺物出土状況



8号住 全景



8号住 炉



8号住 遺物



8号住 遺物



9号住居址 全景



9号住 遺物



9号住 遺物



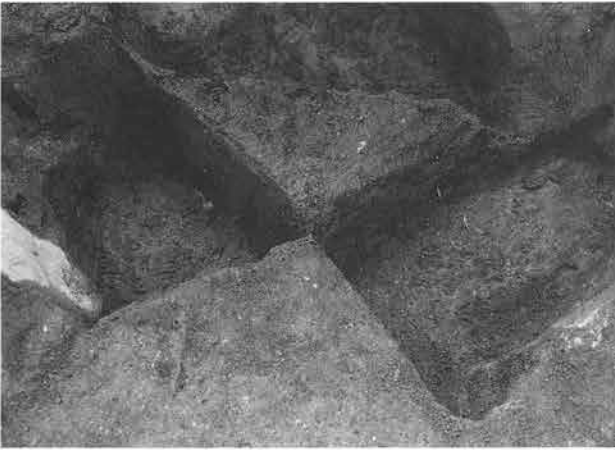
9号住 遺物



9号住 炉



10号住居址 全景



10号住 炉



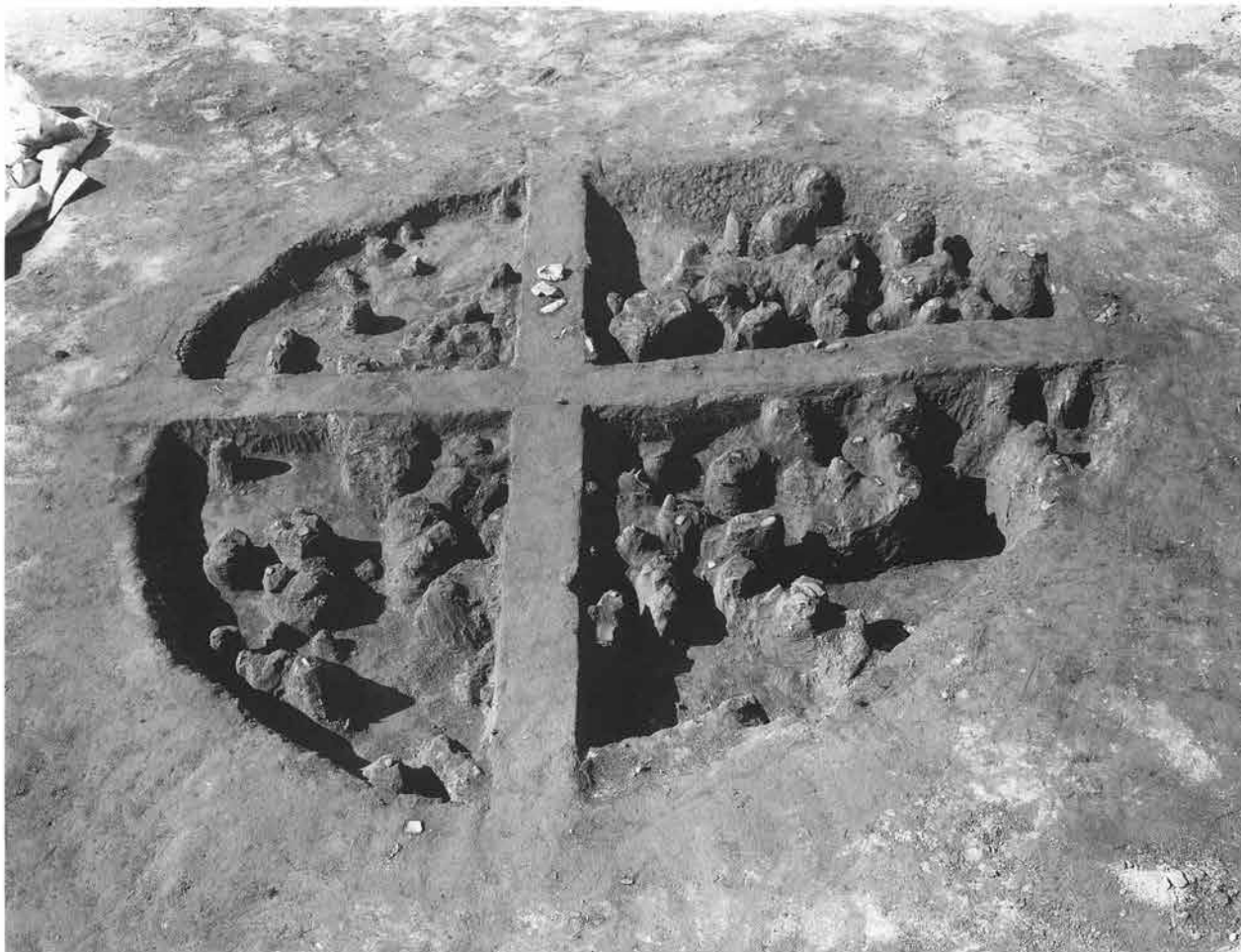
10号住 炉



I地区作業風景



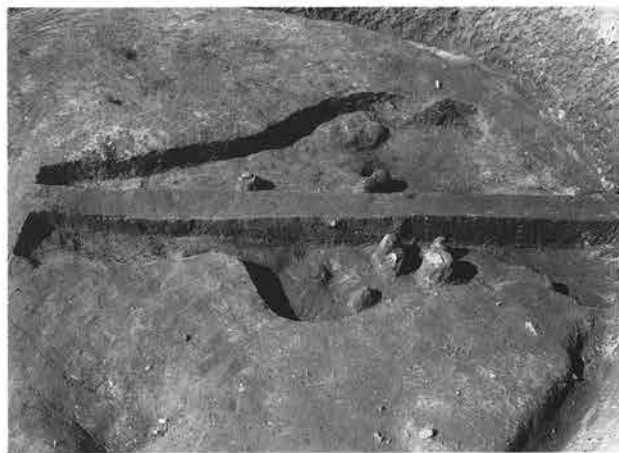
I地区作業風景



11号住居址 遺物出土状況



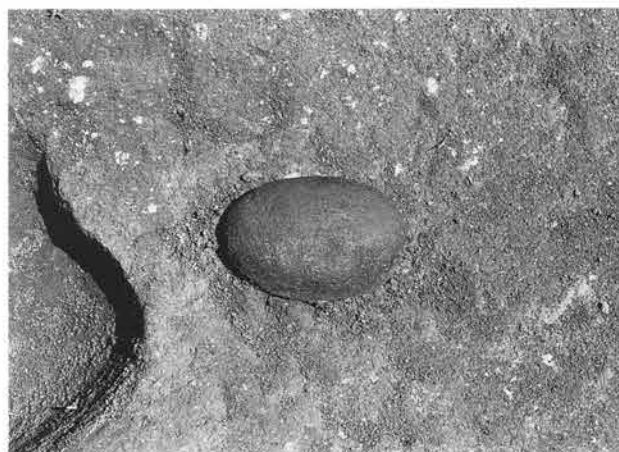
11号住 遺物



11号住 遺物



11号住 多孔石



11号住 遺物



12号住居址 全景



12号住 遺物出土状況



12号住 遺物出土状況



12号住 遺物出土状況



12号住 炉・埋甕



13・14号住居址 遺物出土状況



13号住 全景



13号住 炉



13号住 遺物



13号住 遺物



14号住居址 全景



14号住 遺物出土状況



14号住



14号住 遺物



14号住 炉



14号住 遺物



14号住 遺物



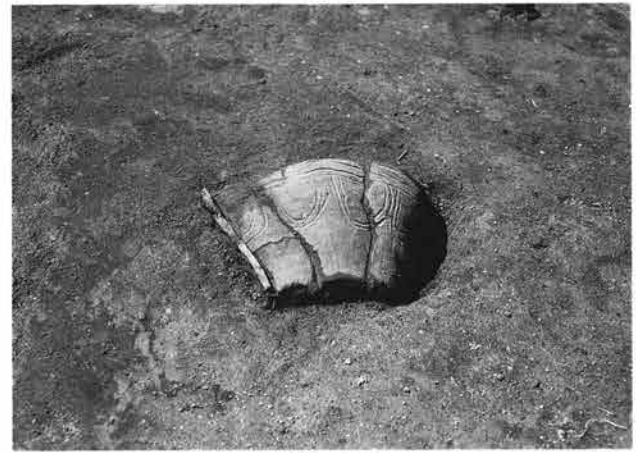
14号住 遺物



14号住 遺物



14号住 遺物



14号住 遺物



14号住 遺物



14号住 遺物



15号住居址 遺物出土状況



15号住 全景



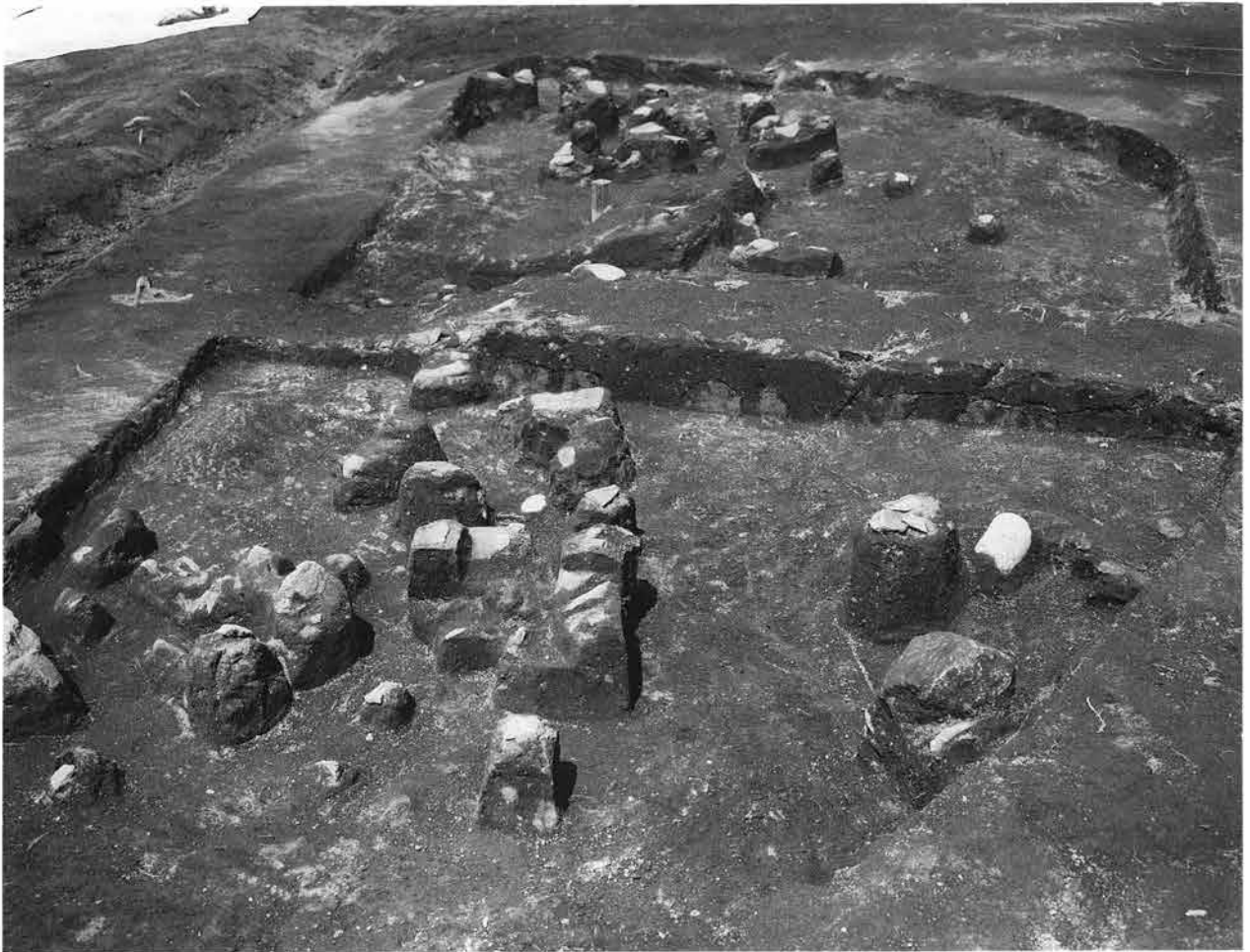
15号住 炉



15号住 炉



15号住 埋甕



16号住居址 遺物出土状況



16号住 全景



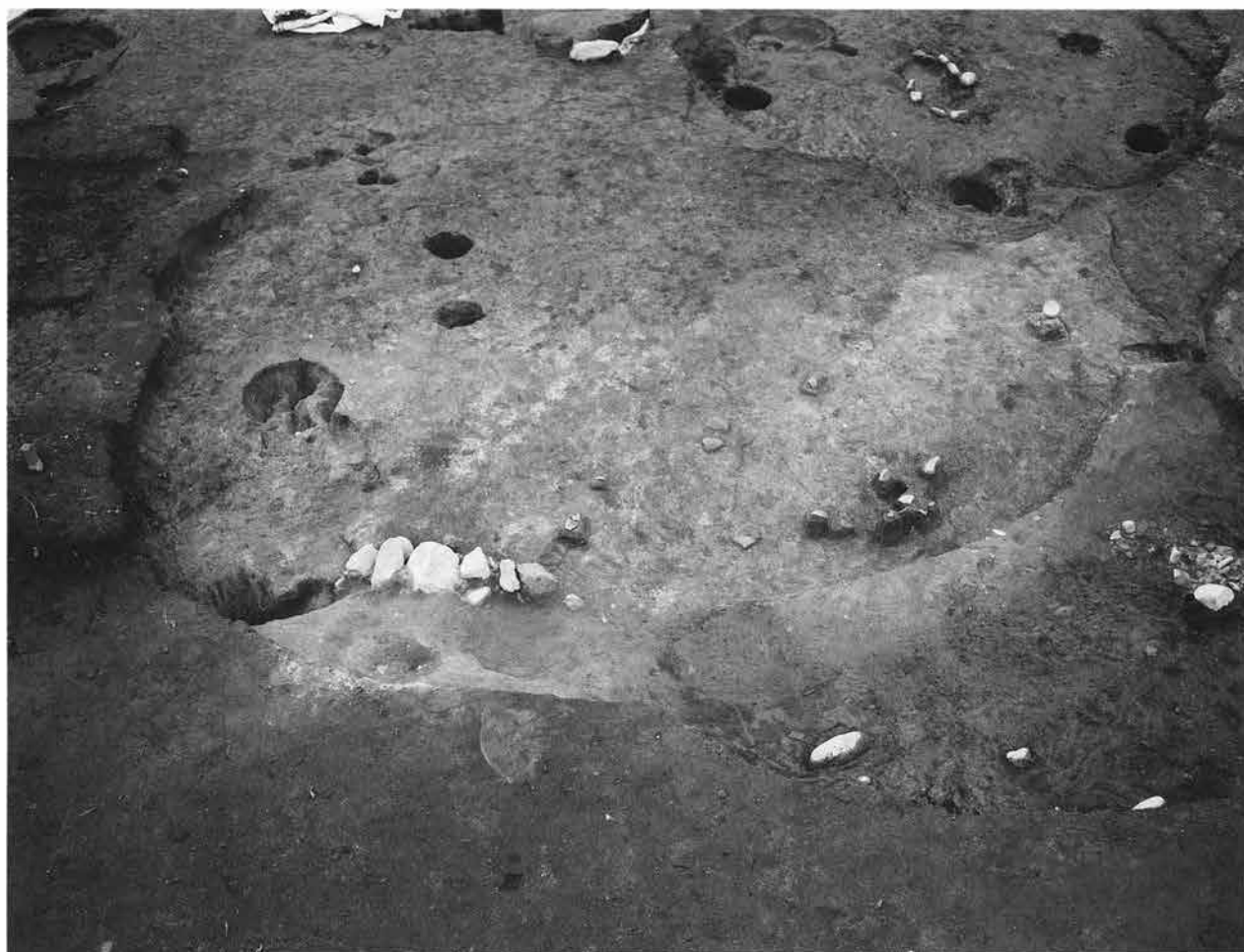
16号住 遺物



16号住 遺物



16号住 遺物



17号住居址 全景



17号住 遺物



17号住 遺物



17号住 遺物



17号住 遺物



18号住居址 全景



18号住 遺物出土状況



18号住 遺物



18号住 遺物



18号住 遺物



19号住居址 全景



19号住 遺物出土状況



19号住



21号住居址 全景



21号住 遺物



22号住居址 全景



22号住 遺物出土状況



22号住 遺物



22号住 遺物



22号住 遺物



23号住居址 遺物出土状況



23号住 炉



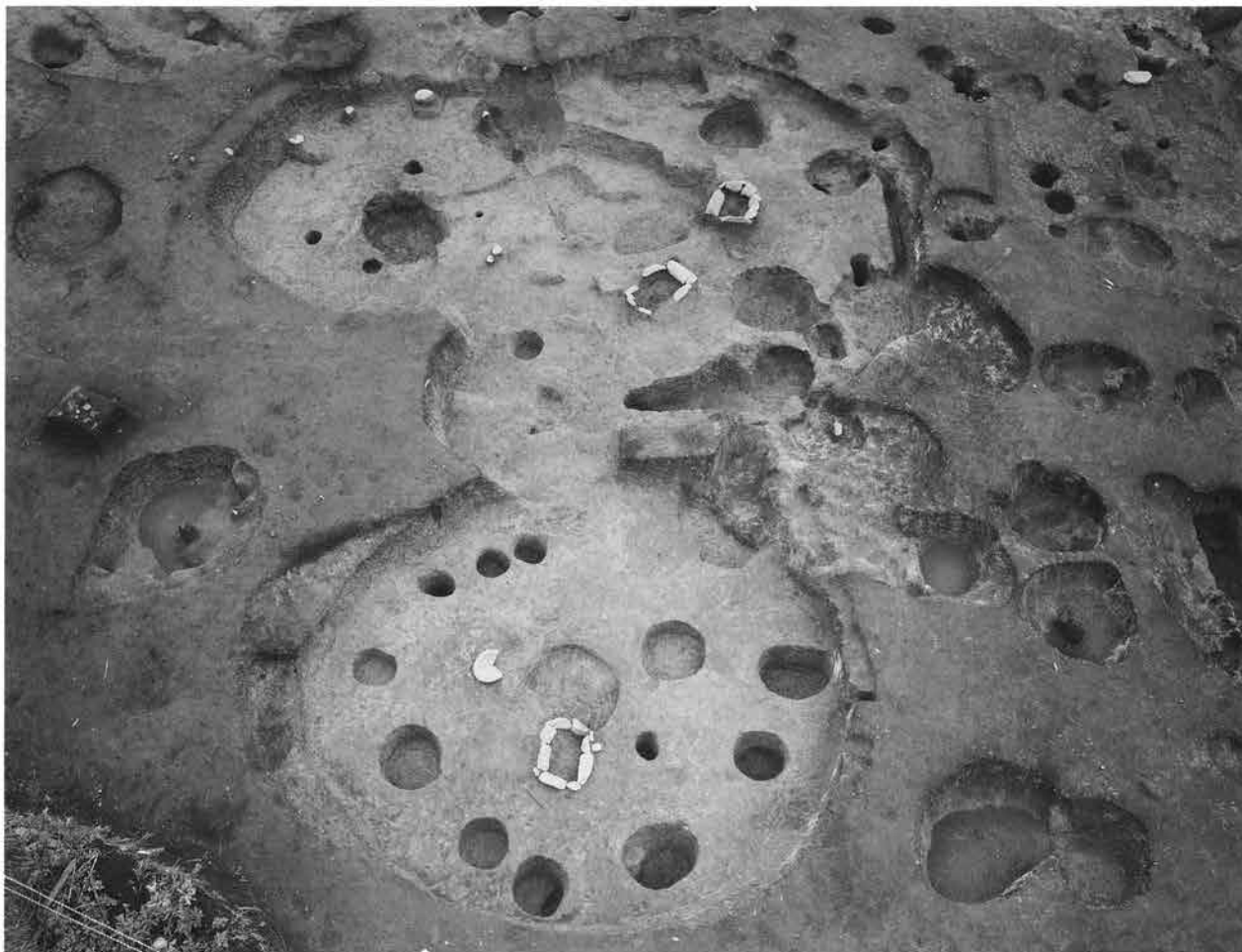
23号住 炉



20・23号住居址



20号住 遺物



15・25・26号住居址 全景



25号住 遺物出土状況



25号住 遺物出土状況



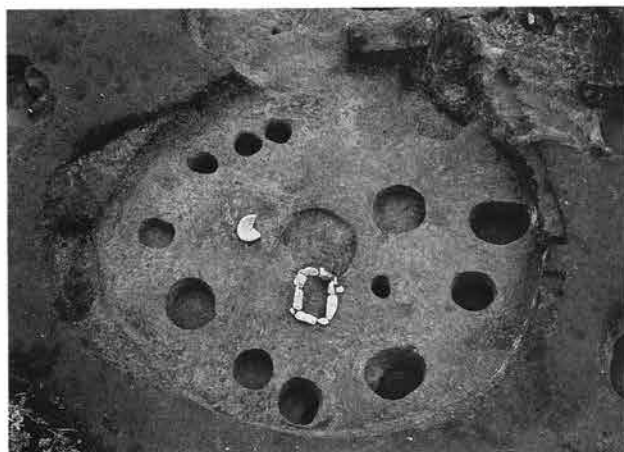
25号住 遺物



25号住 遺物



26号住居址 遺物出土状況



26号住 全景



26号住 炉



26号住 香炉形土器出土状況



26号住 香炉形土器



27号住居址 遺物出土状況



27号住 敷石



27号住 敷石



27号住 遺物



27号住 遺物



72号住居址 遺物出土状況



72号住 遺物



72号住 遺物



72・77号住 周辺全景



I地区調査風景



77号住居址 全景



77号住 遺物出土状況



77号住 炉



77号住 遺物



77号住 遺物



78号住居址 遺物出土状況



78号住 炉



94号住居址



136号住居址



136号住 炉



80号住居址 遺物出土状況



80号住 炉



80号住 炉・埋甕



80号住 遺物



80号住 遺物



1号土坑



2号土坑



3号土坑



5号土坑



6号土坑



6号土坑



7·8号土坑



7号土坑



8号土坑



9号土坑



10号土坑



11·12·13号土坑



10·11·12号土坑



13号土坑



14号土坑



9~16号土坑



15号土坑



16号土坑



16号土坑



17号土坑



19号土坑



19号土坑



21号土坑



22号土坑



23号土坑



24号土坑



26号土坑



27号土坑



28号土坑



29号土坑



30号土坑



31号土坑



32号土坑



33号土坑



34号土坑



35号土坑



35号土坑



36号土坑



36号土坑



37号土坑



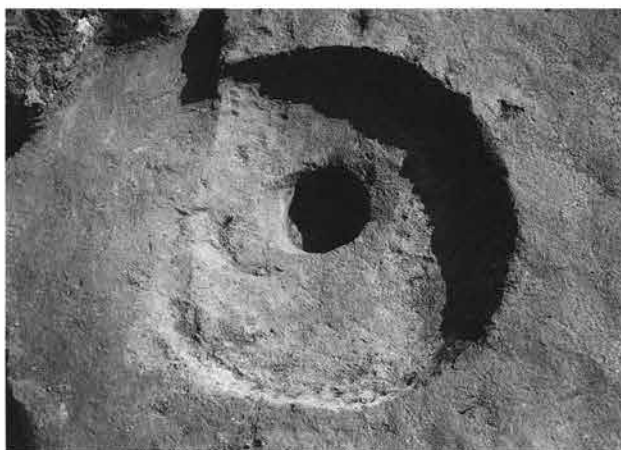
38号土坑



38号土坑



38号土坑



39号土坑



39号土坑



41号土坑



42号土坑



43号土坑



44号土坑



48号土坑



49号土坑



50号土坑



51号土坑



52号土坑



56号土坑



57号土坑



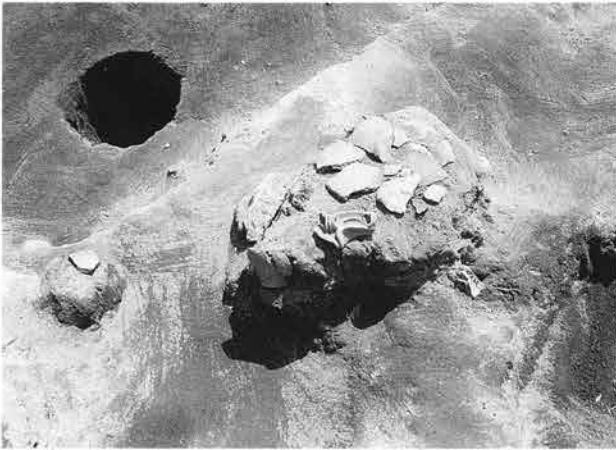
59号土坑



60号土坑



61号土坑



63号土坑



64号土坑



65号土坑



66号土坑



67号土坑



69号土坑



71号土坑



73号土坑



75号土坑



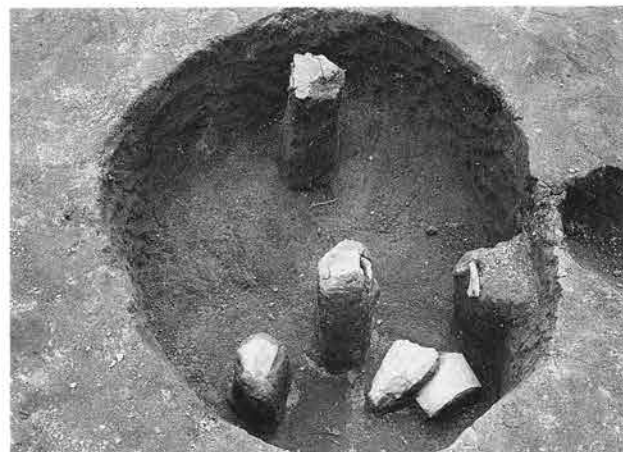
75号土坑



75号土坑



76号土坑



79号土坑



81号土坑



92号土坑



92号土坑



93号土坑



110号土坑



110号土坑



111号土坑



112号土坑



113号土坑



125号土坑



126号土坑



127号土坑



128号土坑



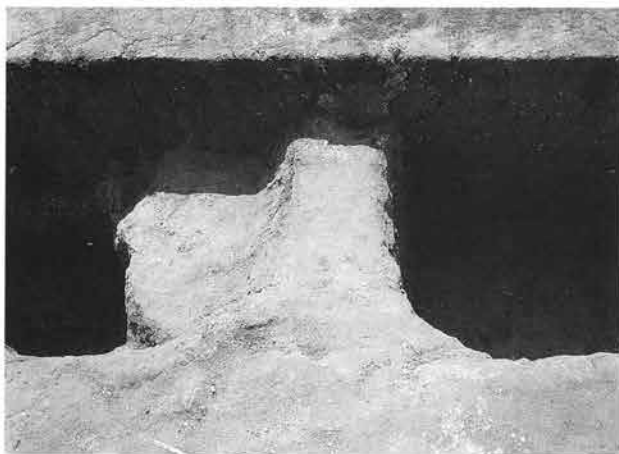
129号土坑



131号土坑



137号土坑



138·139号土坑



140号土坑



141号土坑



142号土坑



143号土坑



144号土坑



145号土坑



146号土坑



147号土坑



148号土坑



150号土坑



153号土坑



169号土坑



170号土坑



立石



立石



II地区全景



作業風景



1号住居址 全景



1号住 遺物出土状況



1号住 遺物出土状況



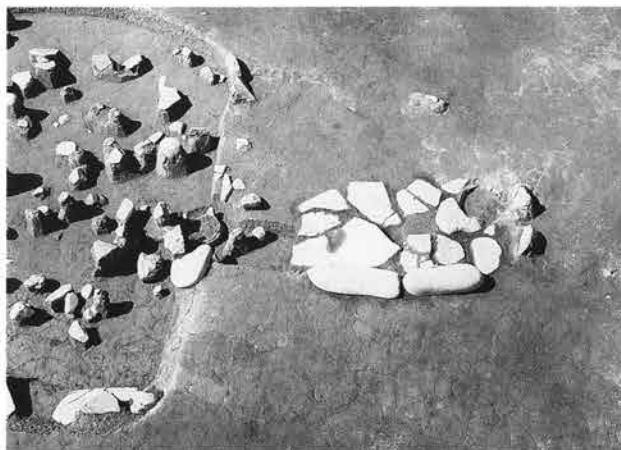
1号住 遺物出土状況



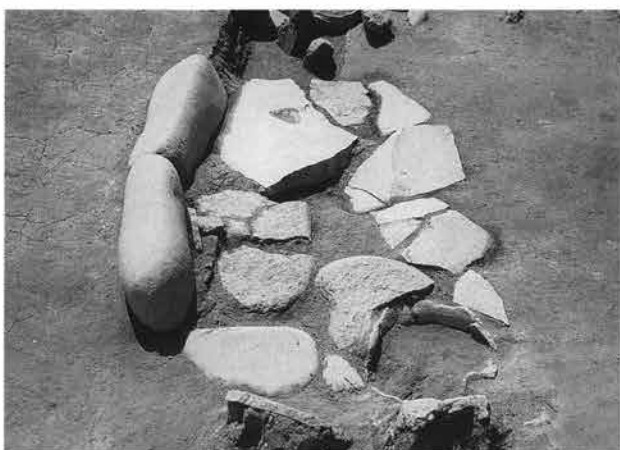
1号住 遺物出土状況



1号住 遺物出土状況



1号住 柄部全景



1号住 柄部



1号住 柄部埋襲



1号住 柄部埋襲



1号住 炉



1号住 連結部埋襲



1号住 連結部埋襲



2号住居址 全景



2号住 炉



5号住居址 全景



5号住 遺物



7号住居址 全景



7号住 炉



8号住居址 全景



8号住 敷石



6号住居址 遺物出土状況



6号住 全景



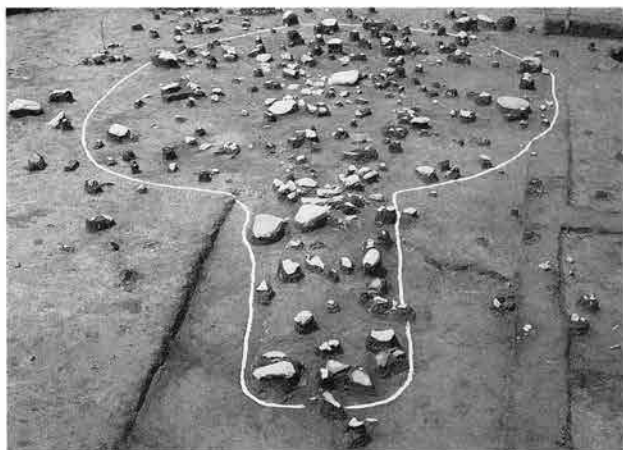
6号住 遺物



6号住 内土坑



6号住 内土坑



9号住居址 全景



9号住 炉



9号住 炉



9号住 内土坑



11号住居址 全景



11号住



11号住 炉



11号住 遺物



10号住居址 遺物出土状況



10号住 敷石



10号住 炉



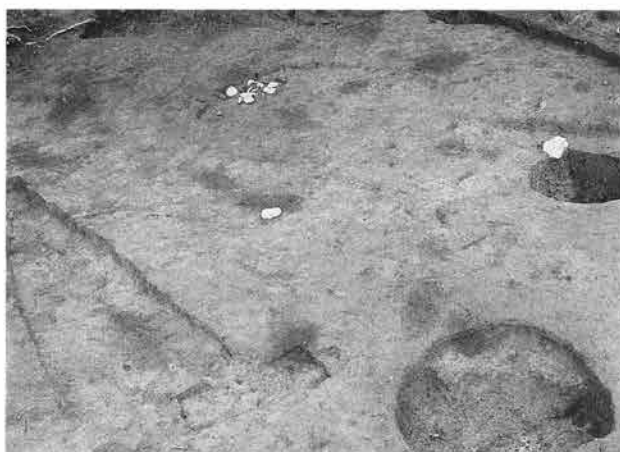
10号住 埋甕



10号住 埋甕



12号住居址 遺物出土状況



12号住 全景



12号住 炉



12号住 埋甕



12・13・15号住居址



13号住居址 遺物出土状況



13号住 全景



13号住 埋甕



13号住 埋甕



13号住 埋甕



15号住居址 全景



15号住 炉



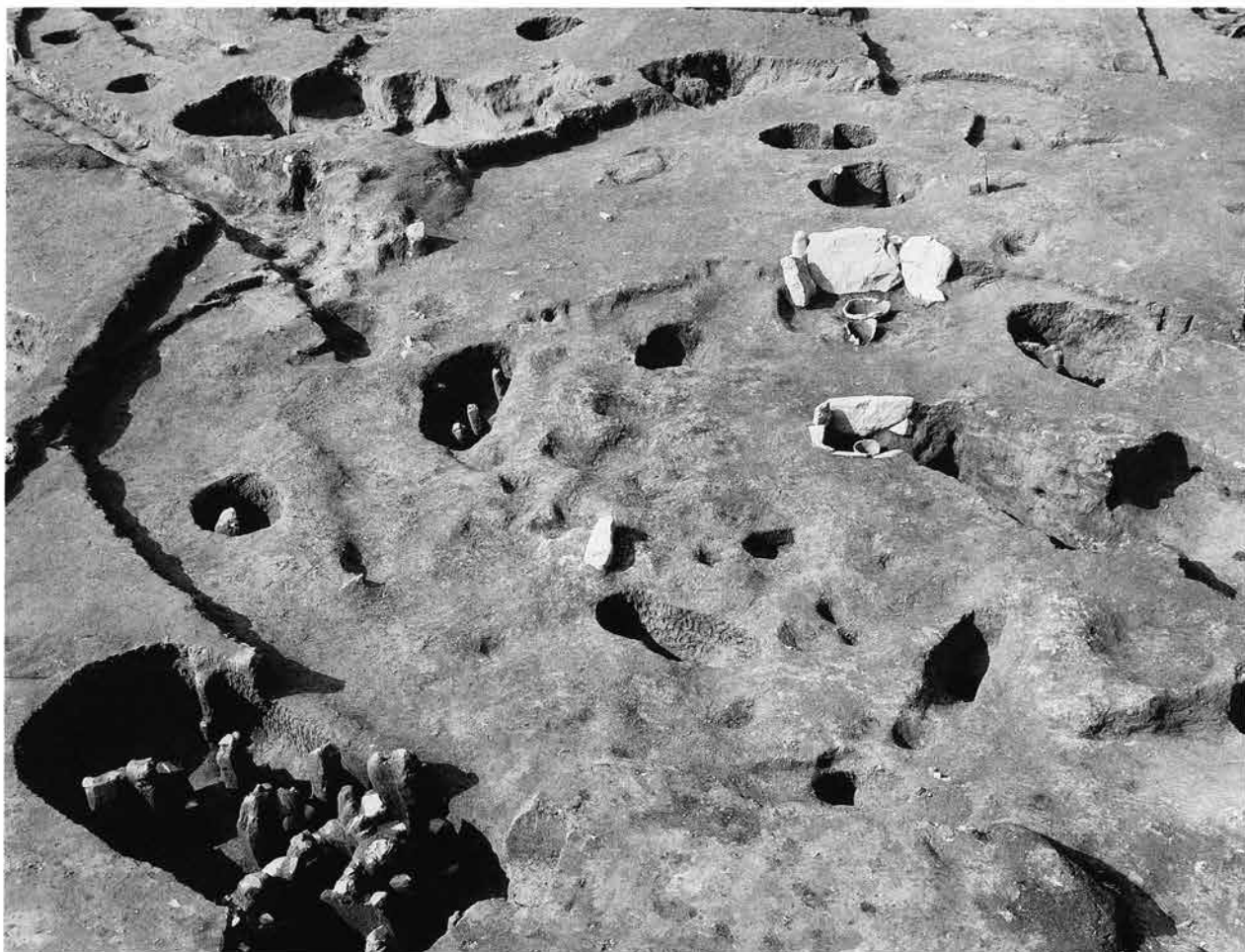
15号住 炉



13・15号住 遺物出土状況



13・15号住 遺物出土状況



14・20号住居址 全景



14号住 遺物出土状況



20号住 全景



14・20号住 炉



14号住 埋甕



16号住居址 遺物出土状況



9・16号住 遺物出土状況



16号住 炉



16号住 炉・埋甕



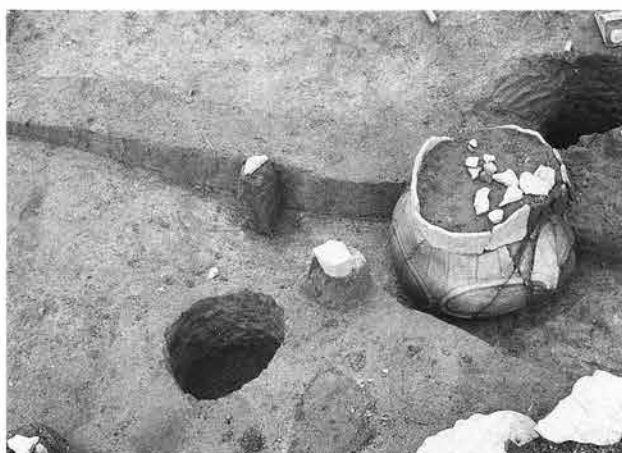
16号住 埋甕



17号住居址 全景



17号住 遺物出土状況



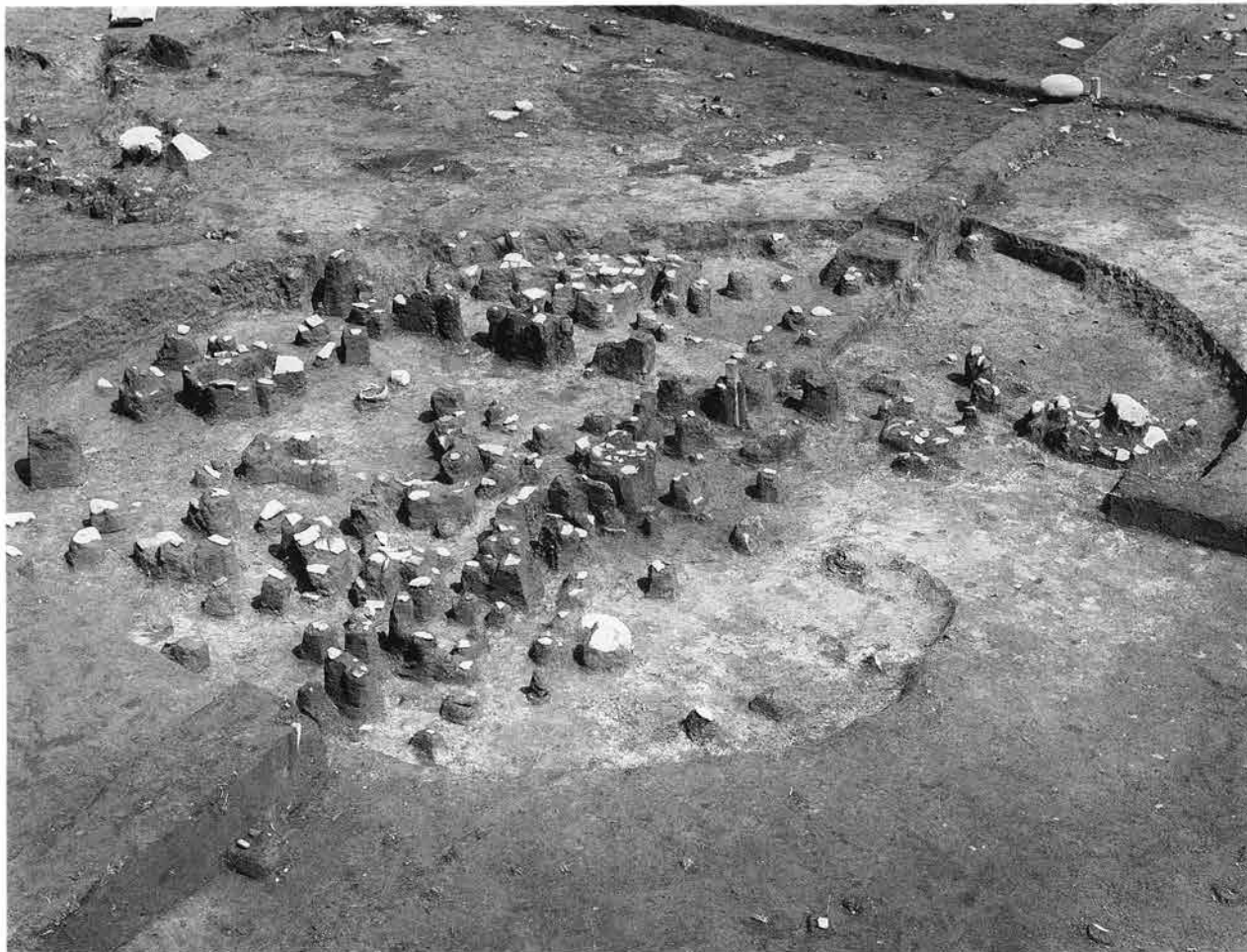
17号住 埋喪



17号住 埋喪



17号住 遺物



18号住居址 遺物出土状況



18号住 全景



18号住 全景



18号住 炉



18号住 集石



19号住居址 遺物出土状況



19号住 全景



19号住 炉



19号住 炉・埋甕



19号住 埋甕



21号住居址 全景



21号住 遺物出土状況



21号住 炉



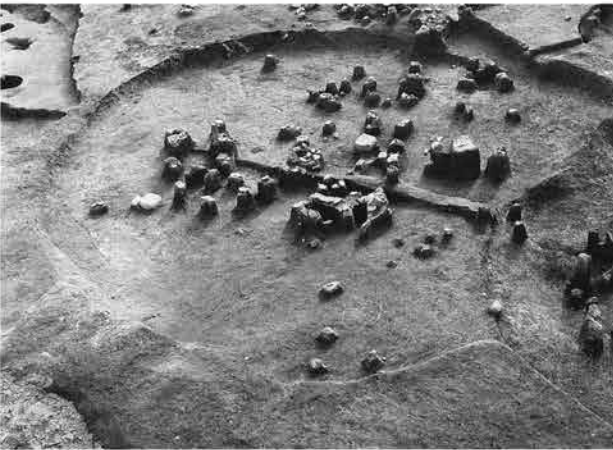
21号住 炉



21号住 炉



22号住居址 全景



22号住 遺物出土状況



22号住 たたき石と凹石



22号住 遺物出土状況



22号住 遺物出土状況



23号住居址 全景



23号住 遺物出土状況



23号住 炉



23号住 多孔石



23号住 多孔石



22・24号住居址 遺物出土状況



24号住 全景



24号住 炉



24号住 遺物



24号住 遺物



25号住居址 遺物出土状況



25号住 全景



25号住 遺物出土状況



25号住 遺物出土状況



25号住 遺物



26・27・29号住居址 全景



26号住 遺物出土状況



26号住 遺物出土状況



26号住 炉



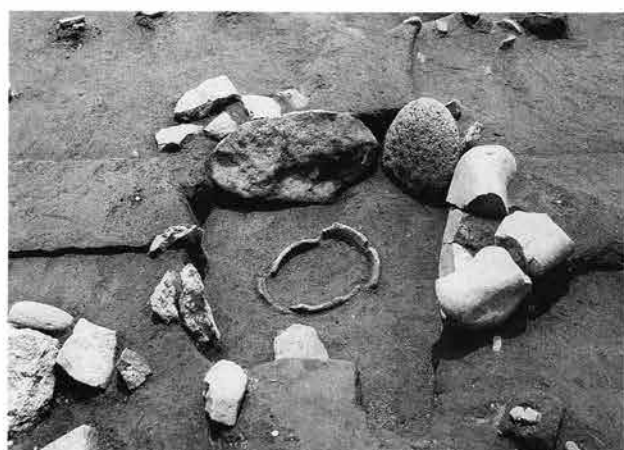
26号住 埋甕



27号住居址 遺物出土状況



27号住 遺物出土状況



27号住 炉



27号住 炉



29号住居址 遺物出土状況



29号住 炉



29号住 遺物



29号住 遺物



28号住居址 遺物出土状況



28号住 全景



28号住 炉



28号住 炉



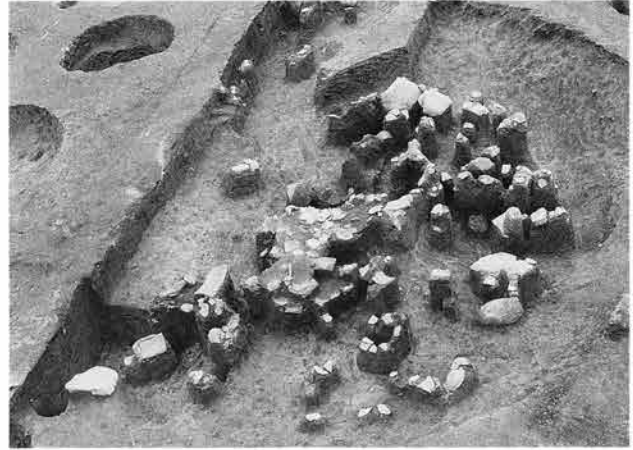
28号住 炉・埋甕



30号住居址 全景



30号住 遺物出土状況



30号住 遺物出土状況



30号住 炉



II地区調査風景



31号住居址 全景



31号住 炉



32号住居址 遺物出土状況



34号住居址 全景



34号住 炉



35号住居址 遺物出土状況



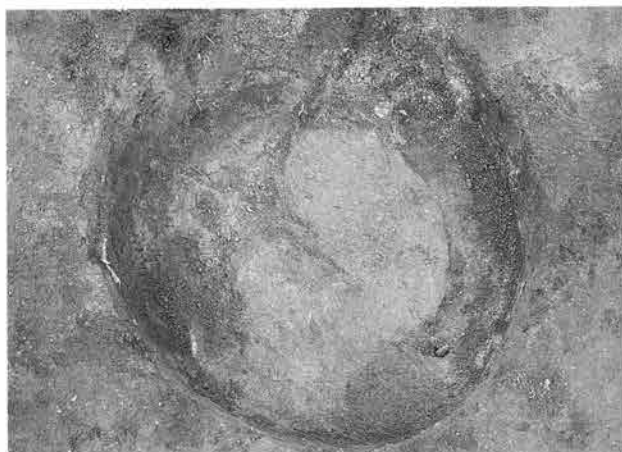
36号住居址 遺物出土状況



36号住 炉



1号土坑



2号土坑



3号土坑



4号土坑



5号土坑



7号土坑



8号土坑



9号土坑



10号土坑



11号土坑



12号土坑



16号土坑



17号土坑



18号土坑



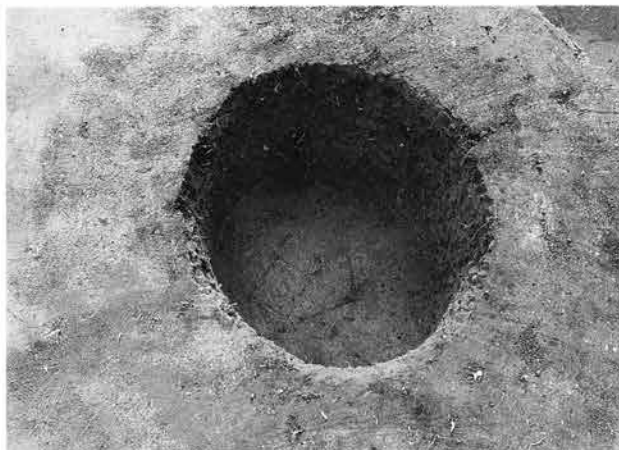
20号土坑



22号土坑



23号土坑



24号土坑



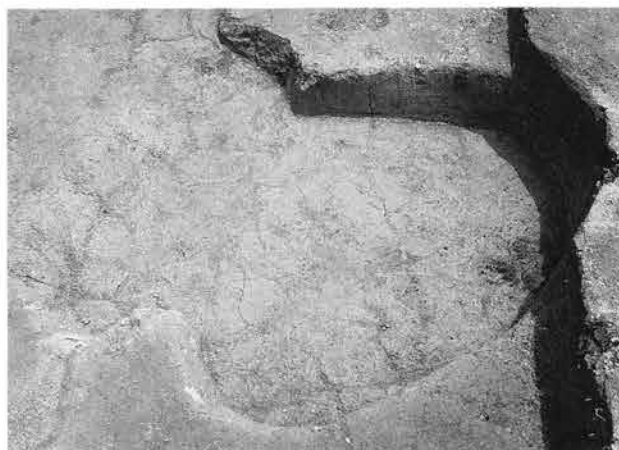
25号土坑



28号土坑



29号土坑



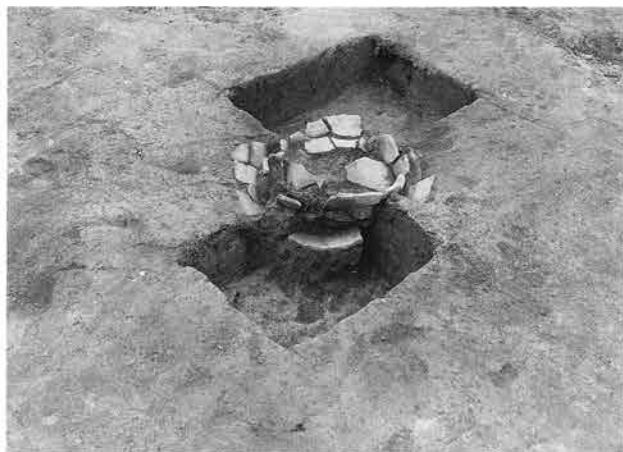
30·31号土坑



32号土坑



33号土坑



34号土坑



35号土坑



36号土坑



37号土坑



38号土坑



39号土坑



40·41号土坑



42号土坑



43号土坑



44号土坑



45号土坑



46号土坑



47号土坑



48号土坑



49号土坑



50号土坑



51号土坑



52号土坑



55号土坑



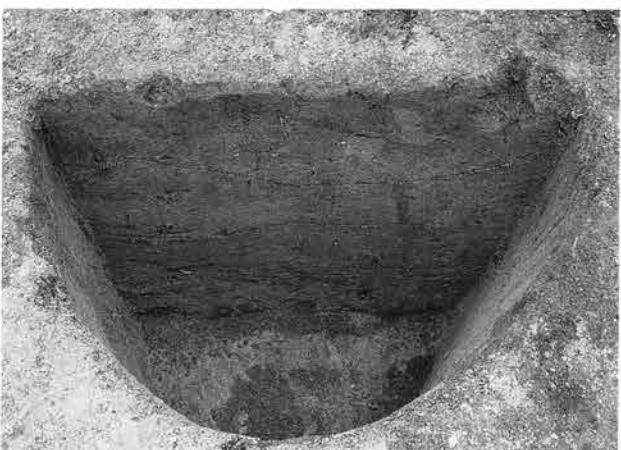
56号土坑



57号土坑



58号土坑



59号土坑



60号土坑



64号土坑



65号土坑



68号土坑



68号土坑



69号土坑



69号土坑



70号土坑



71号土坑



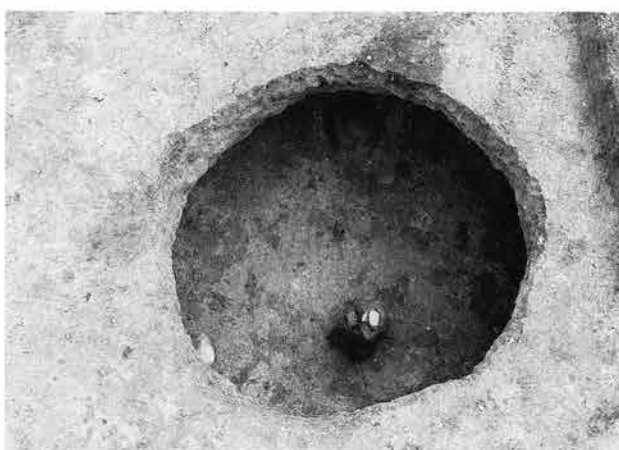
72号土坑



73号土坑



74号土坑



75号土坑



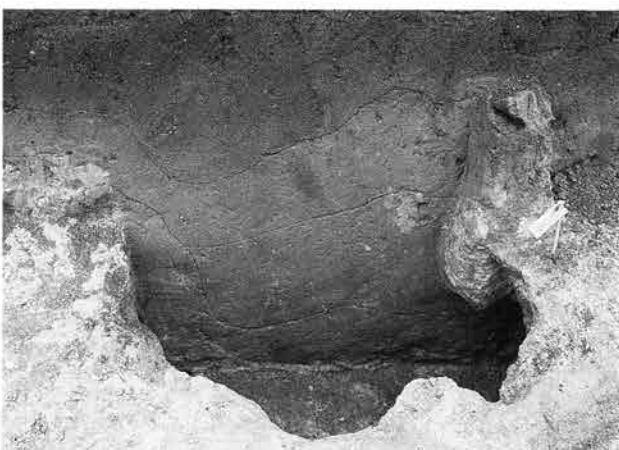
76号土坑



77号土坑



78号土坑



79号土坑



80号土坑



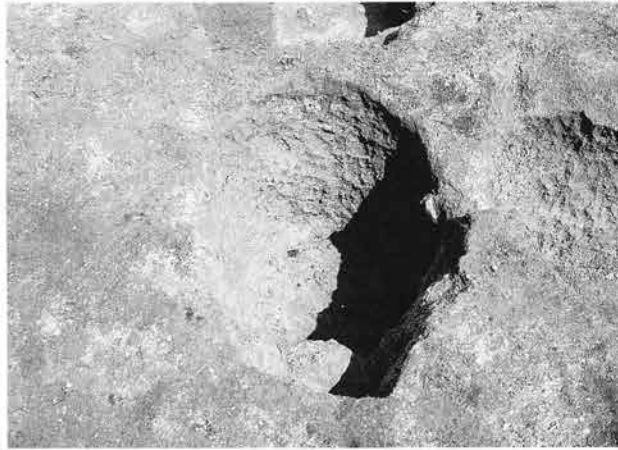
81号土坑



83号土坑



84号土坑



85号土坑



86号土坑



87号土坑



88号土坑



89号土坑



90号土坑



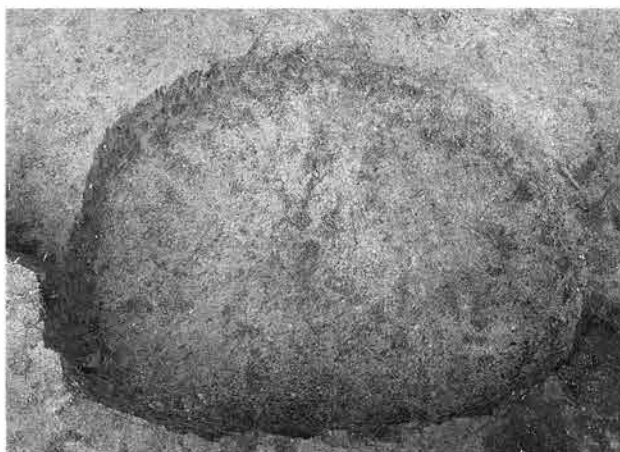
92号土坑



93号土坑



94号土坑



95号土坑



96号土坑



97号土坑



98号土坑



99号土坑



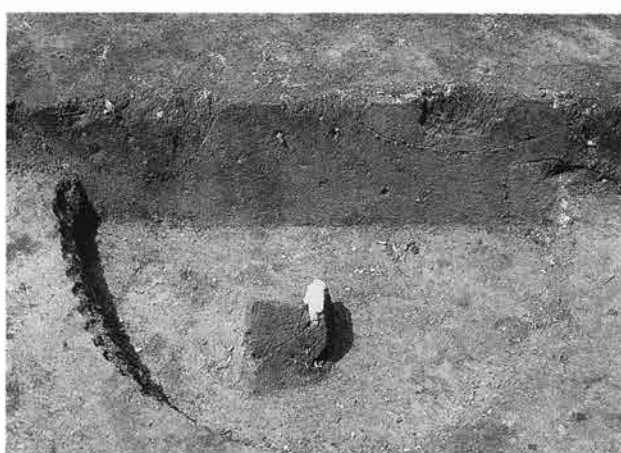
100号土坑



100号土坑



101号土坑



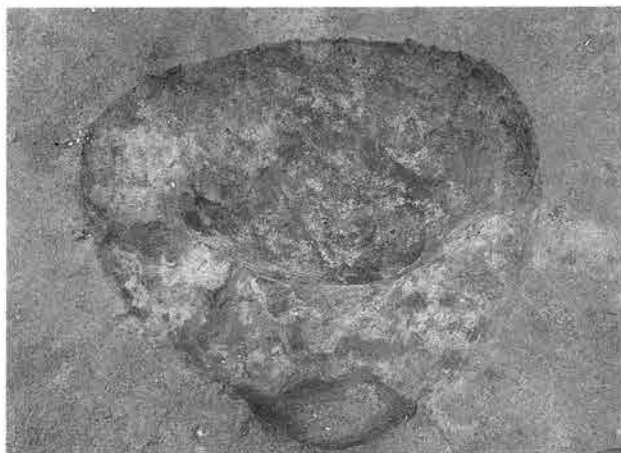
101号土坑



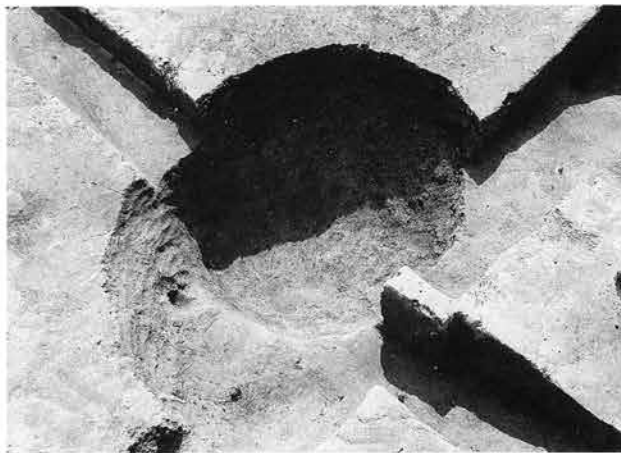
104号土坑



105号土坑



106号土坑



107号土坑



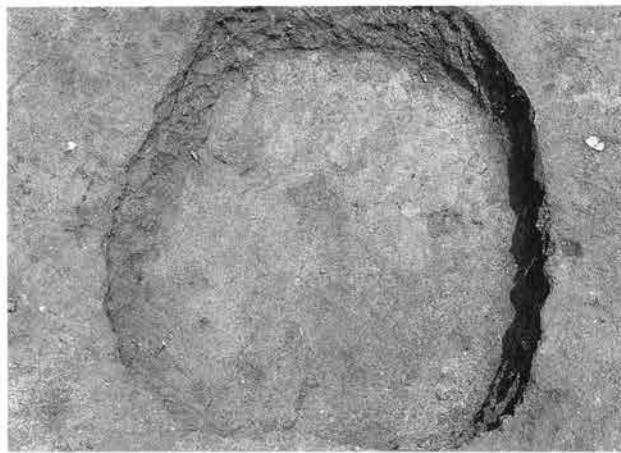
108号土坑



109号土坑



111号土坑



112号土坑



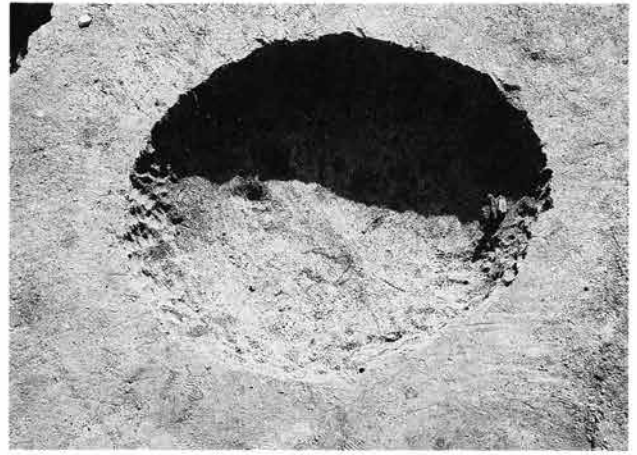
113号土坑



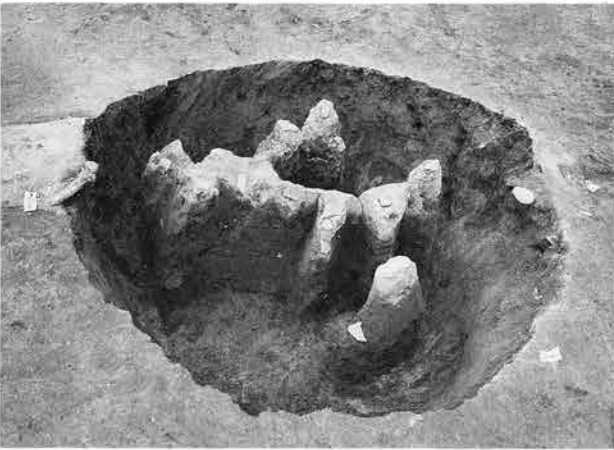
114·115号土坑



116号土坑



117号土坑



118号土坑



119号土坑



120号土坑



121号土坑



122号土坑



124号土坑



125号土坑



126号土坑



127号土坑



128号土坑



130号土坑



131号土坑



132号土坑



133号土坑



136号土坑



137号土坑



139号土坑



140号土坑



141·142号土坑



143号土坑



144号土坑



145号土坑



146号土坑



147号土坑



148号土坑



149号土坑



150号土坑



151号土坑



152号土坑



153号土坑



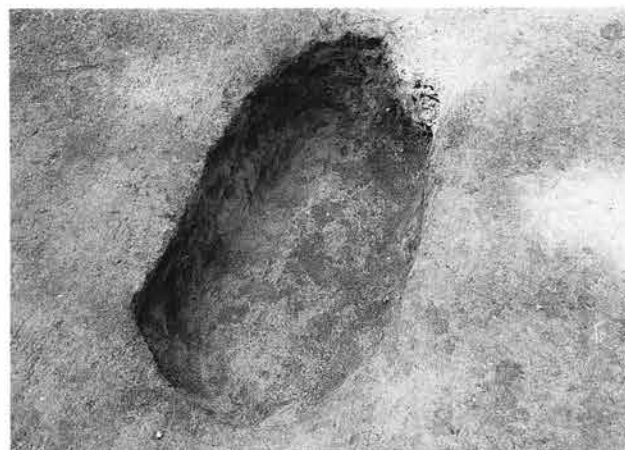
154号土坑



155号土坑



156号土坑



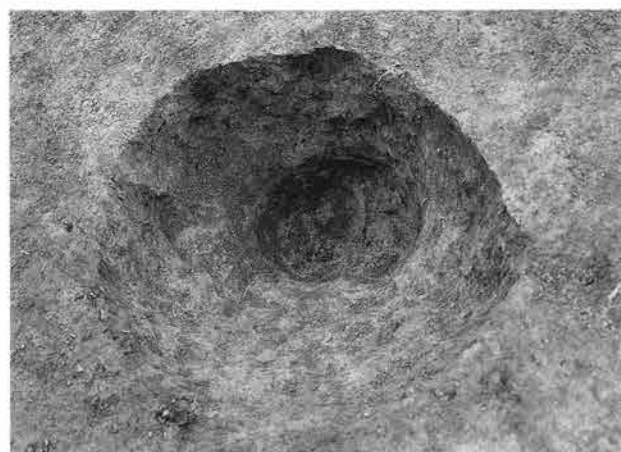
157号土坑



158号土坑



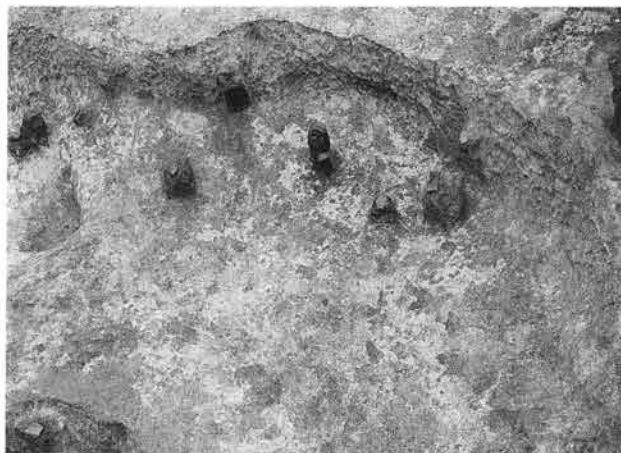
159号土坑



160号土坑



161号土坑



162号土坑



163号土坑



164号土坑



165号土坑



167号土坑



168号土坑



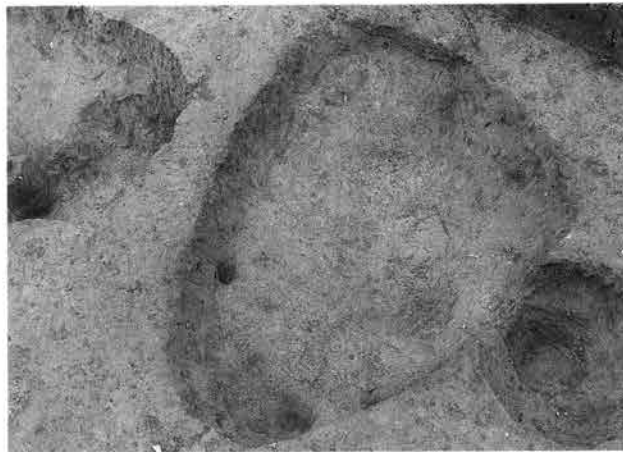
169号土坑



170号土坑



171号土坑



172号土坑



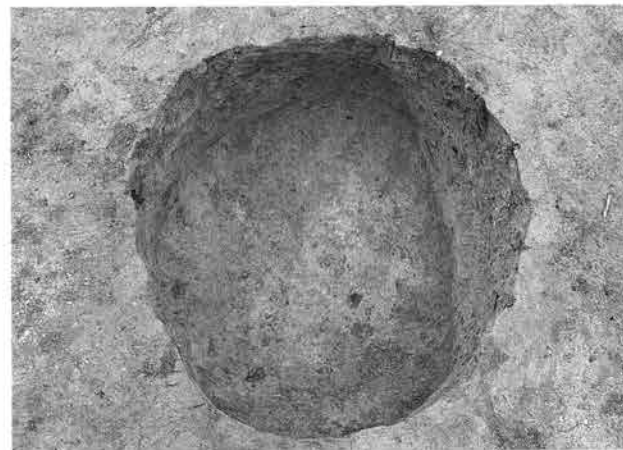
173号土坑



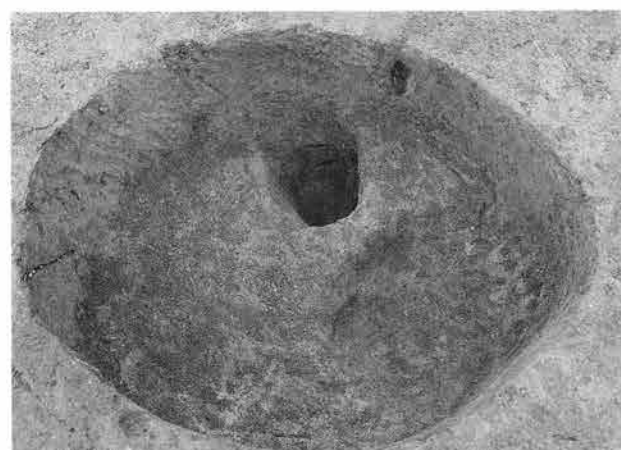
174号土坑



175号土坑



176号土坑



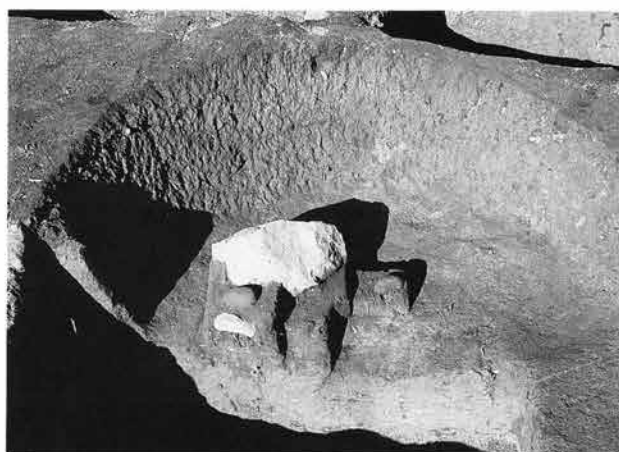
177号土坑



178号土坑



178·179号土坑



180号土坑



181号土坑



182号土坑



183号土坑



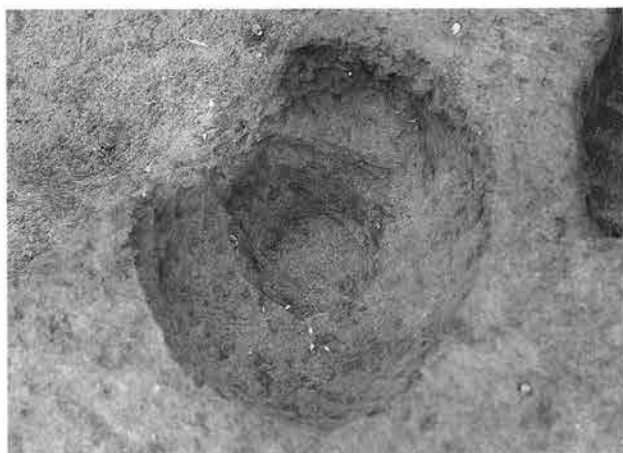
185号土坑



186号土坑



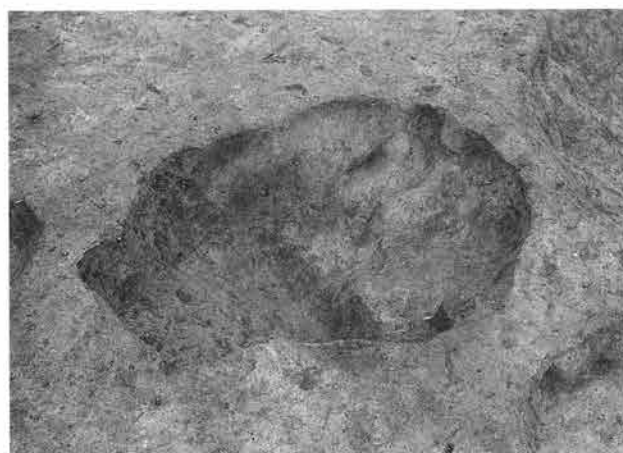
187号土坑



188号土坑



189·190号土坑



191号土坑



192号土坑



193号土坑



194号土坑



195·196号土坑



197·208号土坑



198号土坑



199号土坑



200号土坑



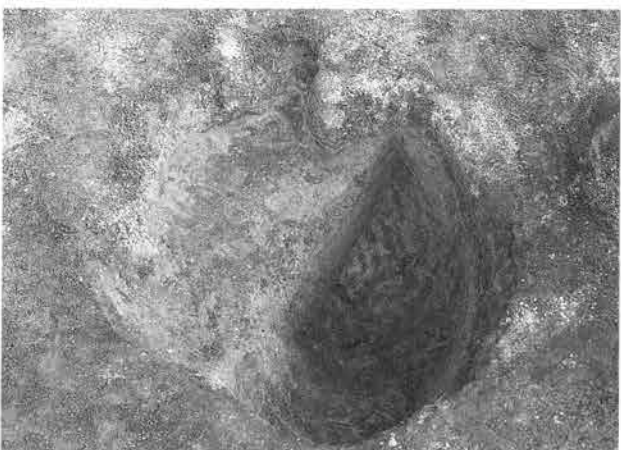
202·203号土坑



204号土坑



205号土坑



206号土坑



207号土坑



209号土坑



210号土坑



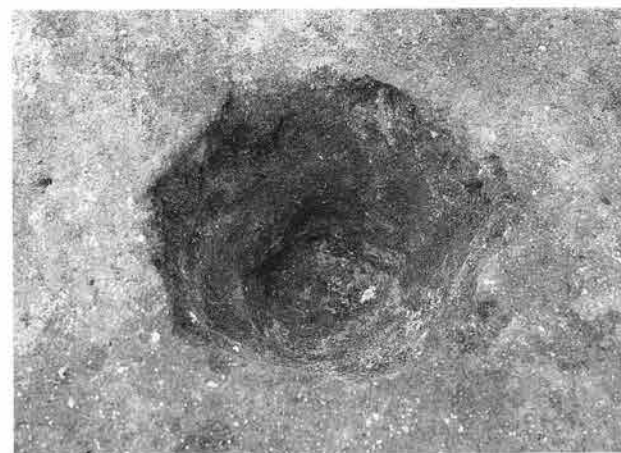
211号土坑



212号土坑



213号土坑



214号土坑



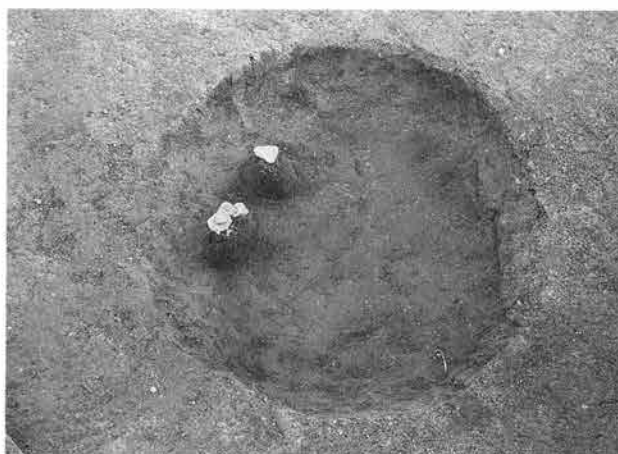
215号土坑



216号土坑



217号土坑



218号土坑



219号土坑



220号土坑



222号土坑



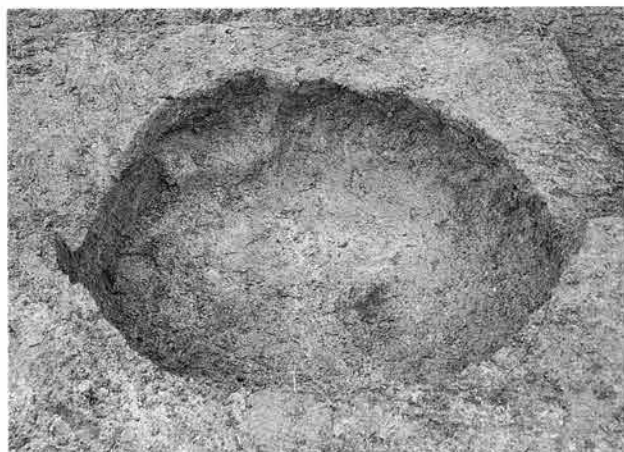
223号土坑



224号土坑



225号土坑



226号土坑



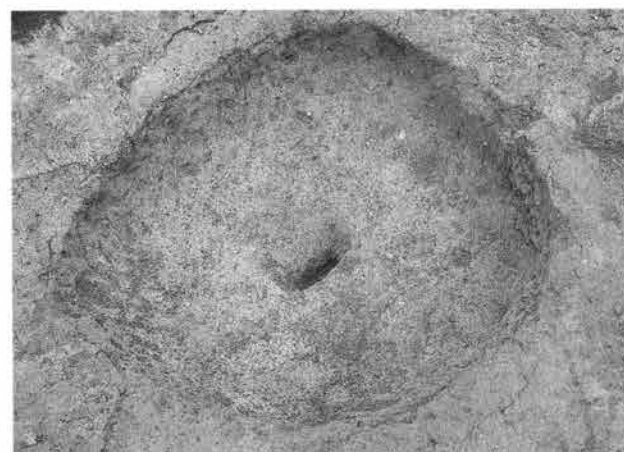
227号土坑



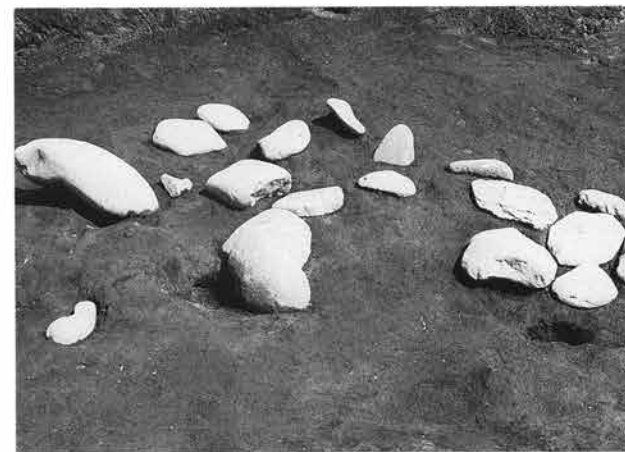
228号土坑



229号土坑



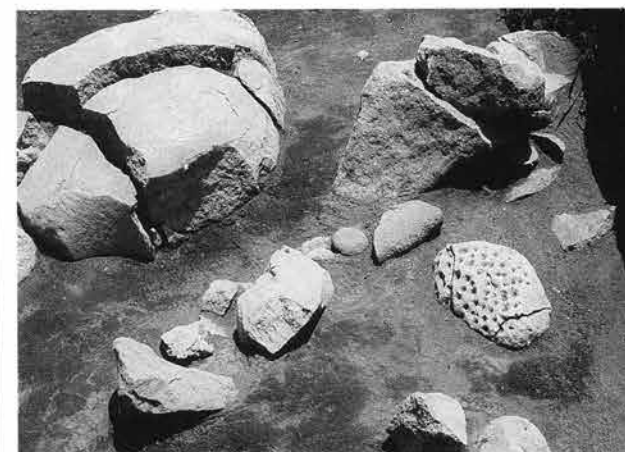
230号土坑



1号配石



2号石組列



2号石組列

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第204集

白川傘松遺跡 (遺構編) 北陸新幹線建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第4集

1996年3月25日 印刷

1996年3月25日 発行

編集／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会

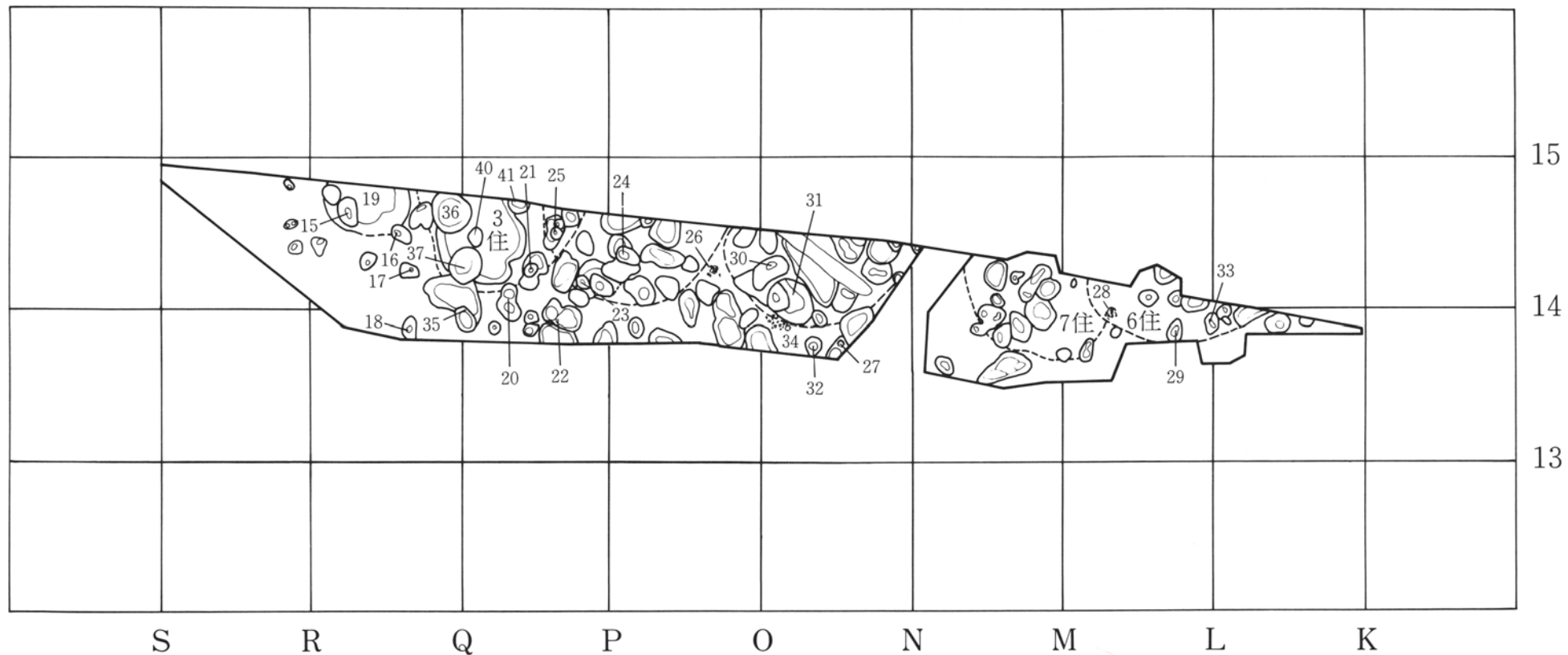
群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

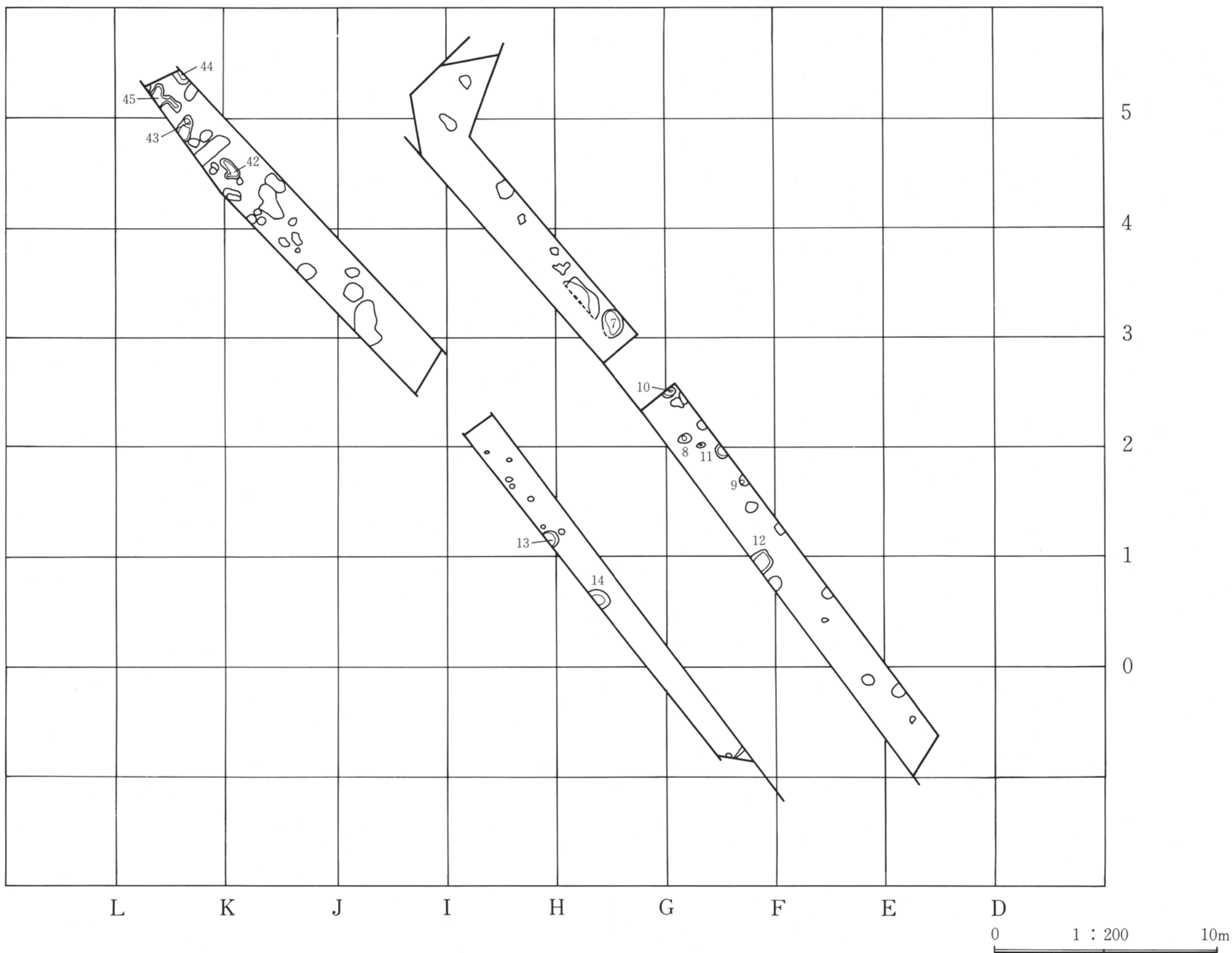
印刷／株式会社 前橋印刷所



北陸新幹線 白川傘松遺跡 付図3



町道拡幅遺構図

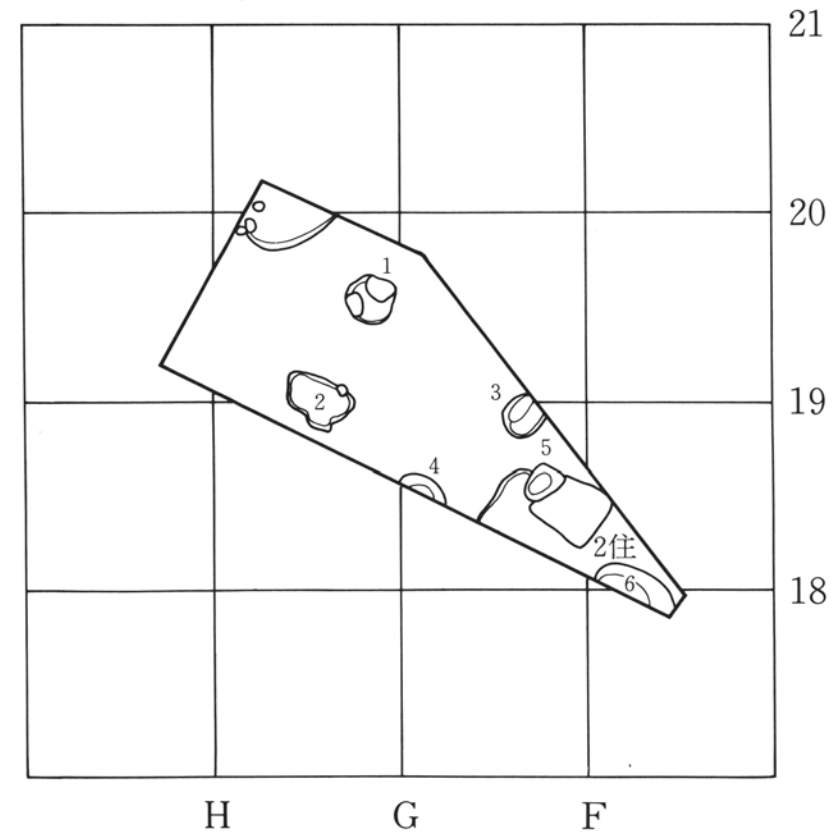
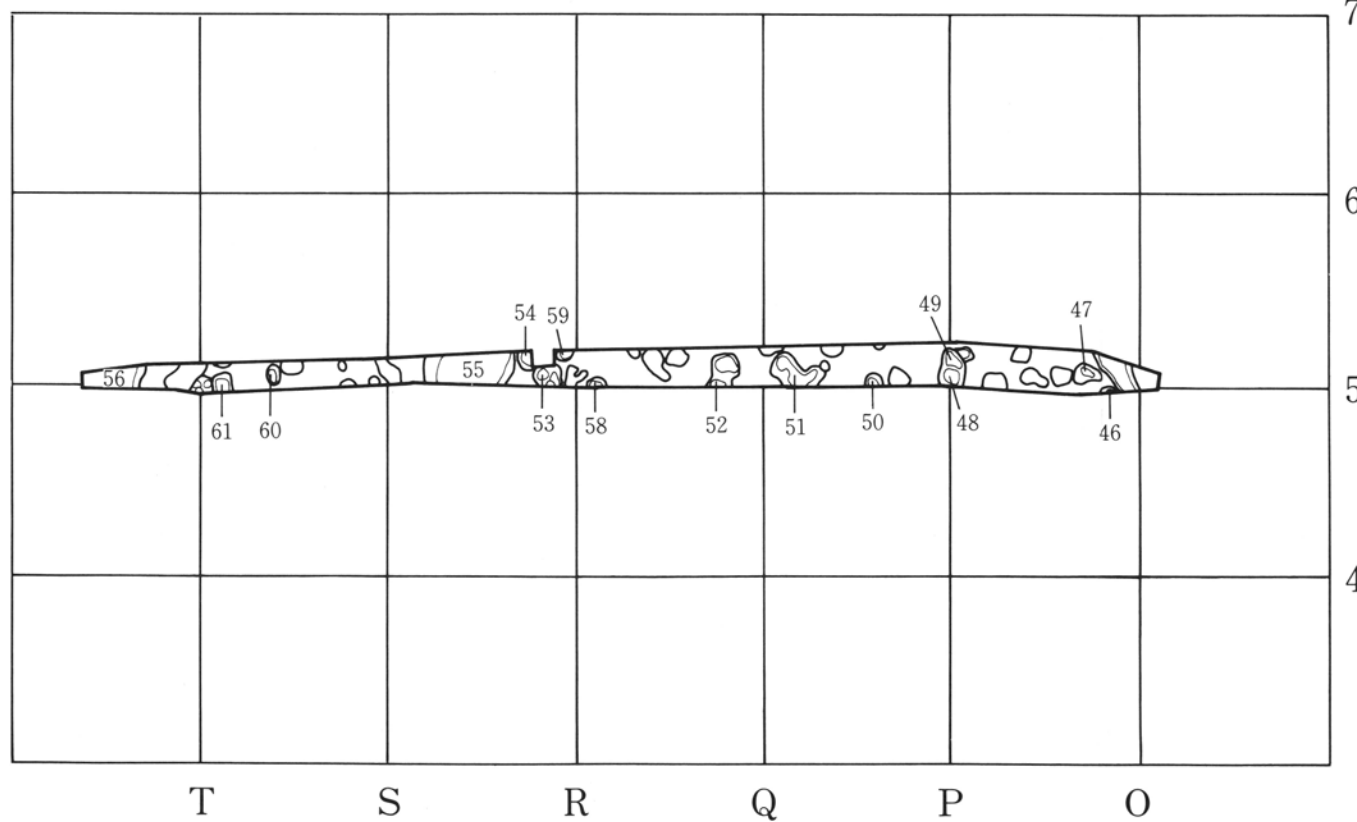


町道拡幅遺構図

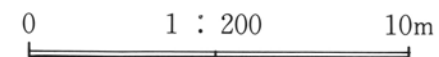
└→ 14区



北陸新幹線白川傘松遺跡 付図5



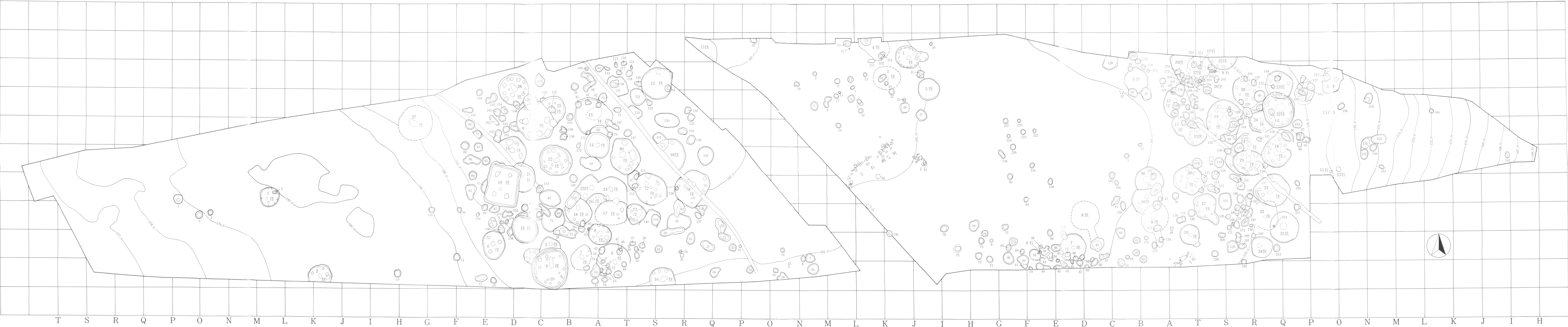
町道拡幅1-149



町道拡幅遺構図

15区 ←→ 14区

14区 ←→ 13区



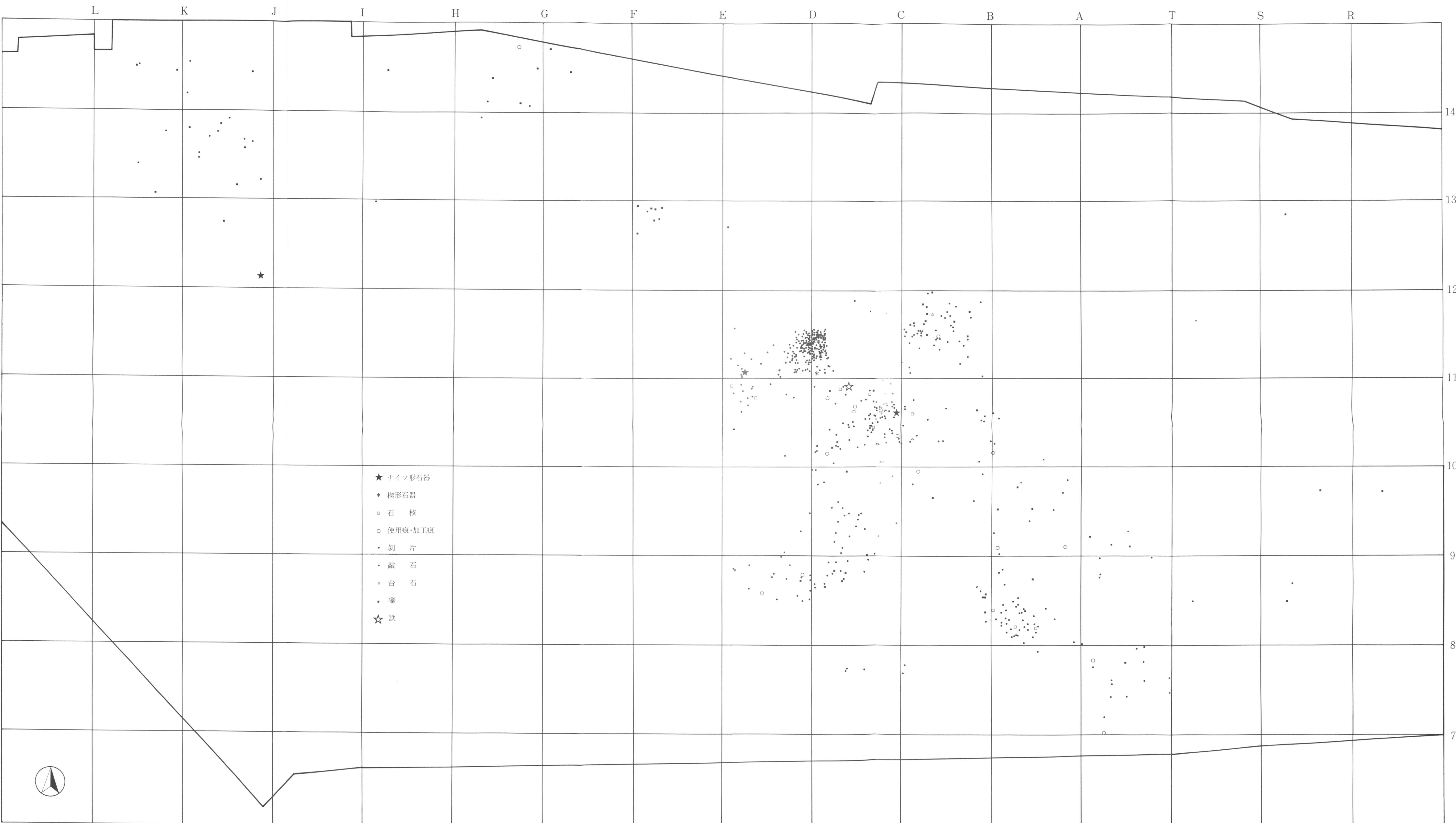
白川傘松遺跡遺構図





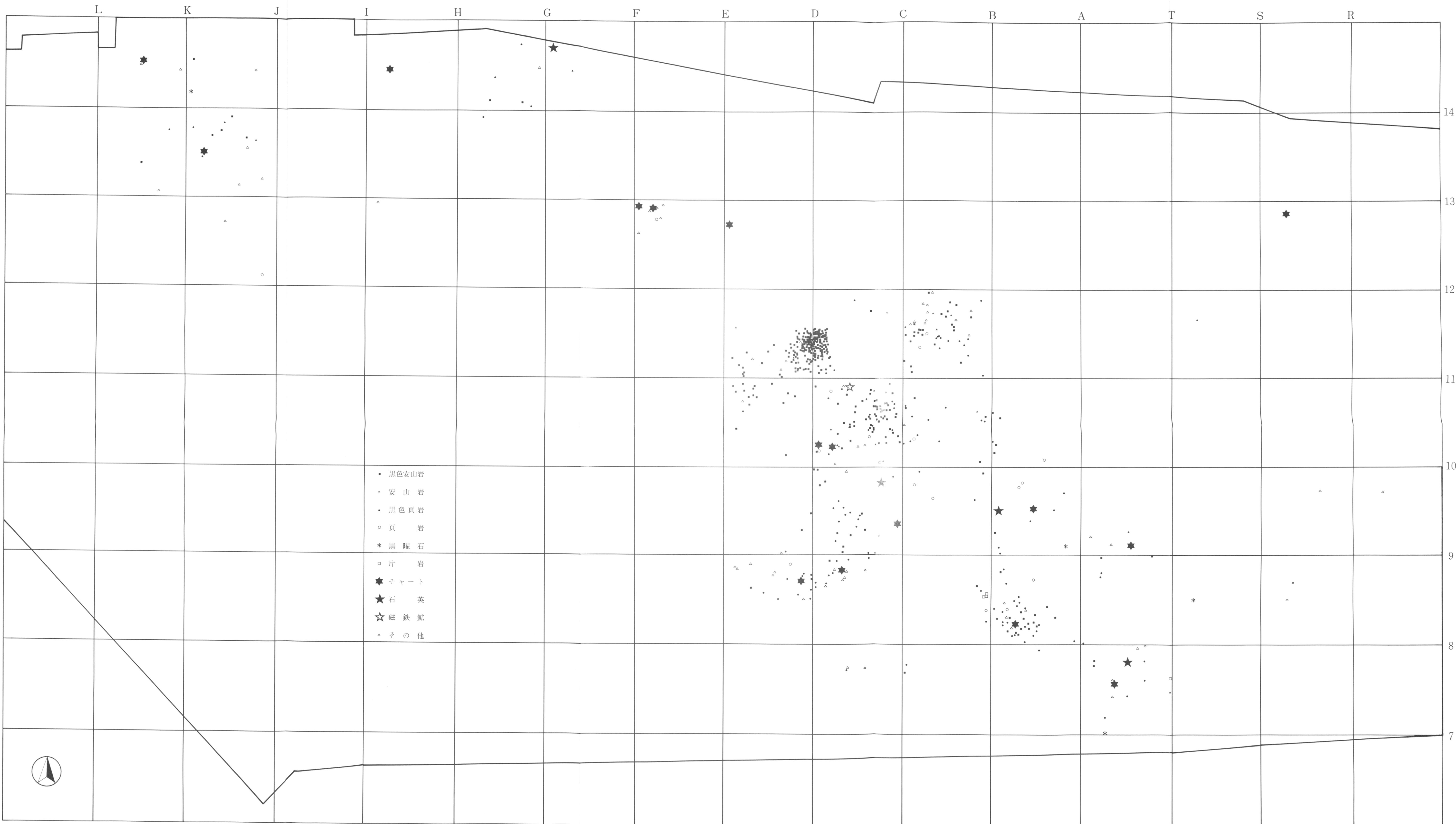
0 1 : 600 60m

遺跡調査区と周辺の地形



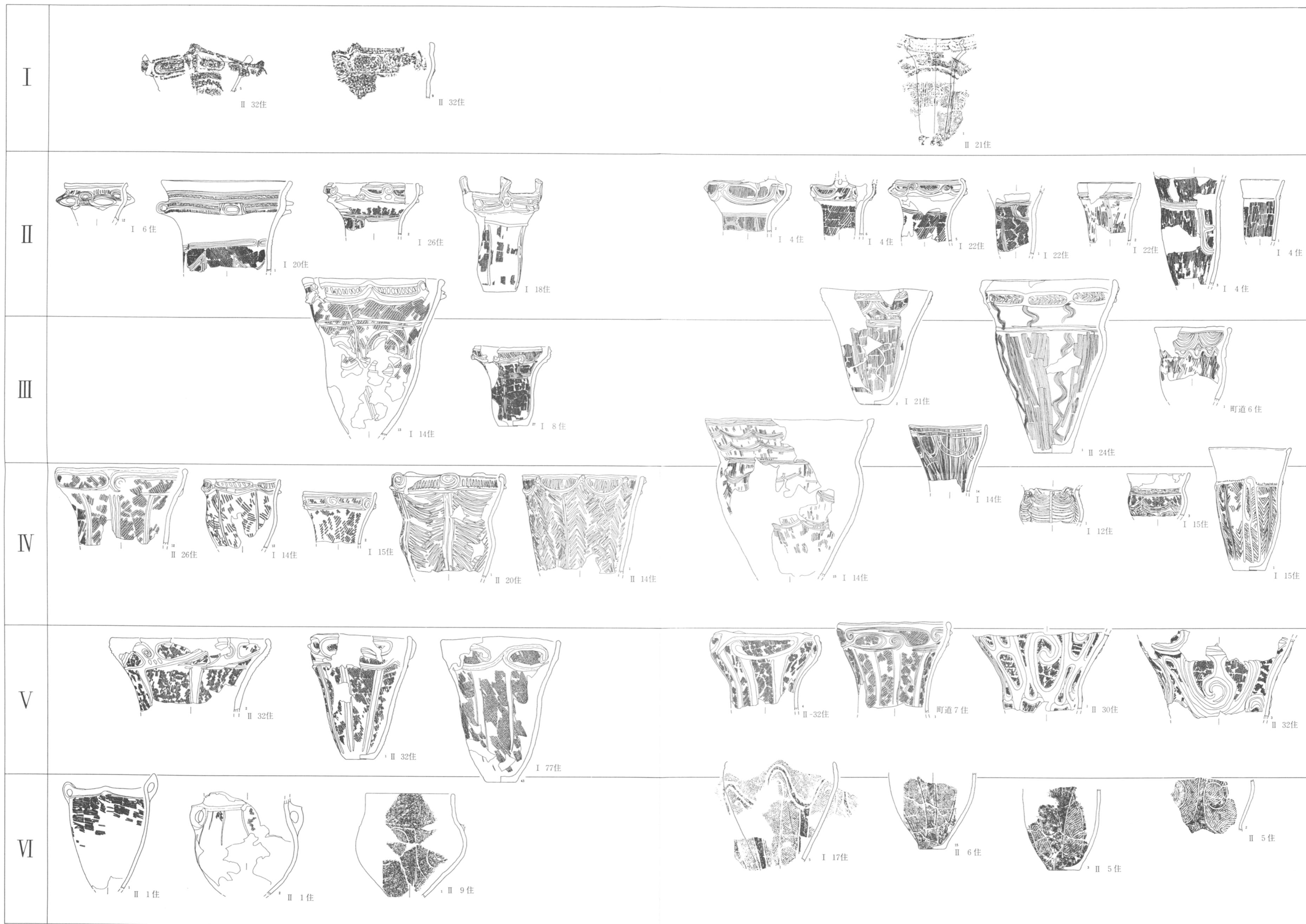
白川傘松遺跡旧石器器種別出土図

0 1 : 100 10m



白川傘松遺跡旧石器石材別出土図

0 1 : 100 10m



土器時期区分図